

# 長岡市障害者生活実態調査 報告書

令和5年3月  
長岡市



# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	3
2	調査設計と回収結果	3
3	回答方法	4
4	調査項目	5
	(1) 障害者に対する調査について	5
	(2) 障害児に対する調査について	6
5	調査実施主体	7
6	集計・分析機関	7
7	報告書の見方	7
	(1) 報告書の構成	7
	(2) 集計結果の見方	7
II	回答者（調査対象者）の属性	9
1	在宅者	11
	(1) 年齢（問1）	11
	(2) 障害の状態（問2）	12
	(3) 障害者手帳の交付状況（問3）	14
2	施設入所者	16
	(1) 年齢（D問1）	16
	(2) 障害者手帳の交付状況（D問2）	17
	(3) 障害の状態－障害種別と障害等級（D問3）	17
3	高齢者	18
	(1) 年齢（E問1）	18
	(2) 障害者手帳の交付状況（E問2）	18
	(3) 障害の状態－障害種別と障害等級（E問3）	19
4	障害児	20
	(1) 年齢（F問1）	20
	(2) 障害の状態－障害種別と障害等級（F問2）	22
III	調査結果の要約	23
	A票・B票・C票・D票・E票	25
1	生活の場について	27
	(1) 在宅者（問4～問11）	27
	(2) 施設入所者（D問4～D問11）	36

(3) 高齢者 (E問4～E問11) .....	43
2 文化・スポーツについて.....	48
(1) 在宅者 (問12～問15) .....	48
(2) 施設入所者 (D問12～D問15) .....	52
(3) 高齢者 (E問12～E問15) .....	53
3 就労について.....	55
(1) 在宅者 (問16～問25) .....	55
4 介護保険サービスの利用について.....	67
(1) 高齢者 (E問16～E問18) .....	67
5 入院・通院について.....	70
(1) 在宅者 (問26～問27) .....	70
(2) 高齢者 (E問19～E問20) .....	72
6 外出について.....	74
(1) 在宅者 (問28～問29) .....	74
(2) 施設入所者 (D問16～D問17) .....	77
(3) 高齢者 (E問21～E問22) .....	79
7 相談窓口について.....	81
(1) 在宅者 (問30～問32) .....	81
(2) 施設入所者 (D問18～D問20) .....	84
(3) 高齢者 (E問23～E問25) .....	87
8 災害時について.....	90
(1) 在宅者 (問33) .....	90
(2) 高齢者 (E問26) .....	91
9 障害のある人への差別について.....	92
(1) 在宅者 (問34～問35) .....	92
(2) 施設入所者 (D問21～D問22) .....	95
(3) 高齢者 (E問27～E問28) .....	97
10 社会生活について.....	99
(1) 在宅者 (問36) .....	99
(2) 施設入所者 (D問23) .....	100
(3) 高齢者 (E問29) .....	101

F票	103
共通回答項目（Ⅰ）	105
1 生活の場について	105
1) 住居形態（F問3）	105
2) 世帯構成（F問4）	106
2 文化・スポーツについて	107
1) 芸術・文化活動の実施（F問5）	107
2) スポーツ活動の実施（F問6）	108
3) スポーツ活動の頻度（F問7）	109
4) スポーツ活動をしたい希望意志（F問8）	110
3 相談窓口について	111
1) 相談窓口の認知状況（F問9）	111
2) 相談窓口での相談経験（F問10）	112
3) 相談窓口に相談したことがない理由（F問11）	113
4 相談支援ファイル「すこやかファイル」について（F問12）	114
5 在宅福祉サービスについて	115
1) 在宅福祉サービスの利用内容（F問13）	115
2) 在宅福祉サービスの利用理由（F問14）	118
3) 在宅福祉サービスの利用度（F問15）	120
4) 在宅福祉サービスを利用していない理由（F問16）	121
5) 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと（F問17）	122
6 障害のある人への差別について	124
1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（F問18）	124
2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（F問19）	126
個別回答項目（Ⅱ）	127
1 学校について	127
1) 在籍している学校・学級（F-2問1・F-3問1・F-4問1）	127
2) 在籍していた学校・学級の種類	129
①以前の教育段階における学校・学級（F-3問2・F-4問2）	129
②学校・学級の変更の有無（F-2問2(1)・F-3問3(1)・F-4問3(1)）	130
③変更以前の学校・学級の種類（F-2問2(2)・F-3問3(2)・F-4問3(2)）	131
3) 学校・学級に通うきっかけ（F-2問3・F-3問4・F-4問4）	132
2 サービス利用について	134
1) サービスの利用内容	
（F-1問1・F-2問4・F-3問5・F-4問5）	134

2) サービスの情報取得 ( F-1 問 2 ・ F-2 問 5 ・ F-3 問 6 ・ F-4 問 6 )	136
3) サービスを利用していない理由 ( F-1 問 3 ・ F-2 問 6 ・ F-3 問 7 ・ F-4 問 7 )	139
4) 今後利用したいサービス内容 ( F-1 問 4 ・ F-2 問 7 ・ F-3 問 8 ・ F-4 問 8 )	140
3 就労について	141
1) 就労の状況 ( F-5 問 1 )	141
2) 普段の過ごし方 ( F-5 問 2 )	141
4 生活の場について	142
1) 現在の生活状況 ( F-5 問 3 )	142
2) 主に昼間過ごしたい場所 ( F-5 問 4 )	142
5 外出について	143
1) 外出の頻度 ( F-5 問 5 )	143
2) 外出するときに困っていること ( F-5 問 6 )	143
6 相談場所について	144
1) 相談場所 ( F-1 問 5 ・ F-2 問 8 ・ F-3 問 9 ・ F-4 問 9 ・ F-5 問 7 )	144
7 保育園や幼稚園、認定こども園の利用について ( F-1 問 6 )	147
8 個別の教育支援計画及び指導計画について	148
1) 個別の教育支援計画及び指導計画作成状況 ( F-2 問 9 ・ F-3 問 10 ・ F-4 問 10 )	148
2) 計画作成における学校との話し合い状況 ( F-2 問 10 ・ F-3 問 11 ・ F-4 問 11 )	149
9 進学・進路先について	150
1) 進学・進路先 ( F-1 問 7 ・ F-2 問 11 ・ F-3 問 12 ・ F-4 問 12 )	150
2) 進学・進路先として考える理由 ( F-1 問 8 ・ F-2 問 12 ・ F-3 問 13 ・ F-4 問 13 )	152
3) 進学・進路先を選択するときの悩みの有無 ( F-1 問 9 ・ F-2 問 13 ・ F-3 問 14 ・ F-4 問 14 )	155
4) 進学・進路先を選択するときの悩みの理由 ( F-1 問 10 ・ F-2 問 14 ・ F-3 問 15 ・ F-4 問 15 )	156
5) 学校の指導に対する要望 ( F-2 問 15 ・ F-3 問 16 ・ F-4 問 16 )	158
6) 進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由 ( F-1 問 11 ・ F-2 問 16 ・ F-3 問 17 ・ F-4 問 17 )	160

7) 自分の適性がわかったきっかけ由 (F-2問17・F-3問18・F-4問18)	162
<b>IV 調査結果 (調査対象者別)</b>	<b>163</b>
<b>A 身体障害者</b>	<b>165</b>
1 生活の場について	167
(1) 住居形態 (問4)	167
(2) 暮らしの場の変更 (問5)	168
(3) 暮らしたい場所 (問6)	169
(4) 世帯構成 (問7)	170
(5) 同居者の変更 (問8)	171
(6) 暮らしたい者 (問9)	172
(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10)	173
(8) 昼間の過ごし方 (問11)	174
1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問11(1))	
2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問11(2))	
2 文化・スポーツについて	177
(1) 芸術・文化活動の状況 (問12)	177
(2) スポーツ活動の実施 (問13)	179
(3) スポーツ活動の頻度 (問14)	181
(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15)	183
3 就労について	185
(1) 就労状況 (問16)	185
(2) 就労継続できる理由 (問17)	187
(3) 障害福祉サービスの利用 (問18)	191
(4) 就労している人の就労形態 (問19)	194
(5) 就労上で困っていること (問20)	196
(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用 (問21)	200
(7) 就労していない人の就労意向 (問22)	202
(8) 就労したい人の希望職種 (問23)	203
(9) 就労できない・したくない理由 (問24)	205
(10) 就労するために必要なこと (問25)	207
4 入院・通院について	209
(1) 入院・通院の状況 (問26)	209
(2) 通院頻度 (問27)	210
5 外出について	211
(1) 外出頻度 (問28)	211
(2) 外出時に困っていること (問29)	213

6	相談窓口について	215
	(1) 相談窓口の認知状況 (問30)	215
	(2) 相談窓口での相談経験 (問31)	215
	(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問32)	216
7	災害時について	217
	(1) 災害時に困ることや心配なこと (問33)	217
8	障害のある人への差別について	219
	(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問34)	219
	(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35)	221
9	社会生活について	222
	(1) 社会生活を営む上で必要と考えること (問36)	222
B	知的障害者	223
1	生活の場について	225
	(1) 住居形態 (問4)	225
	(2) 暮らしの場の変更 (問5)	226
	(3) 暮らしたい場所 (問6)	227
	(4) 世帯構成 (問7)	228
	(5) 同居者の変更 (問8)	229
	(6) 暮らしたい者 (問9)	230
	(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10)	231
	(8) 昼間の過ごし方 (問11)	232
	1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問11(1))	
	2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問11(2))	
2	文化・スポーツについて	235
	(1) 芸術・文化活動の状況 (問12)	235
	(2) スポーツ活動の実施 (問13)	236
	(3) スポーツ活動の頻度 (問14)	237
	(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15)	238
3	就労について	239
	(1) 就労状況 (問16)	239
	(2) 就労継続できる理由 (問17)	240
	(3) 障害福祉サービスの利用 (問18)	242
	(4) 就労している人の就労形態 (問19)	244
	(5) 就労上で困っていること (問20)	245
	(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用 (問21)	249
	(7) 就労していない人の就労意向 (問22)	250
	(8) 就労したい人の希望職種 (問23)	251
	(9) 就労できない・したくない理由 (問24)	252



(10) 就労するために必要なこと (問25) .....	253
4 入院・通院について.....	254
(1) 入院・通院の状況 (問26) .....	254
(2) 通院頻度 (問27) .....	255
5 外出について.....	256
(1) 外出頻度 (問28) .....	256
(2) 外出時に困っていること (問29) .....	257
6 相談窓口について.....	258
(1) 相談窓口の認知状況 (問30) .....	258
(2) 相談窓口での相談経験 (問31) .....	258
(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問32) .....	259
7 災害時について.....	260
(1) 災害時に困ることや心配なこと (問33) .....	260
8 障害のある人への差別について.....	261
(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問34) .....	261
(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35) .....	263
9 社会生活について.....	264
(1) 社会生活を営む上で必要と考えること (問36) .....	264
C 精神障害者.....	265
1 生活の場について.....	267
(1) 住居形態 (問4) .....	267
(2) 暮らしの場の変更 (問5) .....	268
(3) 暮らしたい場所 (問6) .....	269
(4) 世帯構成 (問7) .....	270
(5) 同居者の変更 (問8) .....	271
(6) 暮らしたい者 (問9) .....	272
(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10) .....	273
(8) 昼間の過ごし方 (問11) .....	274
1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問11 (1))	
2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問11 (2))	
2 文化・スポーツについて.....	277
(1) 芸術・文化活動の状況 (問12) .....	277
(2) スポーツ活動の実施 (問13) .....	278
(3) スポーツ活動の頻度 (問14) .....	279
(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15) .....	280

3	就労について	281
	(1) 就労状況 (問16)	281
	(2) 就労継続できる理由 (問17)	282
	(3) 障害福祉サービスの利用 (問18)	284
	(4) 就労している人の就労形態 (問19)	286
	(5) 就労上で困っていること (問20)	287
	(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用 (問21)	291
	(7) 就労していない人の就労意向 (問22)	292
	(8) 就労したい人の希望職種 (問23)	293
	(9) 就労できない・したくない理由 (問24)	294
	(10) 就労するために必要なこと (問25)	295
4	入院・通院について	296
	(1) 入院・通院の状況 (問26)	296
	(2) 通院頻度 (問27)	297
5	外出について	298
	(1) 外出頻度 (問28)	298
	(2) 外出時に困っていること (問29)	299
6	相談窓口について	300
	(1) 相談窓口の認知状況 (問30)	300
	(2) 相談窓口での相談経験 (問31)	300
	(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問32)	301
7	災害時について	302
	(1) 災害時に困ることや心配なこと (問33)	302
8	障害のある人への差別について	303
	(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問34)	303
	(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35)	305
9	社会生活について	306
	(1) 社会生活を営む上で必要と考えること (問36)	306
D	施設入所者	307
1	生活の場について	309
	(1) 入所施設の種類 (問4)	309
	(2) 施設入所と退所の意向 (問5)	310
	(3) 施設に入所して暮らしたい理由 (問6)	312
	(4) 施設入所で昼間利用したいサービスや支援 (問7)	314
	(5) 施設を退所して暮らしたい場所 (問8)	316
	(6) 施設を退所しない・できない理由 (問9)	318
	(7) 施設を退所して昼間過ごしたい場所 (問10)	322

(8) 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援 (問 1 1) .....	323
2 文化・スポーツについて.....	325
(1) 芸術・文化活動の状況 (問 1 2) .....	325
(2) スポーツ活動の実施 (問 1 3) .....	326
(3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4) .....	327
(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問 1 5) .....	328
3 外出について.....	329
(1) 外出頻度 (問 1 6) .....	329
(2) 外出時に困っていること (問 1 7) .....	330
4 相談窓口について.....	332
(1) 相談窓口の認知状況 (問 1 8) .....	332
(2) 相談窓口での相談経験 (問 1 9) .....	333
(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問 2 0) .....	334
5 障害のある人への差別について.....	335
(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問 2 1) .....	335
(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問 2 2) .....	337
6 社会生活について.....	338
(1) 社会生活を営む上で必要と考えること (問 2 3) .....	338
E 高齢者.....	339
1 生活の場について.....	341
(1) 住居形態 (問 4) .....	341
(2) 暮らしの場の変更 (問 5) .....	342
(3) 暮らしたい場所 (問 6) .....	343
(4) 世帯構成 (問 7) .....	344
(5) 同居者の変更 (問 8) .....	345
(6) 暮らしたい者 (問 9) .....	346
(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問 1 0) .....	347
(8) 昼間の過ごし方 (問 1 1) .....	348
1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))	
2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問 1 1 (2))	
2 文化・スポーツについて.....	351
(1) 芸術・文化活動の状況 (問 1 2) .....	351
(2) スポーツ活動の実施 (問 1 3) .....	352
(3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4) .....	353
(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問 1 5) .....	354

3	介護保険サービスの利用について……………	355
	(1) 要介護認定の有無 (問 16) ……………	355
	(2) 介護保険サービスの利用状況 (問 17) ……………	357
	(3) 利用している介護保険サービス (問 18) ……………	358
4	入院・通院について……………	362
	(1) 入院・通院の状況 (問 19) ……………	362
	(2) 通院頻度 (問 20) ……………	363
5	外出について……………	364
	(1) 外出頻度 (問 21) ……………	364
	(2) 外出時に困っていること (問 22) ……………	365
6	相談窓口について……………	366
	(1) 相談窓口の認知状況 (問 23) ……………	366
	(2) 相談窓口での相談経験 (問 24) ……………	366
	(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問 25) ……………	367
7	災害時について……………	368
	(1) 災害時に困ることや心配なこと (問 26) ……………	368
8	障害のある人への差別について……………	369
	(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問 27) ……………	369
	(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問 28) ……………	371
9	社会生活について……………	372
	(1) 社会生活を営む上で必要と考えること (問 29) ……………	372
F	障害児……………	373
	共通回答項目 (I)	
1	文化・スポーツについて……………	375
	(1) 芸術・文化活動の状況 (問 5) ……………	375
	(2) スポーツ活動の実施 (問 6) ……………	377
	(3) スポーツ活動の頻度 (問 7) ……………	379
	(4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問 8) ……………	380
2	相談窓口について……………	382
	(1) 相談窓口の認知状況 (問 9) ……………	382
	(2) 相談窓口での相談経験 (問 10) ……………	384
	(3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問 11) ……………	386
3	相談支援ファイル「すこやかファイル」について (問 12) ……………	388

4	在宅福祉サービスについて	390
	(1) 在宅福祉サービスの利用内容 (問13)	390
	(2) 在宅福祉サービスの利用理由 (問14)	394
	(3) 在宅福祉サービスの利用度 (問15)	398
	(4) 在宅福祉サービスを利用しない理由 (問16)	400
	(5) 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと (問17)	402
5	障害のある人への差別について	404
	(1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問18)	404
	(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問19)	409
個別回答項目 (Ⅱ)		
1	個別の教育支援計画及び指導計画について	411
	(1) 個別の教育支援計画及び指導計画作成状況	
	(F-2問9・F-3問10・F-4問10)	411
	(2) 計画作成における学校との話し合い状況	
	(F-2問10・F-3問11・F-4問11)	413
2	進学・進路先について	415
	(1) 進学・進路先を選択するときの悩みの有無	
	(F-2問13・F-3問14・F-4問14)	415
	(2) 進学・進路先を選択するときの悩みの理由	
	(F-2問14・F-3問15・F-4問15)	417
	(3) 学校の指導に対する要望 (F-2問15・F-3問16・F-4問16)	420
	(4) 進学・進路先を選択ときに悩んでいない理由	
	(F-2問16・F-3問17・F-4問17)	423
	(5) 自分の適性がわかったきっかけ	
	(F-2問17・F-3問18・F-4問18)	425
V	調査票・単純集計結果	429
	調査票A (身体障害者手帳所持者)	431
	調査票B (療育手帳所持者)	449
	調査票C (精神保健福祉手帳所持者)	469
	調査票D (障害者入所施設入所者)	485
	調査票E (高齢者)	499
	調査票F-1 (障害児 (就学前児童))	515
	調査票F-2 (障害児 (小学校段階))	531
	調査票F-3 (障害児 (中学校段階))	549
	調査票F-4 (障害児 (高等学校段階))	571
	調査票F-5 (障害児 (義務教育修了未就学))	591



# I 調査の概要





## 1 調査目的

長岡市では、令和3年3月に「第6期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、第2期障害児福祉計画（令和3年度～令和5年度）」を策定し、障害者施策を推進してきた。令和5年度、この計画を見直し、「第7期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、第3期障害児福祉計画（令和6年度～令和8年度）」を策定することになっている。本調査は、障害者及び障害児の生活実態等を把握し、計画改定の基礎資料とすることを目的とした。

## 2 調査設計と回収結果

本調査は、(1)在宅者調査、(2)施設入所者調査、(3)高齢者調査、(4)障害児調査から成っている。調査設計ならびに回収結果は、下表のとおりである。

調査区分	(1)在宅者調査			(2)施設入所者調査	(3)高齢者調査
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を所持している18歳以上65歳未満の方			新潟県内の障害児・者入所施設に入所している18歳以上の方	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を所持している65歳以上の方
調査票名称(略称)	調査票A (A票)	調査票B (B票)	調査票C (C票)	調査票D (D票)	調査票E (E票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳		身体障害者手帳 療育手帳 精神障害者保健福祉手帳
調査方法	配票は郵送法・回収は郵送法とインターネット上の回答				
対象者数(送付数)	760	600	740	140	510
有効回収数	455	377	411	98	305
有効回答率	59.9%	62.8%	55.5%	70.0%	59.8%
調査基準日	令和4年8月1日				
調査期間	令和4年11月3日～11月25日				

調査区分	(4)障害児調査				
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)や児童通所受給者証を所持している18歳未満の方				
	就学前児童	小学校段階	中学校段階	高等学校段階	義務教育修了後・高等学校等に未就学
調査票名称(略称)	調査票F-1 (F-1票)	調査票F-2 (F-2票)	調査票F-3 (F-3票)	調査票F-4 (F-4票)	調査票F-5 (F-5票)
所持している障害者手帳による区分	障害者手帳、児童通所受給者証の保持者				
調査方法	配票は郵送法・回収は郵送法とインターネット上の回答				
対象者数(送付数)	250				
有効回収数	18	52	44	45	3
有効回答率	64.8%				
調査基準日	令和4年8月1日				
調査期間	令和4年11月3日～11月25日				

※(1)在宅者調査（A票、B票、C票）について

「所持している障害者手帳による区分」のとおり、A票は身体障害者手帳所持者、B票は療育手帳所持者、C票は精神保健福祉手帳所持者を対象としているが、複数の障害者手帳を所持している重複障害の方については、原則として障害程度の重い区分の調査対象としている。

各票は、①調査票の用紙を色分けした点、②B票にふりがなをふってある点の違いはあるが、障害の状態や障害者手帳の交付状況をたずねた質問（問2・問3）以外は同じ内容である。

以上の点を踏まえて、在宅者調査全体（A票、B票、C票の合計）をみると、対象者数2,100人、有効回収数1,243人、有効回収率59.2%である。

### 3 回答方法

回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択方法として実施した。

- ① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて郵送する郵送調査
- ② 2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答するWEB調査

回答方法の状況は、調査票（紙）が1,579人（87.3%）、WEB調査が229人（12.7%）であった。



障害者生活実態調査回答分類別一覧表

	調査票（紙）		WEB調査		合計	
	数	%	数	%	数	%
A表	394	86.6%	61	13.4%	455	100.0%
B表	357	94.7%	20	5.3%	377	100.0%
C表	326	79.3%	85	20.7%	411	100.0%
D表	91	92.9%	7	7.1%	98	100.0%
E表	298	97.7%	7	2.3%	305	100.0%
F-1表	12	66.7%	6	33.3%	18	100.0%
F-2表	29	55.8%	23	44.2%	52	100.0%
F-3表	33	75.0%	11	25.0%	44	100.0%
F-4表	38	84.4%	7	15.6%	45	100.0%
F-5表	1	33.3%	2	66.7%	3	100.0%
合計	1,579	87.3%	229	12.7%	1,808	100.0%

#### 4 調査項目

##### (1) 障害者に対する調査について

A票、B票、C票については、就労状況と就労意向、D票は地域生活移行に対する意向、E票は介護保険サービス利用状況を明らかにすることを主として、以下の表に示す項目についてたずねた。

項目	在宅者調査 A票、B票、C票	施設入所者調査 D票	高齢者調査 E票
基本属性	○	○	○
生活の場について	○	○	○
文化・スポーツについて	○	○	○
就労について	○		
介護保険サービスの利用について			○
入院・通院について	○		○
外出について	○	○	○
相談窓口について	○	○	○
災害時について	○		○
障害のある人への差別について	○	○	○
社会生活について	○	○	○

(2) 障害児に対する調査について

F票については、受けている教育（療育）段階に応じ、調査票を次の5つに分け、以下の表に示す項目についてたずねた。

- ・ F-1票 …… 就学前の療育・教育
- ・ F-2票 …… 小学校段階における教育
- ・ F-3票 …… 中学校段階における教育
- ・ F-4票 …… 高等学校段階における教育
- ・ F-5票 …… 義務教育修了後、高等学校等に就学していない方

項目		F-1票	F-2票、F-3票 F-4票	F-5票
共通 回答項目 (Ⅰ)	基本属性	○ (全票共通)		
	生活の場について			
	文化・スポーツについて			
	相談窓口について			
	相談支援ファイル「すこやかファイル」について			
	在宅福祉サービスについて			
	障害のある人への差別について			
個別 回答項目 (Ⅱ)	学校について		○	
	サービス利用について	○	○	
	就労について			○
	生活の場について			○
	外出について			○
	相談場所について	○	○	○
	保育園や幼稚園、認定こども園の利用について	○		
	個別の教育支援計画及び指導計画について		○	
進学・進路先について	○	○		

## 5 調査実施主体

長岡市

## 6 集計・分析機関

長岡大学

地域連携研究センター運営委員 米山 宗久（長岡大学経済経営学部教授）

## 7 報告書の見方

### （1）報告書の構成

- ・(1)在宅者調査（A票～C票）の回答者を「在宅者」として、A票（身体障害者手帳所持者）の回答者を「身体障害者」、B票（療育手帳所持者）の回答者を「知的障害者」、C票（精神保健福祉手帳所持者）の回答者を「精神障害者」としてまとめている。
- ・(2)施設入所者調査（D票）の回答者を「施設入所者」としてまとめている。
- ・(3)高齢者調査（E票）の回答者を「高齢者」としてまとめている。
- ・(4)障害児調査（F票）の回答者を「障害児」としてまとめている。
- ・各章の概要は次のとおりである。
  - Ⅱ 回答者（調査対象者）の属性：回答者の基本属性について、在宅者（身体障害者・知的障害者・精神障害者）、施設入所者、高齢者、障害児に分けてまとめている。
  - Ⅲ 調査結果の要約：調査項目ごとに、在宅者（身体障害者・知的障害者・精神障害者）、施設入所者、高齢者、障害児の回答の単純集計結果について、質問順にまとめている。
  - Ⅳ 調査結果（調査対象者別）：調査対象者別に、「A 身体障害者」「B 知的障害者」「C 精神障害者」「D 施設入所者」「E 高齢者」「F 障害児」として、回答者の年齢別、障害種別など、クロス集計結果を質問順にまとめている。
  - Ⅴ 経年比較：令和元年度に実施した「長岡市障害者生活実態調査」と比較を行い、必要に応じて調査結果をまとめている。
  - Ⅵ 調査票・単純集計結果：本調査で用いた全調査票（A票～F票）と、そのなかに単純集計結果を記載してある。

### （2）集計結果の見方

- ・各問の質問文は、省略したかたちで示してある。
- ・属性と要約の各問の番号については、A票・B票・C票を「問○」のかたちで共通で示し、D票、E票を「D問○」「E問○」、F票のうち共通回答項目（Ⅰ）を「F問○」、個別回答項目（Ⅱ）を「F-1問○～F-5問○」として、調査結果（調査対象者別）の各問の番号については、「問○」で統一して示してある。
- ・経年比較については、令和元年度を「R1」、今回を「R4」で統一して示してある。
- ・回答者数に対する各選択肢の比率（%値）の小数点以下第2位を四捨五入しているため、単数回答であっても合計は100.0%にならないことがある。

- ・無回答、判読の困難な回答、もしくは単数のところを複数回答しているなどの無効回答を「不明・無回答」として集計している。
- ・各問の該当数を(n= )のかたちで示してある。
- ・A票～D票の年齢階級の「10歳代」には、18歳と19歳の回答者が、また、在宅者調査（A票・B票・C票）の「60歳以上」には、60歳～64歳の回答者が該当している。

## Ⅱ 回答者（調査対象者）の属性





## 1 在宅者

在宅者調査の対象者（A票-身体障害者手帳所持者、B票-療育手帳所持者、C票-精神保健福祉手帳所持者）である回答者の属性（年齢、障害の状態、障害者手帳の交付状況）は、（1）～（3）のとおりである。A票、B票、C票の回答者を合わせて全体として集計し、各票の回答をクロス集計のかたちで示している。

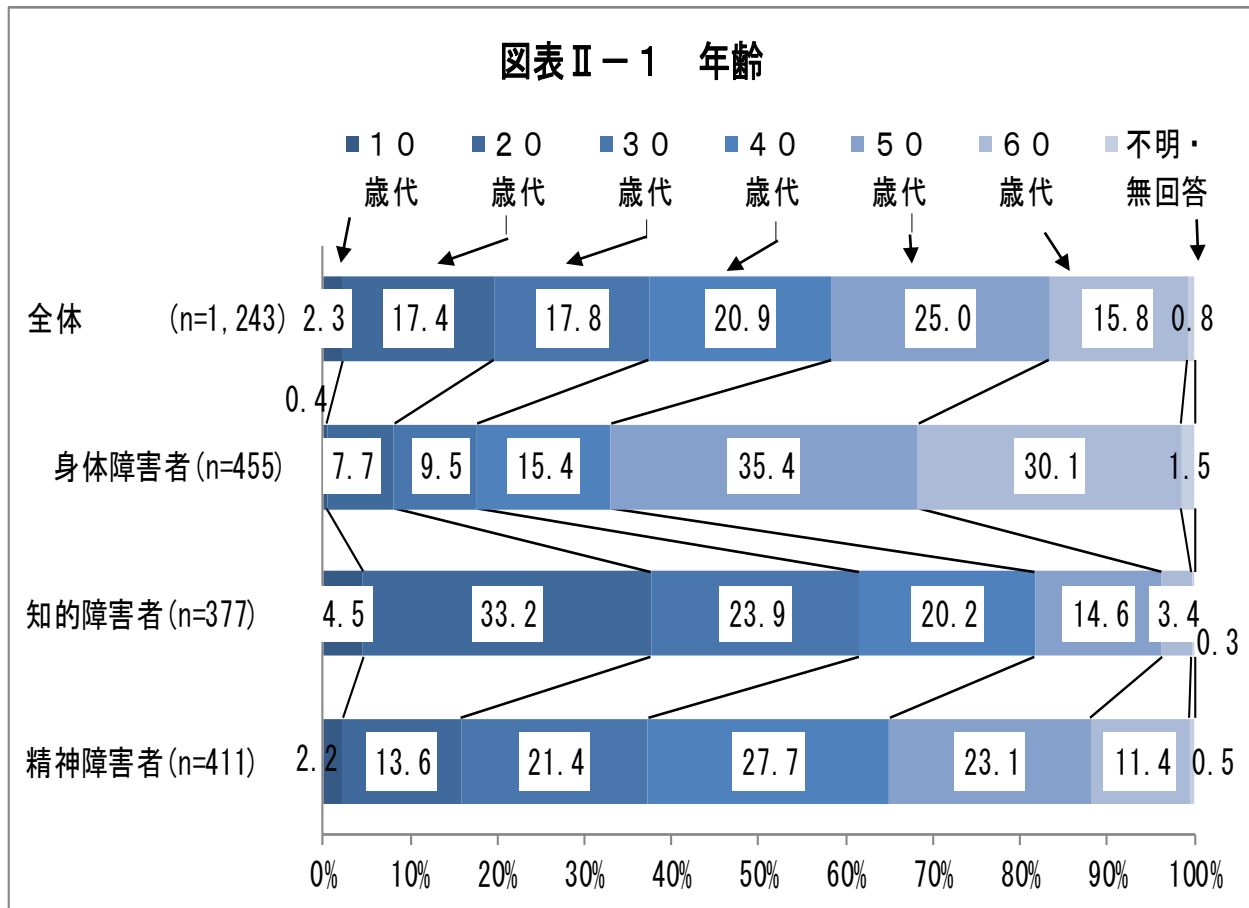
### （1）年齢（問1）

**全体の傾向：**割合の高い順に、「50歳代」「40歳代」「30歳代」「20歳代」「60歳代」「10歳代」である。

**身体障害者：**「50歳代」は35.4%、「60歳代」は30.1%である。高齢層が多い。

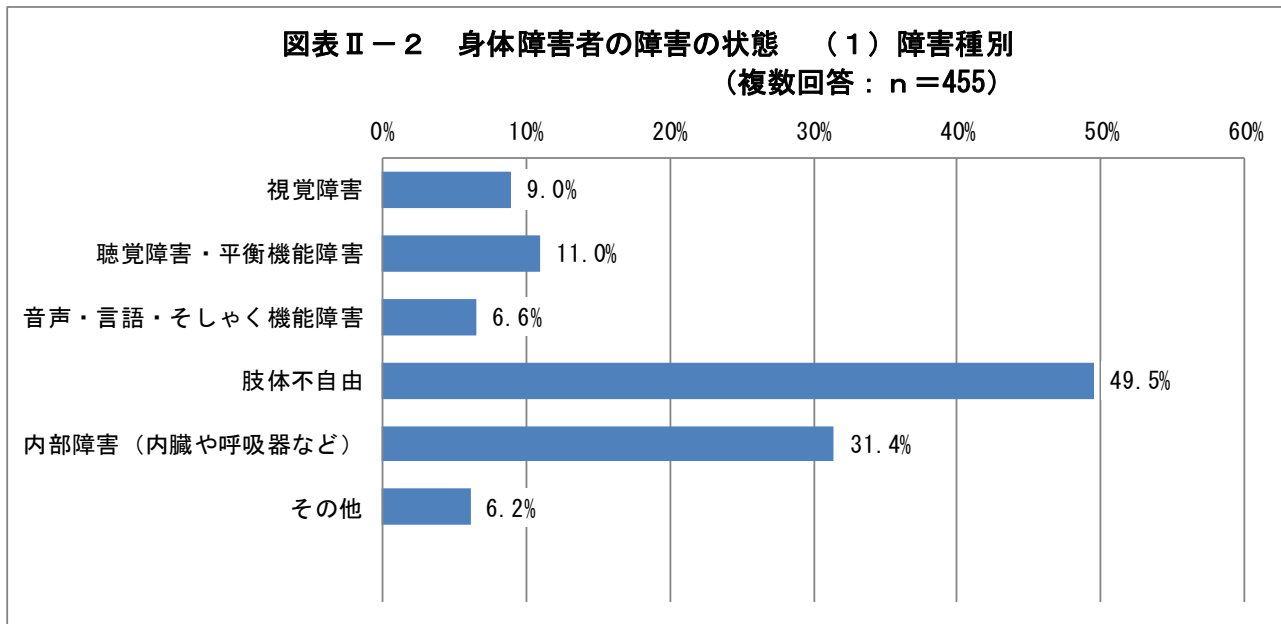
**知的障害者：**「20歳代」は33.2%、「30歳代」は23.9%、「40歳代」は20.2%である。若年層が多い。

**精神障害者：**「40歳代」は27.7%、「50歳代」は23.1%、「30歳代」は21.4%である。中年層が多い。



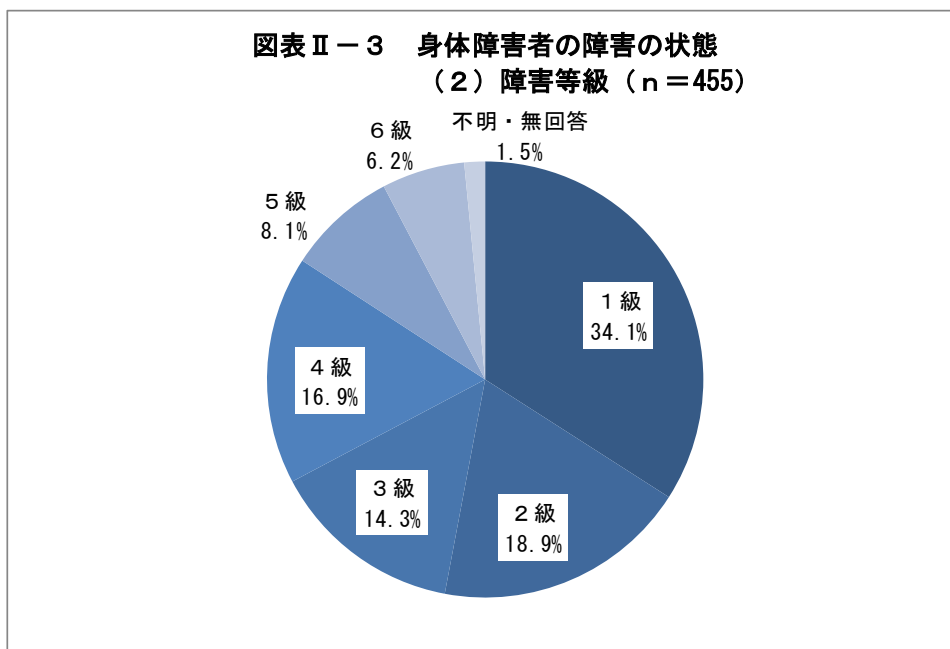
(2) 障害の状態 (問2)

身体障害者－(1)障害種別：「肢体不自由」は49.5%、「内部障害（内臓や呼吸器など）」は31.4%で合わせると8割を超える。以下、「聴覚障害・平衡機能障害」は11.0%、「視覚障害」は9.0%、「音声・言語・そしゃく機能障害」は6.6%、「その他」は6.2%である。

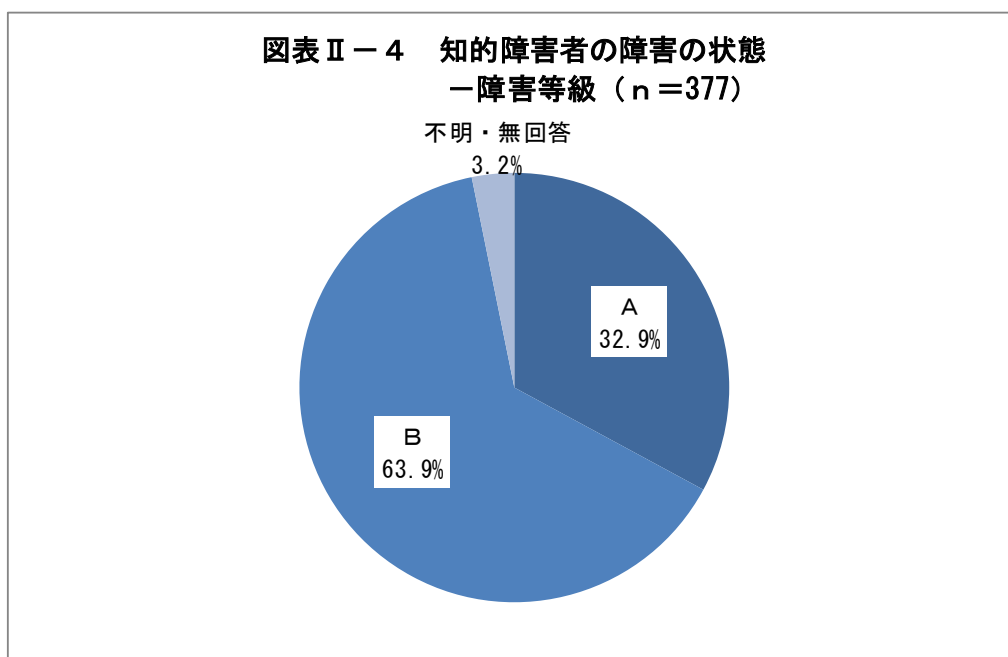


身体障害者－(2)障害等級：「1級」は34.1%で割合が最も高く、以下、「2級」は18.9%、「4級」は16.9%、「3級」は14.3%、「5級」は8.1%、「6級」は6.2%である。

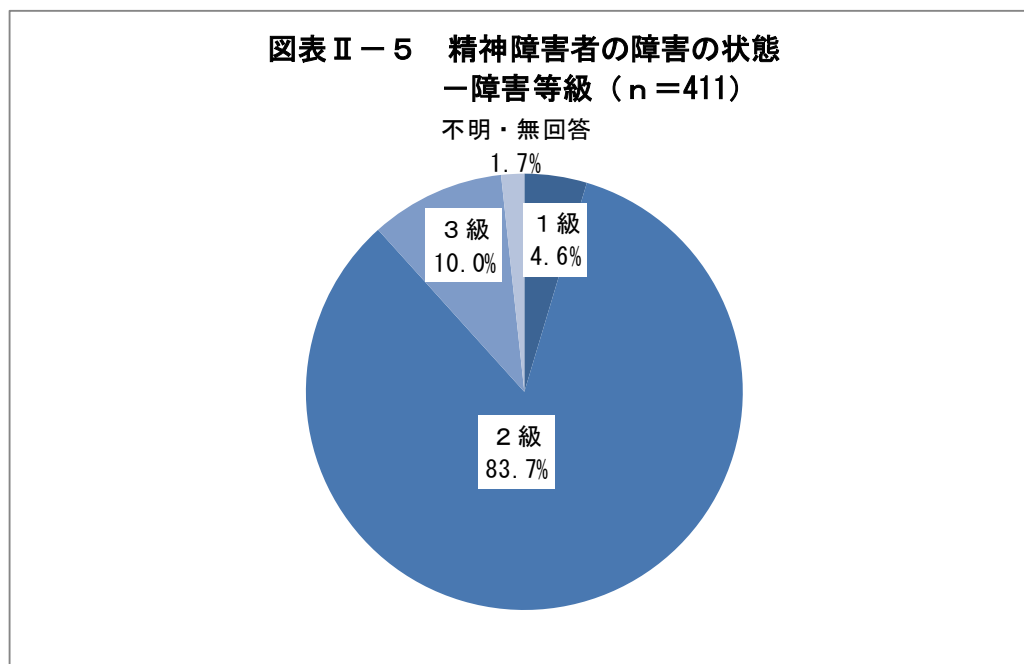
1級～3級と4級～6級の割合は、67.3%と31.2%である。重度者（1級と2級）と非重度者（3級～6級）の割合は、53.0%と45.5%である。



知的障害者－障害等級：療育手帳「A」は 32.9%、「B」は 63.9%である。



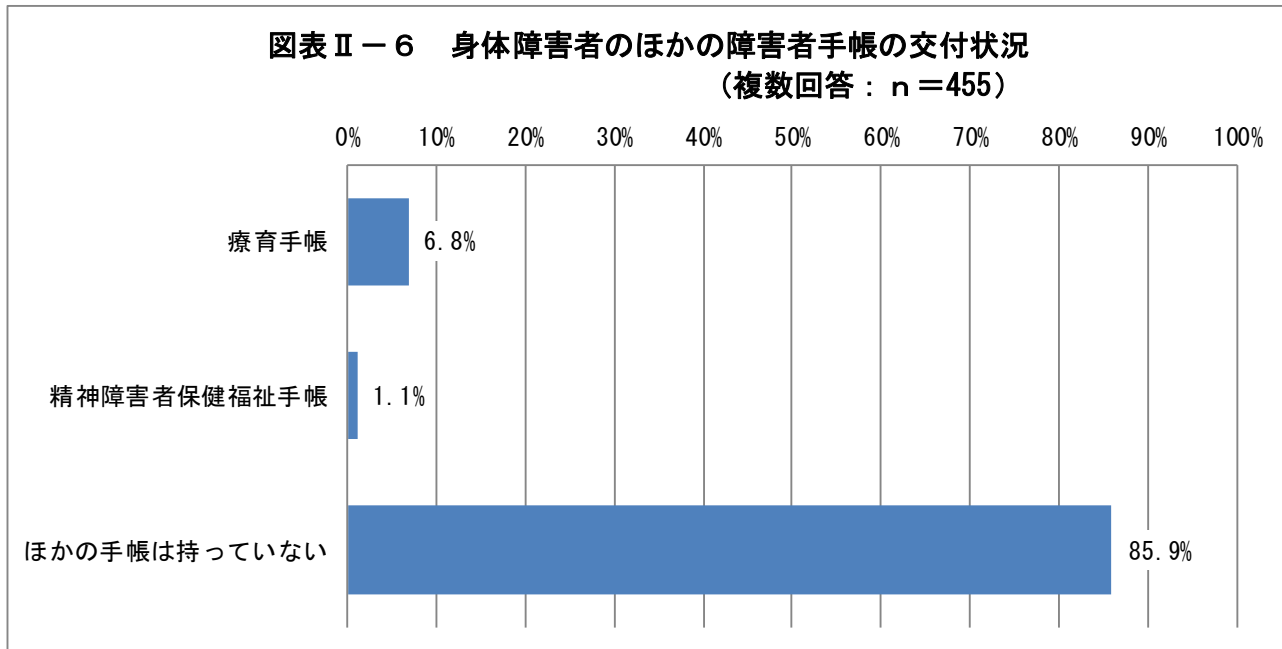
精神障害者－障害等級：「2級」は 83.7%。最重度の「1級」は 4.6%、「3級」は 10.0%である。



(3) 障害者手帳の交付状況 (問3)

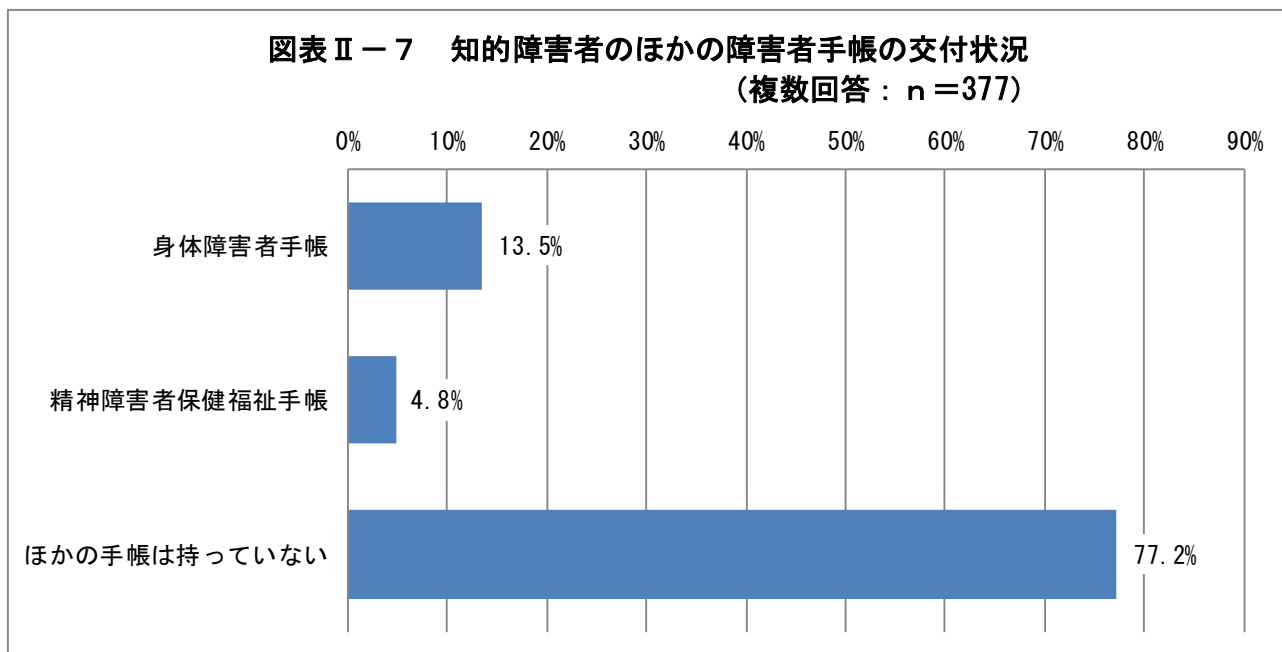
身体障害者：「ほかの手帳は持っていない」は85.9%である。

「療育手帳」と回答した重複障害者は6.8%、「精神障害者保健福祉手帳」と回答した重複障害者は1.1%である。



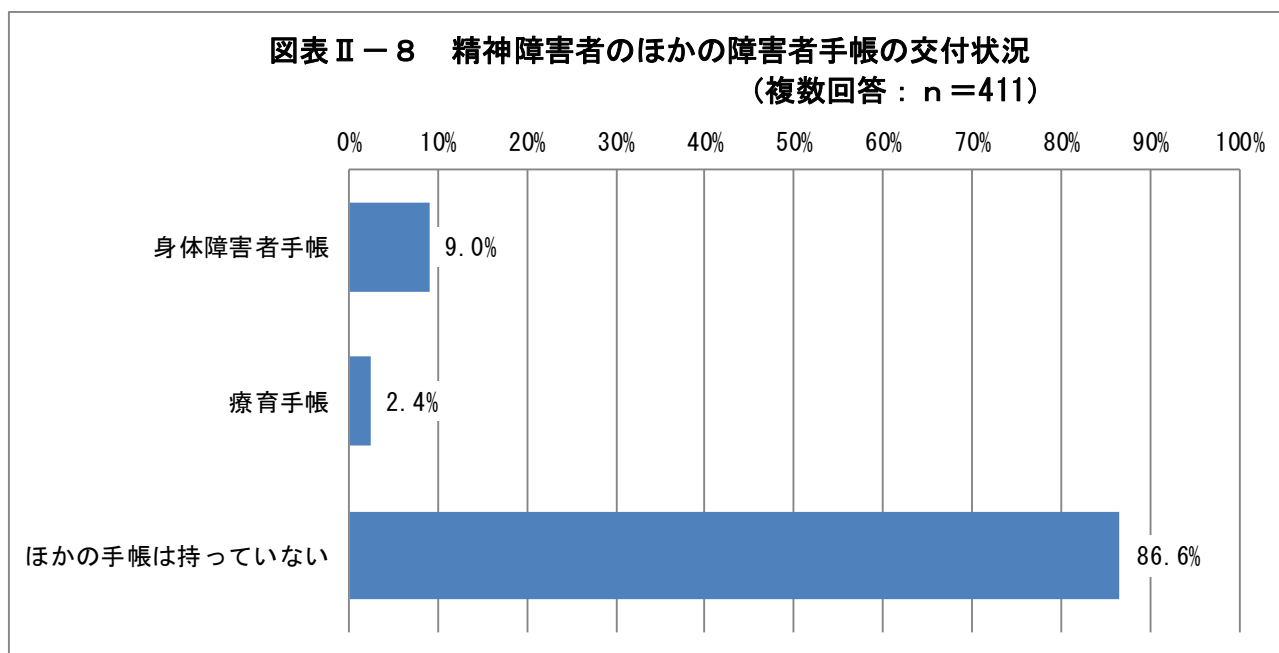
知的障害者：「ほかの手帳は持っていない」は77.2%である。

「身体障害者手帳」と回答した重複障害者は13.5%、「精神障害者保健福祉手帳」と回答した重複障害者は4.8%である。



精神障害者：「ほかの手帳は持っていない」は 86.6%である。

「身体障害者手帳」と回答した重複障害者は 9.0%、「療育手帳」と回答した重複障害者は 2.4%である。

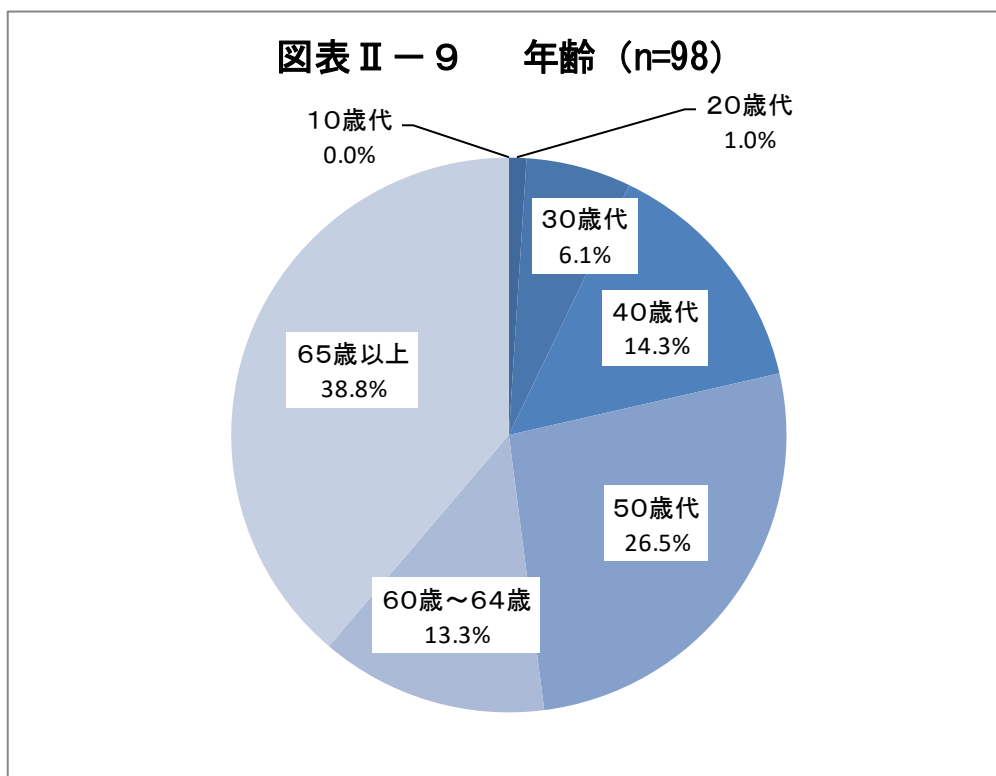


## 2 施設入所者

施設入所者調査の対象者（D票-障害者施設入所者）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害の状態）は、（1）～（3）のとおりである。

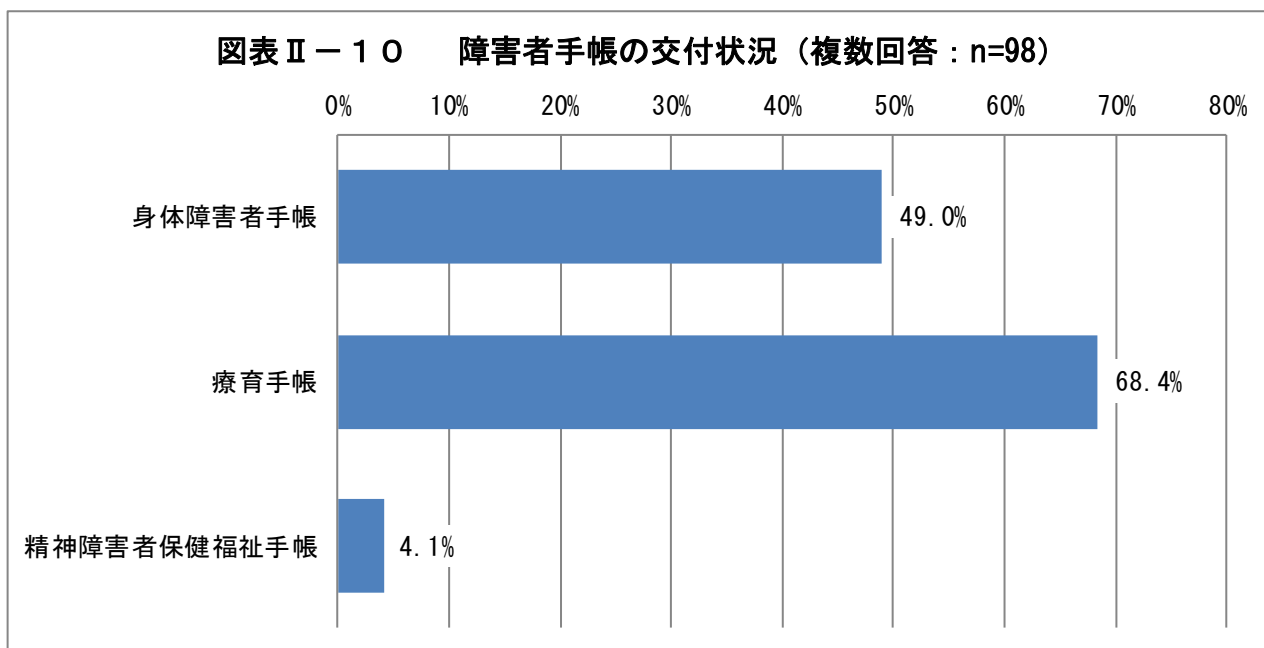
### （1）年齢（D問1）

「65歳以上」の割合は38.8%と最も高く、以下、「50歳代」は26.5%、「40歳代」は14.3%、「60歳～64歳」は13.3%、「30歳代」は6.1%、「20歳代」は1.0%、「10歳代」は回答がない。



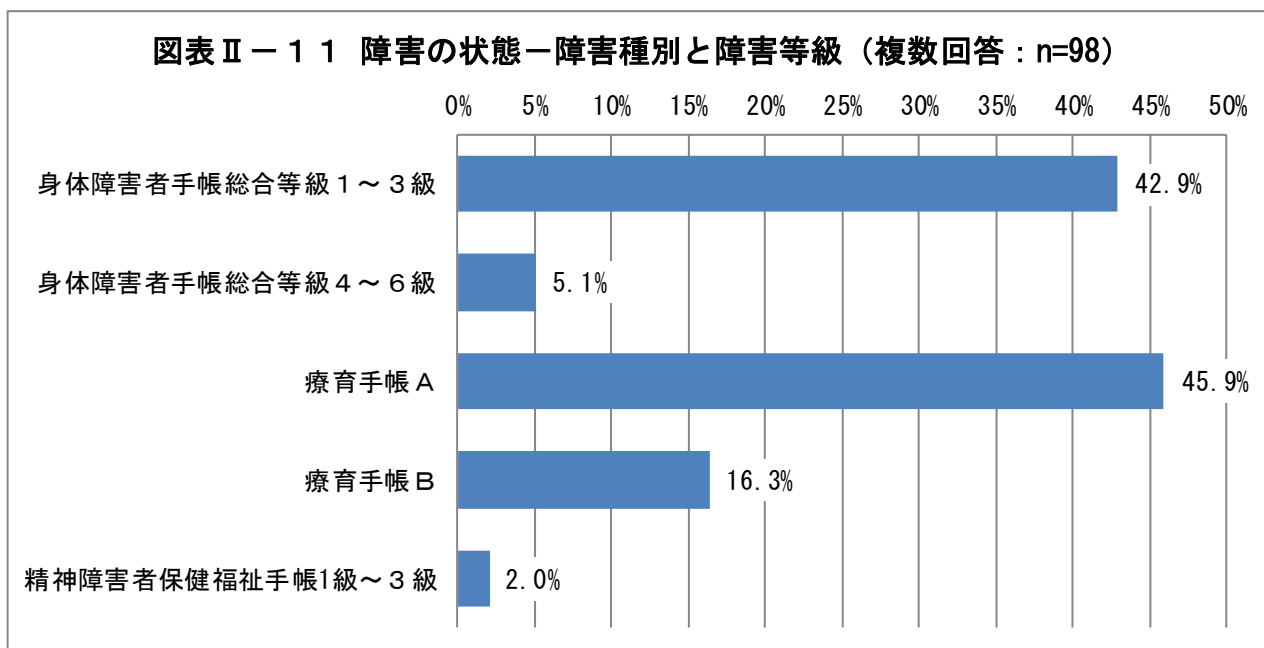
(2) 障害者手帳の交付状況 (D問2)

「療育手帳」は 68.4%、「身体障害者手帳」は 49.0%、「精神障害者保健福祉手帳」は 4.1% である。



(3) 障害の状態－障害種別と障害等級 (D問3)

「療育手帳 A」は 45.9%、「身体障害者手帳総合等級 1～3 級」は 42.9%、「療育手帳 B」は 16.3%、「身体障害者手帳総合等級 4～6 級」は 5.1%、「精神障害者保健福祉手帳 1～3 級」は 2.0% である。

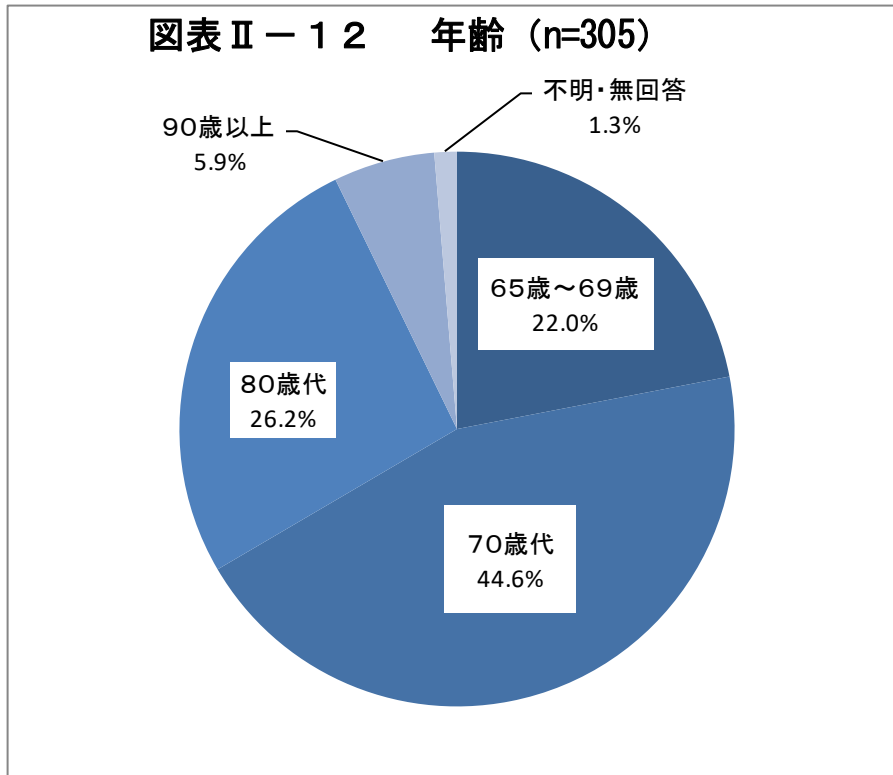


### 3 高齢者

高齢者調査の対象者（E票-65歳以上の高齢者）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害者手帳の等級）は、（1）～（3）のとおりである。

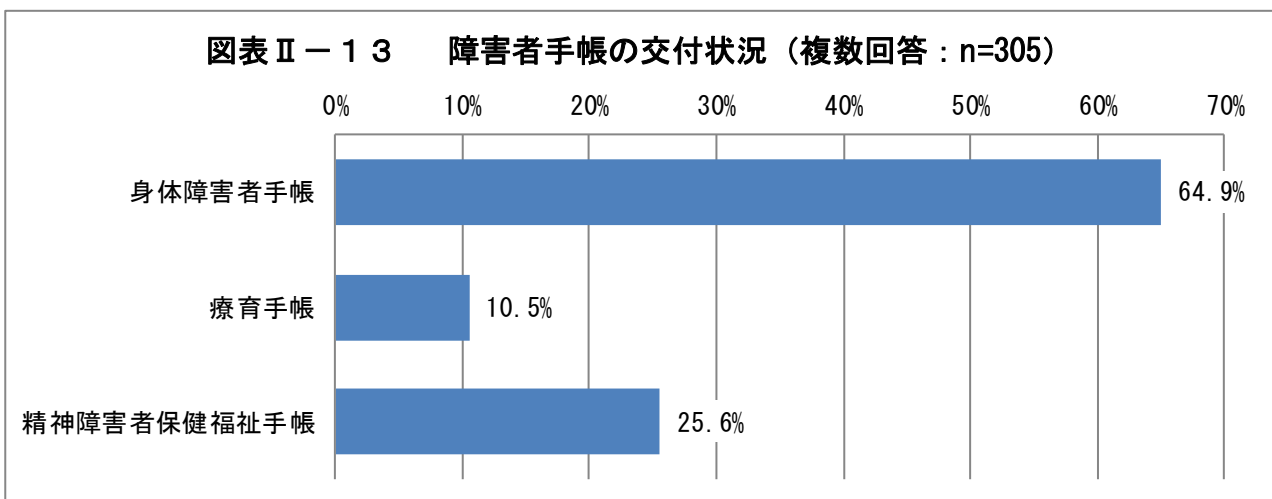
#### （1）年齢（E問1）

「70歳代」の割合は44.6%と最も高く、以下、「80歳代」は26.2%、「65歳～69歳」は22.0%、「90歳以上」は5.9%である。



#### （2）障害者手帳の交付状況（E問2）

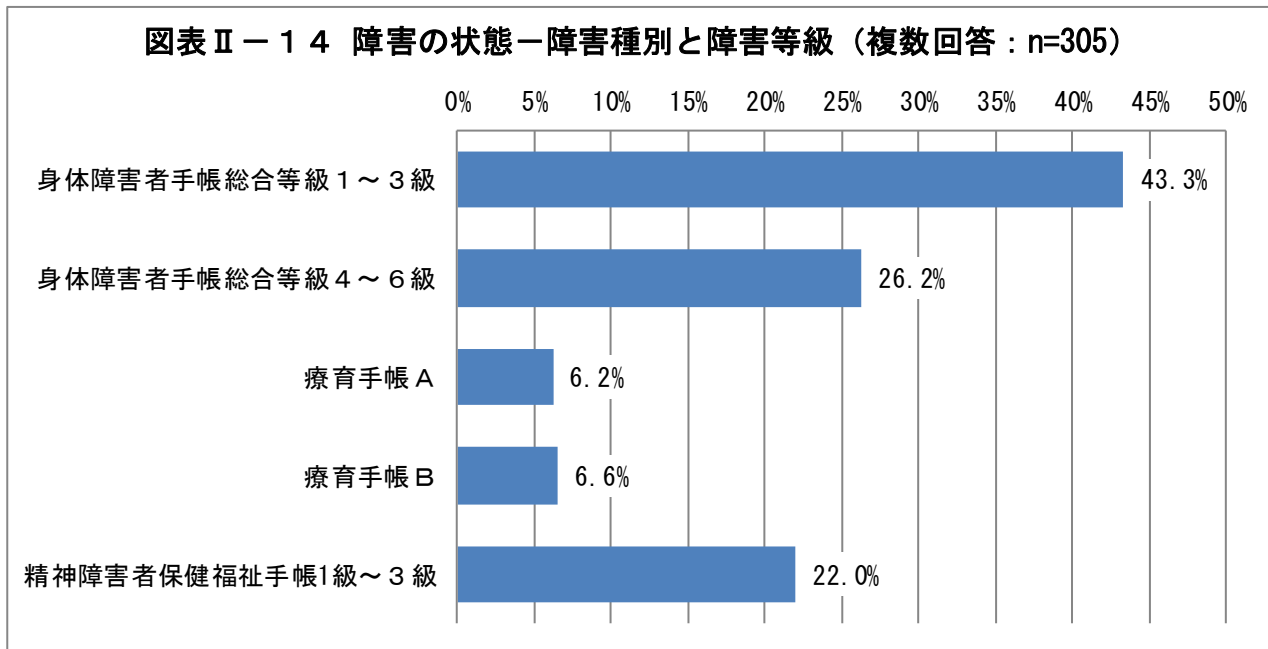
「身体障害者手帳」は64.9%、「精神障害者保健福祉手帳」は25.6%、「療育手帳」は10.5%である。





(3) 障害の状態－障害種別と障害等級（E問3）

「身体障害者手帳総合等級1～3級」は43.3%、「身体障害者手帳総合等級4～6級」は26.2%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は22.0%、「療育手帳B」は6.6%、「療育手帳A」は6.2%である。

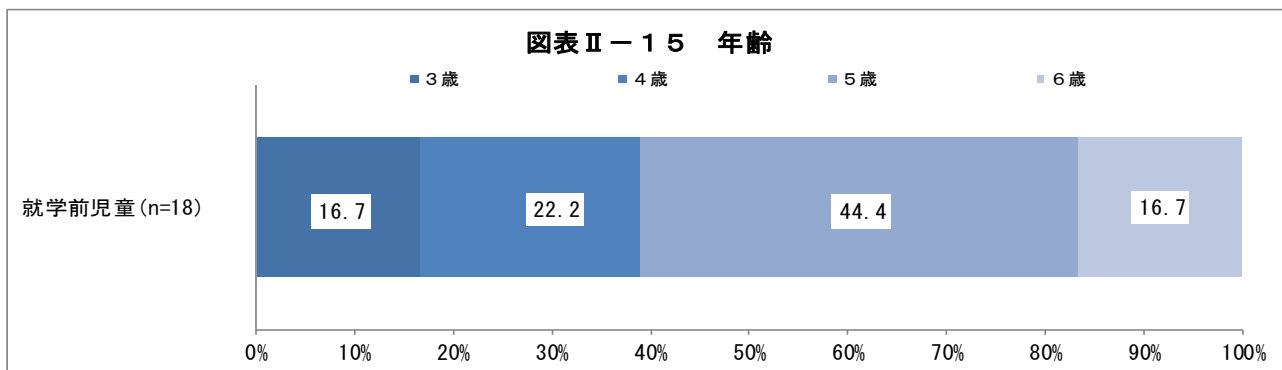


#### 4 障害児

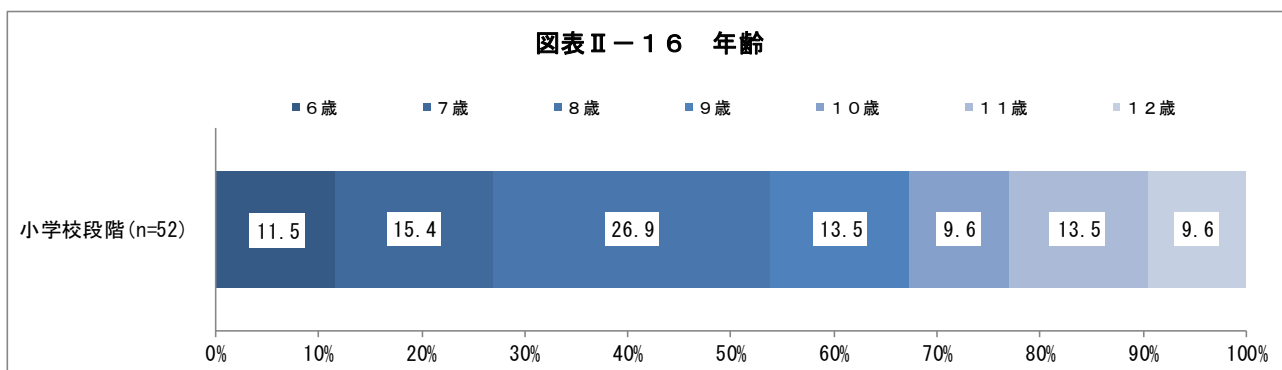
障害児調査の対象者（F票-18歳未満）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害者手帳の等級）は、（1）～（2）のとおりである。

##### （1）年齢（F問1）

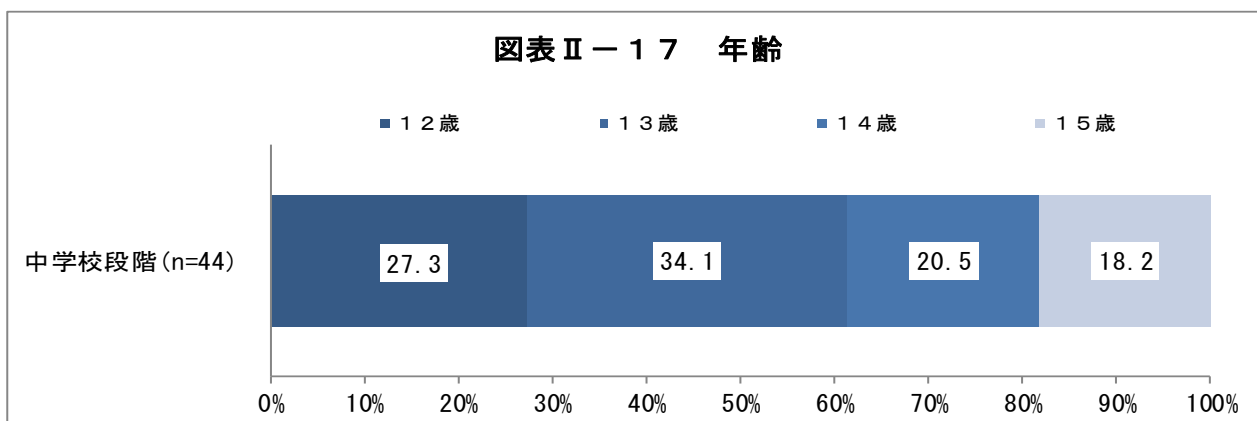
就学前児童：「5歳」は44.4%、「4歳」は22.2%、「3歳」と「6歳」はともに16.7%である。



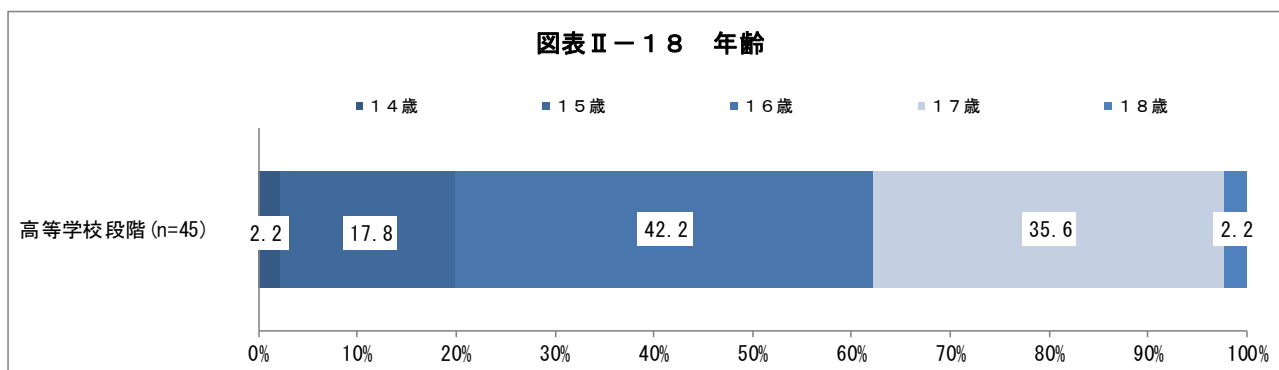
小学校段階：「8歳」は26.9%、「7歳」は15.4%、「9歳」と「11歳」はともに13.5%、「6歳」は11.5%、「10歳」と「12歳」はともに9.6%である。



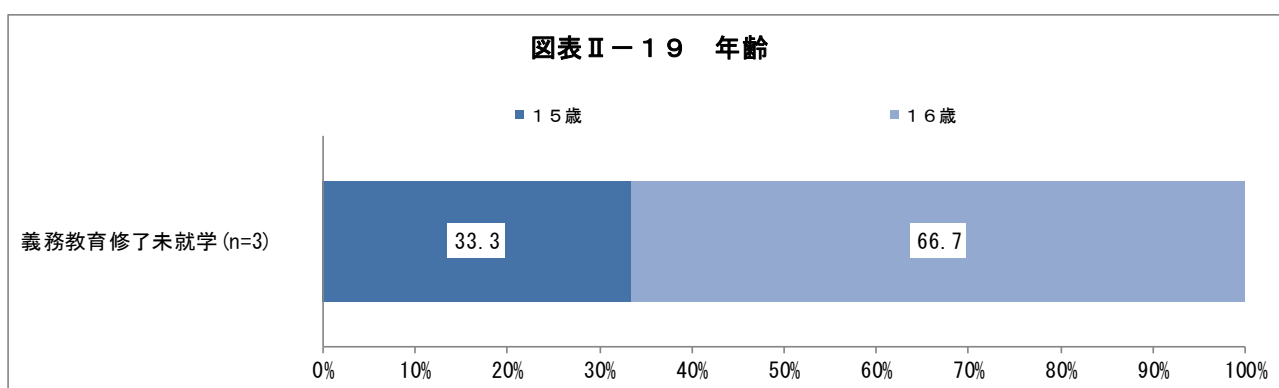
中学校段階：「13歳」は34.1%、「12歳」は27.3%、「14歳」は20.5%、「15歳」は18.2%である。



高等学校段階：「16歳」は42.2%、「17歳」は35.6%、「15歳」は17.8%、「14歳」と「18歳」はともに2.2%である。



義務教育修了未就学：「16歳」は66.7%、「15歳」は33.3%である。



(2) 障害の状態－障害種別と障害等級（F問2）

全体の傾向：「療育手帳B」は58.0%、「療育手帳A」は35.2%、「身体障害者手帳総合等級1～3級」は11.1%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は4.3%である。

就学前児童：「療育手帳B」は61.1%、「療育手帳A」は22.2%である。

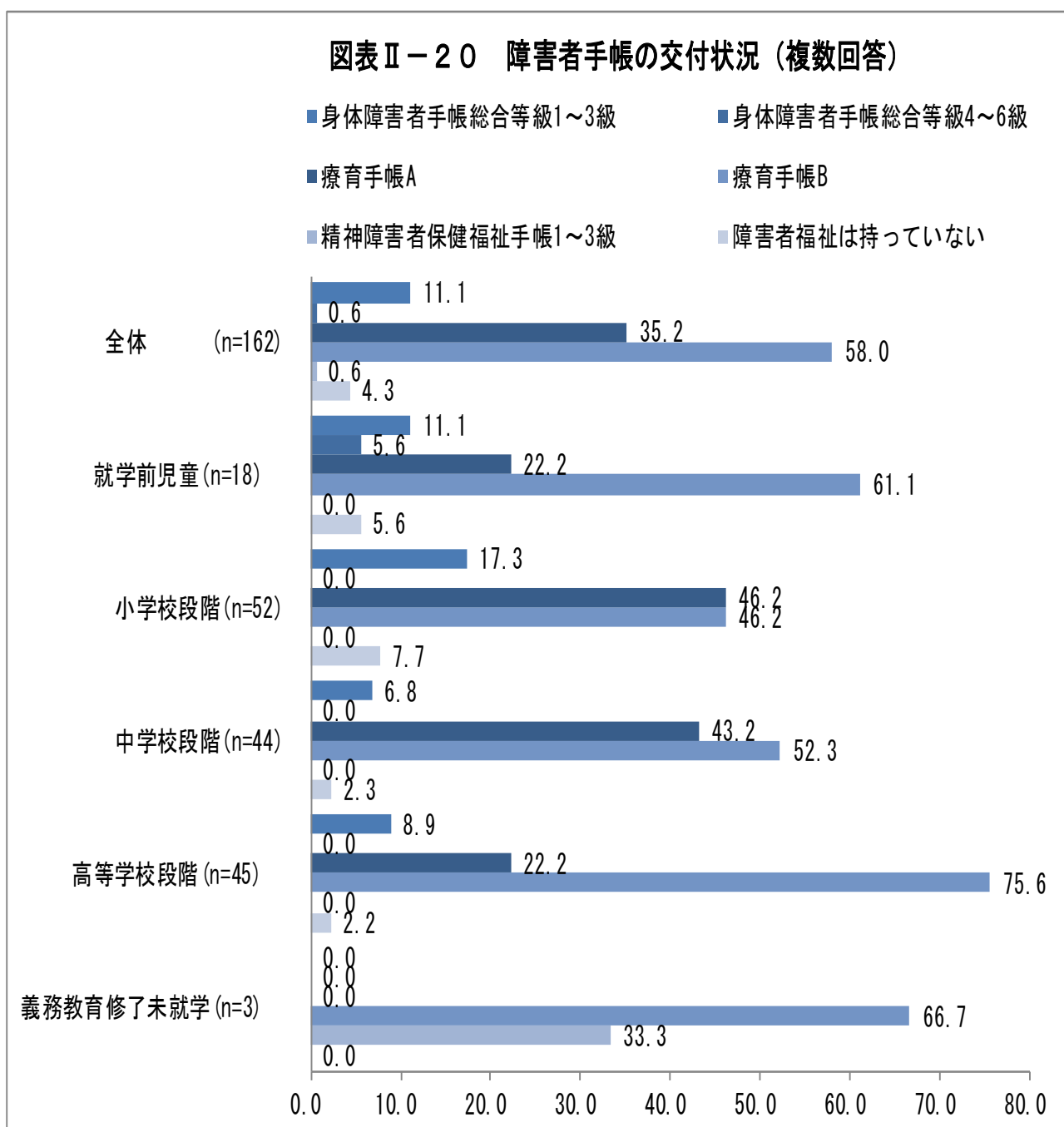
小学校段階：「療育手帳B」と「療育手帳A」はともに46.2%、「身体障害者手帳総合等級1～3級」は17.3%である。

中学校段階：「療育手帳B」は52.3%、「療育手帳A」は43.2%である。

高等学校段階：「療育手帳B」は75.6%、「療育手帳A」は22.2%である。

義務教育修了未就学：「療育手帳B」は66.7%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は33.3%である。

図表Ⅱ－20 障害者手帳の交付状況（複数回答）



### Ⅲ 調査結果の要約



A票・B票・C票

D票・E票





## 1 生活の場について

在宅者調査及び高齢者調査では、1) 住居形態、2) 暮らしの場の変更、3) 暮らしたい場所、4) 世帯構成、5) 同居者の変更、6) 暮らしたい者、7) 平日の昼間に過ごしている場所、8) 昼間の過ごし方(1)平日の昼間に過ごしたい場所、9) 昼間の過ごし方(2)昼間に利用したいサービスや支援についてたずねた。

施設入所者調査では、1) 入所施設の種類、2) 施設入所と退所の意向、3) 施設に入所して暮らしたい理由、4) 施設入所で昼間利用したいサービスや支援、5) 施設を退所して暮らしたい場所、6) 施設を退所しない・できない理由、7) 施設を退所して昼間過ごしたい場所、8) 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援についてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 住居形態 (問4)

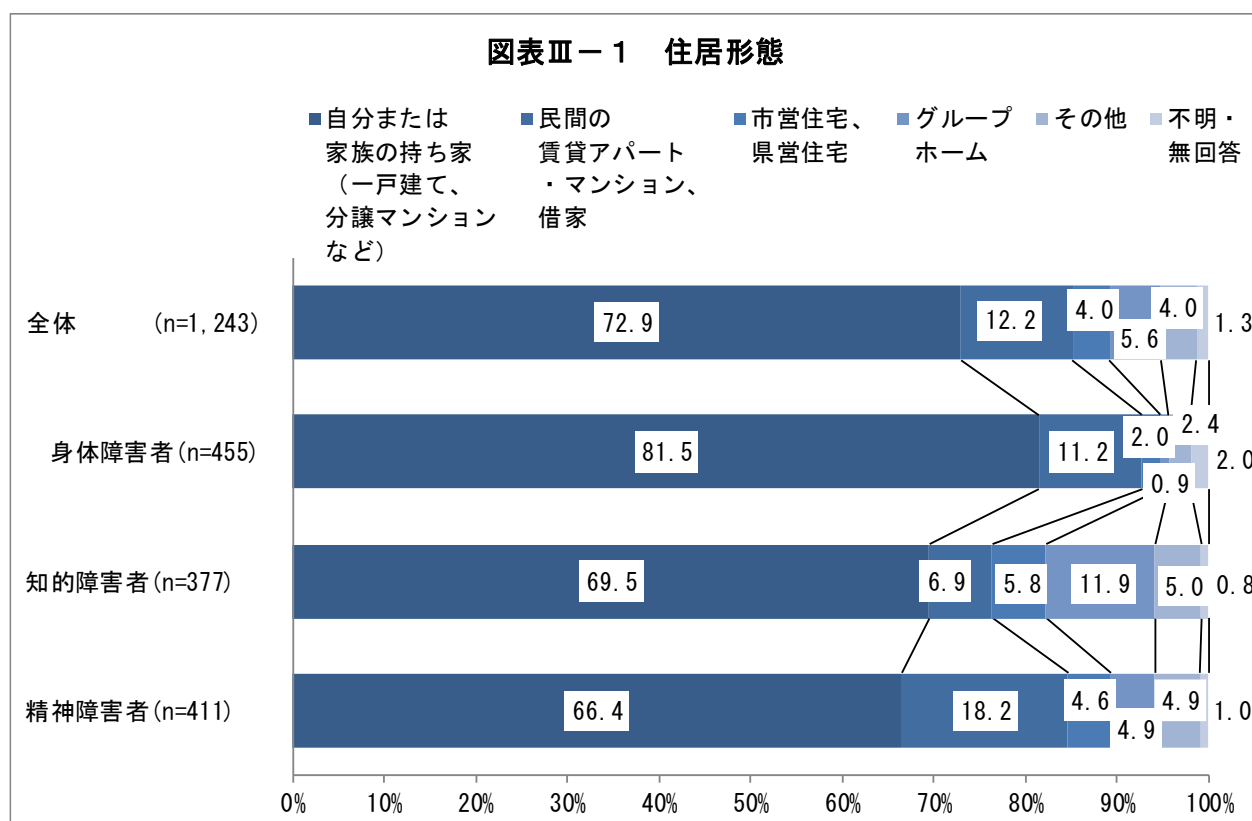
現在、どこで暮らしているかをたずねた。

全体の傾向：「自分または家族の持ち家」は、72.9%である。

身体障害者：「自分または家族の持ち家」は、81.5%である。

知的障害者：「自分または家族の持ち家」は、69.5%である。

精神障害者：「自分または家族の持ち家」は、66.4%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は18.2%である。



## 2) 暮らしの場の変更 (問5)

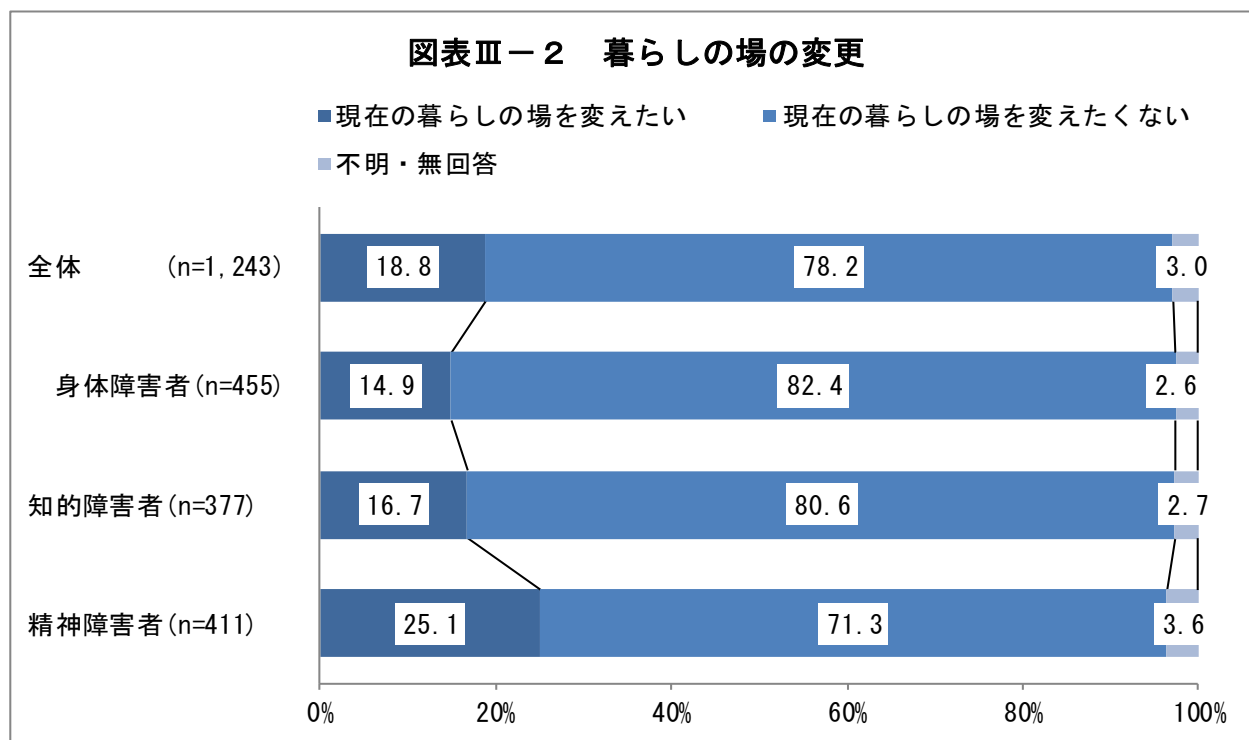
現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

全体の傾向：「現在の暮らしの場を変えたくない」は、78.2%である。

身体障害者：「現在の暮らしの場を変えたくない」は、82.4%である。

知的障害者：「現在の暮らしの場を変えたくない」は、80.6%である。

精神障害者：「現在の暮らしの場を変えたくない」は、71.3%、「現在の暮らしの場を変えたい」は25.1%である。



### 3) 暮らしたい場所（問6）

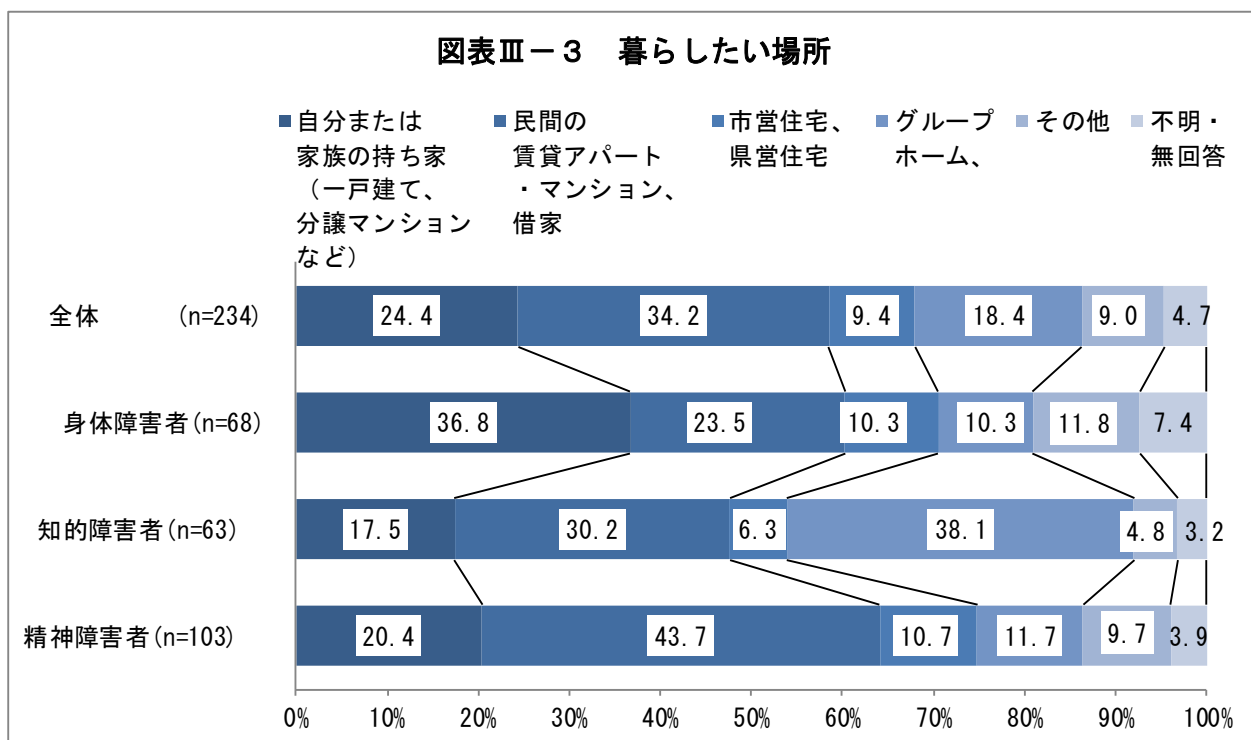
問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

**全体の傾向：**「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、34.2%、「自分または家族の持ち家」は、24.4%である。

**身体障害者：**「自分または家族の持ち家」は、36.8%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、23.5%である。

**知的障害者：**「グループホーム」は、38.1%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30.2%である。

**精神障害者：**「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、43.7%、「自分または家族の持ち家」は、20.4%である。



#### 4) 世帯構成 (問7)

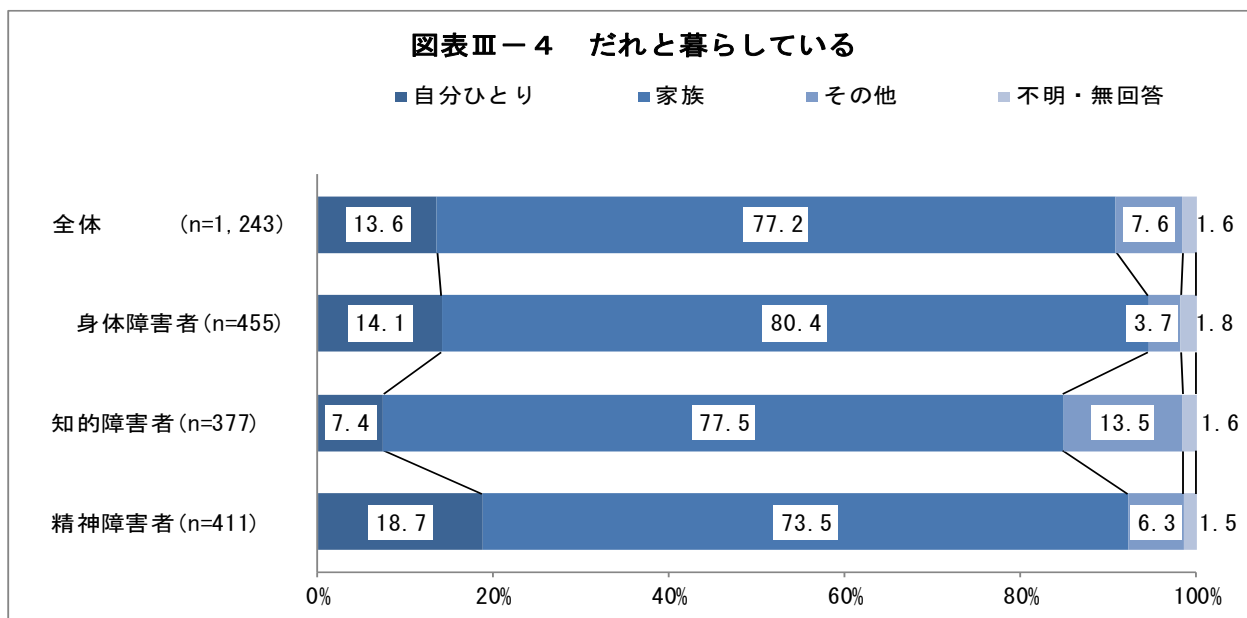
現在、だれと暮らしているかをたずねた。

全体の傾向：「家族」は、77.2%である。

身体障害者：「家族」は、80.4%である。

知的障害者：「家族」は、77.5%である。

精神障害者：「家族」は、73.5%、「自分ひとり」は、18.7%である。



#### 5) 同居者の変更 (問8)

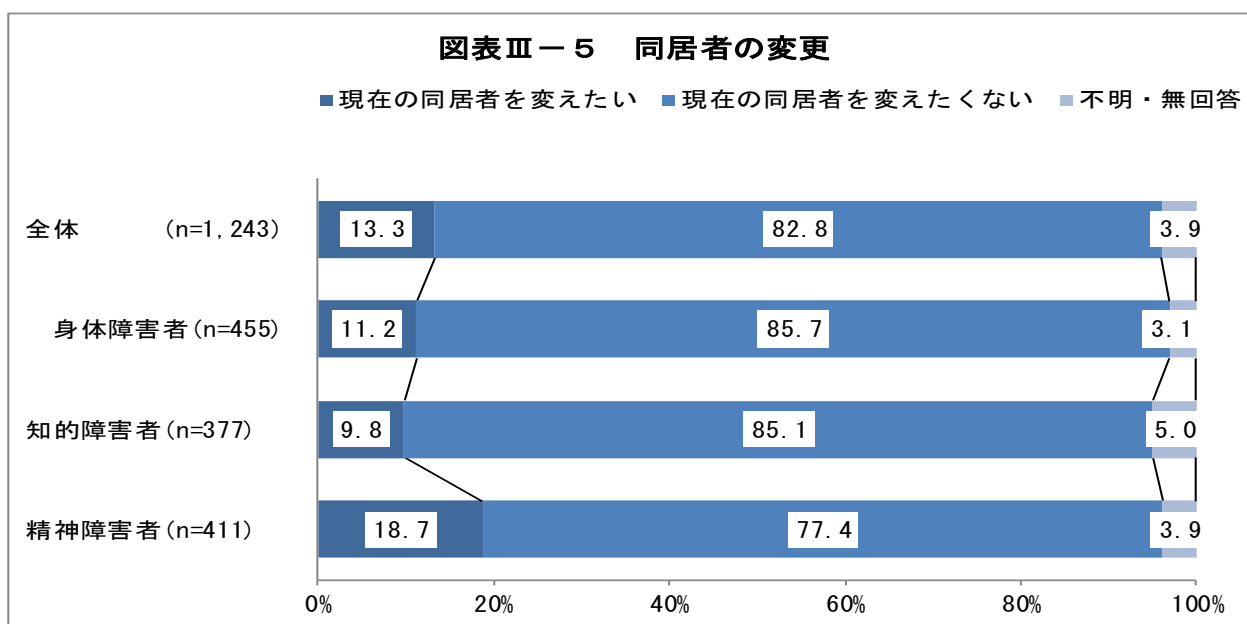
現在の同居者を変えたいかをたずねた。

全体の傾向：「現在の同居者を変えたくない」は、82.8%である。

身体障害者：「現在の同居者を変えたくない」は、85.7%である。

知的障害者：「現在の同居者を変えたくない」は、85.1%である。

精神障害者：「現在の同居者を変えたくない」は、77.4%、「現在の同居者を変えたい」が18.7%である。



## 6) 暮らしたい者 (問9)

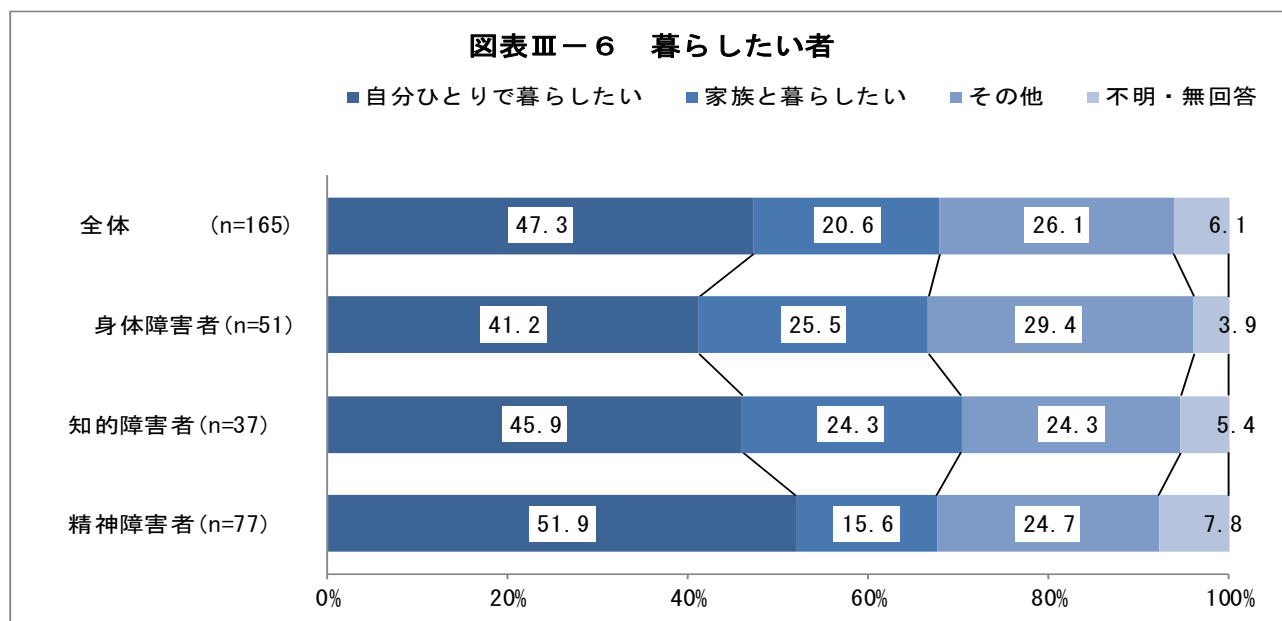
問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

全体の傾向：「自分ひとりで暮らしたい」は、47.3%である。

身体障害者：「自分ひとりで暮らしたい」は、41.2%である。

知的障害者：「自分ひとりで暮らしたい」は、45.9%である。

精神障害者：「自分ひとりで暮らしたい」は、51.9%、「家族と暮らしたい」は、15.6%である。



### 7) 平日の昼間に過ごしている場所（問10）

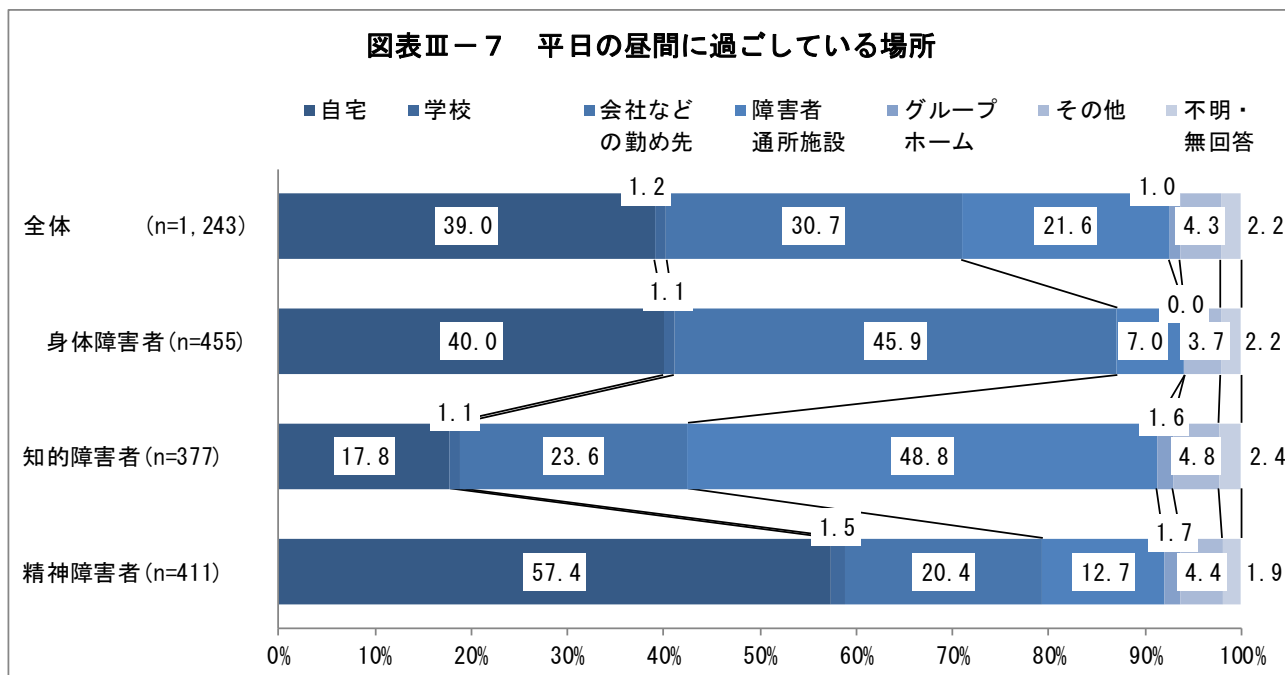
現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

全体の傾向：「自宅」は、39.0%、「会社などの勤め先」は、30.7%、「障害者通所施設」は、21.6%、合わせると約9割を占める。

身体障害者：「会社などの勤め先」は、45.9%、「自宅」は、40.0%である。

知的障害者：「障害者通所施設」は、48.8%、「会社などの勤め先」は、23.6%である。

精神障害者：「自宅」は57.4%と3障害のなかでは高く、「会社などの勤め先」は20.4%と低い。



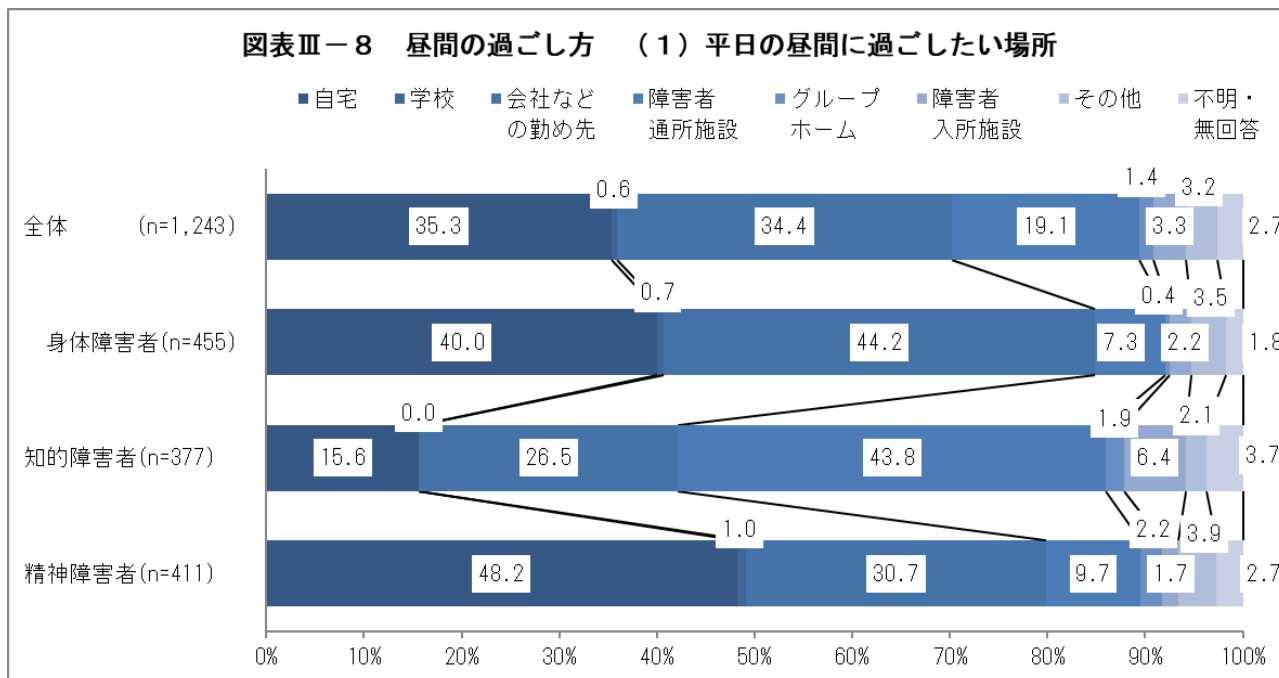
8) 昼間の過ごし方－(1)平日の昼間に過ごしたい場所（問11(1)）

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。  
**全体の傾向**：「自宅」は、35.3%、「会社などの勤め先」は、34.4%、「障害者通所施設」は、19.1%である。

**身体障害者**：「会社などの勤め先」は、44.2%、「自宅」は、40.0%である。

**知的障害者**：「障害者通所施設」は、43.8%、「会社などの勤め先」は、26.5%である。

**精神障害者**：「自宅」は、48.2%、「会社などの勤め先」は30.7%である。



## 8) 昼間の過ごし方-(2)昼間に利用したいサービスや支援 (問 1 1 (2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

**全体の傾向：**「サービスや支援は必要ない」が 42.8%で最も多い。以下、10%以上の回答のあったものを上位からあげると次の5項目である。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」(21.3%)、

「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」(13.3%)、

「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作活動などをしてほしい」(12.5%)、

「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」(12.2%)、

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」(10.9%)である。

**身体障害者：**「サービスや支援は必要ない」は 61.5%である。そのほか上位3位をあげると、

「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」(9.7%)、

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」(9.2%)、

「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」と「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」が(8.4%)である。

**知的障害者：**「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は 35.5%である。そのほか上位3位をあげると、

「サービスや支援は必要ない」(24.4%)、

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」(20.4%)、

「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作活動などをしてほしい」(16.7%)である。

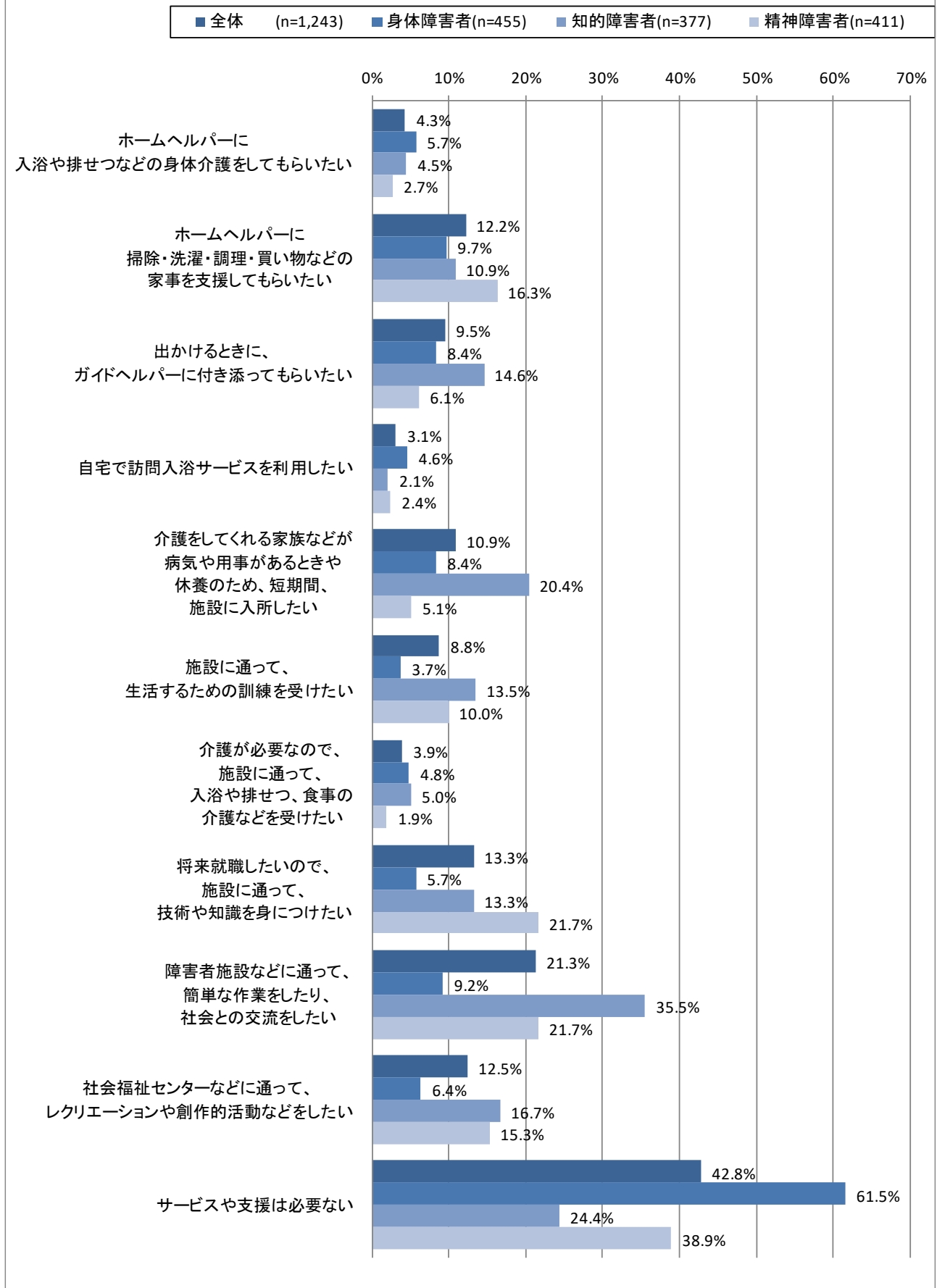
**精神障害者：**「サービスや支援は必要ない」は 38.9%である。そのほか上位3位をあげると、

「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」と「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」が(21.7%)、

「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」(16.3%)である。



図表Ⅲ－９ 昼間の過ごし方（２）昼間に利用したいサービスや支援（複数回答）

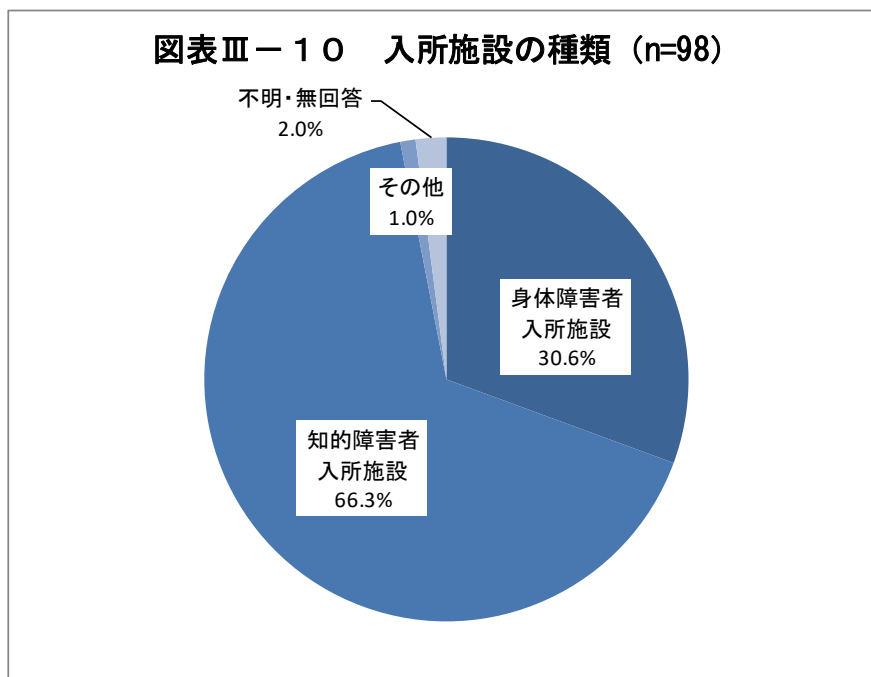


## (2) 施設入所者

### 1) 入所施設の種類 (D問4)

現在、どこの障害者入所施設に入所しているかをたずねた。

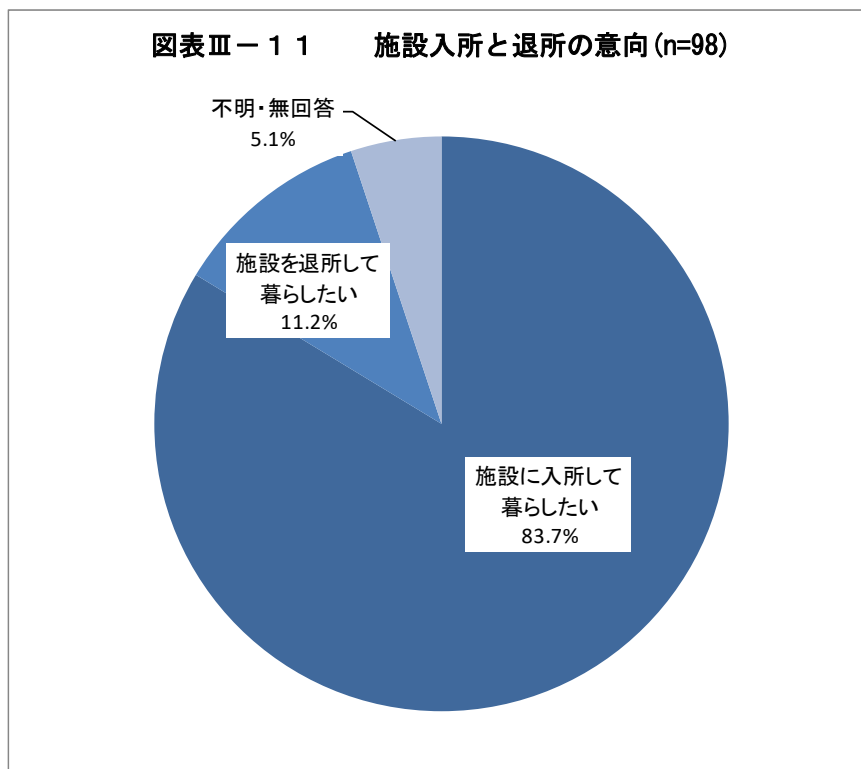
「知的障害者入所施設」は、66.3%、「身体障害者入所施設」は、30.6%である。



### 2) 施設入所と退所の意向 (D問5)

今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「施設に入所して暮らしたい」は、83.7%、「施設を退所して暮らしたい」は、11.2%である。

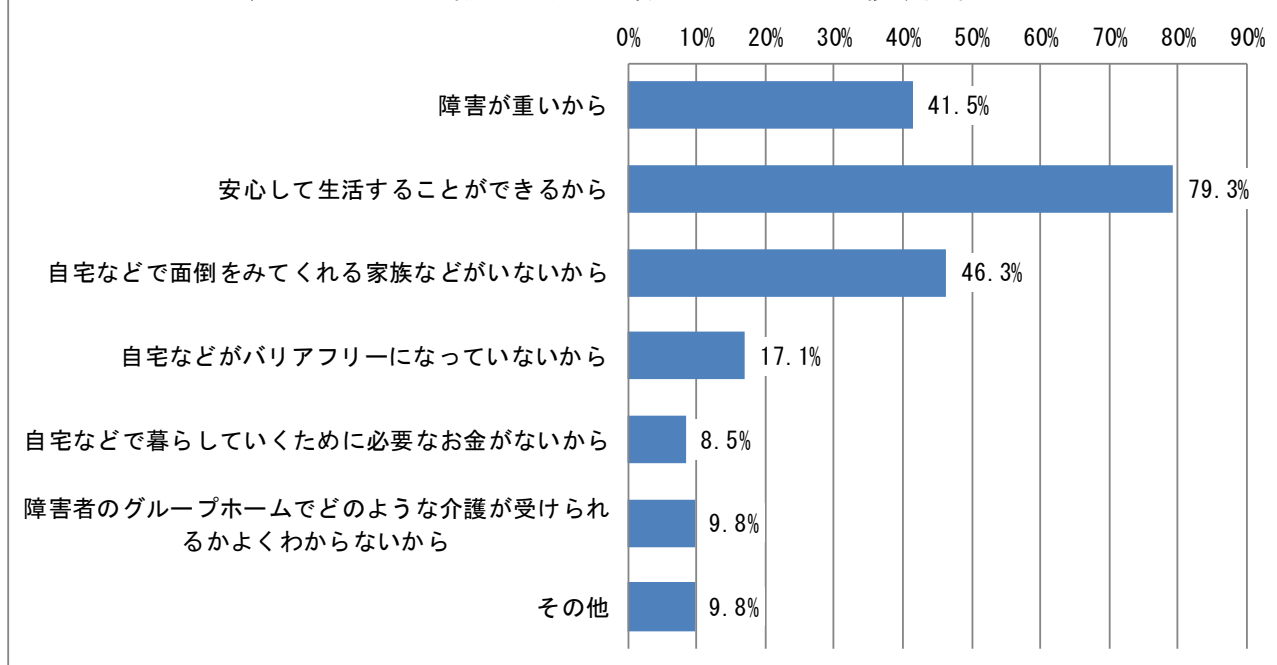


### 3) 施設に入所して暮らしたい理由 (D問6)

問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、その理由を複数回答でたずねた。

「安心して生活することができるから」は、79.3%、「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、46.3%、「障害が重いから」は、41.5%である。

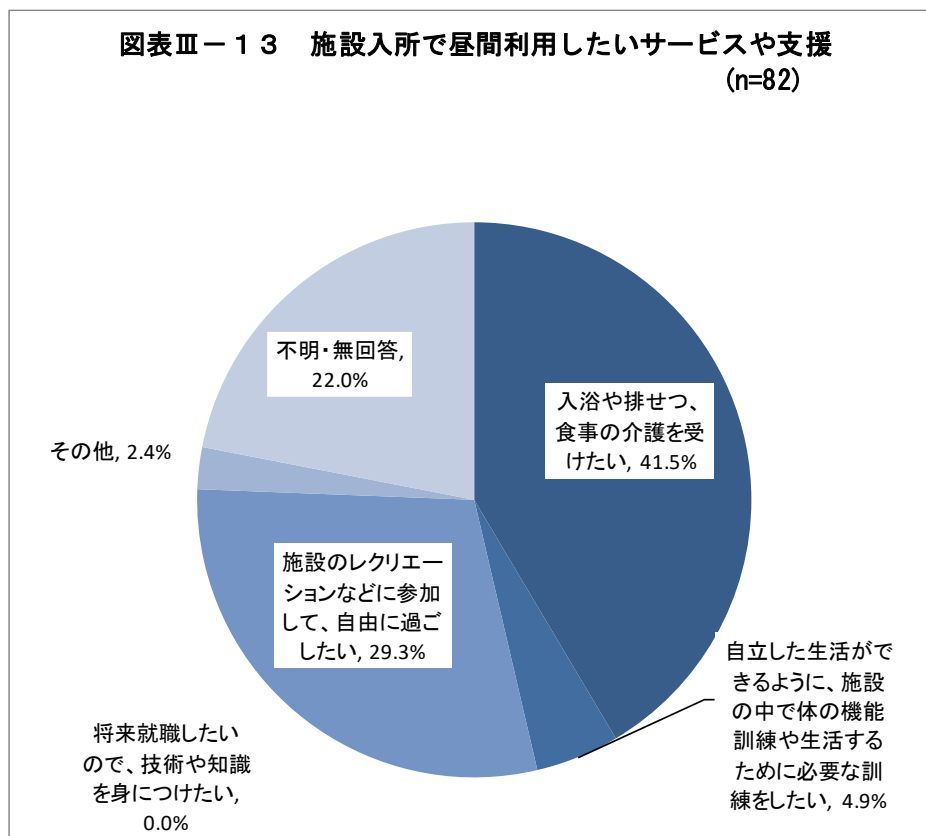
図表Ⅲ-12 施設に入所して暮らしたい理由 (複数回答:n=82)



#### 4) 施設入所で昼間利用したいサービスや支援 (D問7)

問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、昼間どのようなサービスや支援を利用したいかをたずねた。

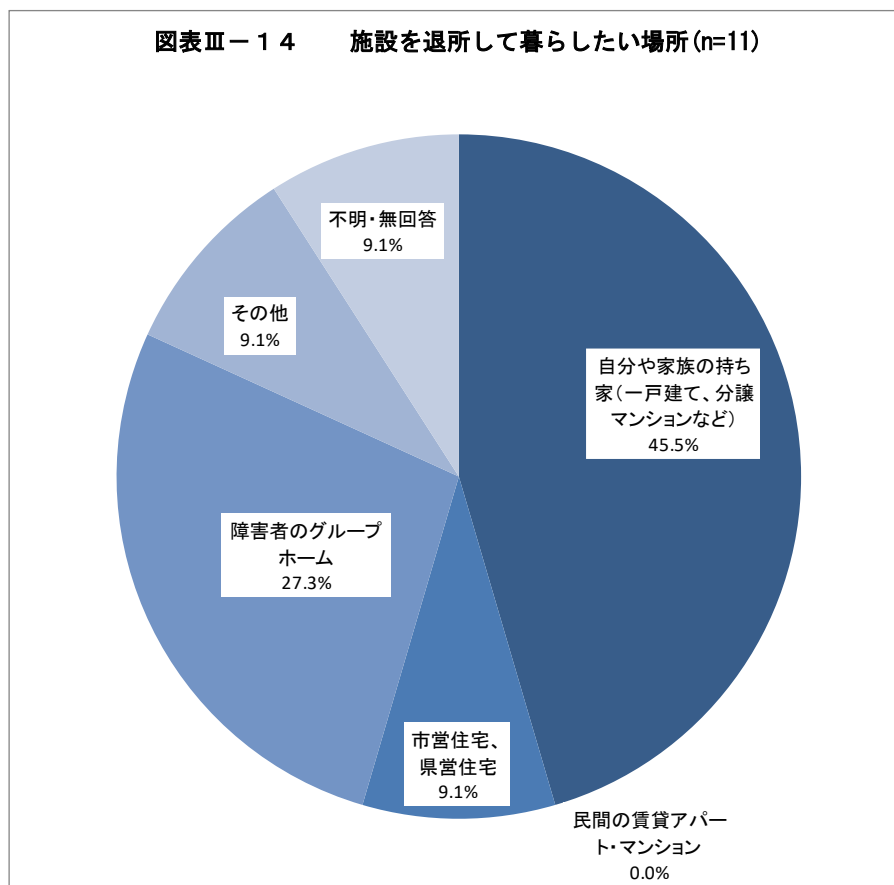
「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、41.5%、「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、29.3%、「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、4.9%である。(不明・無回答は除く)



### 5) 施設を退所して暮らしたい場所 (D問8)

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分や家族の持ち家」は、45.5%、「障害者のグループホーム」は、27.3%、「市営住宅、県営住宅」と「その他」は、9.1%である。

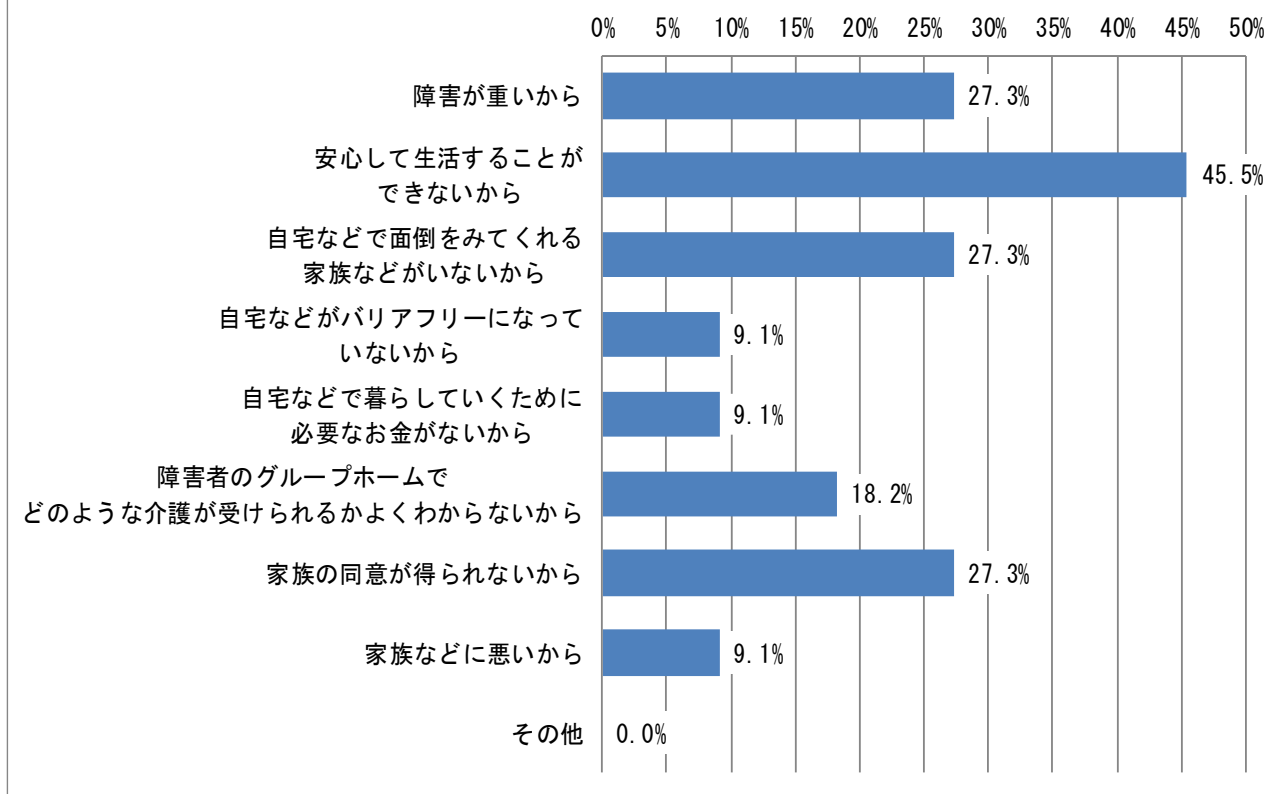


## 6) 施設を退所しない・できない理由 (D問9)

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、施設を退所しない、または退所できない理由を複数回答でたずねた。

「安心して生活することができないから」は、45.5%、「障害が重いから」と「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」と「家族の同意が得られないから」は、27.3%である。

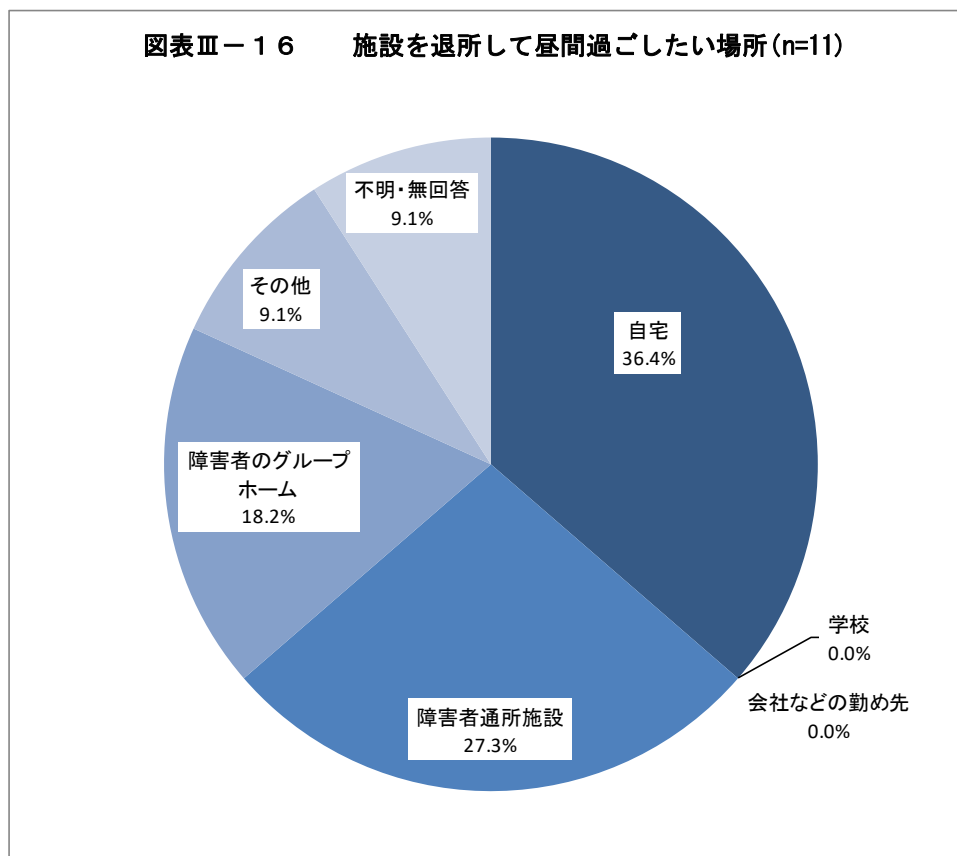
図表Ⅲ-15 施設を退所しない・できない理由 (複数回答:n=11)



### 7) 施設を退所して昼間過ごしたい場所 (D問10)

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。

「自宅」は、36.4%、「障害者通所施設」は、27.3%、「障害者のグループホーム」は、18.2%である。

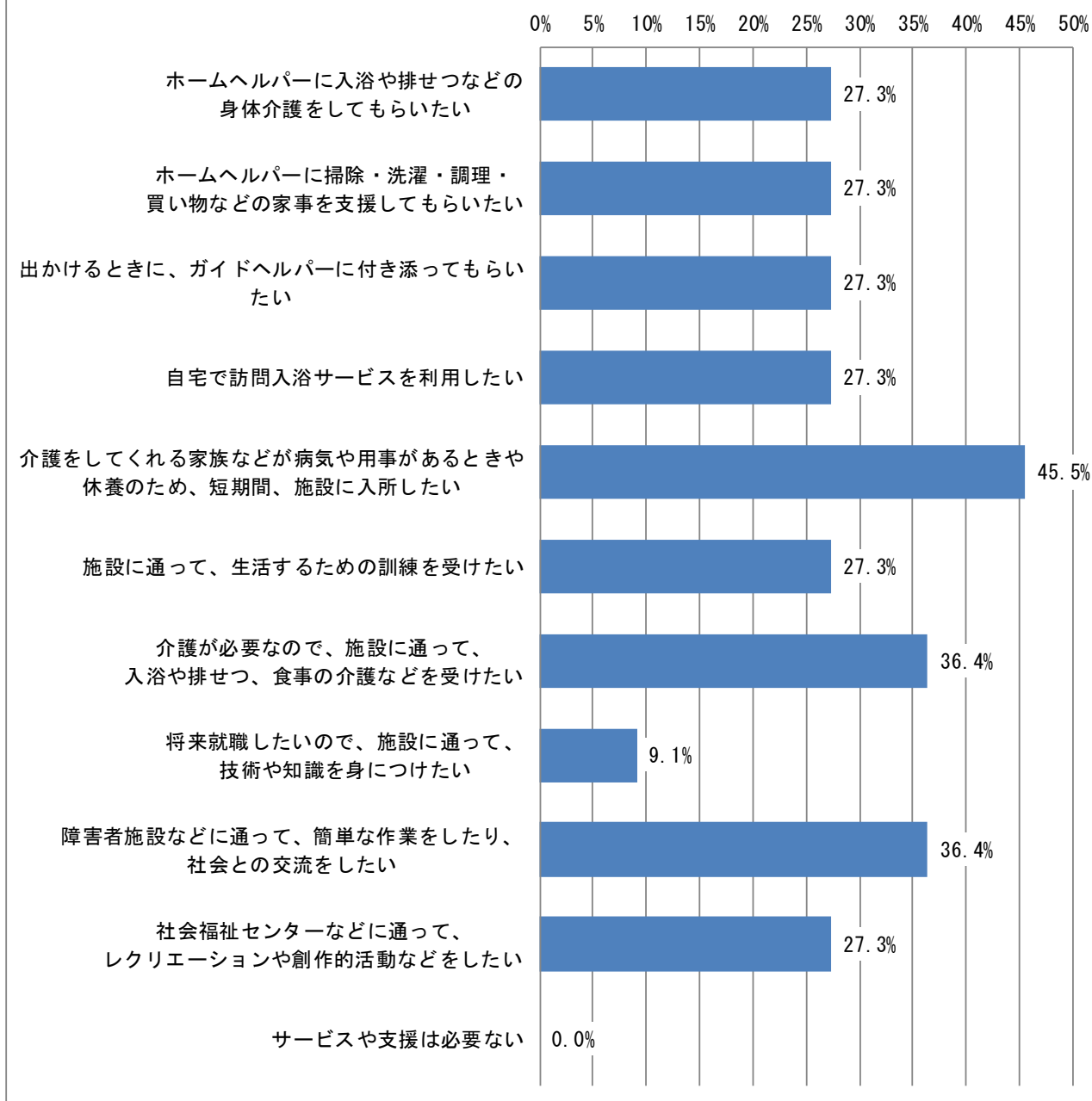


8) 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援 (D問11)

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、45.5%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」と「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、36.4%である。

図表Ⅲ-17 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援  
(複数回答:n=11)



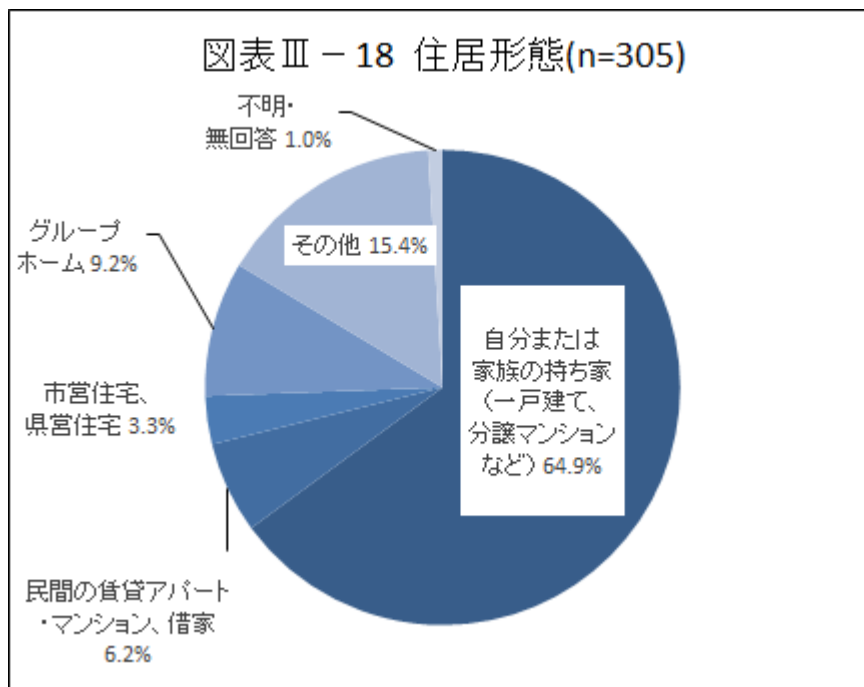


### (3) 高齢者

#### 1) 住居形態 (E問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

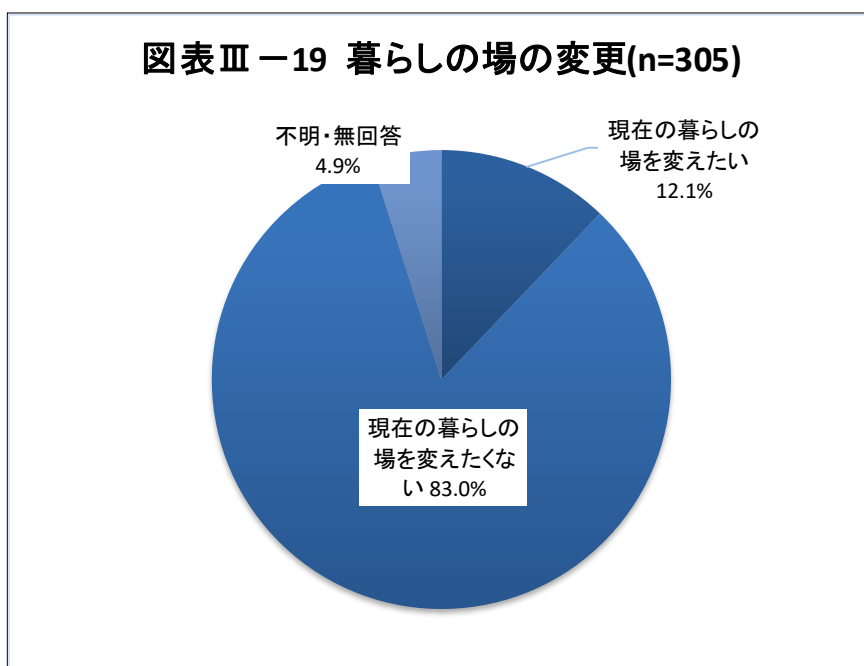
「自分または家族の持ち家」は、64.9%、「その他」は、15.4%、「グループホーム」は、9.2%である。



#### 2) 暮らしの場の変更 (E問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

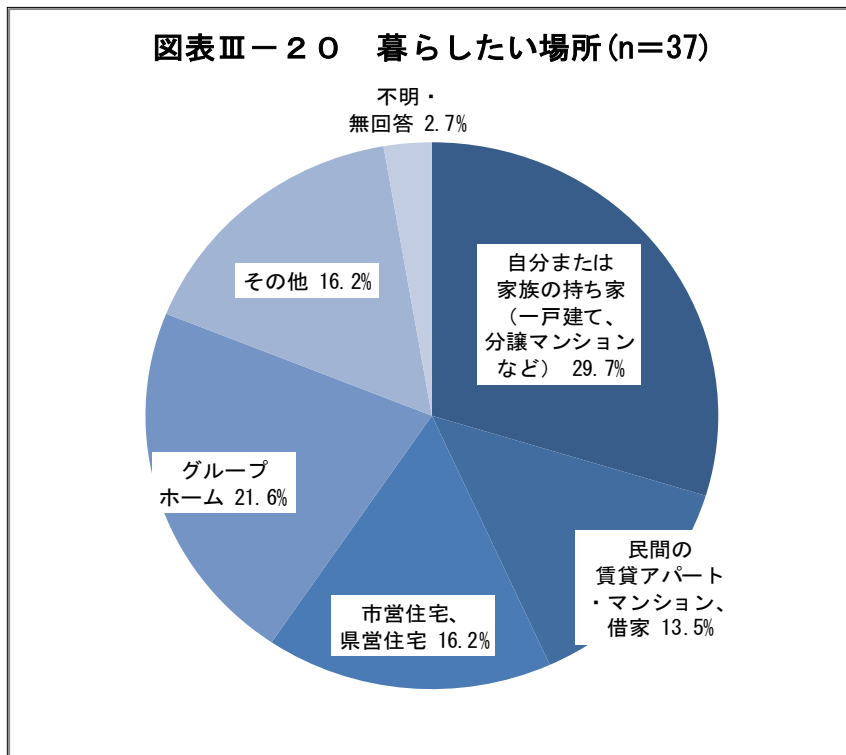
「現在の暮らしの場を変えたくない」は、83.0%、「現在の暮らしの場を変えたい」は、12.1%である。



### 3) 暮らしたい場所 (E問6)

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

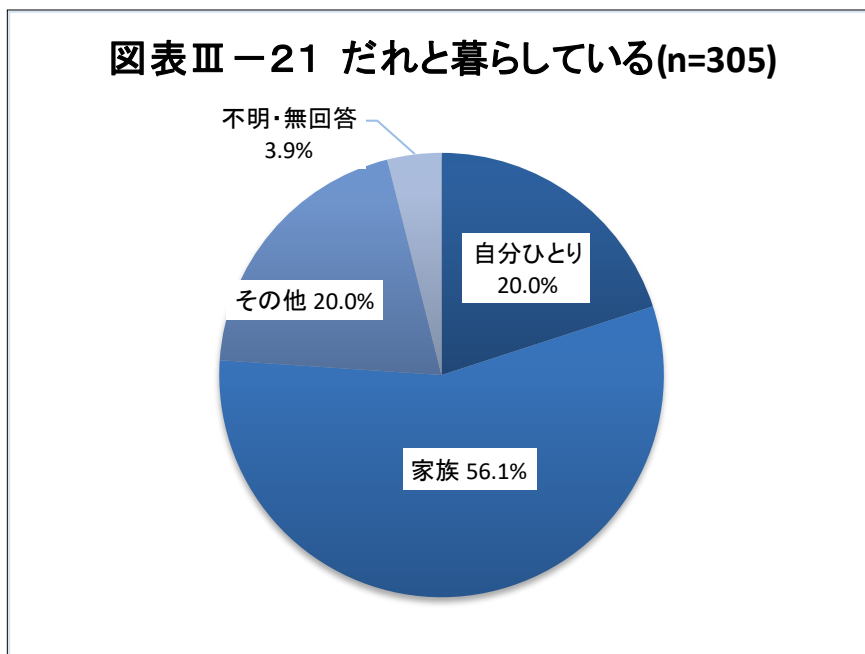
「自分または家族の持ち家」は、29.7%、「グループホーム」は、21.6%である。



### 4) 世帯構成 (E問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

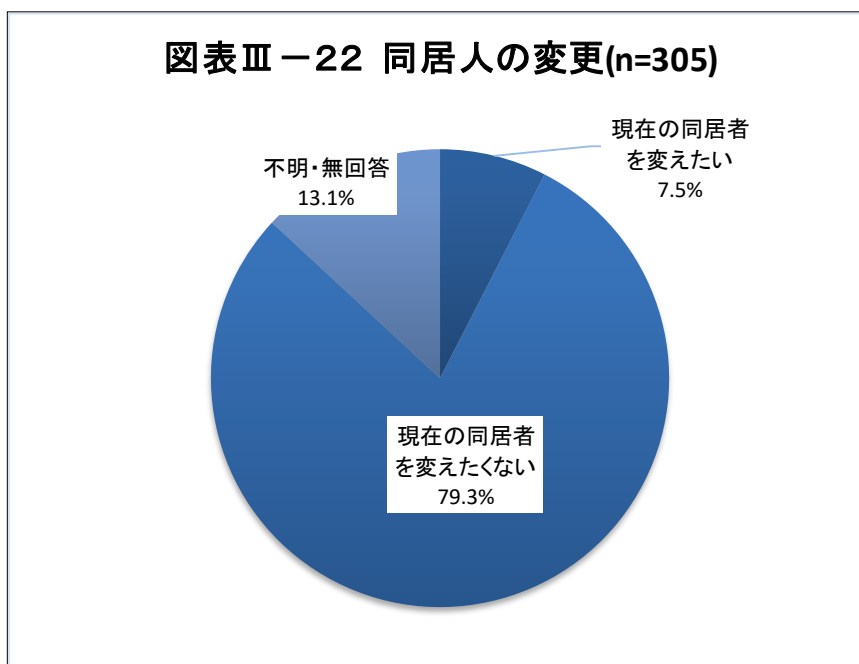
「家族」は、56.1%、「自分ひとり」と「その他」は、20.0%である。



### 5) 同居者の変更 (E問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

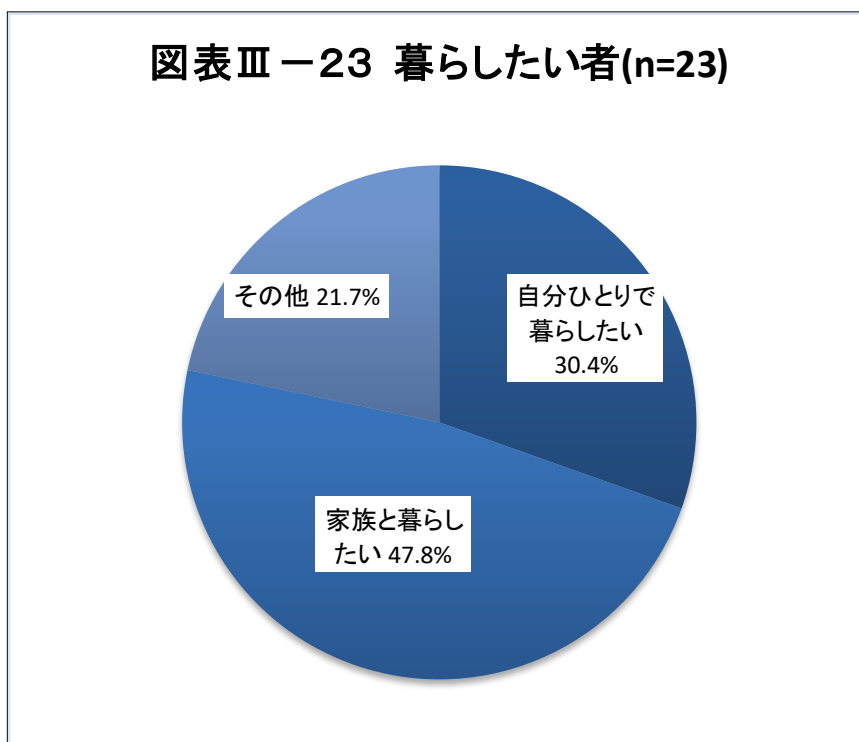
「現在の同居者を変えたくない」は、79.3%、「現在の同居者を変えたい」は、7.5%である。



### 6) 暮らしたい者 (E問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「家族と暮らしたい」は、47.8%、「自分ひとりで暮らしたい」は、30.4%である。



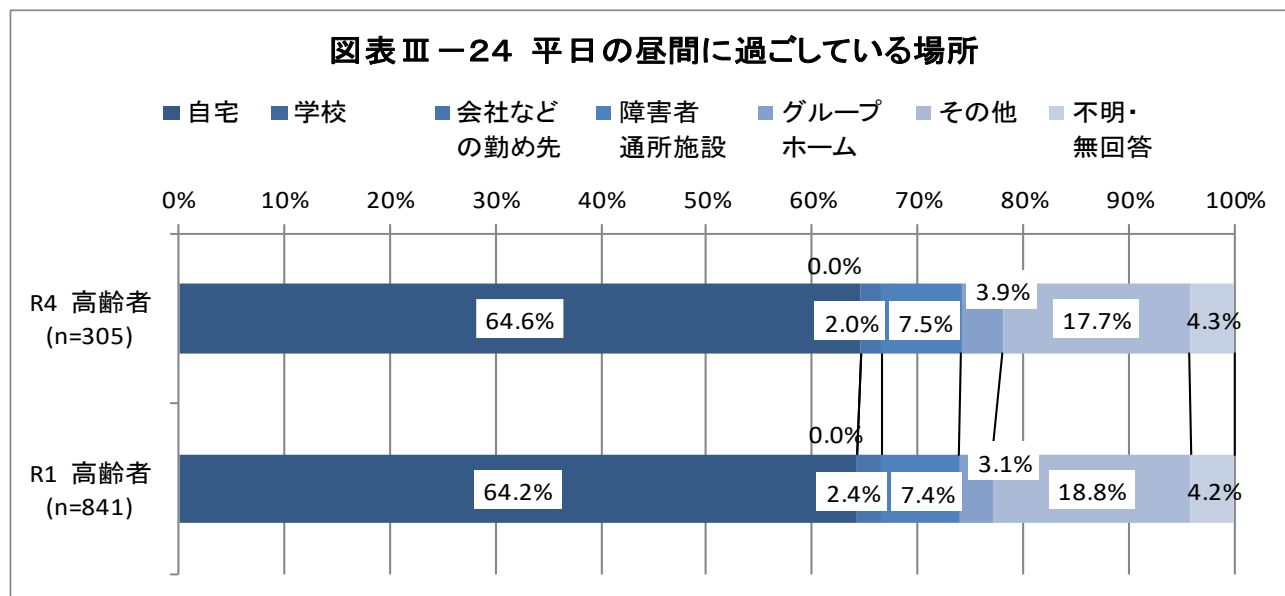
### 7) 平日の昼間に過ごしている場所 (E問10)

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「自宅」は、64.6%と最も高く、「障害者通所施設」は、7.5%、「グループホーム」は、3.9%である。

#### 【経年比較】

経年で比較してみると、「自宅」と「障害者通所施設」は変化がなく、「グループホーム」は1ポイントほど低い。



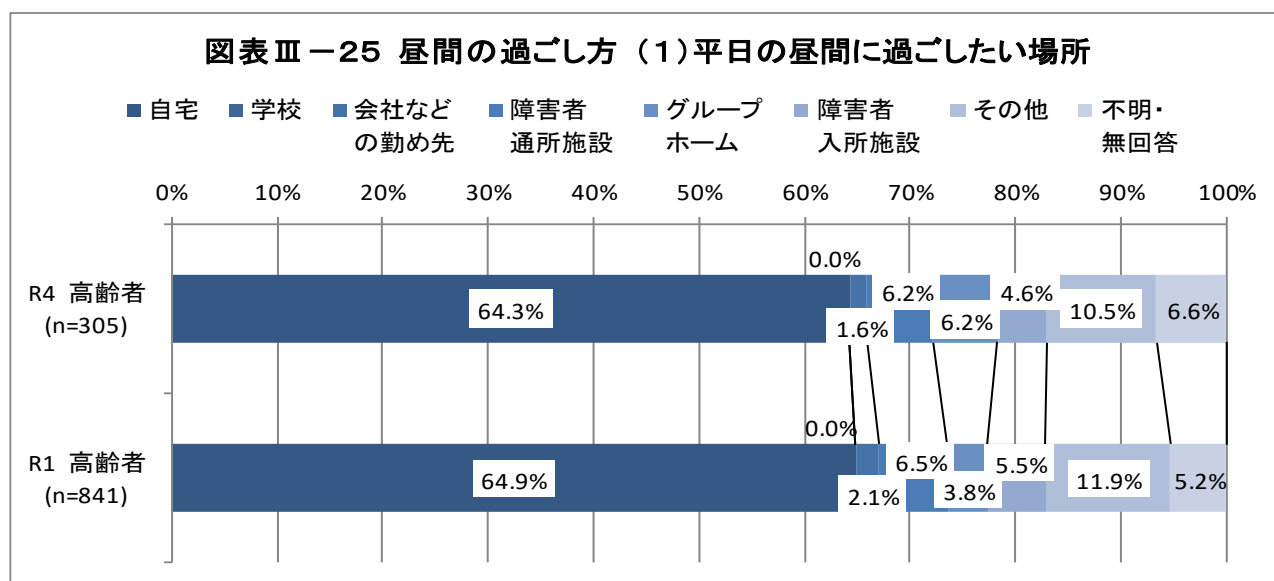
### 8) 昼間の過ごし方 (1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (E問11(1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。

「自宅」は、64.3%と最も高く、「障害者通所施設」と「グループホーム」は、6.2%である。

#### 【経年比較】

経年で比較してみると、「自宅」と「障害者通所施設」は変化がなく、「グループホーム」は2ポイントほど高い。

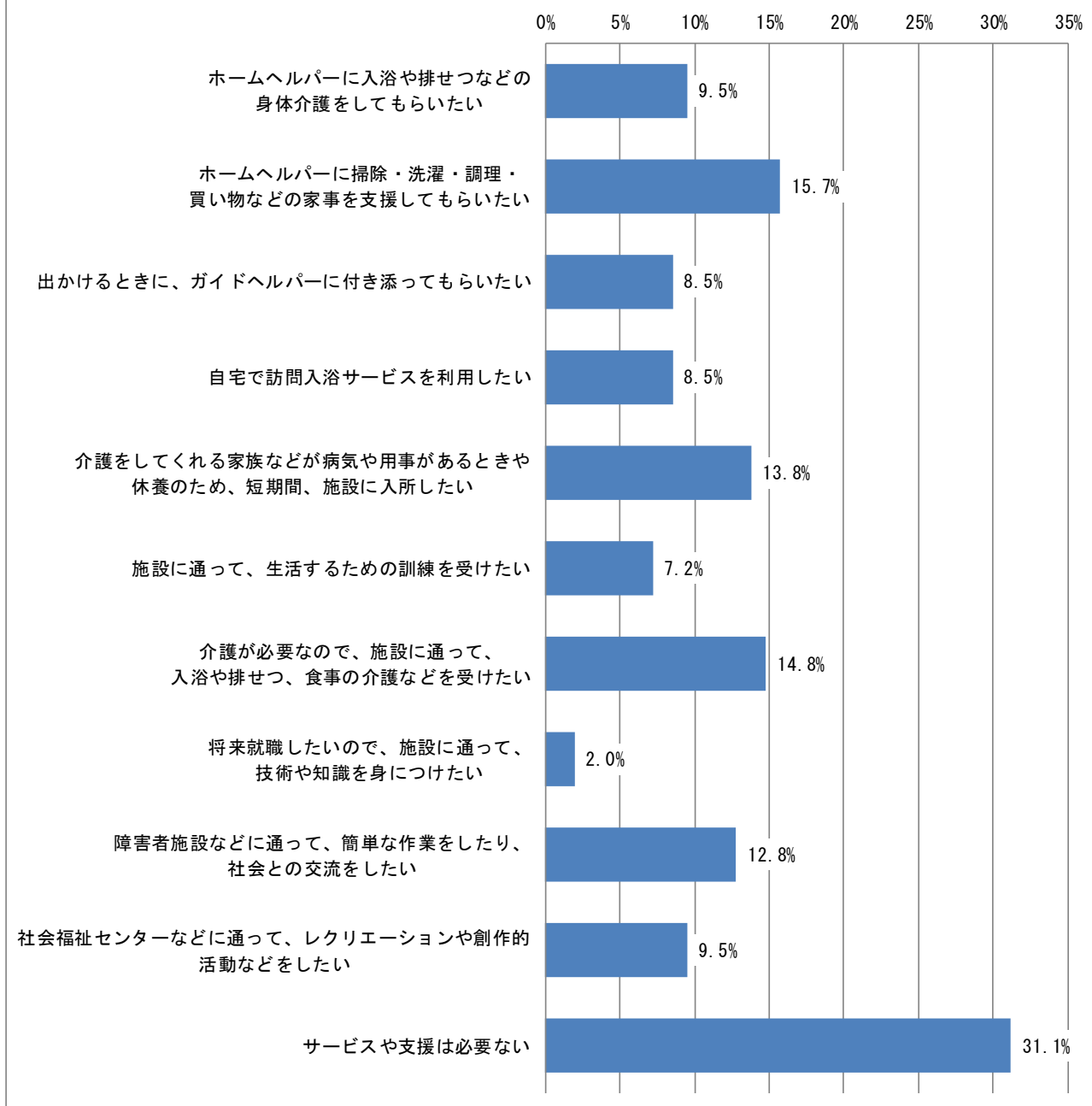


9) 昼間の過ごし方- (2) 昼間に利用したいサービスや支援 (E問11(2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、31.1%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、15.7%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、14.8%、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、13.8%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、12.8%である。

図表Ⅲ-26 昼間に利用したいサービスや支援 (複数回答:n=305)



## 2 文化・スポーツについて

在宅者調査、施設入所者調査及び高齢者調査では、1) 芸術・文化活動の実施、2) スポーツ活動の実施、3) スポーツの頻度、4) スポーツをしたい希望意志についてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 芸術・文化活動の実施 (問12)

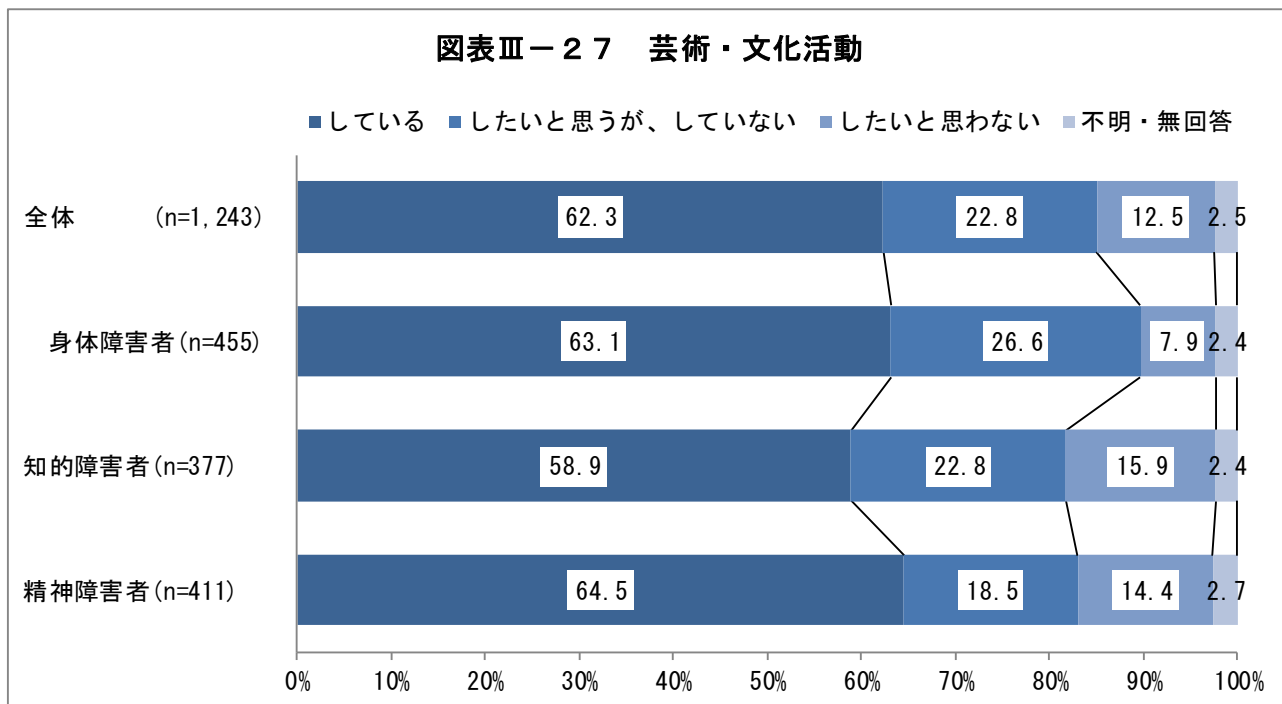
現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

全体の傾向：「している」は、62.3%、「したいと思うが、していない」は、22.8%、「したいと思わない」は、12.5%である。

身体障害者：「している」は、63.1%、「したいと思うが、していない」は、26.6%、「したいと思わない」は、7.9%である。

知的障害者：「している」は、58.9%、「したいと思うが、していない」は、22.8%、「したいと思わない」は、15.9%である。

精神障害者：「している」は、64.5%、「したいと思うが、していない」は、18.5%、「したいと思わない」は、14.4%である。



## 2) スポーツ活動の実施 (問 13)

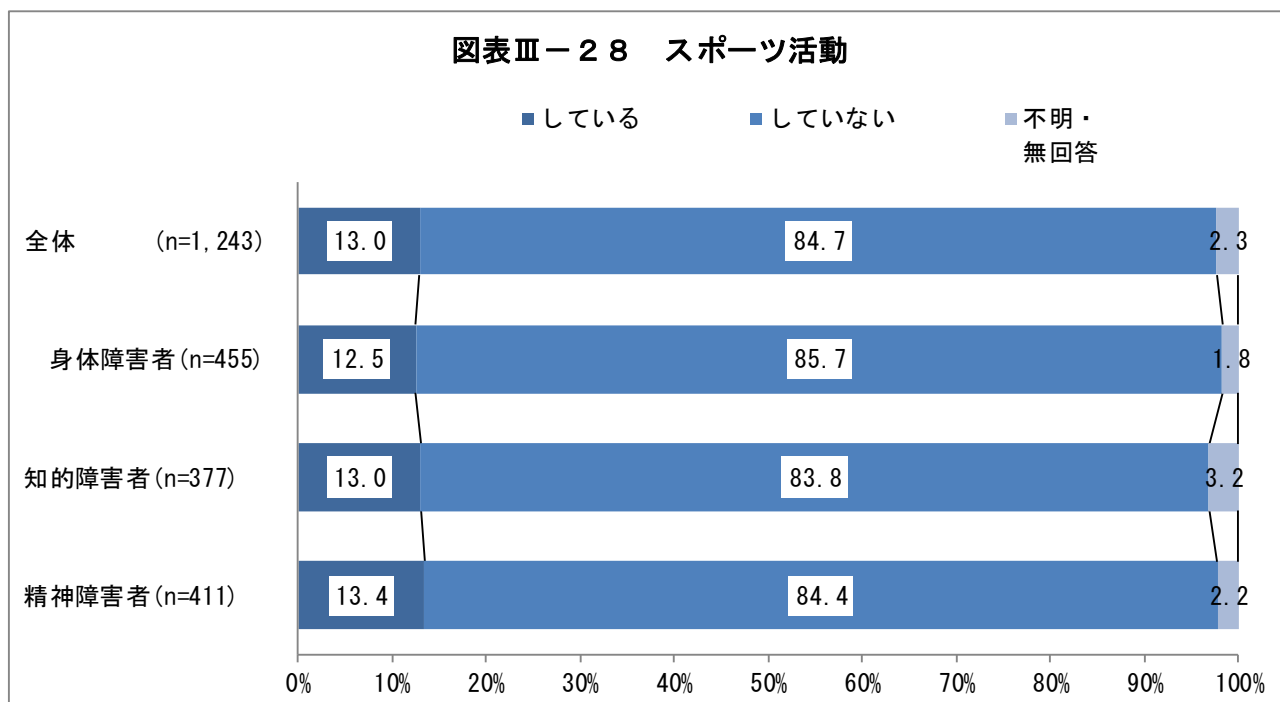
現在、スポーツをしているかをたずねた。

全体の傾向：「している」は、13.0%、「していない」は、84.7%である。

身体障害者：「している」は、12.5%、「していない」は、85.7%である。

知的障害者：「している」は、13.0%、「していない」は、83.8%である。

精神障害者：「している」は、13.4%、「していない」は、84.4%である。



### 3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4)

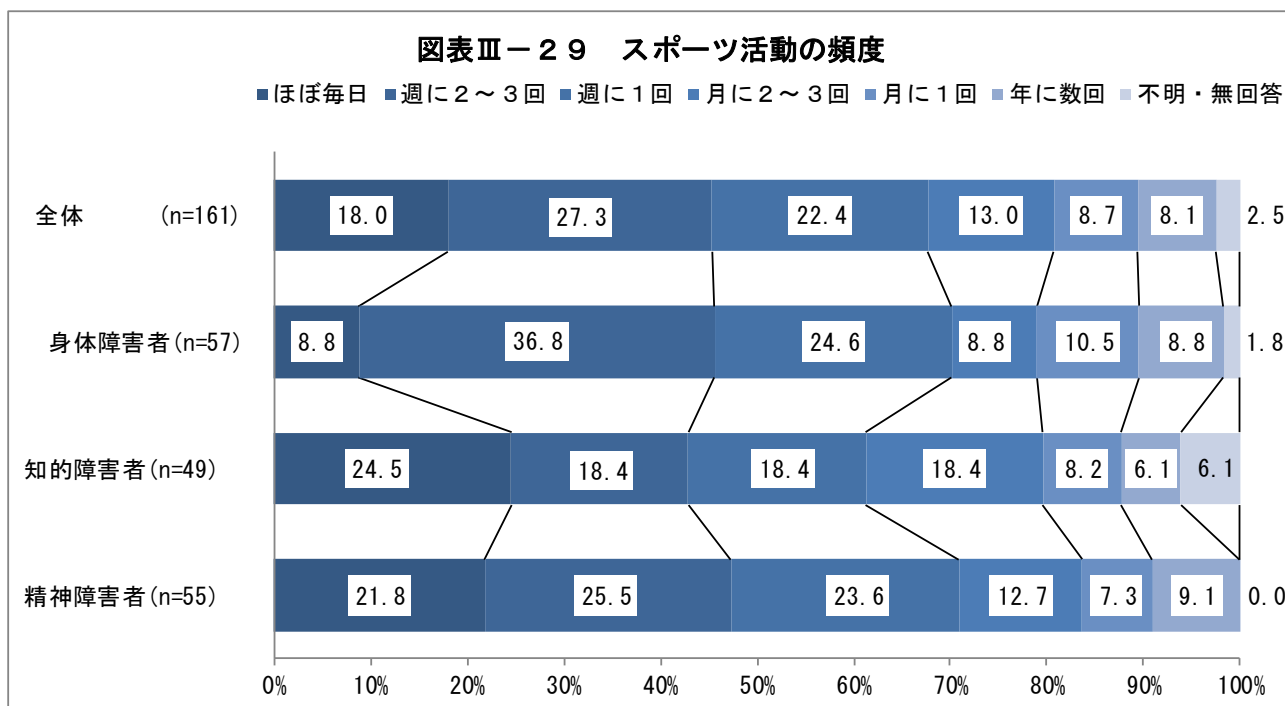
問 1 3 で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

全体の傾向：「週に 2 ～ 3 回」は、27.3%、「週に 1 回」は、22.4%、「ほぼ毎日」は、18.0% である。

身体障害者：「週に 2 ～ 3 回」は、36.8%、「週に 1 回」は、24.6%、「月に 1 回」は、10.5% である。

知的障害者：「ほぼ毎日」は、24.5%、「週に 2 ～ 3 回」と「週に 1 回」と「月に 2 ～ 3 回」は、18.4% である。3 障害では「ほぼ毎日」の割合が最も高い。

精神障害者：「週に 2 ～ 3 回」は、25.5%、「週に 1 回」は、23.6%、「ほぼ毎日」は、21.8% である。





#### 4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問 15)

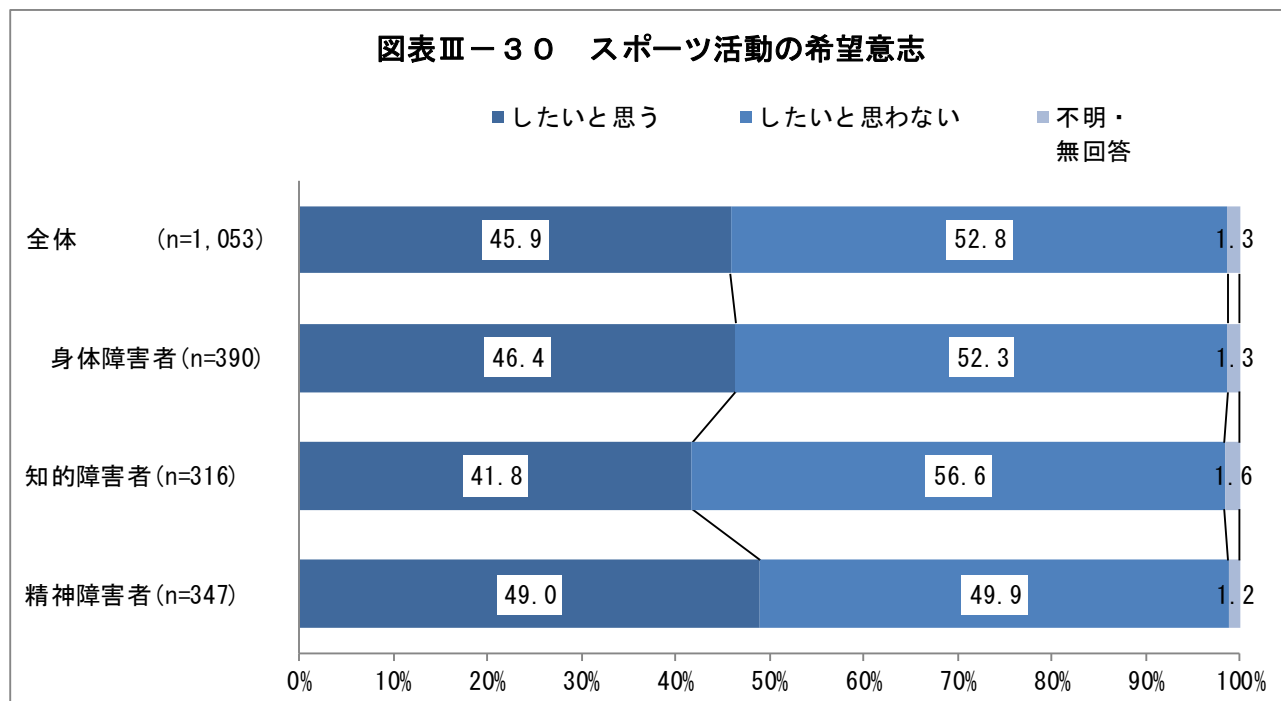
問 13 で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

全体の傾向：「したいと思う」は、45.9%、「したいと思わない」は、52.8%である。

身体障害者：「したいと思う」は、46.4%、「したいと思わない」は、52.3%である。

知的障害者：「したいと思う」は、41.8%、「したいと思わない」は、56.6%である。3 障害者では「したいと思わない」の割合が最も高い。

精神障害者：「したいと思う」は、49.0%、「したいと思わない」は、49.9%である。

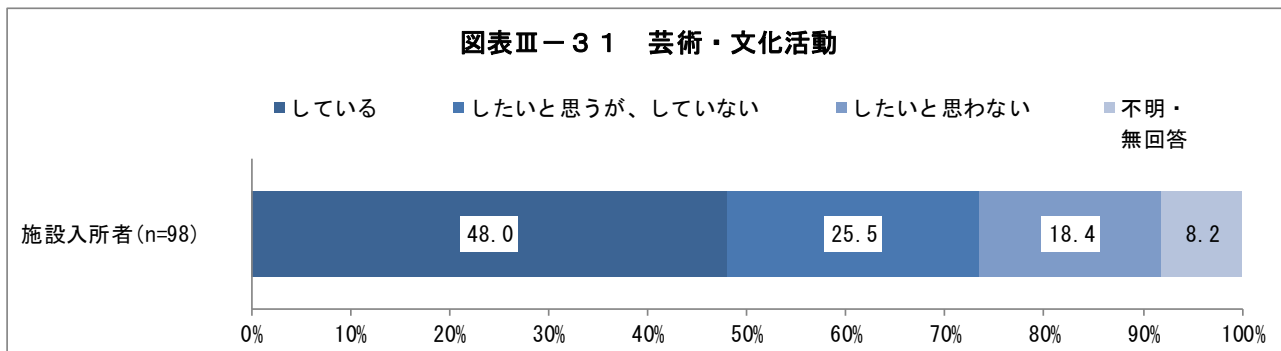


## (2) 施設入所者

### 1) 芸術・文化活動の実施 (D問12)

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

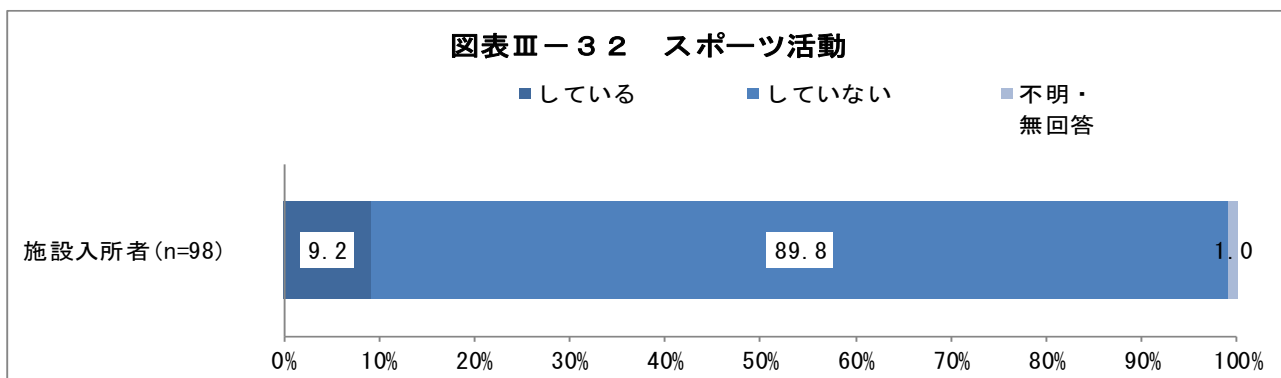
「している」は、48.0%、「したいと思うが、していない」は、25.5%、「したいと思わない」は、18.4%である。



### 2) スポーツ活動の実施 (D問13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

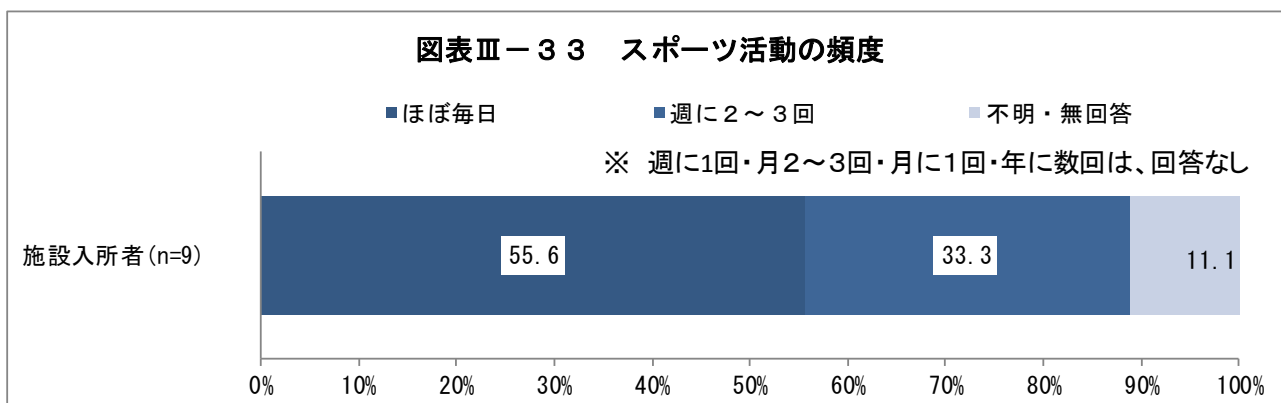
「している」は、9.2%、「していない」は、89.8%である。



### 3) スポーツ活動の頻度 (D問14)

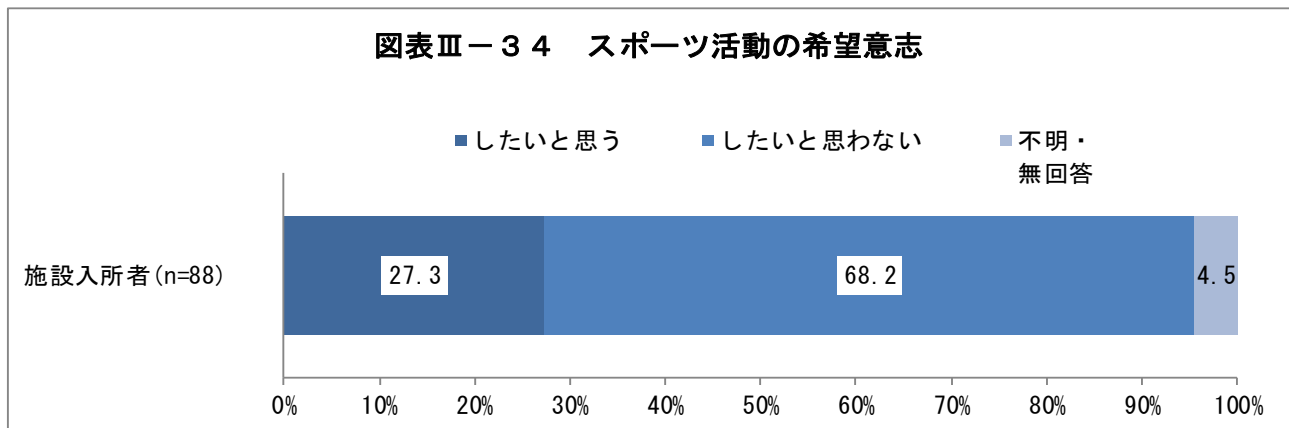
問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、55.6%、「週に2~3回」は、33.3%である。



#### 4) スポーツ活動をしたい希望意志 (D問15)

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。  
「したいと思う」は、27.3%、「したいと思わない」は、68.2%である。

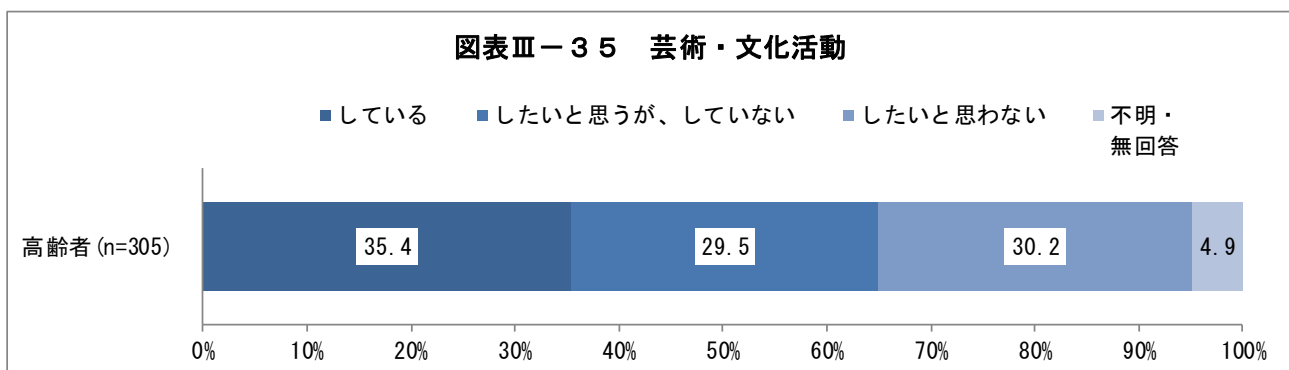


### (3) 高齢者

#### 1) 芸術・文化活動の実施 (E問12)

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

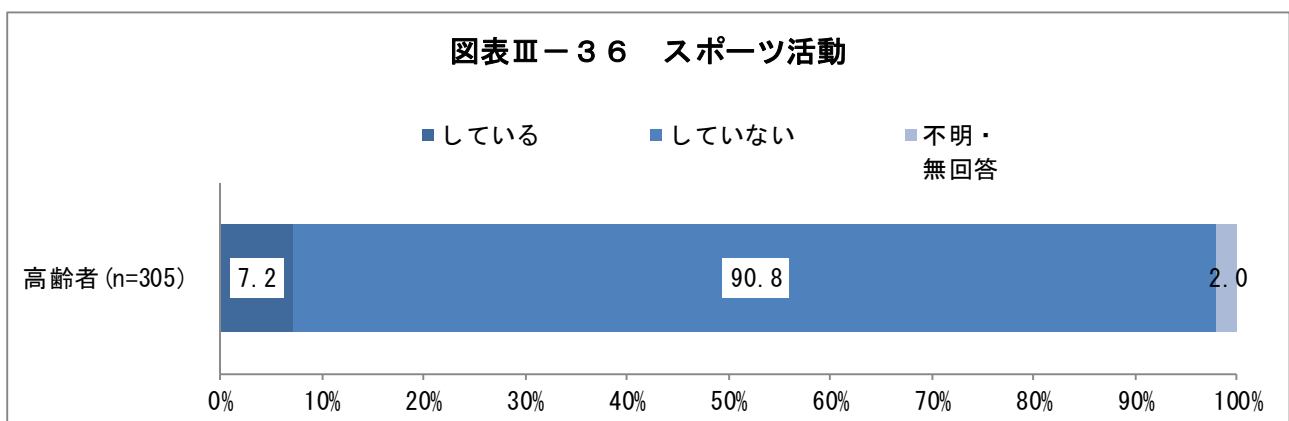
「している」は、35.4%、「したいと思うが、していない」は、29.5%、「したいと思わない」は、30.2%である。



#### 2) スポーツ活動の実施 (E問13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

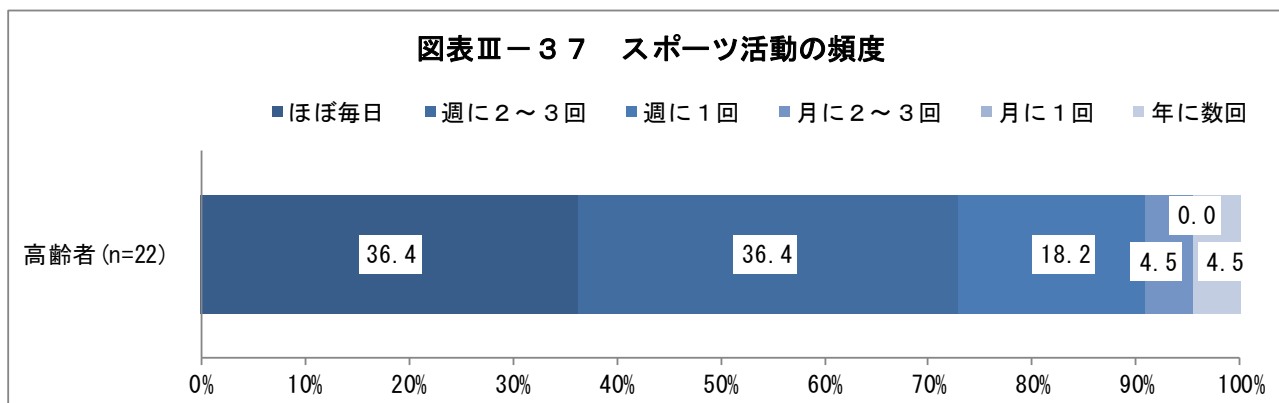
「している」は、7.2%、「していない」は、90.8%である。



### 3) スポーツ活動の頻度 (E問14)

問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

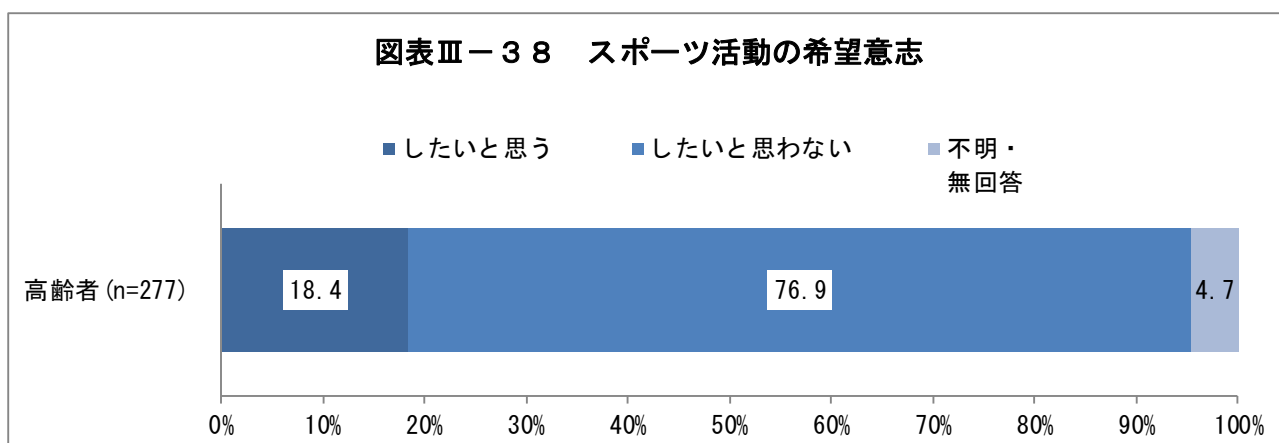
「ほぼ毎日」と「週に2~3回」は、36.4%、「週に1回」は、18.2%である。



### 4) スポーツ活動をしたい希望意志 (E問15)

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、18.4%、「したいと思わない」は、76.9%である。



### 3 就労について

在宅者調査の対象者に、1) 就労状況、2) 就労継続できる理由、3) 障害福祉サービスの利用、4) 就労している人の就労形態、5) 就労上で困っていること、6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用、7) 就労していない人の就労意向、8) 就労したい人の希望職種、9) 就労できない・したくない理由、10) 就労するために必要なことについてたずねた。

#### (1) 在宅者

##### 1) 就労状況 (問16)

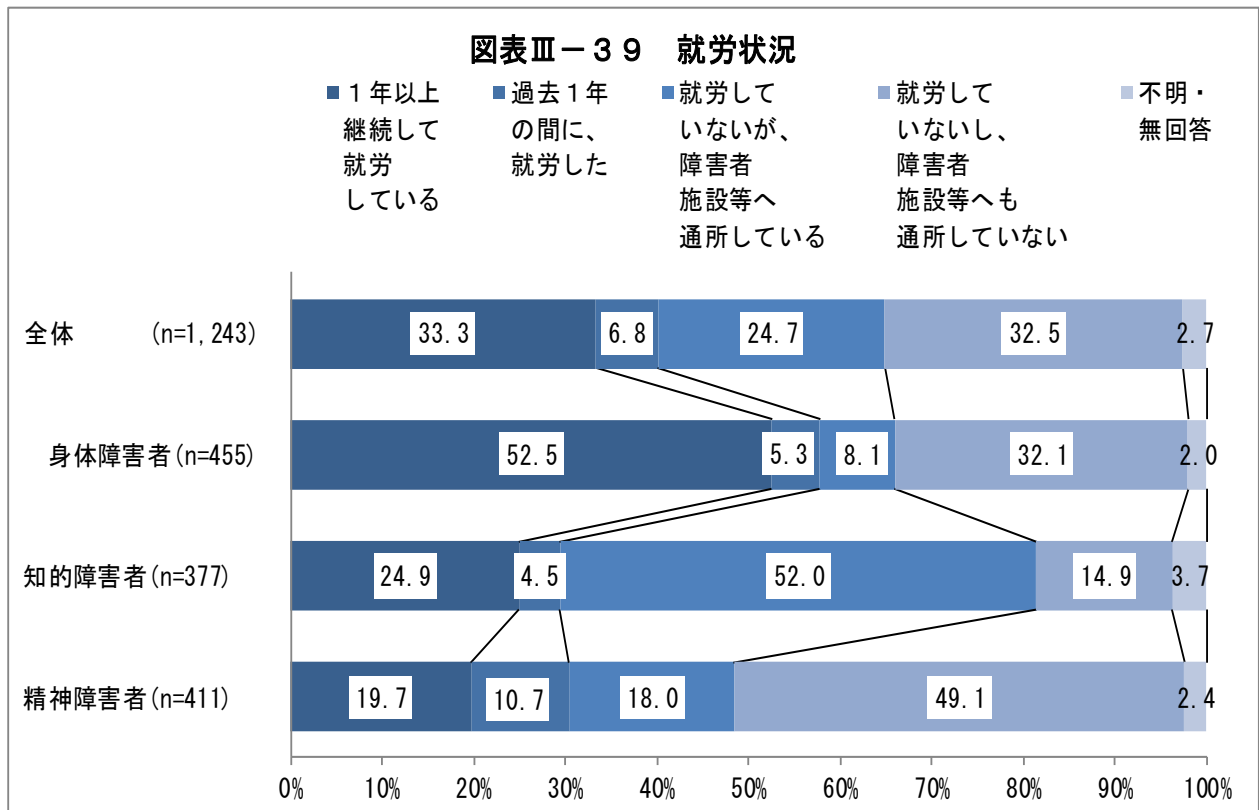
現在、就労をしているかをたずねた。

**全体の傾向：**「1年以上継続して就労している」は、33.3%、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、32.5%、「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、24.7%、「過去1年の間に、就労した」は、6.8%である。

**身体障害者：**「1年以上継続して就労している」は、52.5%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者：**「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、52.0%である。

**精神障害者：**「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、49.1%である。



## 2) 就労継続できる理由 (問 17)

問 16 で「1年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

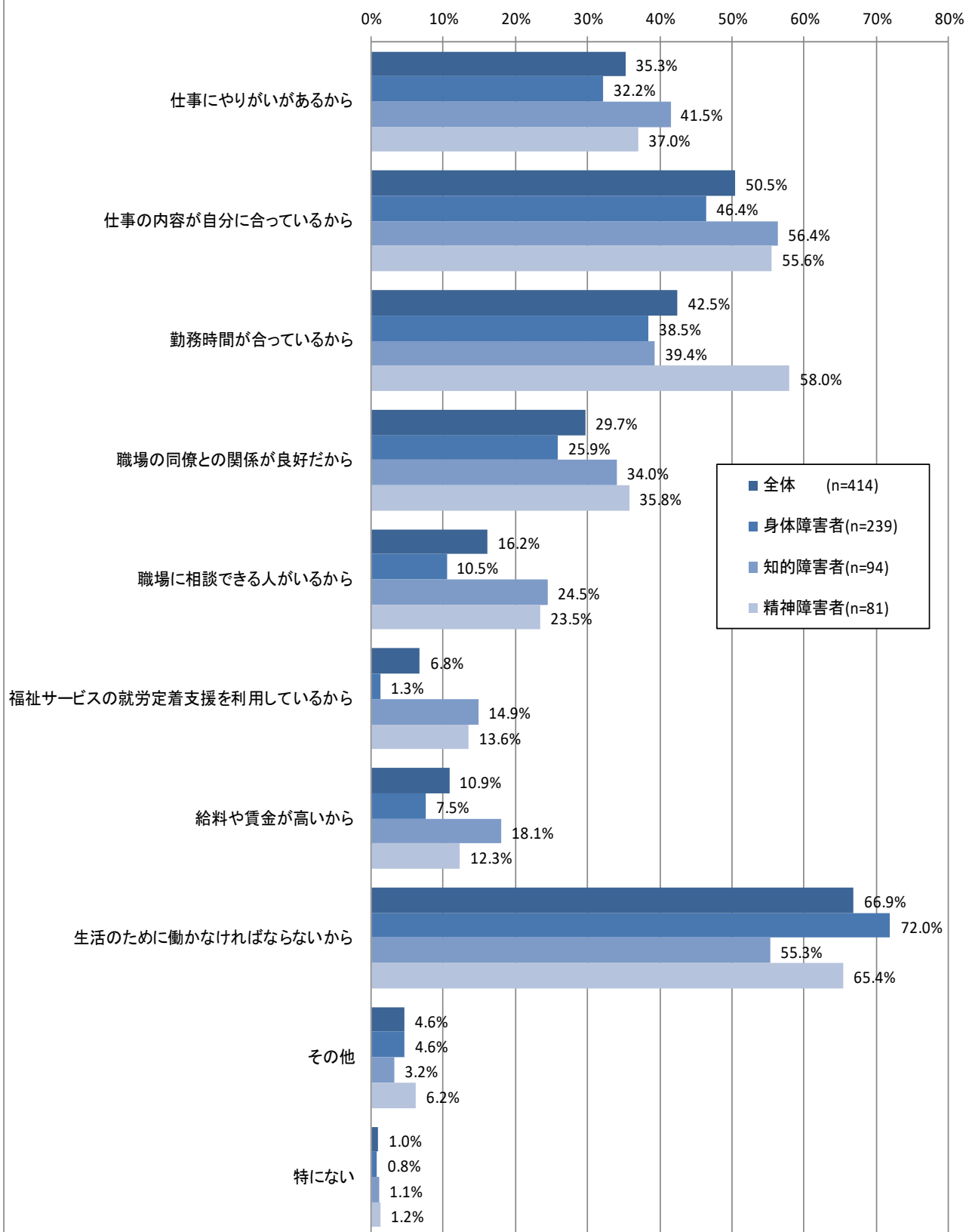
**全体の傾向**：「生活のために働かなければならないから」は、66.9%、「仕事の内容が自分に合っているから」は、50.5%、「勤務時間が合っているから」は、42.5%、「仕事にやりがいがあるから」は、35.3%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、29.7%である。

**身体障害者**：「生活のために働かなければならないから」は、72.0%、「仕事の内容が自分に合っているから」は、46.4%である。「生活のために働かなければならないから」は、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者**：「仕事の内容が自分に合っているから」は、56.4%、「生活のために働かなければならないから」は、55.3%、「仕事にやりがいがあるから」が 41.5%である。

**精神障害者**：「生活のために働かなければならないから」は、65.4%、「勤務時間が合っているから」は、58.0%、「仕事の内容が自分に合っているから」が 55.6%である。

図表Ⅲ-40 就労継続できる理由(複数回答)



### 3) 障害福祉サービスの利用（問18）

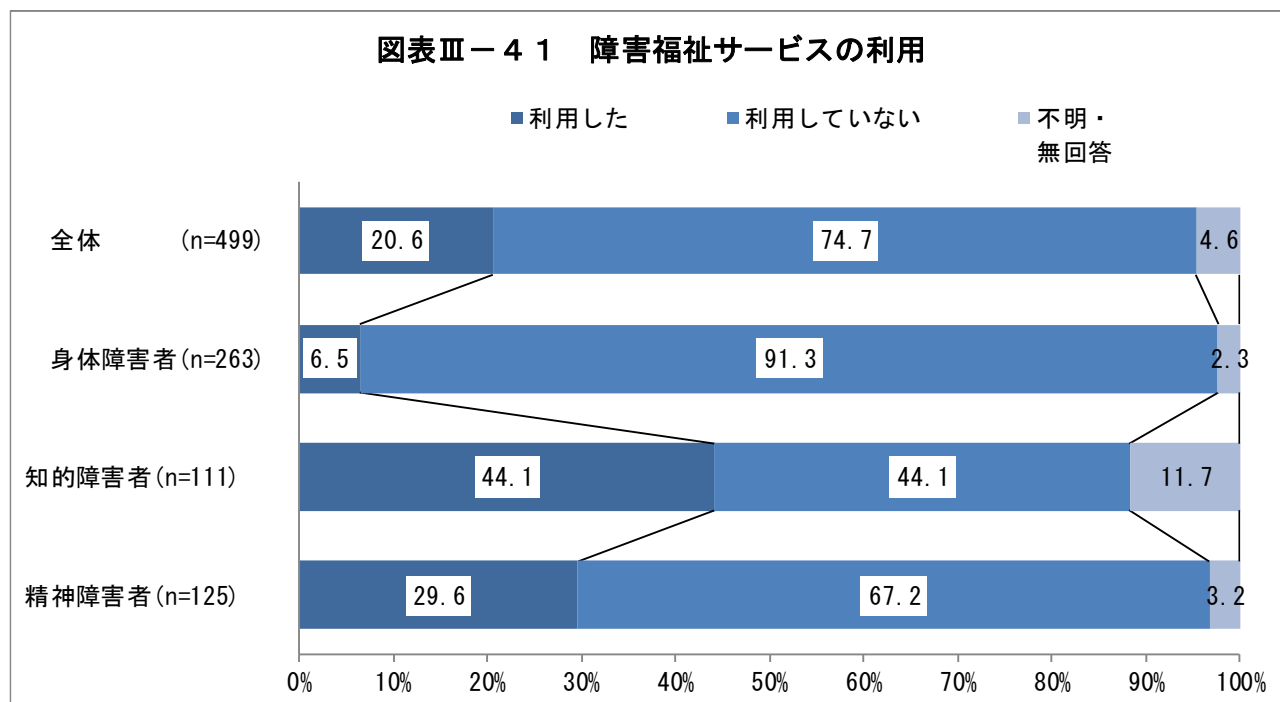
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

全体の傾向：「利用していない」は、74.7%、「利用した」は、20.6%である。

身体障害者：「利用していない」は、91.3%、「利用した」は、6.5%である。「利用していない」は、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

知的障害者：「利用していない」と「利用した」ともに、44.1%である。

精神障害者：「利用していない」は、67.2%、「利用した」は、29.6%である。





#### 4) 就労している人の就労形態（問19）

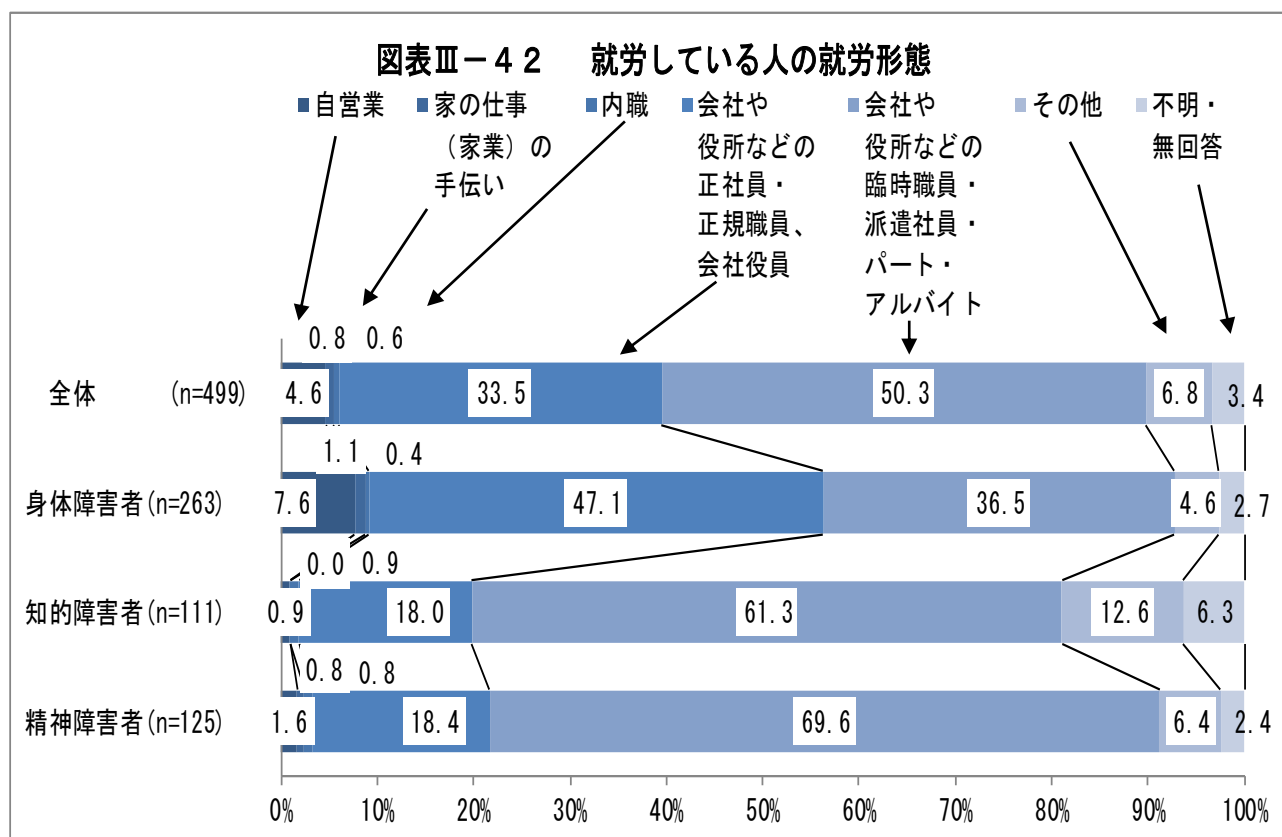
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

**全体の傾向：**「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、50.3%、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、33.5%、「自営業」は、4.6%である。これらを合わせると88.4%を占める。

**身体障害者：**「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、47.1%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者：**「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、61.3%である。一方、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、18.0%である。

**精神障害者：**「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、69.6%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。



## 5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

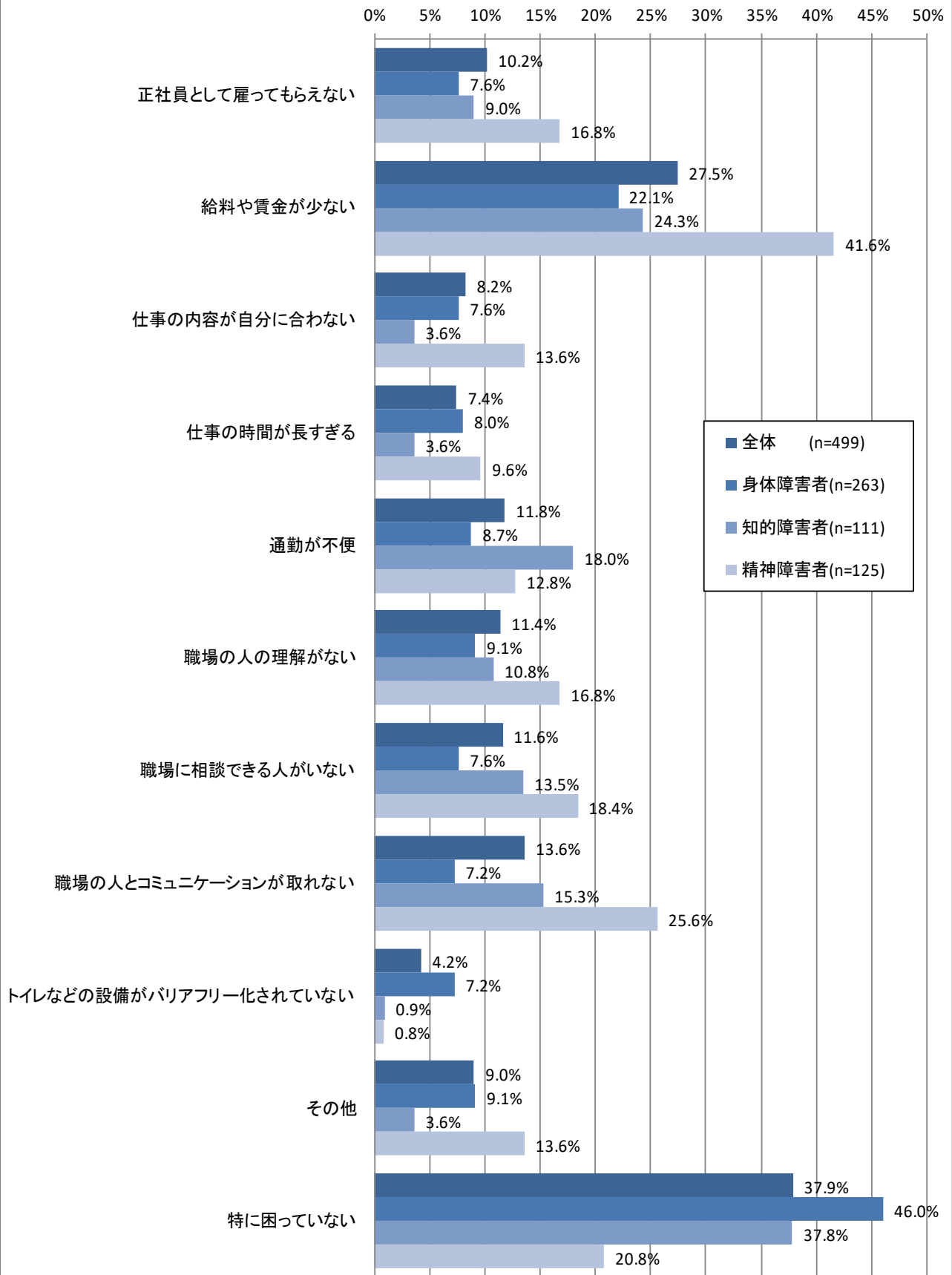
**全体の傾向：**「特に困っていない」は、37.9%、「給料や賃金が少ない」は、27.5%、「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、13.6%、「通勤が不便」は、11.8%、「職場に相談できる人がいない」は、11.6%、「職場の人の理解がない」は、11.4%である。

**身体障害者：**「特に困っていない」は、46.0%、「給料や賃金が少ない」は、22.1%である。「特に困っていない」は、知的障害者や精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者：**「特に困っていない」は、37.8%、「給料や賃金が少ない」は、24.3%である。

**精神障害者：**「給料や賃金が少ない」は、41.6%、「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、25.6%、「特に困っていない」は、20.8%である。

図表Ⅲ-43 就労上で困っていること(複数回答)



## 6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

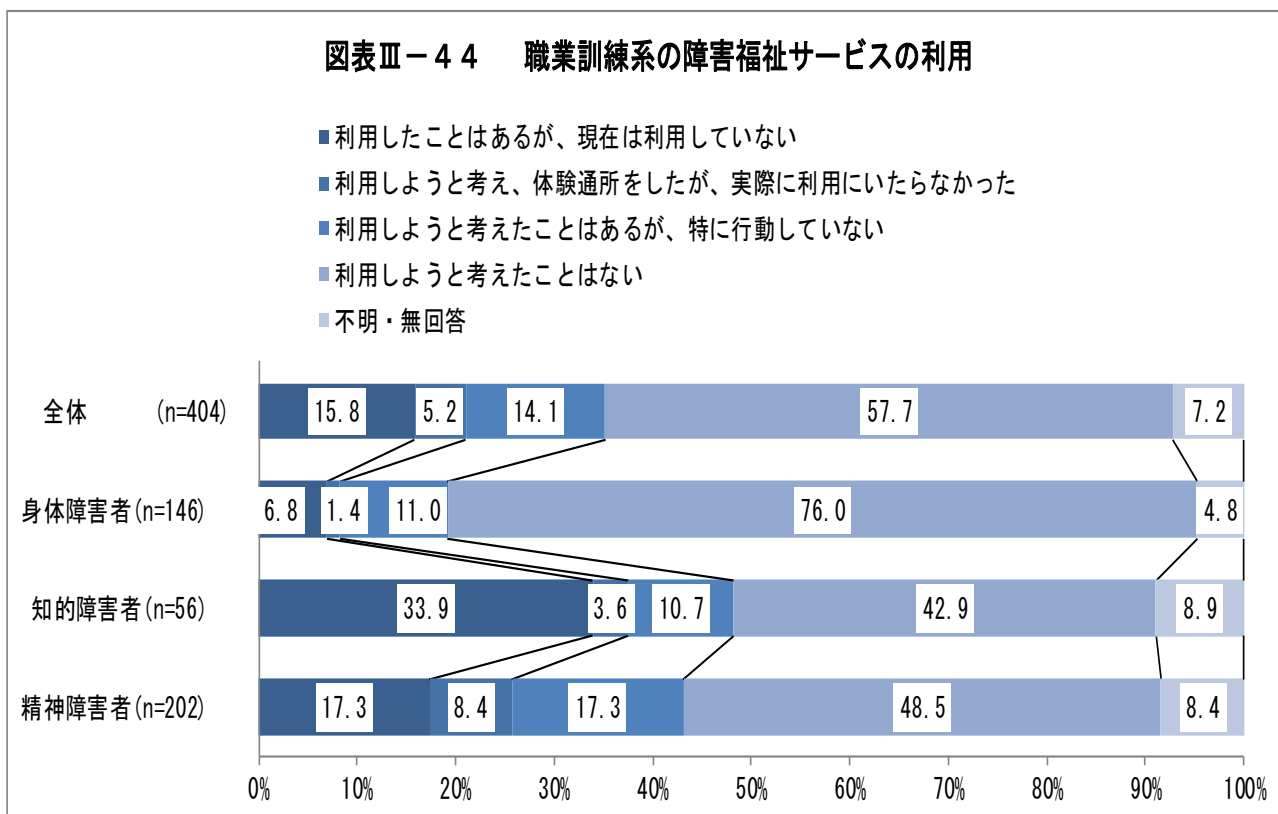
**全体の傾向：**「利用しようと考えたことはない」は、57.7%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、15.8%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、14.1%である。

**身体障害者：**「利用しようと考えたことはない」は、76.0%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、11.0%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、6.8%である。「利用しようと考えたことはない」は、知的障害者や精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者：**「利用しようと考えたことはない」は、42.9%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、33.9%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、10.7%である。

**精神障害者：**「利用しようと考えたことはない」は、48.5%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」と「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、17.3%である。

図表Ⅲ-44 職業訓練系の障害福祉サービスの利用



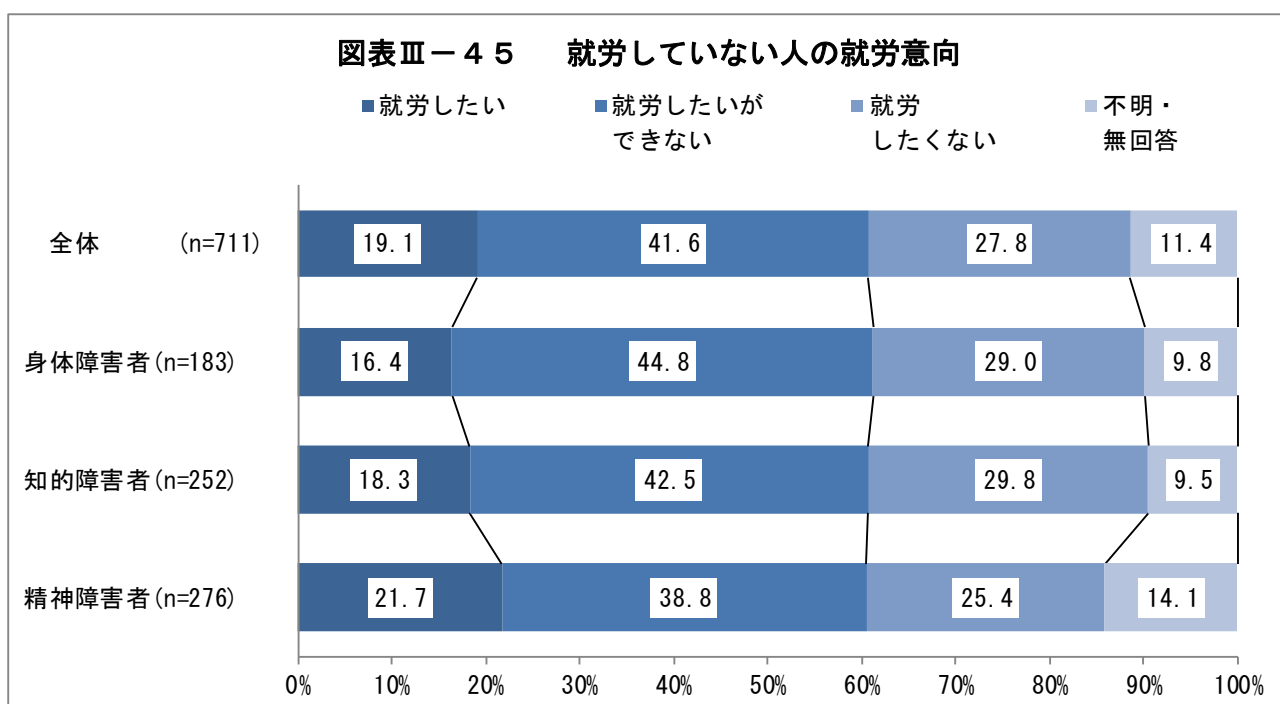
## 7) 就労していない人の就労意向（問22）

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。  
**全体の傾向：**「就労したいができない」は、41.6%、「就労したくない」は、27.8%、「就労したい」は、19.1%である。

**身体障害者：**「就労したいができない」は、44.8%、「就労したくない」は、29.0%、「就労したい」は、16.4%である。

**知的障害者：**「就労したいができない」は、42.5%、「就労したくない」は、29.8%、「就労したい」は、18.3%である。

**精神障害者：**「就労したいができない」は、38.8%、「就労したくない」は、25.4%、「就労したい」は、21.7%である。「就労したい」は、身体障害者や知的障害者に比べて割合が高い。



### 8) 就労したい人の希望職種 (問 23)

問 22 で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

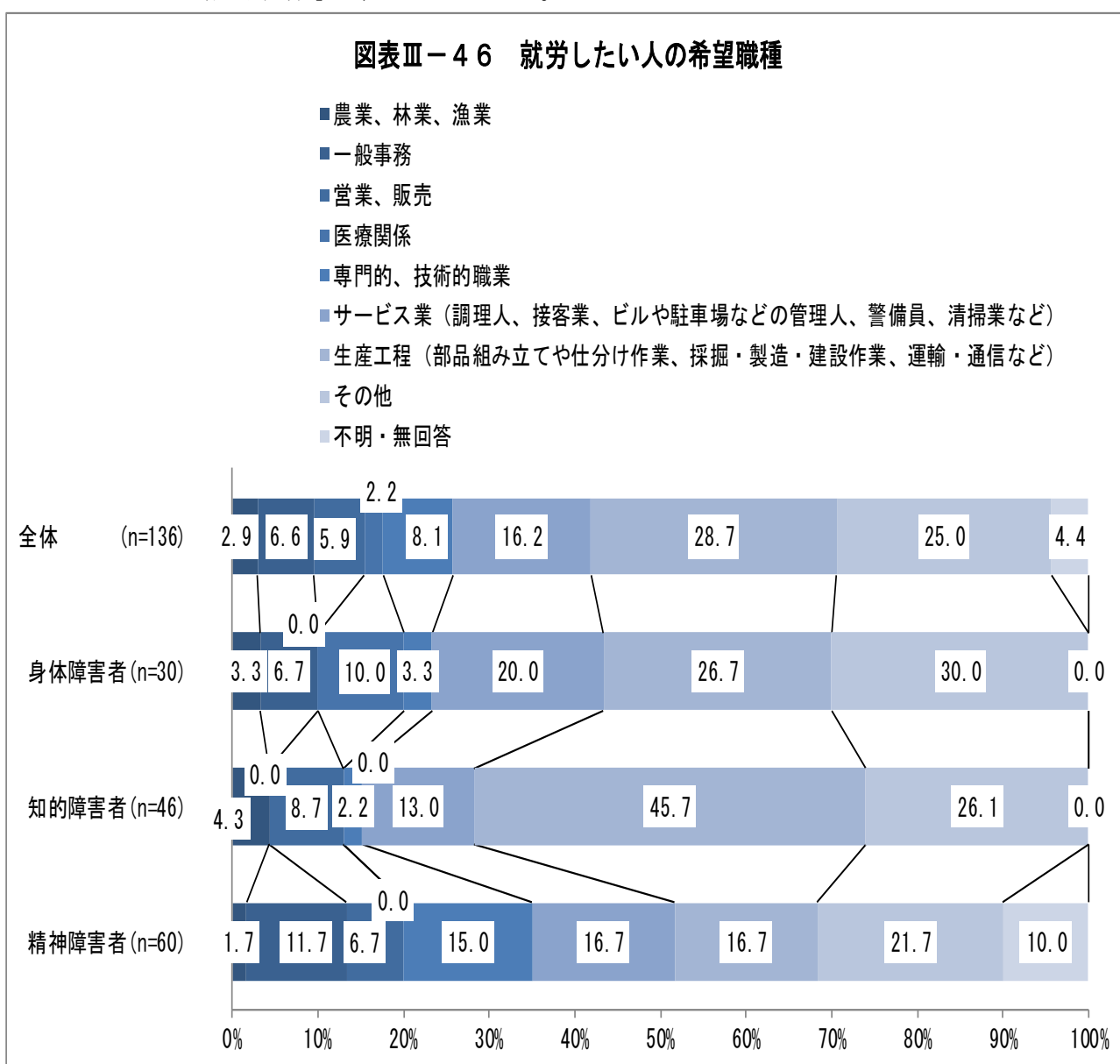
**全体の傾向**：割合の高かったものを上位 4 位まであげると、「生産工程」は、28.7%、「その他」は、25.0%、「サービス業」は、16.2%、「専門的、技術的職業」は、8.1%である。

**身体障害者**：「その他」は、30.0%、「生産工程」は、26.7%、「サービス業」は、20.0%、「医療関係」は、10.0%である。

**知的障害者**：「生産工程」は、45.7%、「その他」は、26.1%、「サービス業」は、13.0%、「営業、販売」は、8.7%である。

**精神障害者**：「その他」は、21.7%、「サービス業」と「生産工程」は、16.7%、「専門的、技術的職業」は、15.0%である。

図表Ⅲ-46 就労したい人の希望職種



### 9) 就労できない・したくない理由（問24）

問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

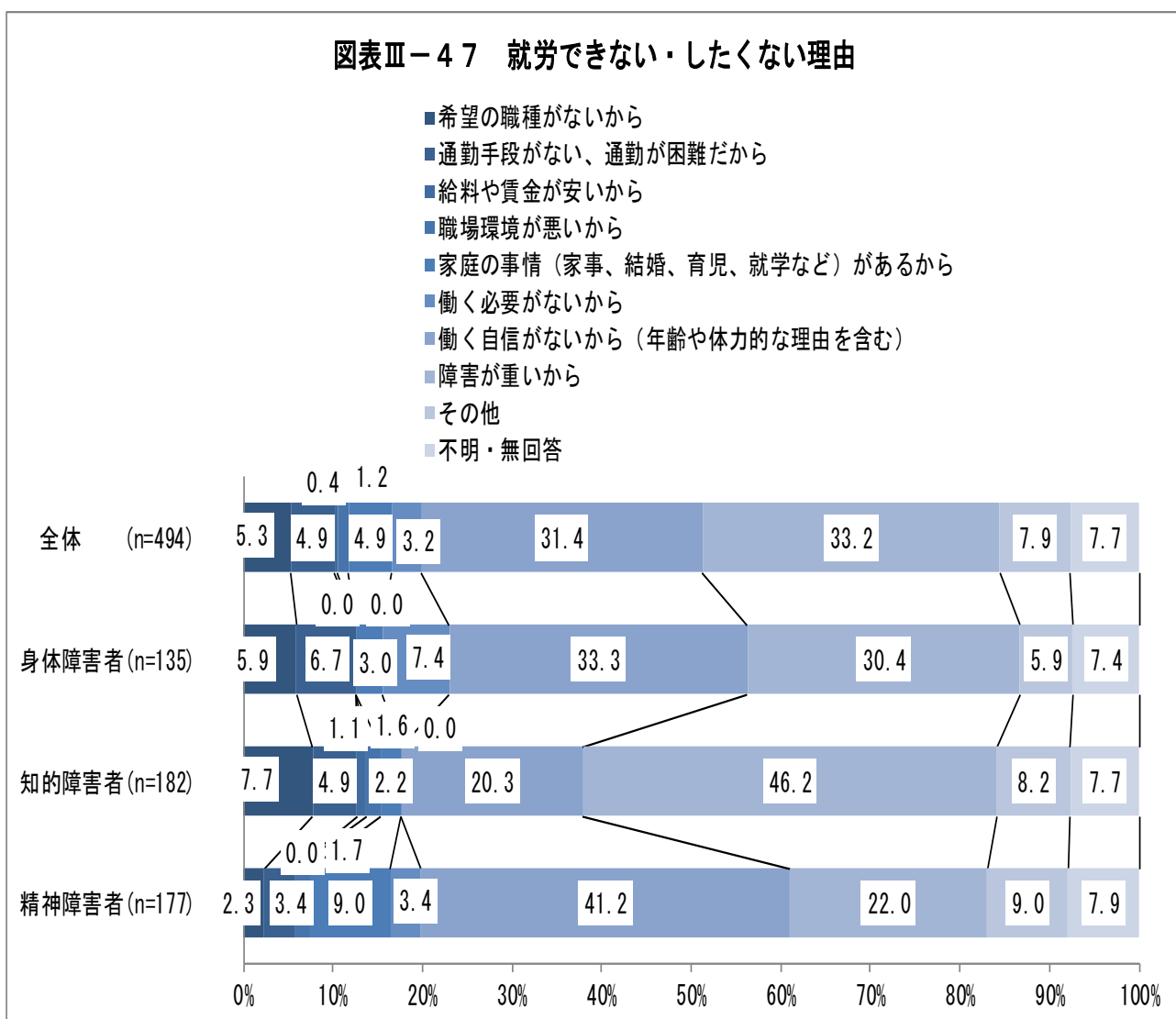
**全体の傾向：**「障害が重いから」は、33.2%、「働く自信がないから」は、31.4%、合わせると64.6%である。3位以下の割合は低く、「希望の職種がないから」は、5.3%、「通勤手段がない、通勤が困難だから」と「家庭の事情」は4.9%である。

**身体障害者：**「働く自信がないから」は、33.3%、「障害が重いから」は、30.4%、「働く必要がないから」は、7.4%で、知的障害者・精神障害者と比べて割合が高い。

**知的障害者：**「障害が重いから」は、46.2%で、身体障害者・精神障害者と比べて割合が高い。「働く自信がないから」は20.3%である。

**精神障害者：**「働く自信がないから」は、41.2%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「障害が重いから」は、22.0%である。

図表Ⅲ-47 就労できない・したくない理由



### 10) 就労するために必要なこと（問25）

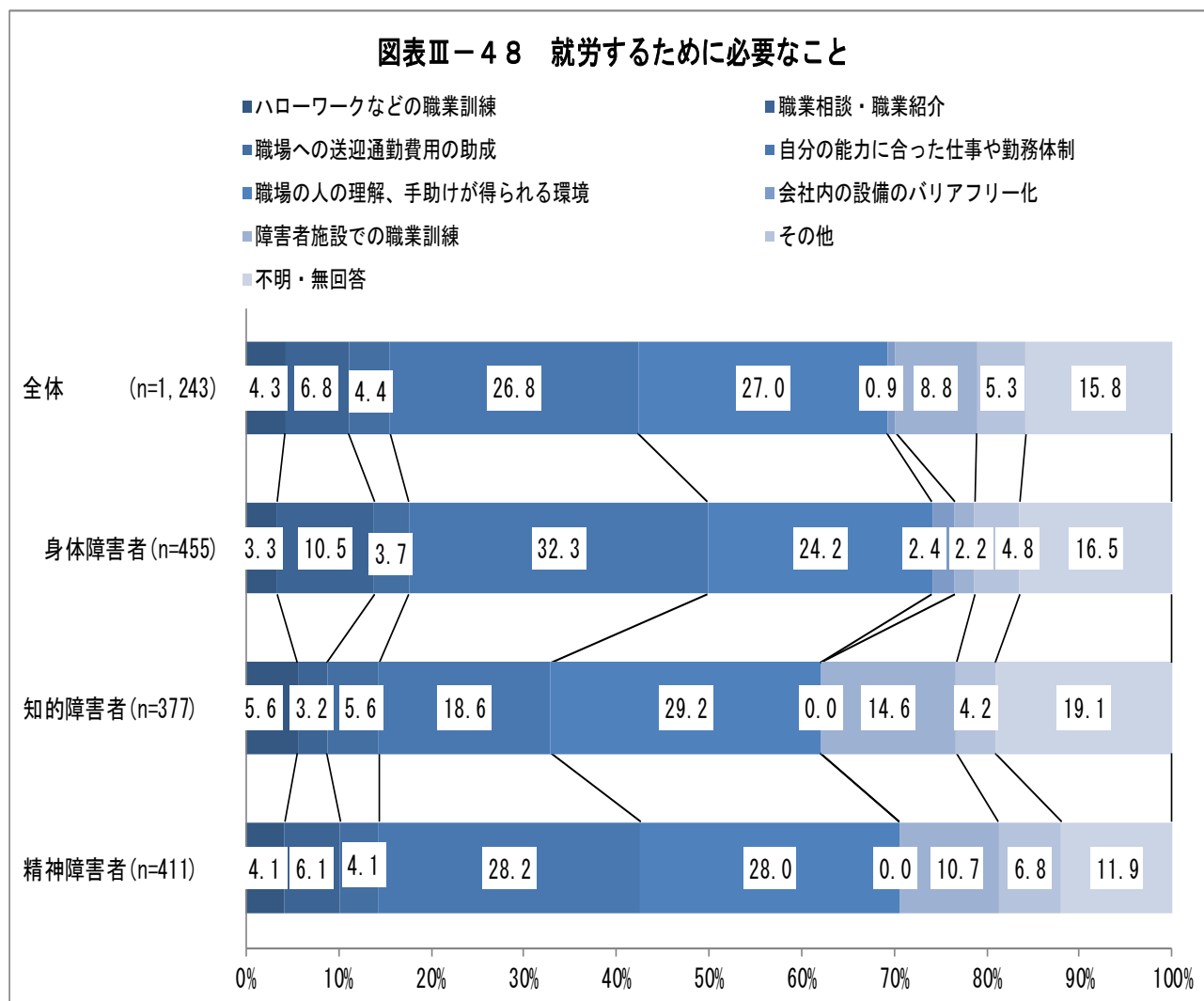
全員に、就労するために必要なことは何だと思いかをたずねた。

**全体の傾向：**「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、27.0%、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、26.8%、「障害者施設での職業訓練」は、8.8%、「職業相談・職業紹介」は、6.8%である。

**身体障害者：**「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、32.3%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、24.2%、「職業相談・職業紹介」は、10.5%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者：**「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、29.2%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「障害者施設での職業訓練」は、14.6%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**精神障害者：**「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、28.2%、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、28.0%である。





#### 4 介護保険サービスの利用について

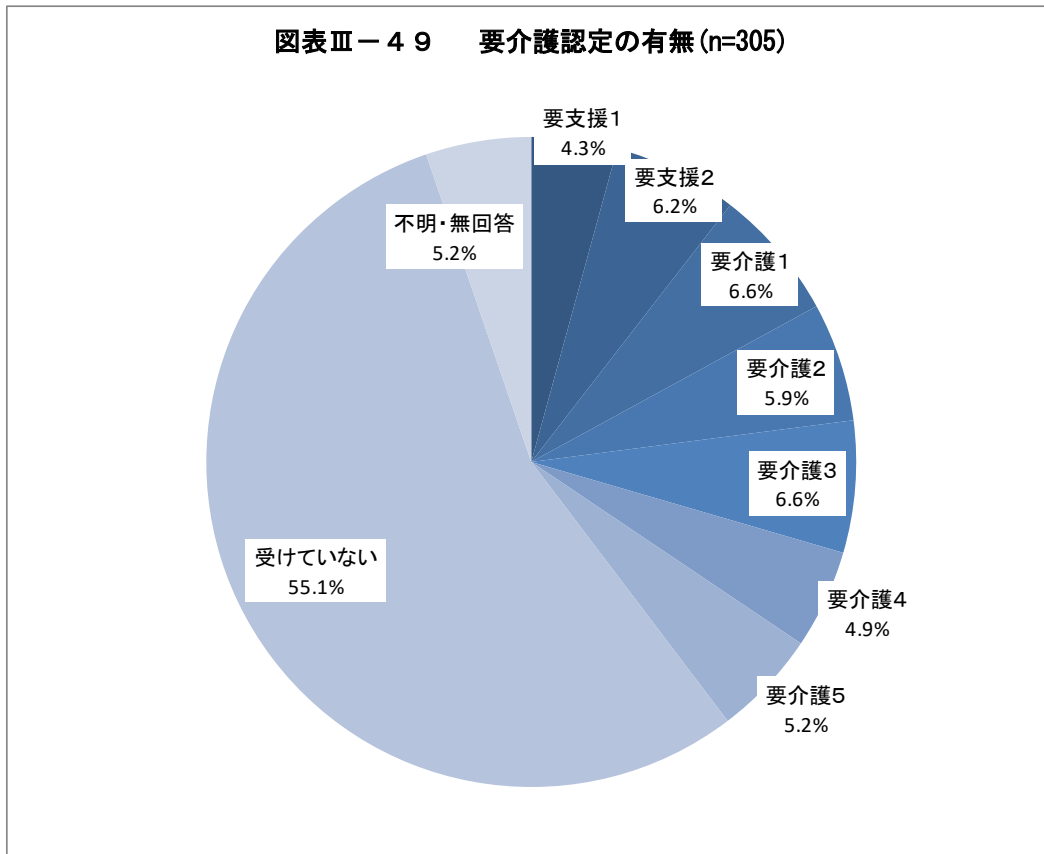
高齢者調査の対象者に、1) 要介護認定の有無、2) 介護保険サービスの利用状況、3) 利用している介護保険サービスについてたずねた。

##### (1) 高齢者

##### 1) 要介護認定の有無 (E問16)

介護保険の要介護認定を受けているかをたずねた。

「受けていない」は、55.1%、要介護認定を受けている人の要介護度は、順に、「要介護1」と「要介護3」は、6.6%、「要支援2」は、6.2%、「要介護2」は、5.9%、「要介護5」は、5.2%、「要介護4」は、4.9%、「要支援1」は、4.3%である。

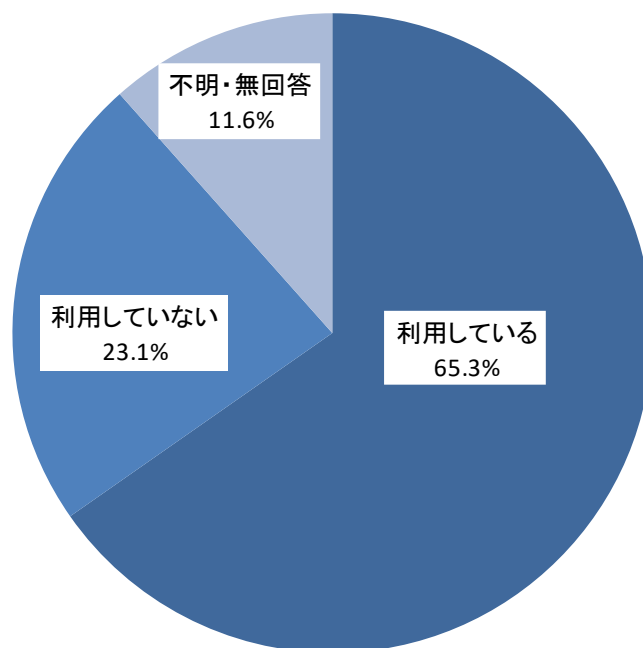


## 2) 介護保険サービスの利用状況 (E問17)

問16で要介護認定を受けていると回答した人に、介護保険サービスを利用しているかをたずねた。

「利用している」は、65.3%、「利用していない」は、23.1%である。

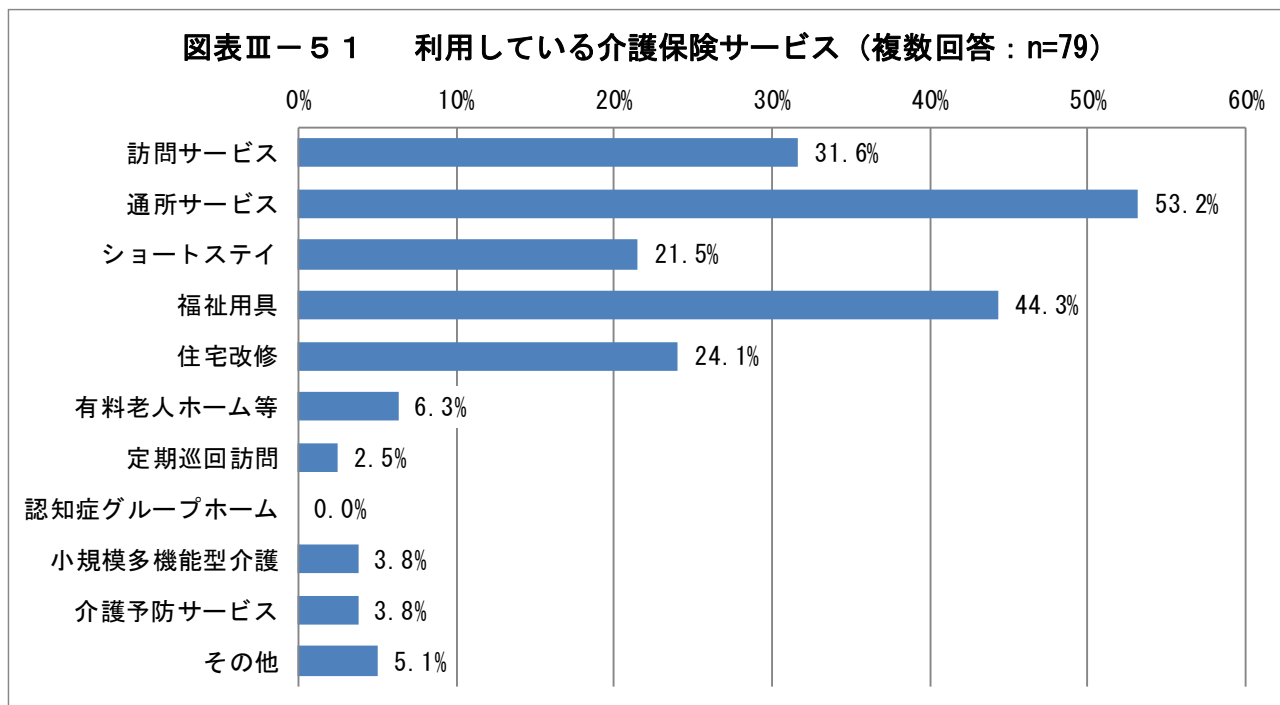
図表Ⅲ-50 介護保険サービス利用状況 (n=121)



### 3) 利用している介護保険サービス（E問18）

問17で介護保険サービスを利用していると回答した人に、どのような介護保険のサービスを利用しているかを複数回答でたずねた。

「通所サービス」は、53.2%、「福祉用具」は、44.3%、「訪問サービス」は、31.6%、「住宅改修」は、24.1%、「ショートステイ」は、21.5%である。



## 5 入院・通院について

在宅者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 入院・通院の状況、2) 通院頻度についてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 入院・通院の状況 (問 26)

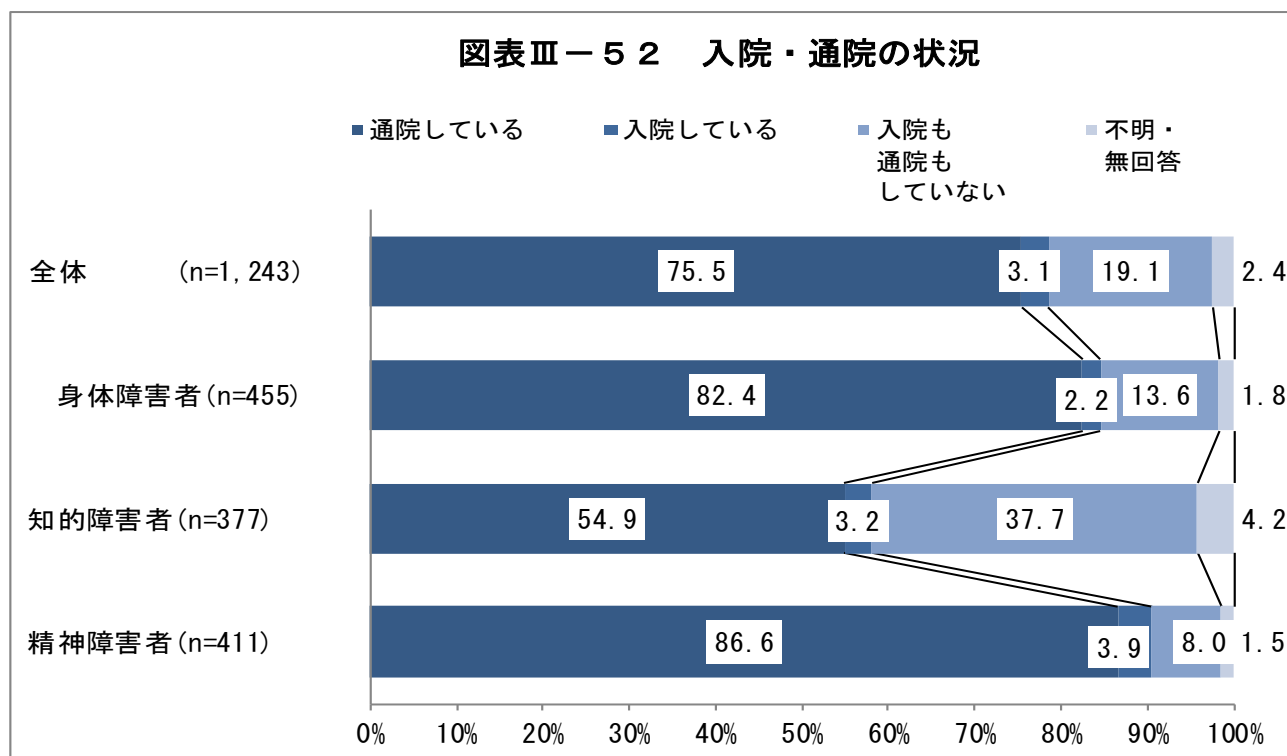
現在、入院や通院をしているかをたずねた。

全体の傾向：「通院している」は、75.5%、「入院も通院もしていない」は、19.1%である。

身体障害者：「通院している」は、82.4%、「入院も通院もしていない」は、13.6%である。

知的障害者：「通院している」は、54.9%、「入院も通院もしていない」は、37.7%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

精神障害者：「通院している」は、86.6%、「入院も通院もしていない」は、8.0%である。



## 2) 通院頻度 (問 27)

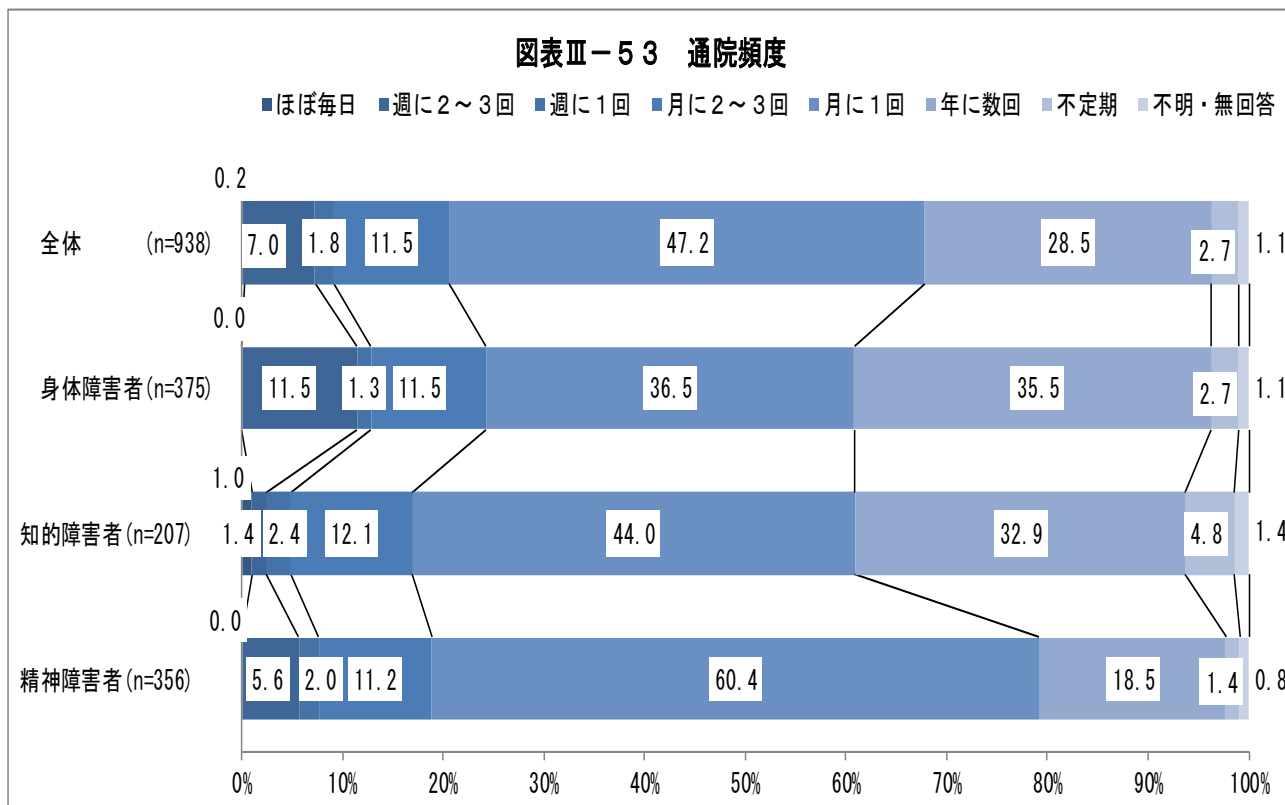
問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

**全体の傾向**：「月に1回」は、47.2%、「年に数回」は、28.5%、「月に2～3回」は、11.5%、「週に2～3回」は、7.0%である。

**身体障害者**：「月に1回」は、36.5%、「年に数回」は、35.5%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者**：「月に1回」は、44.0%、「年に数回」は、32.9%である。

**精神障害者**：「月に1回」は、60.4%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。

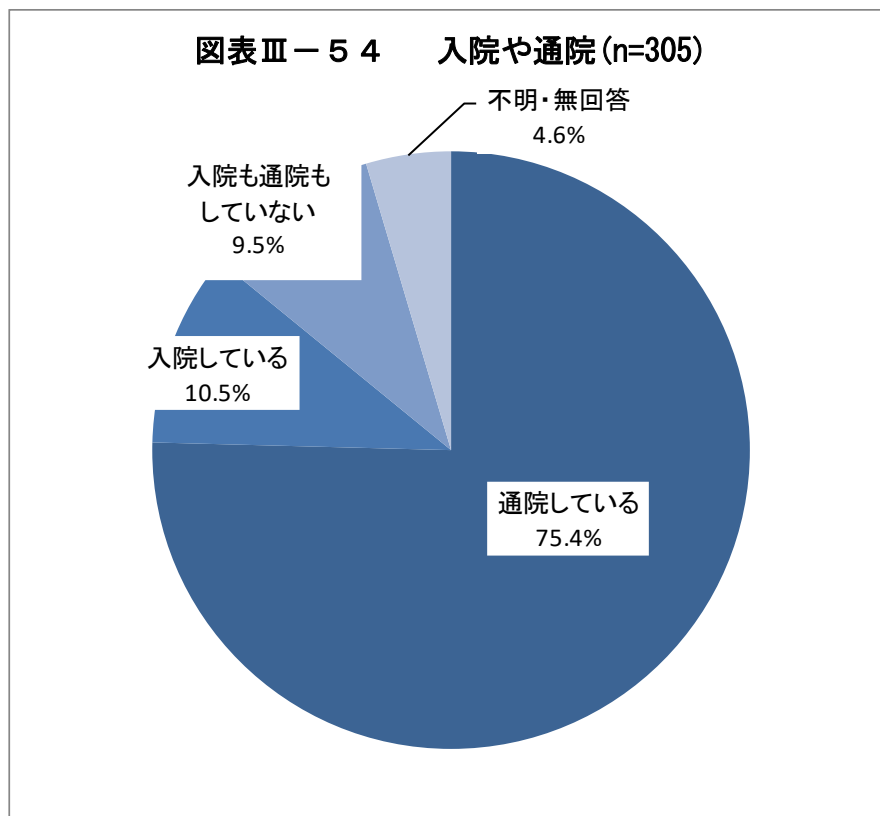


## (2) 高齢者

### 1) 入院・通院の状況 (E問19)

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

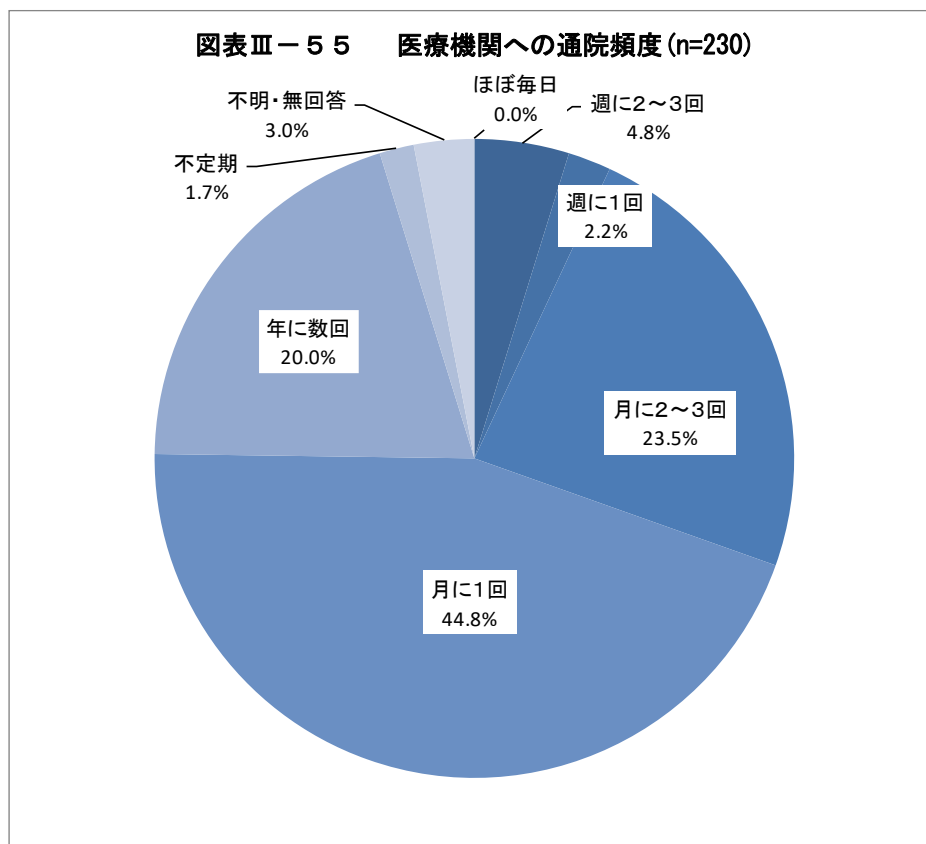
「通院している」は、75.4%、「入院している」は、10.5%、「入院も通院もしていない」が9.5%である。



## 2) 通院頻度 (E問20)

問19で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、44.8%、「月に2～3回」は、23.5%、「年に数回」は、20.0%である。



## 6 外出について

在宅者調査、施設入所者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 外出頻度、2) 外出時に困っていることについてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 外出頻度 (問 28)

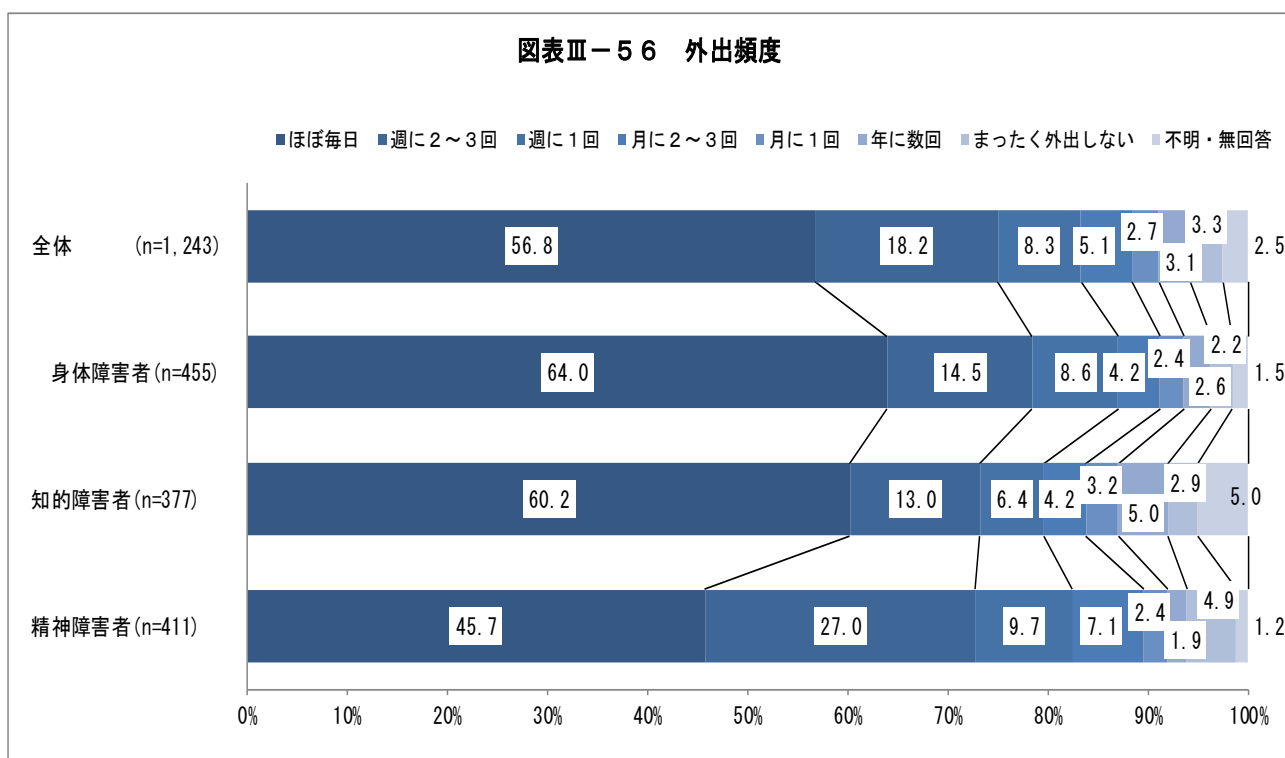
現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

全体の傾向：「ほぼ毎日」は、56.8%、「週に2～3回」は、18.2%、「週に1回」は、8.3%である。

身体障害者：「ほぼ毎日」は、64.0%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

知的障害者：「ほぼ毎日」は、60.2%である。

精神障害者：「ほぼ毎日」は、45.7%、「週に2～3回」は、27.0%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「週に1回」は、9.7%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。





## 2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

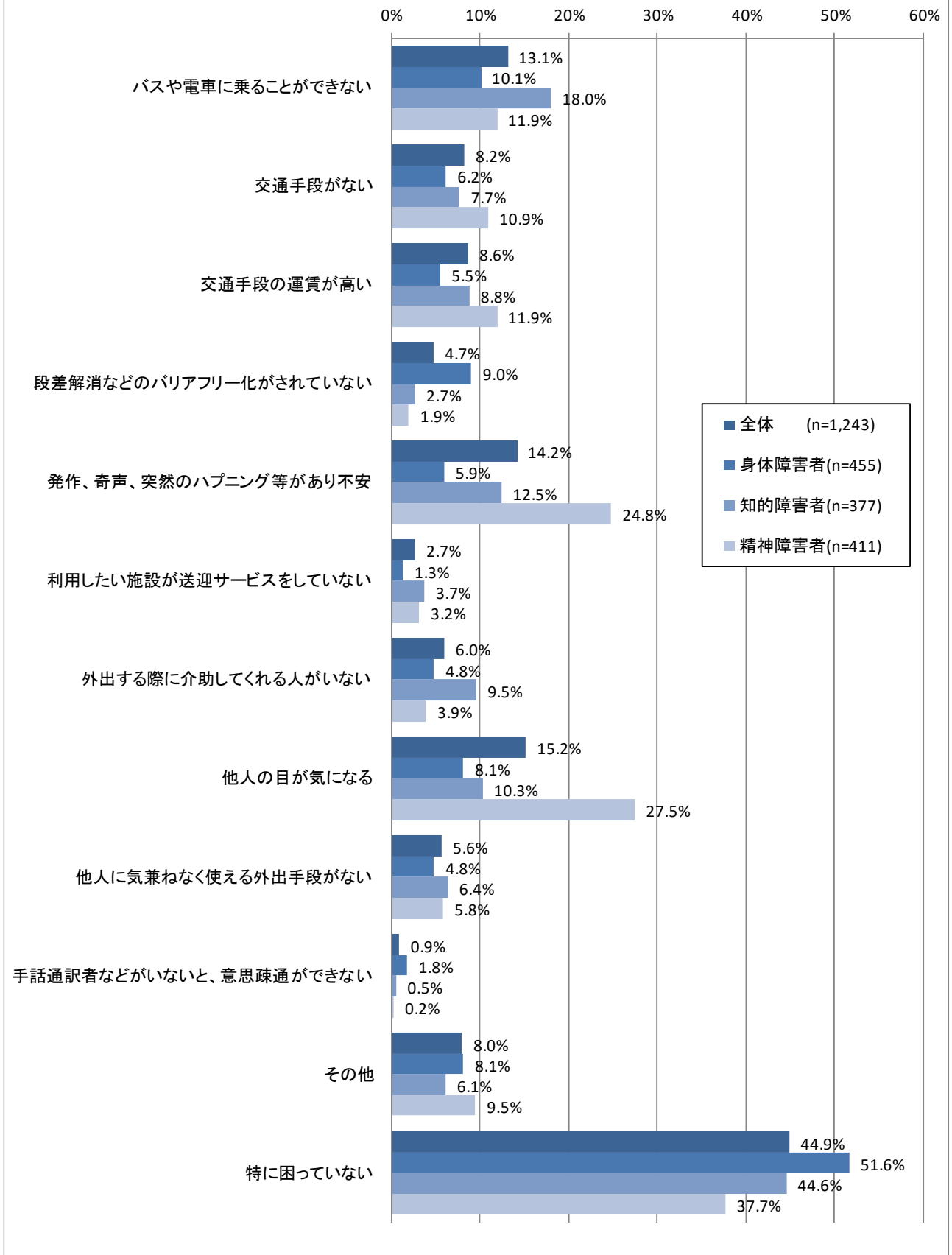
**全体の傾向：**「特に困っていない」は、44.9%である。以下、10%以上の回答のあったものは、「他人の目が気になる」は、15.2%、「発声・奇声、突然のハプニング等があり不安」は、14.2%、「バスや電車に乗ることができない」は、13.1%である。

**身体障害者：**「特に困っていない」は、51.6%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「バスや電車に乗ることができない」は、10.1%である。

**知的障害者：**「特に困っていない」は、44.6%、「バスや電車に乗ることができない」は、18.0%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**精神障害者：**「特に困っていない」は、37.7%、「他人の目が気になる」は、27.5%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「発声・奇声、突然のハプニング等があり不安」は、24.8%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。

図表Ⅲ-57 外出時に困っていること(複数回答)

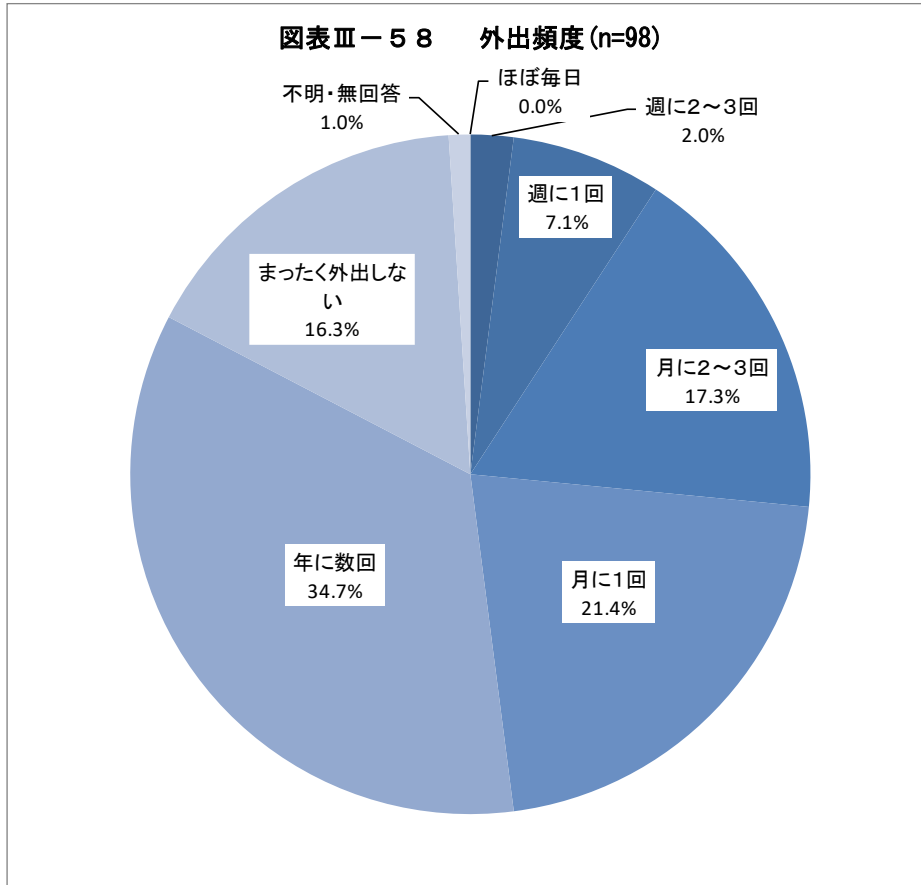


(2) 施設入所者

1) 外出頻度 (D問16)

現在、どのくらい外出(施設から外に出ること)しているかをたずねた。

「年に数回」は、34.7%、「月に1回」は、21.4%、「月に2～3回」は、17.3%、「まったく外出しない」は、16.3%、「週に1回」は、7.1%、「週に2～3回」は、2.0%である。

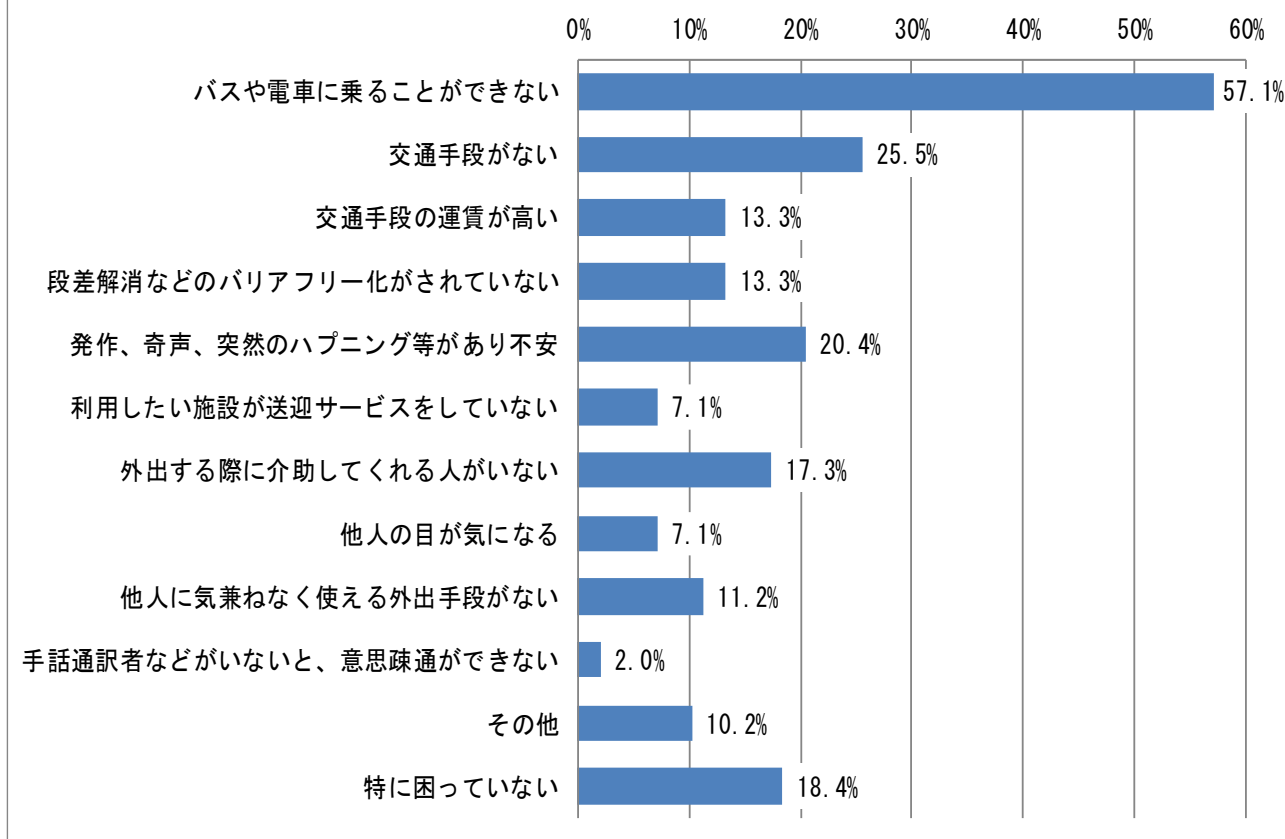


## 2) 外出時に困っていること (D問17)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「バスや電車に乗ることができない」は、57.1%、「交通手段がない」は、25.5%、「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、20.4%、「特に困っていない」は、18.4%、「外出する際に介助してくれる人がいない」は、17.3%である。

図表Ⅲ-59 外出時に困っていること (複数回答: n=98)

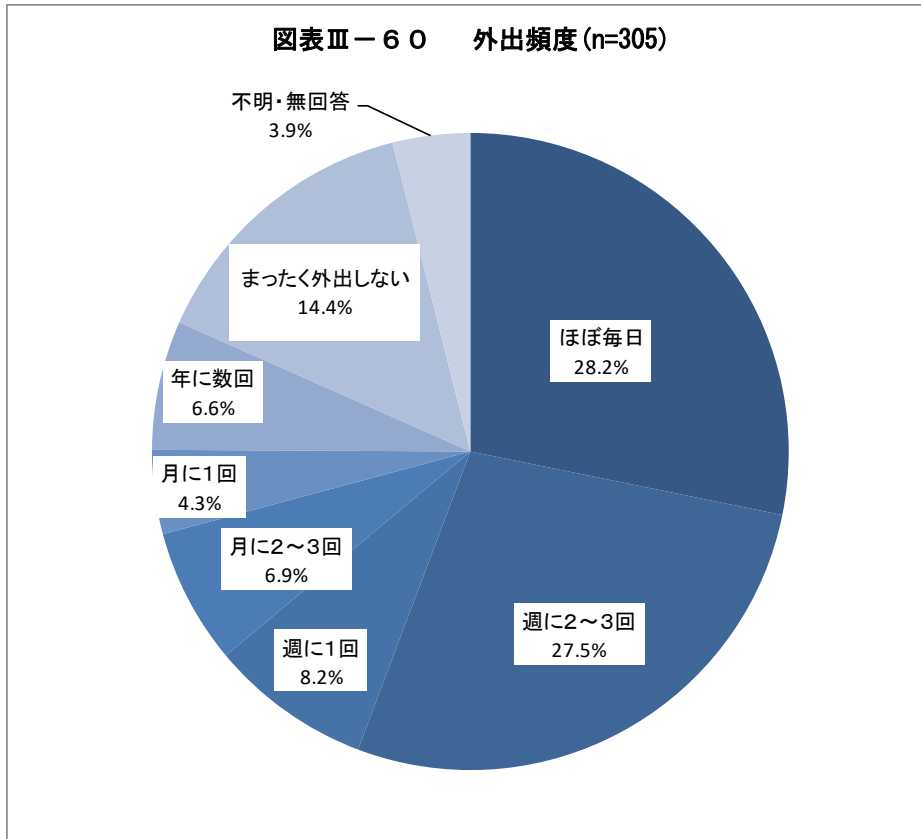


### (3) 高齢者

#### 1) 外出頻度 (E問21)

現在、どのくらい外出（現在暮らしている場所から外に出ること）しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、28.2%、「週に2～3回」は、27.5%、「まったく外出しない」は、14.4%、「週に1回」は、8.2%、「月に2～3回」は、6.9%、「年に数回」は、6.6%、「月に1回」は、4.3%である。

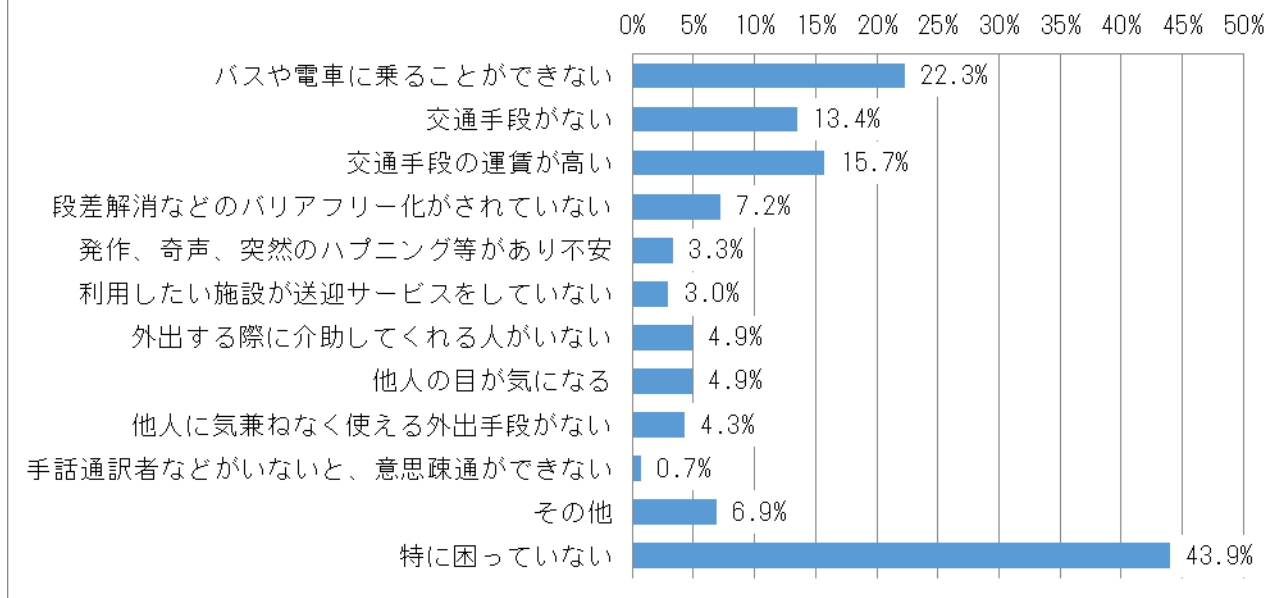


## 2) 外出時に困っていること (E問22)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、43.9%、「バスや電車に乗ることができない」は、22.3%、「交通手段の運賃が高い」は、15.7%、「交通手段がない」は、13.4%である。

図表Ⅲ-61 外出時に困っていること (複数回答 : n=305)



## 7 相談窓口について

在宅者調査、施設入所者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 相談窓口の認知状況、2) 相談窓口での相談経験、3) 相談窓口に相談したことがない理由についてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 相談窓口の認知状況 (問30)

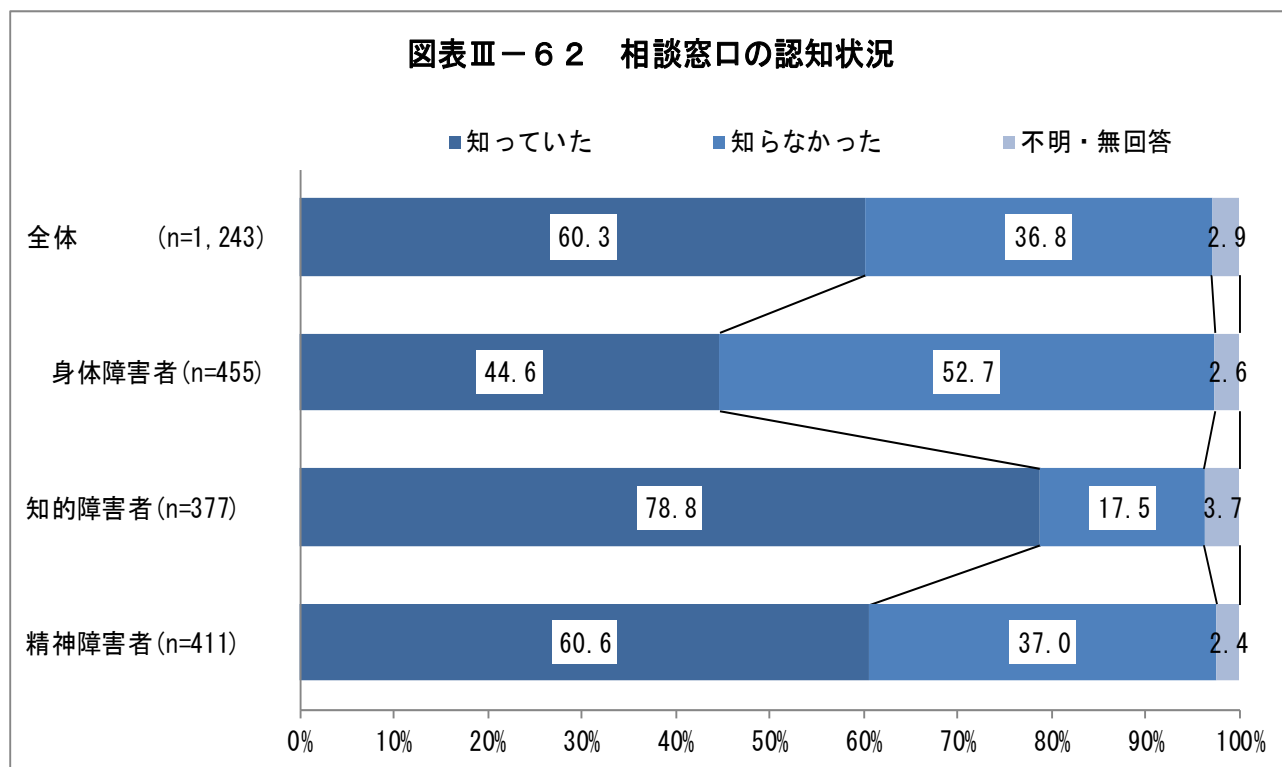
相談窓口(障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

全体の傾向: 「知っていた」は、60.3%、「知らなかった」は、36.8%である

身体障害者: 「知っていた」は、44.6%、「知らなかった」は、52.7%である。

知的障害者: 「知っていた」は、78.8%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「知らなかった」は、17.5%である。

精神障害者: 「知っていた」は、60.6%、「知らなかった」は、37.0%である。



## 2) 相談窓口での相談経験 (問 3 1)

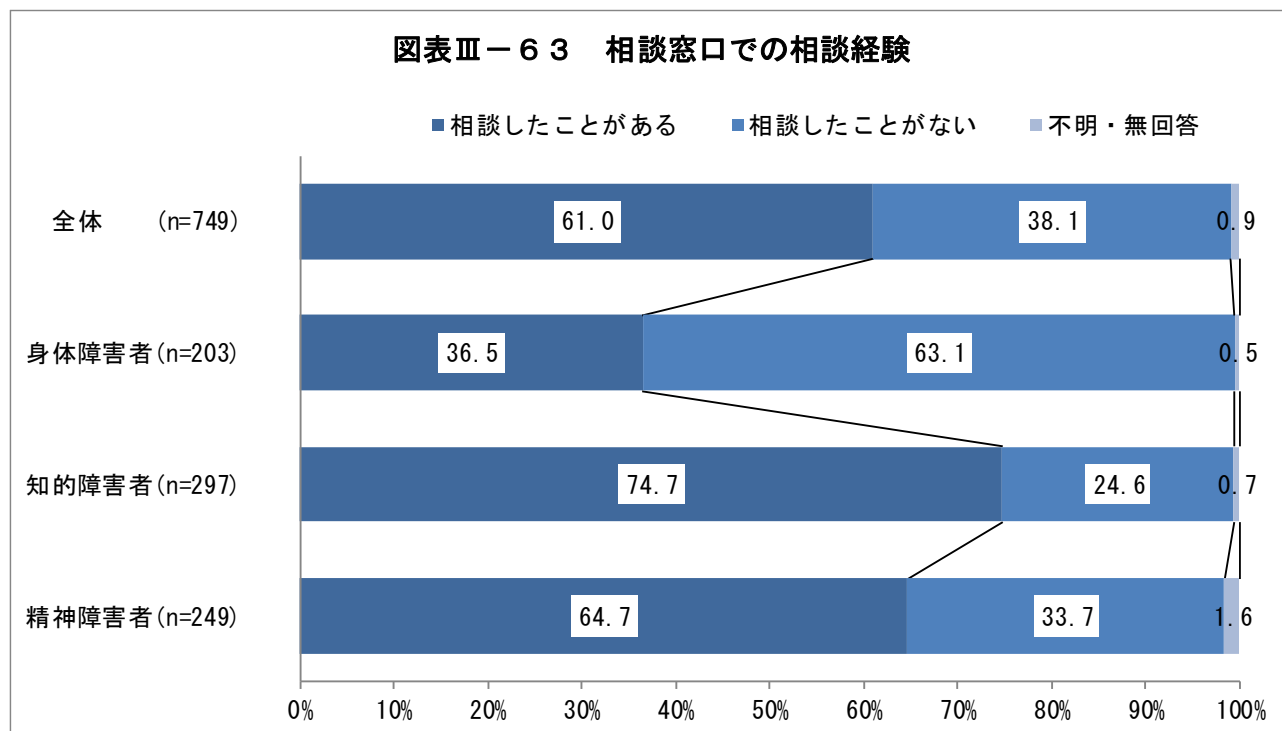
問 30 で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

全体の傾向：「相談したことがある」は、61.0%、「相談したことがない」は、38.1%である。

身体障害者：「相談したことがある」は、36.5%、「相談したことがない」は、63.1%である。

知的障害者：「相談したことがある」は、74.7%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「相談したことがない」は、24.6%である。

精神障害者：「相談したことがある」は、64.7%、「相談したことがない」は、33.7%である。





### 3) 相談窓口に相談したことがない理由 (問32)

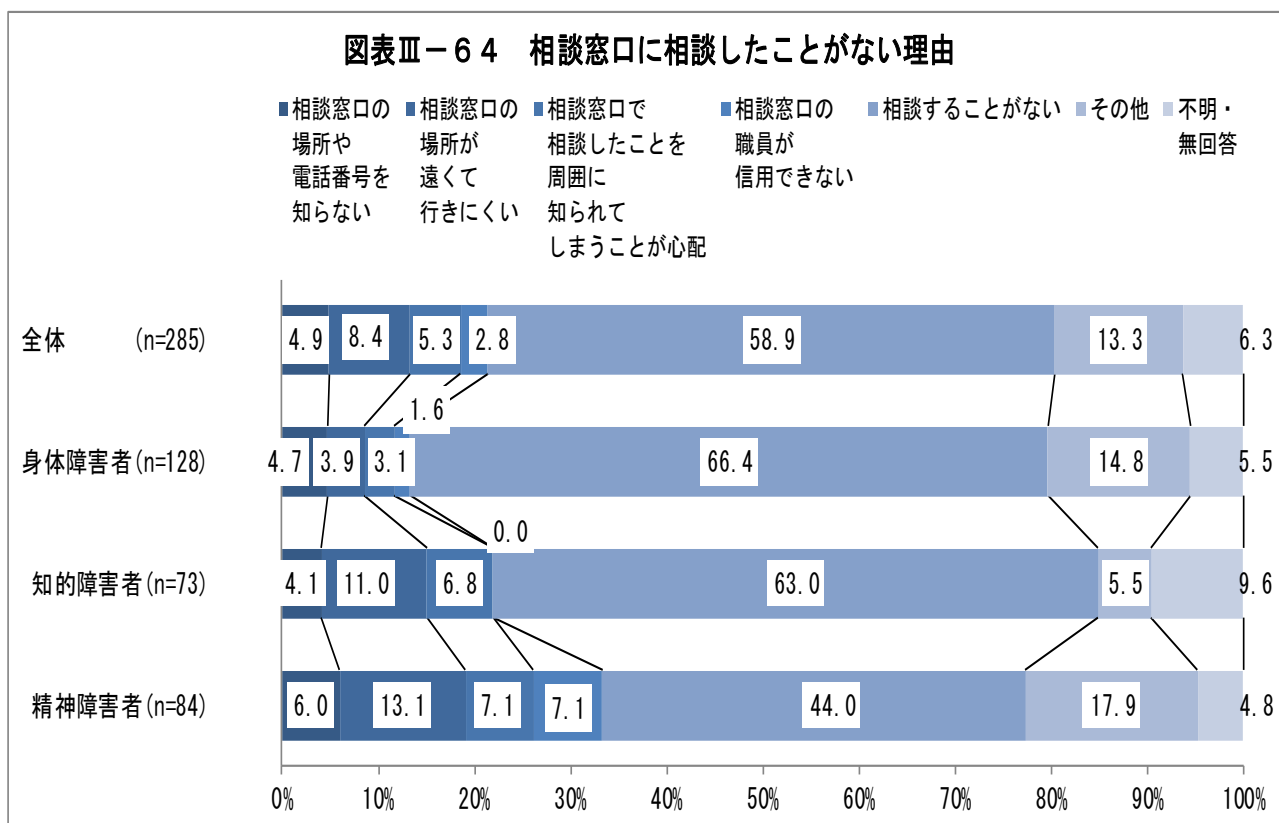
問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

全体の傾向：「相談することがない」は、58.9%である。

身体障害者：「相談することがない」は、66.4%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

知的障害者：「相談することがない」は、63.0%である。

精神障害者：「相談することがない」は、44.0%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、13.1%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。

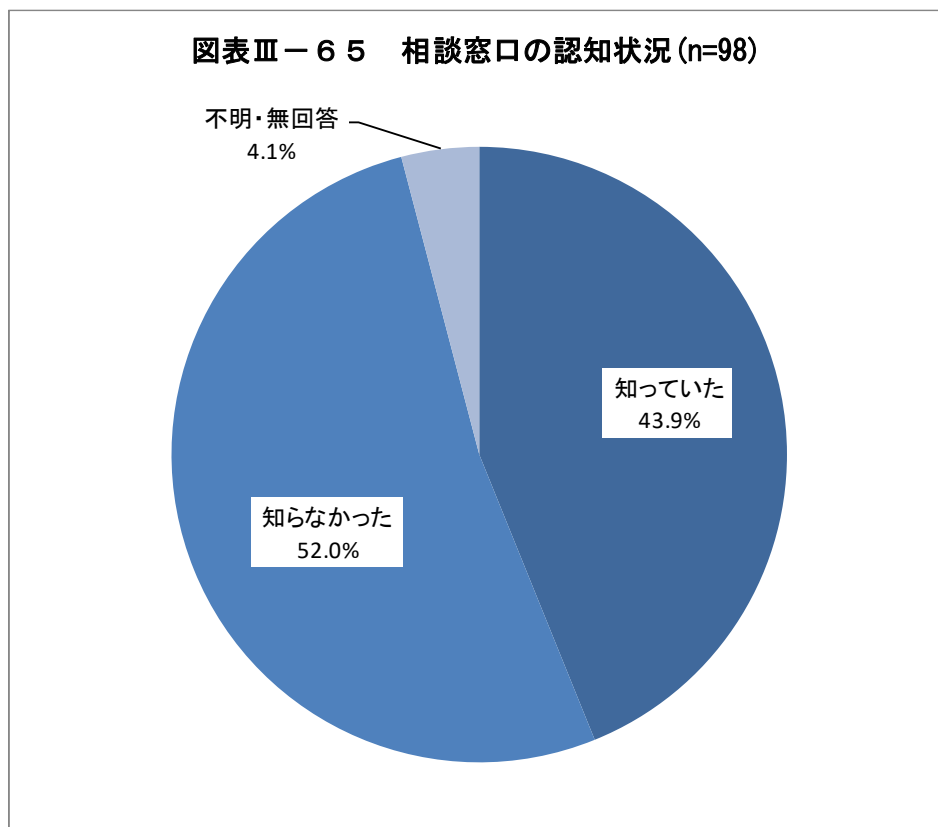


## (2) 施設入所者

### 1) 相談窓口の認知状況 (D問18)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

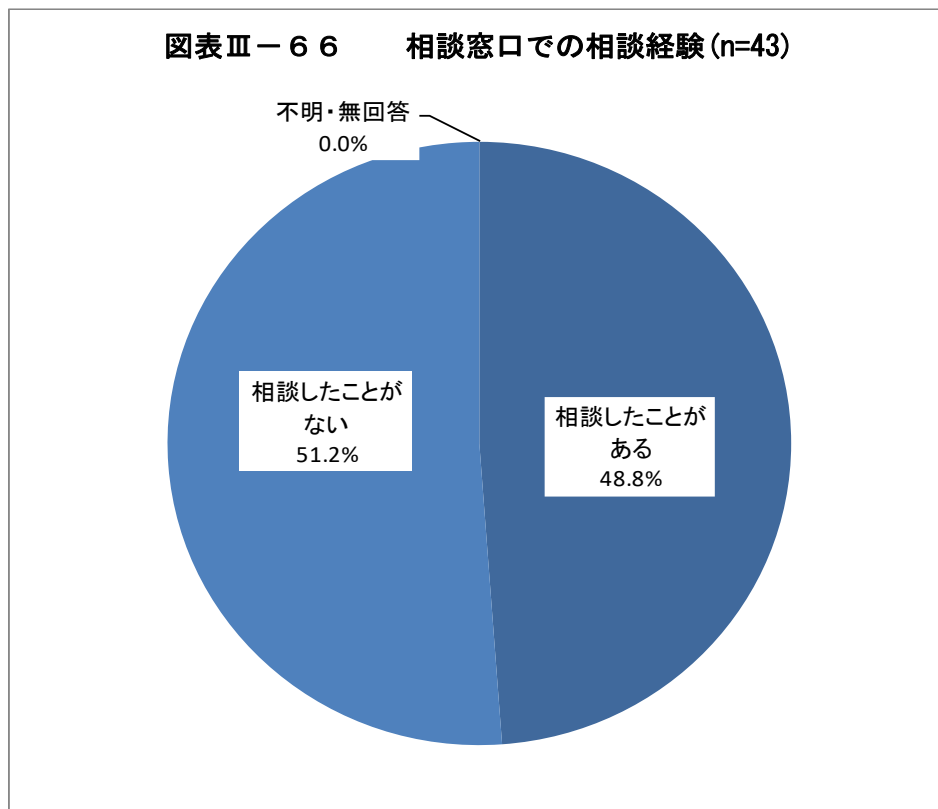
「知っていた」は、43.9%、「知らなかった」は、52.0%である。



## 2) 相談窓口での相談経験 (D問19)

問18で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

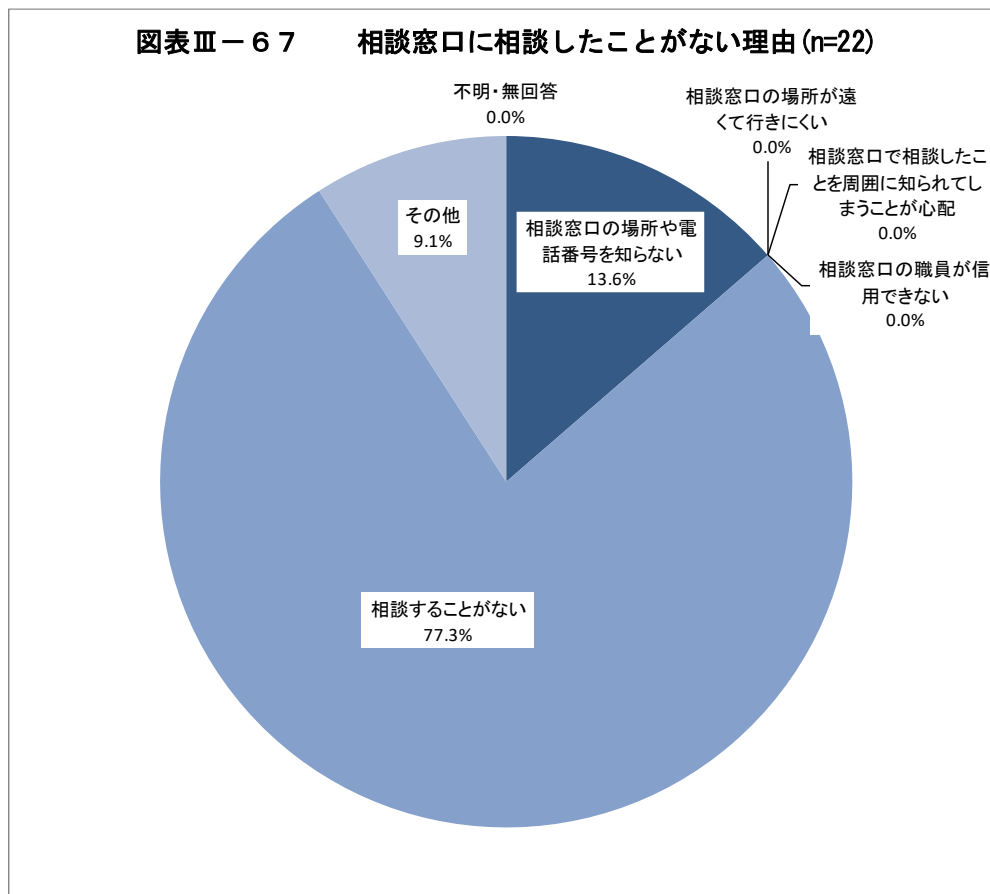
「相談したことがない」は、51.2%、「相談したことがある」は、48.8%である。



### 3) 相談窓口で相談したことがない理由 (D問20)

問19で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、77.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、13.6%である。

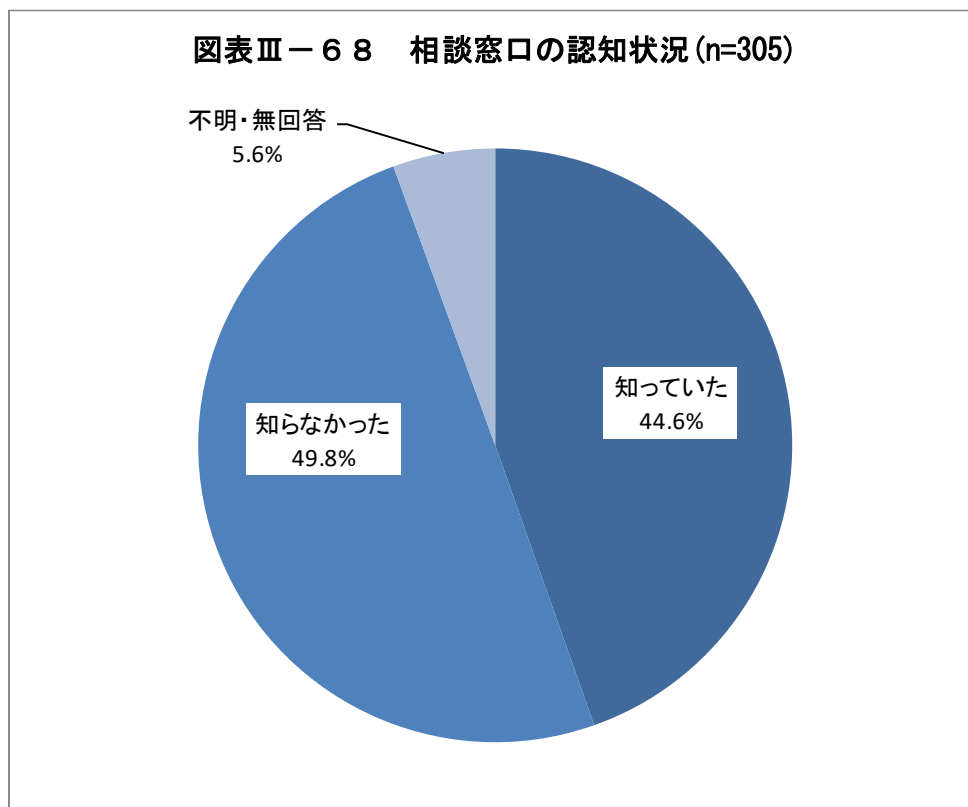


### (3) 高齢者

#### 1) 相談窓口の認知状況 (E問23)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

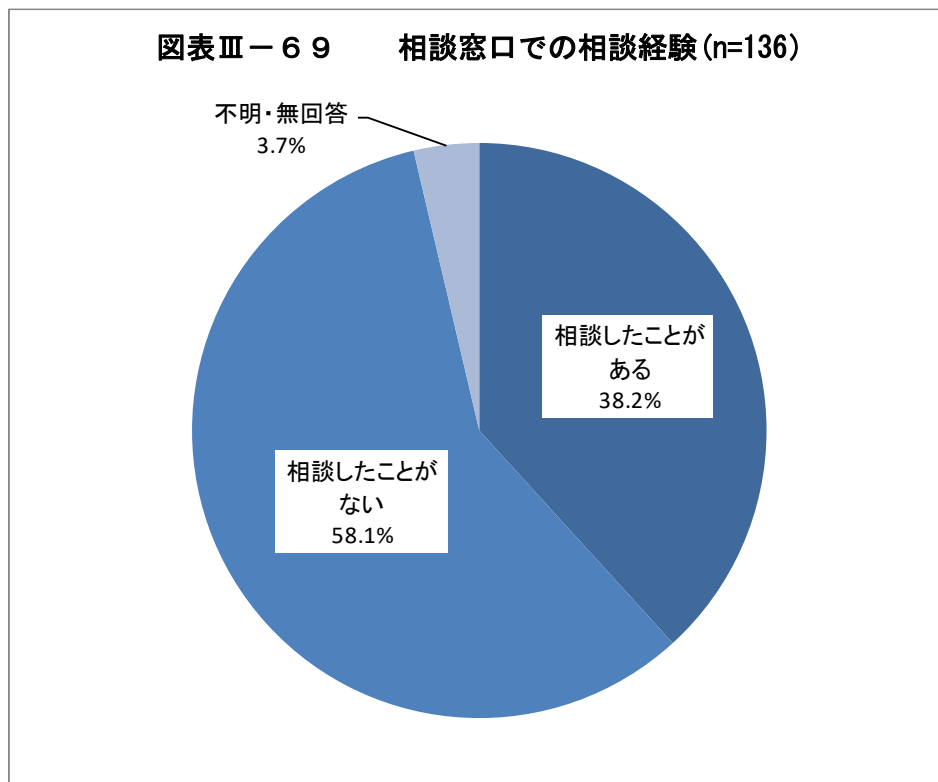
「知らなかった」は、49.8%、「知っていた」は、44.6%である。



## 2) 相談窓口での相談経験 (E問24)

問23で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

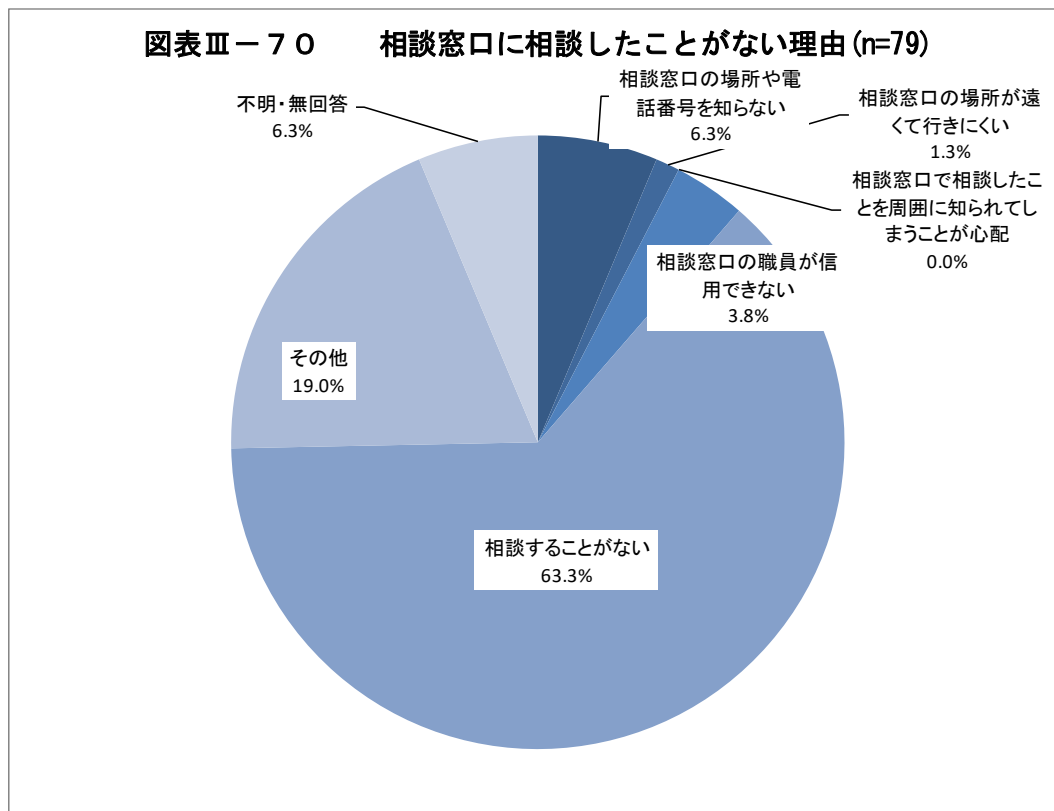
「相談したことがない」は、58.1%、「相談したことがある」は、38.2%である。



### 3) 相談窓口で相談したことがない理由 (E問25)

問24で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、63.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、6.3%である。



## 8 災害時について

在宅者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 災害時に困ることや心配なことについてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

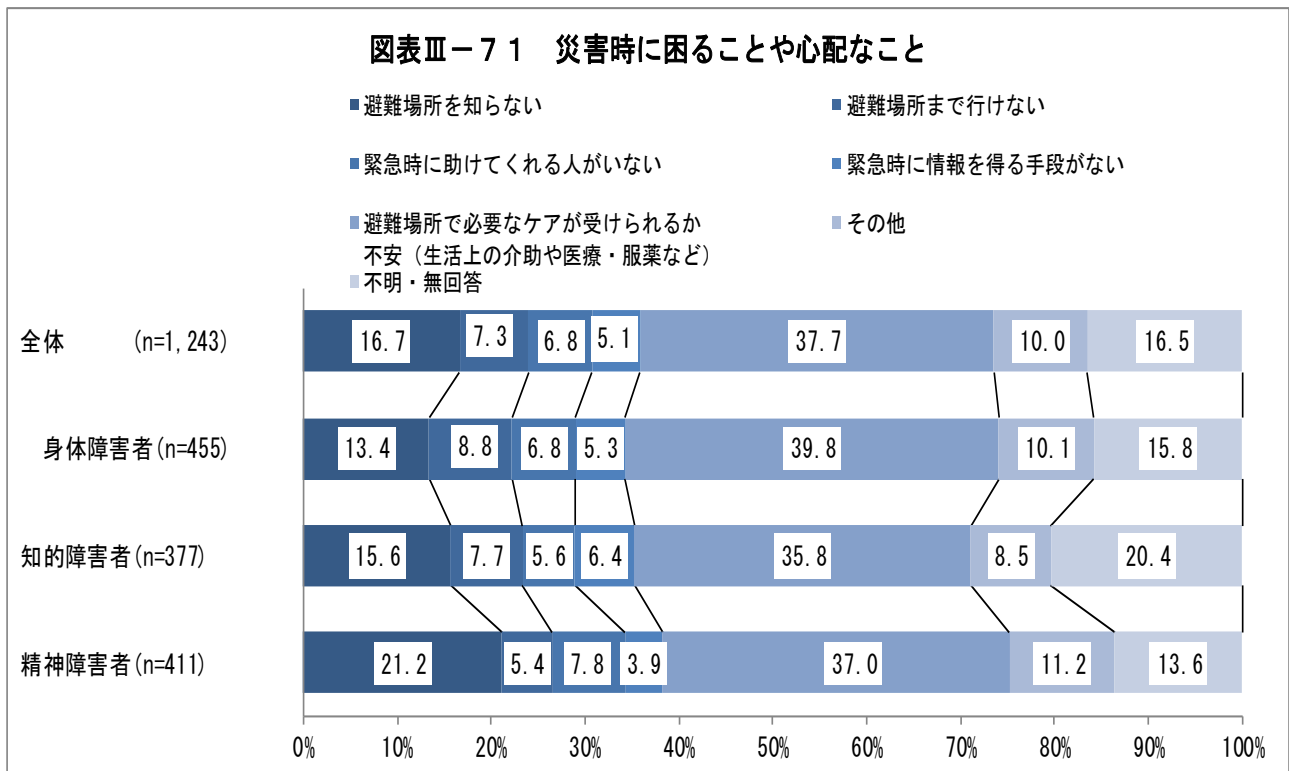
災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

**全体の傾向：**「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、37.7%、「避難場所を知らない」は、16.7%、「避難場所まで行けない」は、7.3%である。

**身体障害者：**「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、39.8%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「避難場所を知らない」は、13.4%である。

**知的障害者：**「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、35.8%、「避難場所を知らない」は、15.6%である。

**精神障害者：**「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、37.0%、「避難場所を知らない」は、21.2%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。



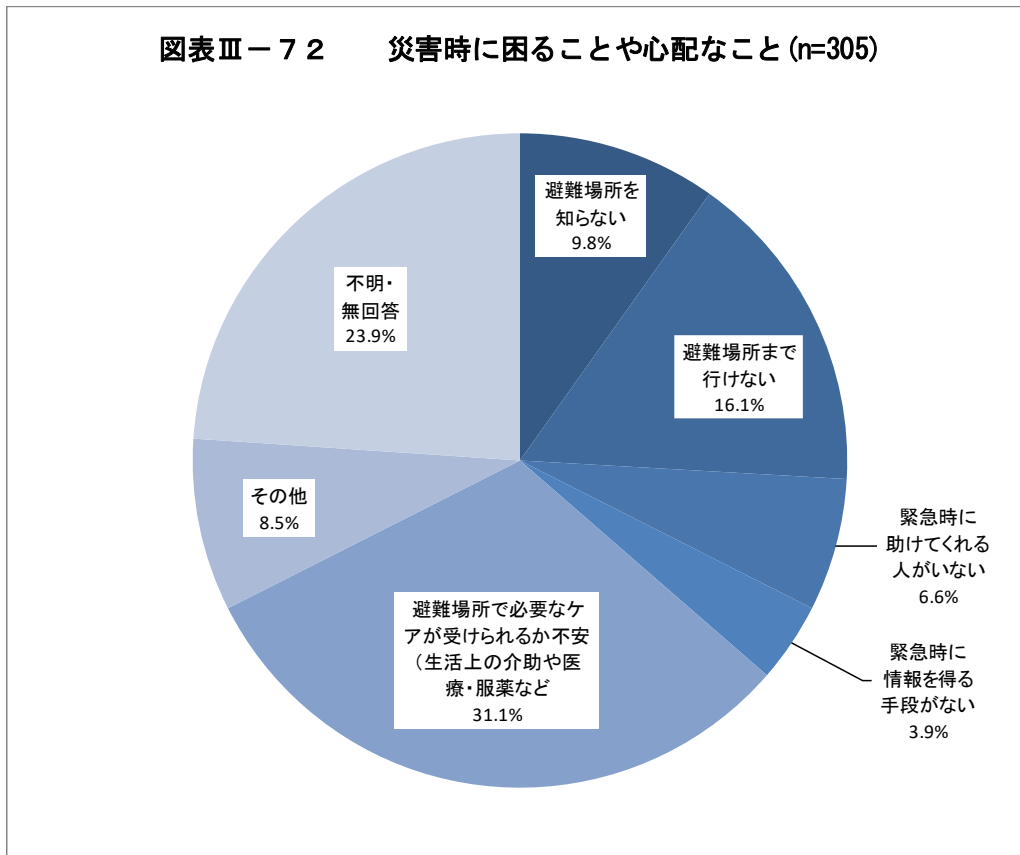


(2) 高齢者

1) 災害時に困ることや心配なこと (E問26)

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、31.1%、「避難場所まで行けない」は、16.1%、「避難場所を知らない」は、9.8%である。



## 9 障害のある人への差別について

在宅者調査、施設入所者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 障害を理由として差別されたと感じた場面、2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えることについてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (問34)

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

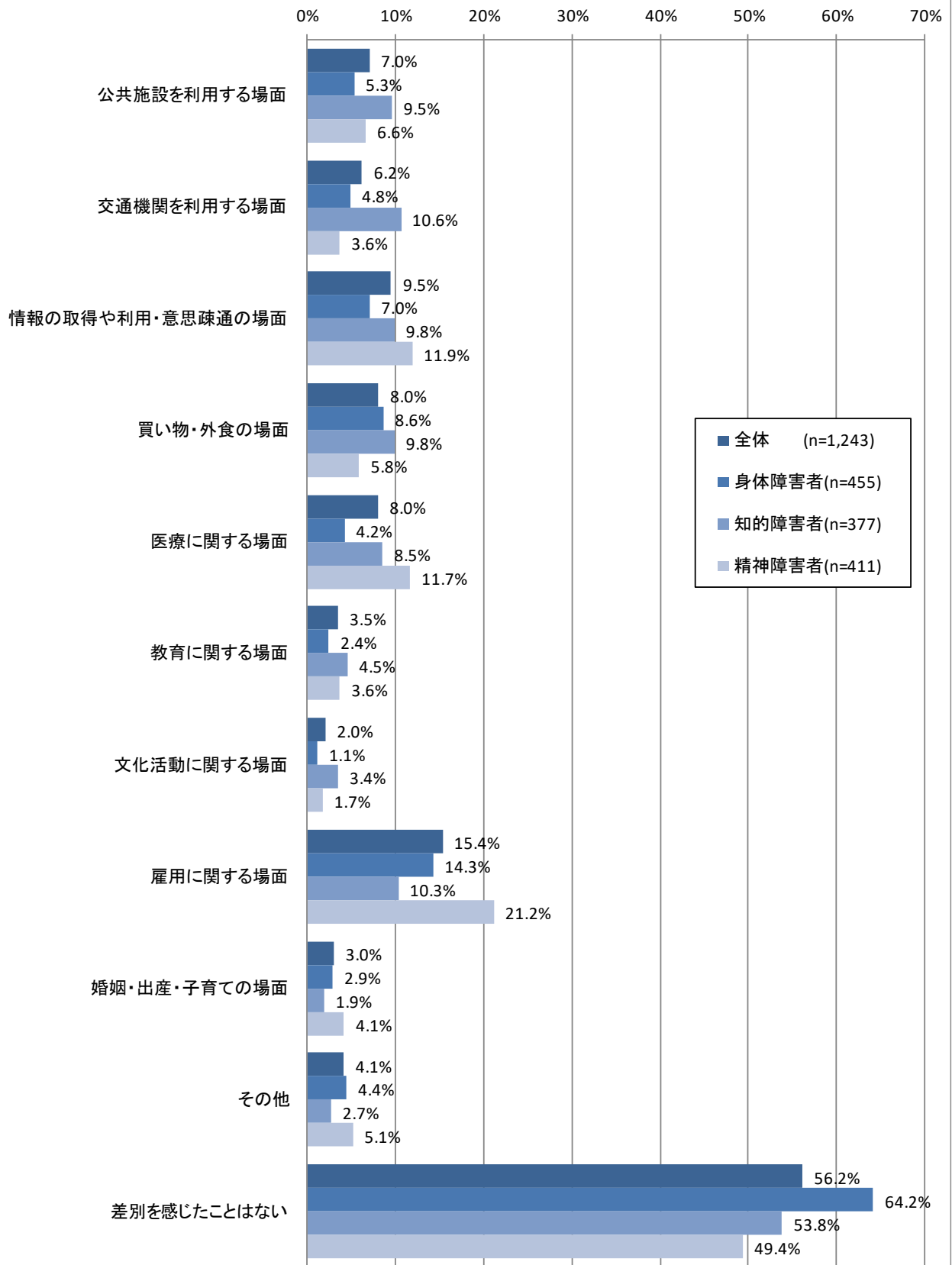
**全体の傾向：**「差別を感じたことはない」は、56.2%、「雇用に関する場面」は、15.4%、「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、9.5%、「買い物・外食の場面」と「医療に関する場面」は、8.0%である。

**身体障害者：**「差別を感じたことはない」は、64.2%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「雇用に関する場面」は、14.3%である。

**知的障害者：**「差別を感じたことはない」は、53.8%、「交通機関を利用する場面」は、10.6%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「雇用に関する場面」は、10.3%である。

**精神障害者：**「差別を感じたことはない」は、49.4%、「雇用に関する場面」は、21.2%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、11.9%、「医療に関する場面」は、11.7%である。

図表Ⅲ－73 障がい差別と感じた場面(複数回答)



## 2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

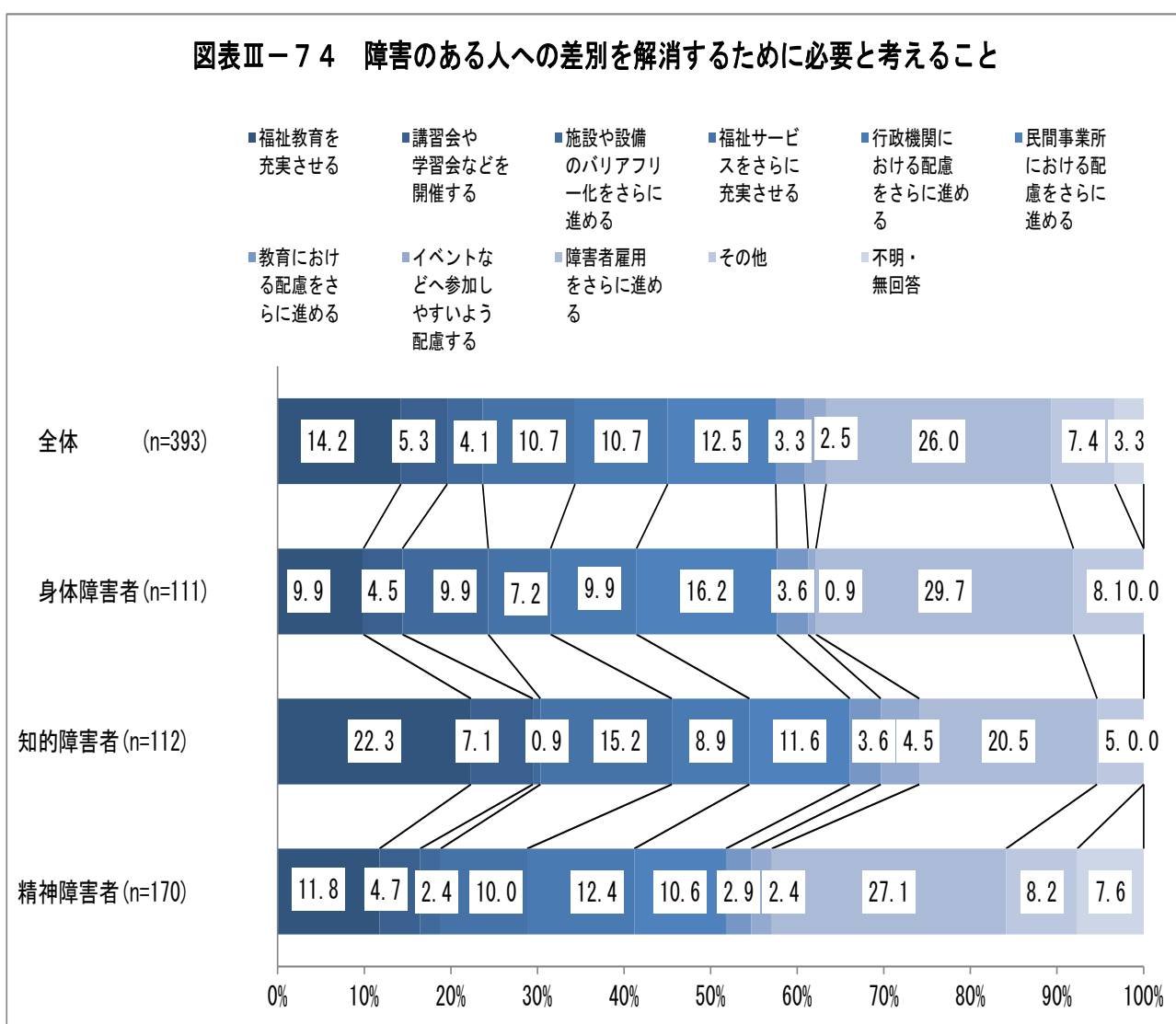
**全体の傾向:**「障害者雇用をさらに進める」は、26.0%、「福祉教育を充実させる」は、14.2%、「民間事業所における配慮をさらに進める」は、12.5%である。

**身体障害者:**「障害者雇用をさらに進める」は、29.7%、「民間事業所における配慮をさらに進める」は、16.2%で、知的障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**知的障害者:**「福祉教育を充実させる」は、22.3%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「障害者雇用をさらに進める」は、20.5%、「福祉サービスをさらに充実させる」は、15.2%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。

**精神障害者:**「障害者雇用をさらに進める」は、27.1%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、12.4%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。

図表Ⅲ-74 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること

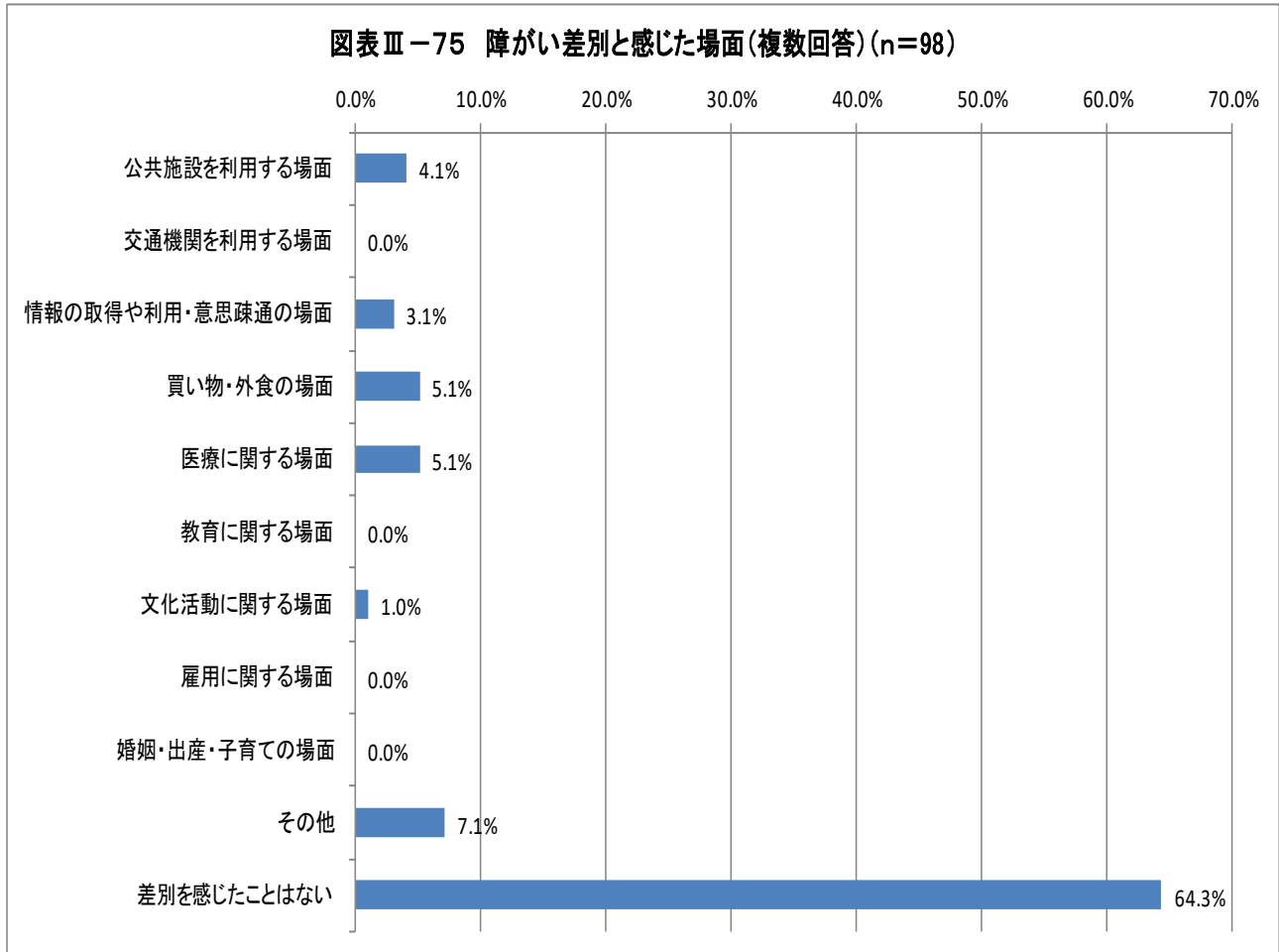


## (2) 施設入所者

### 1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (D問21)

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

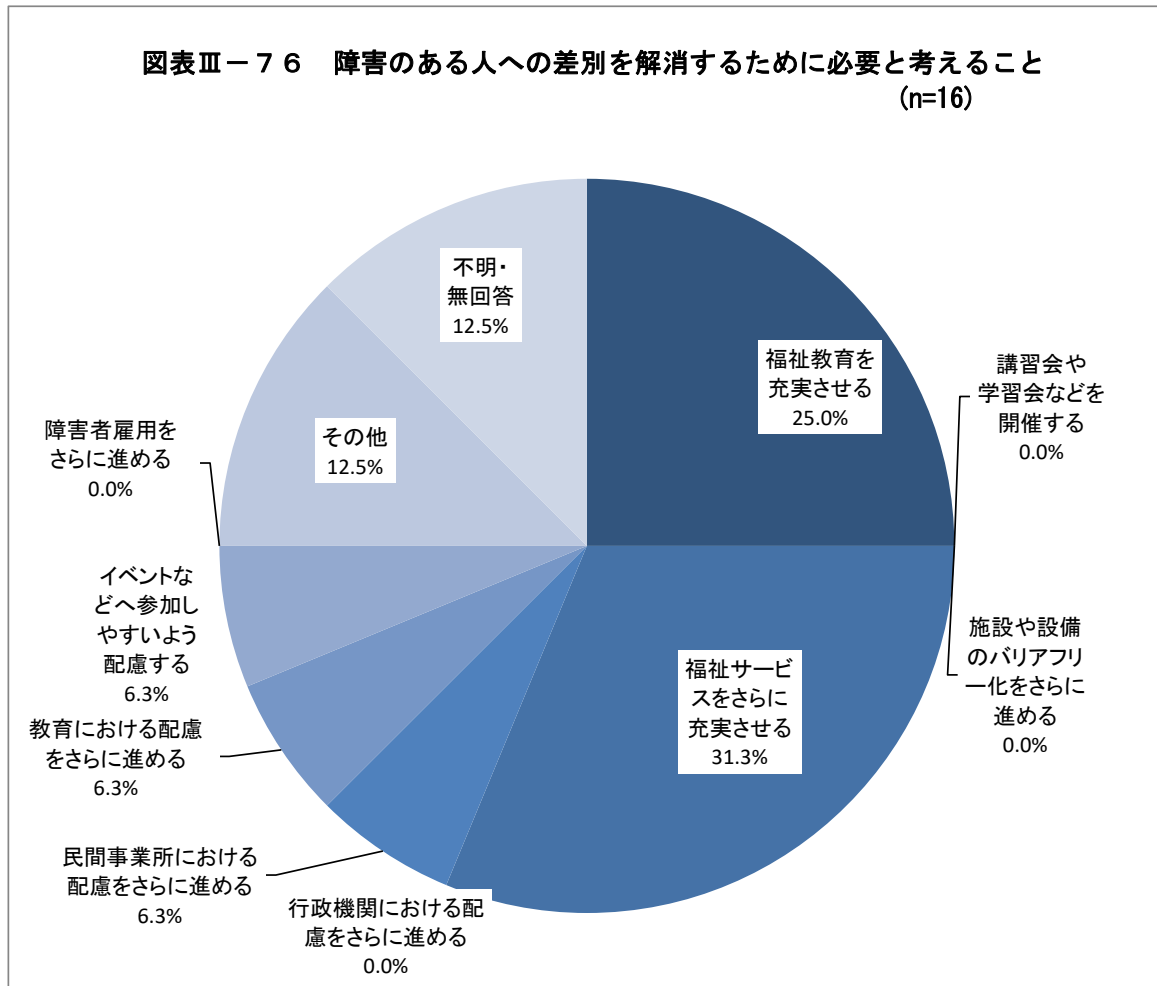
「差別を感じたことはない」は、64.3%、「買い物・外食の場面」と「医療に関する場面」は、5.1%、「公共施設を利用する場面」は、4.1%である。



## 2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (D問22)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、31.3%、「福祉教育を充実させる」は、25.0%である。

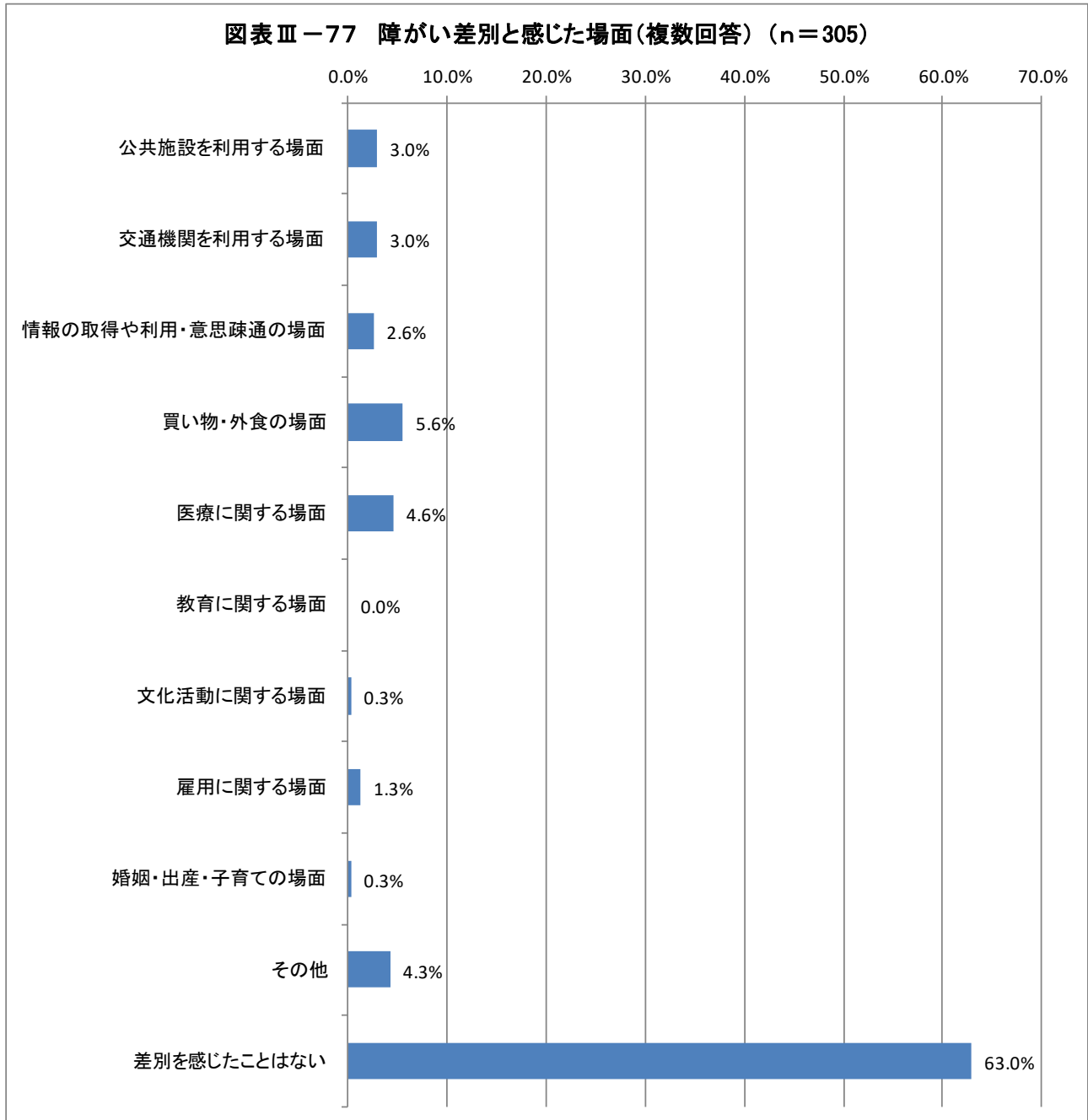


### (3) 高齢者

#### 1) 障害を理由として差別されたと感じた場面 (E問27)

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

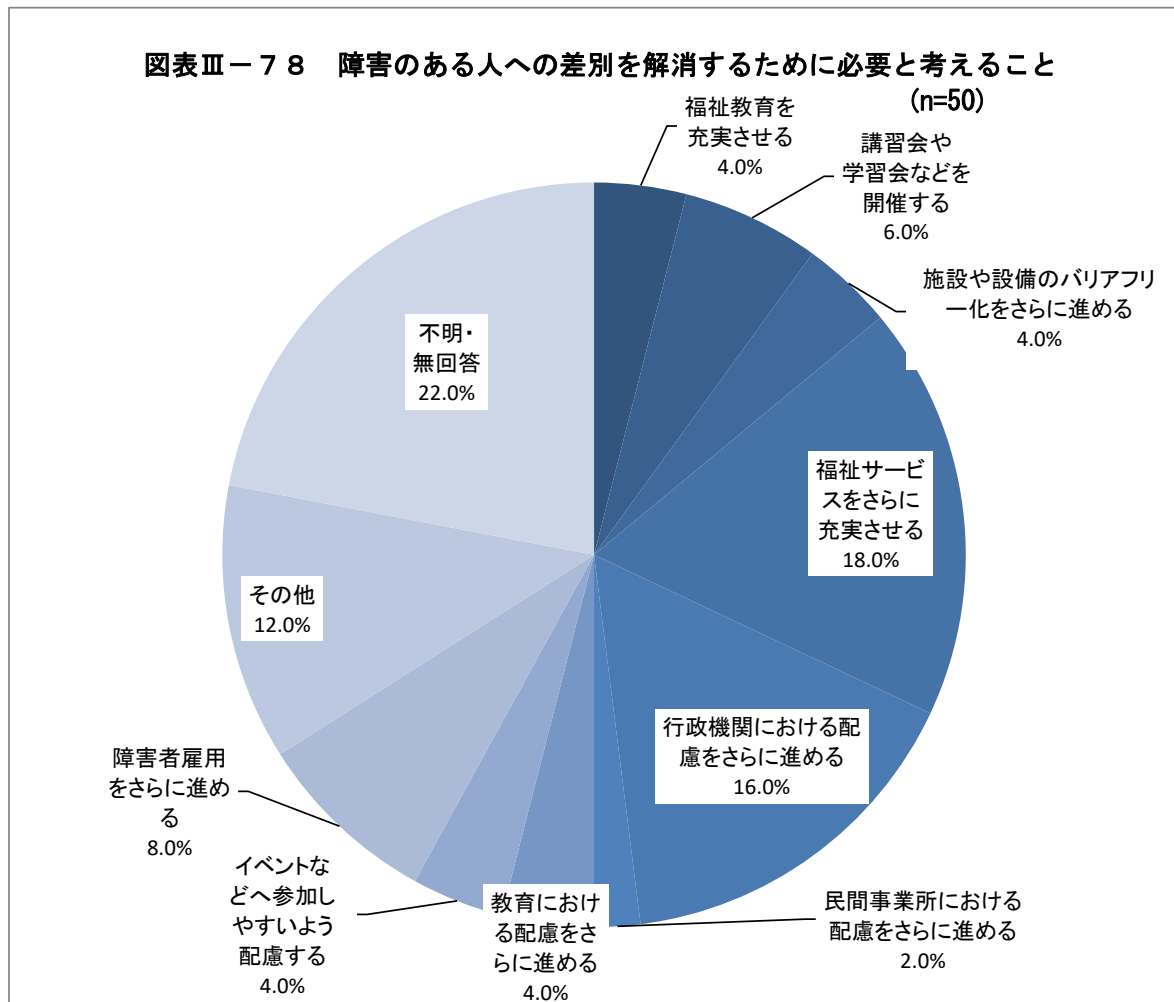
「差別を感じたことはない」は、63.0%、「買い物・外食の場面」は、5.6%、「医療に関する場面」は、4.6%である。



## 2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (E問28)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、18.0%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、16.0%、「障害者雇用をさらに進める」は、8.0%、「講習会や学習会などを開催する」は、6.0%である。





## 10 社会生活について

在宅者調査、施設入所者調査及び高齢者調査の対象者に、1) 社会生活を営む上で必要と考えることについてたずねた。

### (1) 在宅者

#### 1) 社会生活を営む上で必要なこと (問36)

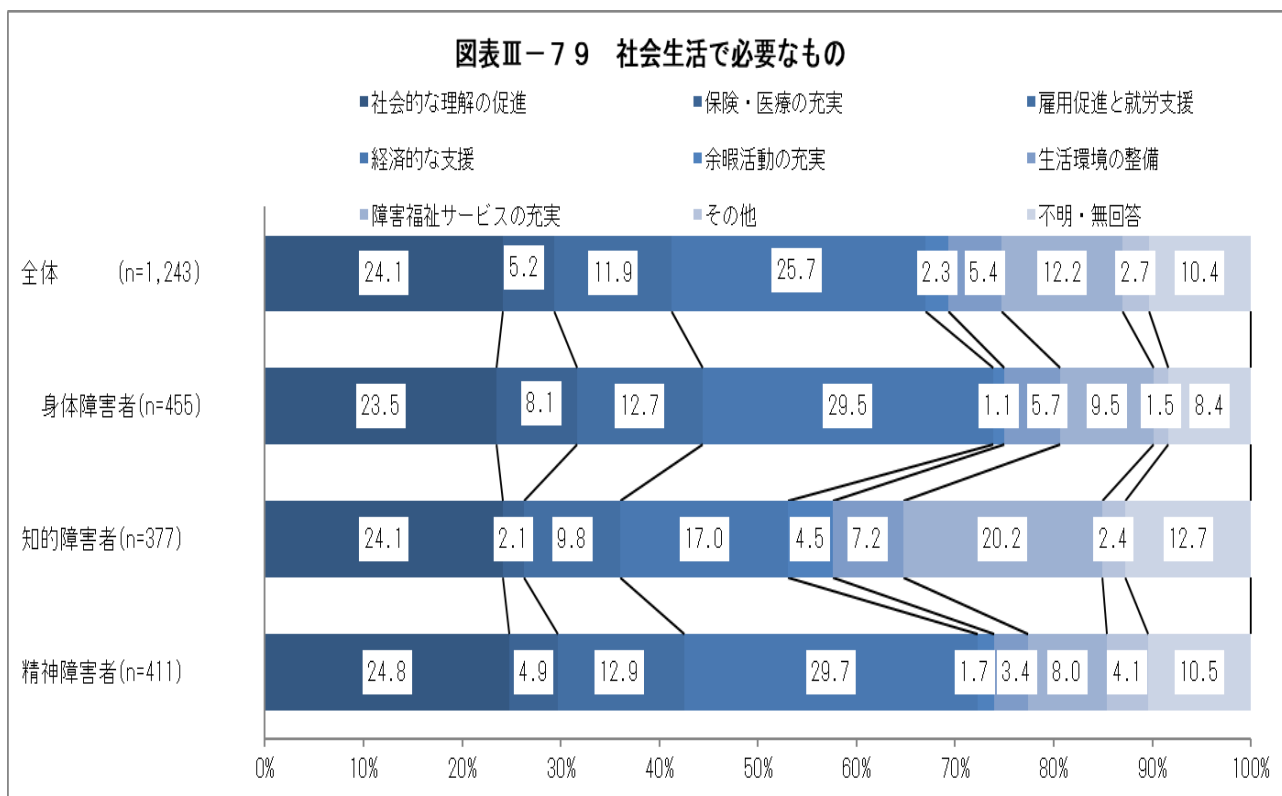
障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

**全体の傾向：**「経済的な支援」は、25.7%、「社会的な理解の促進」は、24.1%、「障害福祉サービスの充実」は、12.2%、「雇用促進と就労支援」は、11.9%である。

**身体障害者：**「経済的な支援」は、29.5%、「社会的な理解の促進」は、23.5%である。

**知的障害者：**「社会的な理解の促進」は、24.1%、「障害福祉サービスの充実」は、20.2%で、身体障害者・精神障害者に比べて割合が高い。「経済的な支援」は、17.0%である。

**精神障害者：**「経済的な支援」は、29.7%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「社会的な理解の促進」は、24.8%で、身体障害者・知的障害者に比べて割合が高い。「雇用促進と就労支援」は、12.9%である。

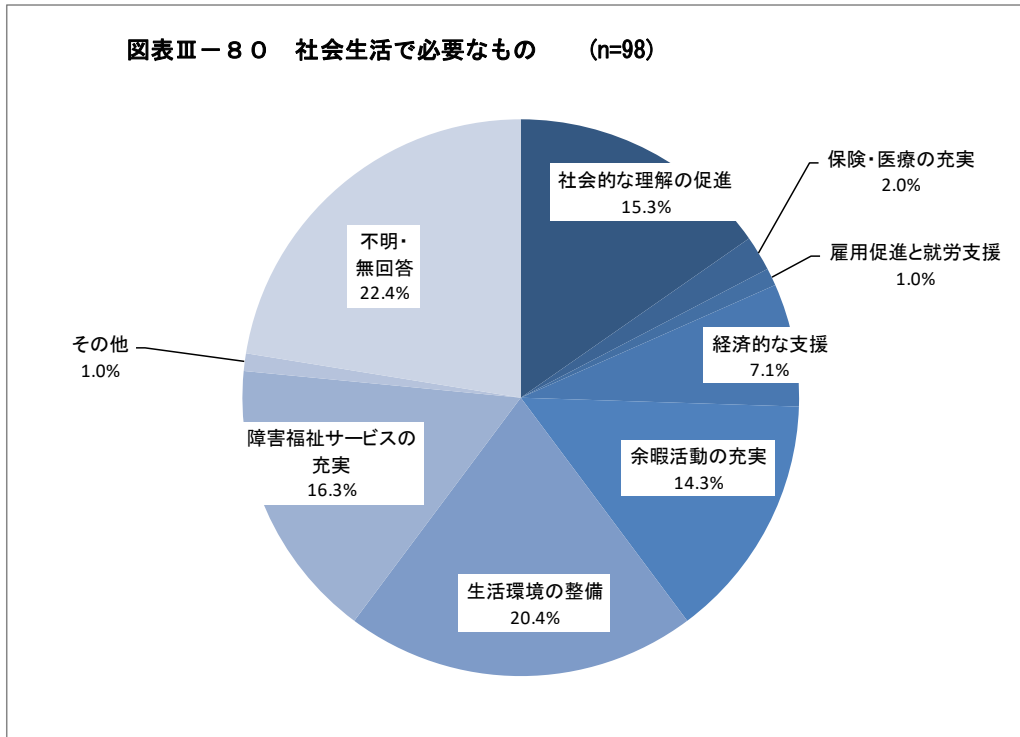


(2) 施設入所者

1) 社会生活を営む上で必要なこと (D問23)

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「生活環境の整備」は、20.4%、「障害福祉サービスの充実」は、16.3%、「社会的な理解の促進」は、15.3%、「余暇活動の充実」は、14.3%である。

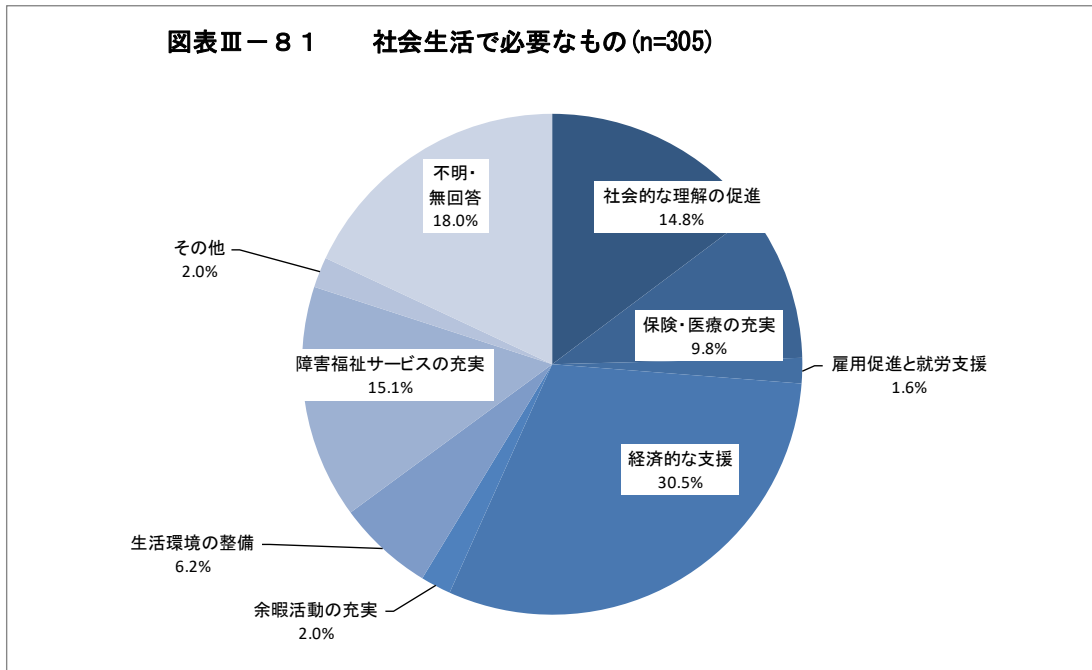


(3) 高齢者

1) 社会生活を営む上で必要なこと (E問29)

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、30.5%、「障害福祉サービスの充実」は、15.1%、「社会的な理解の促進」は、14.8%である。





F 票



共通回答項目（I）

1 生活の場について

障害児調査では、1) 住居形態、2) 世帯構成についてたずねた。

1) 住居形態（F問3）

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

全体の傾向：「家族の持ち家」は、85.8%、「賃貸アパート・マンション、借家」は、13.0%である。

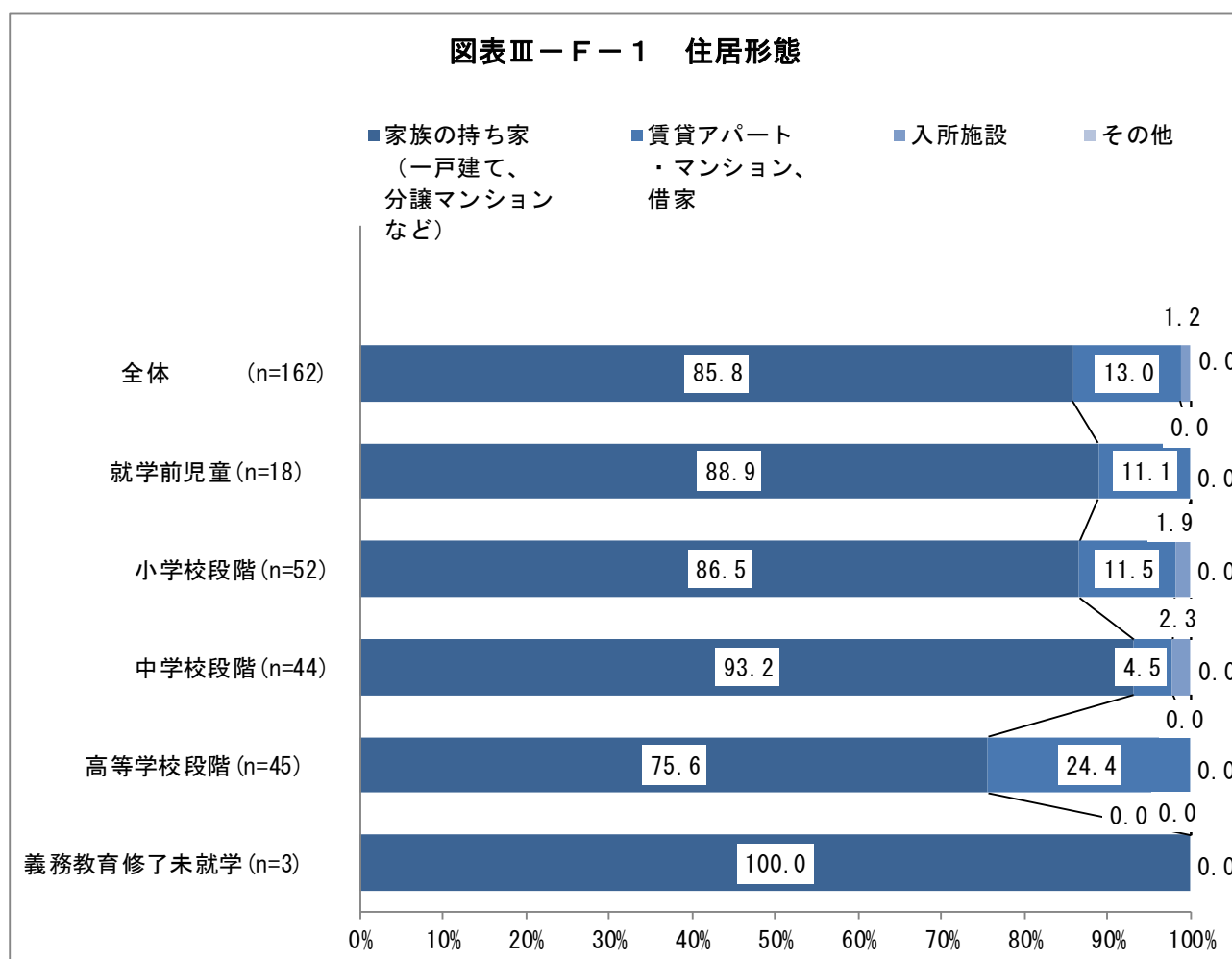
就学前児童：「家族の持ち家」は、88.9%、「賃貸アパート・マンション、借家」は、11.1%である。

小学校段階：「家族の持ち家」は、86.5%、「賃貸アパート・マンション、借家」は、11.5%である。

中学校段階：「家族の持ち家」は、93.2%、「賃貸アパート・マンション、借家」は、4.5%である。

高等学校段階：「家族の持ち家」は、75.6%、「賃貸アパート・マンション、借家」は、24.4%である。

義務教育修了未就学：「家族の持ち家」は、100.0%である。



## 2) 世帯構成 (F問4)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

全体の傾向：「家族」は、98.8%、「施設入所」は、1.2%である。

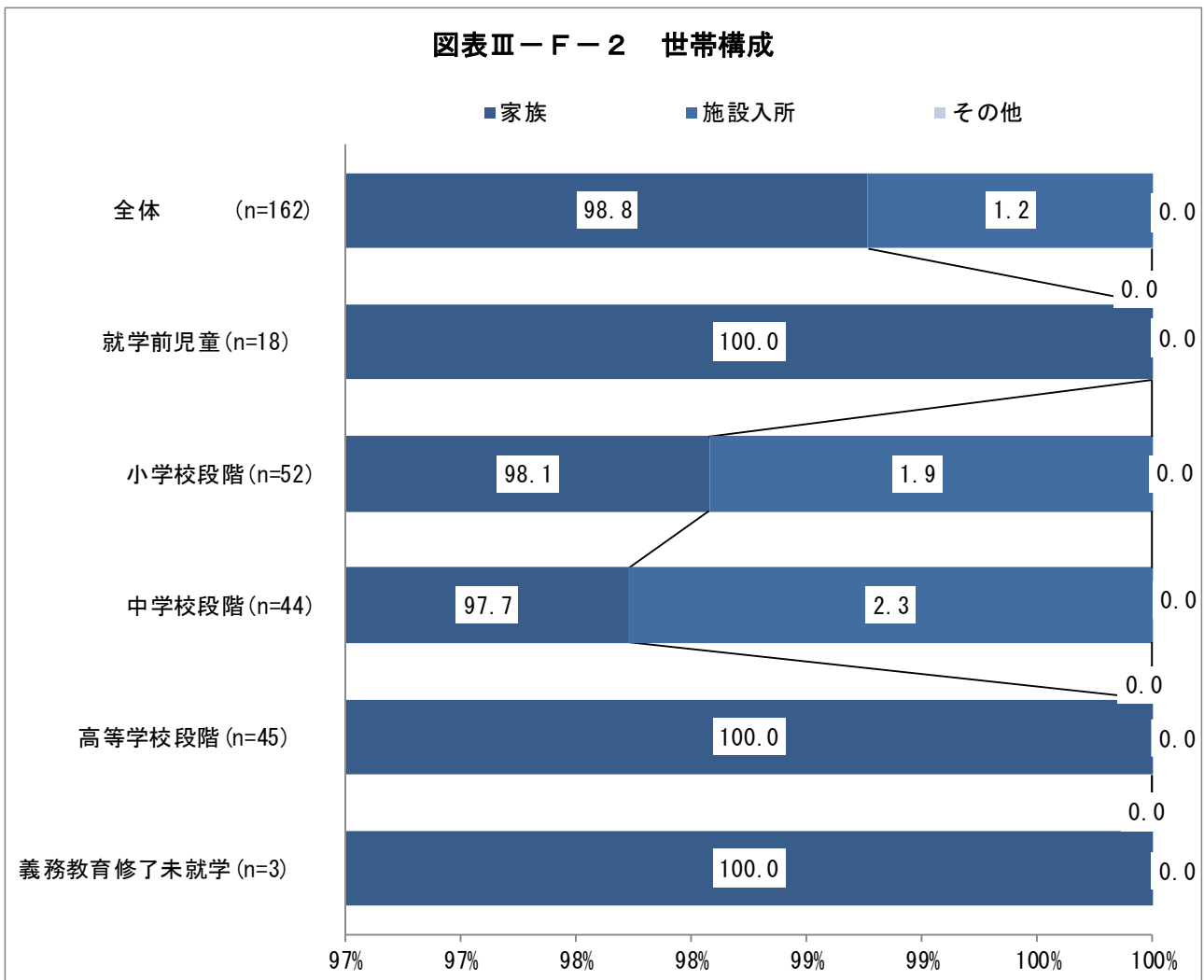
就学前児童：「家族」は、100.0%である。

小学校段階：「家族」は、98.1%、「施設入所」は、1.9%である。

中学校段階：「家族」は、97.7%、「施設入所」は、2.3%である。

高等学校段階：「家族」は、100.0%である。

義務教育修了未就学：「家族」は、100.0%である。





## 2 文化・スポーツについて

障害児調査では、1) 芸術・文化活動の実施、2) スポーツ活動の実施、3) スポーツの頻度、4) スポーツの希望意志についてたずねた。

### 1) 芸術・文化活動の実施（F問5）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

全体の傾向：「している」は、67.9%、「したいと思うが、していない」は、21.6%、「したいと思わない」は、10.5%である。

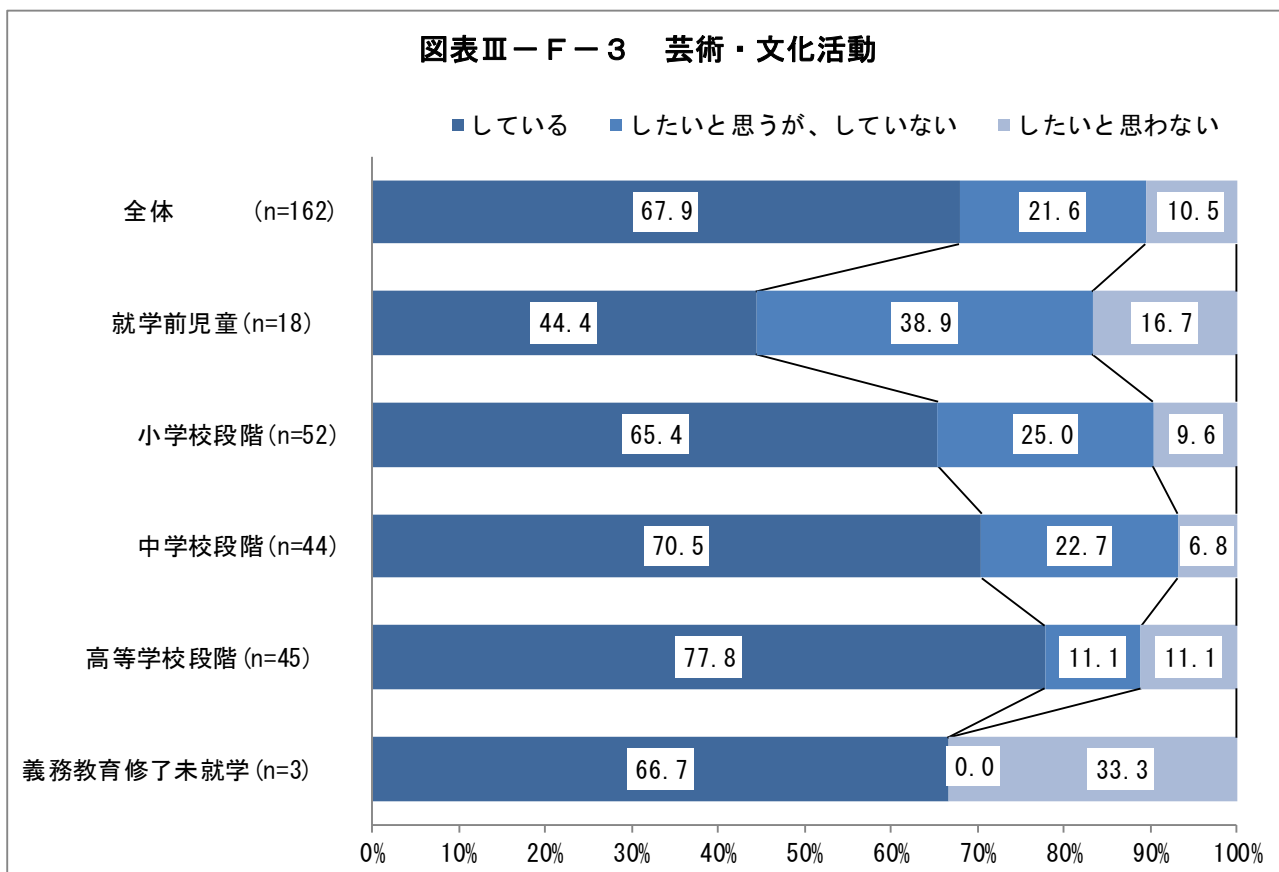
就学前児童：「している」は、44.4%、「したいと思うが、していない」は、38.9%、「したいと思わない」は、16.7%である。

小学校段階：「している」は、65.4%、「したいと思うが、していない」は、25.0%、「したいと思わない」は、9.6%である。

中学校段階：「している」は、70.5%、「したいと思うが、していない」は、22.7%、「したいと思わない」は、6.8%である。

高等学校段階：「している」は、77.8%、「したいと思うが、していない」と「したいと思わない」は、11.1%である。

義務教育修了未就学：「している」は、66.7%、「したいと思わない」は、33.3%である。



## 2) スポーツ活動の実施 (F問6)

現在、スポーツをしたり、見たりしているかをたずねた。

全体の傾向：「している」は、23.5%、「していない」は、75.9%である。

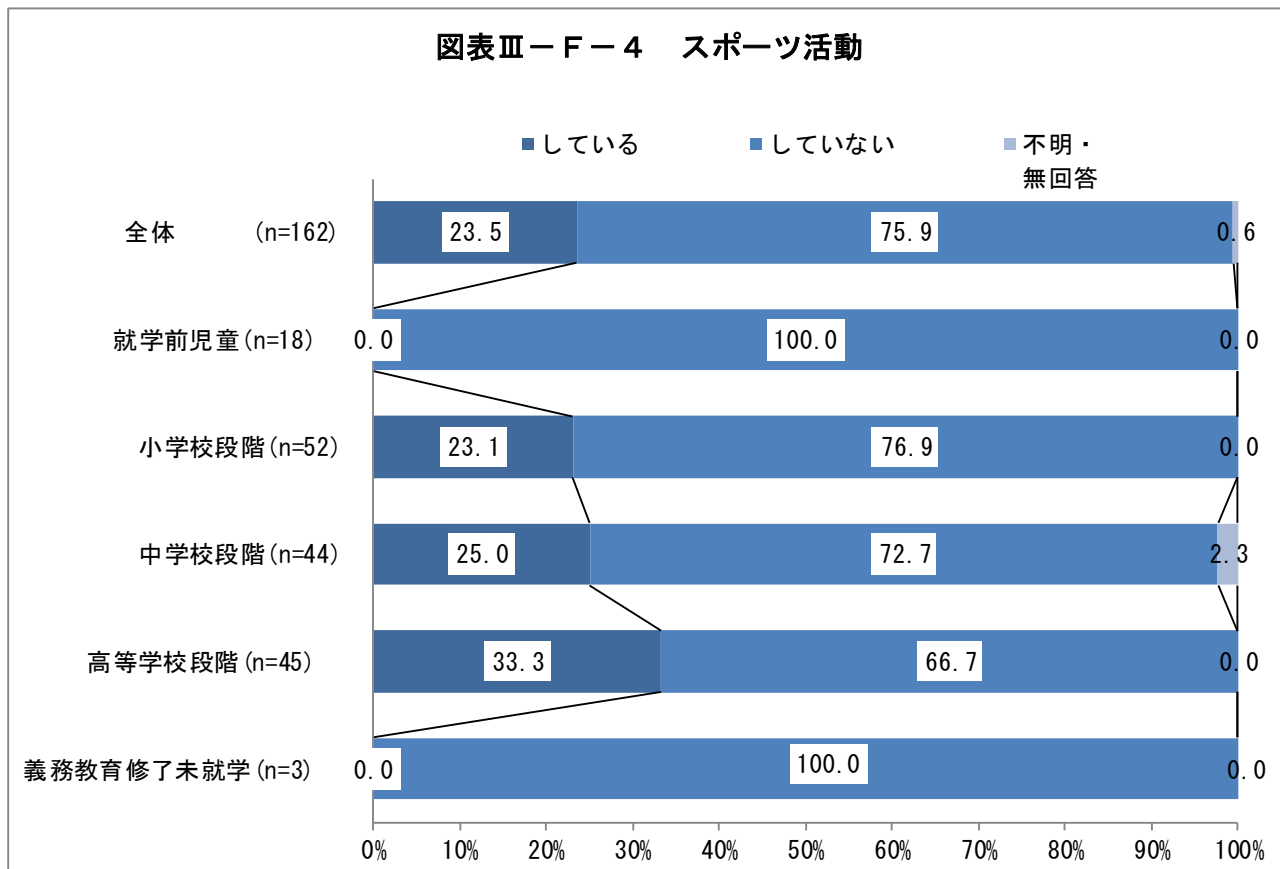
就学前児童：「していない」は、100.0%である。

小学校段階：「している」は、23.1%、「していない」は、76.9%である。

中学校段階：「している」は、25.0%、「していない」は、72.7%である。

高等学校段階：「している」は、33.3%、「していない」は、66.7%である。

義務教育修了未就学：「していない」は、100.0%である。



### 3) スポーツ活動の頻度 (F問7)

問6で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

全体の傾向：「ほぼ毎日」は、39.5%、「週に1回」は、26.3%、「週に2～3回」は、15.8%である。

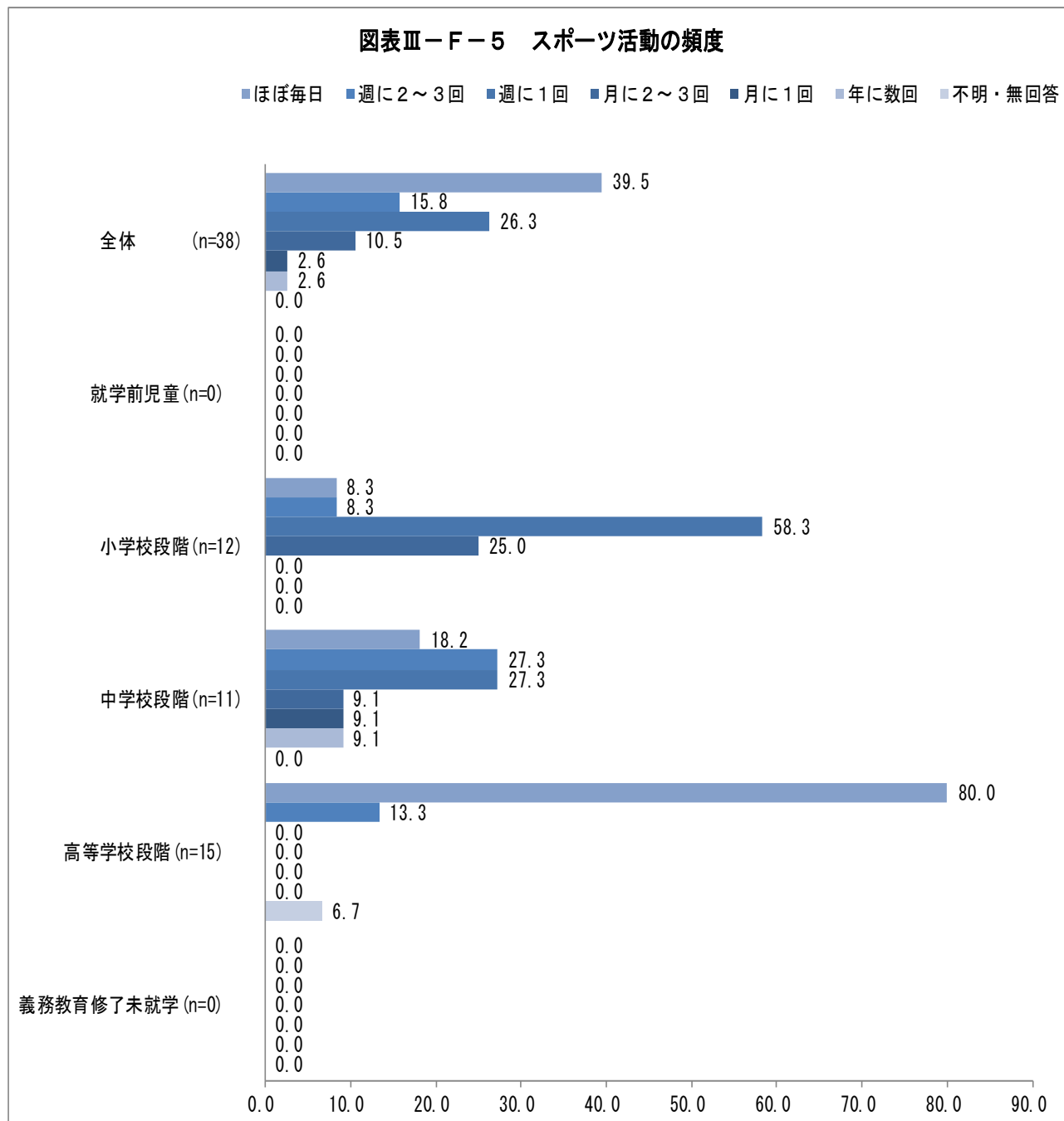
就学前児童：回答はない。

小学校段階：「週に1回」は、58.3%、「月に2～3回」は、25.0%である。

中学校段階：「週に2～3回」と「週に1回」は、ともに27.3%、「ほぼ毎日」は、18.2%である。

高等学校段階：「ほぼ毎日」は、80.0%、「週に2～3回」は、13.3%である。

義務教育修了未就学：回答はない。



#### 4) スポーツ活動をしたい希望意志 (F問8)

問6で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

全体の傾向：「したいと思う」は、63.4%、「したいと思わない」は、35.8%である。

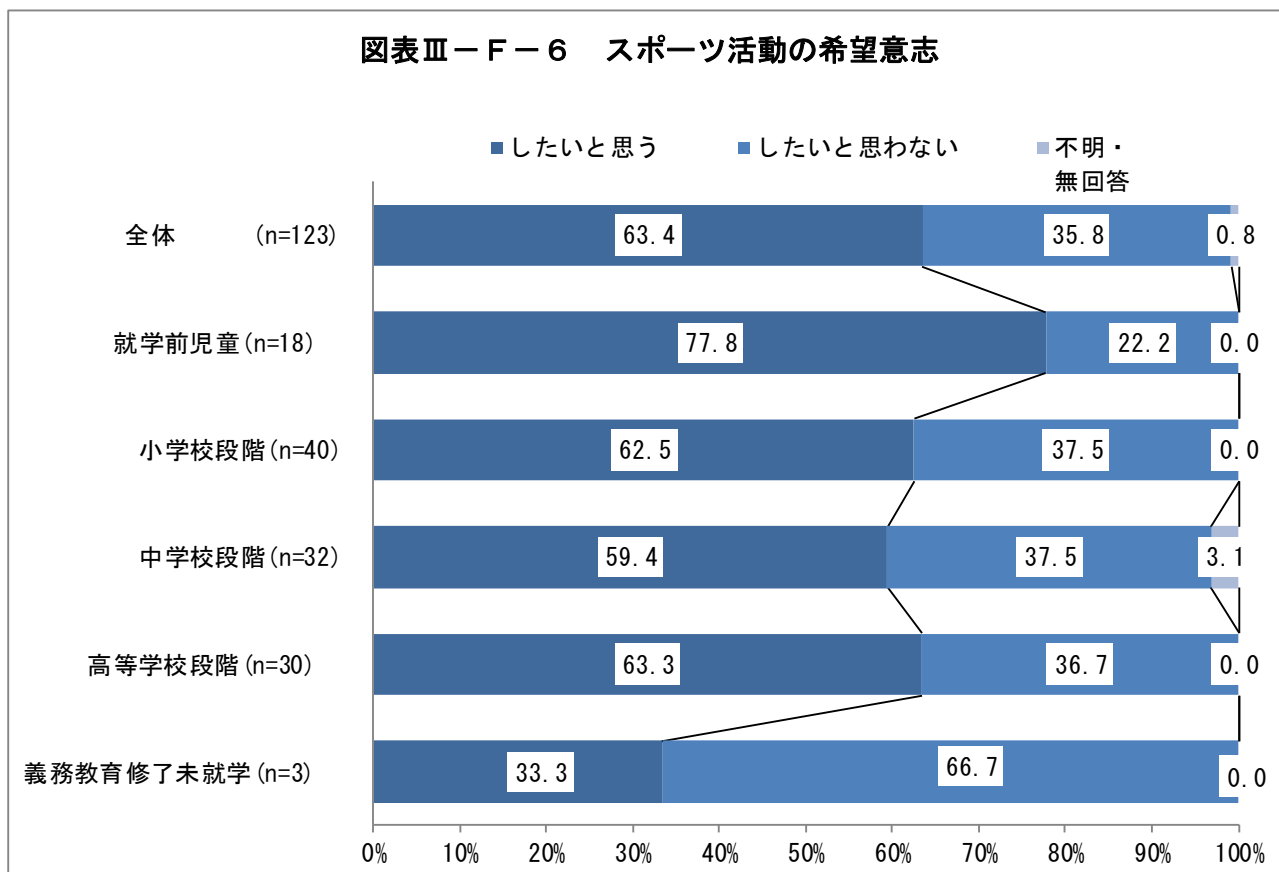
就学前児童：「したいと思う」は、77.8%、「したいと思わない」は、22.2%である。

小学校段階：「したいと思う」は、62.5%、「したいと思わない」は、37.5%である。

中学校段階：「したいと思う」は、59.4%、「したいと思わない」は、37.5%である。

高等学校段階：「したいと思う」は、63.3%、「したいと思わない」は、36.7%である。

義務教育修了未就学：「したいと思う」は、33.3%、「したいと思わない」は、66.7%である。



### 3 相談窓口について

1) 相談窓口の認知状況、2) 相談窓口での相談経験、3) 相談窓口に相談したことがない理由についてたずねた。

#### 1) 相談窓口の認知状況（F問9）

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員、長岡市子ども家庭センターこども発達相談室、子ども・青少年相談センター、長岡市学校教育課特別支援教育係）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

全体の傾向：「知っていた」は、78.4%、「知らなかった」は、21.0%である。

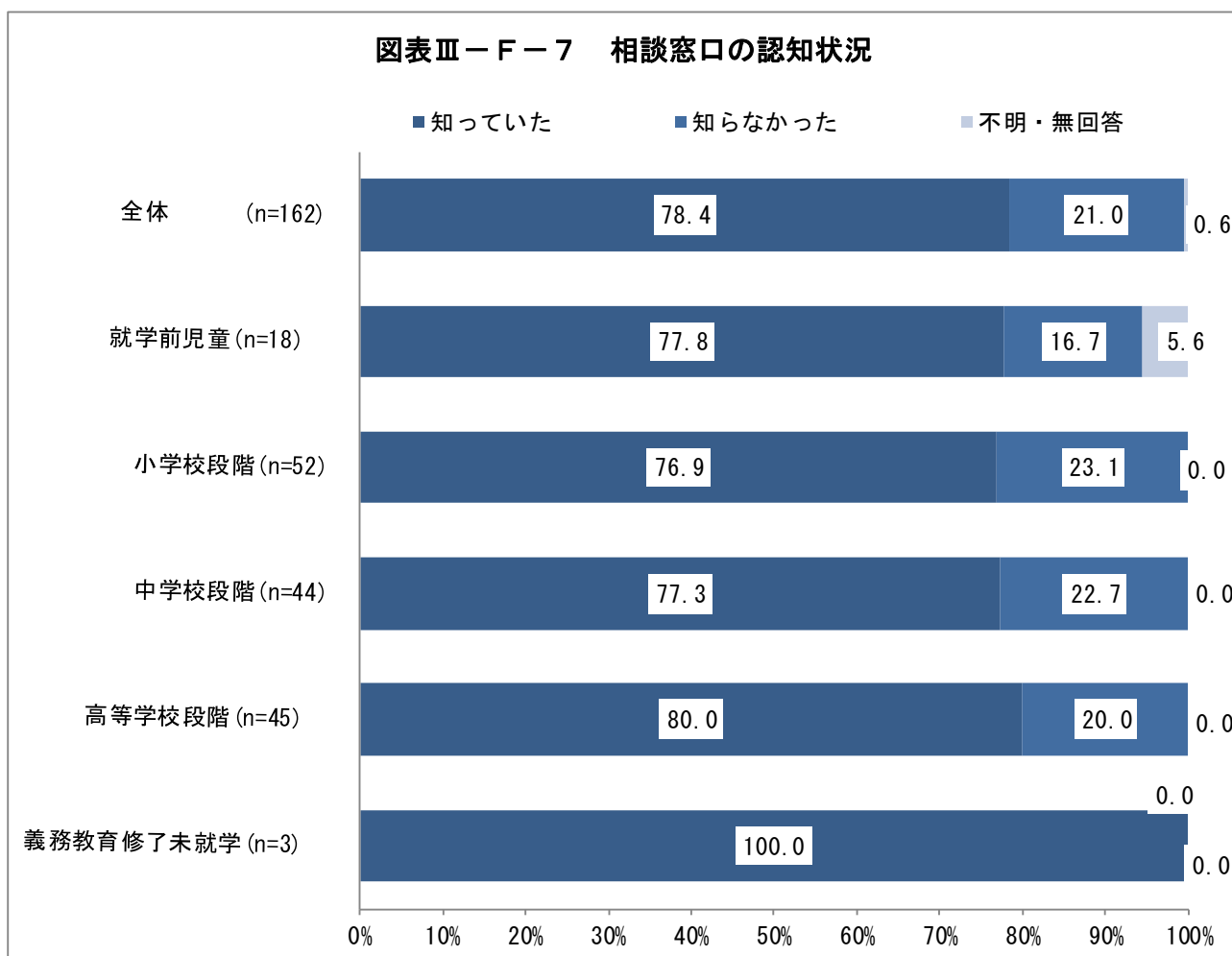
就学前児童：「知っていた」は、77.8%、「知らなかった」は、16.7%である。

小学校段階：「知っていた」は、76.9%、「知らなかった」は、23.1%である。

中学校段階：「知っていた」は、77.3%、「知らなかった」は、22.7%である。

高等学校段階：「知っていた」は、80.0%、「知らなかった」は、20.0%である。

義務教育修了未就学：「知っていた」は、100.0%である。



## 2) 相談窓口での相談経験 (F問10)

問9で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

**全体の傾向**：「相談したことがある」は、82.7%、「相談したことがない」は、17.3%である。

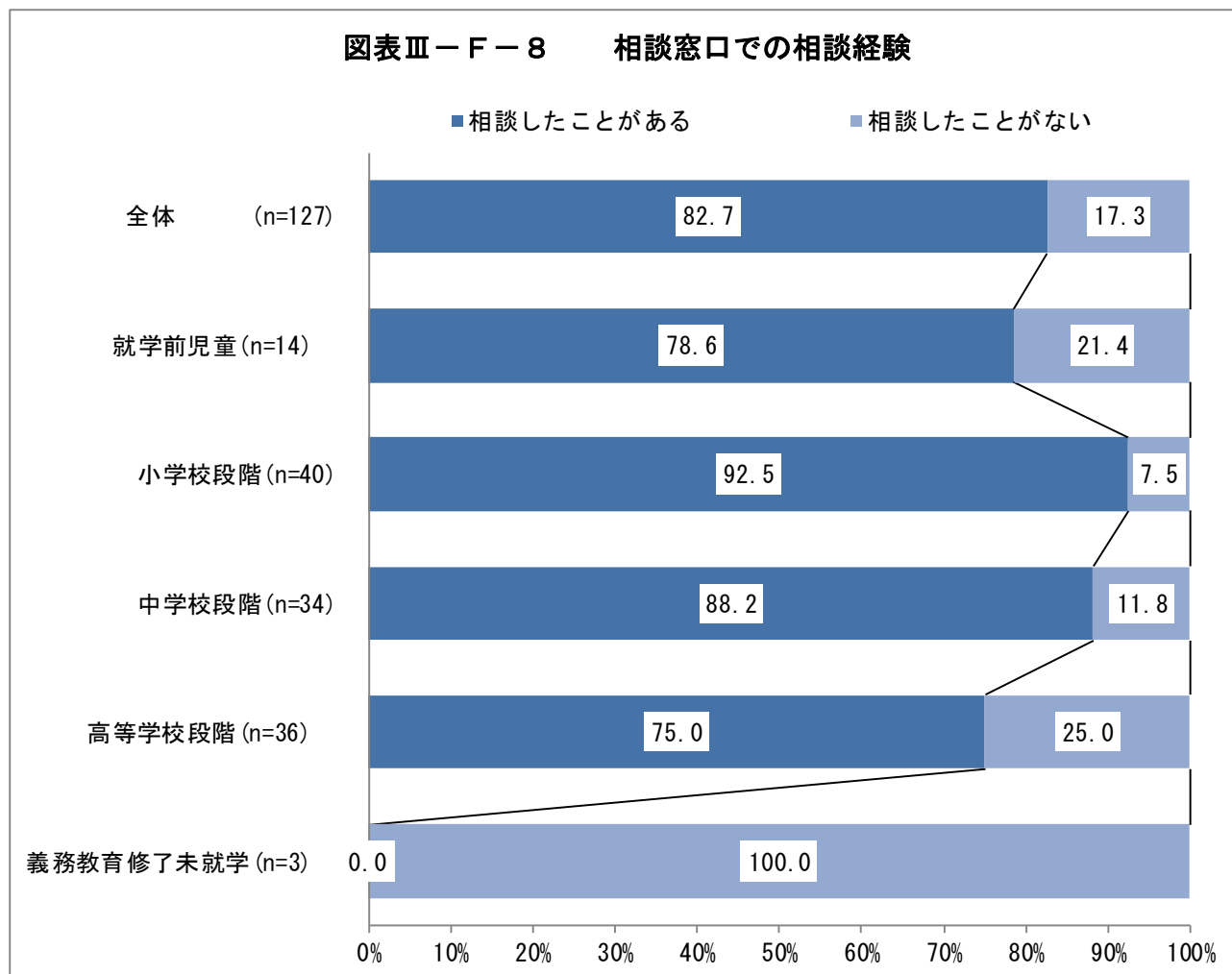
**就学前児童**：「相談したことがある」は、78.6%、「相談したことがない」は、21.4%である。

**小学校段階**：「相談したことがある」は、92.5%、「相談したことがない」は、7.5%である。

**中学校段階**：「相談したことがある」は、88.2%、「相談したことがない」は、11.8%である。

**高等学校段階**：「相談したことがある」は、75.0%、「相談したことがない」は、25.0%である。

**義務教育修了未就学**：「相談したことがない」は、100.0%である。



### 3) 相談窓口で相談したことがない理由 (F問11)

問10で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

全体の傾向：「相談することがない」は、72.7%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、13.6%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、9.1%である。

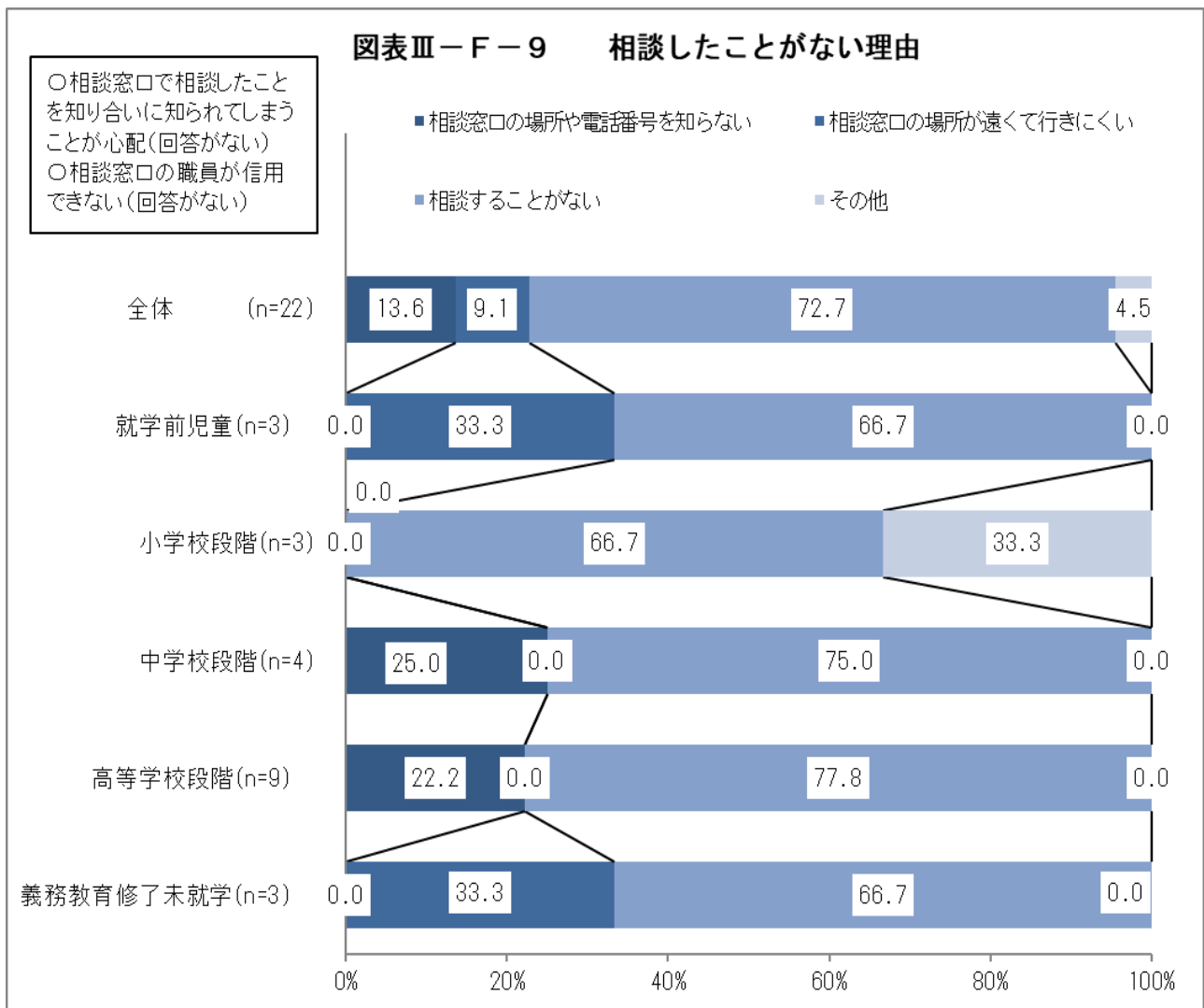
就学前児童：「相談することがない」が66.7%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、33.3%である。

小学校段階：「相談することがない」が66.7%である。

中学校段階：「相談することがない」が75.0%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」が25.0%である。

高等学校段階：「相談することがない」は、77.8%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」が22.2%である。

義務教育修了未就学：「相談することがない」は、66.7%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、33.3%である。



#### 4 相談支援ファイル「すこやかファイル」について（F問12）

市で配布している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っているかをたずねた。

全体の傾向：「知っているし、利用している」は、73.5%、「知っているが、利用していない」は、14.8%、「知らない」が11.7%である。

就学前児童：「知っているし、利用している」は、27.8%、「知っているが、利用していない」は、38.9%、「知らない」が33.3%である。

小学校段階：「知っているし、利用している」は、82.7%、「知っているが、利用していない」は、11.5%、「知らない」が5.8%である。

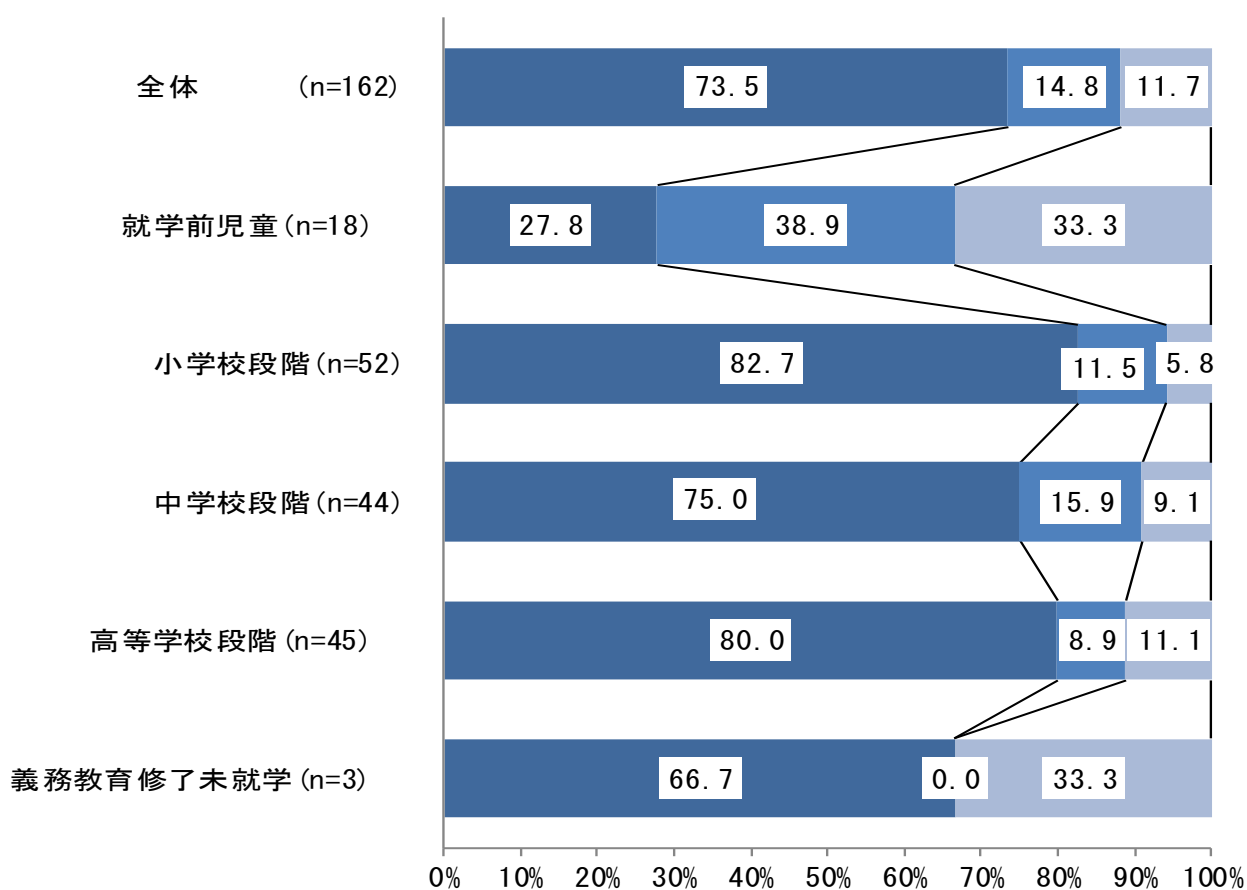
中学校段階：「知っているし、利用している」は、75.0%、「知っているが、利用していない」は、15.9%、「知らない」が9.1%である。

高等学校段階：「知っているし、利用している」は、80.0%、「知っているが、利用していない」は、8.9%、「知らない」が11.1%である。

義務教育修了未就学：「知っているし、利用している」は、66.7%、「知らない」が33.3%である。

図表Ⅲ－F－10 「すこやかファイル」の認知状況

■ 知っているし、利用している ■ 知っているが、利用していない ■ 知らない





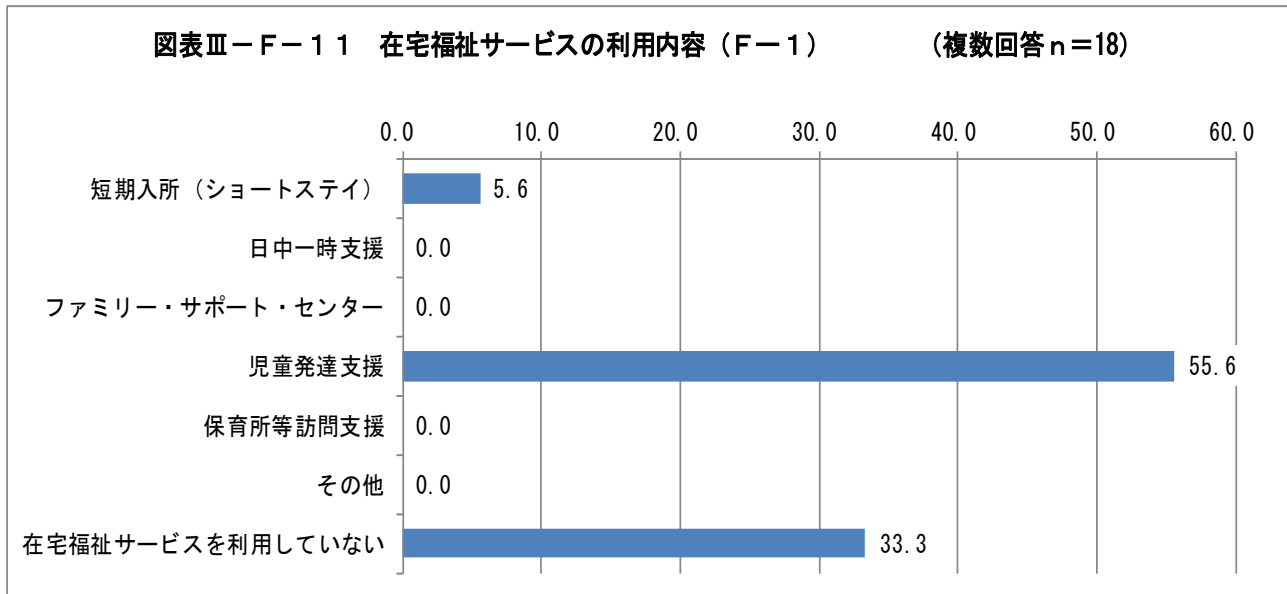
## 5 在宅福祉サービスについて

1) 在宅福祉サービスの利用内容、2) 在宅福祉サービスの利用理由、3) 在宅福祉サービスの利用度、4) 在宅福祉サービスを利用しない理由、5) 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったことについてたずねた。

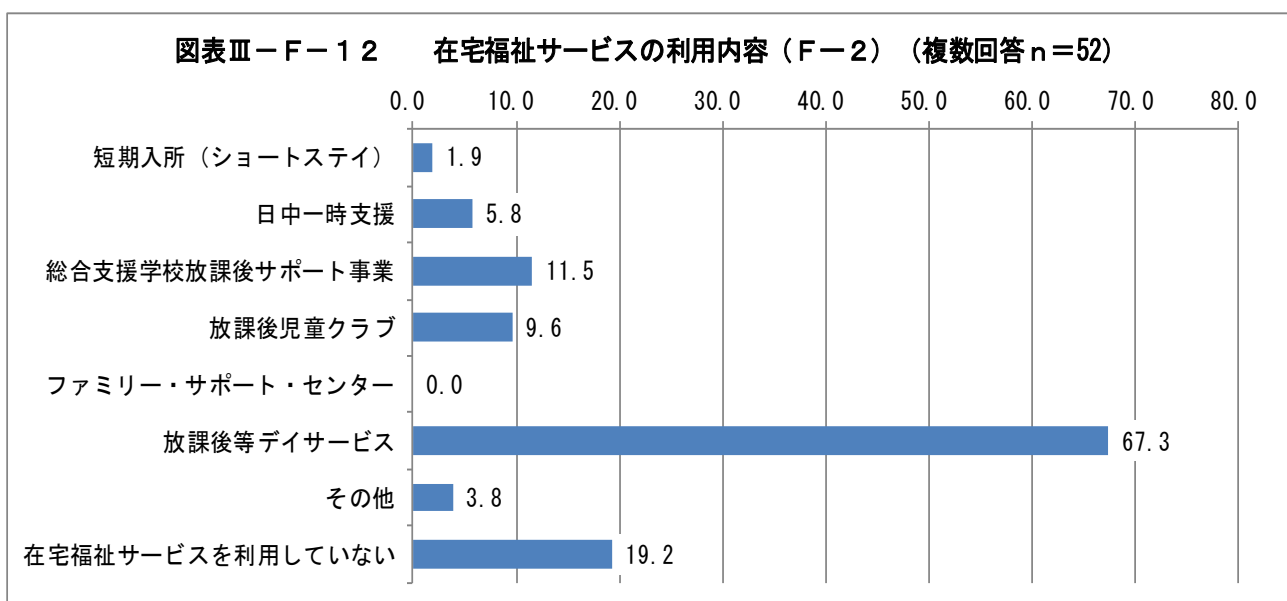
### 1) 在宅福祉サービスの利用内容（F問13）

在宅福祉サービスの利用内容を複数回答でたずねた。

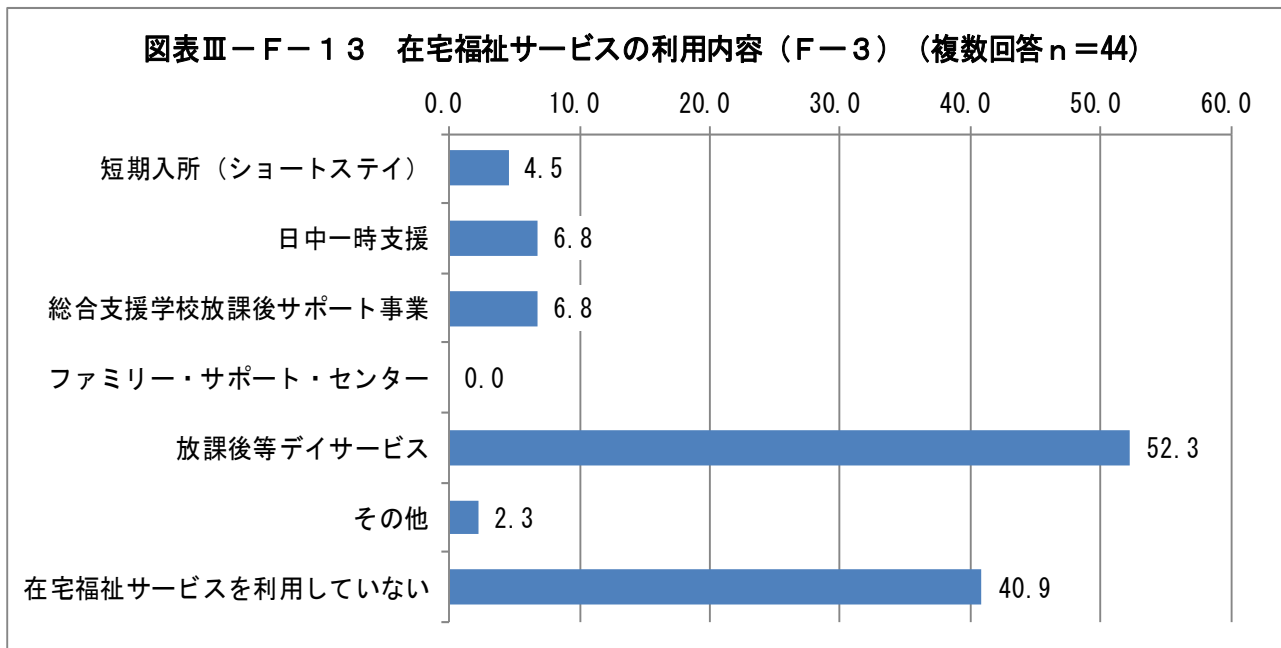
就学前児童：「児童発達支援」は、55.6%、短期入所（ショートステイ）は、5.6%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、33.3%である。



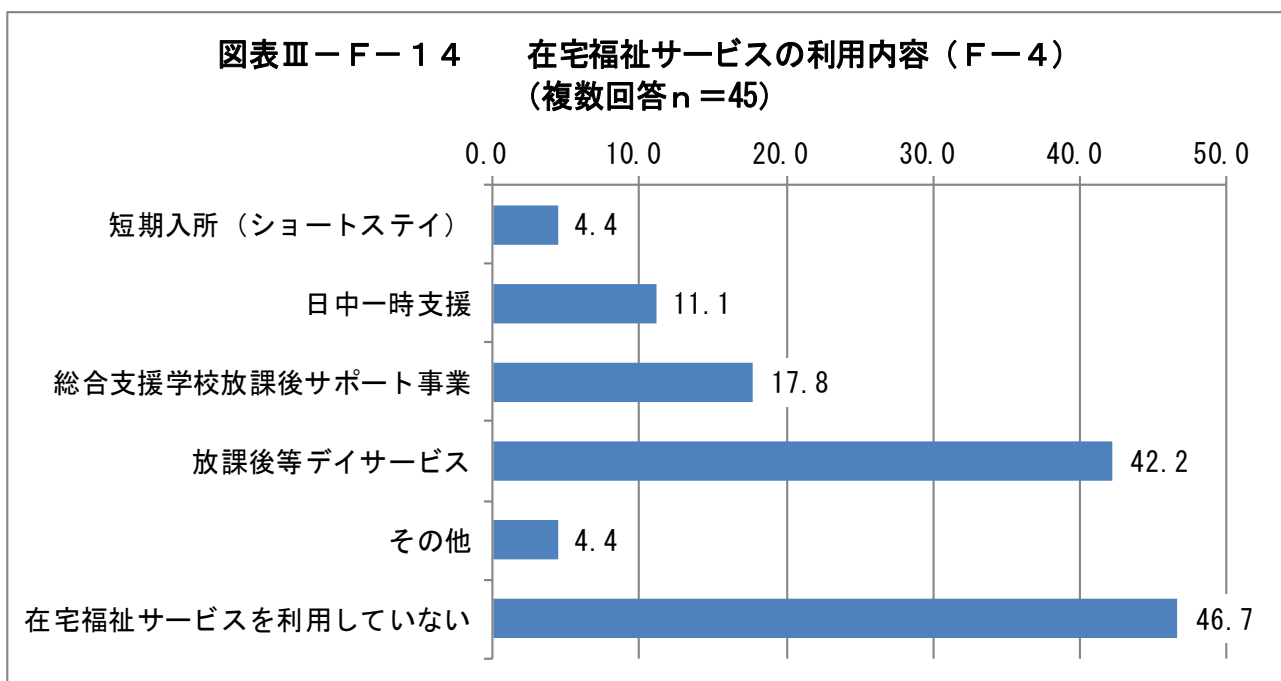
小学校段階：「放課後等デイサービス」は、67.3%、「総合支援学校放課後サポート事業」は、11.5%、「放課後児童クラブ」は、9.6%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、19.2%である。



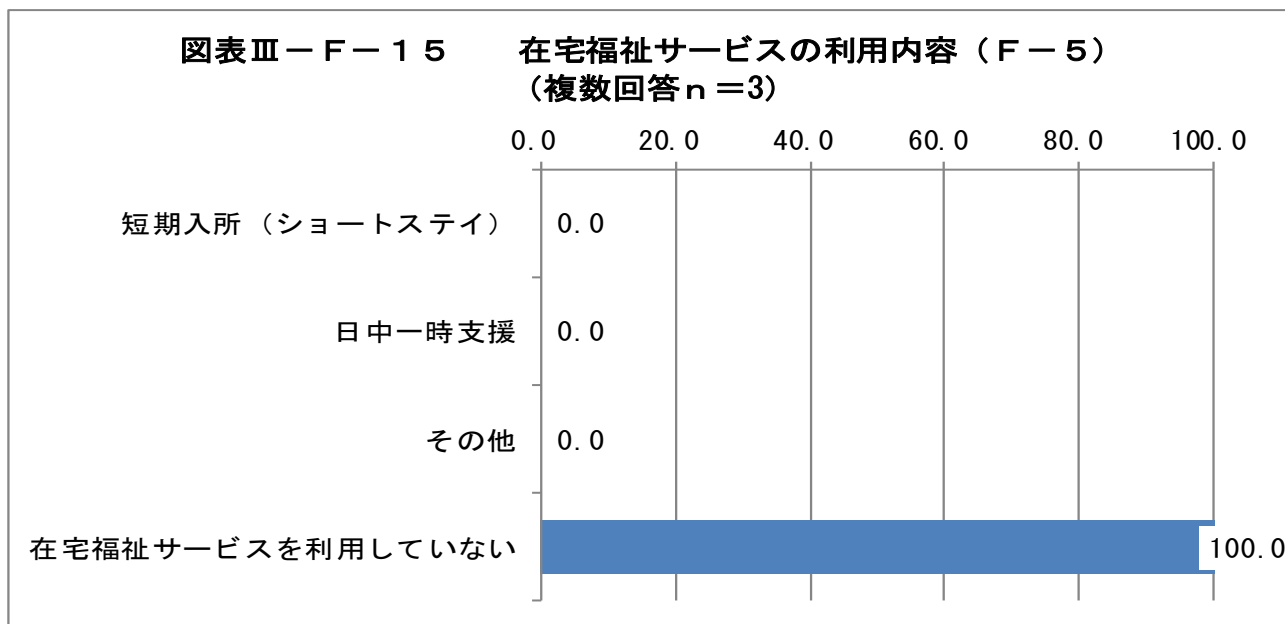
中学校段階：「放課後等デイサービス」は、52.3%、「総合支援学校放課後サポート事業」と「日中一時支援」は、ともに6.8%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、40.9%である。



高等学校段階：「放課後等デイサービス」は、42.2%、「総合支援学校放課後サポート事業」は、17.8%、「日中一時支援」は、11.1%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、46.7%である。



義務教育修了未就学：「在宅福祉サービスを利用していない」は、100.0%である。



## 2) 在宅福祉サービスの利用理由 (F問14)

問13で「在宅福祉サービスを利用している」と回答した人に、どのような理由で在宅福祉サービスを利用しているか複数回答でたずねた。

**全体の傾向**：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、53.8%、「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、40.4%、「親以外に面倒を見てくれる家族がないから」と「ときどき家族が休息をとってもらうため」は、ともに22.1%である。

**就学前児童**：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、58.3%である。

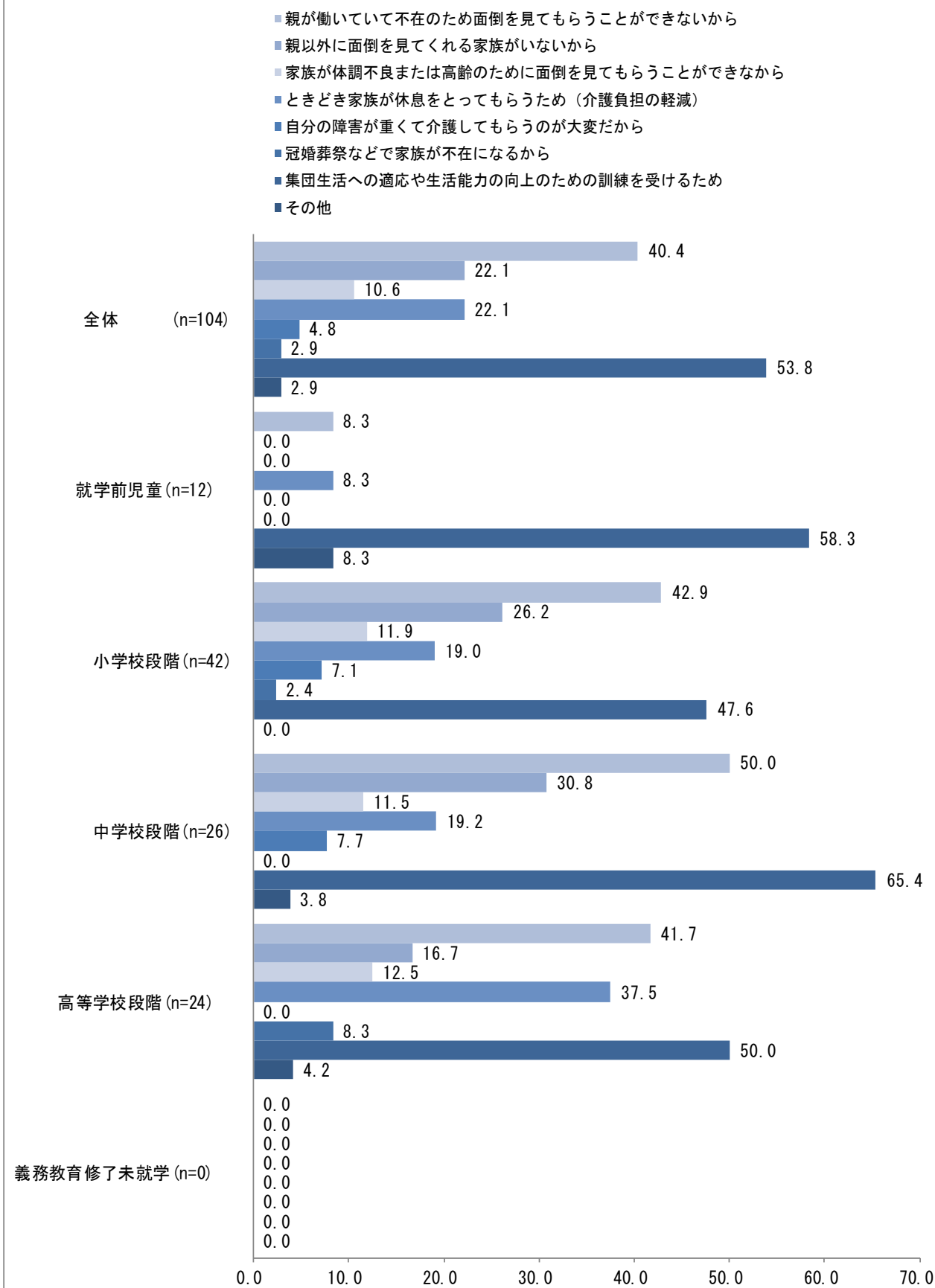
**小学校段階**：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、47.6%、「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、42.9%、「親以外に面倒を見てくれる家族がないから」は、26.2%である。

**中学校段階**：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、65.4%、「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、50.0%、「親以外に面倒を見てくれる家族がないから」は、30.8%である。

**高等学校段階**：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、50.0%、「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、41.7%、「ときどき家族が休息をとってもらうため」は、37.5%である。

**義務教育修了未就学**：回答者は、いなかった。

図表Ⅲ－F－16 在宅福祉サービスの利用理由（複数回答）



### 3) 在宅福祉サービスの利用度 (F問15)

問13で「在宅福祉サービスを利用している」と回答した人に、在宅福祉サービスは十分利用できているかたずねた。

全体の傾向：「十分に利用できている」と「おおむね利用できている」は、38.5%である。

就学前児童：「十分に利用できている」は、16.7%、「おおむね利用できている」は、41.7%である。

一方、「ほとんど利用できていない」は、16.7%である。

小学校段階：「十分に利用できている」は、35.7%、「おおむね利用できている」は、38.1%である。

中学校段階：「十分に利用できている」は、42.3%、「おおむね利用できている」は、34.6%である。

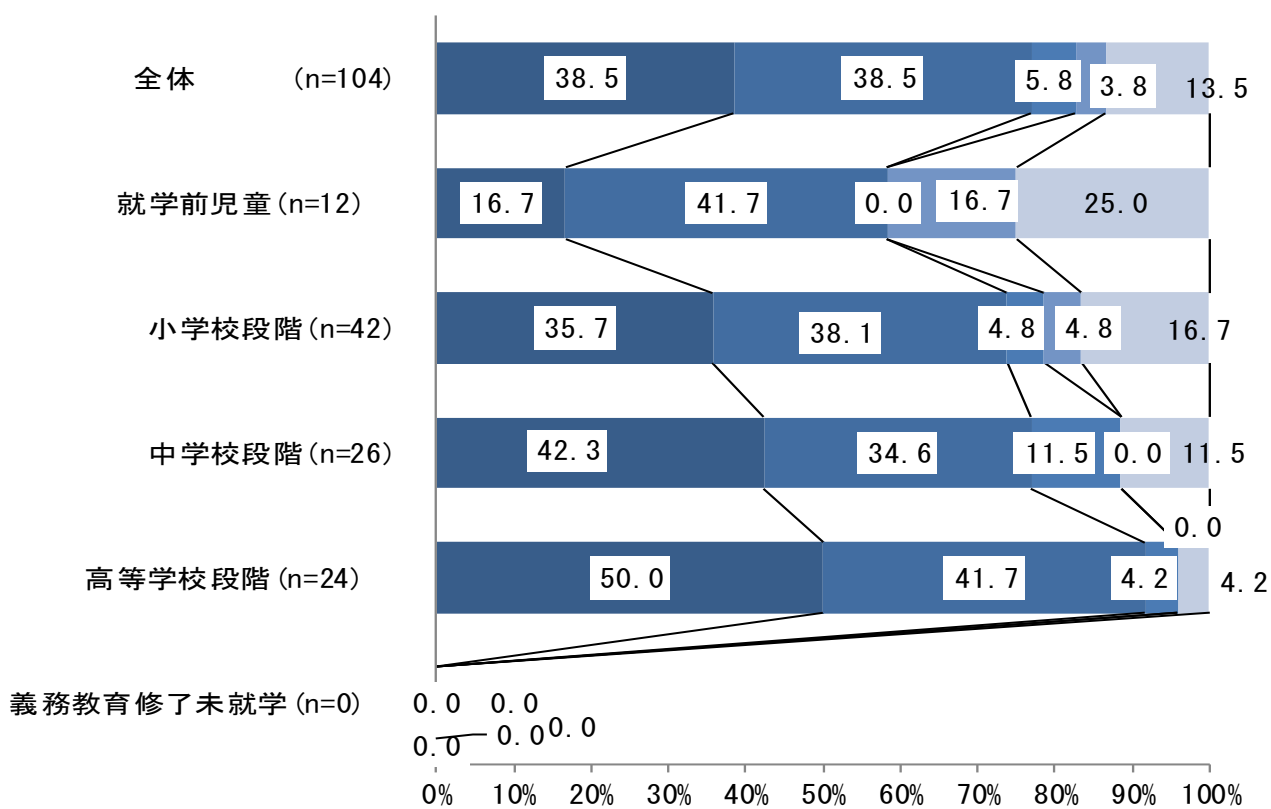
一方、「利用できないことがよくある」は、11.5%である。

高等学校段階：「十分に利用できている」は、50.0%、「おおむね利用できている」は、41.7%である。

義務教育修了未就学：回答者がいなかった。

図表Ⅲ－F－17 在宅福祉サービスの利用度

- 十分に利用できている
- おおむね利用できている
- 利用できないことがよくある
- ほとんど利用できていない
- 不明・無回答



#### 4) 在宅福祉サービスを利用していない理由（F問16）

問13で「在宅福祉サービスを利用していない」と回答した人に、在宅福祉サービスを利用しない理由をたずねた。

**全体の傾向：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、82.8%、「在宅福祉サービスのあることを知らなかったから」は、6.9%である。

**就学前児童：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、100.0%である。

**小学校段階：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、80.0%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスのあることを知らなかったから」は、ともに10.0%である。

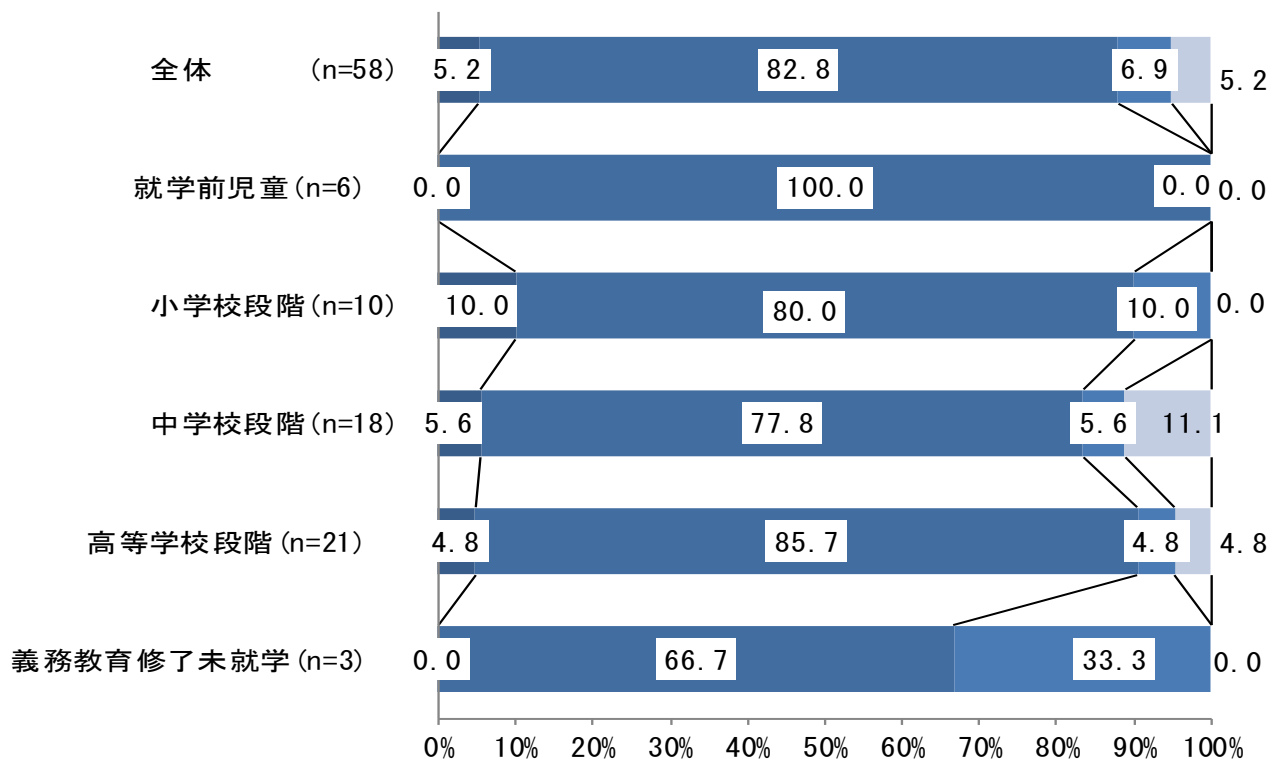
**中学校段階：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、77.8%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスのあることを知らなかったから」は、ともに5.6%である。

**高等学校段階：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、85.7%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスのあることを知らなかったから」は、ともに4.8%である。

**義務教育修了未就学：**「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、66.7%、「在宅福祉サービスのあることを知らなかったから」は、33.3%である。

**図表Ⅲ－F－18 在宅福祉サービスを利用しない理由**

- 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから
- 在宅福祉サービスを利用する必要がないから（施設入所している方も含みます）
- 在宅福祉サービスのあることを知らなかったから
- 不明・無回答



#### 5) 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと (F問17)

問15で「利用できないことがよくある」または「ほとんど利用できていない」、問16で「在宅福祉サービスを利用したいが十分に利用できないから」と回答した人に、在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることを複数回答でたずねた。

**全体の傾向:**「家族の用事をキャンセルした」は、38.5%、「祖父母など親以外の家族の負担が増えた」は、23.1%である。

**就学前児童:**「その他」は、100.0%である。

**小学校段階:**「家族の用事をキャンセルした」は、40.0%である。

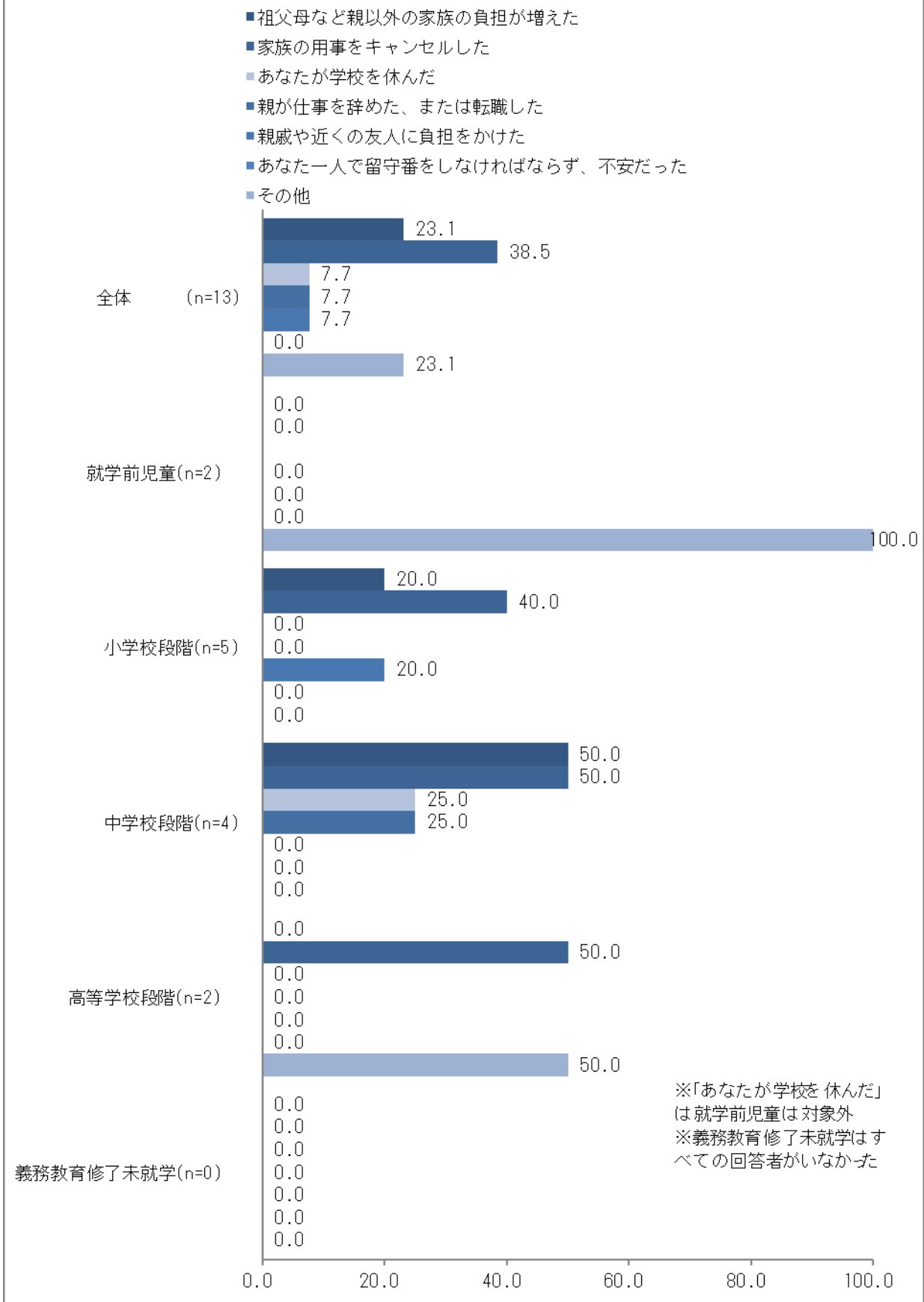
**中学校段階:**「祖父母など親以外の家族の負担が増えた」と「家族の用事をキャンセルした」は、ともに50.0%である。

**高等学校段階:**「家族の用事をキャンセルした」は、50.0%である。

**義務教育修了未就学:**対象はいなかった。



図表Ⅲ－F－19 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと  
(複数回答)



## 6 障害のある人への差別について

1) 障害を理由として差別されたと感じた場面、2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えることについてたずねた。

### 1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（F問18）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面について複数回答でたずねた。

**全体の傾向：**「教育に関する場面」は、21.6%、「買い物・外食の場面」は、13.6%、「公共施設を利用する場面」は、10.5%である。一方、「差別を感じたことはない」は、54.9%である。

**就学前児童：**「教育に関する場面」は、16.7%、「公共施設を利用する場面」と「買い物・外食の場面」は、ともに11.1%である。一方、「差別を感じたことはない」は、61.1%である。

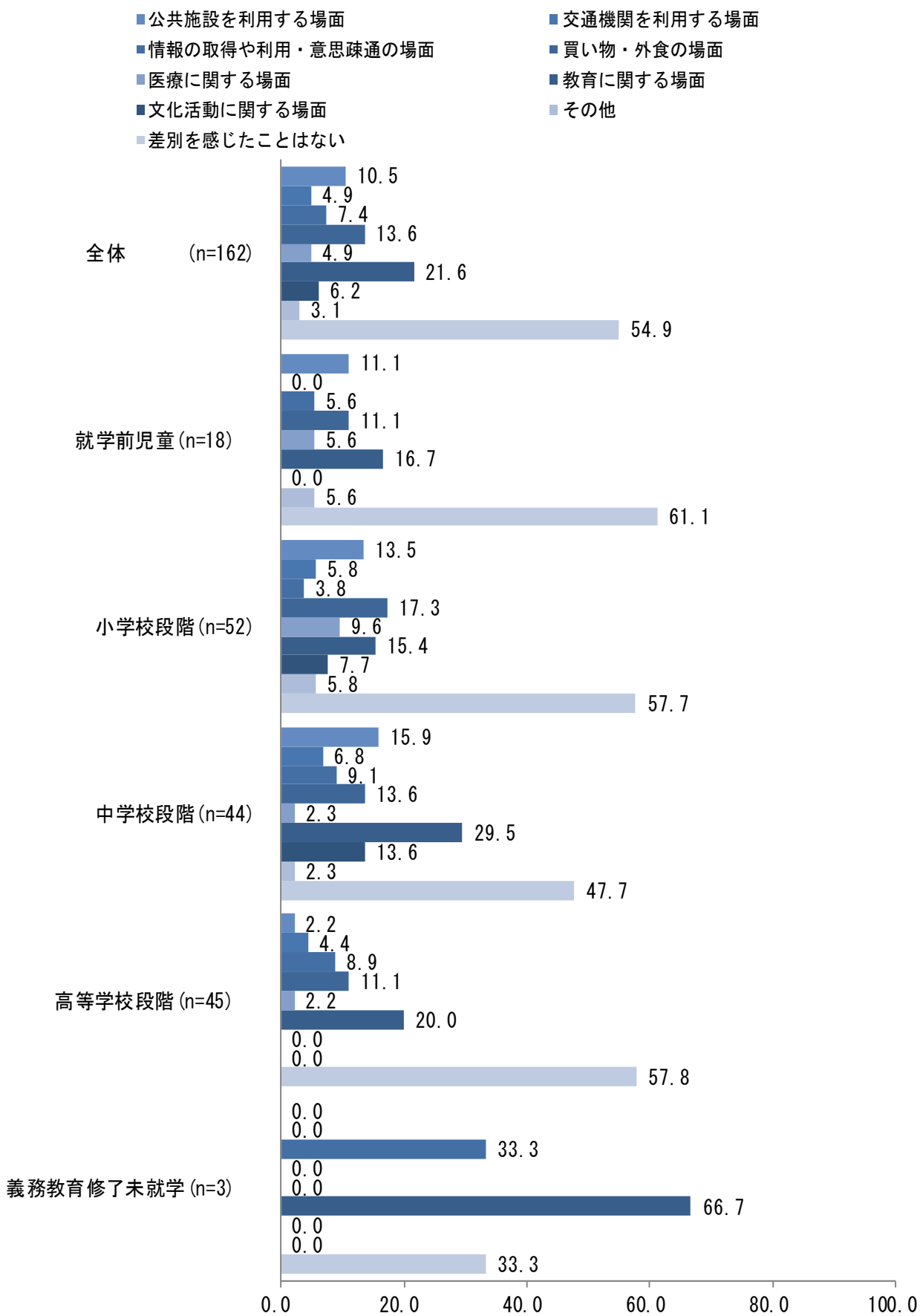
**小学校段階：**「買い物・外食の場面」は、17.3%、「教育に関する場面」は、15.4%、「公共施設を利用する場面」は、13.5%である。一方、「差別を感じたことはない」は、57.7%である。

**中学校段階：**「教育に関する場面」は、29.5%、「公共施設を利用する場面」は、15.9%、「買い物・外食の場面」と「文化活動に関する場面」は、ともに13.6%である。一方、「差別を感じたことはない」は、47.7%である。

**高等学校段階：**「教育に関する場面」は、20.0%、「買い物・外食の場面」は、11.1%である。一方、「差別を感じたことはない」は、57.8%である。

**義務教育修了未就学：**「教育に関する場面」は、66.7%、「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、33.3%である。一方、「差別を感じたことはない」は、33.3%である。

図表Ⅲ－F－20 障がい差別と感ずる場面（複数回答）



## 2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (F問19)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることをたずねた。

全体の傾向：「福祉教育を充実させる」は、20.3%、「教育における配慮をさらに進める」は、18.8%である。

就学前児童：「福祉教育を充実させる」と「施設や設備のバリアフリー化をさらに進める」と「行政機関における配慮をさらに進める」は、ともに33.3%である。

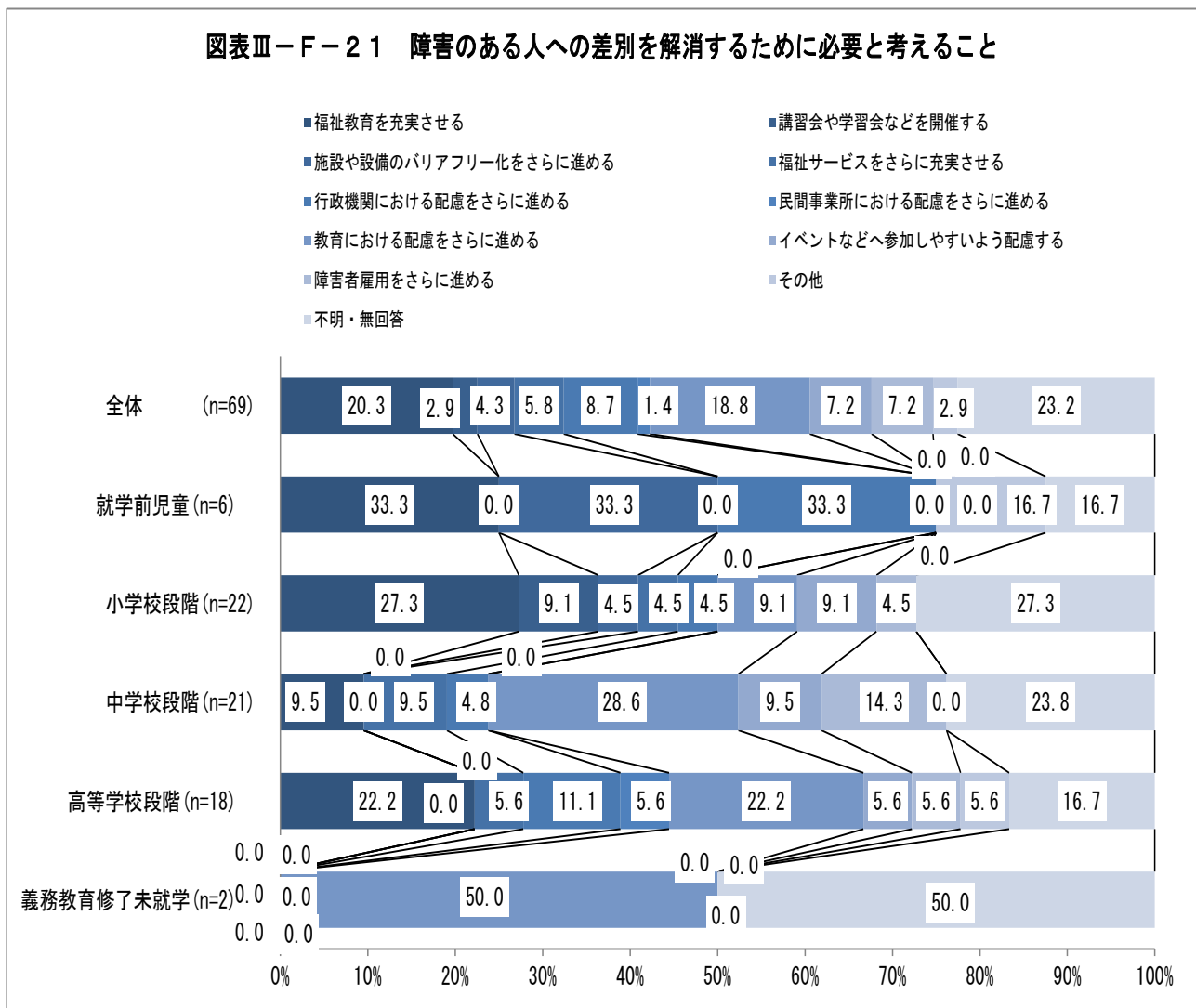
小学校段階：「福祉教育を充実させる」は、27.3%である。

中学校段階：「教育における配慮をさらに進める」は、28.6%、「障害者雇用をさらに進める」は、14.3%である。

高等学校段階：「福祉教育を充実させる」と「教育における配慮をさらに進める」は、ともに22.2%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、11.1%である。

義務教育修了未就学：「教育における配慮をさらに進める」は、50.0%である。

図表Ⅲ-F-21 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること



## 個別回答項目（Ⅱ）

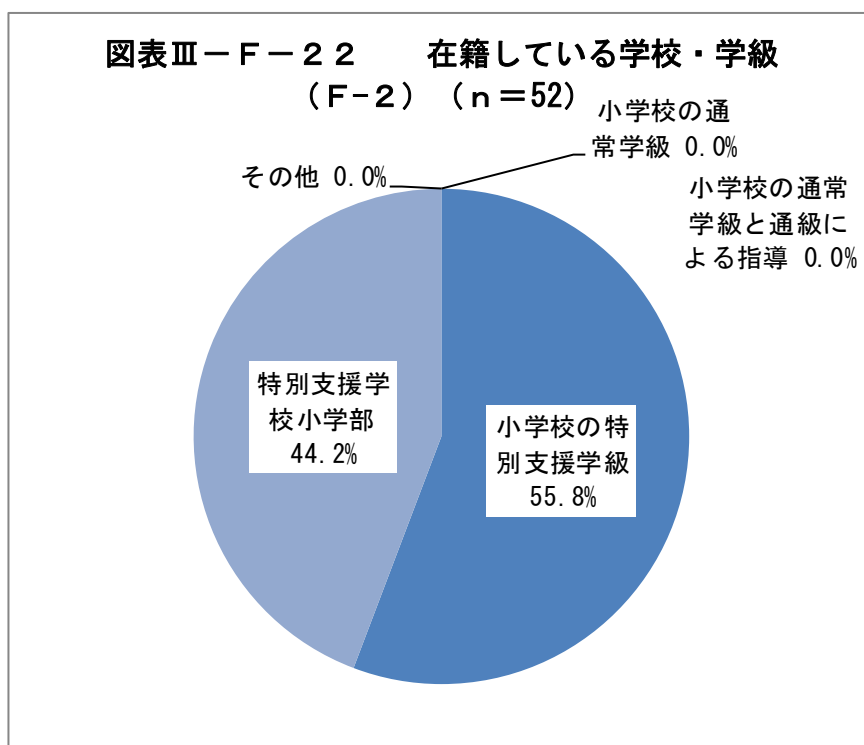
### 1 学校について

1) 在籍している学校・学級、2) 在籍していた学校・学級の種類、3) 学校・学級に通うきっかけについてたずねた。

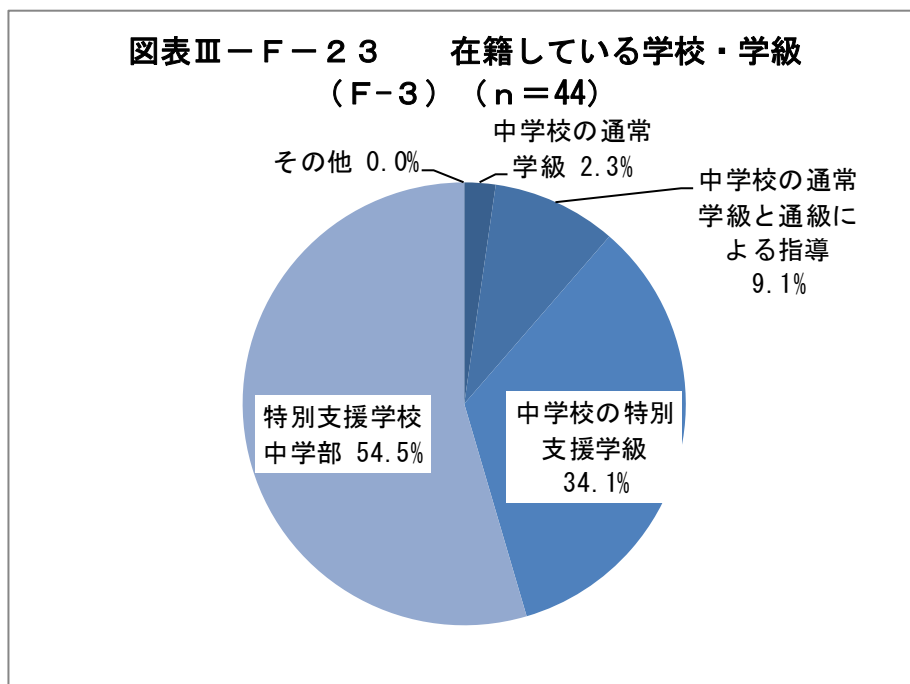
#### 1) 在籍している学校・学級（F-2問1・F-3問1・F-4問1）

現在、在籍している学校・学級についてたずねた。

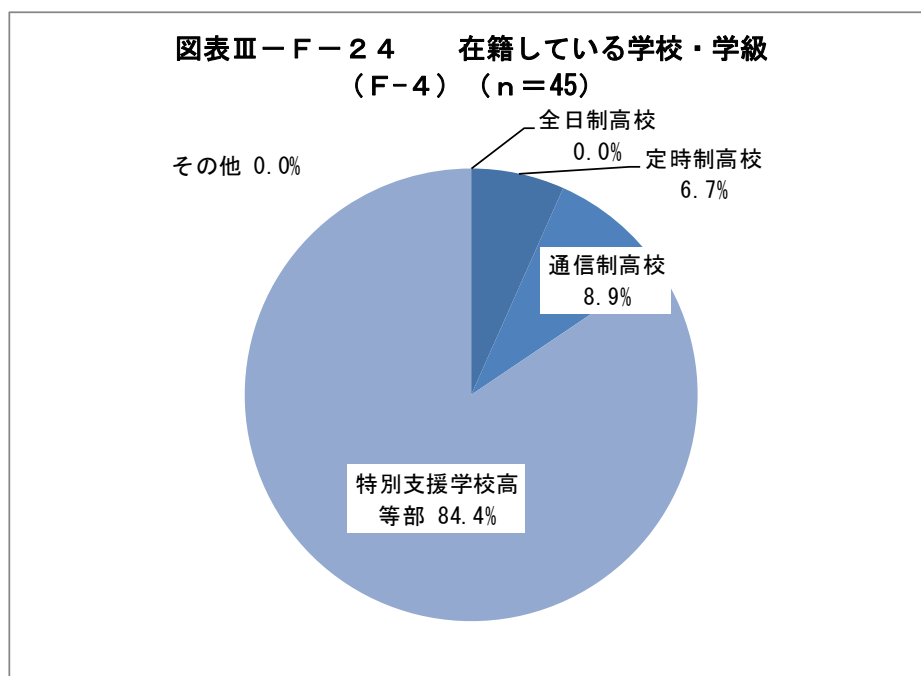
小学校段階：「小学校の特別支援学級」は、55.8%、「特別支援学校小学部」は、44.2%である。



中学校段階：「特別支援学校中学部」は、54.5%、「中学校の特別支援学級」は、34.1%、「中学校の通常学級と通級による指導」は、9.1%である。



高等学校段階：「特別支援学校高等部」は、84.4%、「通信制高校」は、8.9%、「定時制高校」は、6.7%である。

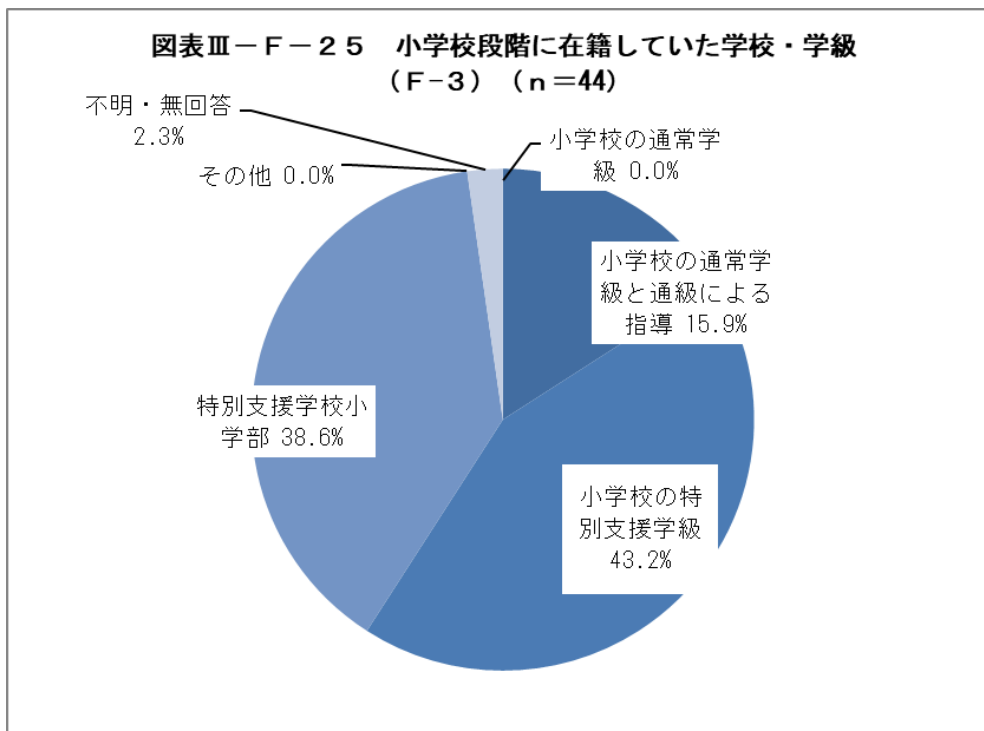


## 2) 在籍していた学校・学級の種類

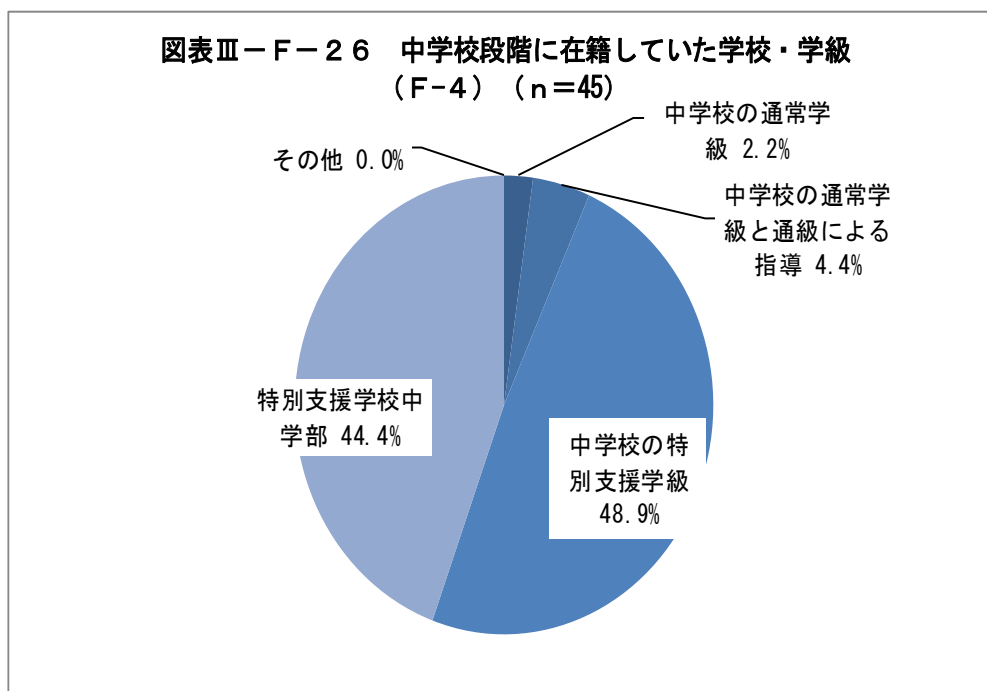
### ①以前の教育段階における学校・学級（F-3問2・F-4問2）

以前の教育段階で在籍していた学校・学級についてたずねた。

中学校段階：「小学校の特別支援学級」は、43.2%、「特別支援学校小学部」は、38.6%、「小学校の通常学級と通級による指導」は、15.9%である。



高等学校段階：「中学校の特別支援学級」は、48.9%、「特別支援学校中学部」は、44.4%、「中学校の通常学級と通級による指導」は、4.4%、「中学校の通常学級」は、2.2%である。



②学校・学級の変更の有無（F-2問2（1）・F-3問3（1）・F-4問3（1））

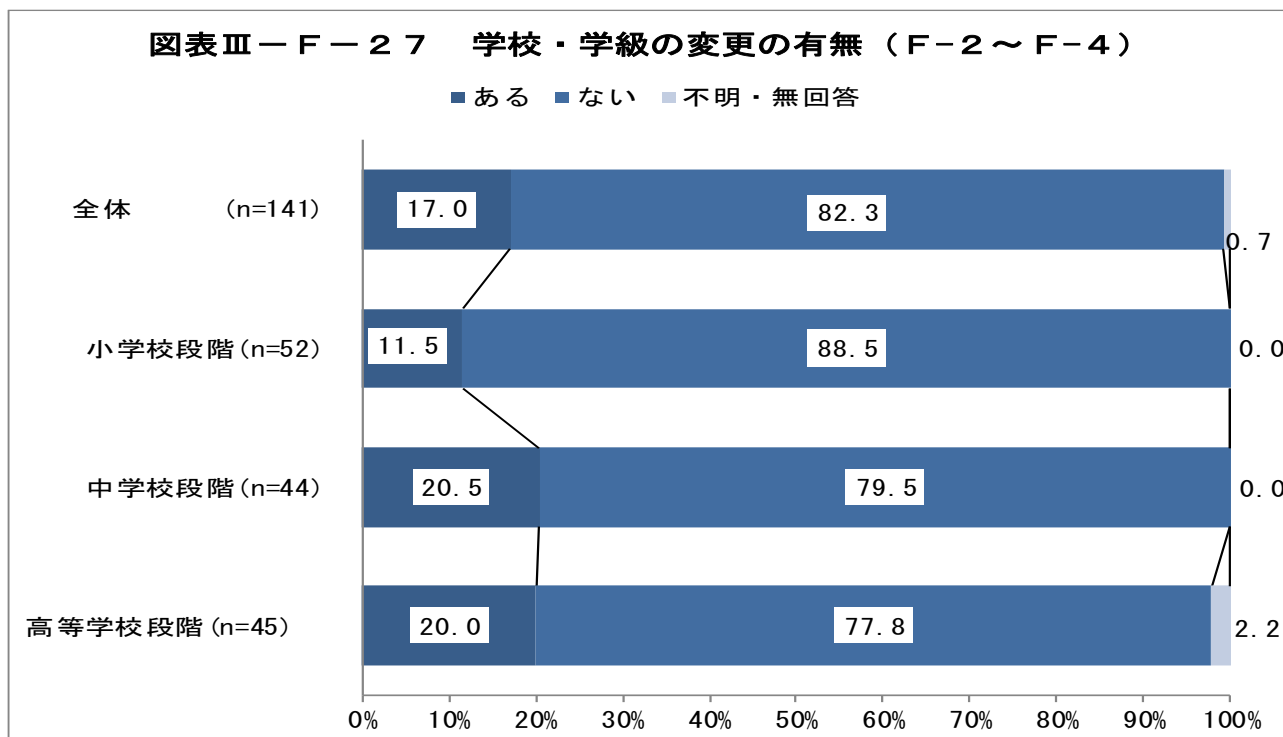
現在在籍している学校・学級以前に在籍していた学校・学級の有無についてたずねた。

全体の傾向：「ない」は、82.3%、「ある」は、17.0%である。

小学校段階：「ない」は、88.5%、中学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。

中学校段階：「ない」は、79.5%、「ある」は、20.5%である。

高等学校段階：「ない」は、77.8%、小学校段階、中学校段階に比べて割合が低い。

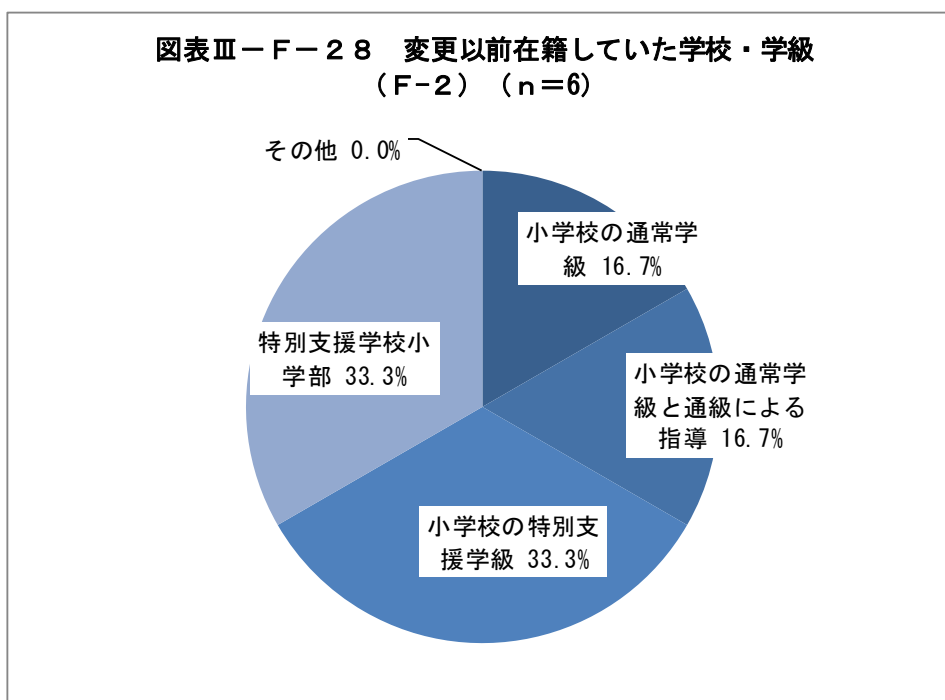




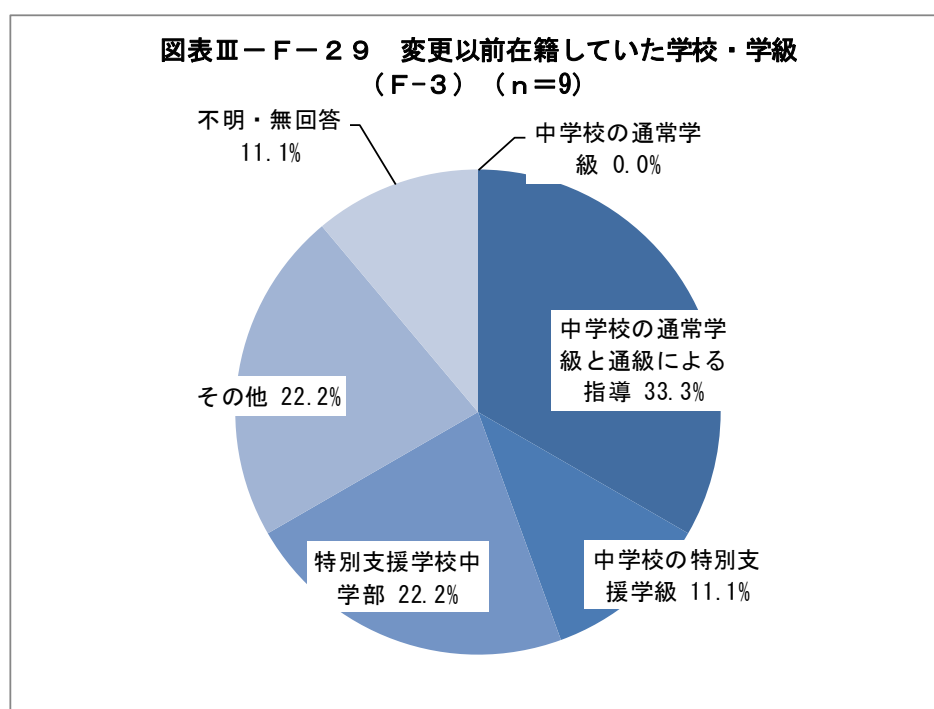
### ③変更以前の学校・学級の種類（F-2問2（2）・F-3問3（2）・F-4問3（2））

問2（1）または問3（1）で「ある」と回答した人に、変更以前に在籍していた学校・学級の種類についてたずねた。

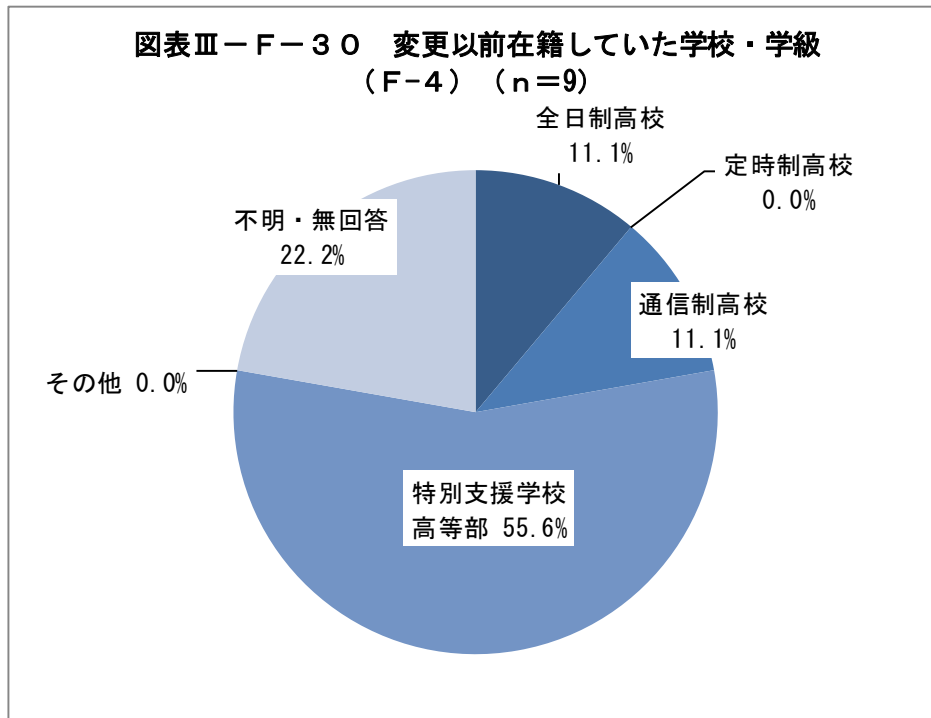
小学校段階：「小学校の特別支援学級」と「特別支援学校小学部」は、ともに33.3%、「小学校の通常学級」と「小学校の通常学級と通級による指導」は、ともに16.7%である。



中学校段階：「中学校の通常学級と通級による指導」は、33.3%、「特別支援学校中学部」は、22.2%、「中学校の特別支援学級」は、11.1%である。



高等学校段階：「特別支援学校高等部」は、55.6%、「全日制高校」と「通信制高校」は、ともに11.1%である。



### 3) 学校・学級に通うきっかけ (F-2問3・F-3問4・F-4問4)

在籍している学校・学級に通うことになったきっかけを複数回答でたずねた。

**全体の傾向：**「親が情報を集めて希望した」は、61.0%、「担任やコーディネーターなどの助言」は、44.7%、「本人が希望した」は、19.9%、「利用していた施設や機関で紹介された」は、14.2%である。

**小学校段階：**「親が情報を集めて希望した」は、78.8%で、中学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。「担任やコーディネーターなどの助言」は、40.4%、「利用していた施設や機関で紹介された」は、26.9%で、中学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。

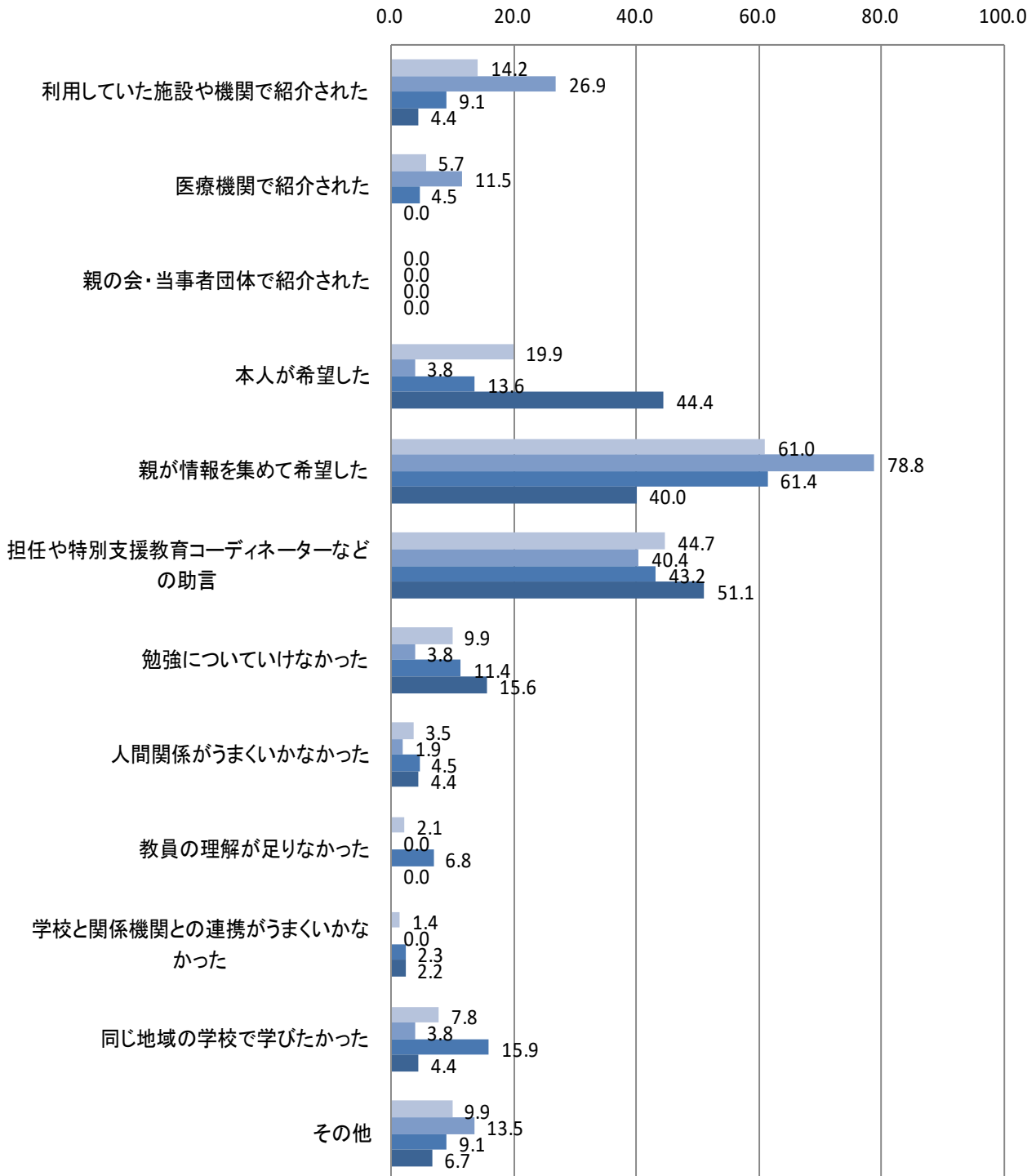
**中学校段階：**「親が情報を集めて希望した」は、61.4%、「担任やコーディネーターなどの助言」は、43.2%、「同じ地域の学校で学びたかった」は、15.9%で、小学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。

**高等学校段階：**「担任やコーディネーターなどの助言」は、51.1%で、小学校段階、中学校段階に比べて割合が高い。「本人が希望した」は、44.4%で、小学校段階、中学校段階に比べて割合が高い。「親が情報を集めて希望した」は、40.0%である。

図表Ⅲ－F－3 1 在籍している学校・学級に通うことになったきっかけ

(F-2～F-4) (複数回答)

■全体 (n=141) ■小学校段階(n=52) ■中学校段階(n=44) ■高等学校段階(n=45)



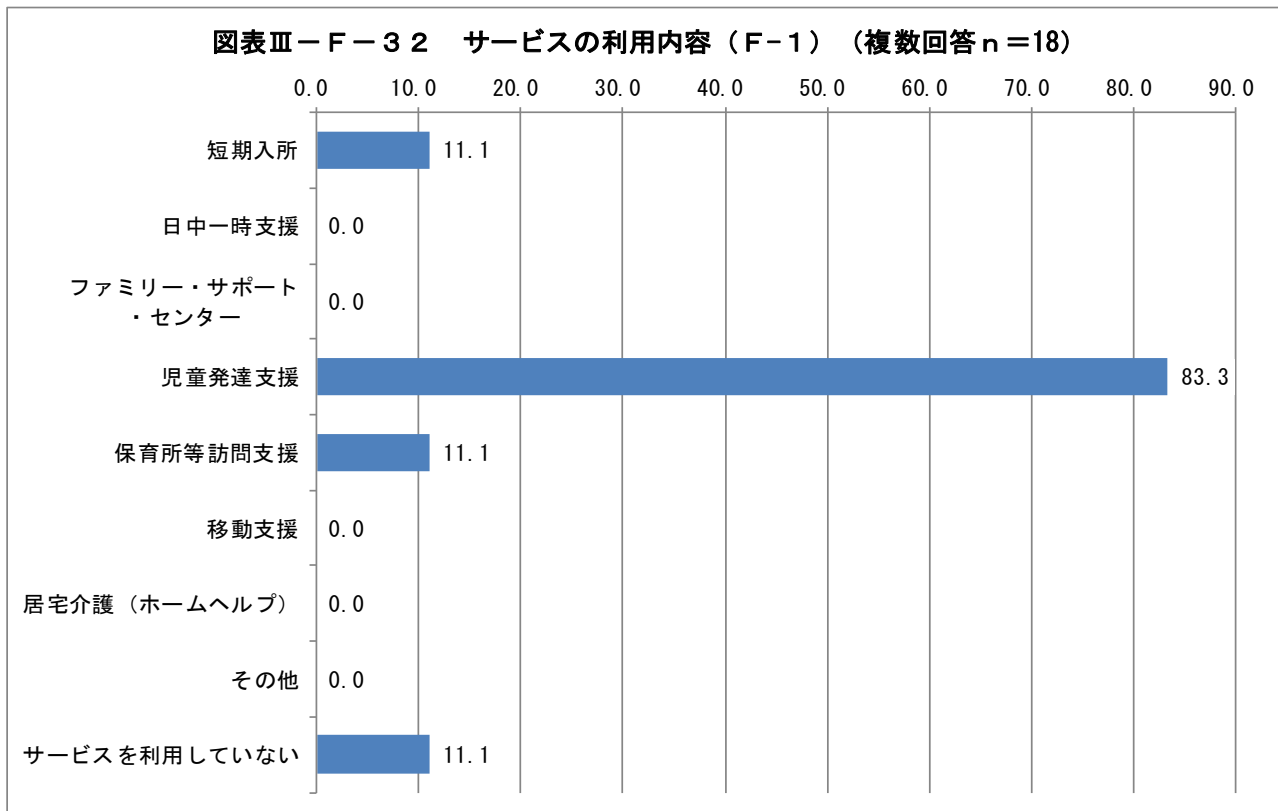
## 2 サービス利用について

1) サービスの利用内容、2) サービスの情報取得、3) サービスを利用していない理由、4) 今後利用したいサービス内容についてたずねた。

### 1) サービスの利用内容（F-1問1・F-2問4・F-3問5・F-4問5）

どのようなサービスを利用しているか複数回答でたずねた。

就学前児童：「児童発達支援」は、83.3%、「短期入所」と「保育所等訪問支援」は、ともに11.1%である。一方、「サービスを利用していない」は、11.1%である。



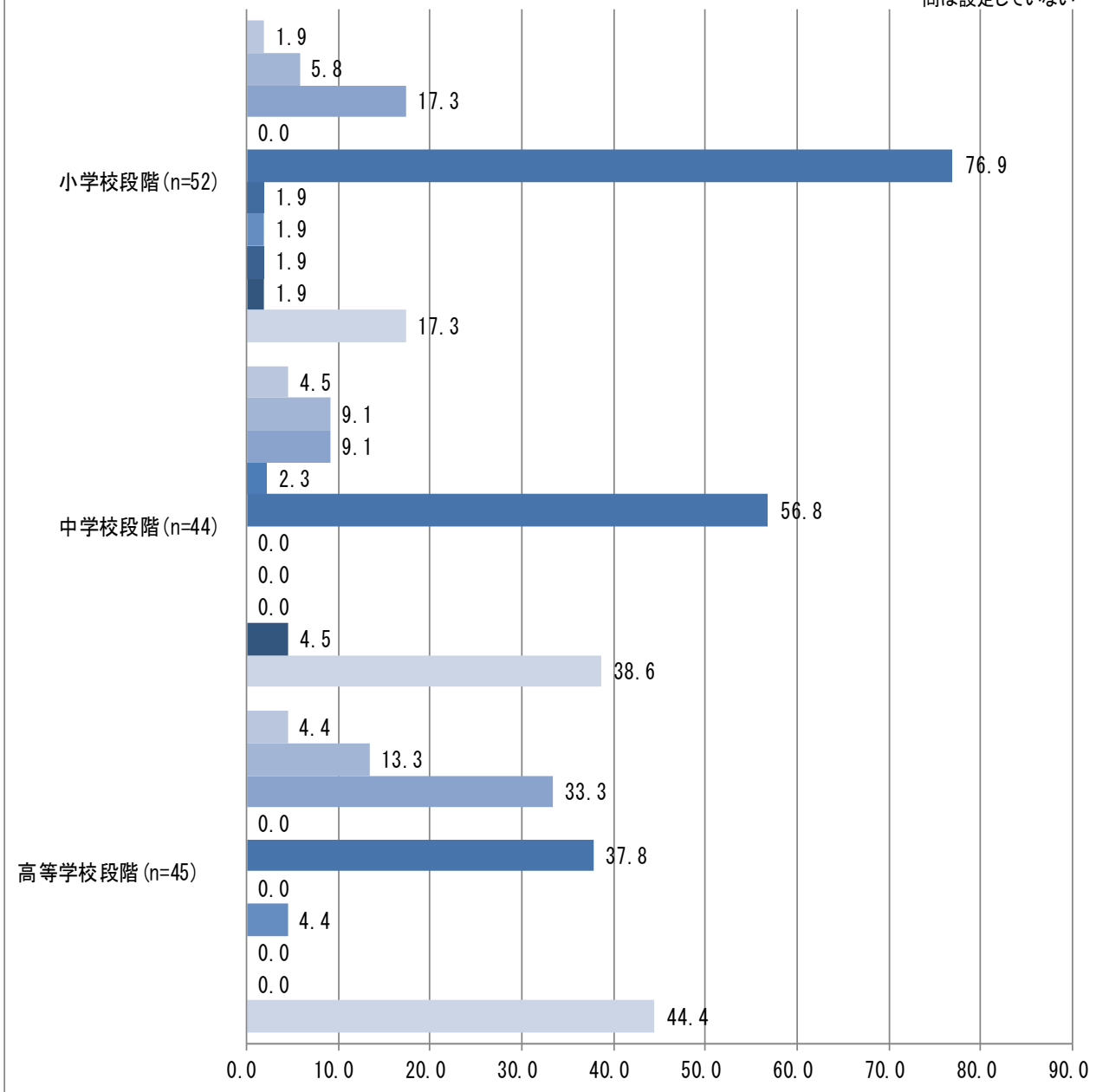
小学校段階：「放課後等デイサービス」は、76.9%で、中学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。「総合支援学校放課後サポート」は、17.3%である。一方、「サービスを利用していない」は、17.3%である。

中学校段階：「放課後等デイサービス」は、56.8%である。一方、「サービスを利用していない」は、38.6%である。

高等学校段階：「放課後等デイサービス」は、37.8%、「総合支援学校放課後サポート」は、33.3%で、小学校段階、中学校段階に比べて割合が高い。一方、「サービスを利用していない」は、44.4%で、小学校段階、中学校段階に比べて割合が高い。

図表Ⅲ－F－33 サービスの利用状況（F-2～F-4）（複数回答）

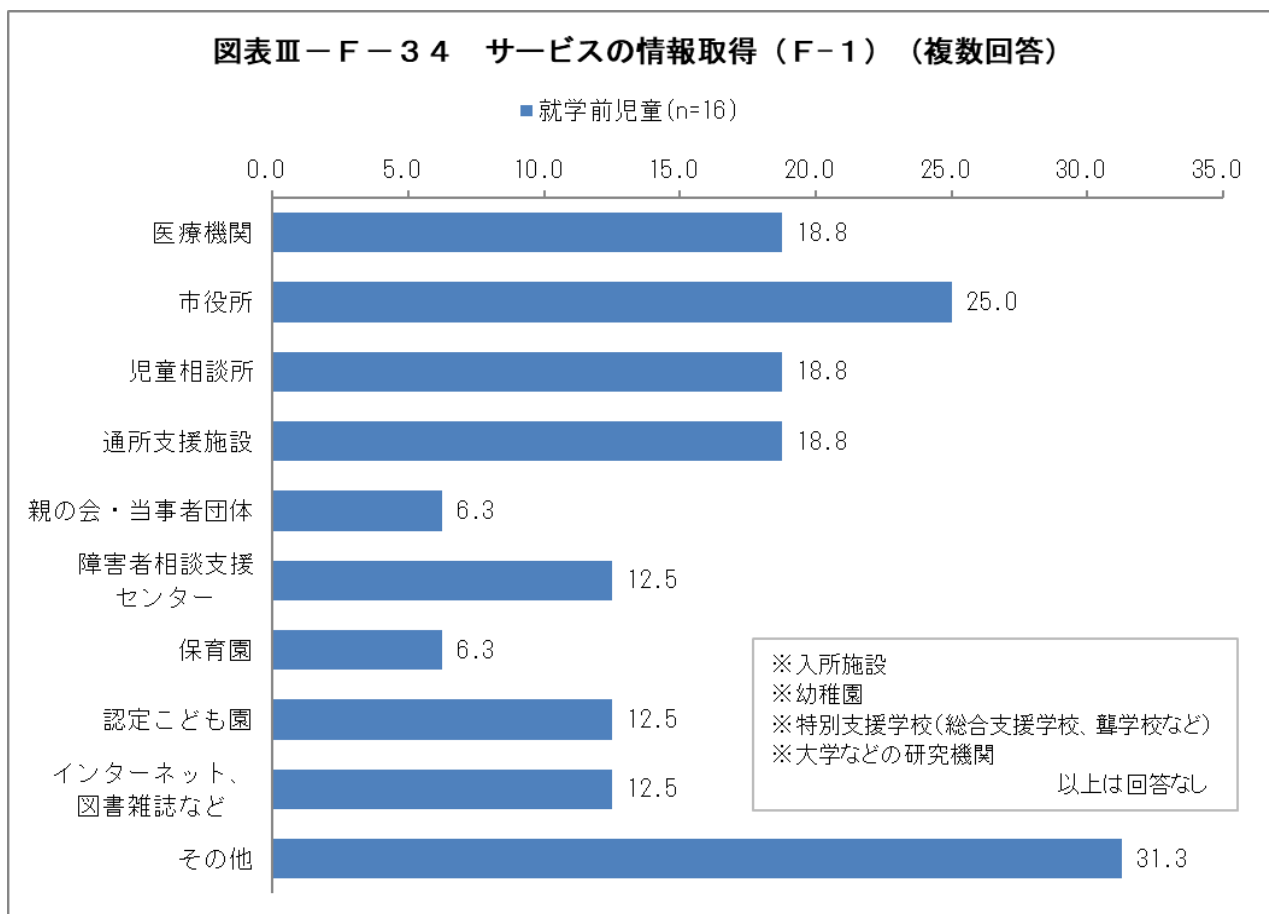
- 短期入所（ショートステイ）
  - ファミリー・サポート・センター
  - 移動支援
  - サービスを利用していない
  - 日中一時支援
  - 放課後等デイサービス
  - 居宅介護（ホームヘルプ）
  - 総合支援学校放課後サポート事業
  - 施設入所
  - その他
- ※ファミリー・サポート・センターは、高等学校段階に対する設問は設定していない



2) サービスの情報取得 (F-1問2・F-2問5・F-3問6・F-4問6)

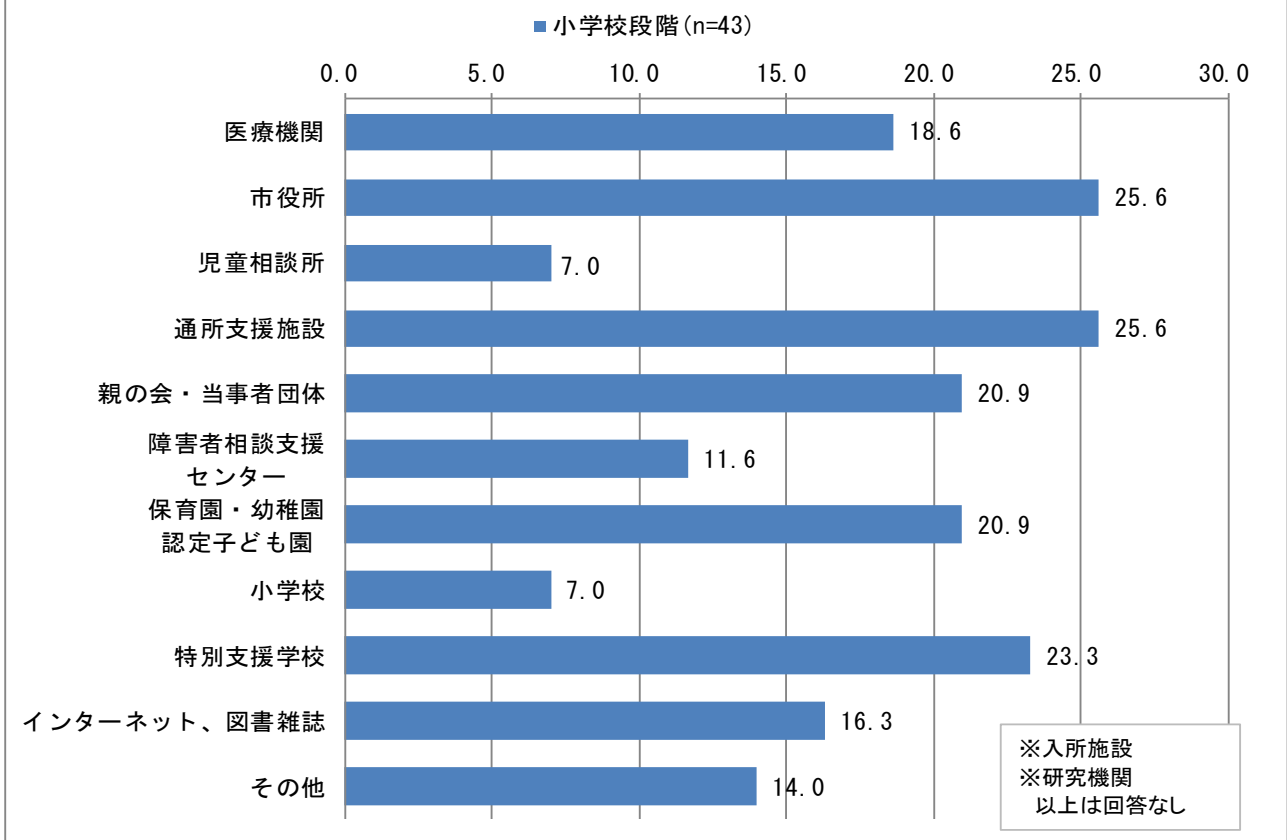
問1、問4または問5で「利用している」と回答した人に、サービスを利用するためにどこから情報を取得したか複数回答でたずねた。

就学前児童：「市役所」は、25.0%、「医療機関」と「児童相談所」と「通所支援施設」は、ともに18.8%である。「その他」は除く)



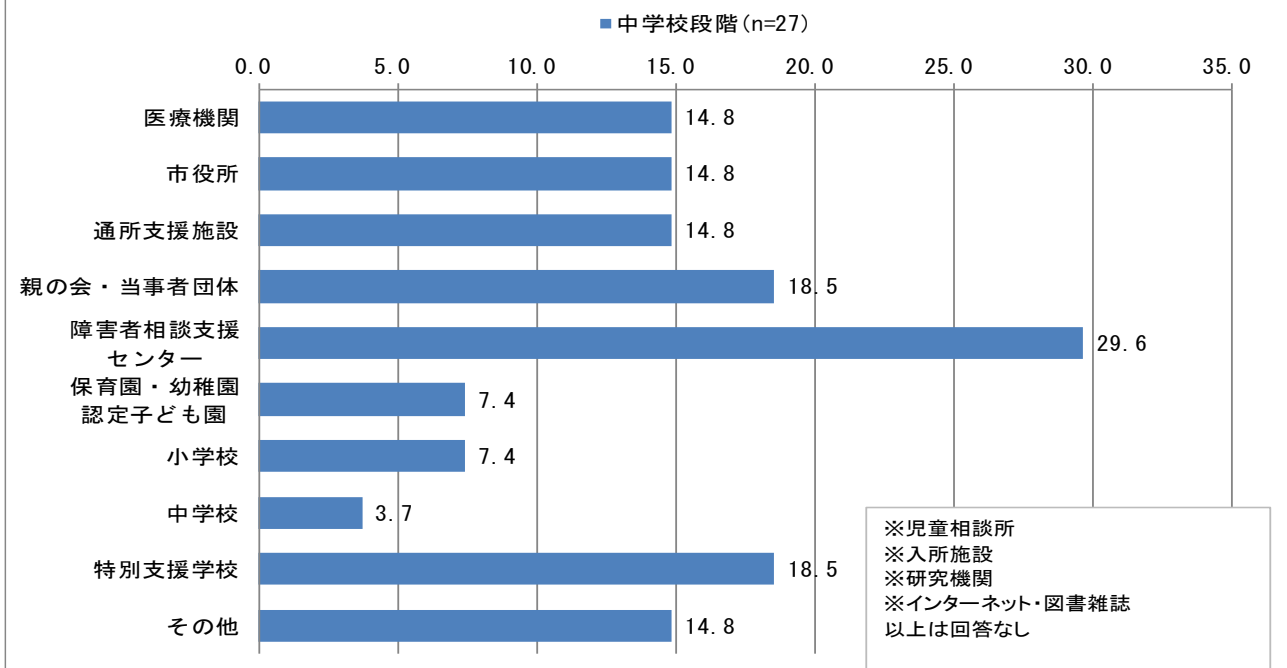
小学校段階：「市役所」と「通所支援施設」は、ともに 25.6%、「特別支援学校」は、23.3%、「親の会・当事者団体」と「保育園・幼稚園・認定こども園」は、ともに 20.9%、「医療機関」は、18.6%である。

図表Ⅲ－F－35 サービスの情報取得（F-2）（複数回答）



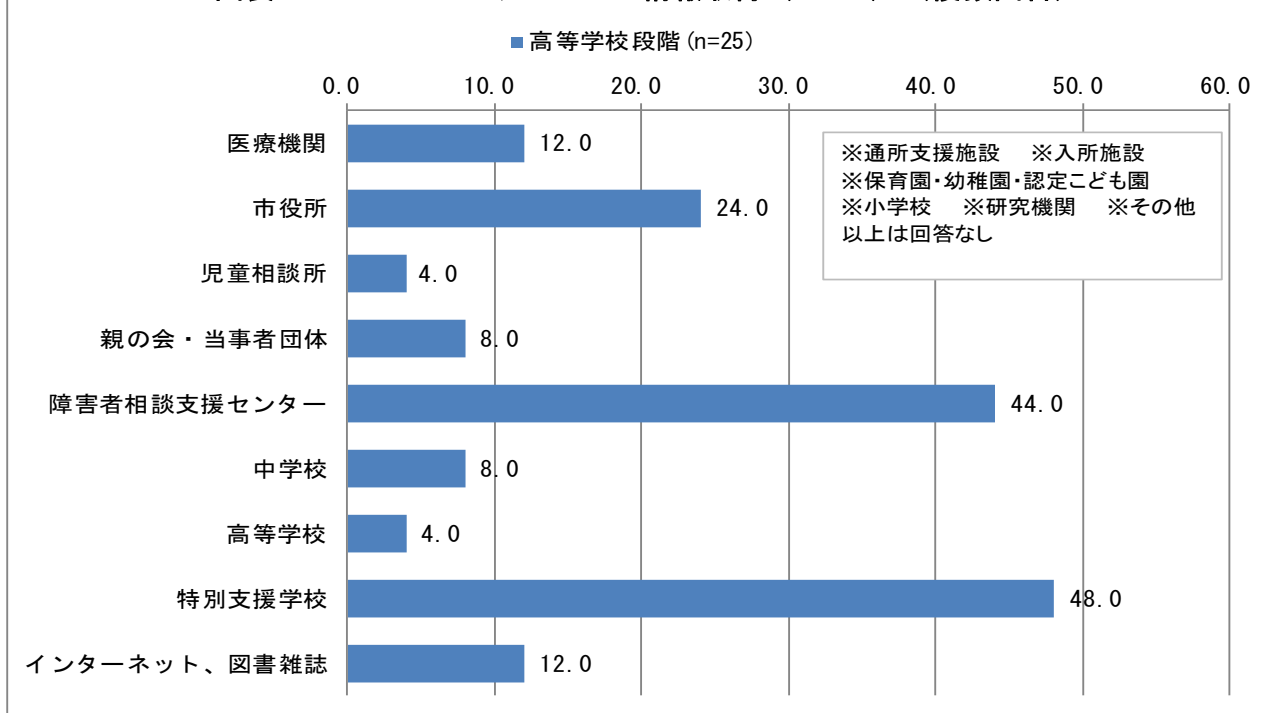
中学校段階：「障害者相談支援センター」は、29.6%、「親の会・当事者団体」と「特別支援学校」は、ともに 18.5%、「医療機関」と「市役所」と「通所支援施設」は、ともに 14.8%である。

図表Ⅲ－F－36 サービスの情報取得（F-3）（複数回答）



高等学校段階：「特別支援学校」は、48.0%、「障害者相談支援センター」は、44.0%、「市役所」は、24.0%である。

図表Ⅲ－F－37 サービスの情報取得（F-4）（複数回答）





### 3) サービスを利用していない理由 (F-1問3・F-2問6・F-3問7・F-4問7)

問1、問4または問5で「利用していない」と回答した人に、サービスを利用していない理由をたずねた。

全体の傾向：「サービスを利用する必要がないから」は、72.9%、「必要なサービスがないから」は、16.7%である。

就学前児童：「サービスを利用する必要がないから」は、100.0%である。

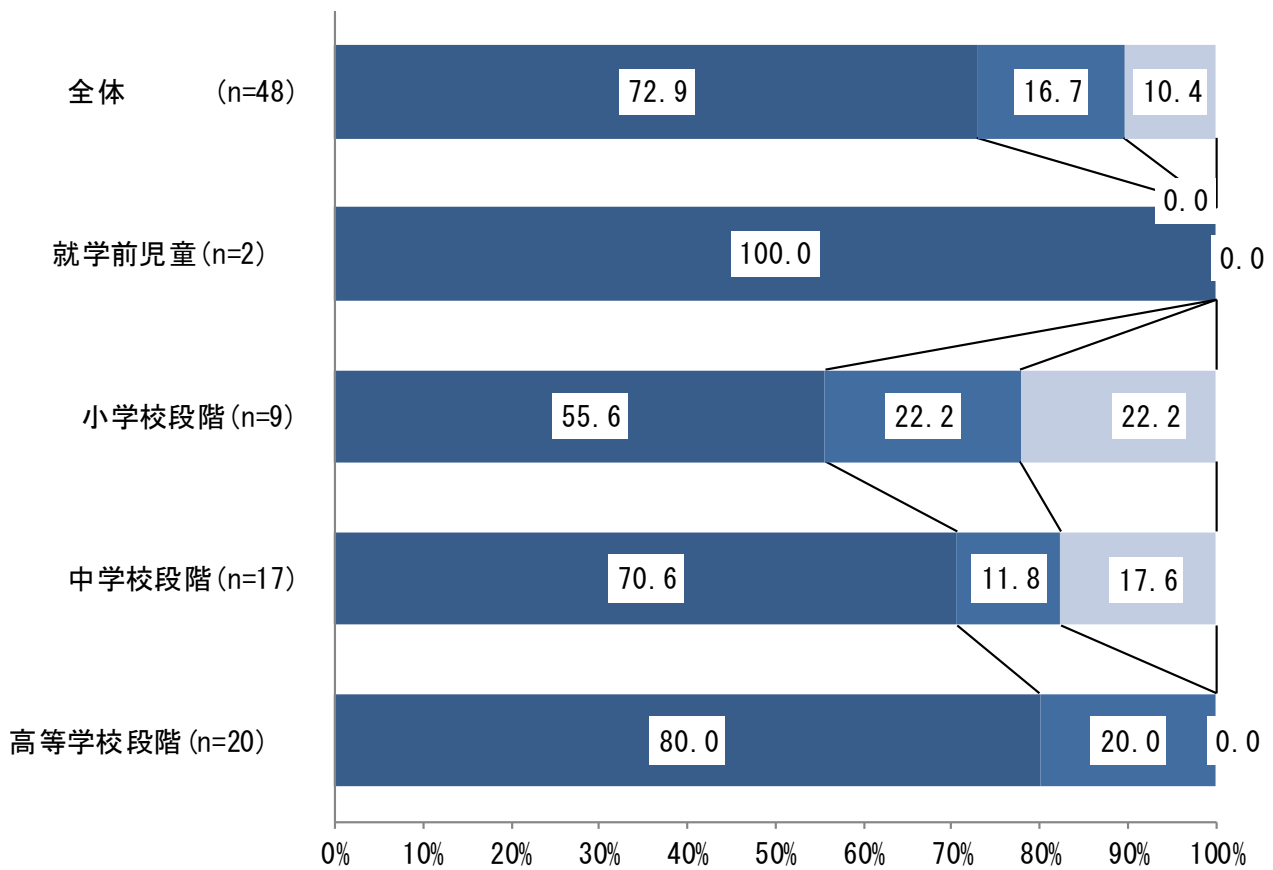
小学校段階：「サービスを利用する必要がないから」は、55.6%、「必要なサービスがないから」は、22.2%である。

中学校段階：「サービスを利用する必要がないから」は、70.6%、「必要なサービスがないから」は、11.8%である。

高等学校段階：「サービスを利用する必要がないから」は、80.0%、「必要なサービスがないから」は、20.0%である。

図表Ⅲ－F－38 サービスを利用しない理由 (F-1～F-4)

■ サービスを利用する必要がないから ■ 必要なサービスがないから ■ その他



4) 今後利用したいサービス内容 (F-1問4・F-2問7・F-3問8・F-4問8)

今後どのようなサービスを利用したいか複数回答でたずねた。

全体の傾向: 「地域交流」は、62.9%、「日帰りデイサービス」は、39.6%、「短期入所」は、28.3%である。

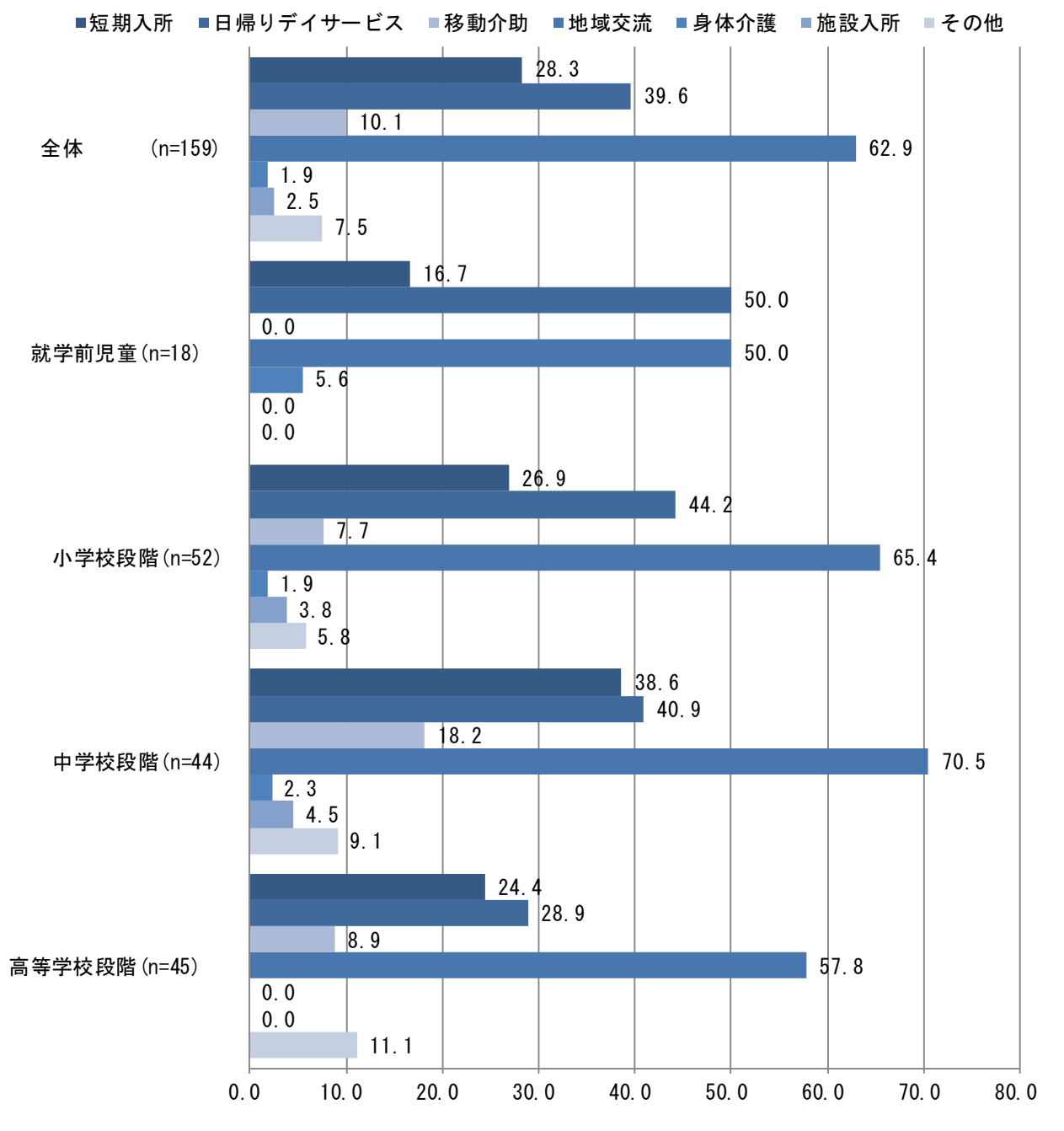
就学前児童: 「地域交流」と「日帰りデイサービス」は、ともに50.0%である。

小学校段階: 「地域交流」は、65.4%、「日帰りデイサービス」は、44.2%、「短期入所」は、26.9%である。

中学校段階: 「地域交流」は、70.5%で、就学前児童、小学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。「日帰りデイサービス」は、40.9%、「短期入所」は、38.6%である。

高等学校段階: 「地域交流」は、57.8%、「日帰りデイサービス」は、28.9%、「短期入所」は、24.4%である。

図表Ⅲ-F-39 今後のサービス利用希望 (F-1~F-4) (複数回答)



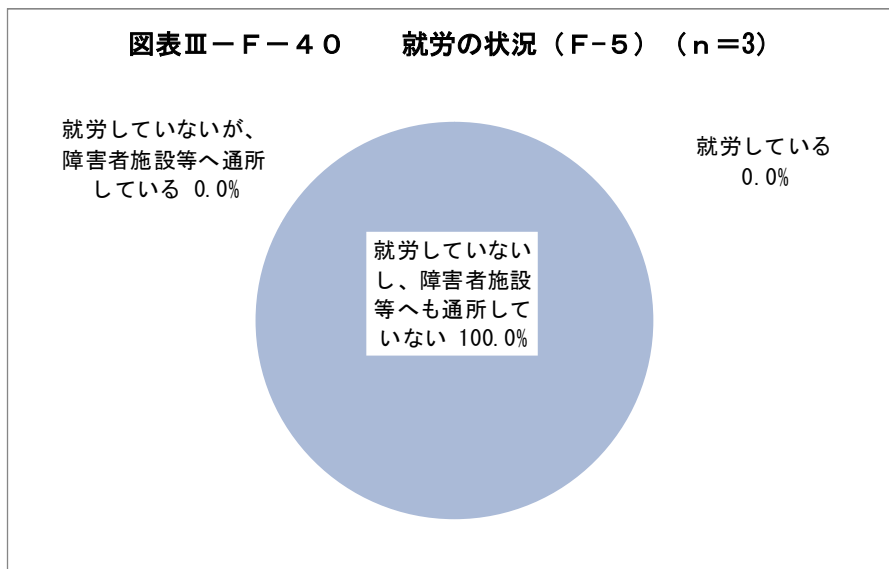
### 3 就労について

1) 就労の状況、2) 普段の過ごし方についてたずねた。

#### 1) 就労の状況 (F-5 問1)

現在の就労についてたずねた。

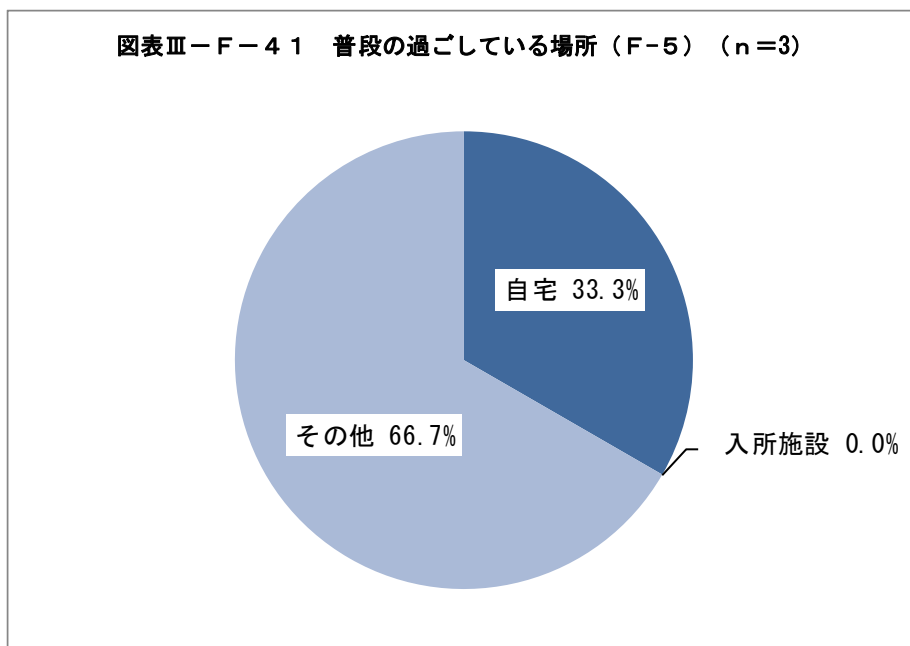
「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、100.0%である。



#### 2) 普段の過ごし方 (F-5 問2)

問1で「就労していないし、障害者施設へも通所していない」と回答した人に、普段どこで過ごしているかたずねた。

「その他」は、66.7%、「自宅」は、33.3%である。



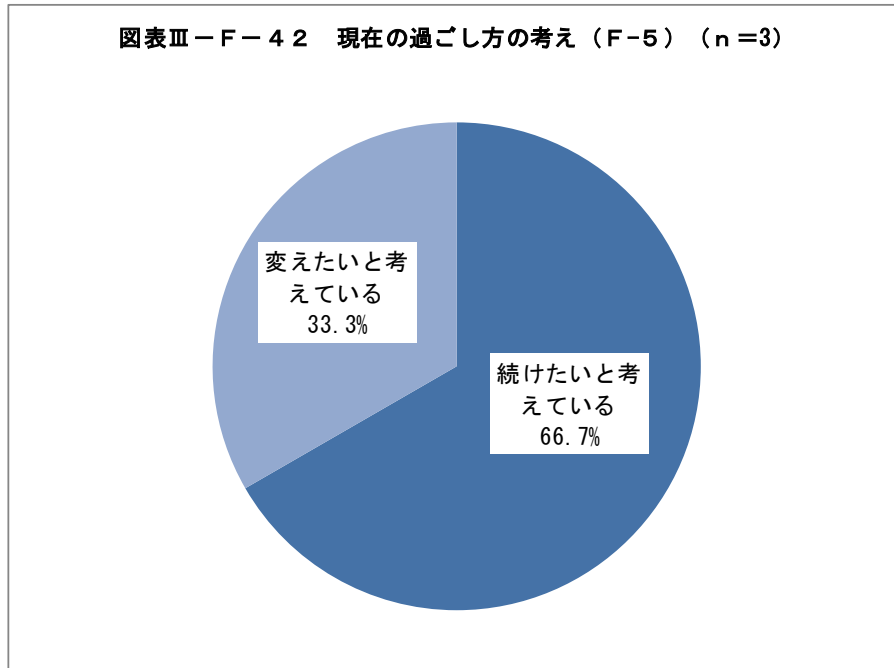
#### 4 生活の場について

1) 現在の生活状況、2) 主に昼間過ごしたい場所についてたずねた。

##### 1) 現在の生活状況 (F-5 問3)

現在の過ごし方を続けたいかたずねた。

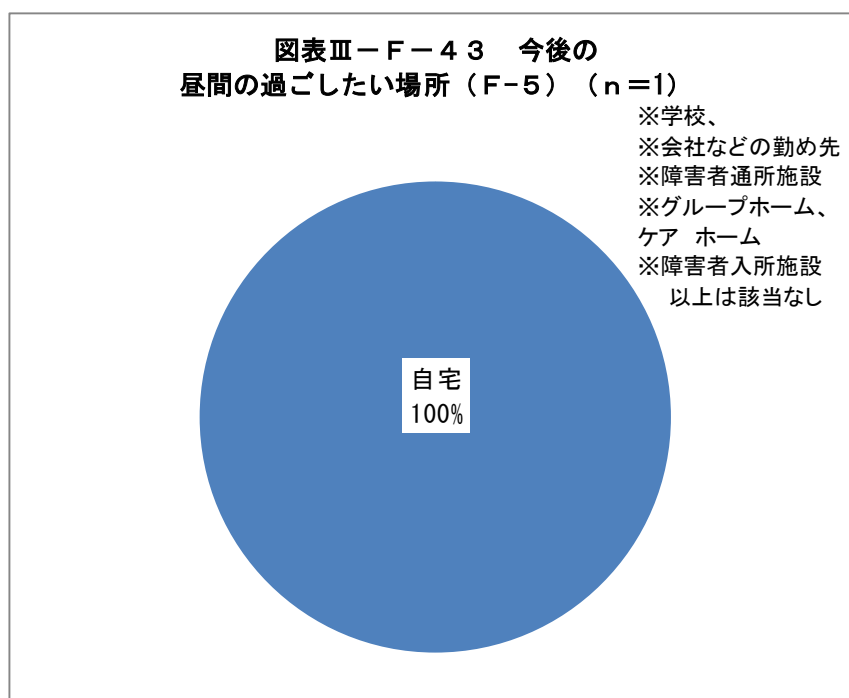
「続けたいと考える」は、66.7%、「変えたいと考えている」は、33.3%である。



##### 2) 主に昼間過ごしたい場所 (F-5 問4)

問3で「変えたいと考えている」と回答した人に、今後、主に昼間どこで過ごしたいかたずねた。

「自宅」は、100.0%である。



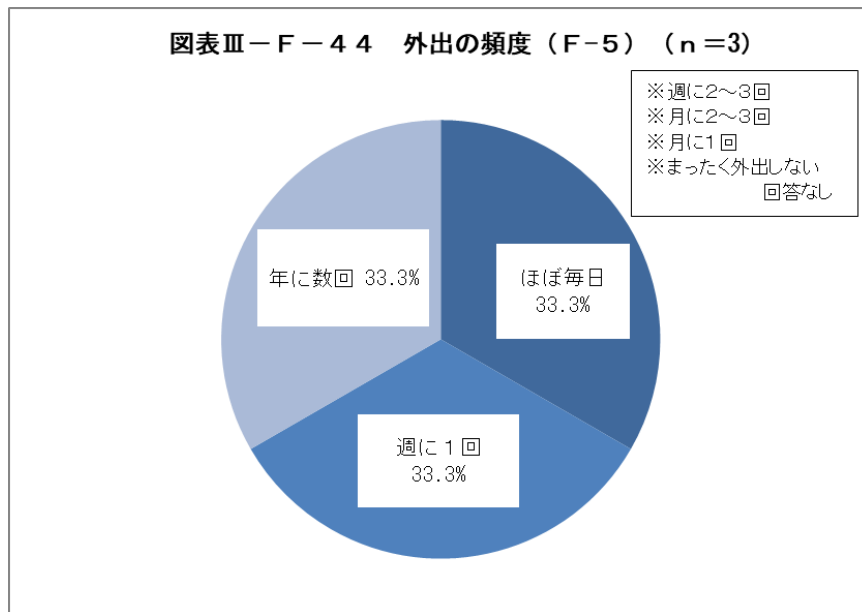
## 5 外出について

1) 外出の頻度、2) 外出するときに困っていることについてたずねた。

### 1) 外出の頻度 (F-5問5)

どのくらい外出しているかたずねた。

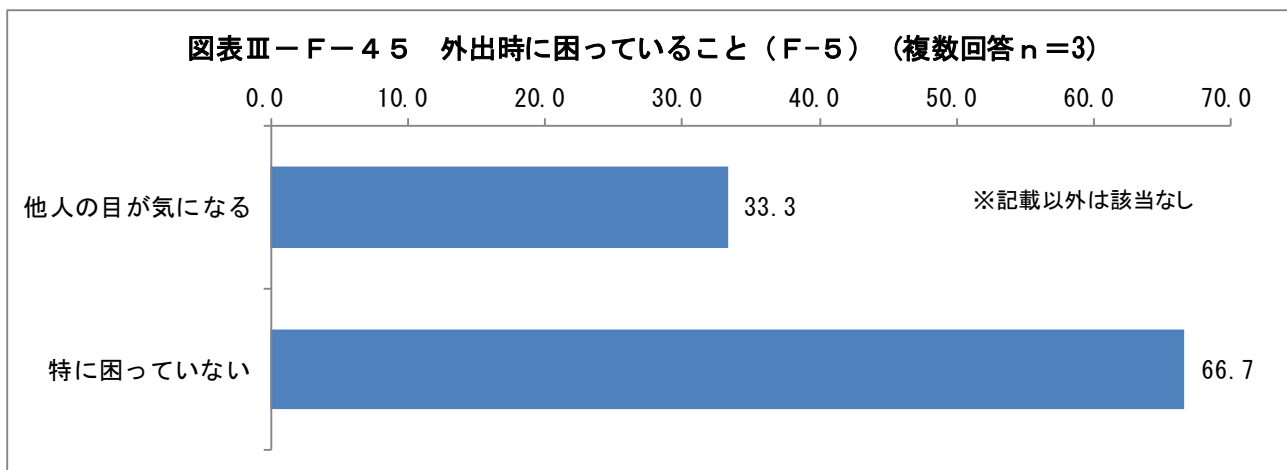
「ほぼ毎日」と「週に1回」と「年に数回」は、ともに33.3%である。



### 2) 外出するときに困っていること (F-5問6)

外出するときに困っていることを複数回答でたずねた。

「他人の目が気になる」は、33.3%である。一方、「特に困っていない」は、66.7%である。



## 6 相談場所について

### 1) 相談場所 (F-1問5・F-2問8・F-3問9・F-4問9・F-5問7)

日常生活における相談や支援について、普段どこに相談するか複数回答でたずねた。

**全体の傾向** : 「特別支援学校」は、48.1%、「医療機関」は、38.9%、「通所支援施設」は、26.5%、「障害者相談支援センター」は、19.8%、「市役所」は、11.1%である。「特別支援学校」は年齢が上がるほど割合も高い。

**就学前児童** : 「通所支援施設」は、50.0%、「医療機関」は、44.4%、「市役所」と「保育園」は、ともに27.8%、「認定こども園」は、22.2%である。

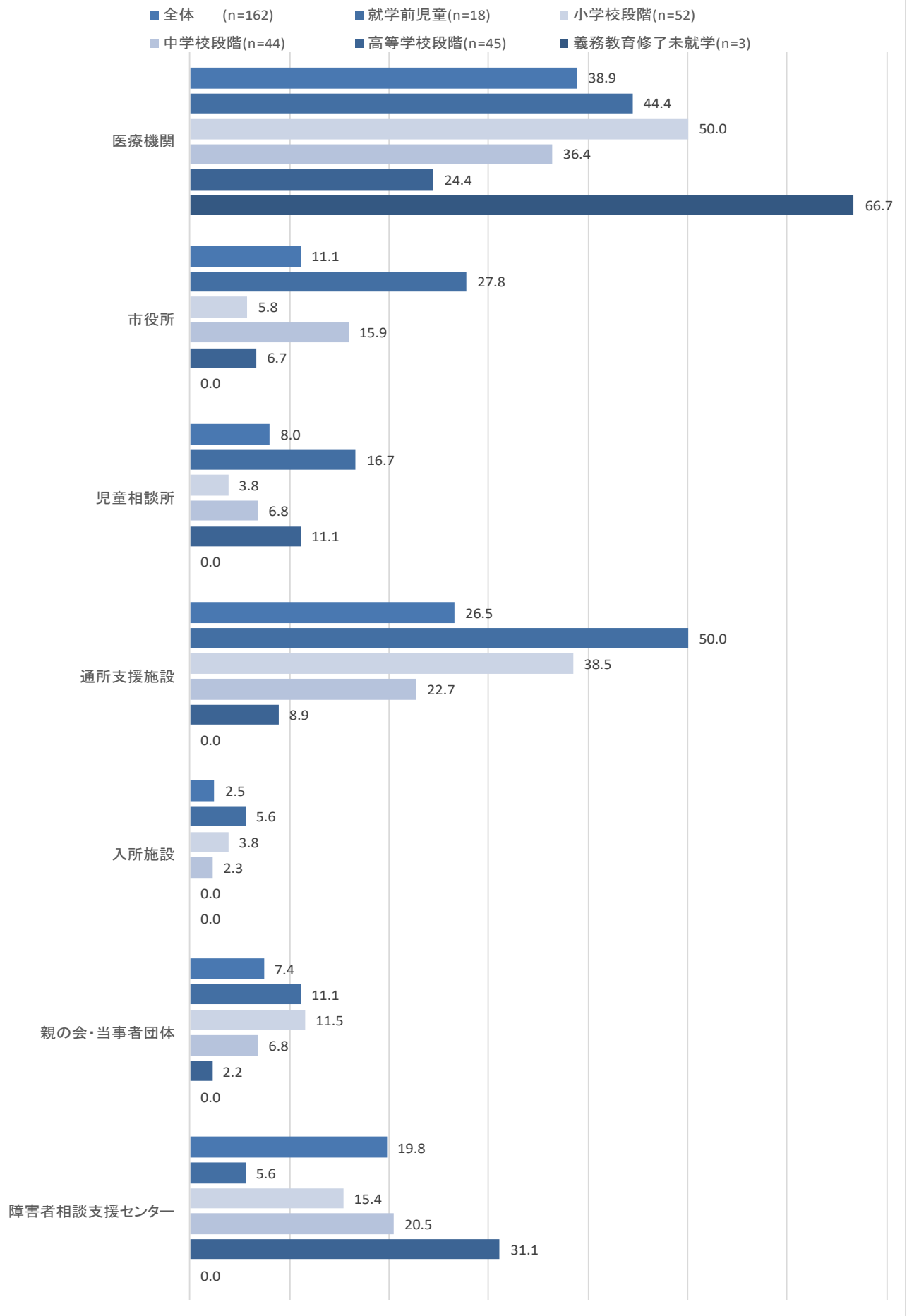
**小学校段階** : 「医療機関」は、50.0%、「通所支援施設」と「小学校」が、ともに38.5%、「特別支援学校」は、34.6%である。

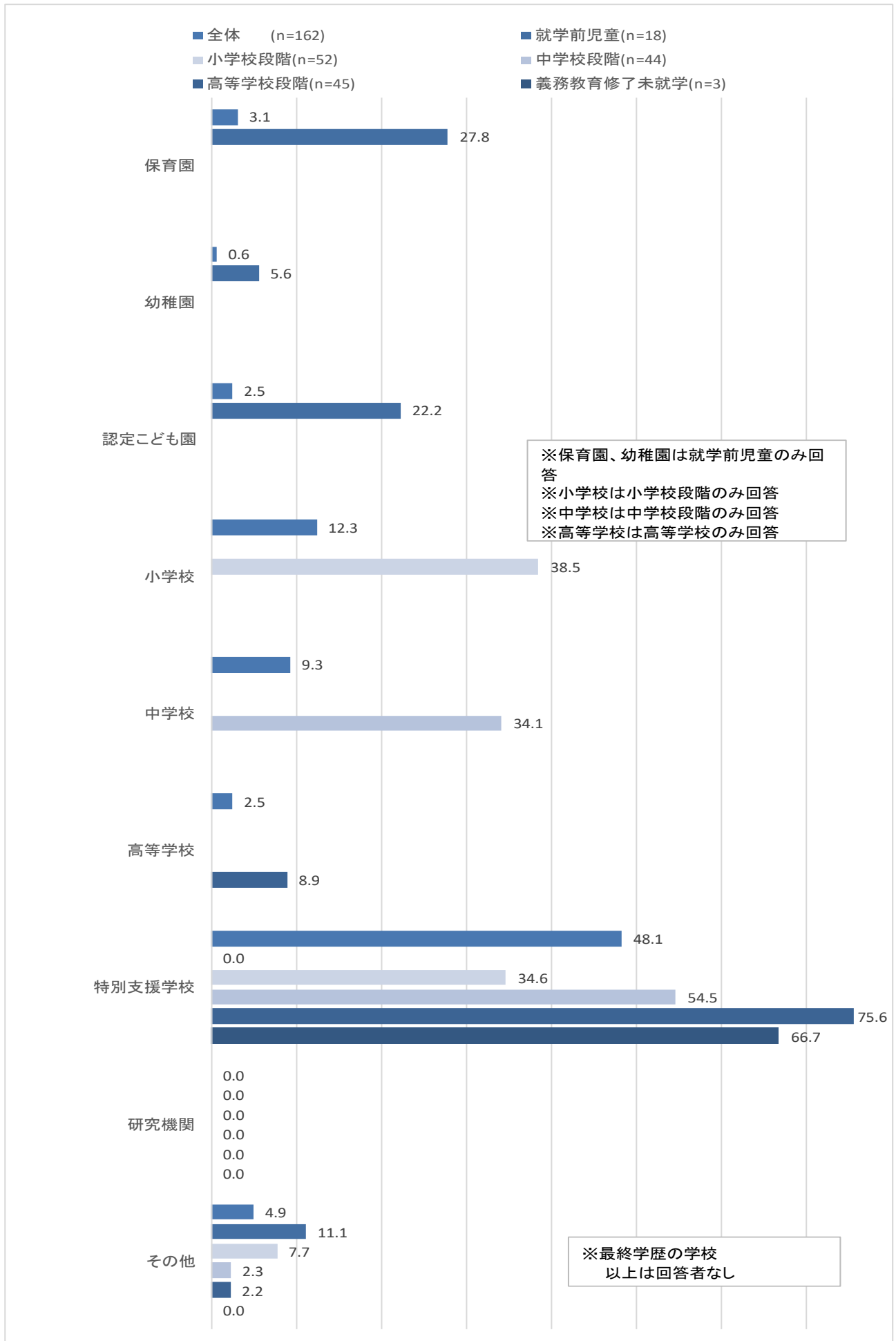
**中学校段階** : 「特別支援学校」は、54.5%、「医療機関」は、36.4%、「中学校」は、34.1%、「通所支援施設」は、22.7%、「障害者相談支援センター」は、20.5%である。

**高等学校段階** : 「特別支援学校」は、75.6%、「障害者相談支援センター」は、31.1%、「医療機関」は、24.4%である。

**義務教育修了未就学** : 「医療機関」と「特別支援学校」は、ともに66.7%である。

図表Ⅲ-F-46 相談場所(F-1~F-5)(複数回答)



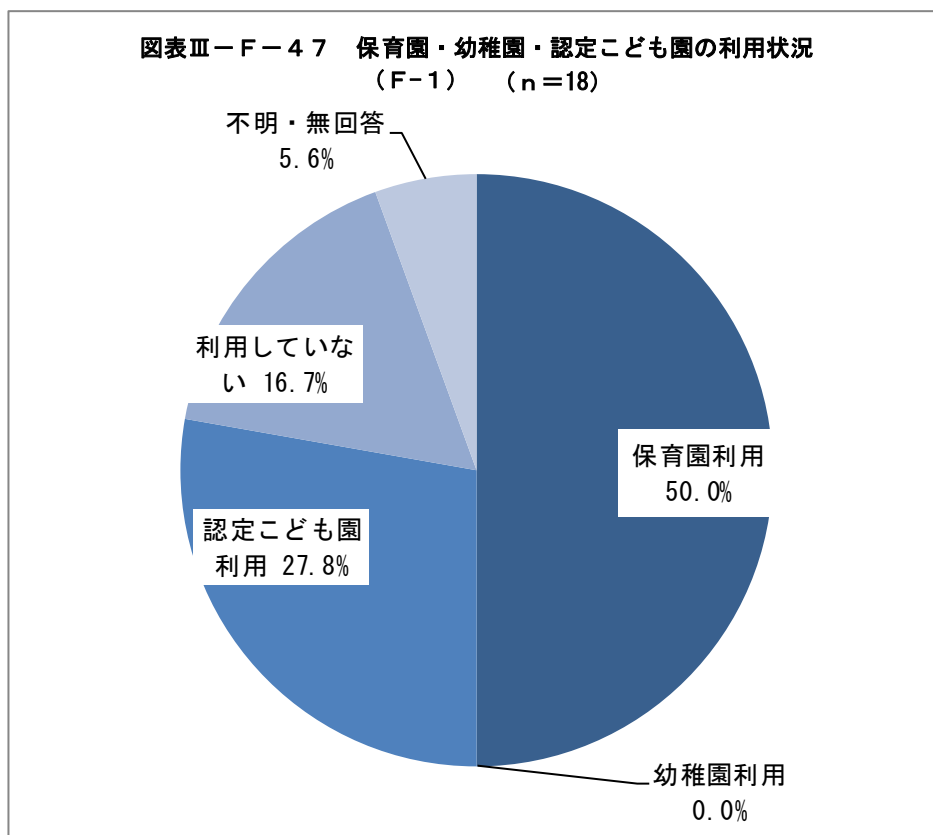




## 7 保育園や幼稚園、認定こども園の利用について（F-1問6）

現在、保育園や幼稚園、認定こども園を利用しているかたずねた。

「保育園利用」は、50.0%、「認定こども園利用」は、27.8%、「幼稚園利用」は、回答がない。一方、「利用していない」は、16.7%である。



「利用していない」と答えた方の理由は、以下の3件であった。

児童発達支援施設のみ利用。今は、特性を理解し、個別対応してくださる場が本人に適していると思ったので。

胃瘻や在宅酸素等の医療ケアを要するため。覚醒時間が短く、ほぼ寝たきりの状態なので地域の保育園に行っても発達が促されるとは思わないから。

児童発達支援センターの判断。今の発達状況での入園は難しいと言われたから。

## 8 個別の教育支援計画及び指導計画について

1) 個別の教育支援計画及び指導計画作成状況、2) 計画作成における学校との話し合い状況をたずねた。

### 1) 個別の教育支援計画及び指導計画作成状況（F-2問9・F-3問10・F-4問10）

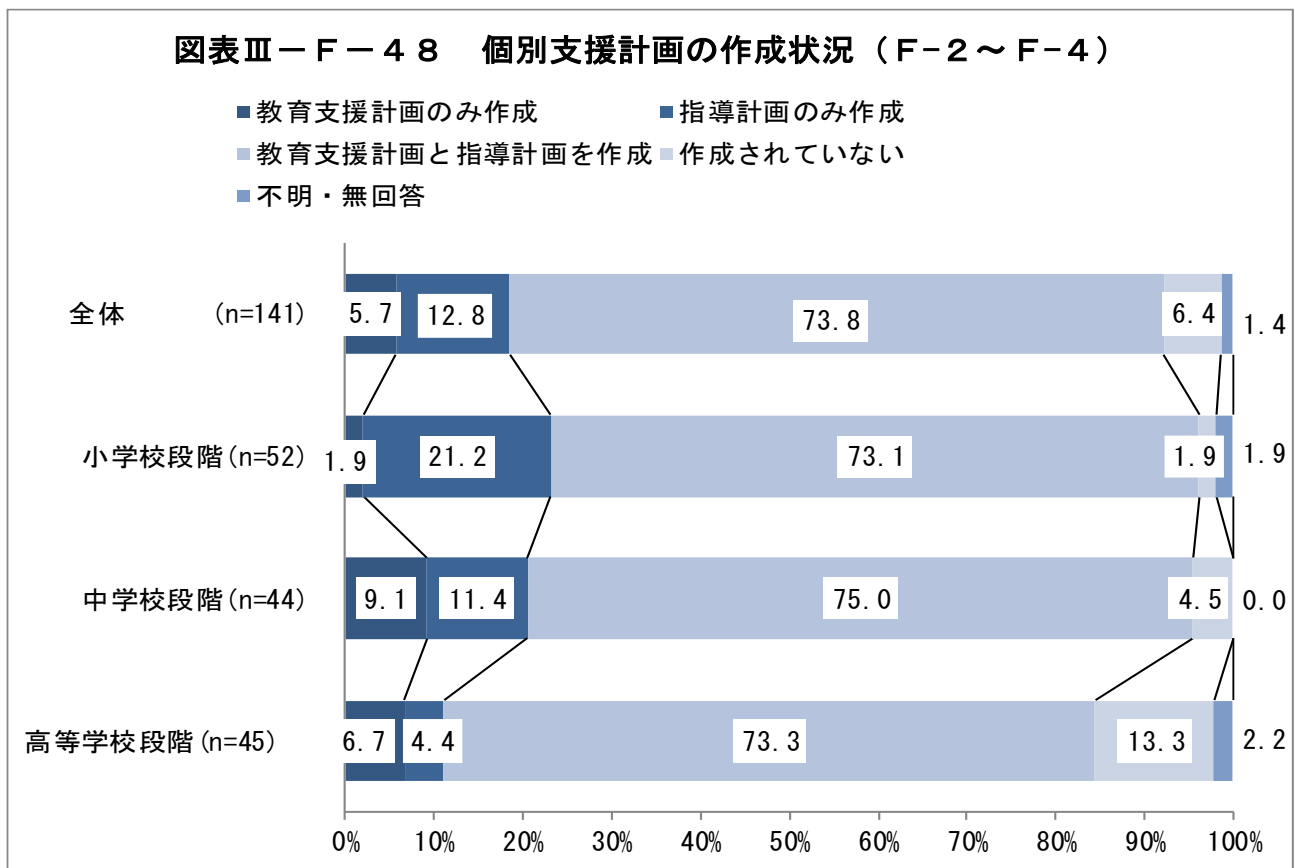
個別の教育支援計画及び指導計画の作成状況をたずねた。

**全体の傾向：**「教育支援計画と指導計画を作成」は、73.8%、「指導計画のみ作成」は、12.8%、「作成されていない」は、6.4%である。

**小学校段階：**「教育支援計画と指導計画を作成」は、73.1%、「指導計画のみ作成」は、21.2%で、中学校段階・高等学校段階に比べて割合が高い。

**中学校段階：**「教育支援計画と指導計画を作成」は、75.0%で、小学校段階・高等学校段階に比べて割合が高い。「指導計画のみ作成」は、11.4%、「作成されていない」は、4.5%である。

**高等学校段階：**「教育支援計画と指導計画を作成」は、73.3%、「作成されていない」は、13.3%である。



2) 計画作成における学校との話し合い状況 (F-2問10・F-3問11・F-4問11)

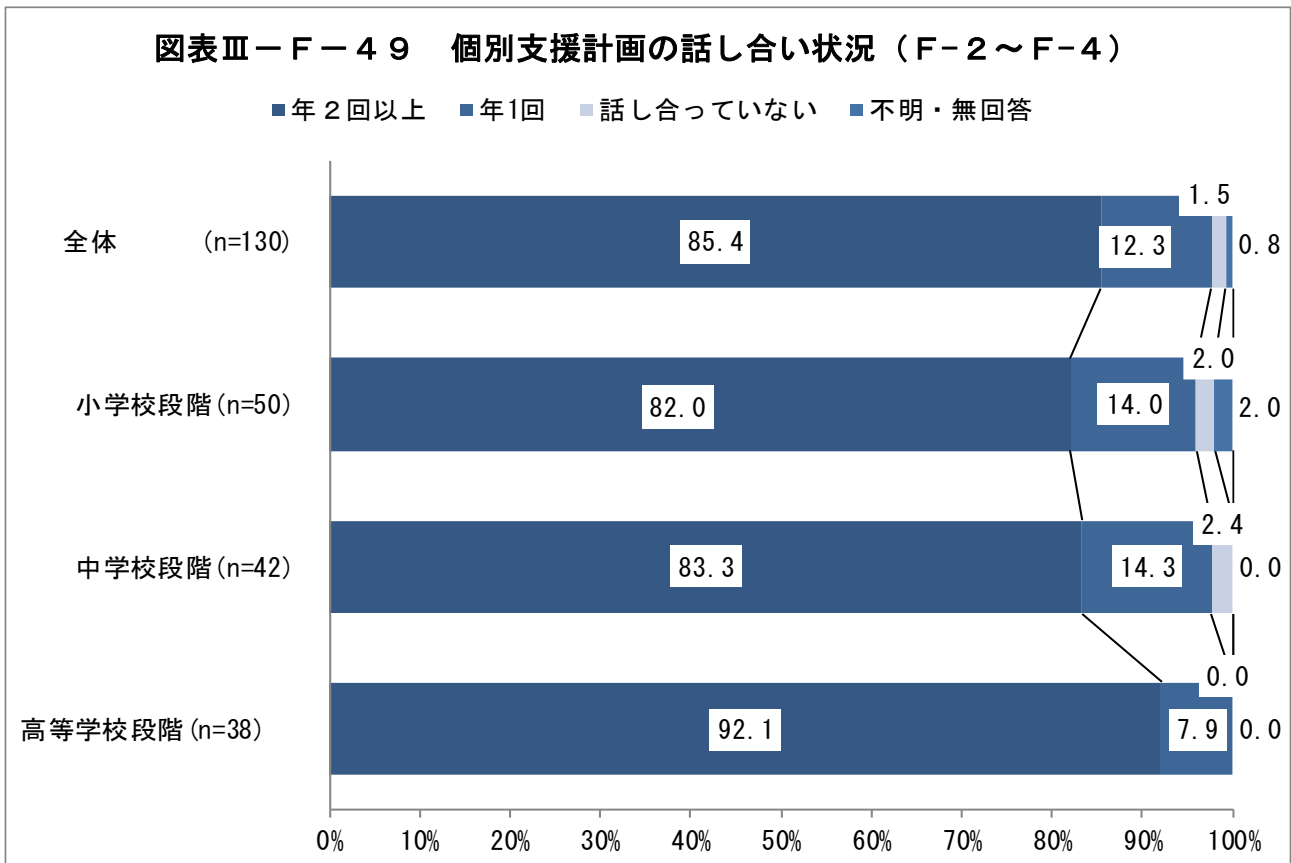
問9または問10で「個別の教育支援計画のみが作成されている」または「個別の指導計画のみが作成されている」、「個別の教育支援計画と個別の指導計画が作成されている」と回答した人に、個別の教育支援計画または個別の指導計画の作成にあたり、学校とどのくらい話し合いをしたかたずねた。

全体の傾向：「年2回以上」は、85.4%、「年1回」は、12.3%、「話し合っていない」は、1.5%である。

小学校段階：「年2回以上」は、82.0%、「年1回」は、14.0%である。

中学校段階：「年2回以上」は、83.3%、「年1回」は、14.3%である。

高等学校段階：「年2回以上」は、92.1%で、小学校段階・中学校段階に比べて割合が高い。「年1回」は、7.9%である。



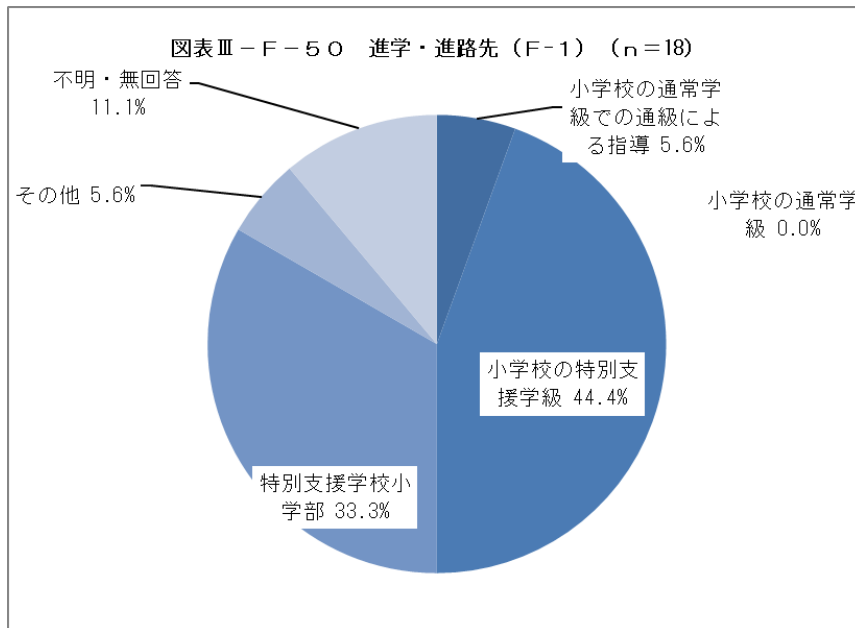
## 9 進学・進路先について

1) 進学・進路先、2) 進学・進路先として考える理由、3) 進学・進路先を選択するときの悩みの有無、4) 進学・進路先を選択するときの悩みの理由、5) 学校の指導に対する要望、6) 進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由、7) 自分の適性がわかった理由をたずねた。

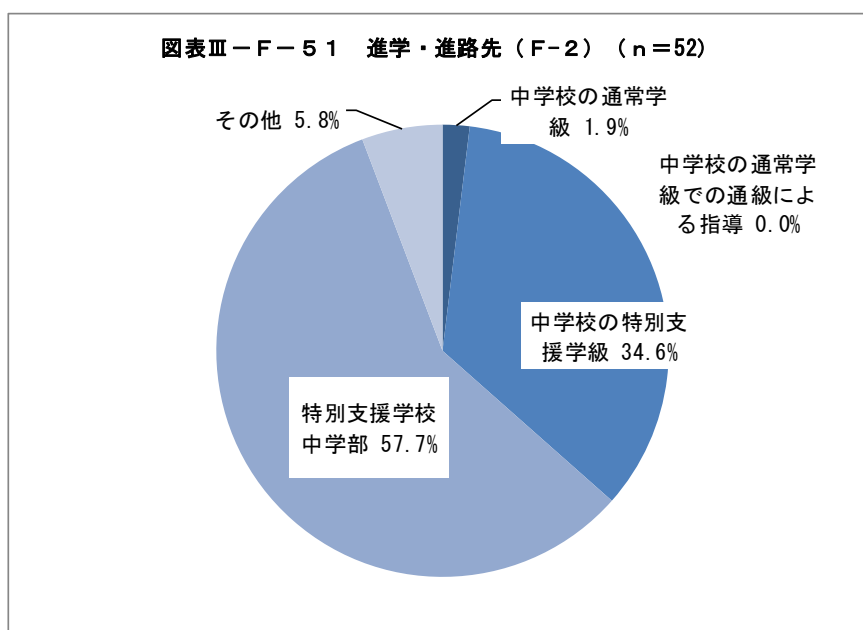
### 1) 進学・進路先 (F-1問7・F-2問11・F-3問12・F-4問12)

進学・進路先としてどこを考えているかをたずねた。

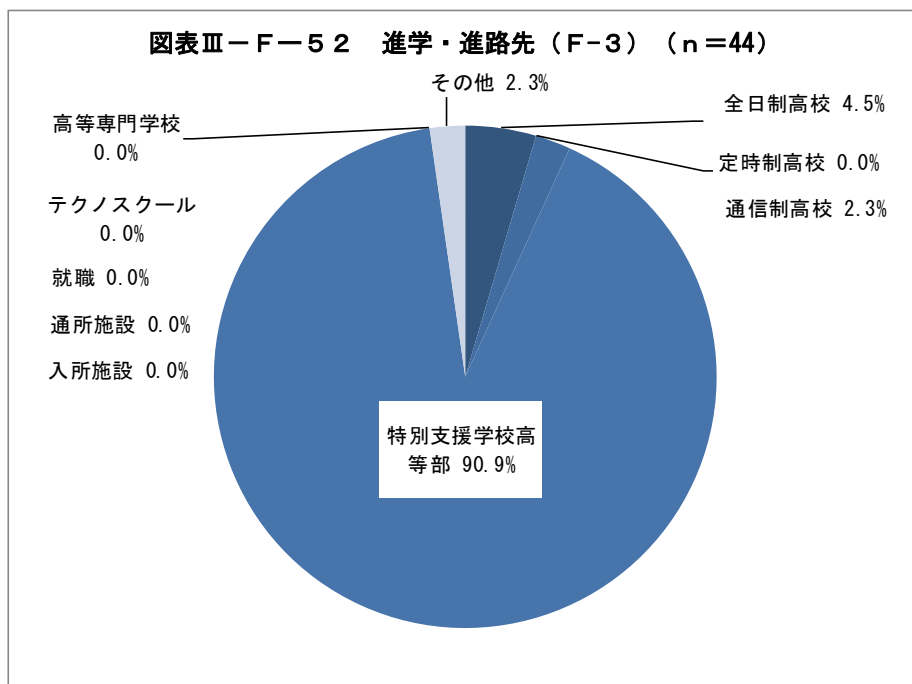
就学前児童：「小学校の特別支援学級」は、44.4%、「特別支援学校小学部」は、33.3%である。



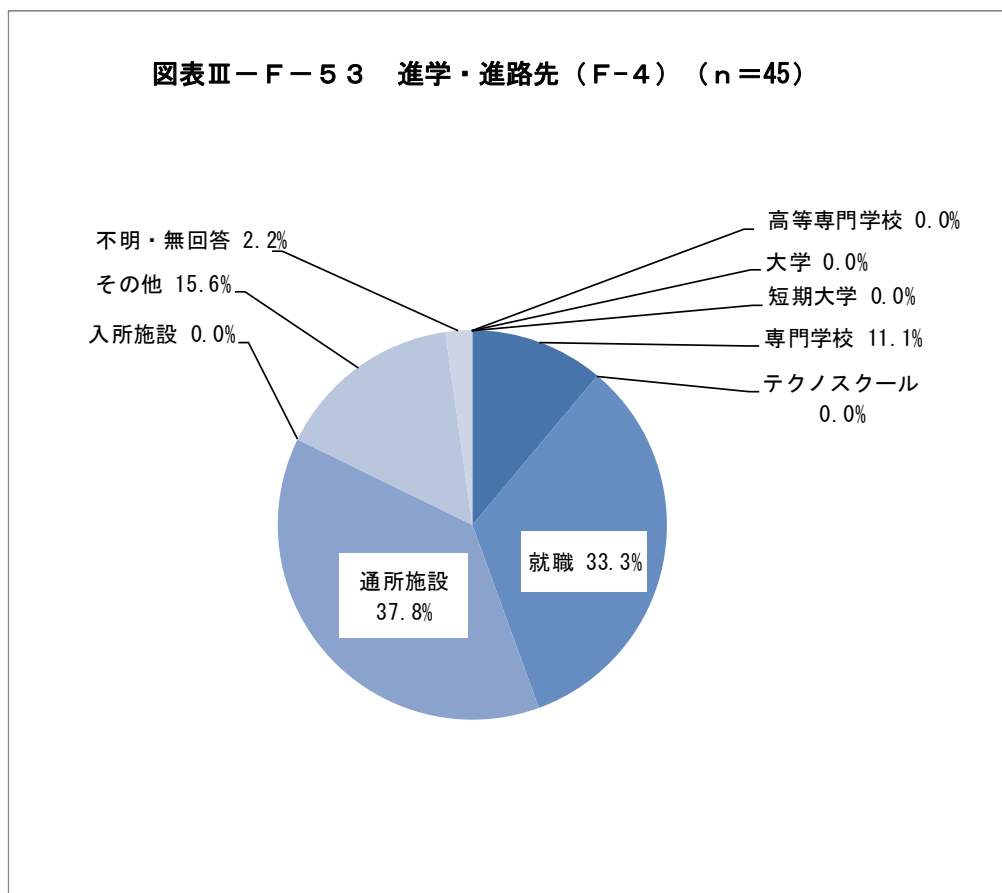
小学校段階：「特別支援学校中学部」は、57.7%、「中学校の特別支援学級」は、34.6%である。



中学校段階：「特別支援学校高等部」は、90.9%、「全日制高校」は、4.5%である。  
 中学校卒業後は、「特別支援学校高等部」を進学希望する傾向が高い。



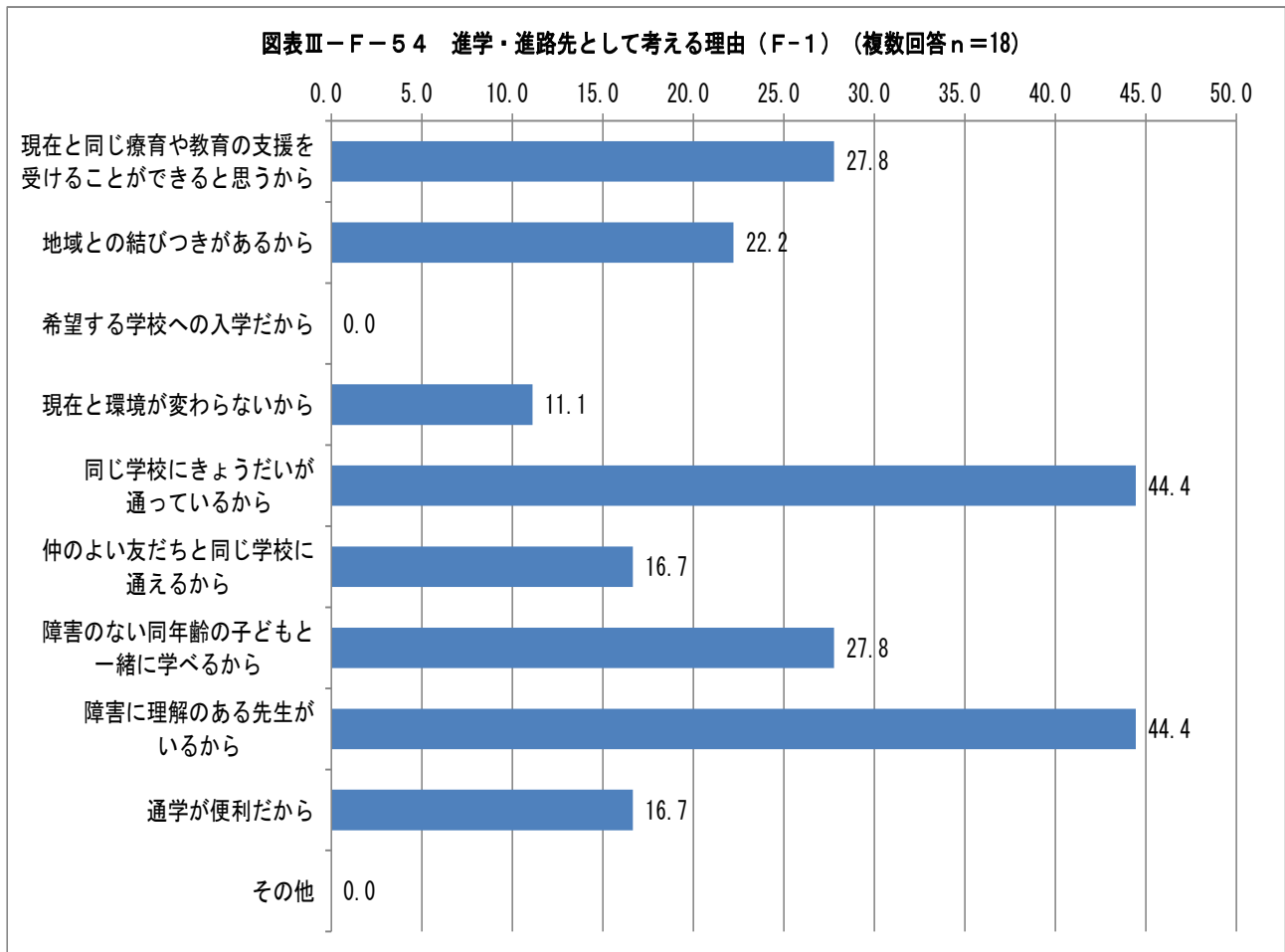
高等学校段階：「通所施設」は、37.8%、「就職」は、33.3%、「専門学校」は、11.1%である。



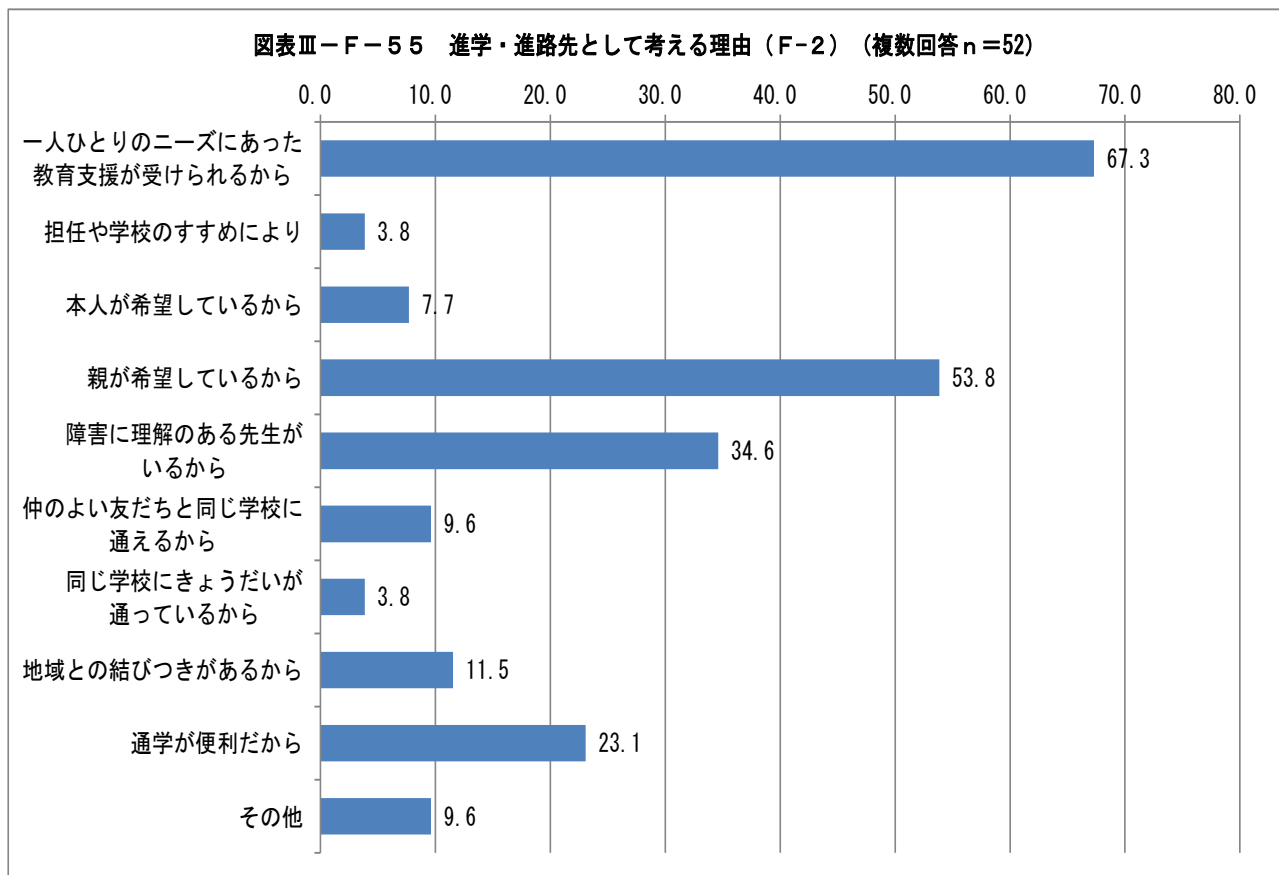
2) 進学・進路先として考える理由 (F-1問8・F-2問12・F-3問13・F-4問13)

問7、問11 または問12 で選んだ学校等を進学・進路先として考える理由を複数回答でたずねた。

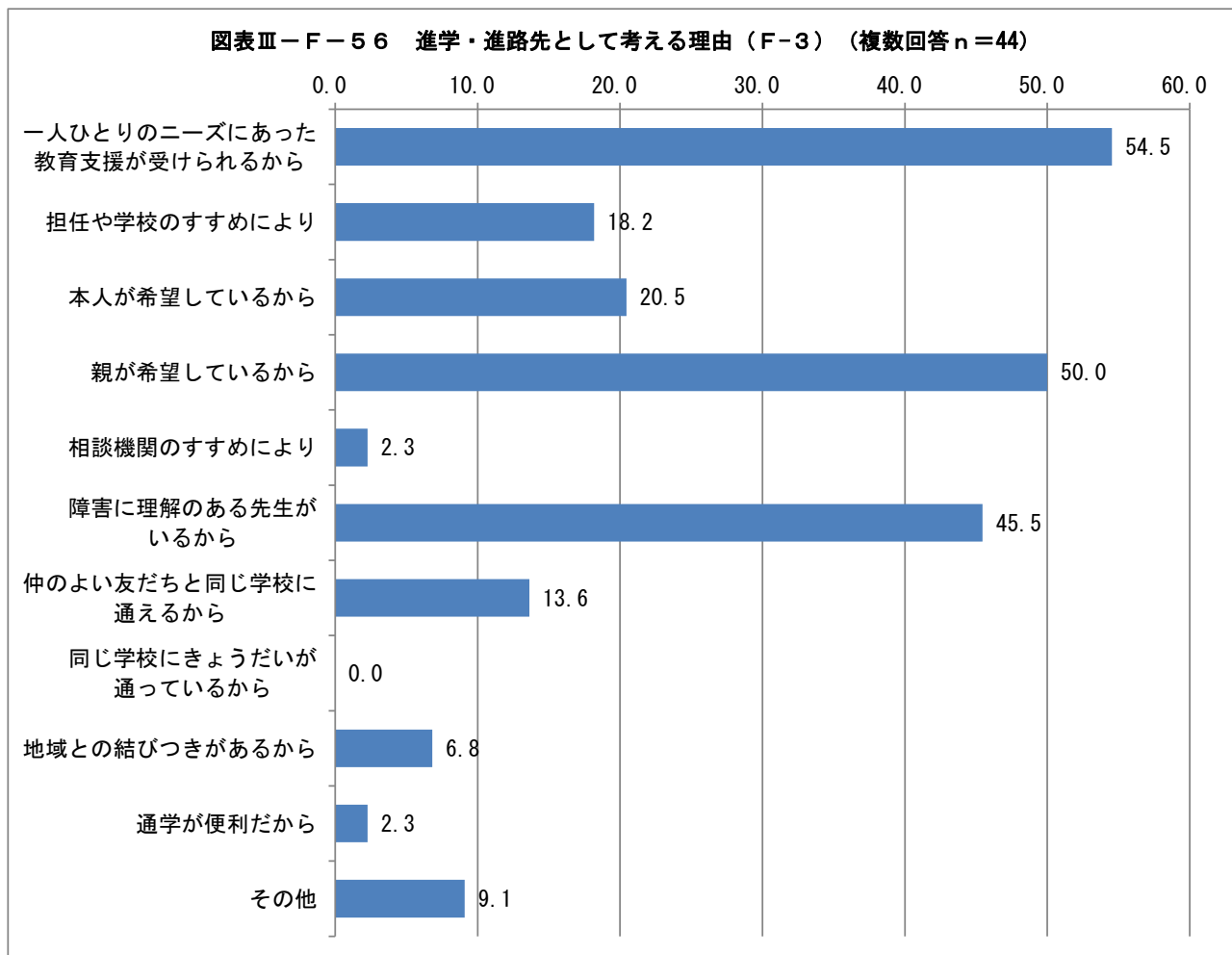
就学前児童：「障害に理解のある先生がいるから」と「同じ学校にきょうだいがいるから」は、ともに44.4%、「現在と同じ療育や教育の支援を受けることができると思うから」と「障害のない同年齢の子どもと一緒に学べるから」は、ともに27.8%、「地域との結びつきがあるから」は、22.2%である。



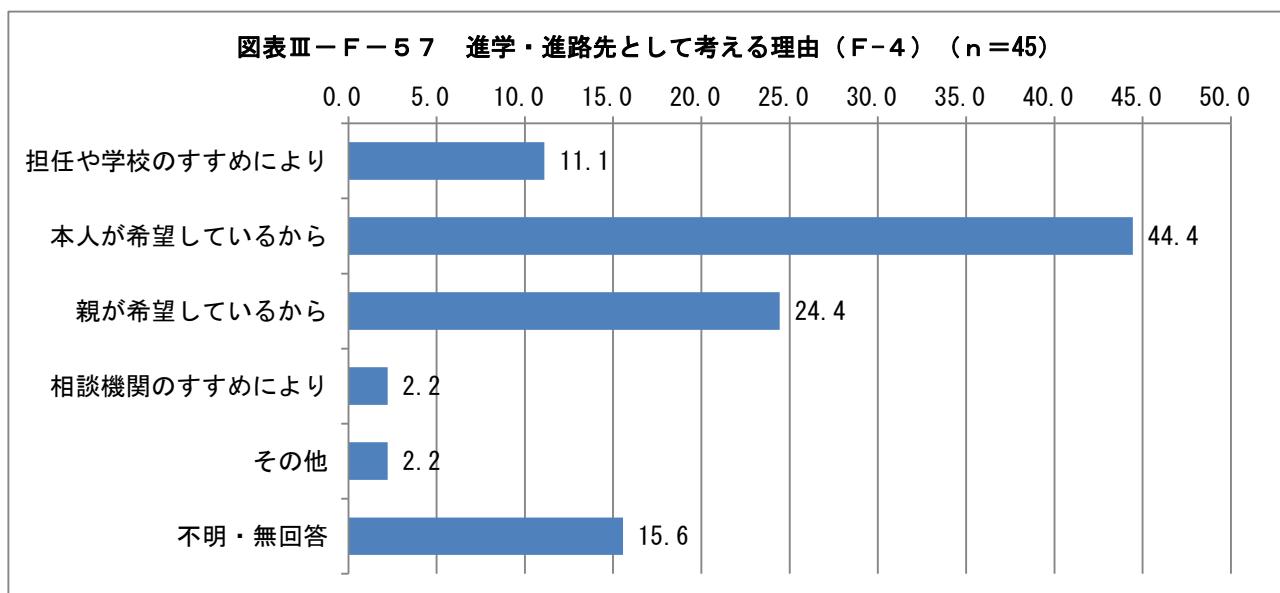
小学校段階：「一人ひとりのニーズにあった教育支援が受けられるから」は、67.3%、「親が希望しているから」は、53.8%、「障害に理解のある先生がいるから」は、34.6%、「通学が便利だから」は、23.1%である。



中学校段階：「一人ひとりのニーズにあった教育支援が受けられるから」は、54.5%、「親が希望しているから」は、50.0%、「障害に理解のある先生がいるから」は、45.5%、「本人が希望しているから」は、20.5%である。



高等学校段階：「本人が希望しているから」は、44.4%、「親が希望しているから」は、24.4%、「担任や学校のすすめにより」は、11.1%である。





### 3) 進学・進路先を選択するときの悩みの有無

(F-1問9・F-2問13・F-3問14・F-4問14)

進学・進路先を選択するとき悩んでいることの有無をたずねた。

全体の傾向：「ある」は、52.2%、「ない」は、46.5%である。

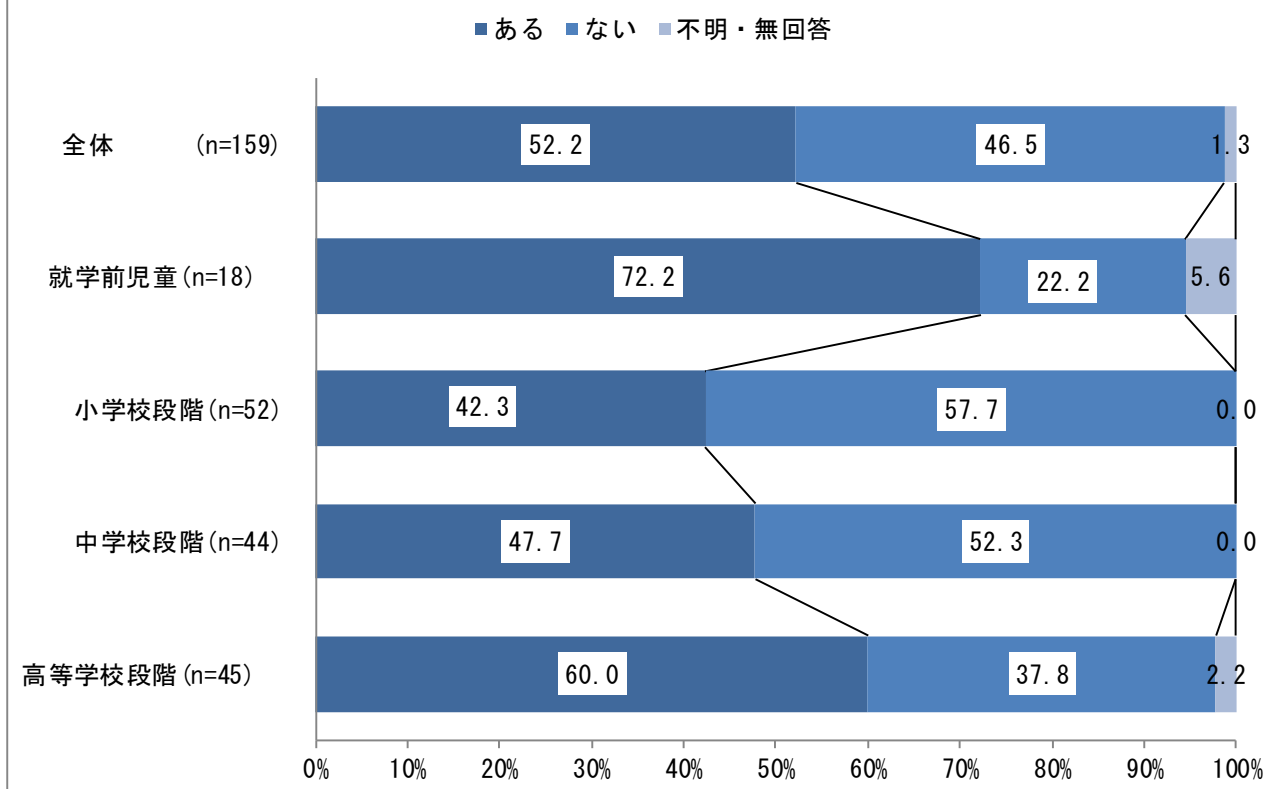
就学前児童：「ある」は、72.2%で、小学校段階・中学校段階、高等学校段階に比べて割合が高い。  
「ない」は、22.2%である。

小学校段階：「ある」は、42.3%、「ない」は、57.7%である。

中学校段階：「ある」は、47.7%、「ない」は、52.3%である。

高等学校段階：「ある」は、60.0%、「ない」は、37.8%である。

図表Ⅲ－F－58 進学・進路先選択での悩みの有無 (F-1～F-4)

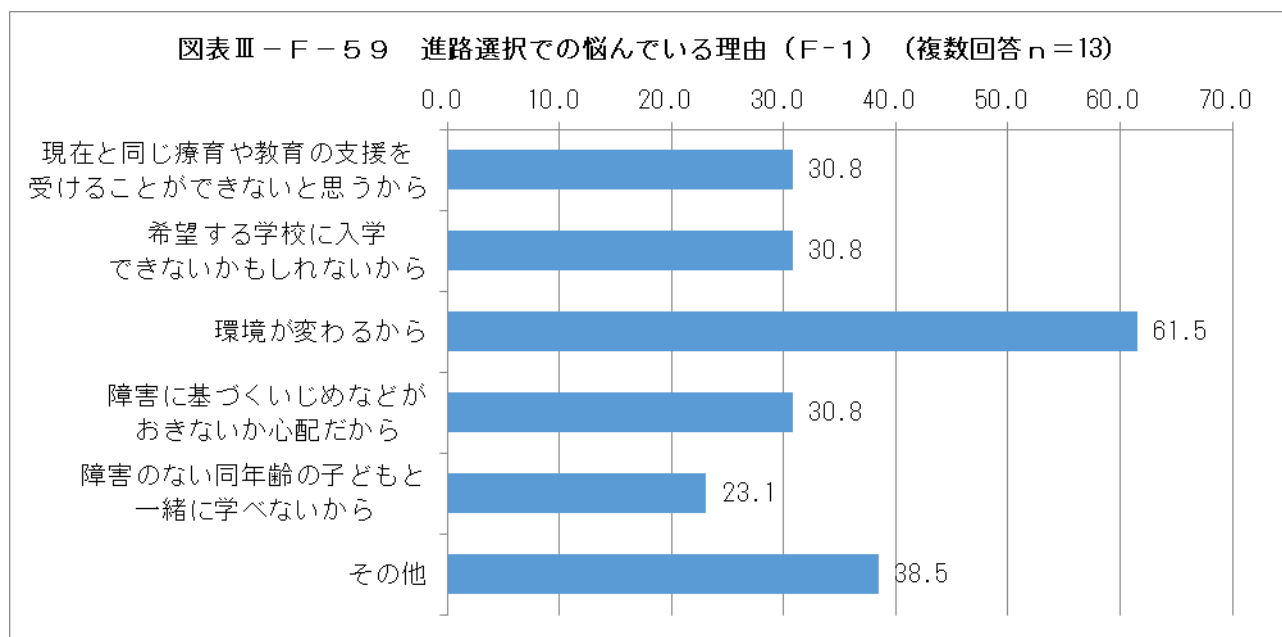


#### 4) 進学・進路先を選択するときの悩みの理由

(F-1問10・F-2問14・F-3問15・F-4問15)

問9、問13または問14で「ある」と回答した人に、進学・進路先を選択するとき悩んでいる理由を複数回答でたずねた。

就学前児童：「環境が変わるから」は、61.5%、「現在と同じ療育や教育の支援を受けることができないと思うから」と「希望する学校に入学できないかもしれないから」と「障害に基づくいじめなどがおきないか心配だから」は、ともに30.8%である。



就学段階

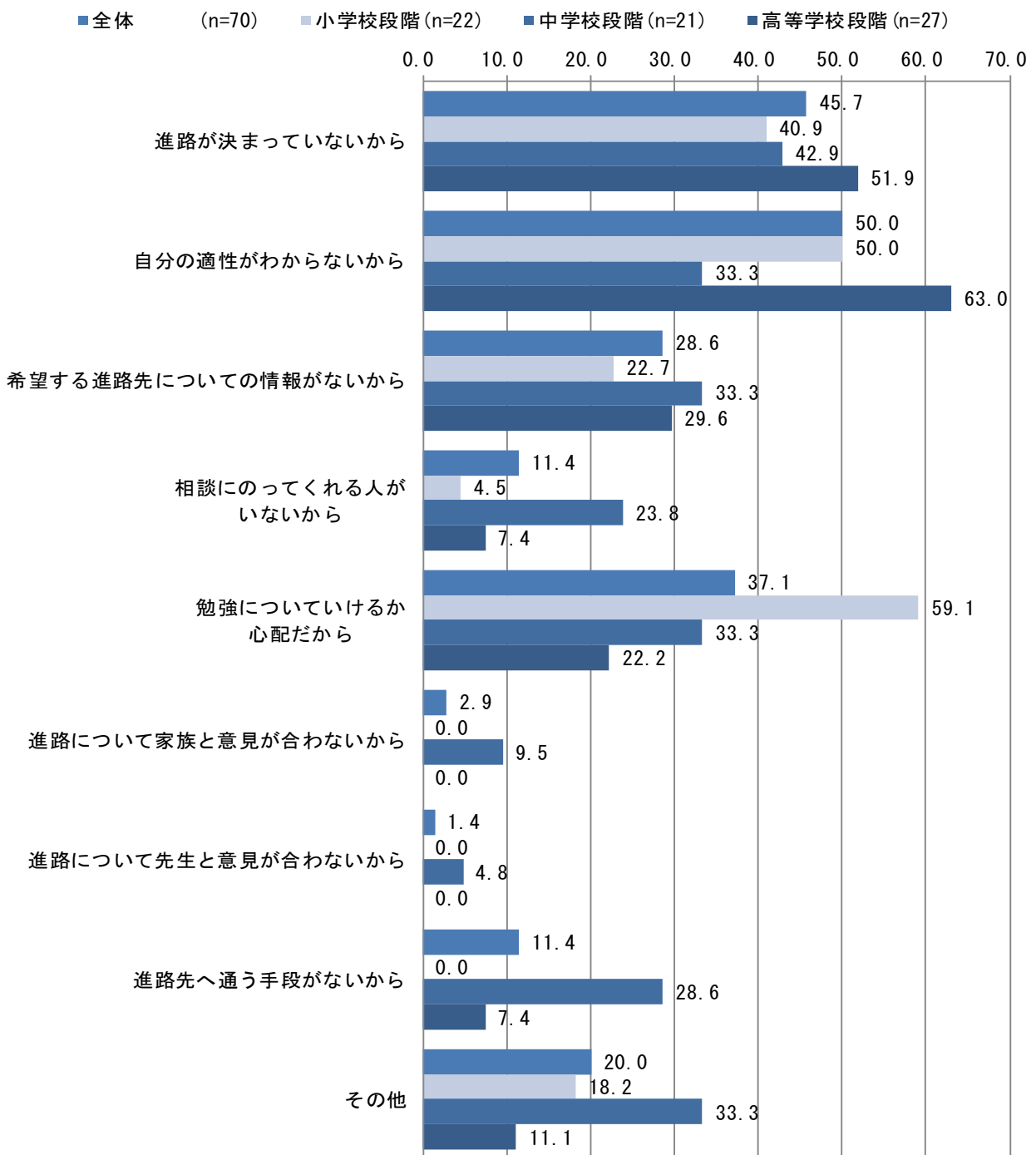
全体の傾向：「自分の適性がわからないから」は、50.0%、「進路が決まっていないから」は、45.7%、「勉強についていけるか心配だから」は、37.1%である。

小学校段階：「勉強についていけるか心配だから」は、59.1%、「自分の適性がわからないから」は、50.0%、「進路が決まっていないから」は、40.9%である。

中学校段階：「進路が決まっていないから」は、42.9%、「自分の適性がわからないから」と「希望する進路先についての情報がないから」と「勉強についていけるか心配だから」は、ともに33.3%、「進路先へ通う手段がないから」は、28.6%である。

高等学校段階：「自分の適性がわからないから」は、63.0%、「進路が決まっていないから」は、51.9%、「希望する進路先についての情報がないから」は、29.6%である。

図表Ⅲ－F－60 進路選択での悩んでいる理由（F-2～F-4）（複数回答）



## 5) 学校の指導に対する要望 (F-2問15・F-3問16・F-4問16)

問13または問14で「ある」と回答した人に、学校で指導してほしいこと、学校に対する要望を複数回答でたずねた。

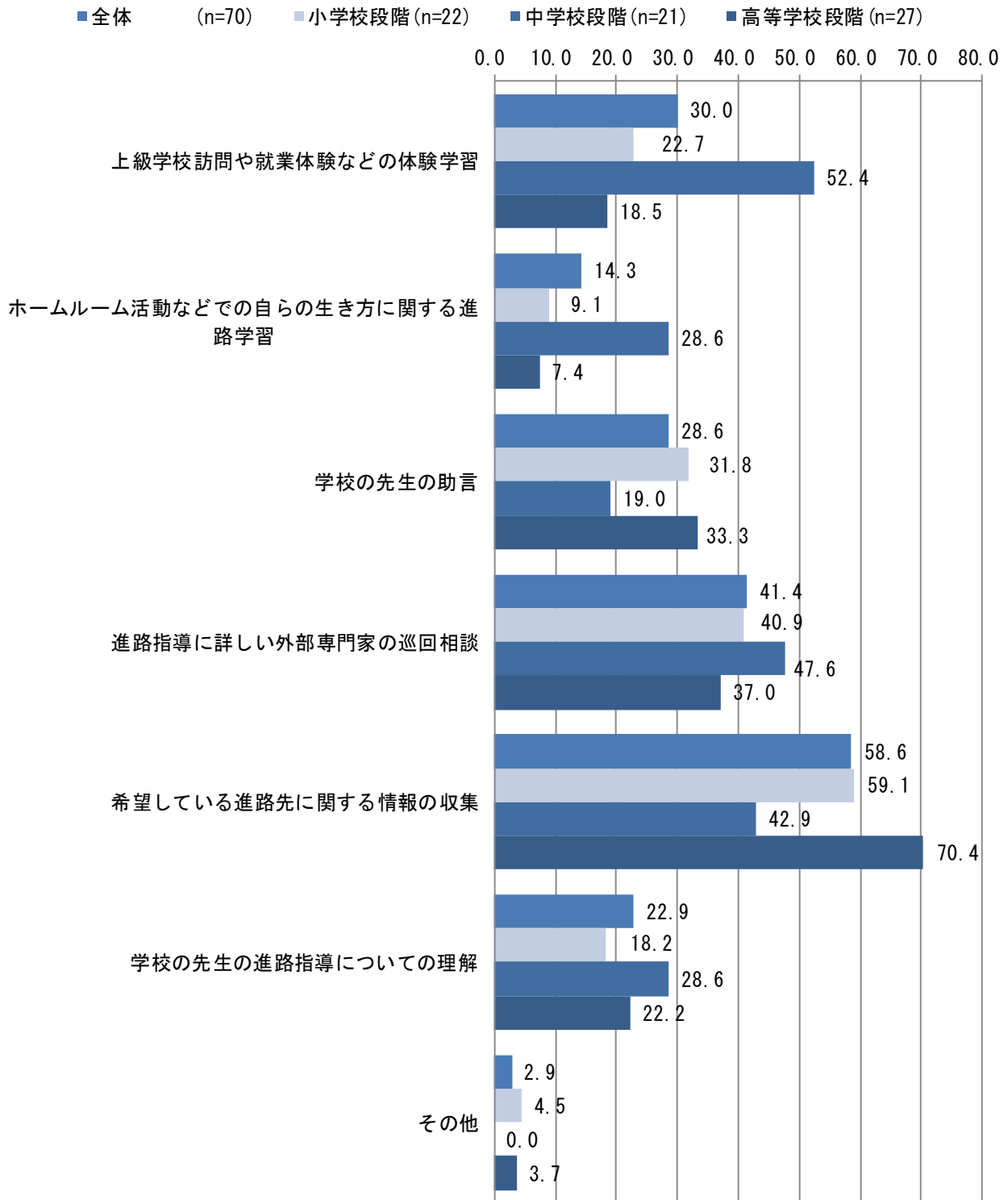
**全体の傾向**：「希望している進路先に関する情報の収集」は、58.6%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、41.4%、「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、30.0%、「学校の先生の助言」は、28.6%である。

**小学校段階**：「希望している進路先に関する情報の収集」は、59.1%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、40.9%、「学校の先生の助言」は、31.8%、「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、22.7%である。

**中学校段階**：「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、52.4%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、47.6%、「希望している進路先に関する情報の収集」は、42.9%、「ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習」と「学校の先生の進路指導についての理解」は、ともに28.6%である。

**高等学校段階**：「希望している進路先に関する情報の収集」は、70.4%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、37.0%、「学校の先生の助言」は、33.3%、「学校の先生の進路指導についての理解」は、22.2%である。

図表Ⅲ－F－6 1 学校の指導に対する要望（F-2～F-4）（複数回答）



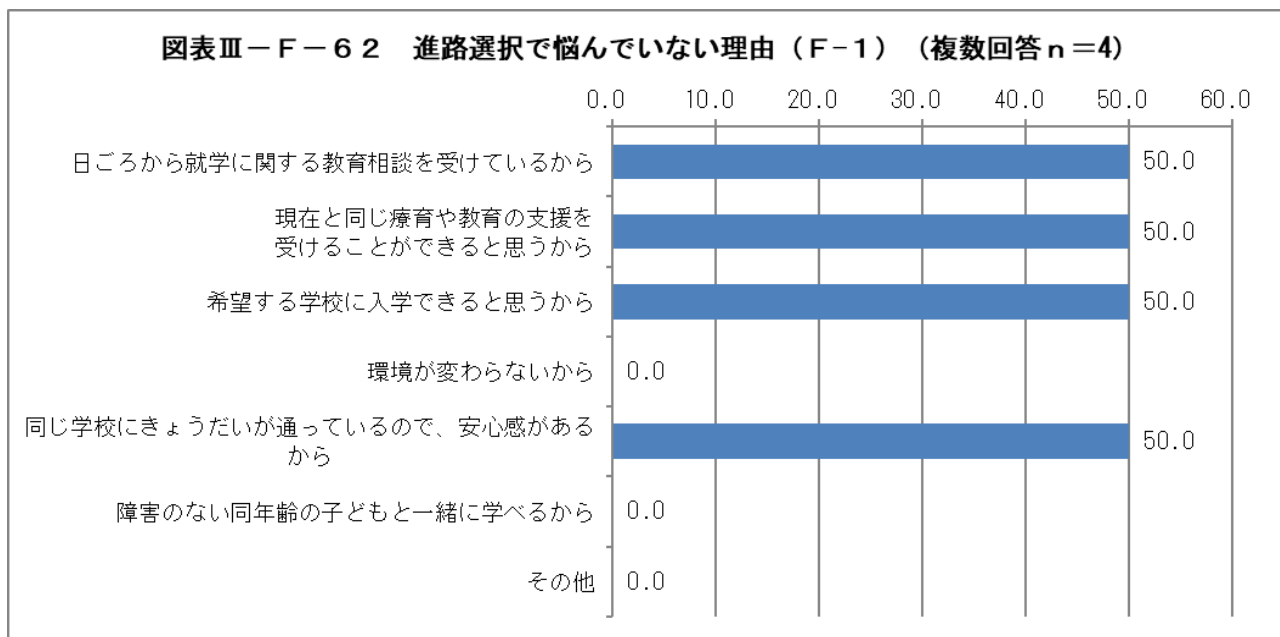
## 6) 進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由

(F-1問11・F-2問16・F-3問17・F-4問17)

問9、問13または問14で「ない」と回答した人に、進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由をたずねた。(F-1のみ複数回答)

**就学前児童**：「日ごろから就学に関する教育相談を受けているから」と「現在と同じ療育や教育の支援を受けることができると思うから」と「希望する学校に入学できると思うから」と「同じ学校にきょうだいがいるので、安心感があるから」は、ともに50.0%である。

図表Ⅲ-F-62 進路選択で悩んでいない理由 (F-1) (複数回答 n=4)

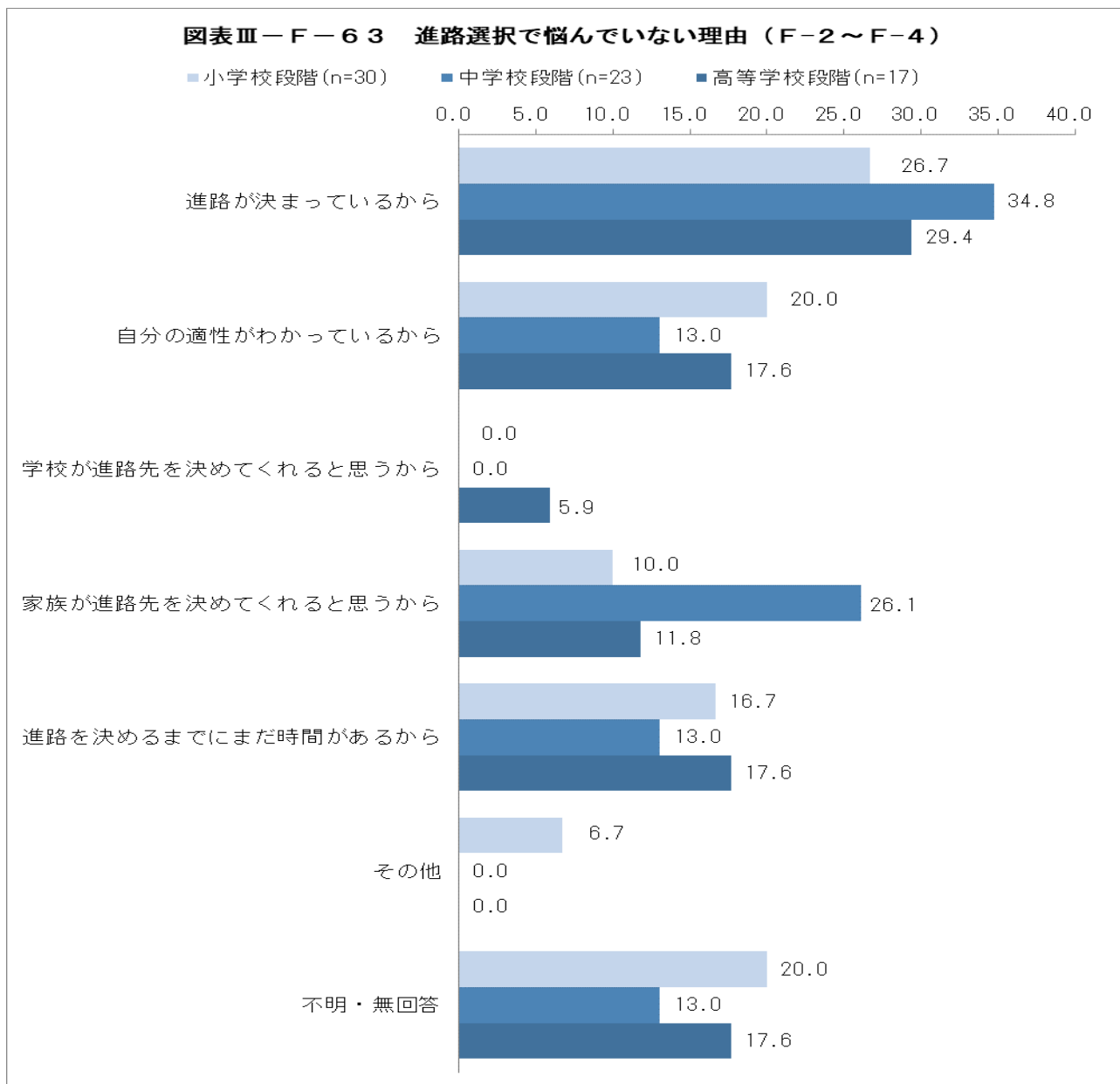


小学校段階：「進路が決まっているから」は、26.7%、「自分の適性がわかっているから」は、20.0%、「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、16.7%である。

中学校段階：「進路が決まっているから」は、34.8%、「家族が進路先を決めてくれると思うから」は、26.1%、「自分の適性がわかっているから」と「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、ともに13.0%である。

高等学校段階：「進路が決まっているから」は、29.4%、「自分の適性がわかっているから」と「ま進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、ともに17.6%、「家族が進路先を決めてくれると思うから」が11.8%である。

図表Ⅲ－F－63 進路選択で悩んでいない理由（F-2～F-4）



7) 自分の適性がわかったきっかけ (F-2問17・F-3問18・F-4問18)

問16または問17で「進路が決まっているから」または「自分の適性がわかっているから」と回答した人に、自分の適性がわかったきっかけを複数回答でたずねた。

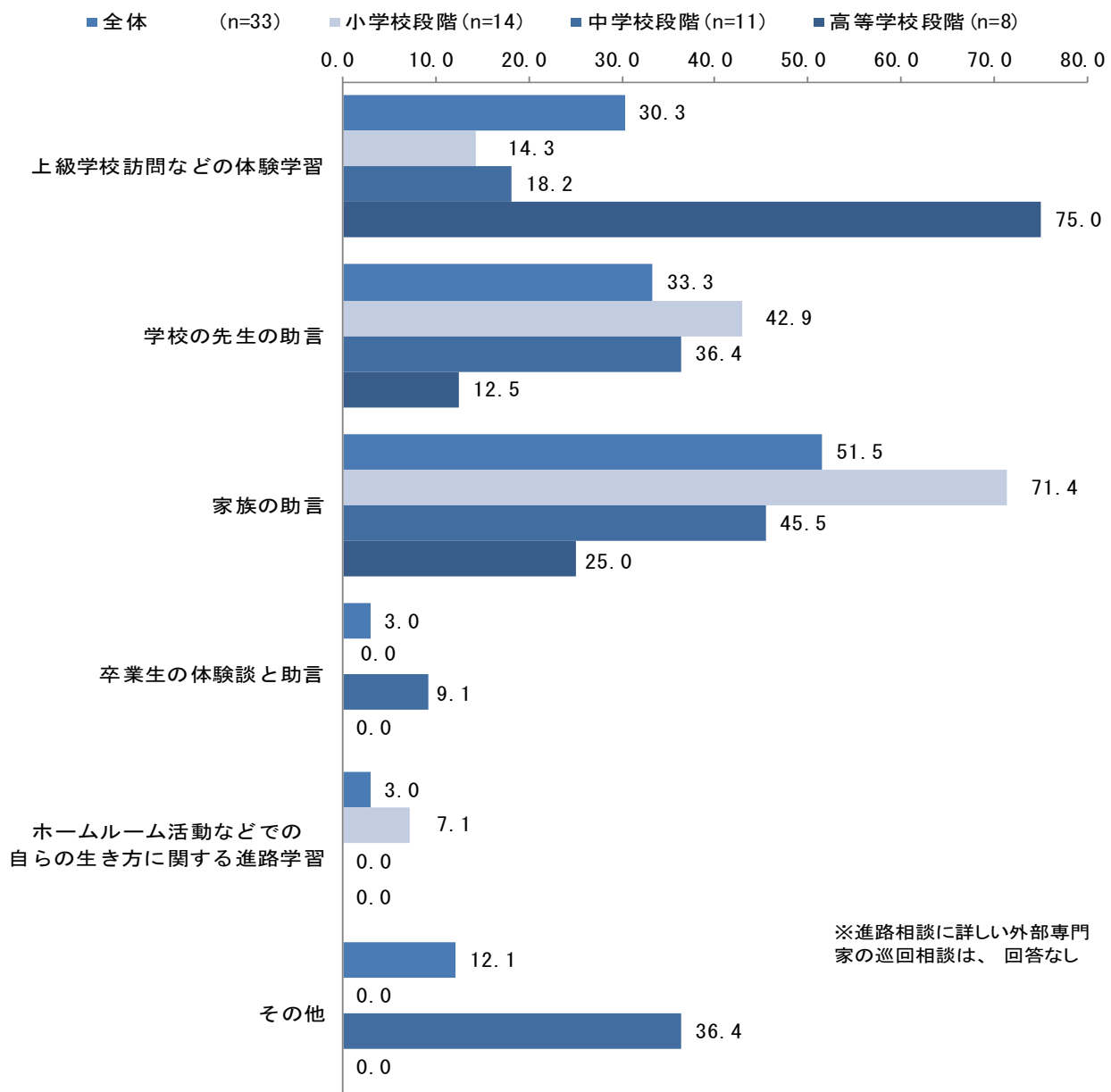
全体の傾向：「家族の助言」は、51.5%、「学校の先生の助言」は、33.3%、「上級学校訪問などの体験学習」は、30.3%である。

小学校段階：「家族の助言」は、71.4%、「学校の先生の助言」は、42.9%、「上級学校訪問などの体験学習」は、14.3%である。

中学校段階：「家族の助言」は、45.5%、「学校の先生の助言」は、36.4%、「上級学校訪問などの体験学習」は、18.2%である。

高等学校段階：「上級学校訪問などの体験学習」は、75.0%、「家族の助言」は、25.0%、「学校の先生の助言」は、12.5%である。

図表Ⅲ-F-64 自分の適性がわかったきっかけ (F-2～F-4)  
(複数回答)





## IV 調査結果（調査対象者別）



## A 身体障害者



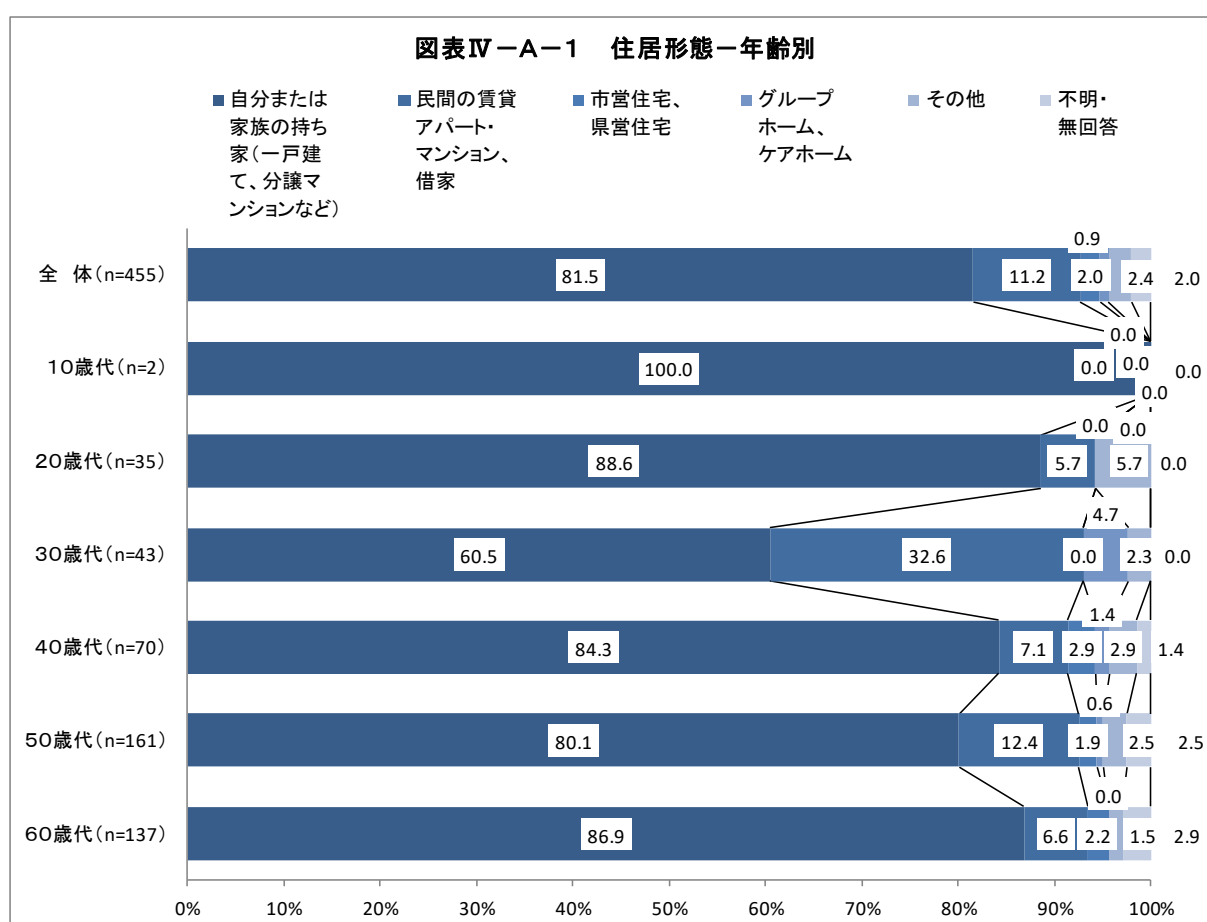
# 1 生活の場について

## (1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、81.5%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、11.2%、「市営住宅、県営住宅」は、2.0%、「グループホーム」は、0.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が88.6%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30歳代が32.6%、次に50歳代が12.4%である。

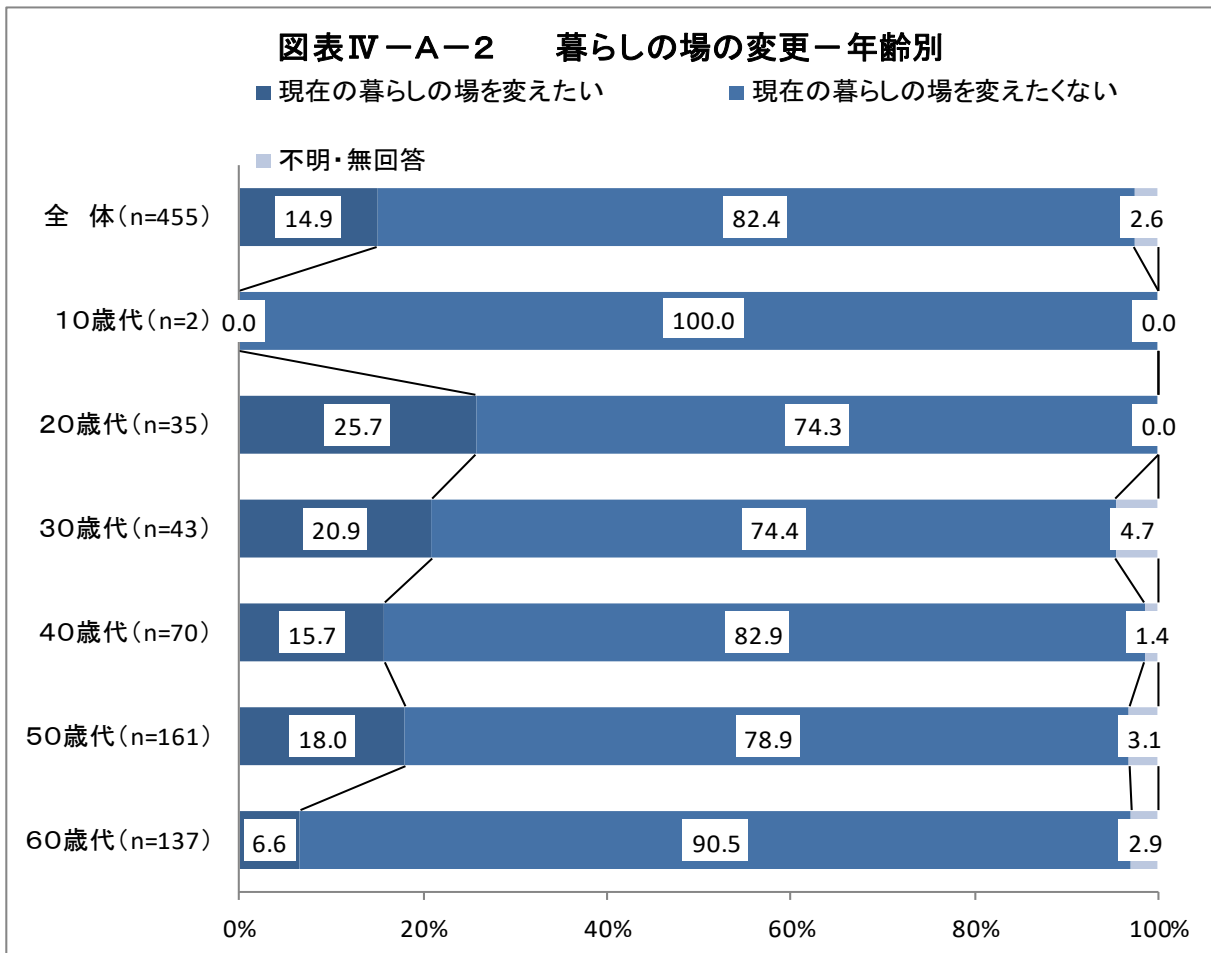


## (2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、82.4%、一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、14.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、10歳代が100.0%、次に60歳代が90.5%である。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、20歳代が25.7%、次に30歳代が20.9%である。

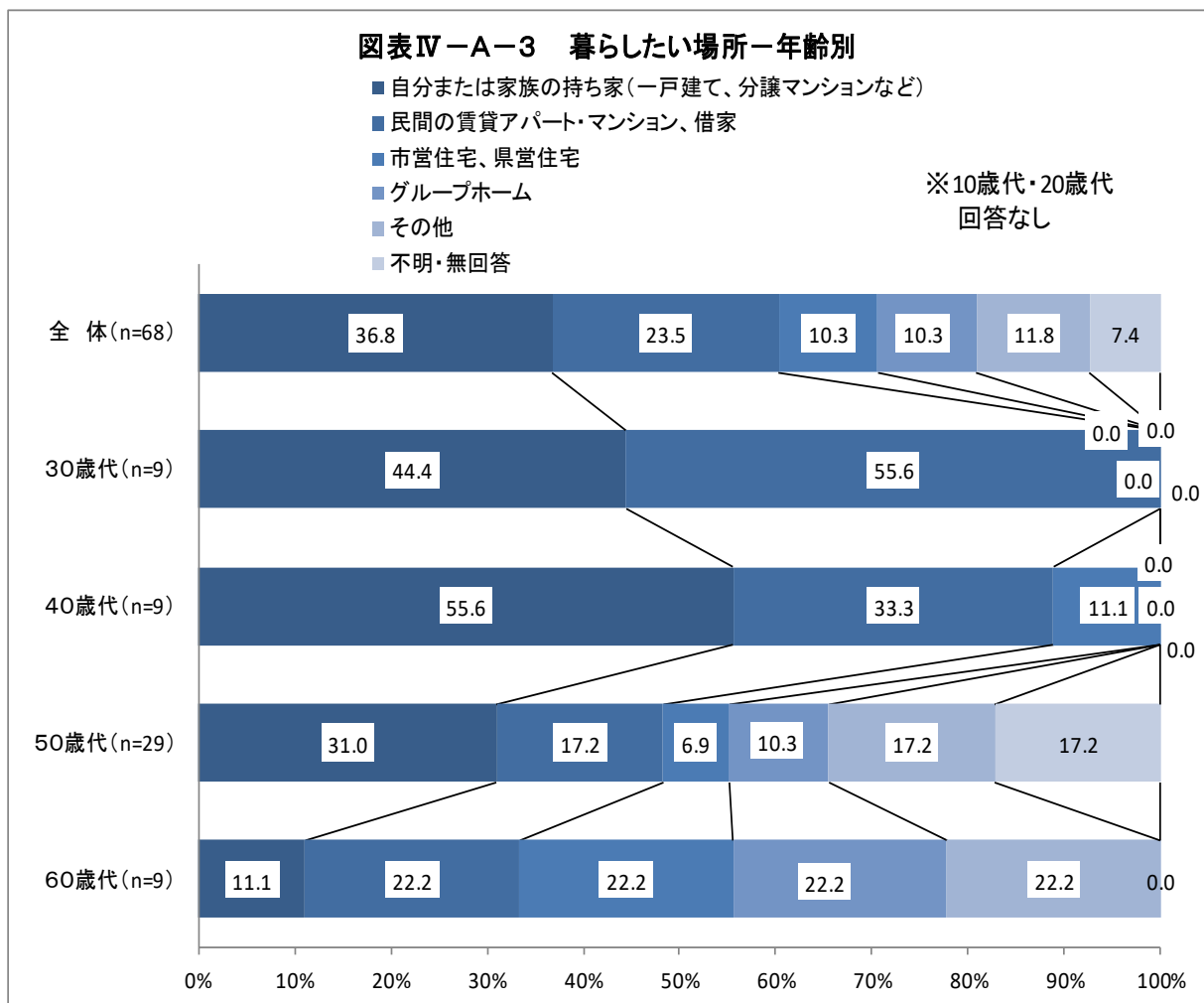


(3) 暮らしたい場所 (問6)

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分または家族の持ち家」は、36.8%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、23.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家」は、40歳代が55.6%、次に30歳代が44.4%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30歳代が55.6%、次に40歳代が33.3%である。

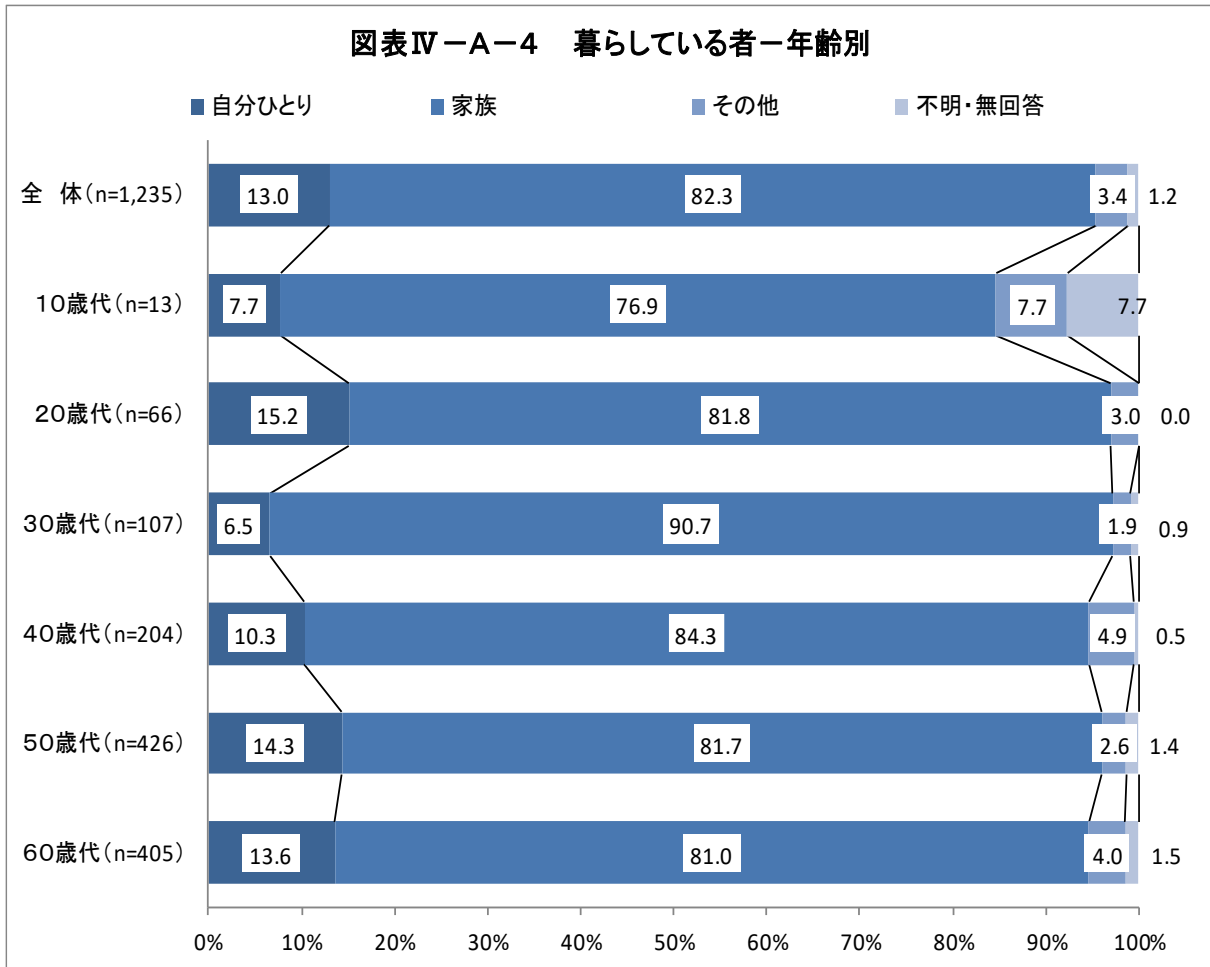


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、82.3%、「自分ひとり」は、13.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、30歳代が90.7%、次に40歳代が84.3%である。一方「自分ひとり」は、20歳代が15.2%、次に50歳代が14.3%である。



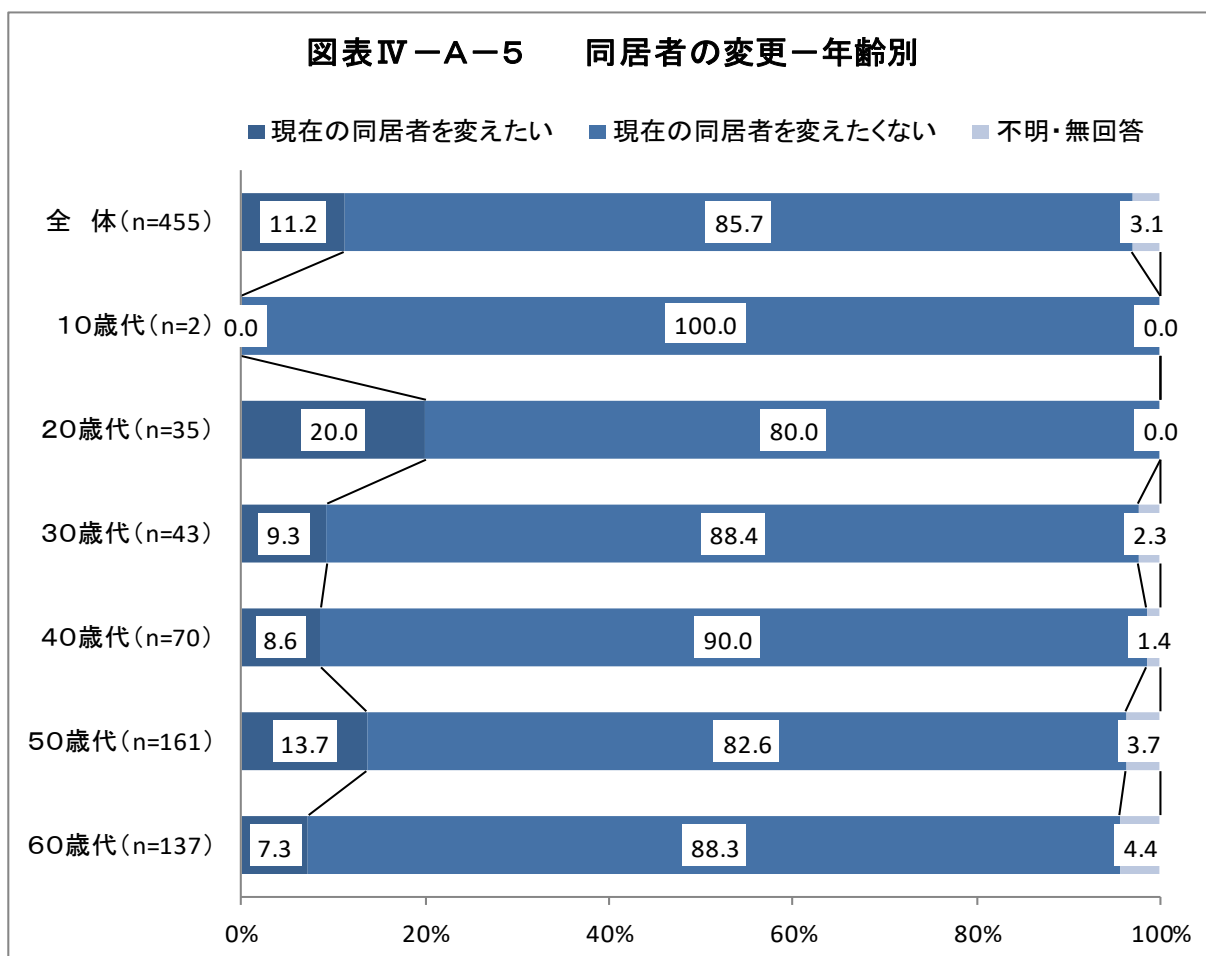


### (5) 同居者の変更 (問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、85.7%、「現在の同居者を変えたい」は、11.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、10歳代が100.0%、次に40歳代が90.0%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、20歳代が20.0%、次に50歳代が13.7%である。

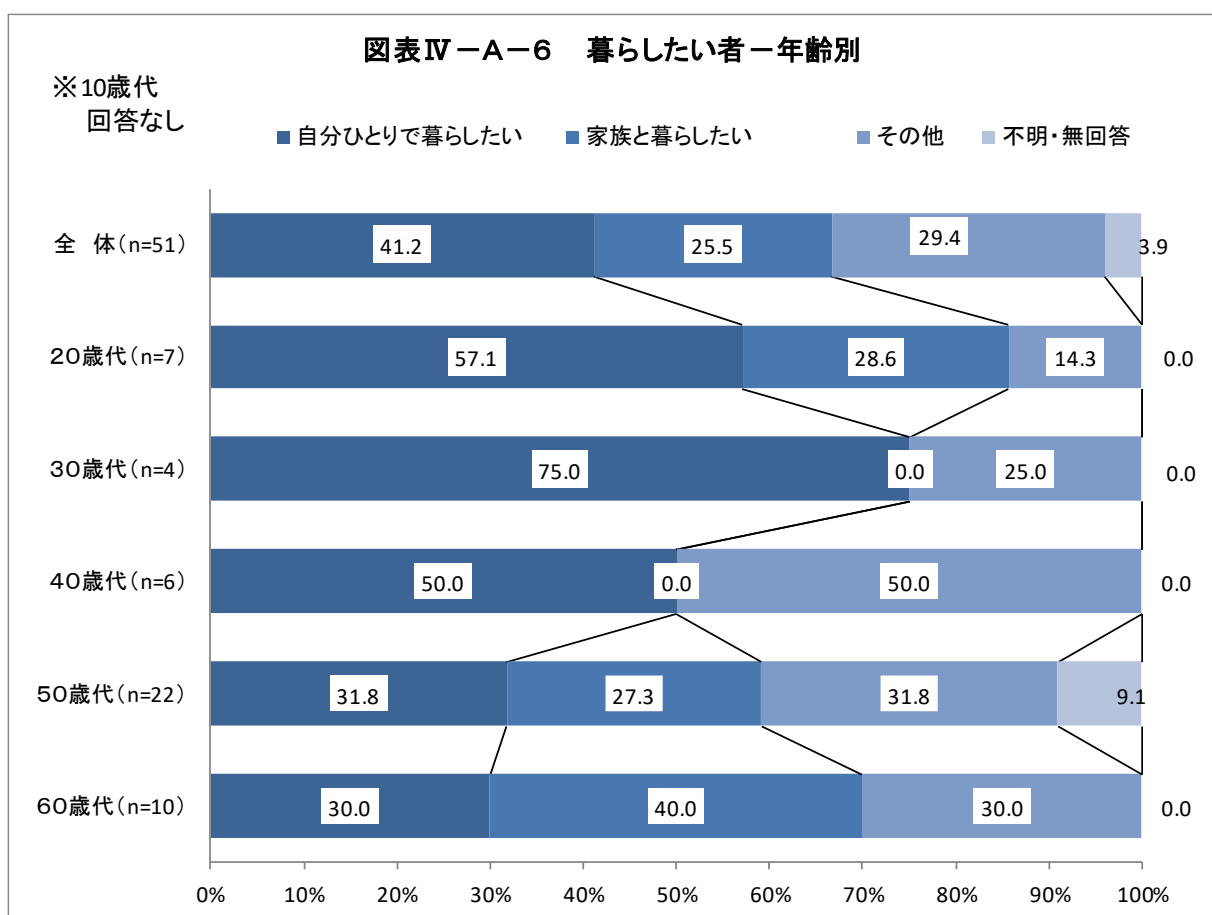


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「自分ひとりで暮らしたい」は、41.2%、「その他」は、29.4%、「家族と暮らしたい」は、25.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分ひとりで暮らしたい」は、30歳代が75.0%、次に20歳代が57.1%である。一方「家族と暮らしたい」は、60歳代が40.0%、次に20歳代が28.6%である。

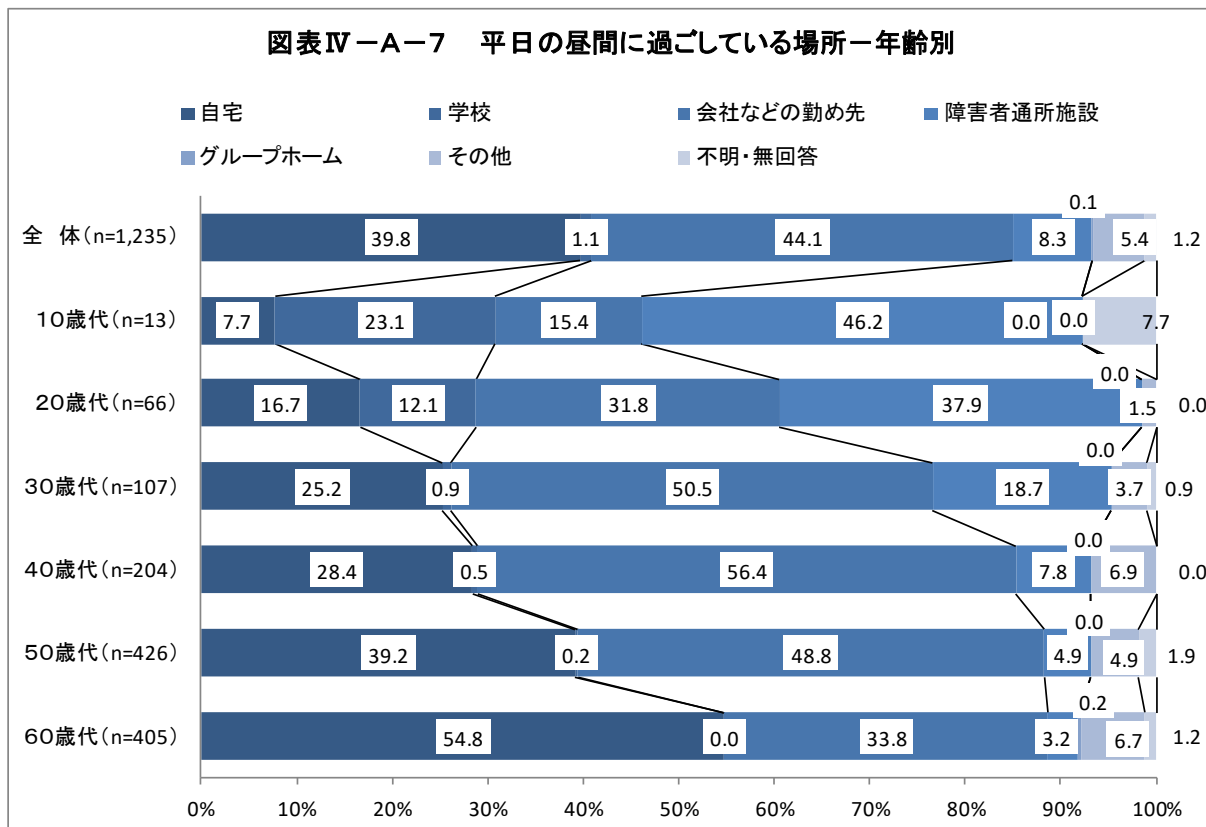


(7) 平日の昼間に過ごしている場所 (問10)

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「会社などの勤め先」は、44.1%、「自宅」は、39.8%、「障害者通所施設」は、8.3%である。

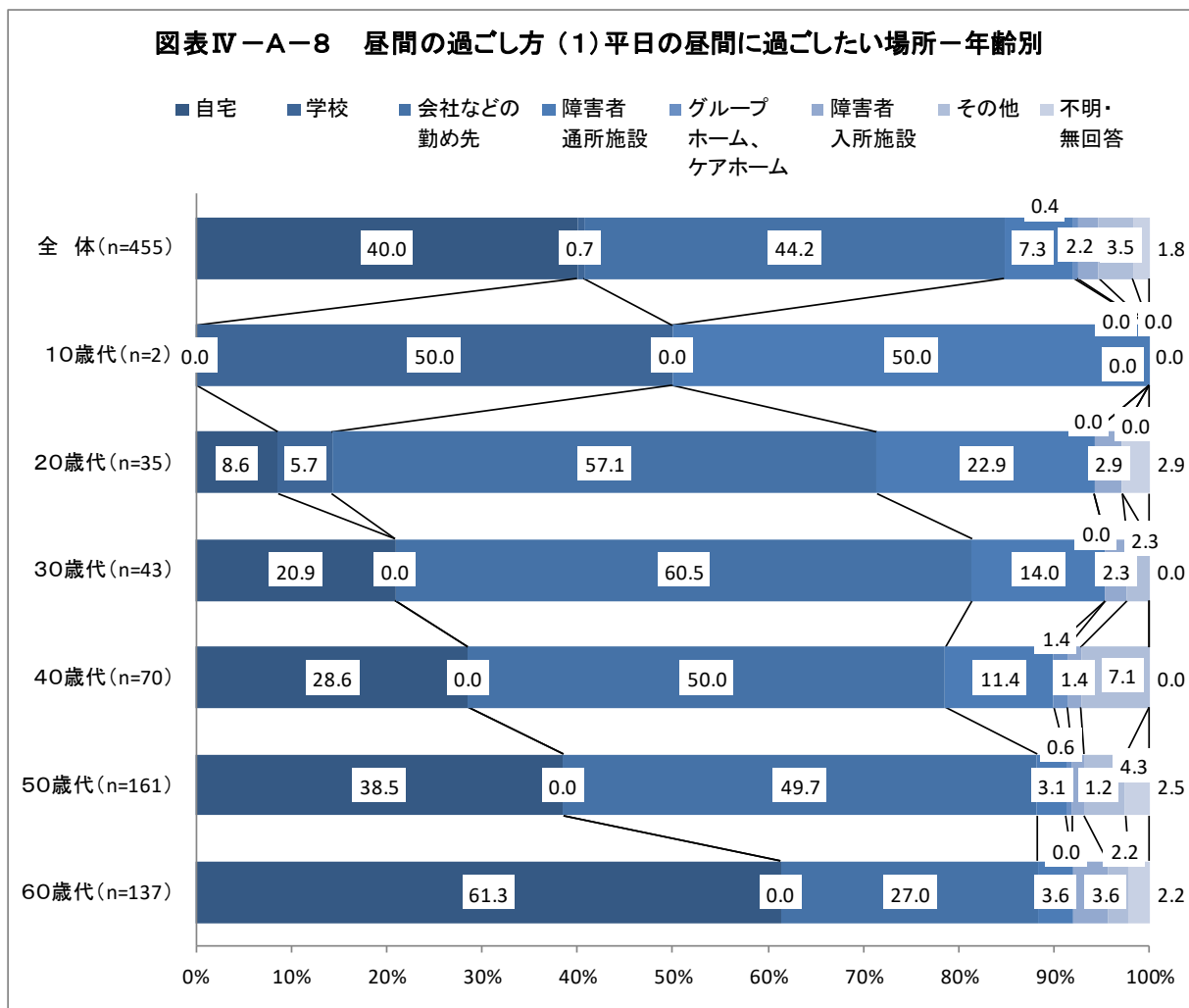
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社などの勤め先」は、40歳代が56.4%、次に30歳代が50.5%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が54.8%、次に50歳代が39.2%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、10歳代が46.2%、次に20歳代が37.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



(8) 昼間の過ごし方(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問11(1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「会社などの勤め先」は、44.2%、「自宅」は、40.0%、「障害者通所施設」は、7.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社などの勤め先」は、30歳代が60.5%、次に20歳代が57.1%である。20歳代から50歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が61.3%、次に50歳代が38.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が22.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



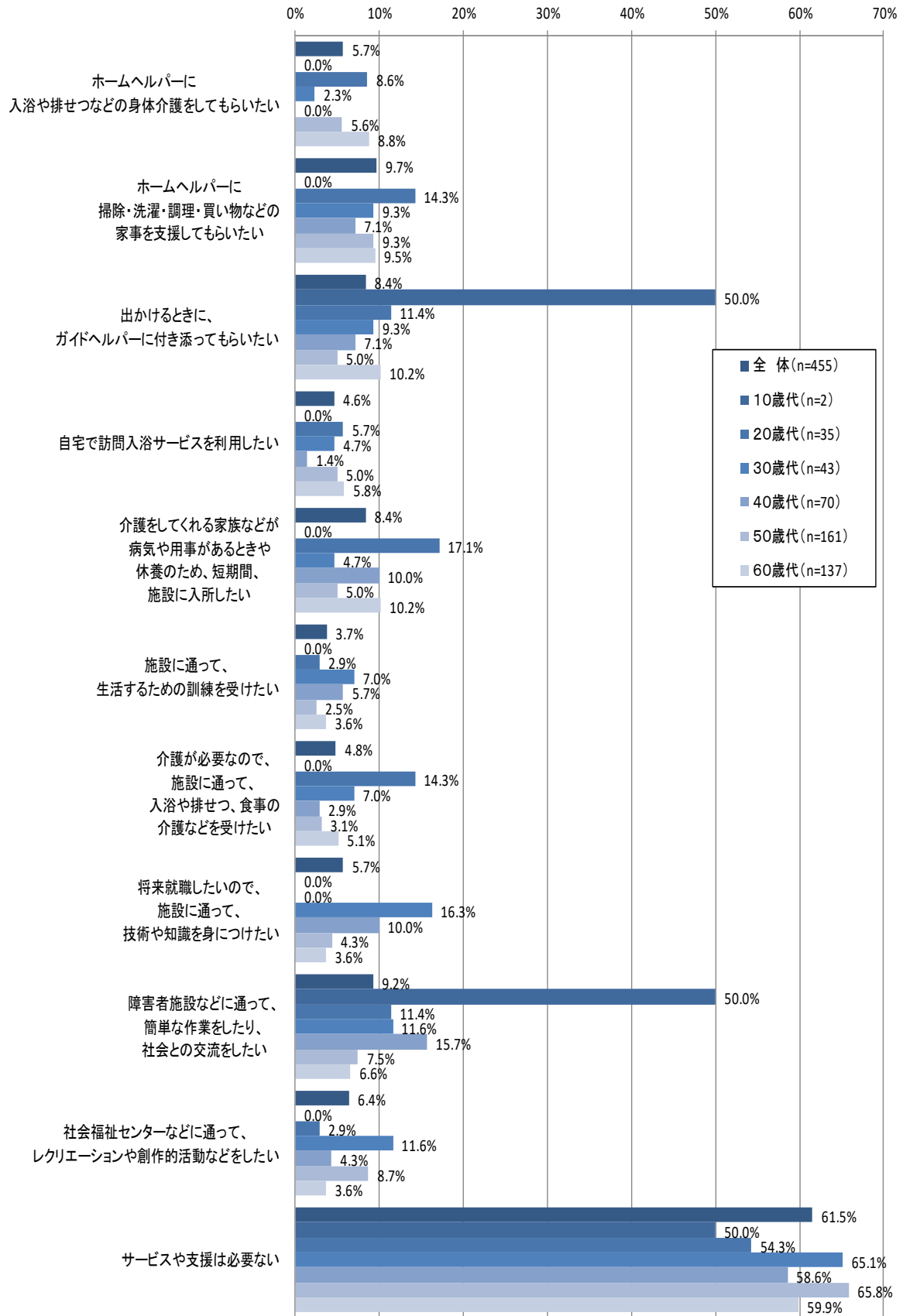
#### (8) 昼間の過ごし方-(2)昼間に利用したいサービスや支援(問11(2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、61.5%、以降は10%台以下となっている。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、9.7%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、9.2%、「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」と「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、8.4%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「サービスや支援は必要ない」は、50歳代が65.8%、次に30歳代が65.1%である。全年代で50%以上と高い。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、20歳代が14.3%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、10歳代が50.0%、次に40歳代が15.7%である。「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」は、10歳代が50.0%である。

図表Ⅳ-A-9 昼間の過ごし方(2)昼間に利用したいサービスや支援一年齢別  
(複数回答)



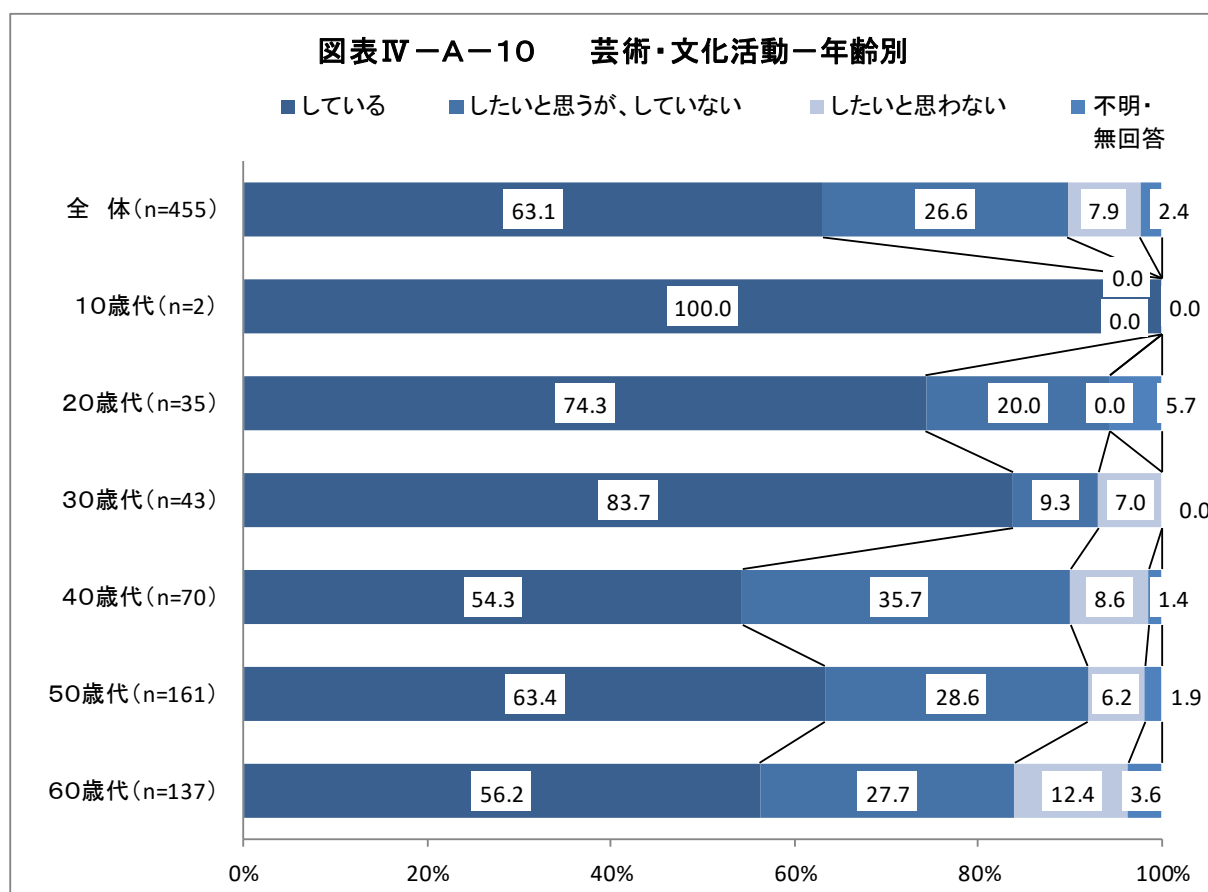
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

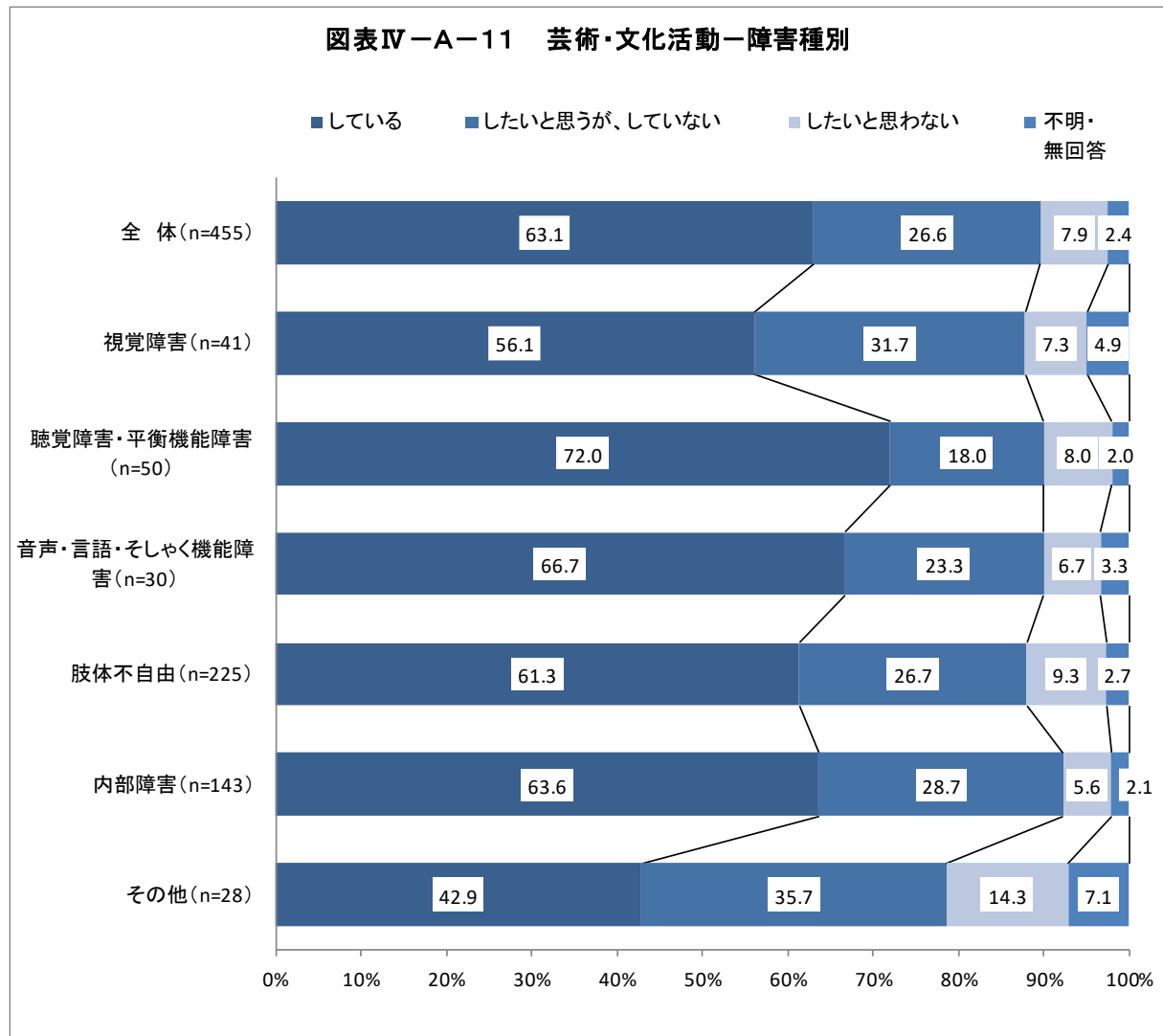
現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、63.1%、「したいと思うが、していない」は、26.6%、「したいと思わない」は、7.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が83.7%である。「したいと思うが、していない」は、40歳代が35.7%、次に50歳代が28.6%である。40歳代から60歳代の割合が高い。「したいと思わない」は、60歳代が12.4%、次に40歳代が8.6%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、聴覚障害・平衡機能障害が72.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が66.7%である。「したいと思うが、していない」は、そのほか35.7%、次に視覚障害が31.7%である。「したいと思わない」は、そのほか14.3%、次に肢体不自由が9.3%である。



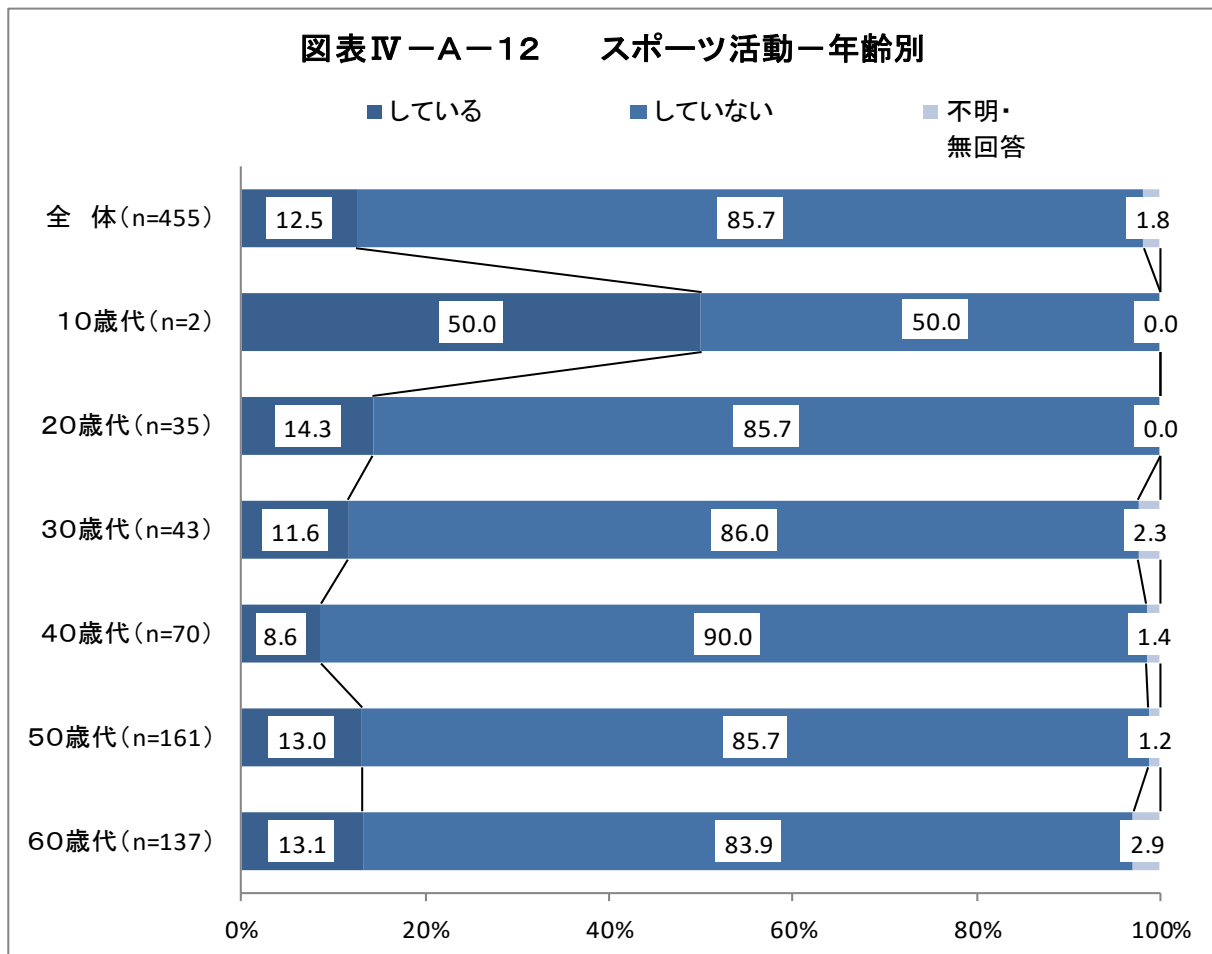


## (2) スポーツ活動の実施 (問 13)

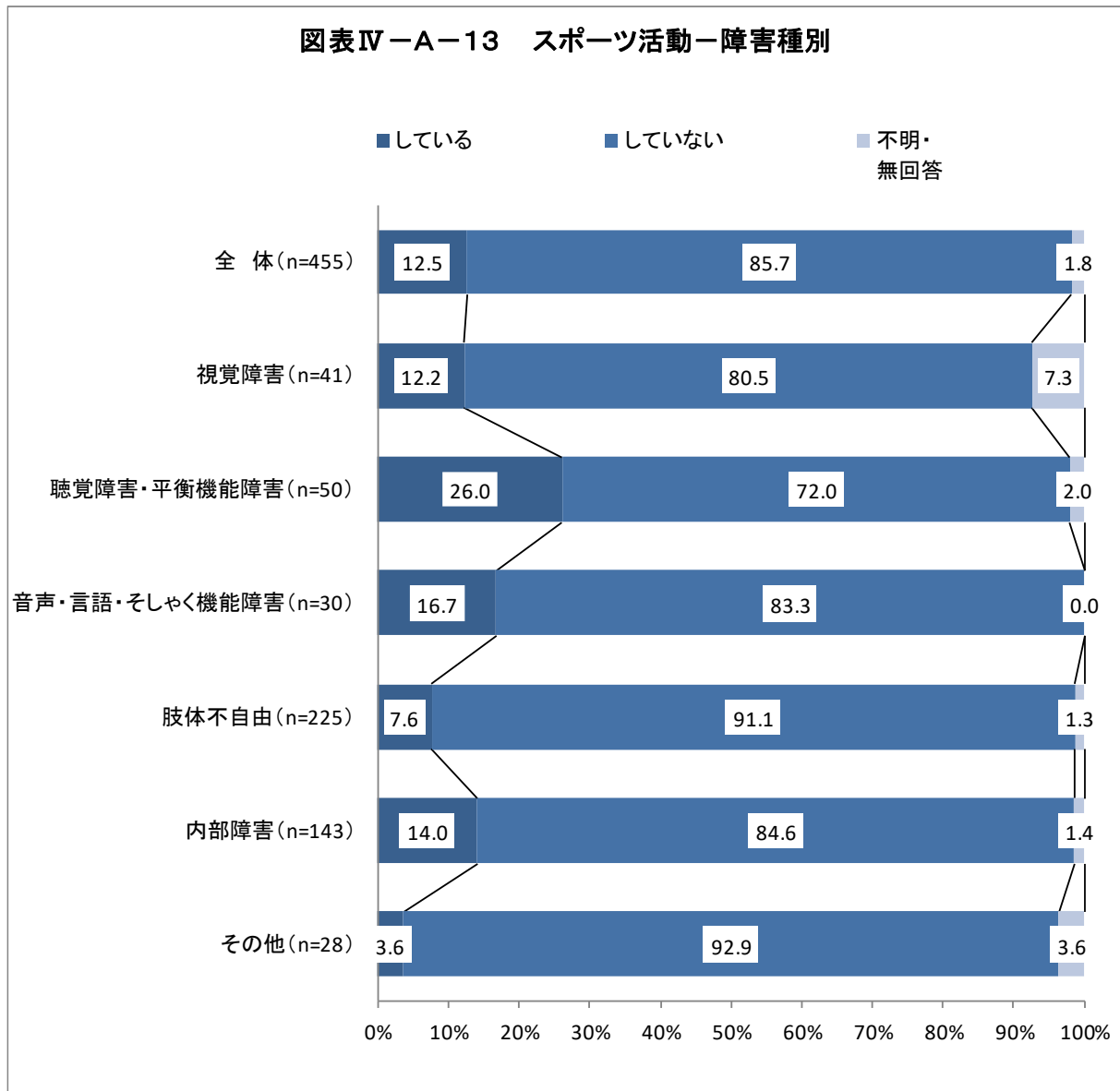
現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、12.5%、「していない」は、85.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が14.3%である。「していない」は、40歳代が90.0%、次に30歳代が86.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、聴覚障害・平衡機能障害が26.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「していない」は、その他が92.9%、次に肢体不自由が91.1%である。

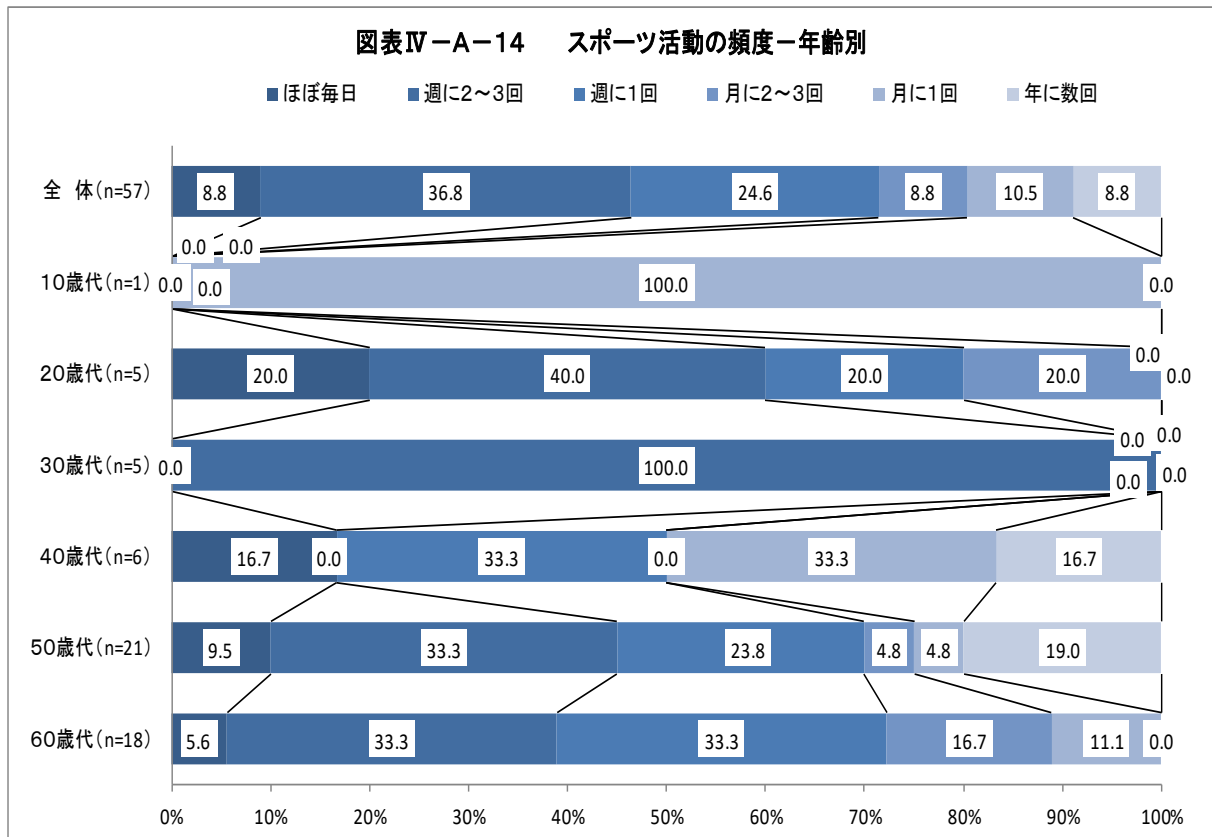


（3）スポーツ活動の頻度（問14）

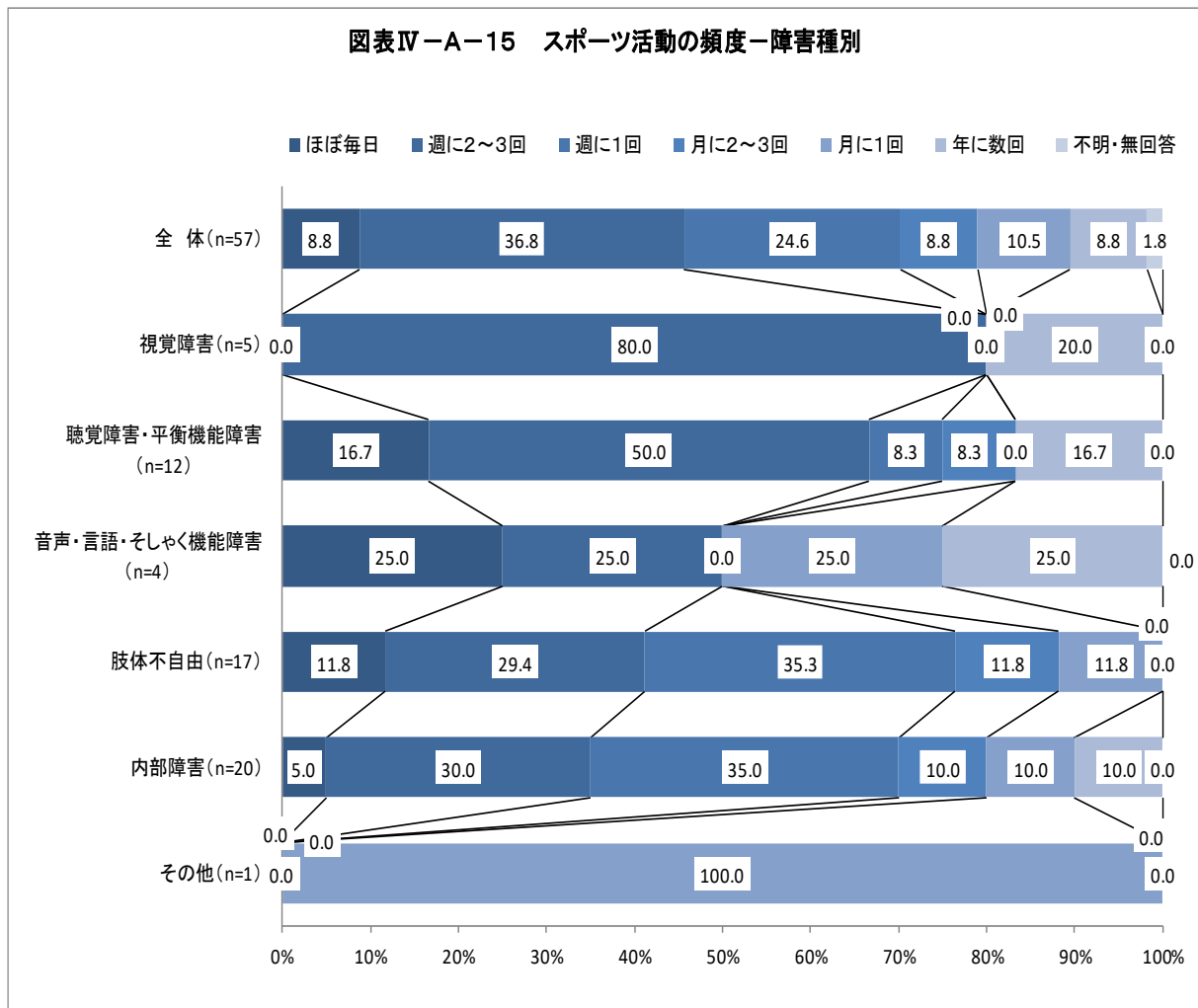
問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「週に2～3回」は、36.8%、「週に1回」は、24.6%、「月に1回」は、10.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2～3回」は、30歳代が100.0%、次に20歳代が40.0%である。「週に1回」は、40歳代と60歳代が33.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2～3回」は、視覚障害が80.0%、次に聴覚障害・平衡機能障害が50.0%である。「週に1回」は、肢体不自由が35.3%、次に内部障害が35.0%である。

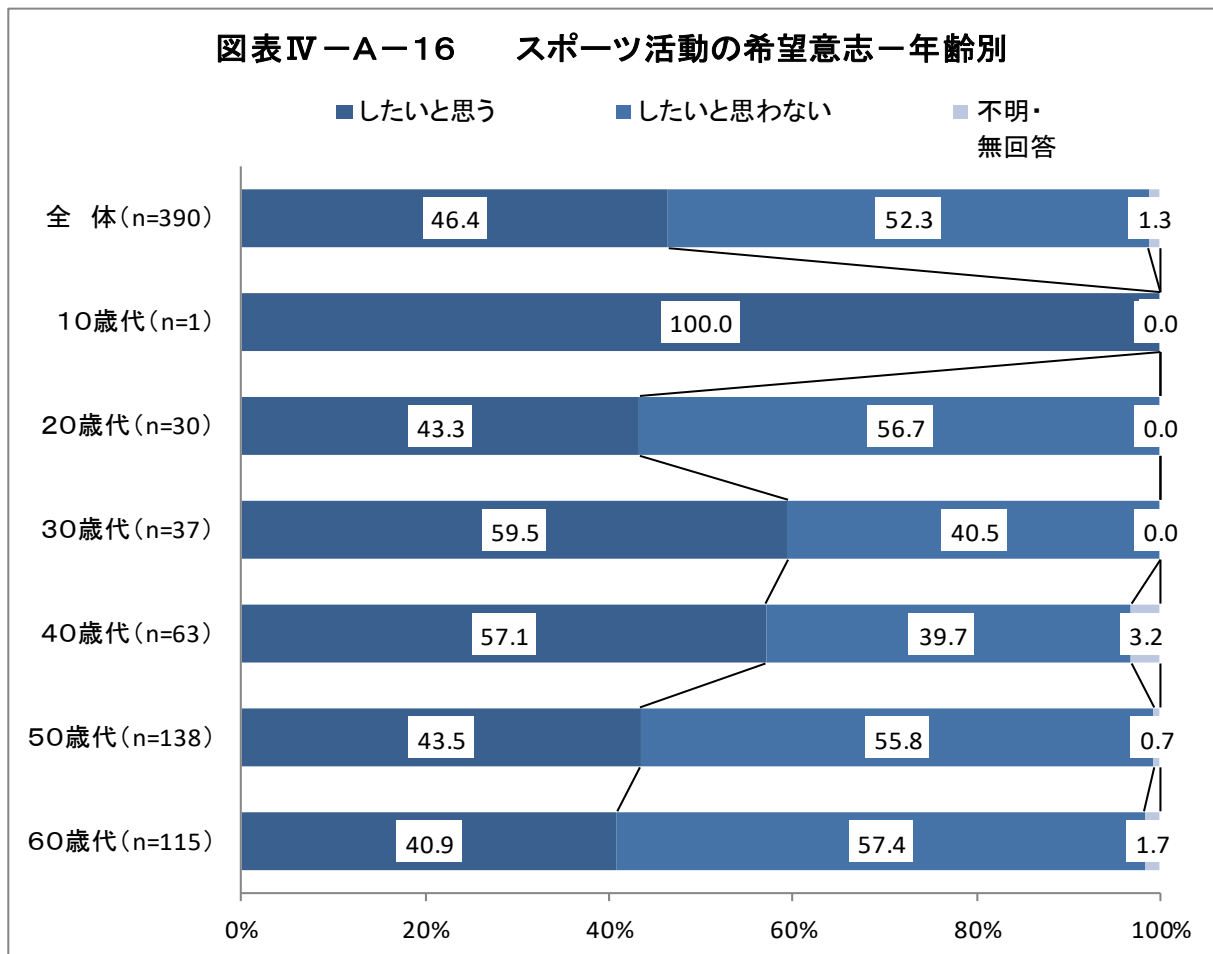


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

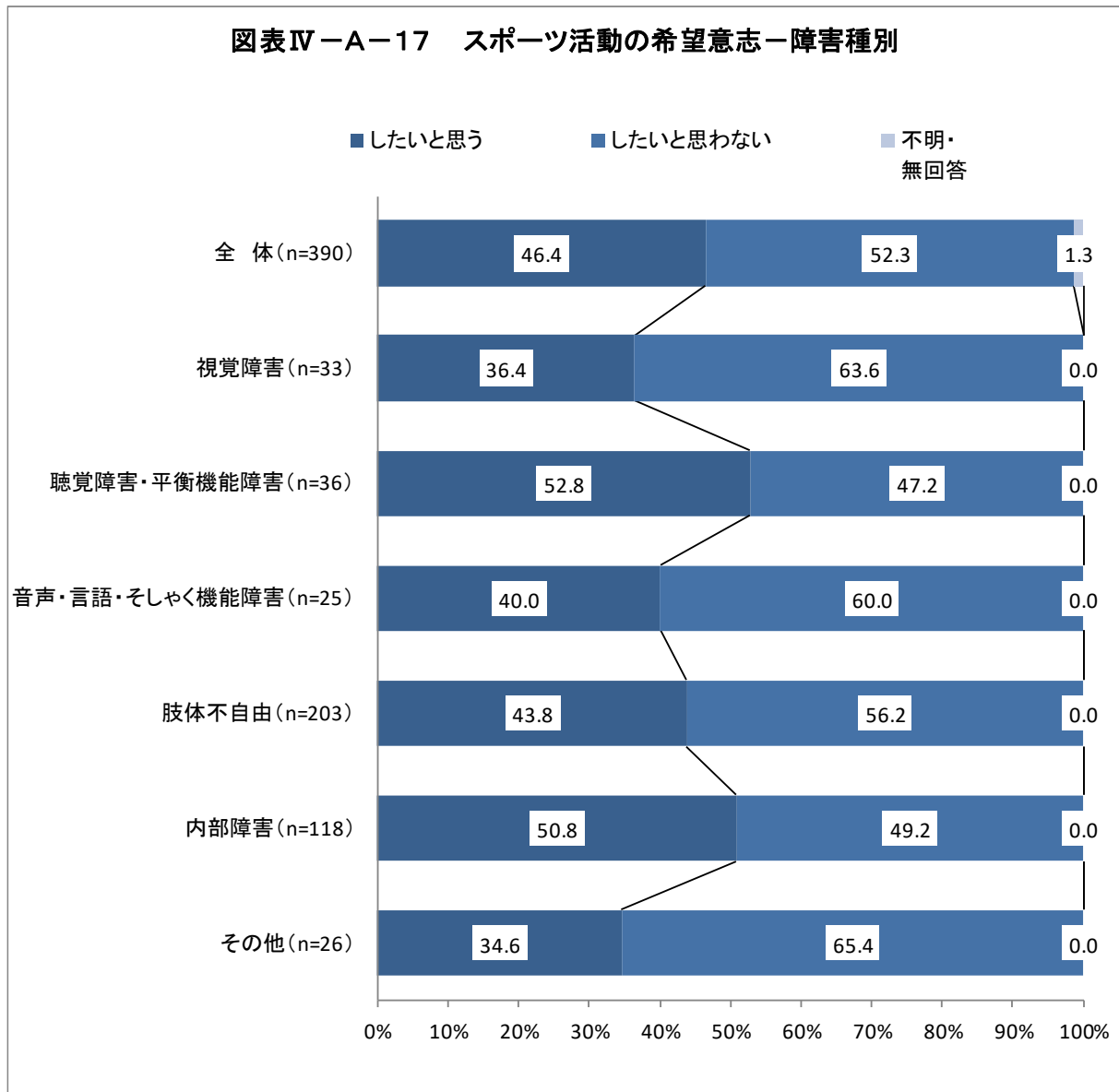
問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、46.4%、「したいと思わない」は、52.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が59.5%である。一方「したいと思わない」は、60歳代が57.4%、次に20歳代が56.7%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、聴覚障害・平衡機能障害が52.8%、次に内部障害が50.8%である。一方「したいと思わない」は、そのほか65.4%、次に視覚障害が63.6%である。



### 3 就労について

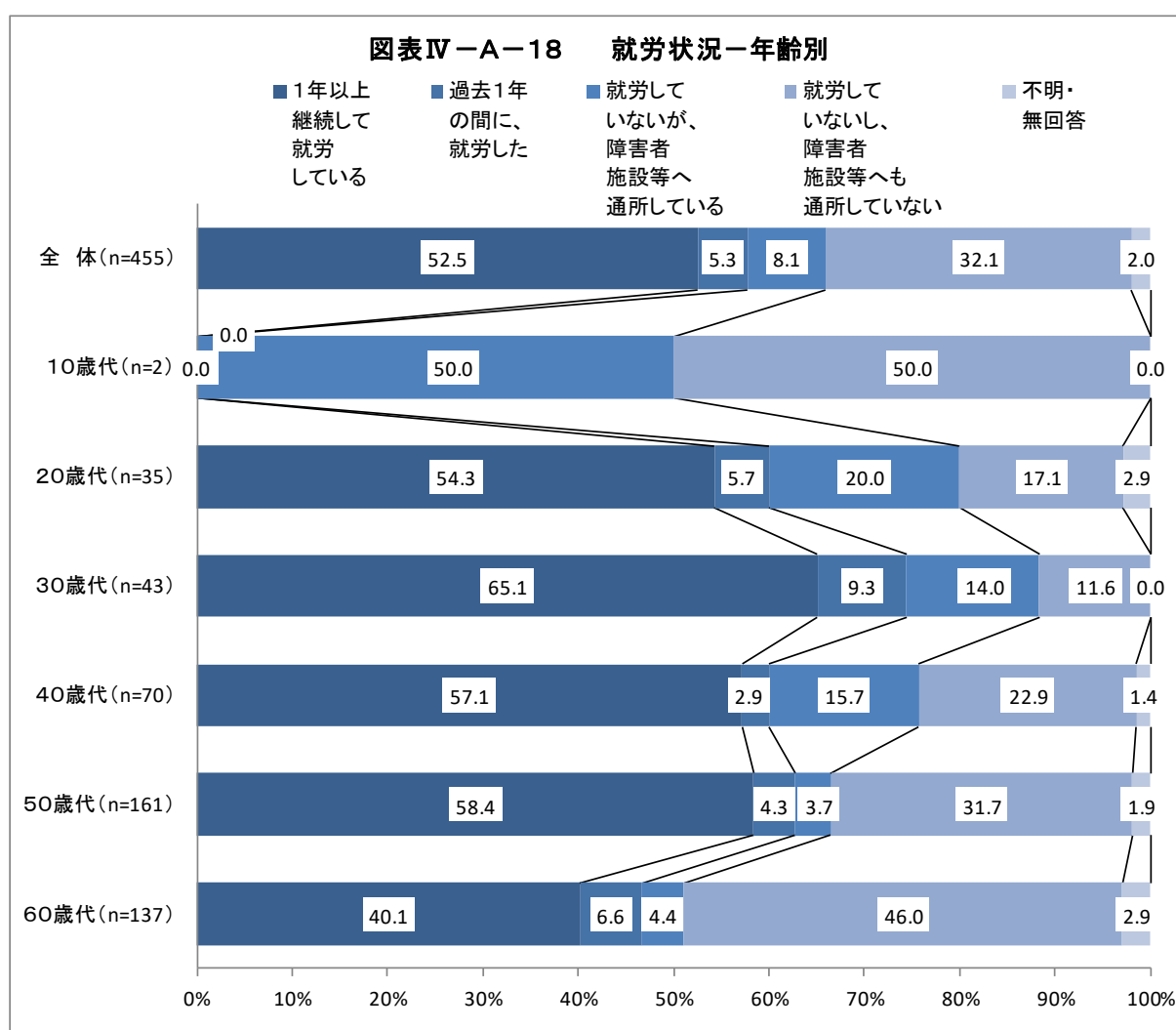
#### (1) 就労状況（問16）

現在、就労をしているかをたずねた。

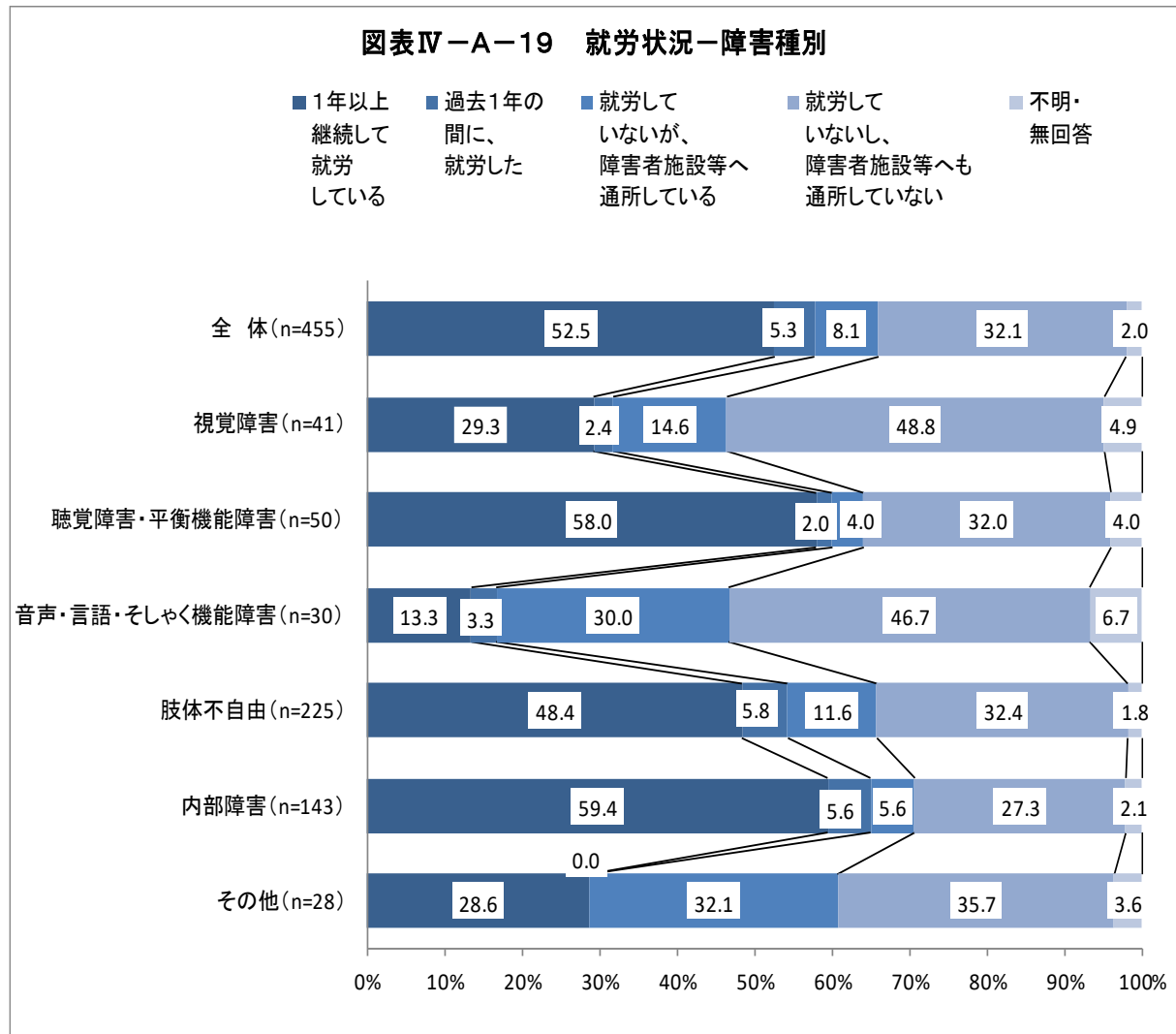
「1年以上継続して就労している」は、52.5%、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、32.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「1年以上継続して就労している」は、30歳代が65.1%、次に50歳代が58.4%である。一方「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が46.0%である。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が20.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「1年以上継続して就労している」は、内部障害が59.4%、次に聴覚障害・平衡機能障害が58.0%である。一方「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、視覚障害が48.8%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が46.7%である。





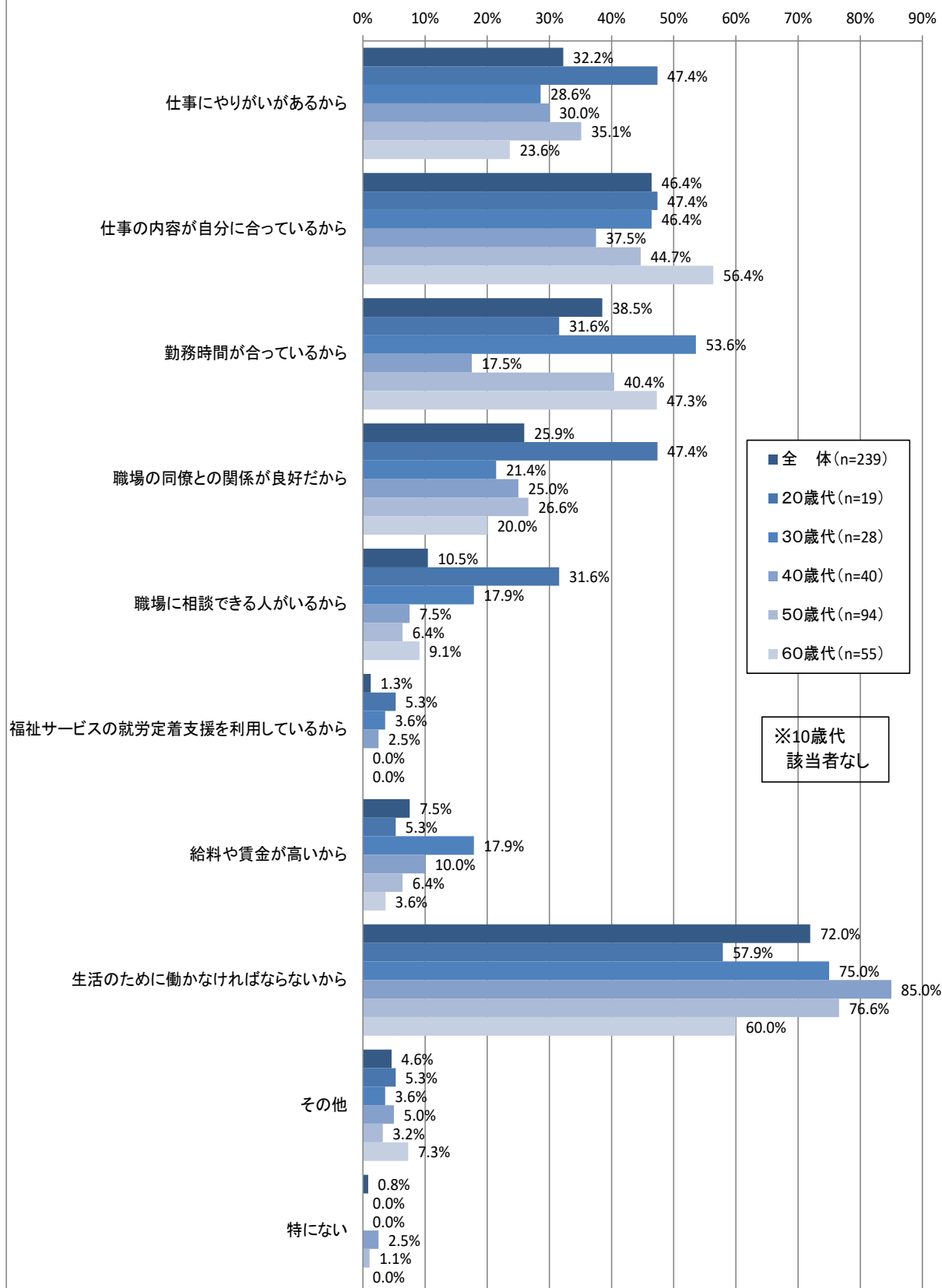
## (2) 就労継続できる理由 (問 17)

問 16 で「1 年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

「生活のために働かなければならないから」は、72.0%、「仕事の内容が自分に合っているから」は、46.4%、「勤務時間が合っているから」は、38.5%、「仕事にやりがいがあるから」は、32.2%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、25.9%である。

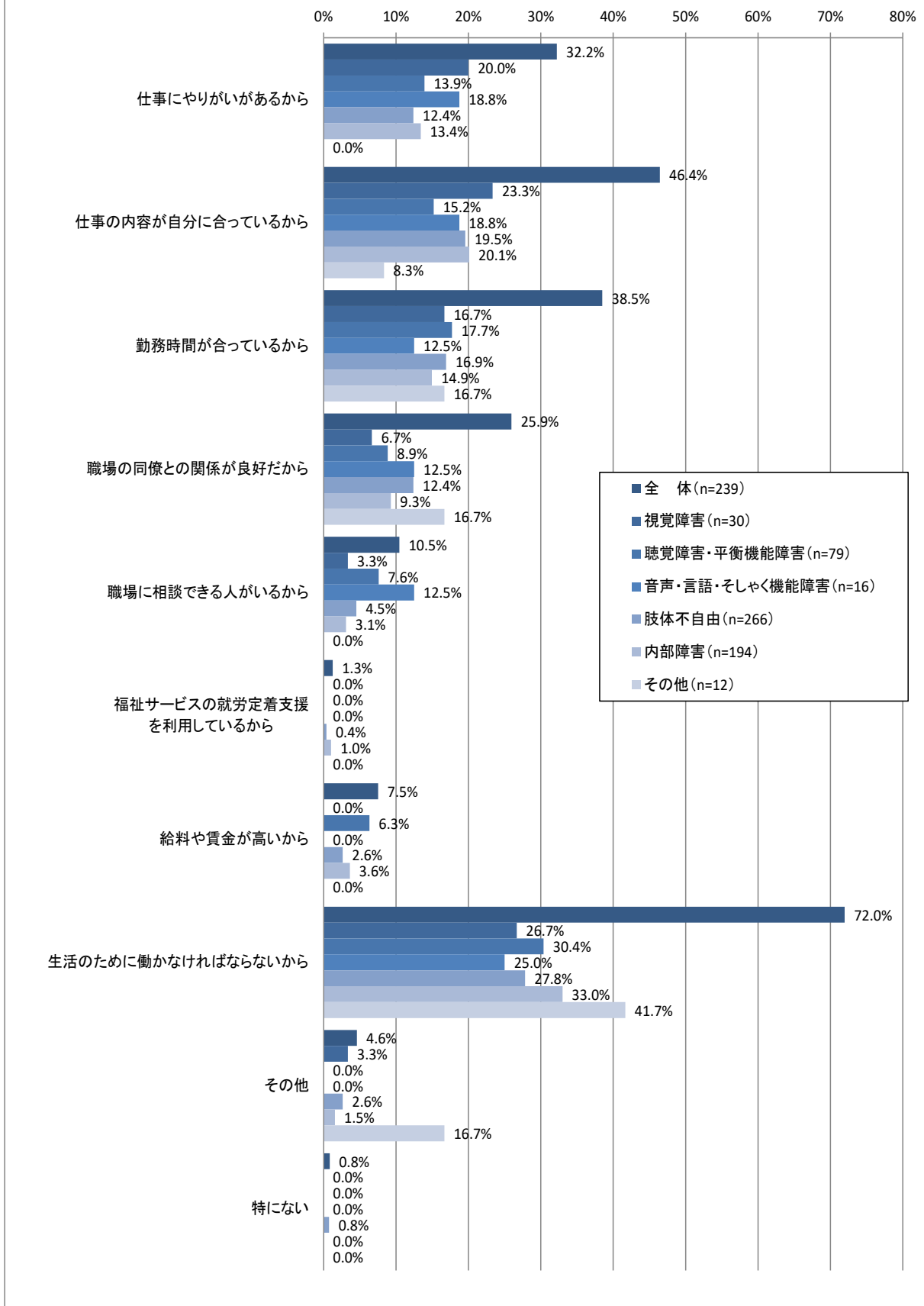
**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活のために働かなければならないから」は、40 歳代が 85.0%、次に 50 歳代が 76.6%である。30 歳代から 50 歳代の割合が高い。「仕事の内容が自分に合っているから」は、60 歳代が 56.4%、次に 20 歳代が 47.4%である。「勤務時間が合っているから」は、30 歳代が 53.6%、次に 60 歳代が 47.3%である。「仕事にやりがいがあるから」は、20 歳代が 47.4%、次に 50 歳代が 35.1%である。「職場の同僚との関係が良好だから」は、20 歳代が 47.4%、次に 50 歳代が 26.6%である。

図表Ⅳ-A-20 就労継続できる理由—年齢別(複数回答)



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活のために働かなければならないから」は、その他が 41.7%、次に内部障害が 33.0%である。「仕事の内容が自分に合っているから」は、視覚障害が 23.3%、次に内部障害が 20.1%である。「勤務時間が合っているから」は、障害種別であまり差は少ない。「仕事にやりがいがあるから」は、視覚障害が 20.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が 18.8%である。

図表Ⅳ-A-21 就労継続できる理由—障害種別(複数回答)

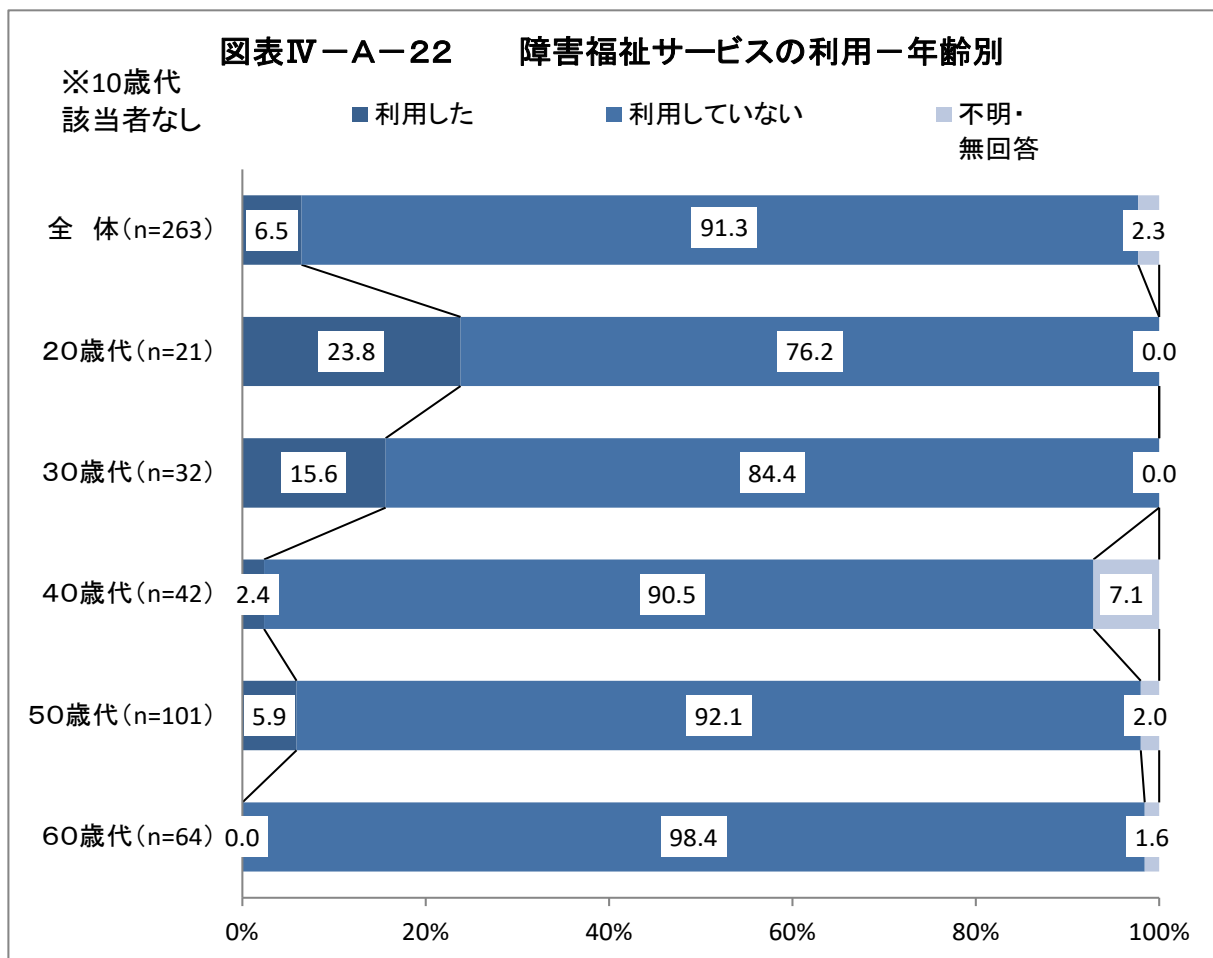


(3) 障害福祉サービスの利用（問18）

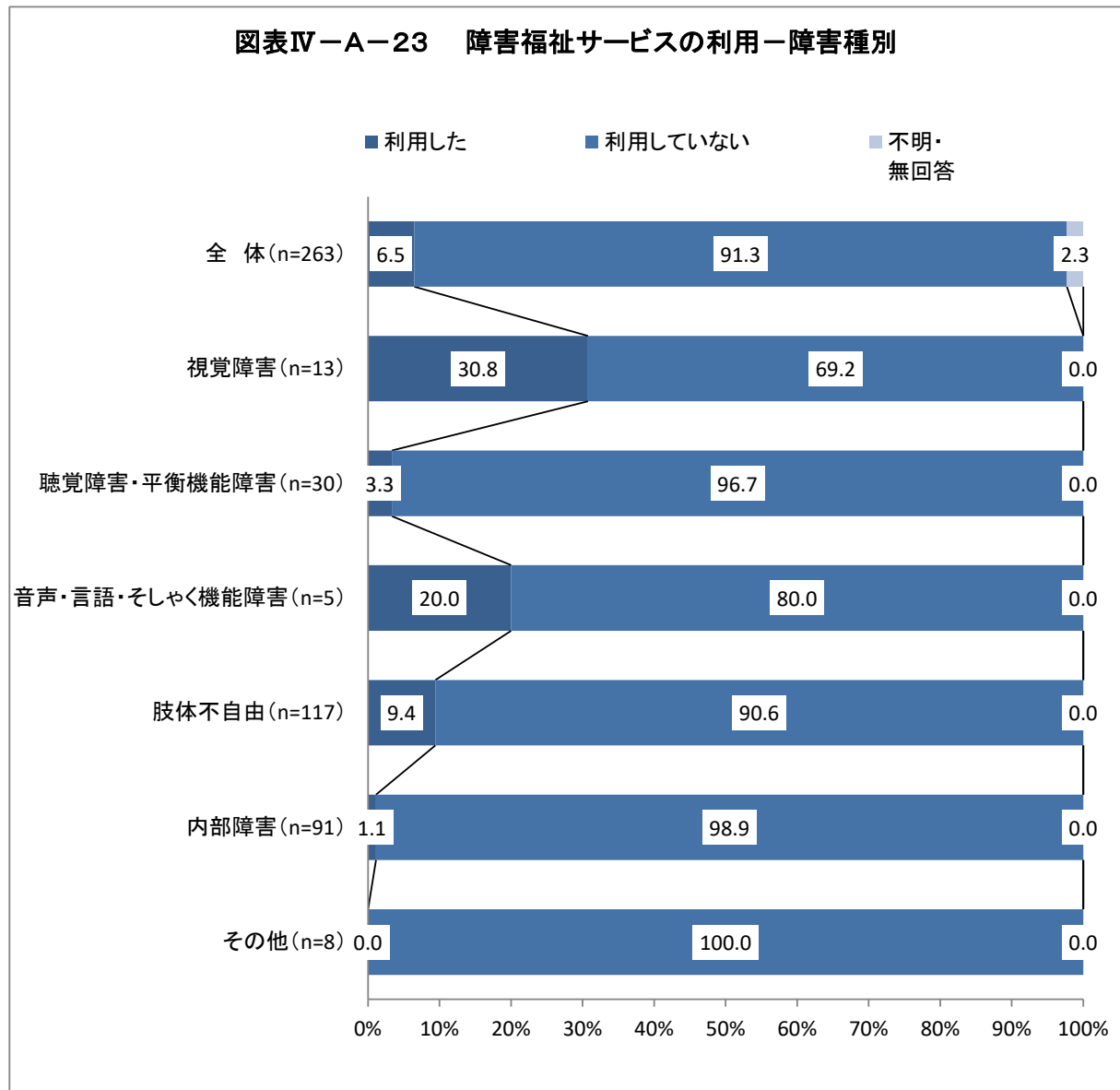
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用していない」は、91.3%、「利用した」は、6.5%である。

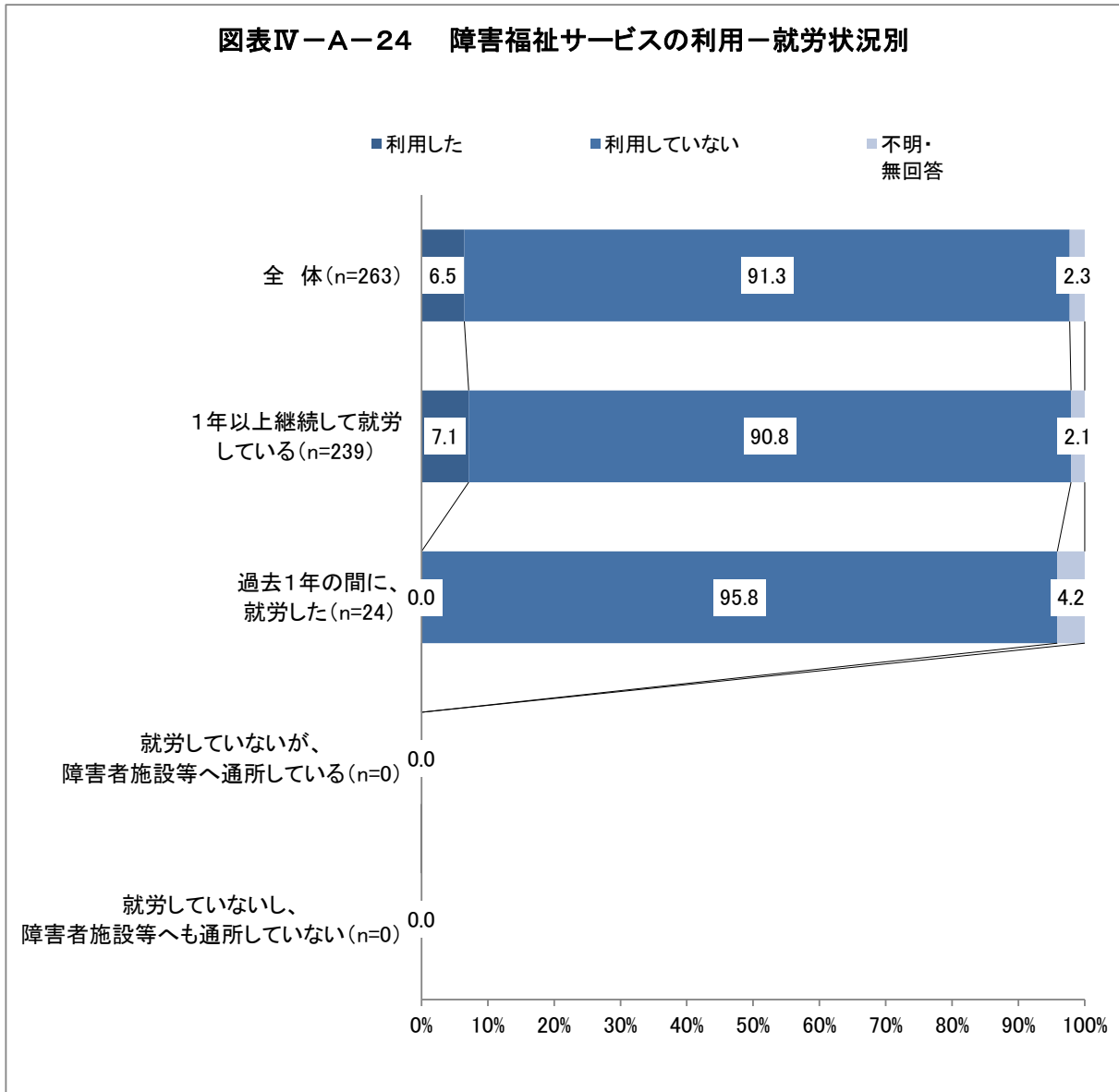
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、60歳代が98.4%、次に50歳代が92.1%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「利用した」は、20歳代が23.8%、次に30歳代が15.6%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、そのほか100.0%、次に内部障害が98.9%、聴覚障害・平衡機能障害が96.7%である。「利用した」は、視覚障害が30.8%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%である。



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、「過去1年の間に、就労した」が95.8%、次に「1年以上継続して就労している」が90.8%である。

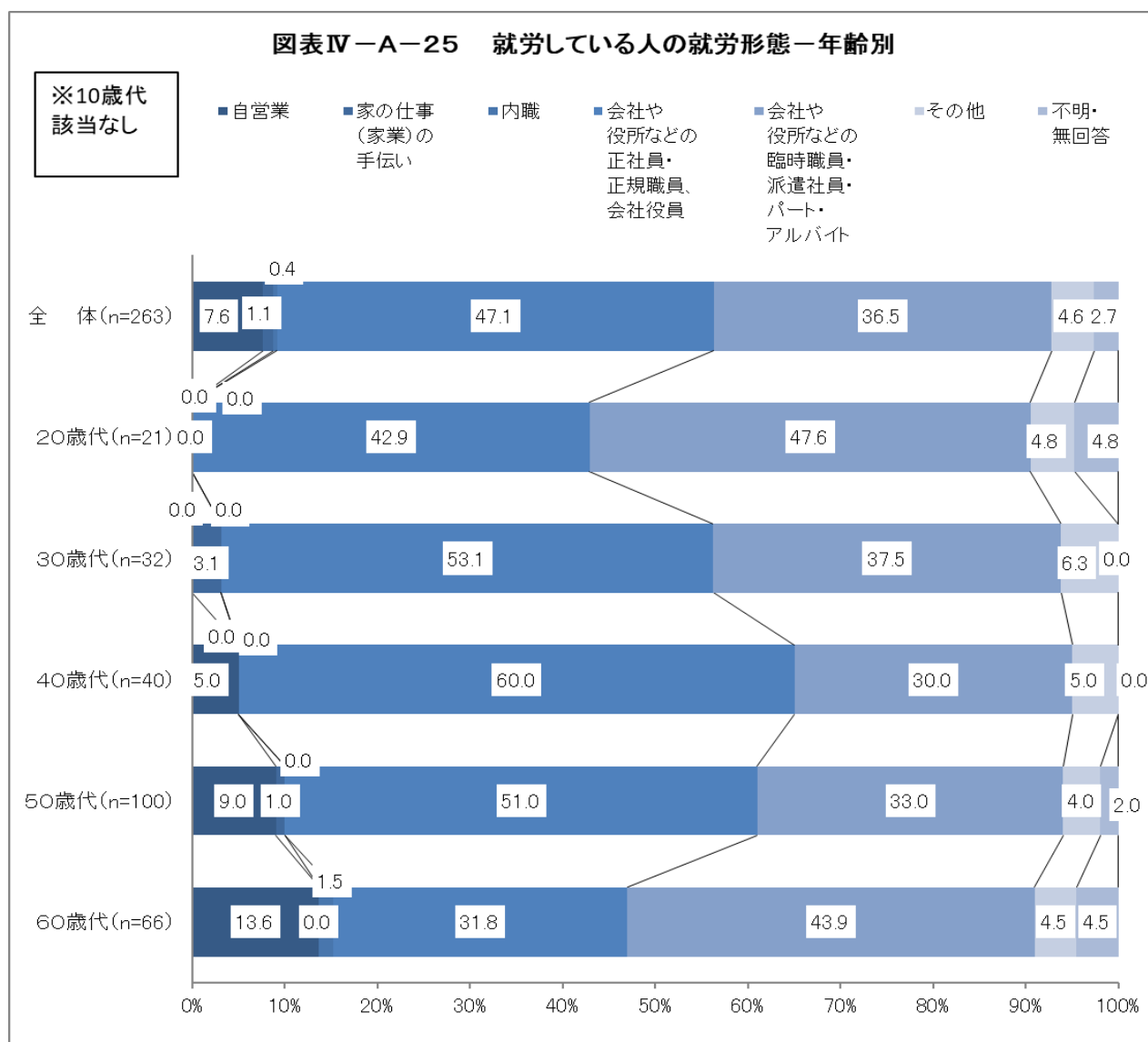


(4) 就労している人の就労形態 (問 19)

問 16 で「1 年以上継続して就労している」または「過去 1 年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

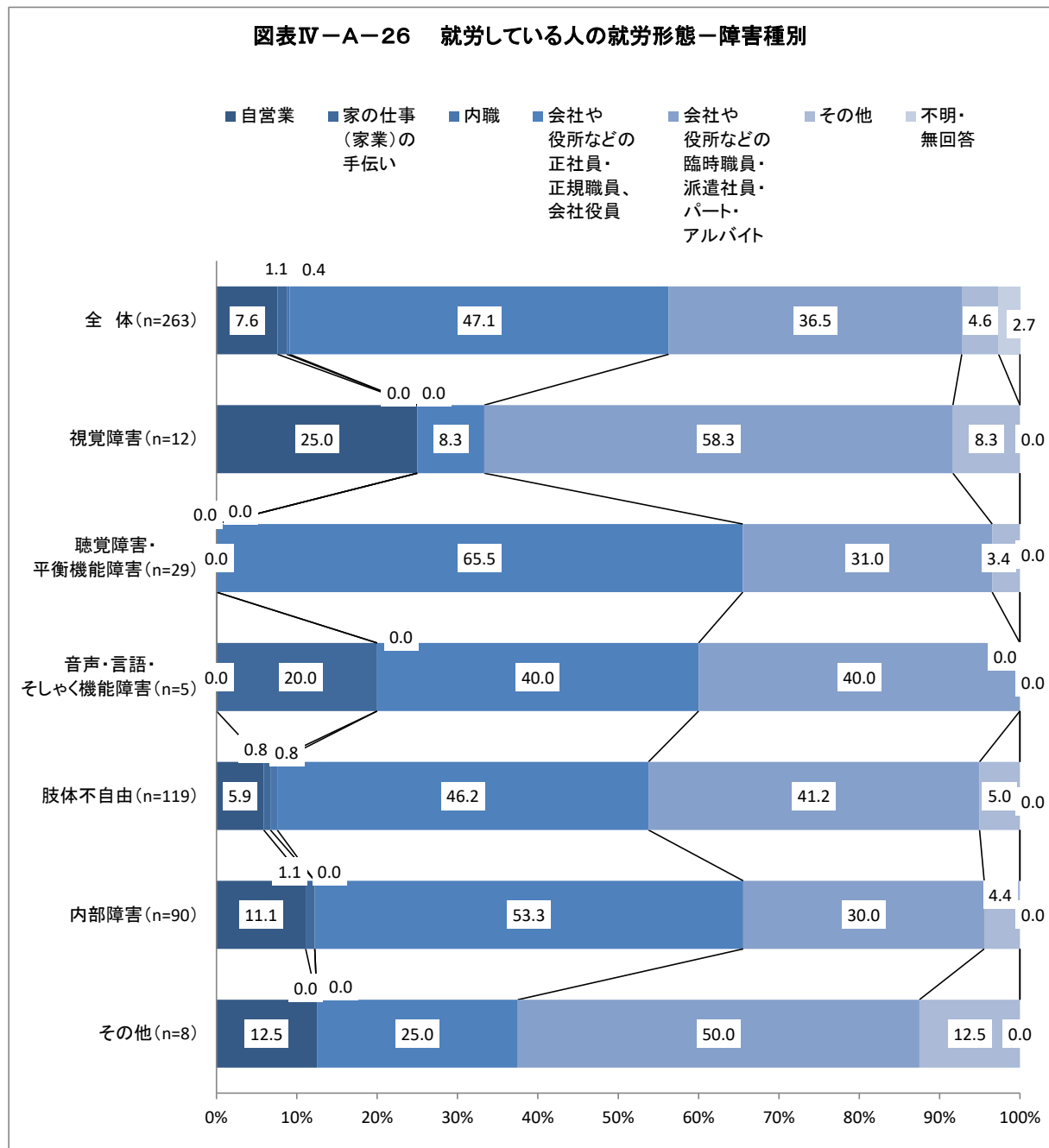
「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、47.1%、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、36.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、40 歳代が 60.0%、次に 30 歳代が 53.1%である。30 歳代から 50 歳代の割合が高い。「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、20 歳代が 47.6%、次に 60 歳代が 43.9%である。





【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、聴覚障害・平衡機能障害が65.5%、次に内部障害が53.3%である。「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、視覚障害が58.3%、次にそのほかが50.0%である。「自営業」は、視覚障害が25.0%である。「家の仕事（家業）の手伝い」は、音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%である。

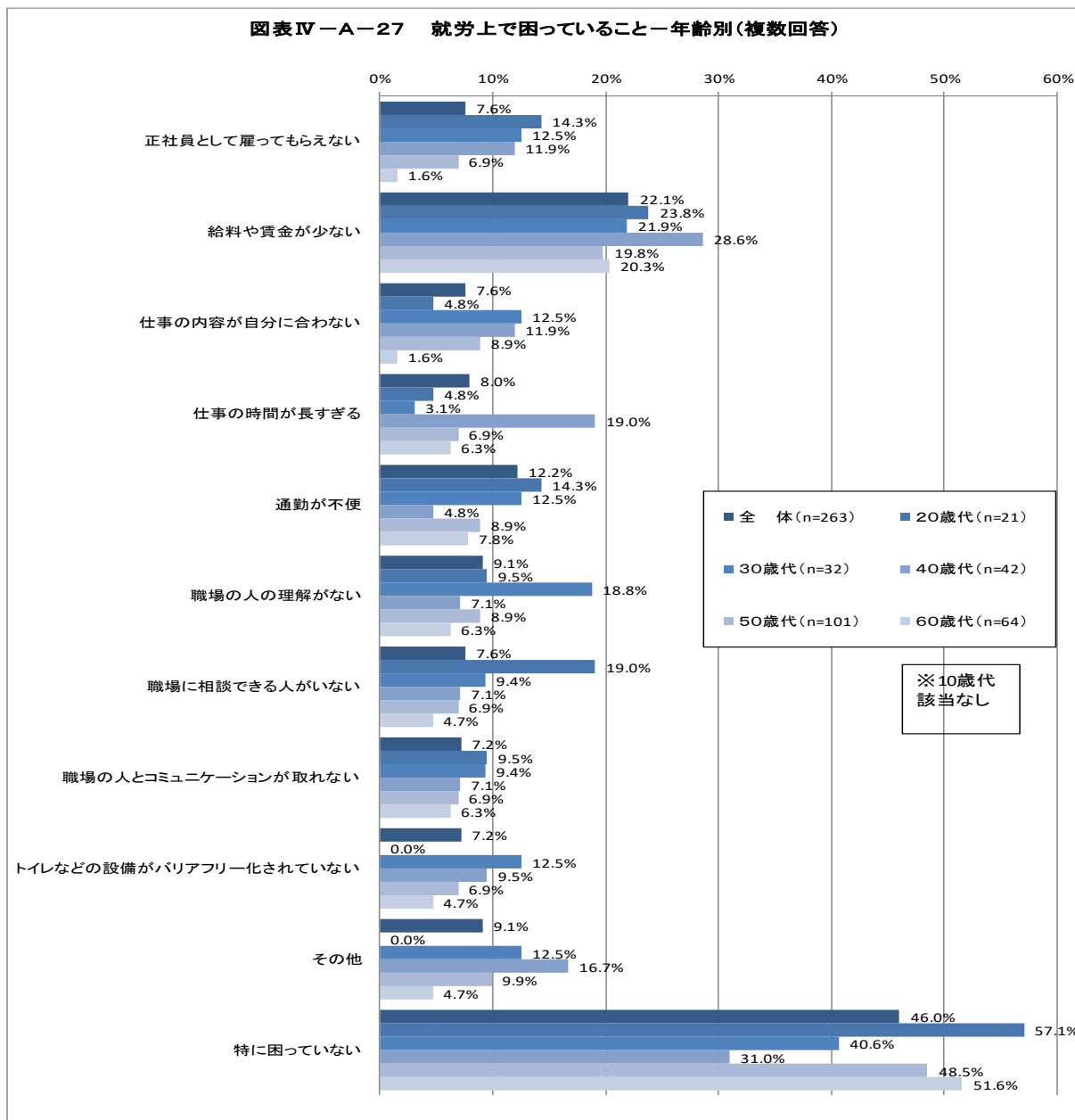


(5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

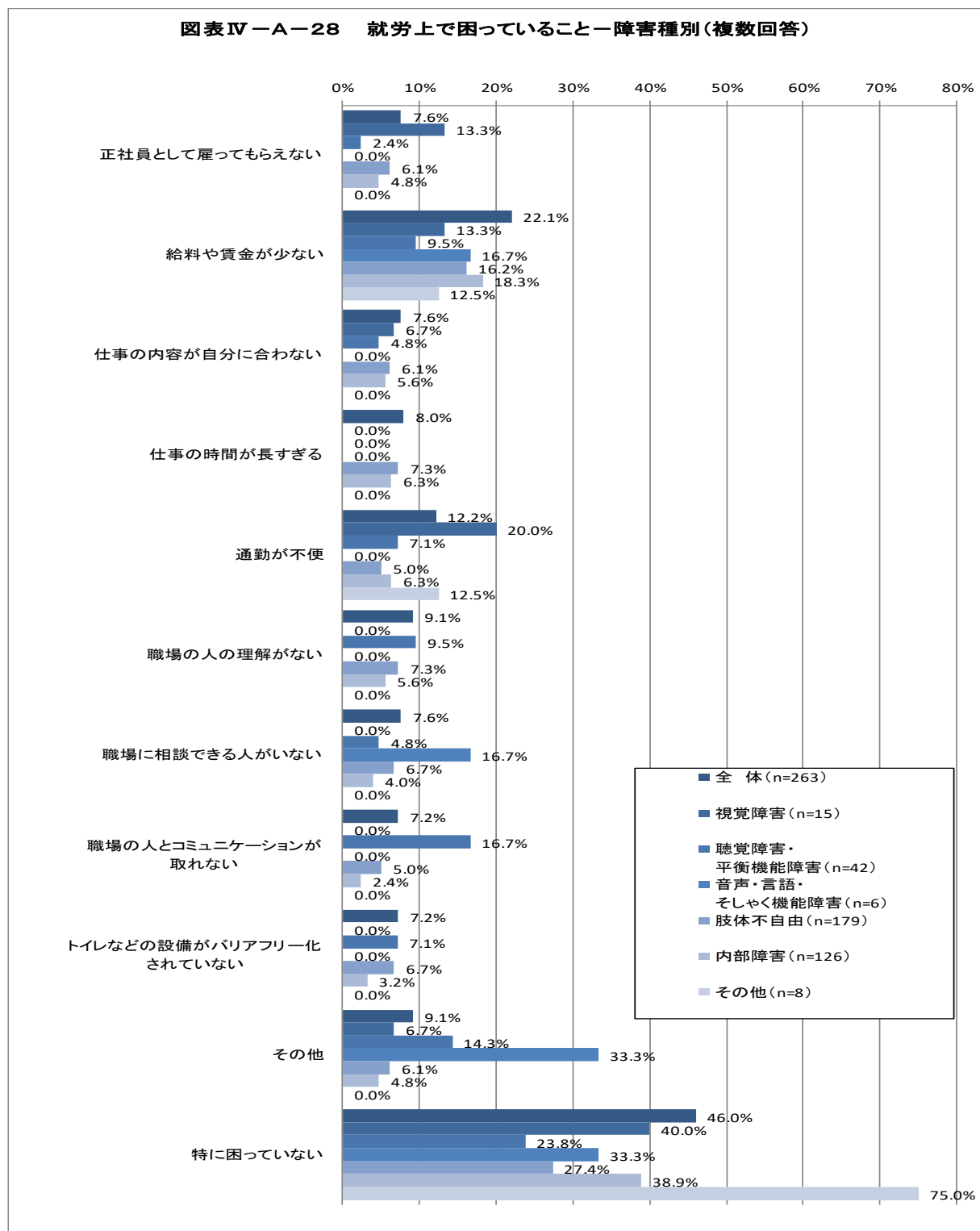
「特に困っていない」は、46.0%、「給料や賃金が少ない」は、22.1%、「通勤が不便」は、12.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、20歳代が57.1%、次に60歳代が51.6%である。「給料や賃金が少ない」は、40歳代が28.6%、次に20歳代が23.8%である。「通勤が不便」は、20歳代が14.3%、次に30歳代が12.5%である。「仕事の時間が長すぎる」は、40歳代が19.0%である。「職場に相談できる人がいない」は、20歳代が19.0%である。「職場の人の理解がない」は、30歳代が18.8%である。



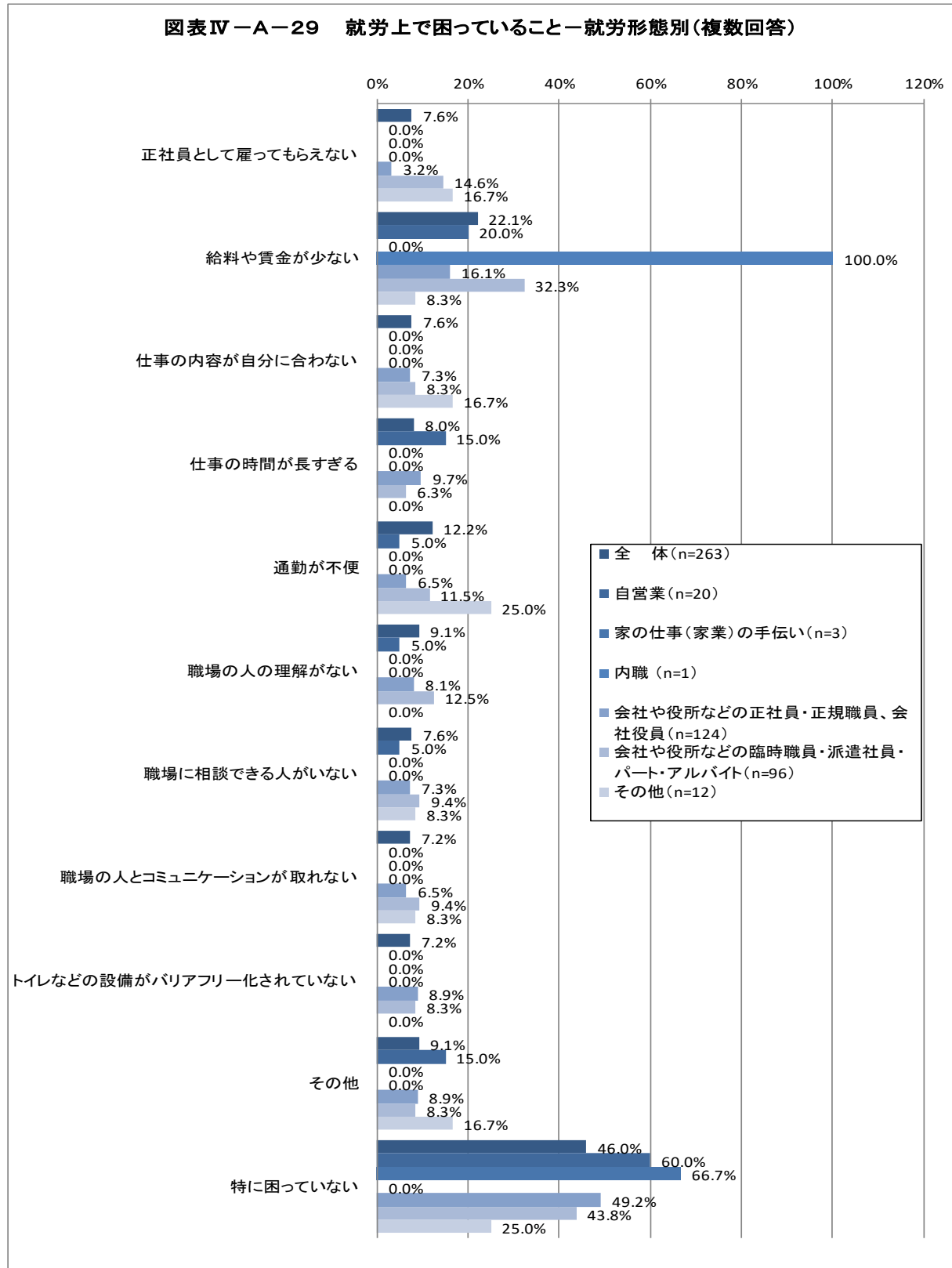
【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、そのほか75.0%、次に視覚障害が40.0%である。

「給料や賃金が少ない」は、内部障害が18.3%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「通勤が不便」は、視覚障害が20.0%である。「職場に相談できる人がいない」は、音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「職場の人とのコミュニケーションが取れない」は、聴覚障害・平衡機能障害が16.7%である。



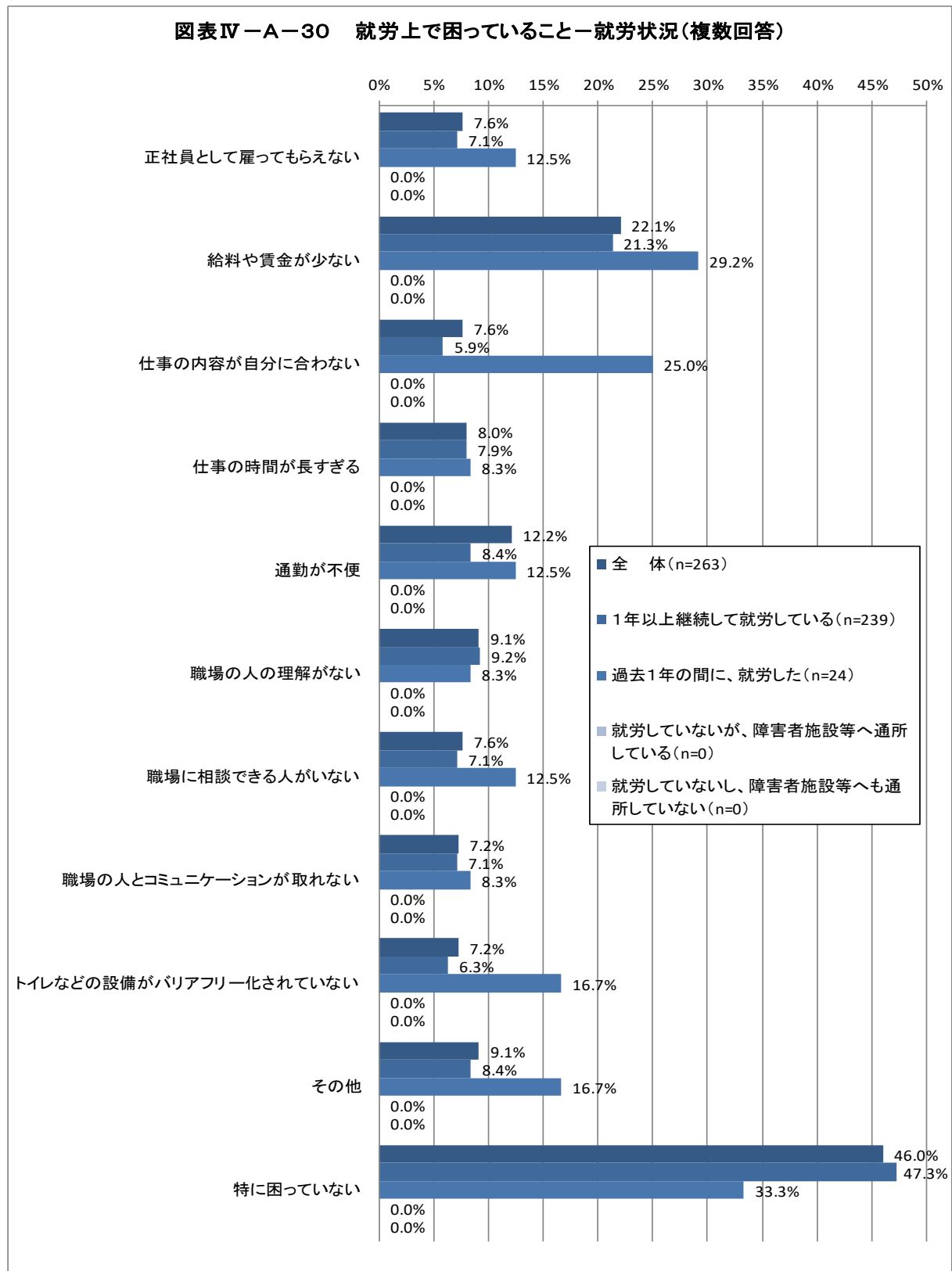
【就労形態別】他の就労形態別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「家の仕事（家業）の手伝い」が66.7%、次に「自営業」が60.0%である。「給料や賃金が少ない」は、「内職」が100.0%、次に「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が32.3%である。

図表Ⅳ-A-29 就労上で困っていること－就労形態別（複数回答）



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「1年以上継続して就労している」が47.3%、次に「過去1年の間に、就労した」が33.3%である。「給料や賃金が少ない」は、「過去1年の間に、就労した」が29.2%、次に「1年以上継続して就労している」が21.3%である。

図表Ⅳ-A-30 就労上で困っていること－就労状況(複数回答)

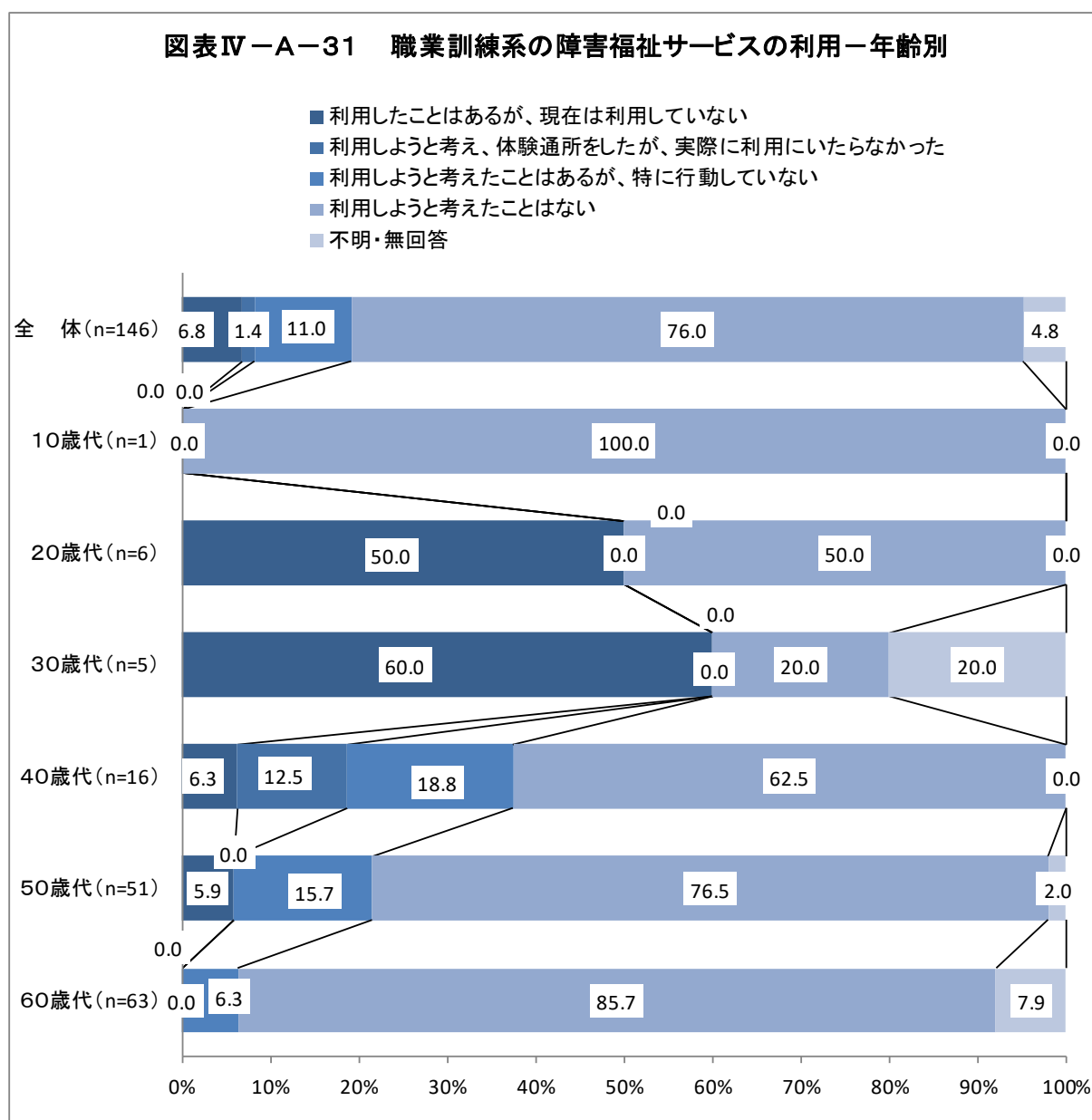


(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

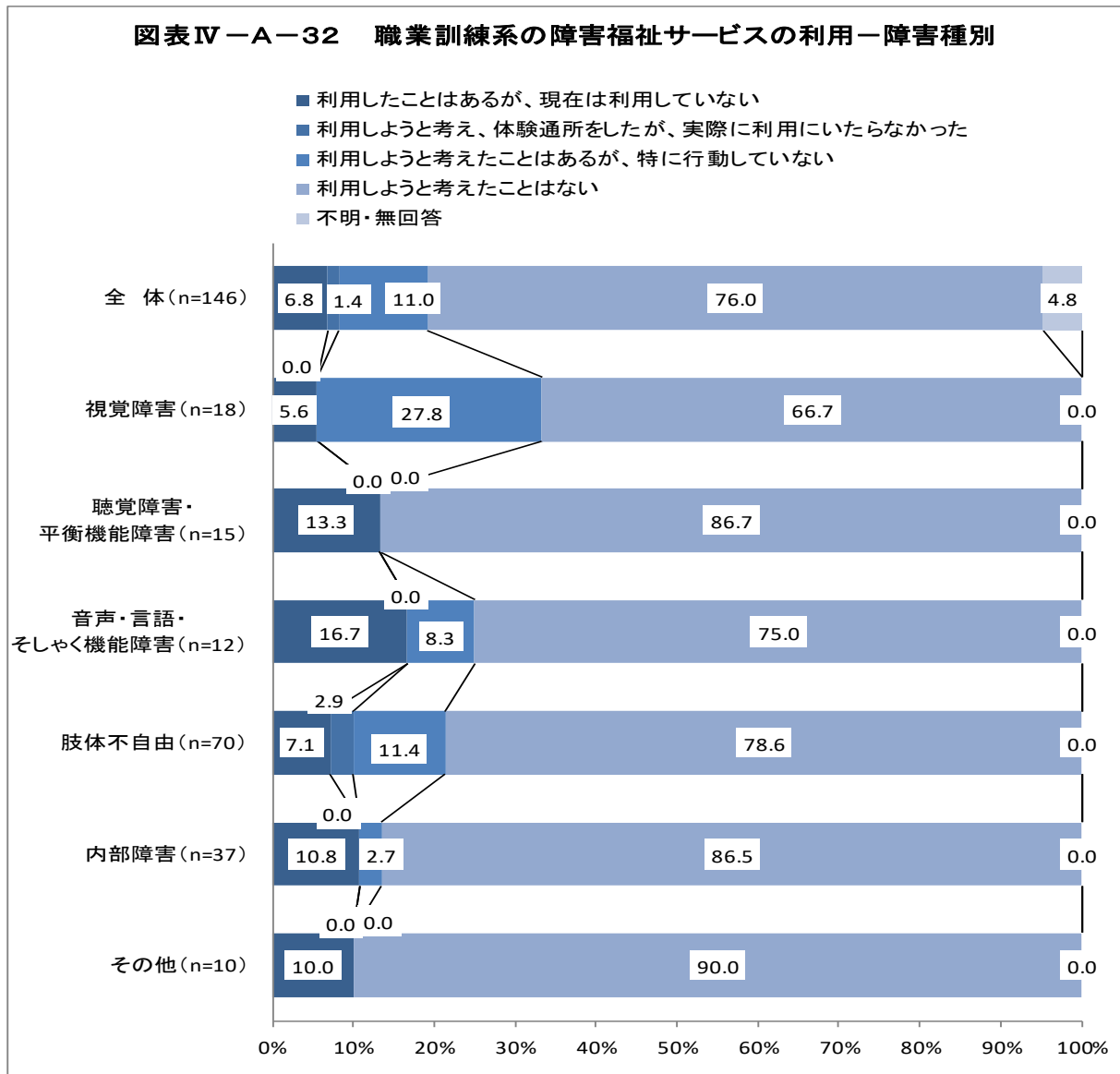
問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用しようと考えたことはない」は、76.0%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、11.0%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、6.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、10歳代が100.0%、次に60歳代が85.7%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、40歳代が18.8%、次に50歳代が15.7%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、30歳代が60.0%、次に20歳代が50.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、そのほか90.0%、次に聴覚障害・平衡機能障害が86.7%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、視覚障害が27.8%、次に肢体不自由が11.4%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%、次に聴覚障害・平衡機能障害が13.3%である。

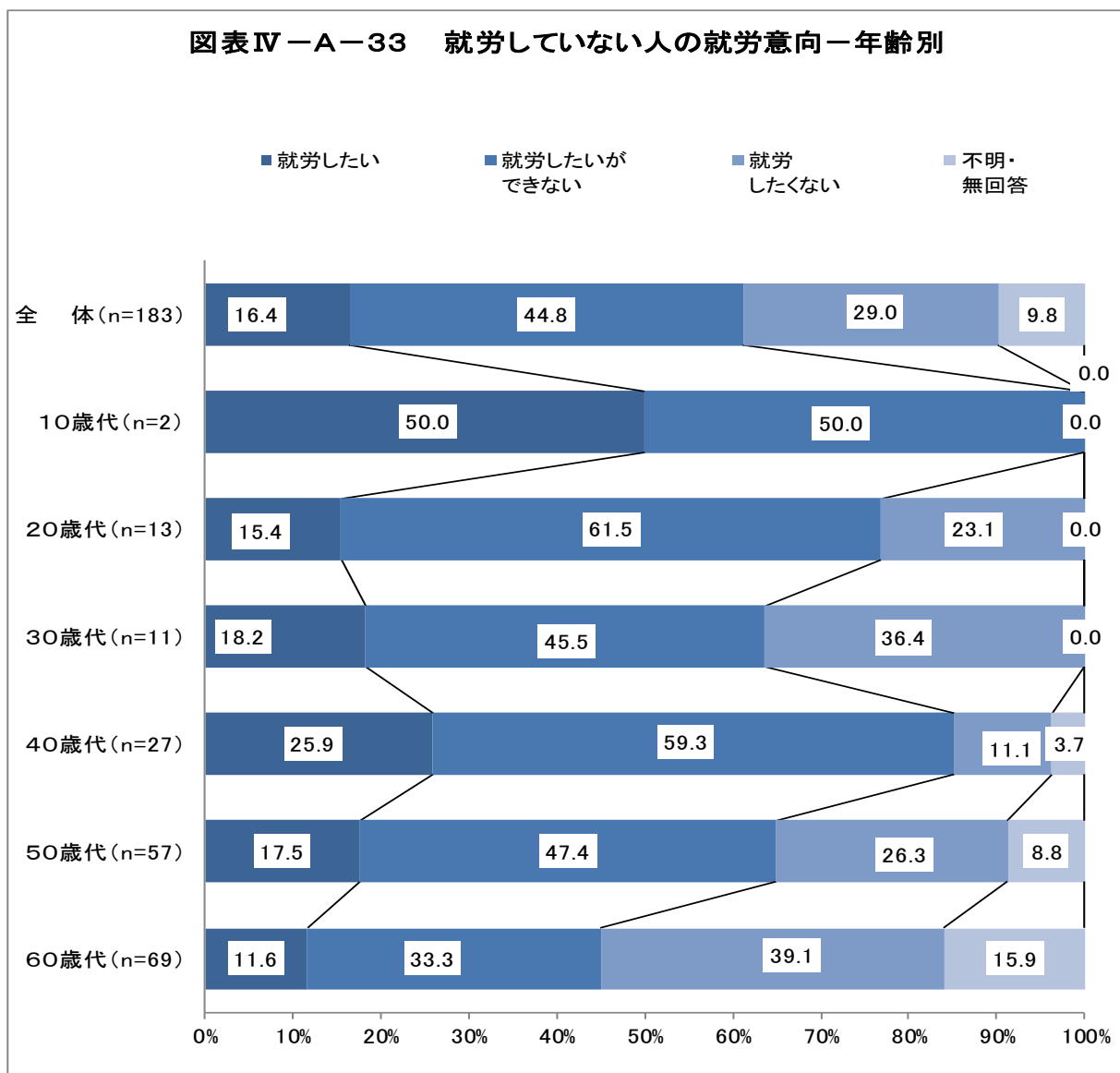


(7) 就労していない人の就労意向 (問22)

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。

「就労したいができない」は、44.8%、「就労したくない」は、29.0%、「就労したい」は、16.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労したいができない」は、20歳代が61.5%、次に40歳代が59.3%である。「就労したくない」は、60歳代が39.1%、次に30歳代が36.4%である。「就労したい」は、10歳代が50.0%、次に40歳代が25.9%である。





(8) 就労したい人の希望職種 (問23)

問22で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

「その他」は、30.0%、「生産工程」は、26.7%、「サービス業」は、20.0%、「医療関係」は、10.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答（その他以外）を見てみると、「生産工程」は、60歳代が62.5%、次に40歳代が28.6%である。「サービス業」は、30歳代が50.0%、次に50歳代が30.0%である。「医療関係」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が50.0%である。

図表Ⅳ-A-34 就労したい人の希望職種一年齢別

		農業、林業、漁業	一般事務	営業、販売	医療関係	専門的、技術的職業	サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場の管理人、警備員、清掃業など）	生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	その他	不明・無回答	合計
全 体 (n=30)		3.3	6.7	0.0	10.0	3.3	20.0	26.7	30.0	0.0	100.0
年 齢	10歳代 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	20歳代 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	30歳代 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	40歳代 (n= 7)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6	28.6	0.0	100.0
	50歳代 (n= 10)	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	30.0	10.0	20.0	0.0	100.0
	60歳代 (n= 8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	100.0

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答(その他以外)を見てみると、「生産工程」は、視覚障害と音声・言語・そしゃく機能障害が40.0%、次に肢体不自由が28.6%である。「サービス業」は、肢体不自由が21.4%である。「医療関係」は、内部障害が40.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が20.0%である。

図表Ⅳ-A-35 就労したい人の希望職種－障害種別

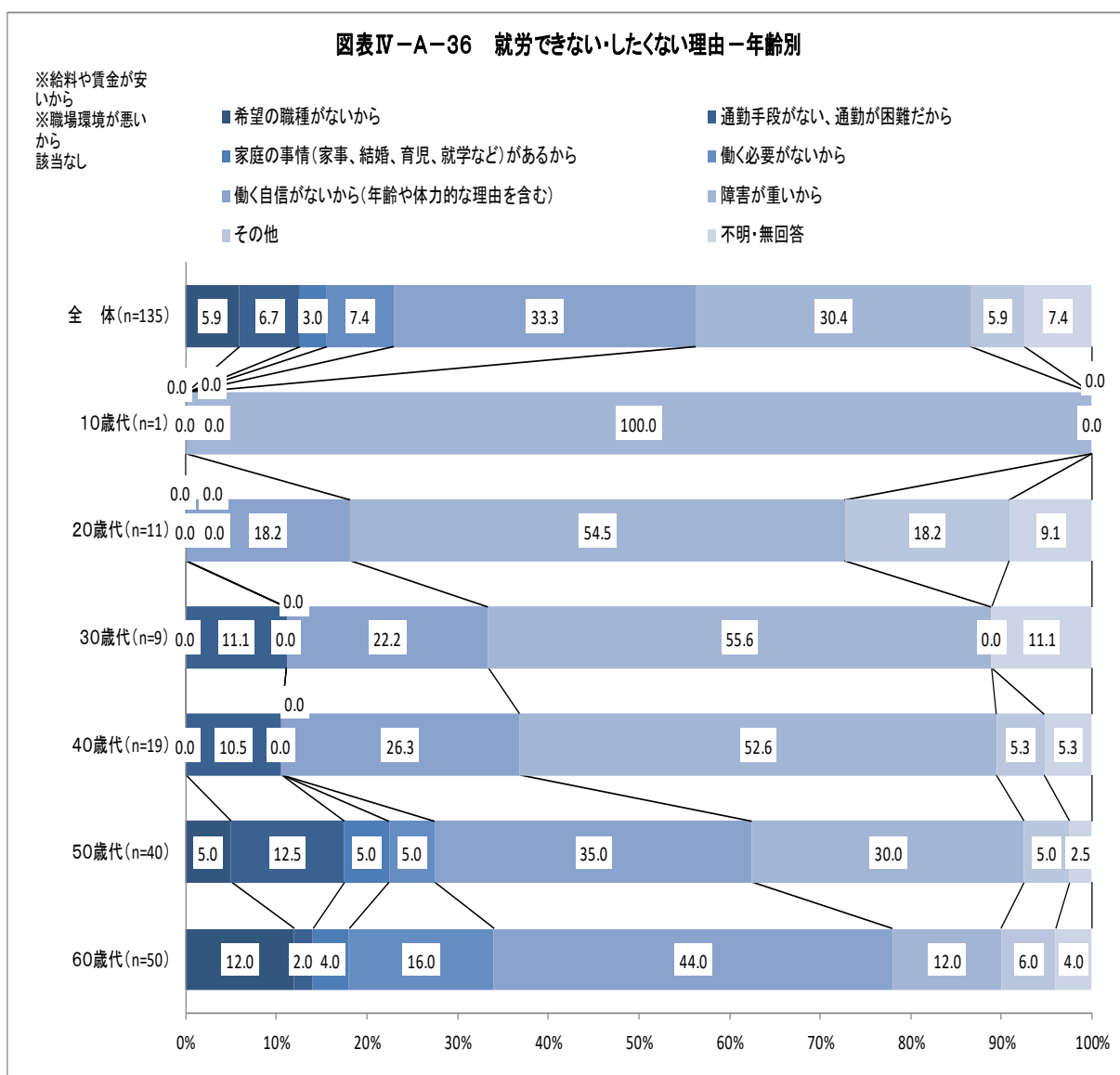
		農業、林業、漁業	一般事務	営業、販売	医療関係	専門的、技術的職業	サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場などの管理人、警備員、清掃業など）	生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	その他	不明・無回答	合計
全体 (n= 30)		3.3	6.7	0.0	10.0	3.3	20.0	26.7	30.0	0.0	100.0
障害種別	視覚障害 (n= 5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	100.0
	聴覚障害・平衡機能障害 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	音声・言語・そしゃく機能障害 (n= 5)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	100.0
	肢体不自由 (n=14)	0.0	14.3	0.0	0.0	7.1	21.4	28.6	28.6	0.0	100.0
	内部障害 (n=5)	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	100.0
	その他 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(9) 就労できない・したくない理由 (問24)

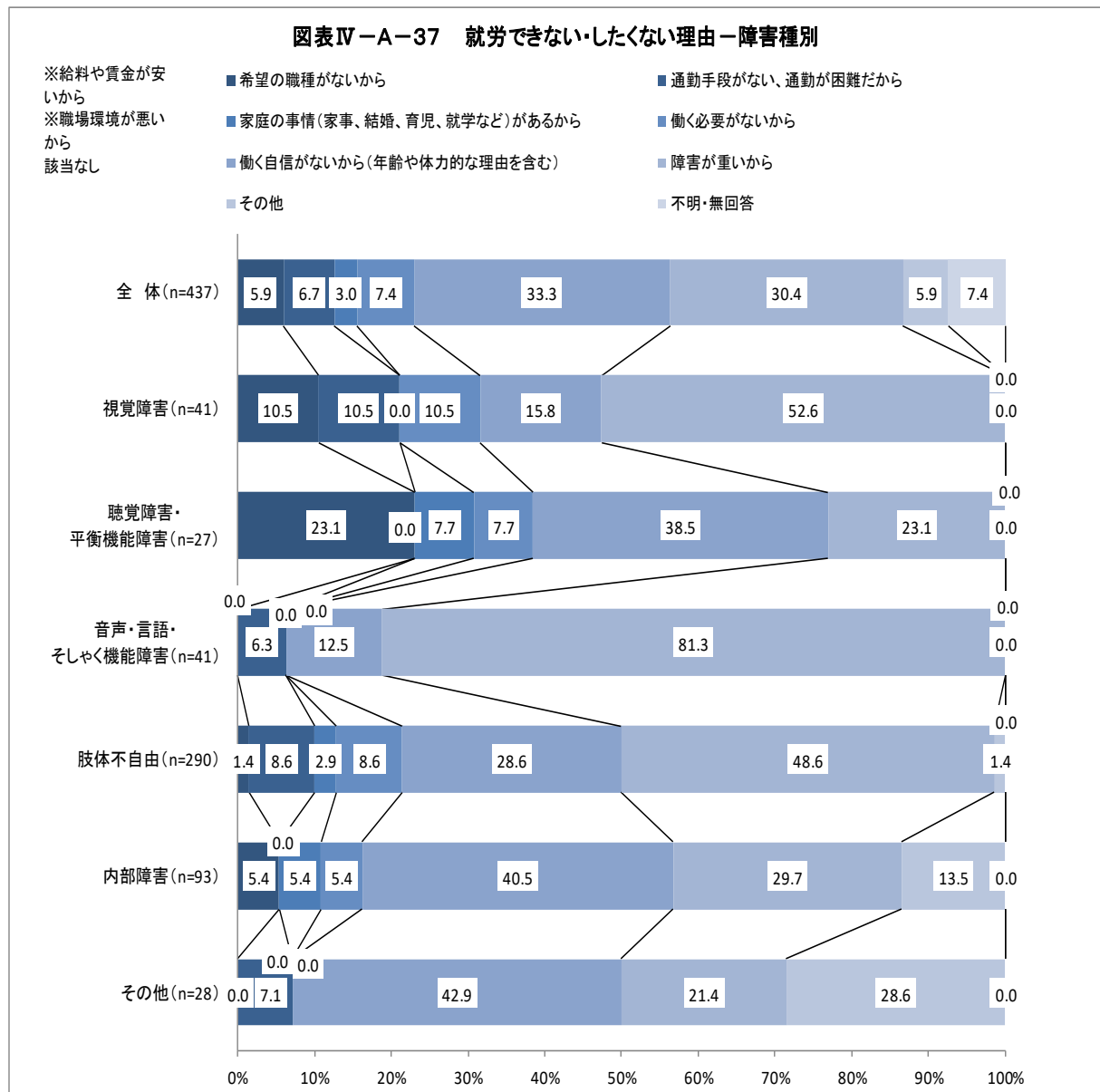
問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「働く自信がないから」は、33.3%、「障害が重いから」は、30.4%、「働く必要がないから」は、7.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「働く自信がないから」は、60歳代が44.0%、次に50歳代が35.0%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害が重いから」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が55.6%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「働く必要がないから」は、60歳代が16.0%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「働く自信がないから」は、そのほか42.9%、内部障害が40.5%、聴覚障害・平衡機能障害が38.5%である。「障害が重いから」は、音声・言語・そしゃく機能障害が81.3%、次に視覚障害が52.6%である。「希望の職種がないから」は、聴覚障害・平衡機能障害が23.1%、次に視覚障害が10.5%である。

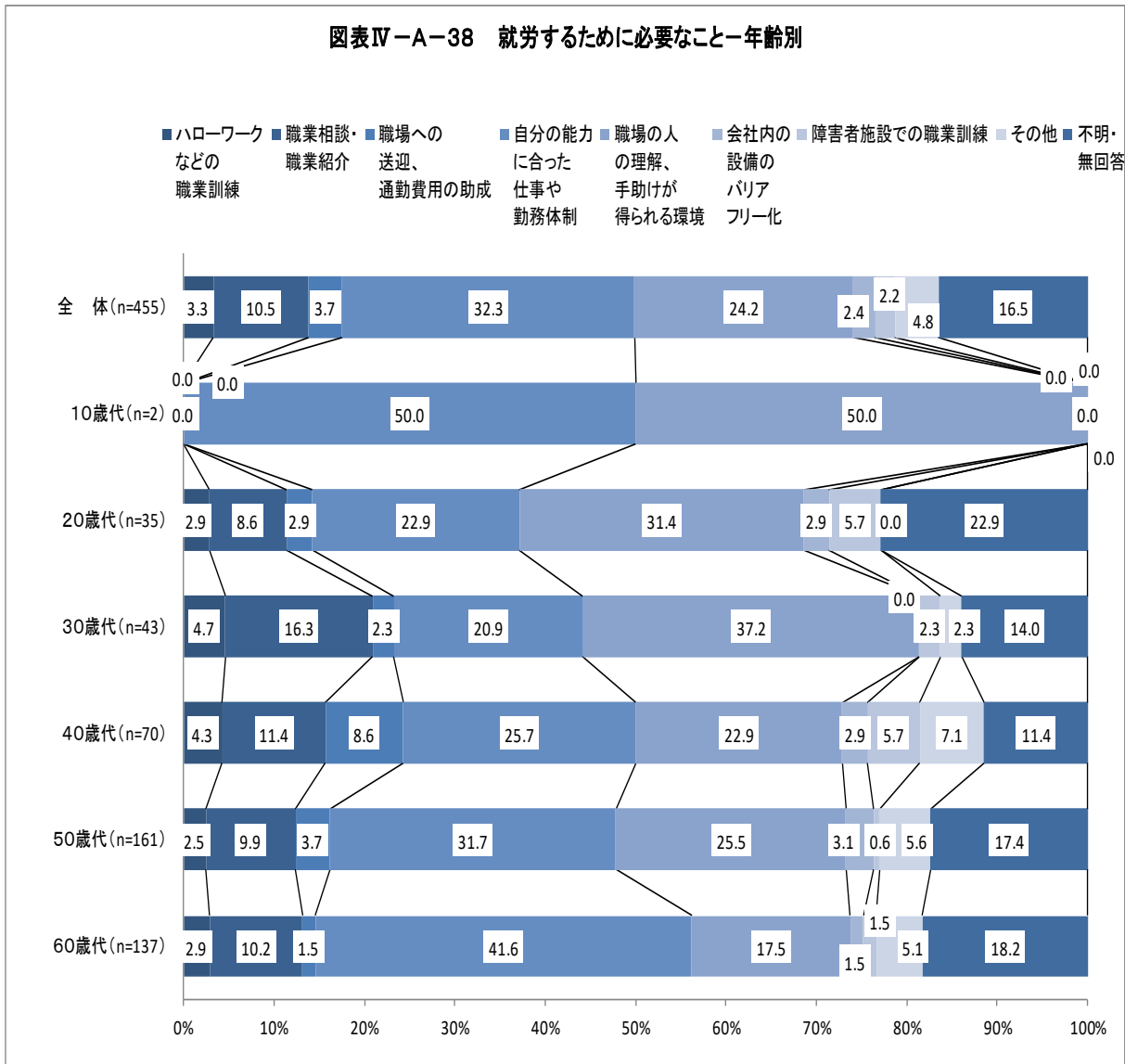


(10) 就労するために必要なこと (問25)

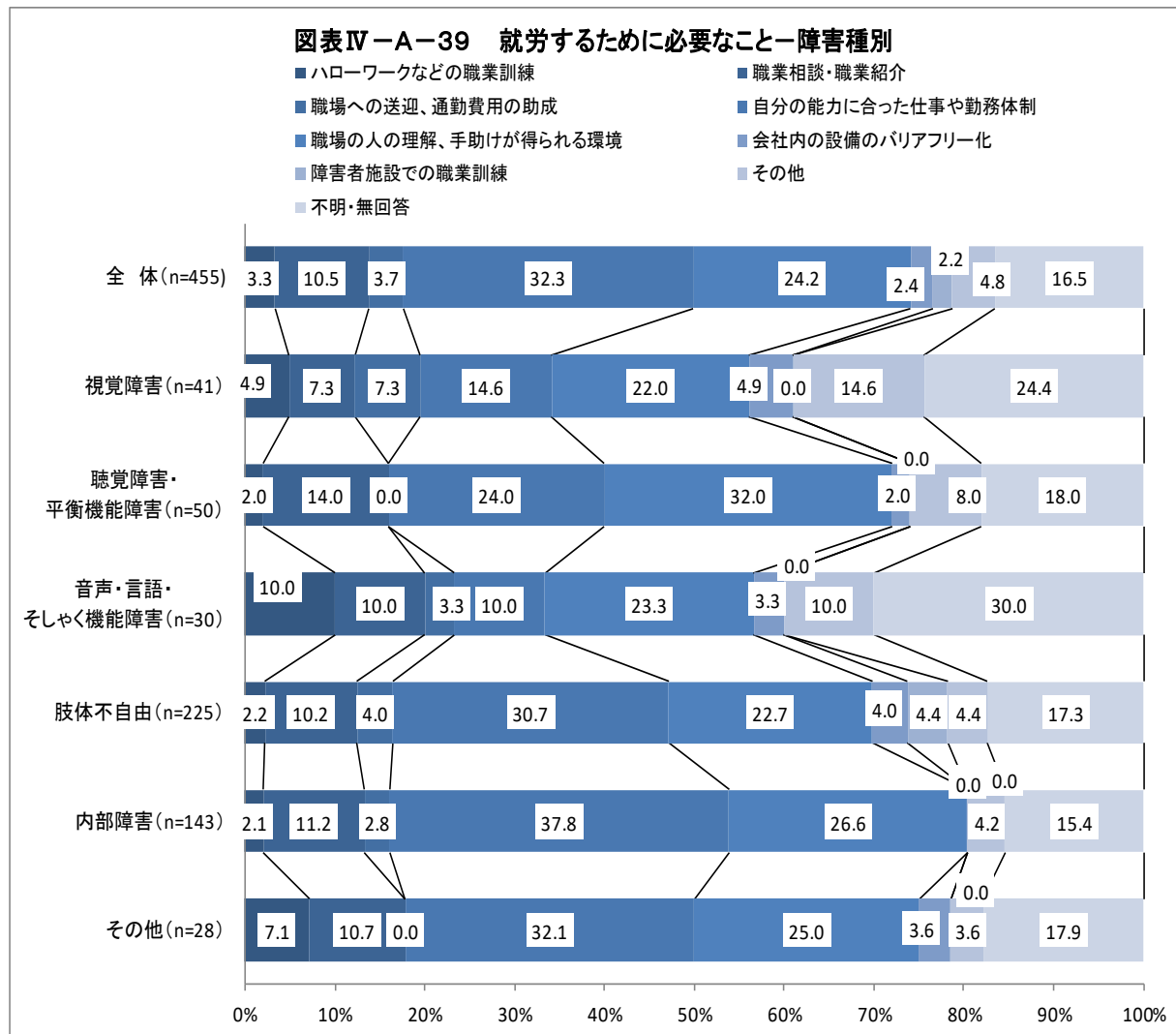
全員に、就労するために必要なことは何だと思いかをたずねた。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、32.3%、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、24.2%、「職業相談・職業紹介」は、10.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が41.6%である。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が37.2%である。「職業相談・職業紹介」は、30歳代が16.3%、次に40歳代が11.4%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、内部障害が 37.8%、次にそのほかが 32.1%、肢体不自由が 30.7%である。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、聴覚障害・平衡機能障害が 32.0%、次に内部障害が 26.6%である。「職業相談・職業紹介」は、聴覚障害・平衡機能障害が 14.0%、次に内部障害が 11.2%である。



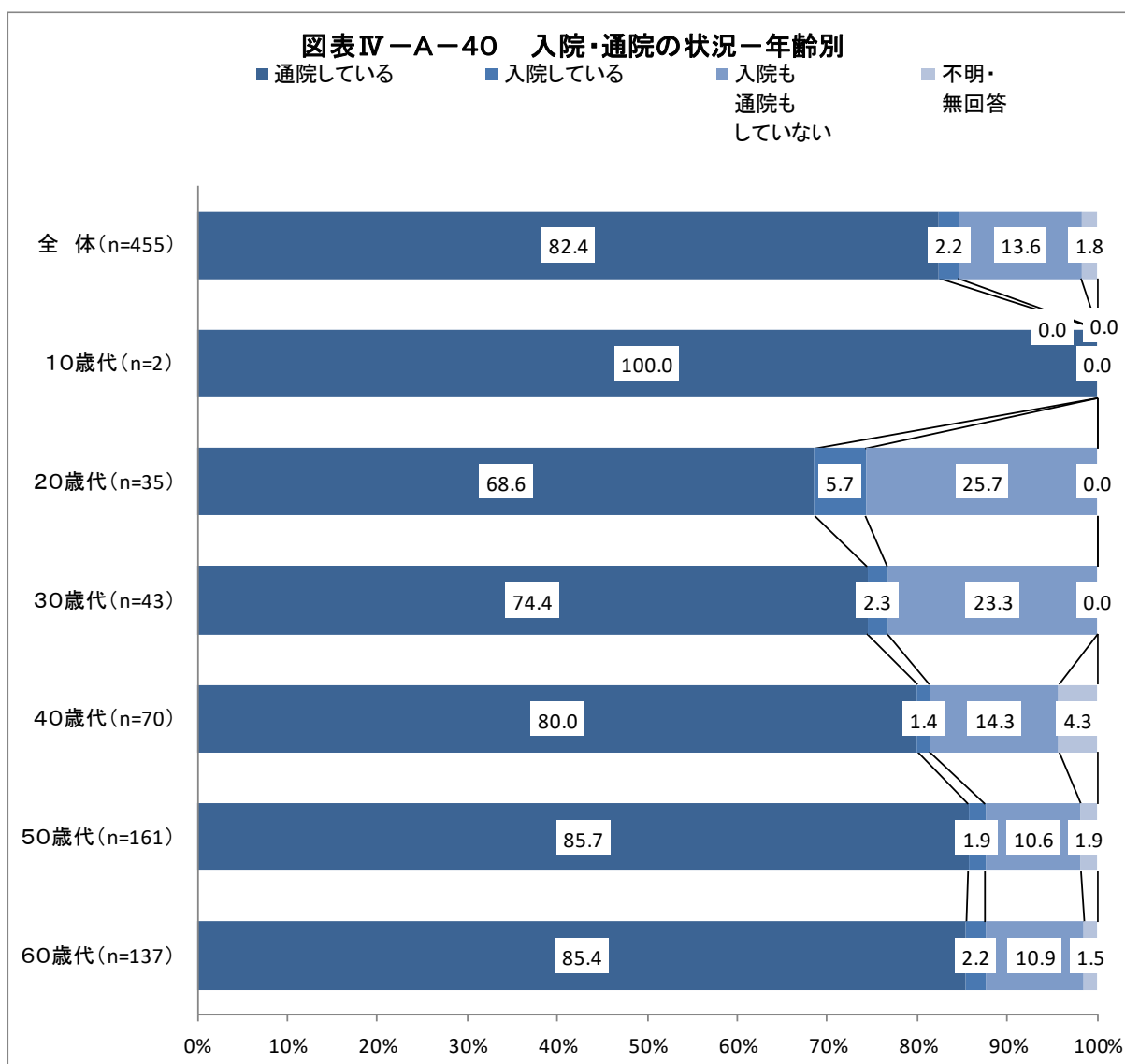
#### 4 入院・通院について

##### (1) 入院・通院の状況（問26）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、82.4%、「入院も通院もしていない」は、13.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、10歳代が100.0%、次に50歳代が85.7%である。「入院も通院もしていない」は、20歳代が25.7%、次に30歳代が23.3%である。

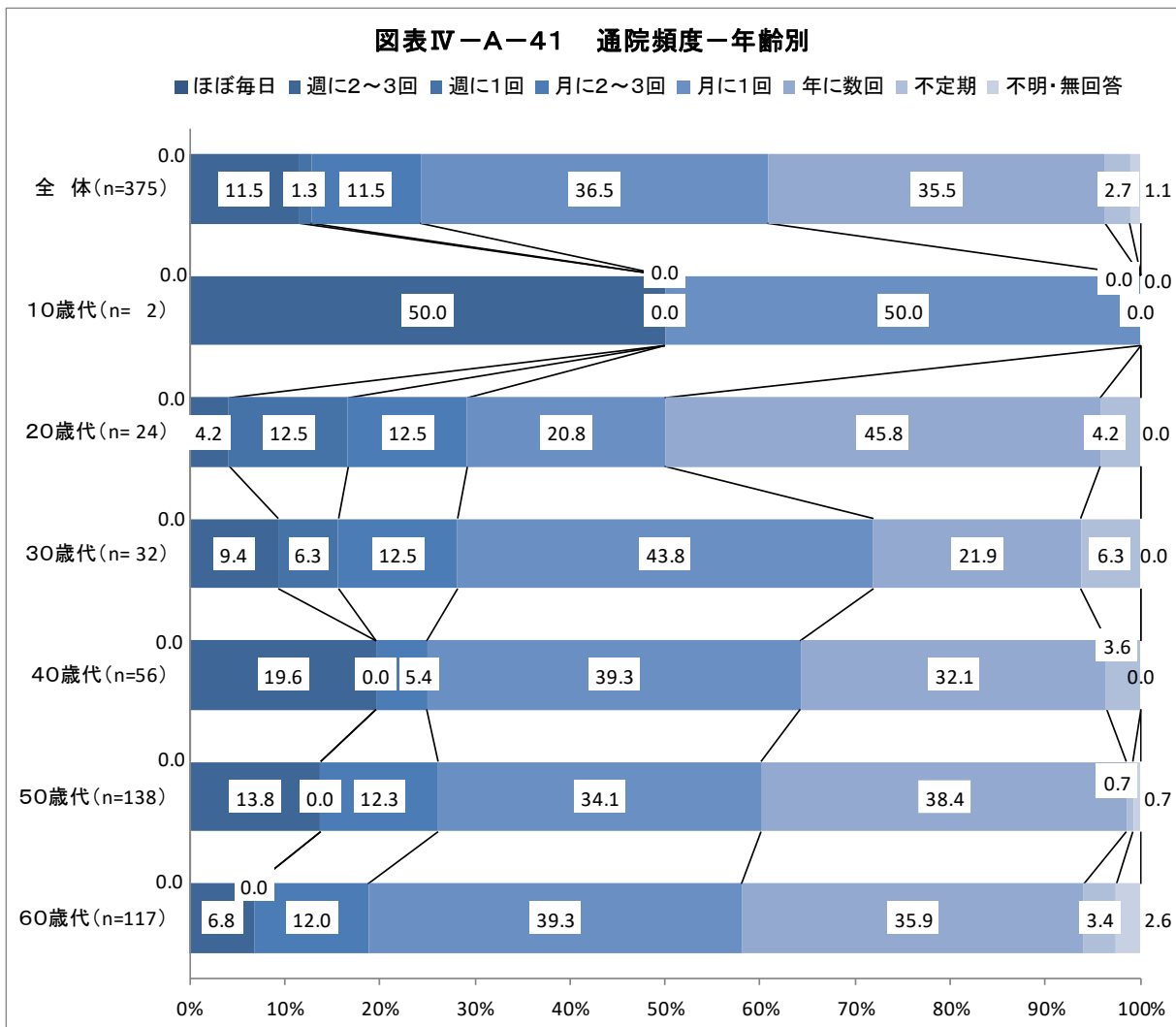


(2) 通院頻度 (問 27)

問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、36.5%、「年に数回」は、35.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に2~3回」は、10歳代が50.0%、次に40歳代が19.6%である。「月に1回」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が43.8%である。「年に数回」は、20歳代が45.8%、次に50歳代が38.4%である。





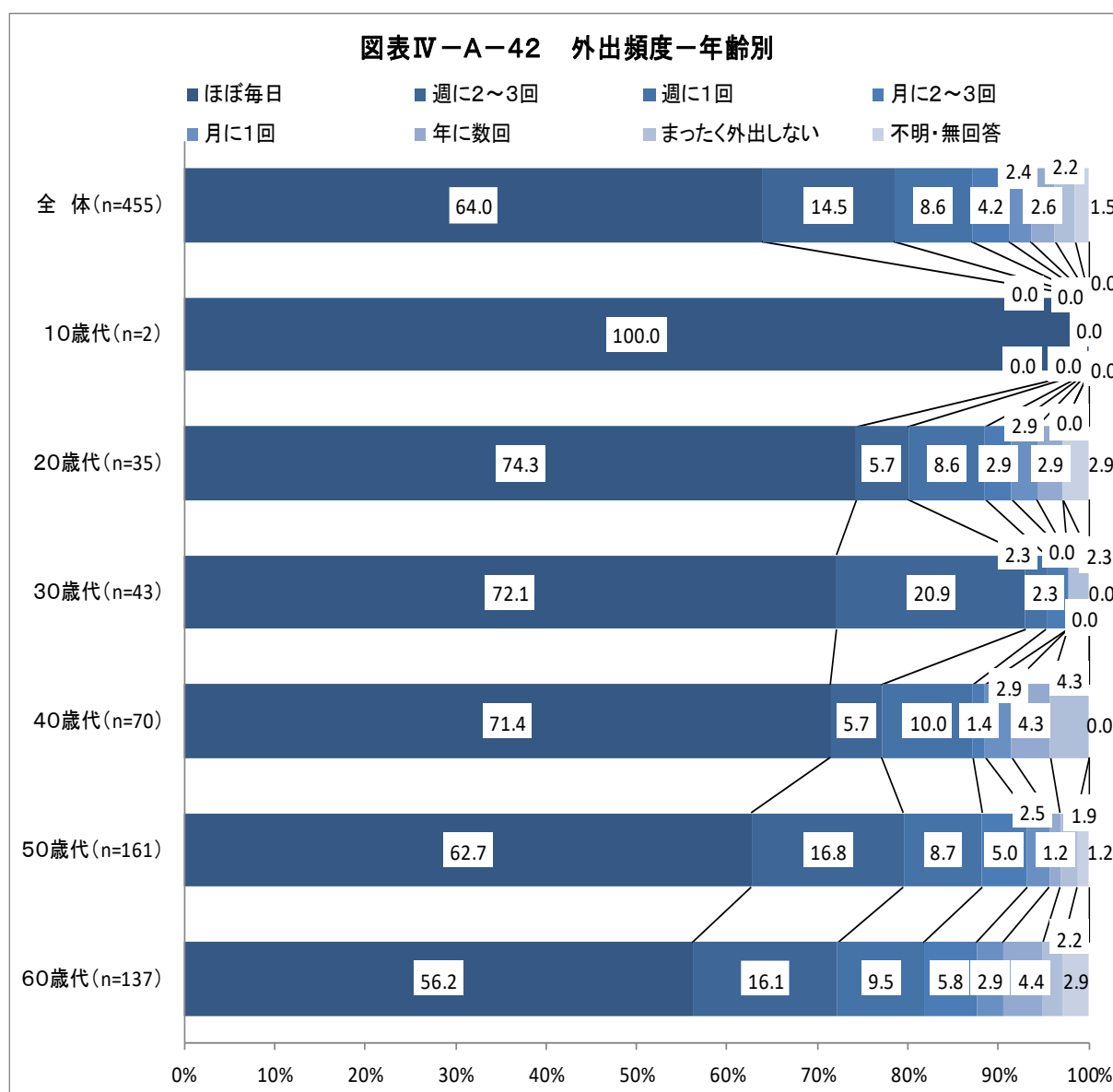
## 5 外出について

### (1) 外出頻度 (問28)

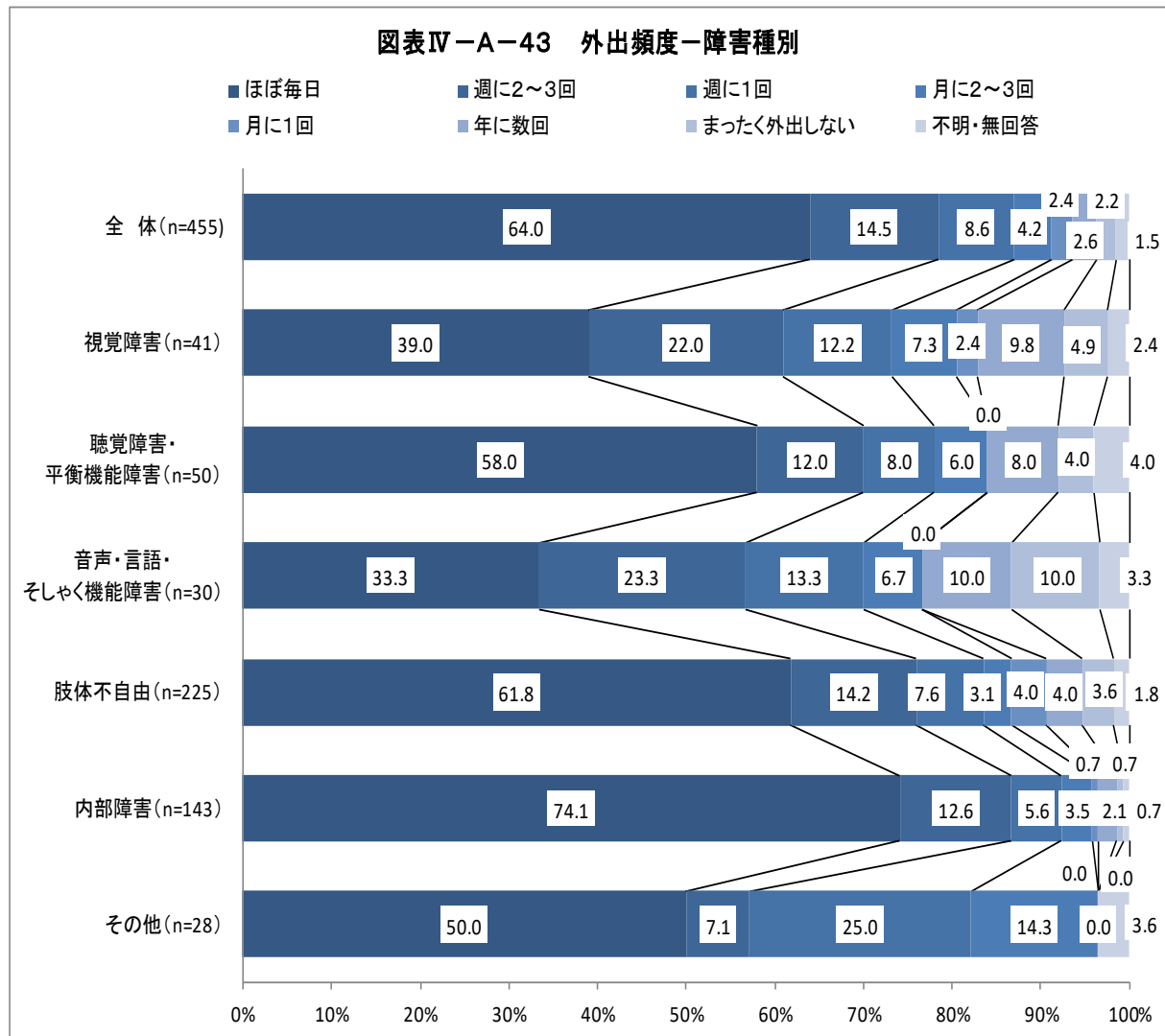
現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、64.0%、「週に2～3回」は、14.5%、「週に1回」は、8.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が74.3%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「週に2～3回」は、30歳代が20.9%、次に50歳代が16.8%である。「週に1回」は、40歳代が10.0%、次に60歳代が9.5%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、内部障害が74.1%、次に肢体不自由が61.8%である。「週に2～3回」は、音声・言語・そしゃく機能障害が23.3%、次に視覚障害が22.0%である。「週に1回」は、その他が25.0%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が13.3%である。

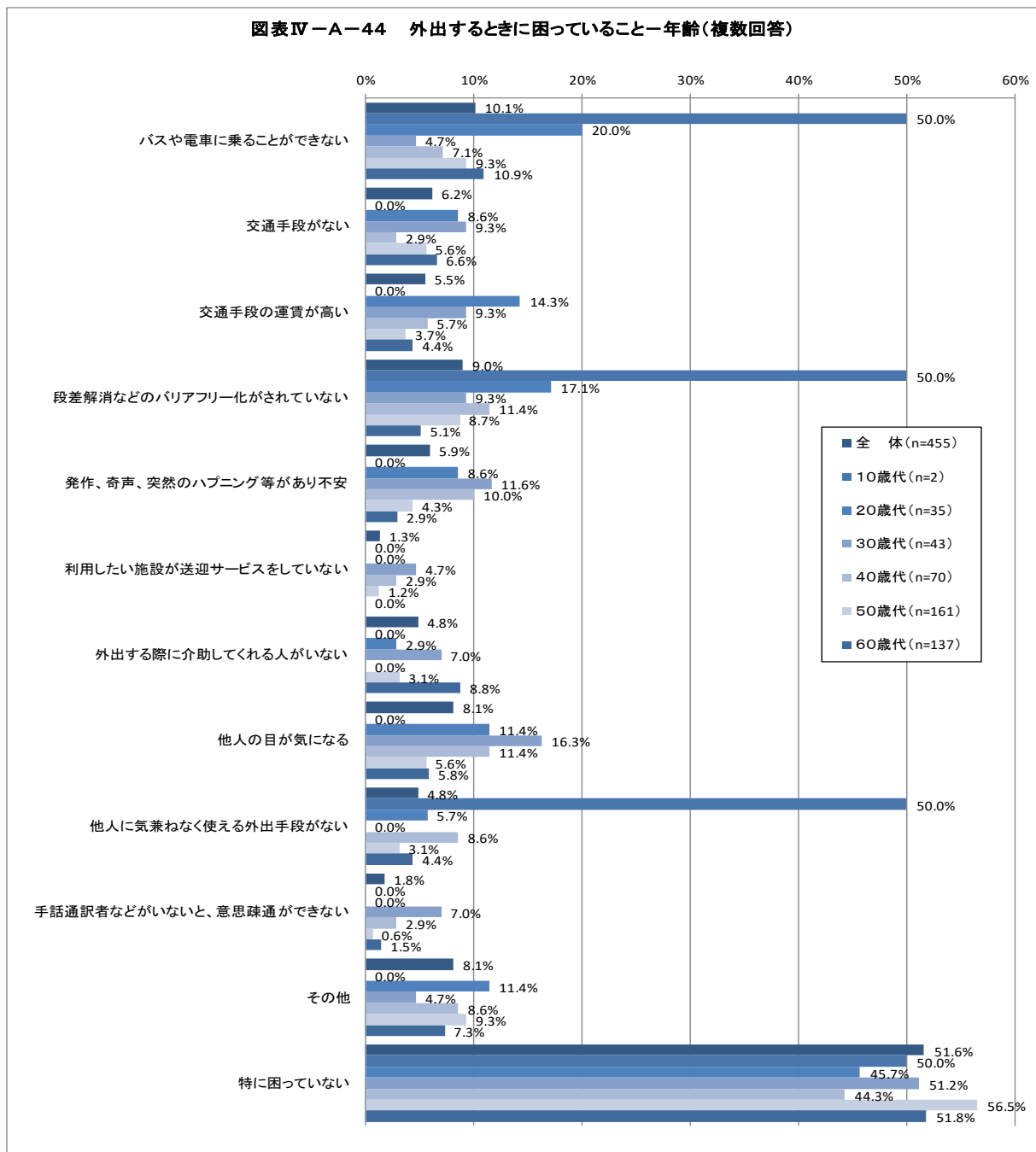


(2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

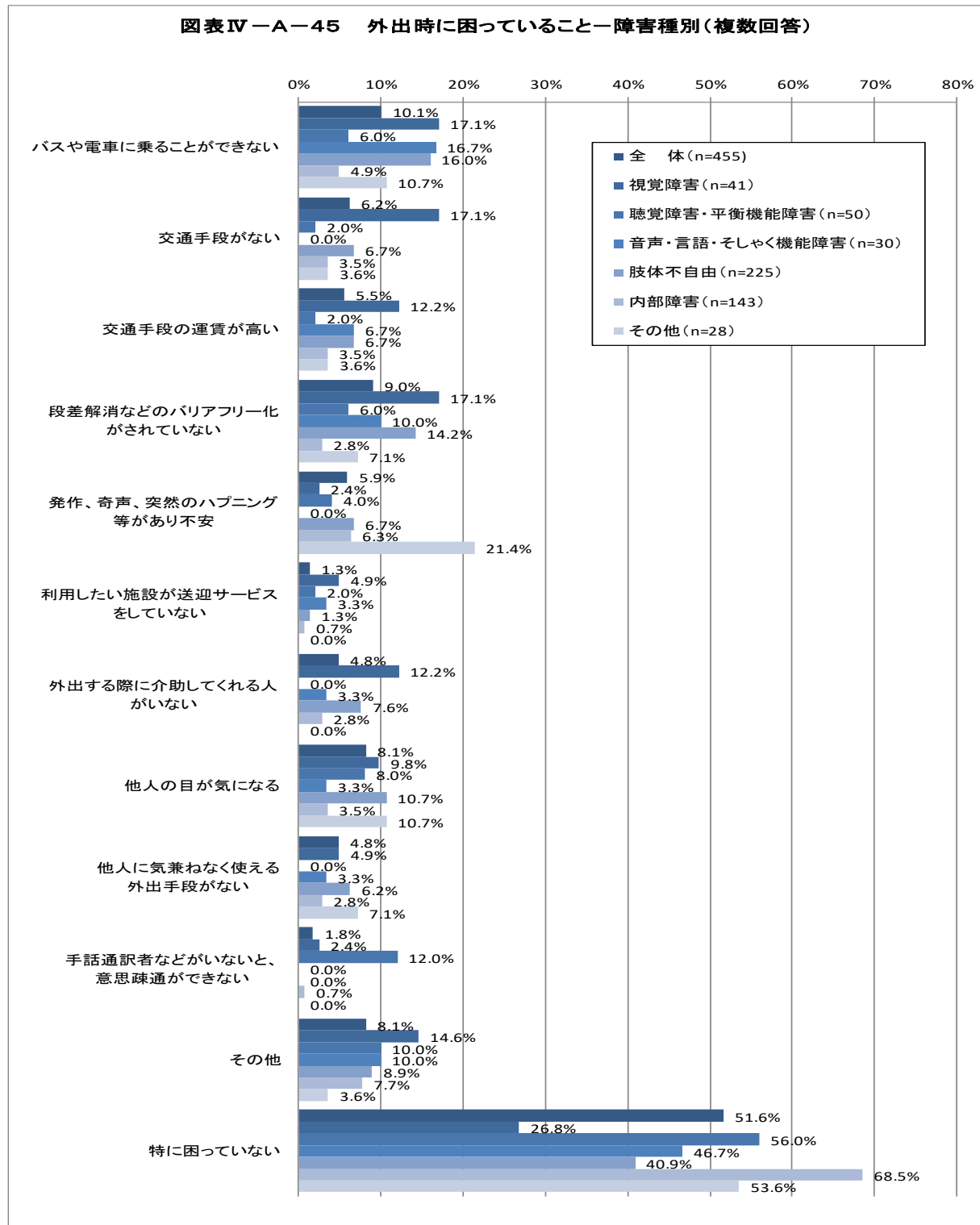
「特に困っていない」は、51.6%、「バスや電車に乗ることができない」は、10.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、50歳代が56.5%、次に60歳代が51.8%である。「バスや電車に乗ることができない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が20.0%である。「段差解消などのバリアフリー化がされていない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が17.1%である。「他人の目が気になる」は、30歳代が16.3%、次に20歳代と40歳代が11.4%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、内部障害が68.5%、次に聴覚障害・平衡機能障害が56.0%である。「バスや電車に乗ることができない」は、視覚障害が17.1%、次に音声・言語・そしゃく機能障害が16.7%である。「段差解消などのバリアフリー化がされていない」は、視覚障害が17.1%、次に肢体不自由が14.2%である。

図表Ⅳ-A-45 外出時に困っていること—障害種別(複数回答)

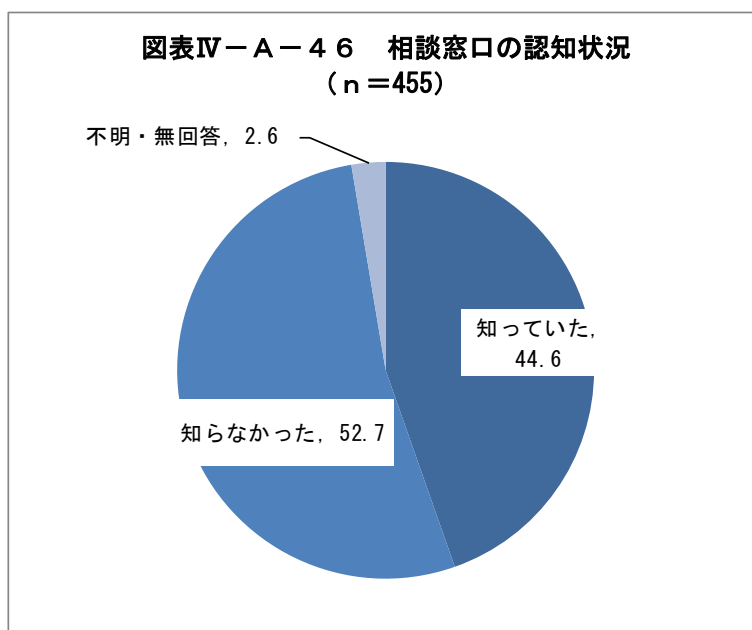


## 6 相談窓口について

### (1) 相談窓口の認知状況 (問30)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

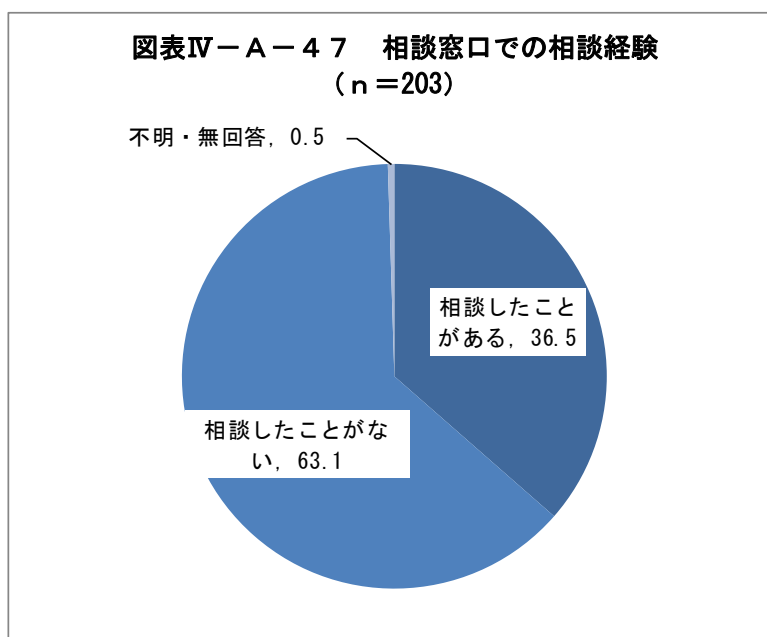
「知っていた」は、44.6%、「知らなかった」は、52.7%である。



### (2) 相談窓口での相談経験 (問31)

問30で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

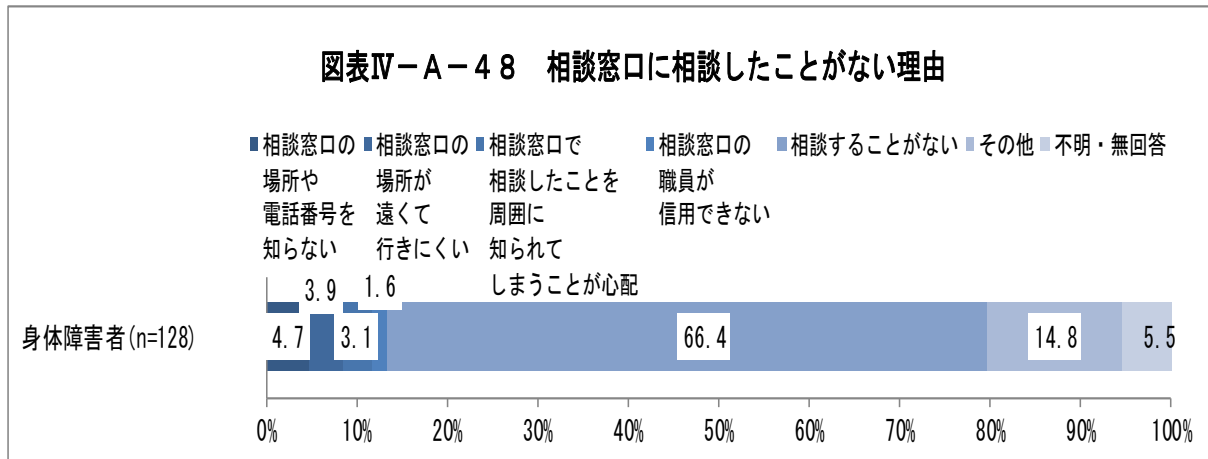
「相談したことがある」は、36.5%、「相談したことがない」は、63.1%である。



(3) 相談窓口相談したことがない理由 (問32)

問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、66.4%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、4.7%である。



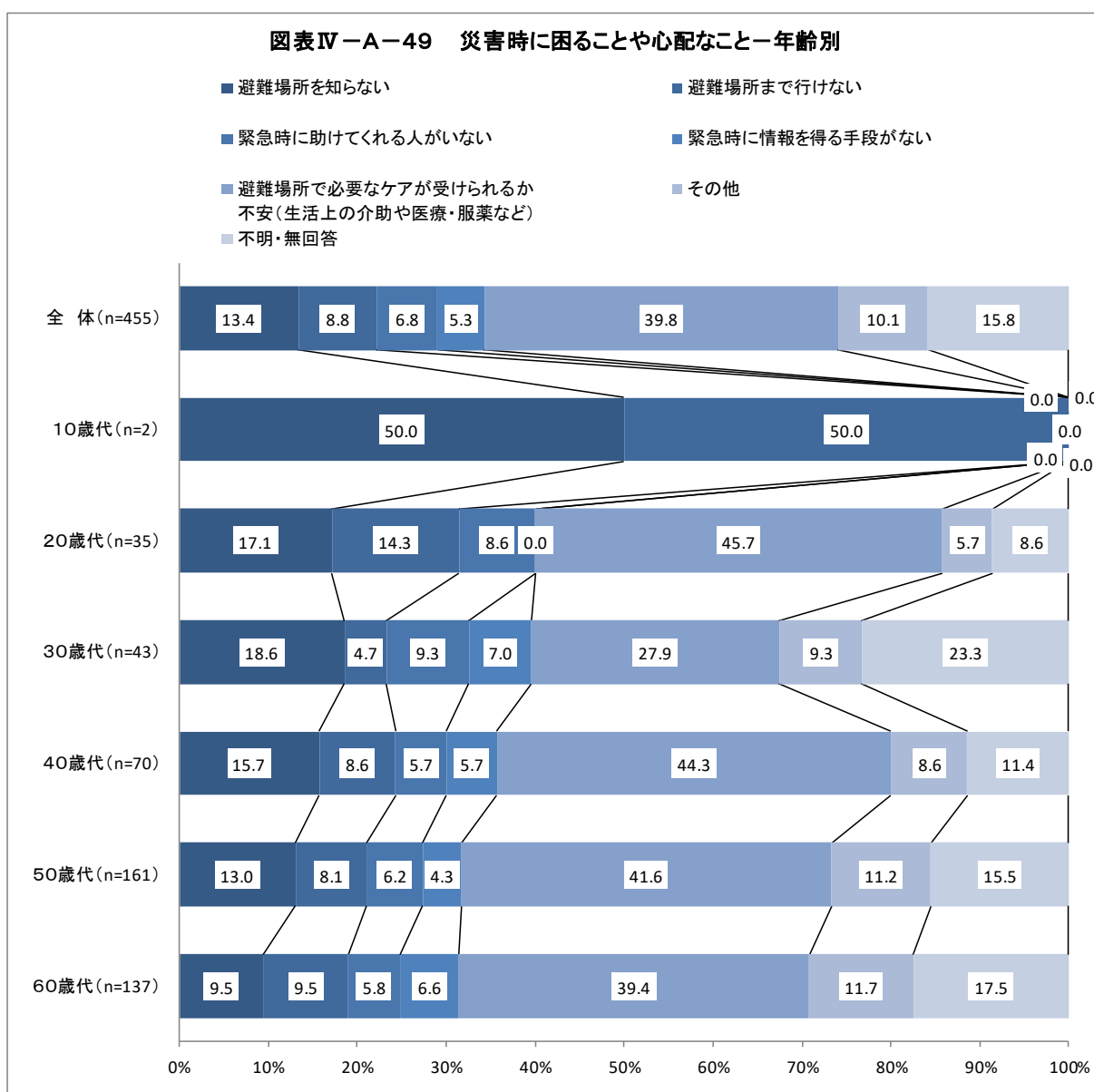
## 7 災害時について

### (1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

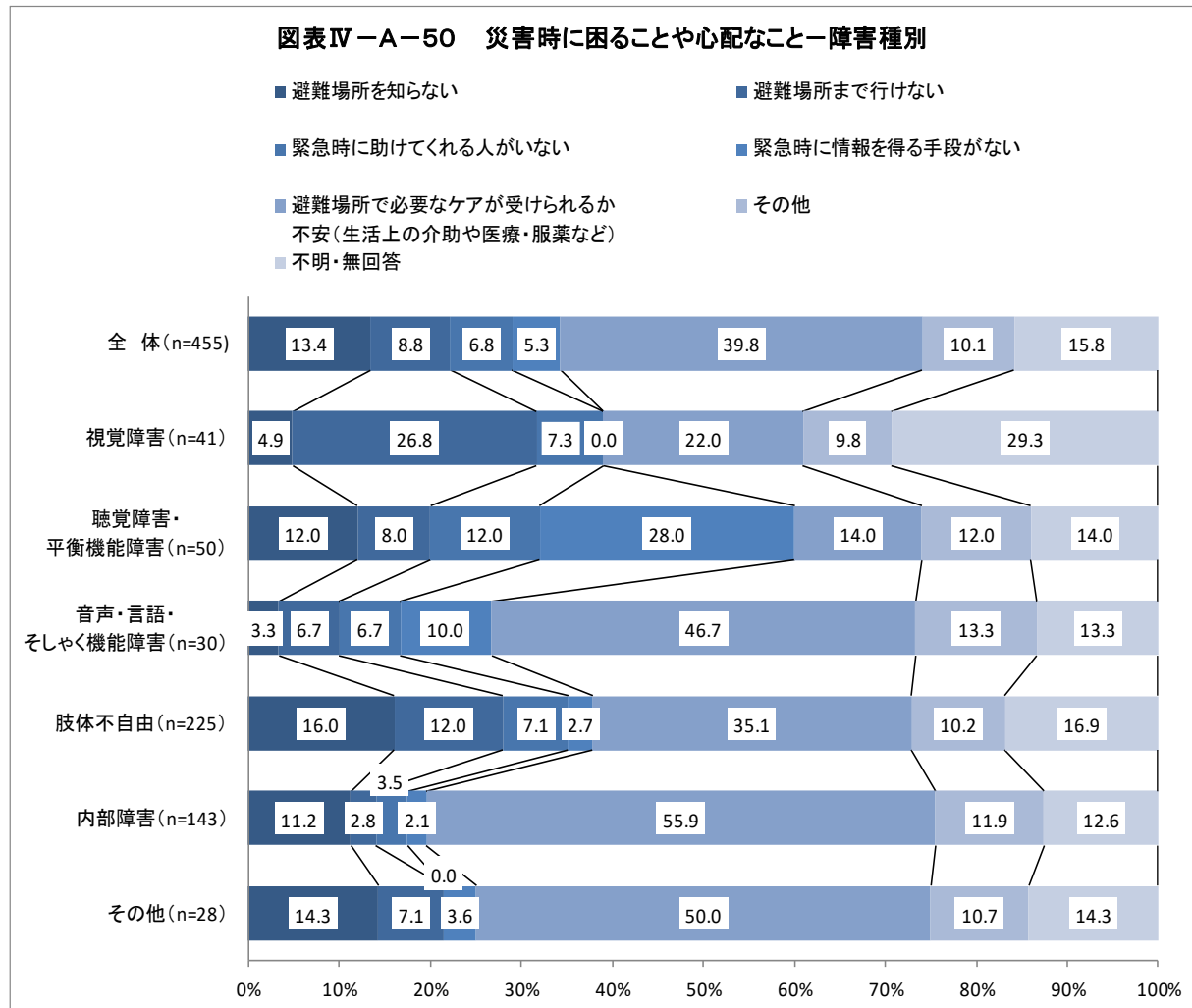
災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所に必要なケアが受けられるか不安」は、39.8%、「避難場所を知らない」は、13.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所に必要なケアが受けられるか不安」は、20歳代が45.7%、次に40歳代が44.3%である。「避難場所を知らない」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が18.6%である。「避難場所まで行けない」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が14.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所が必要なケアが受けられるか不安」は、内部障害が55.9%、次にそのほかが50.0%、音声・言語・そしゃく機能障害が46.7%である。「避難場所を知らない」は、肢体不自由が16.0%、次にそのほかが14.3%である。「避難場所まで行けない」は、視覚障害が26.8%、次に肢体不自由が12.0%である。





## 8 障害のある人への差別について

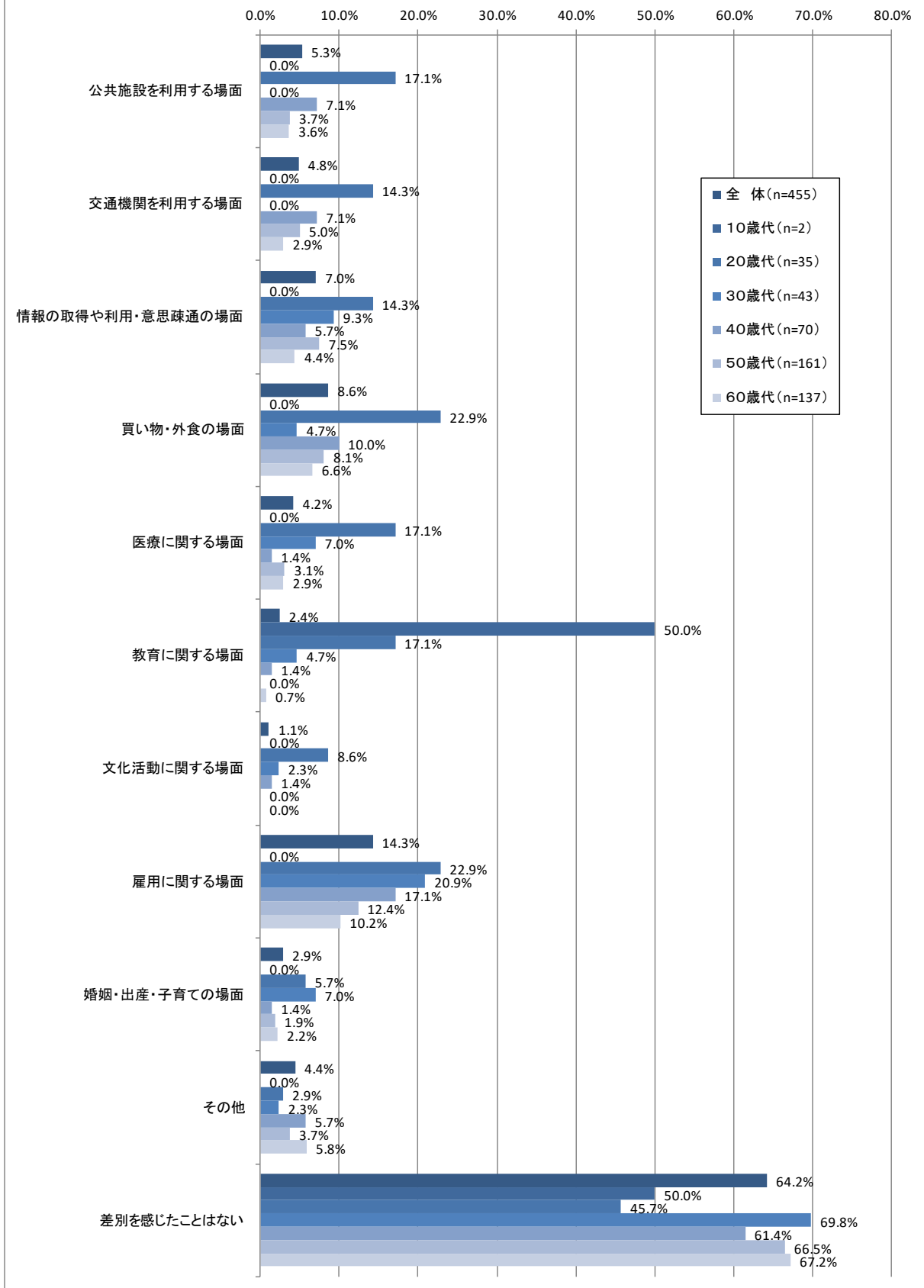
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問34）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、64.2%、「雇用に関する場面」は、14.3%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、30歳代が69.8%、次に60歳代が67.2%である。「雇用に関する場面」は、20歳代が22.9%、次に30歳代が20.9%である。「教育に関する場面」は、10歳代が50.0%、次に20歳代が17.1%である。「買い物・外食の場面」は、20歳代が22.9%、次に40歳代が10.0%である。

図表Ⅳ-A-51 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

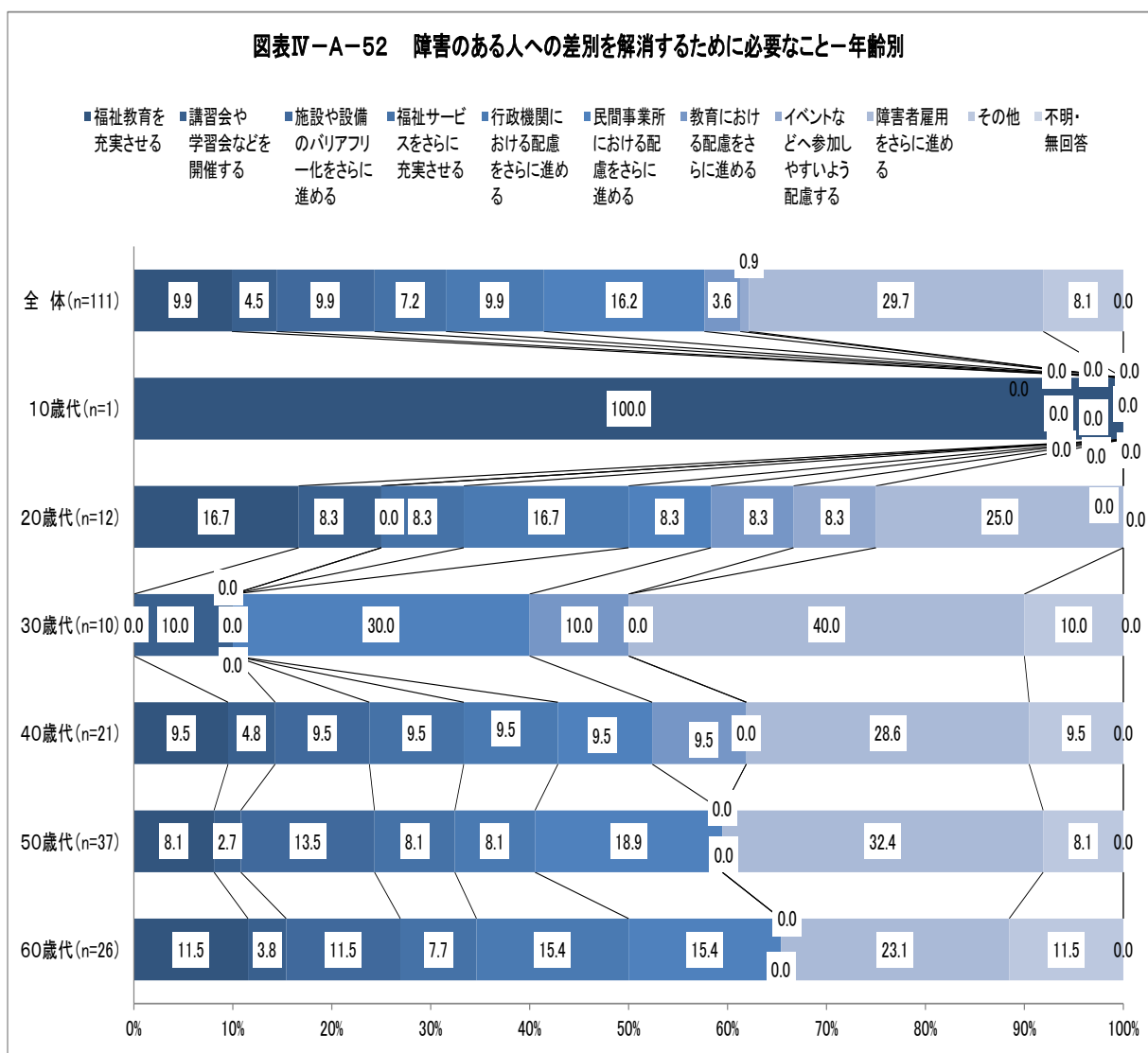


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（問35）

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「障害者雇用をさらに進める」は、29.7%、「民間事業所における配慮をさらに進める」は、16.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者雇用をさらに進める」は、30歳代が40.0%、次に50歳代が32.4%、40歳代28.6%である。「民間事業所における配慮をさらに進める」は、30歳代が30.0%、次に50歳代が18.9%である。「福祉教育を充実させる」は、10歳代が100.0%、次に20歳代が16.7%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、20歳代が16.7%、次に60歳代が15.4%である。



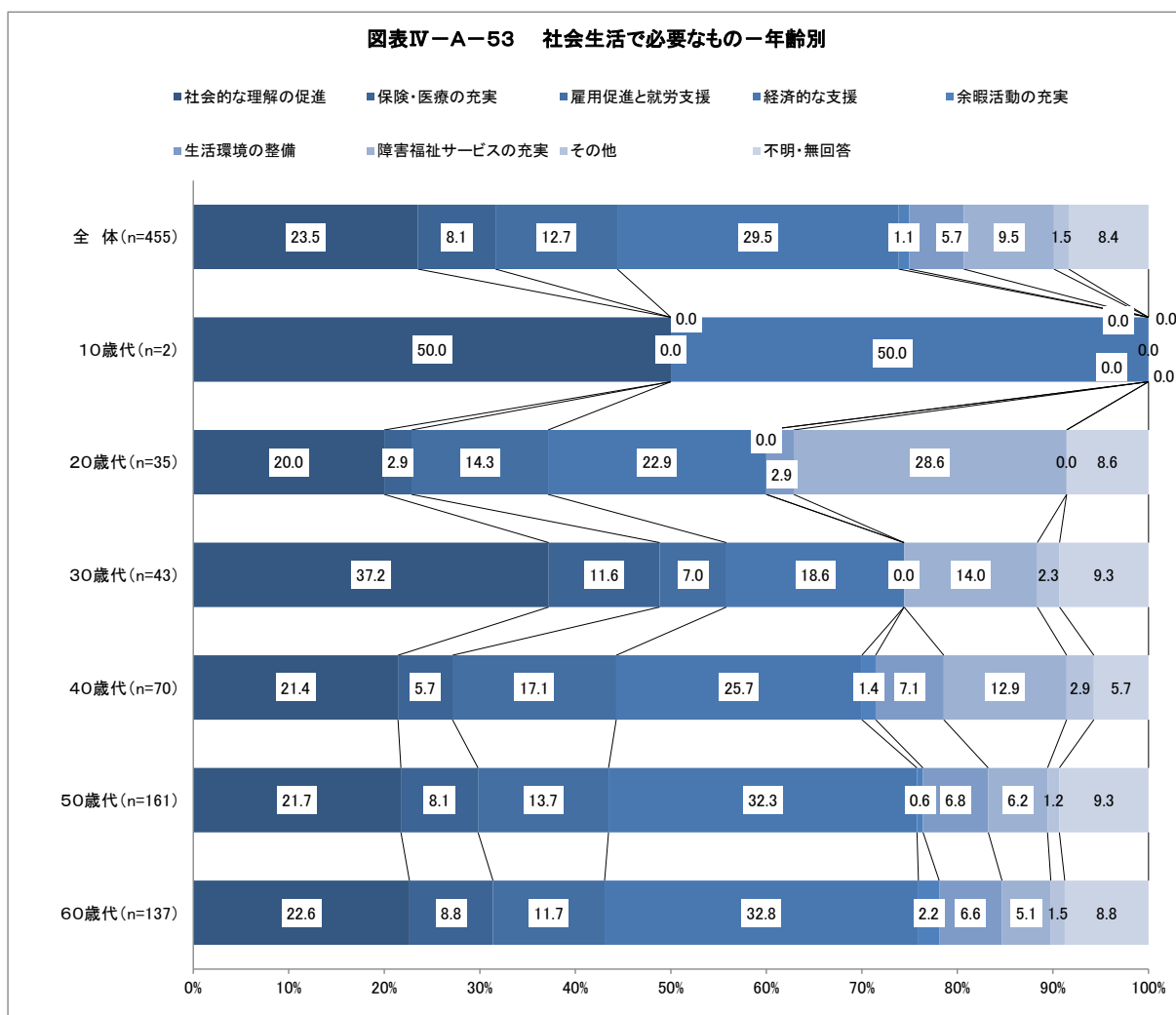
## 9 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問36）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、29.5%、「社会的な理解の促進」は、23.5%、「雇用促進と就労支援」は、12.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「経済的な支援」は、10歳代が50.0%、次に60歳代が32.8%である。「社会的な理解の促進」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が37.2%である。「障害福祉サービスの充実」は、20歳代が28.6%、次に30歳代が14.0%である。「雇用促進と就労支援」は、40歳代が17.1%、次に20歳代が14.3%である。



## B 知的障害者



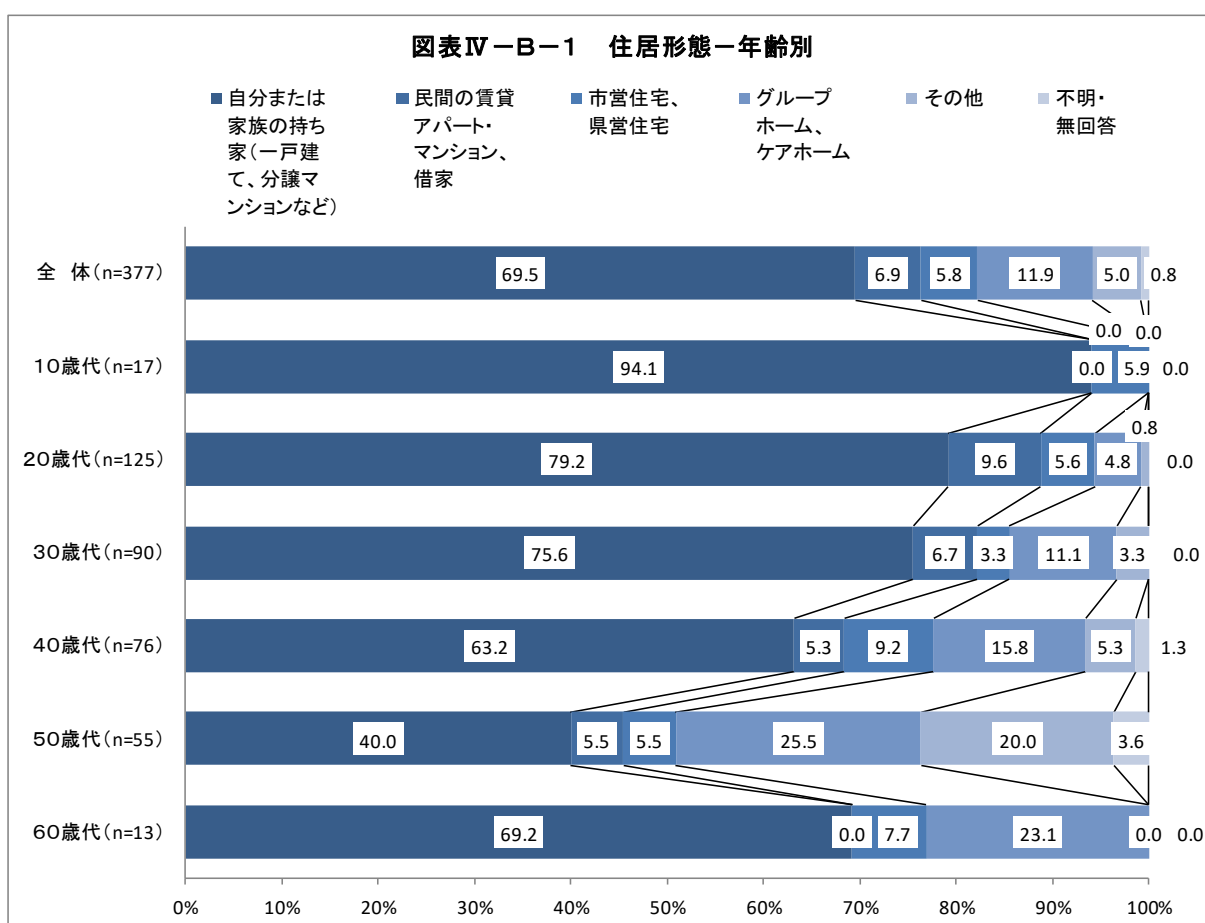
# 1 生活の場について

## (1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、69.5%、「グループホーム」は、11.9%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、6.9%、「市営住宅、県営住宅」は、5.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、10歳代が94.1%、次に20歳代が79.2%である。「グループホーム」は、50歳代が25.5%、次に60歳代が23.1%である。

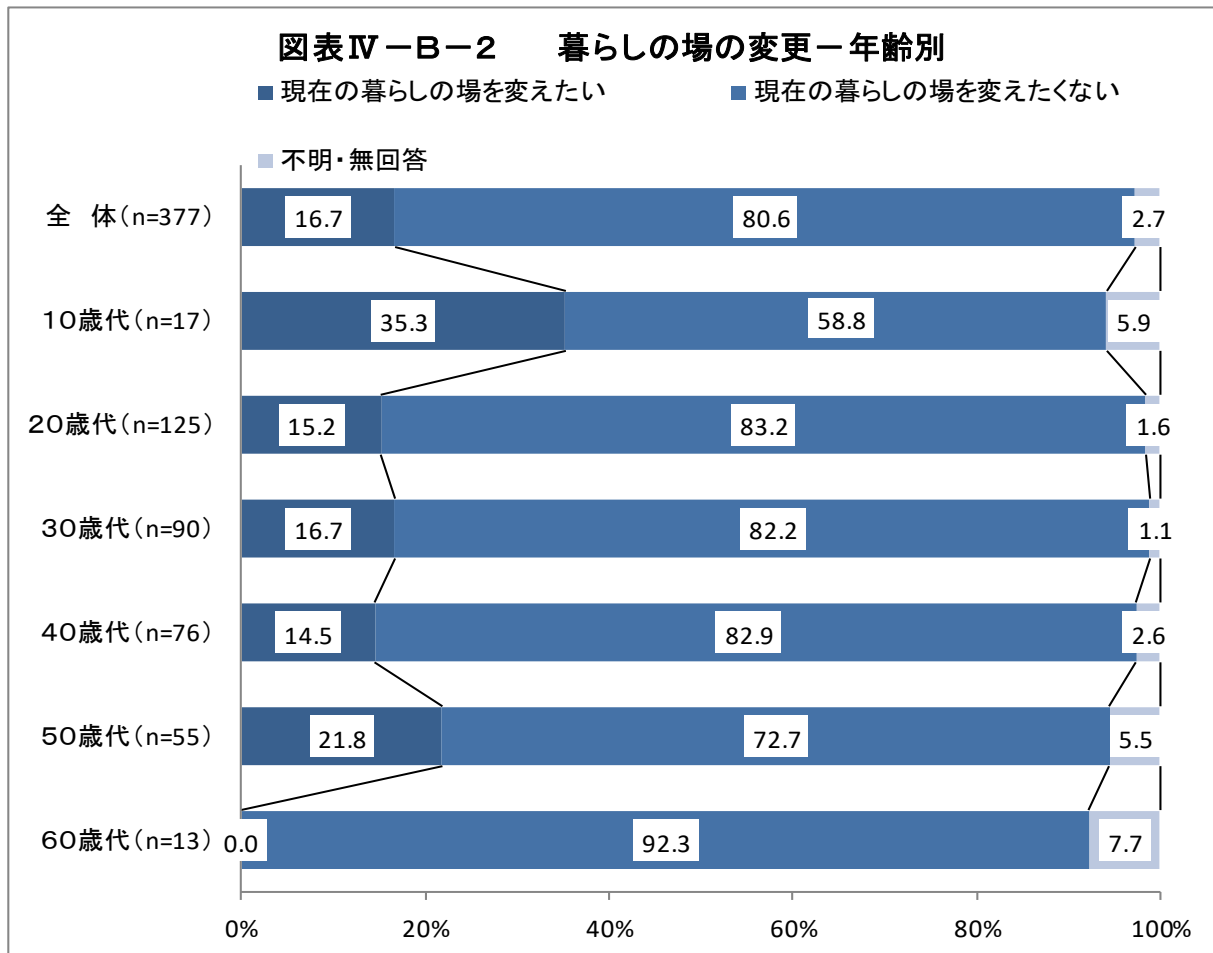


## (2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、80.6%、一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、16.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、60歳代が92.3%、次に20歳代が83.2%である。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、10歳代が35.3%、次に50歳代が21.8%である。



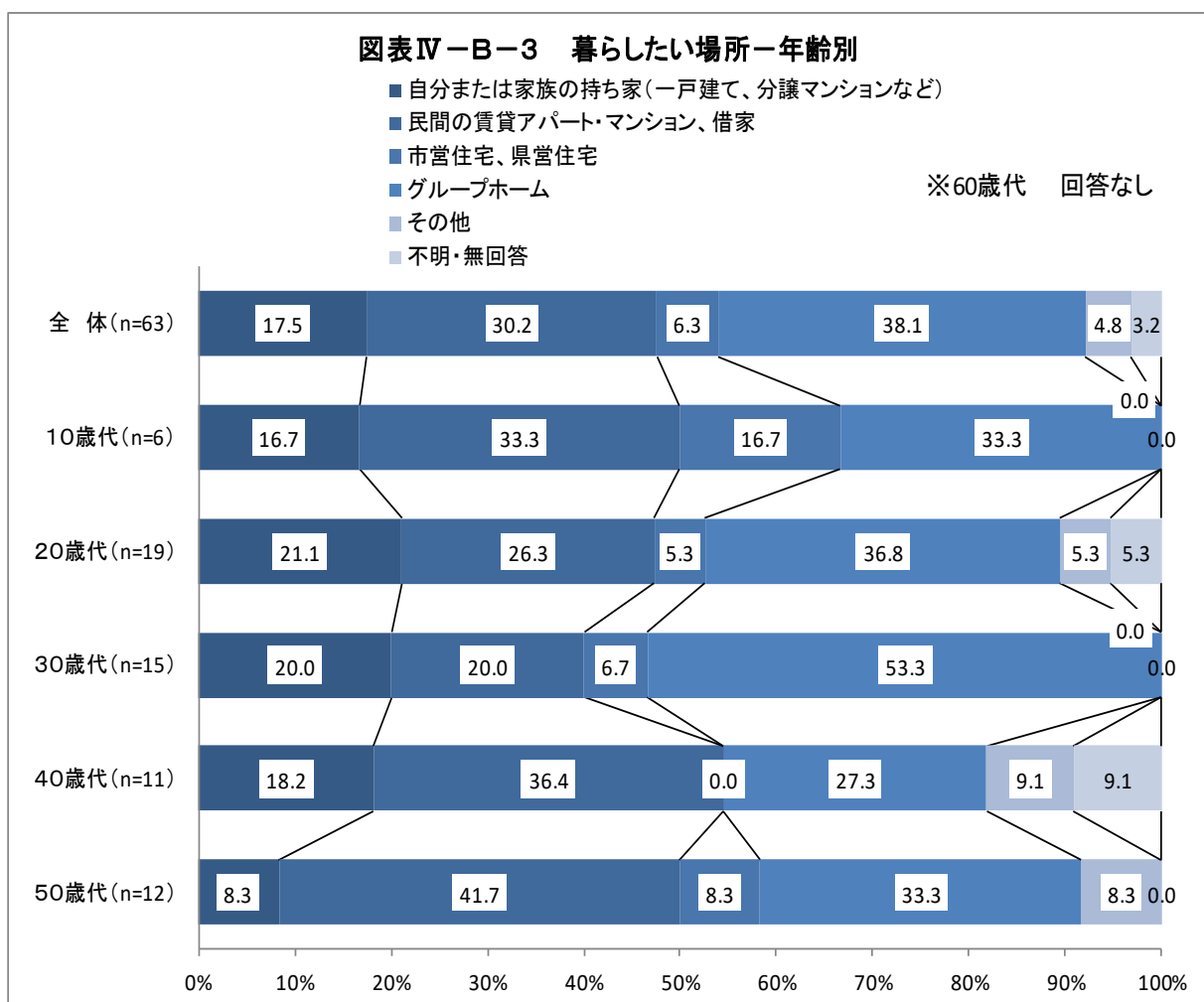


### (3) 暮らしたい場所（問6）

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「グループホーム」は、38.1%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、30.2%、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、17.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「グループホーム」は、30歳代が53.3%、次に20歳代が36.8%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、50歳代が41.7%、次に40歳代が36.4%である。「自分または家族の持ち家」は、20歳代が21.1%、次に30歳代が20.0%である。

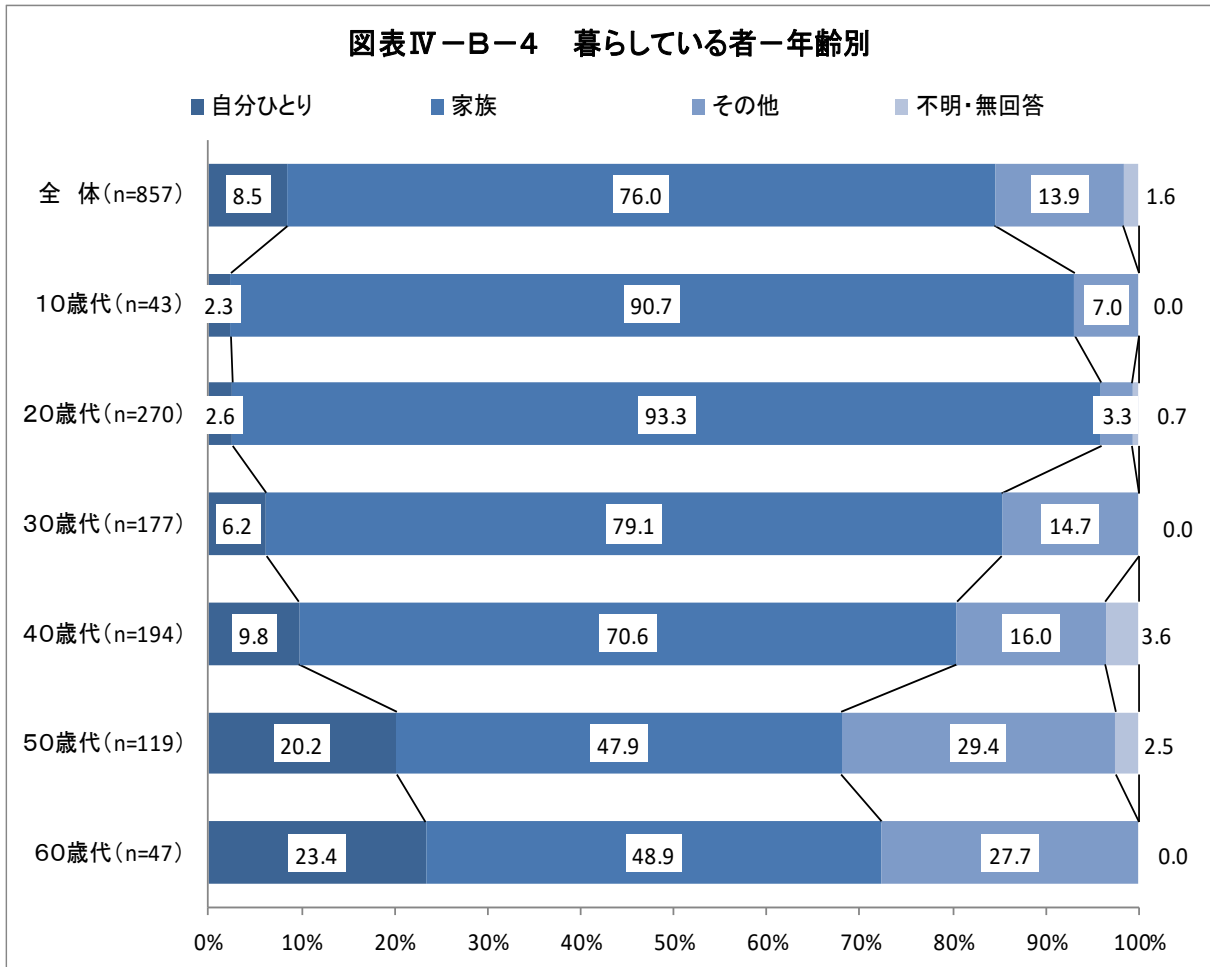


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、76.0%、「自分ひとり」は、8.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、20歳代が93.3%、次に10歳代が90.7%である。一方「自分ひとり」は、60歳代が23.4%、次に50歳代が20.2%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

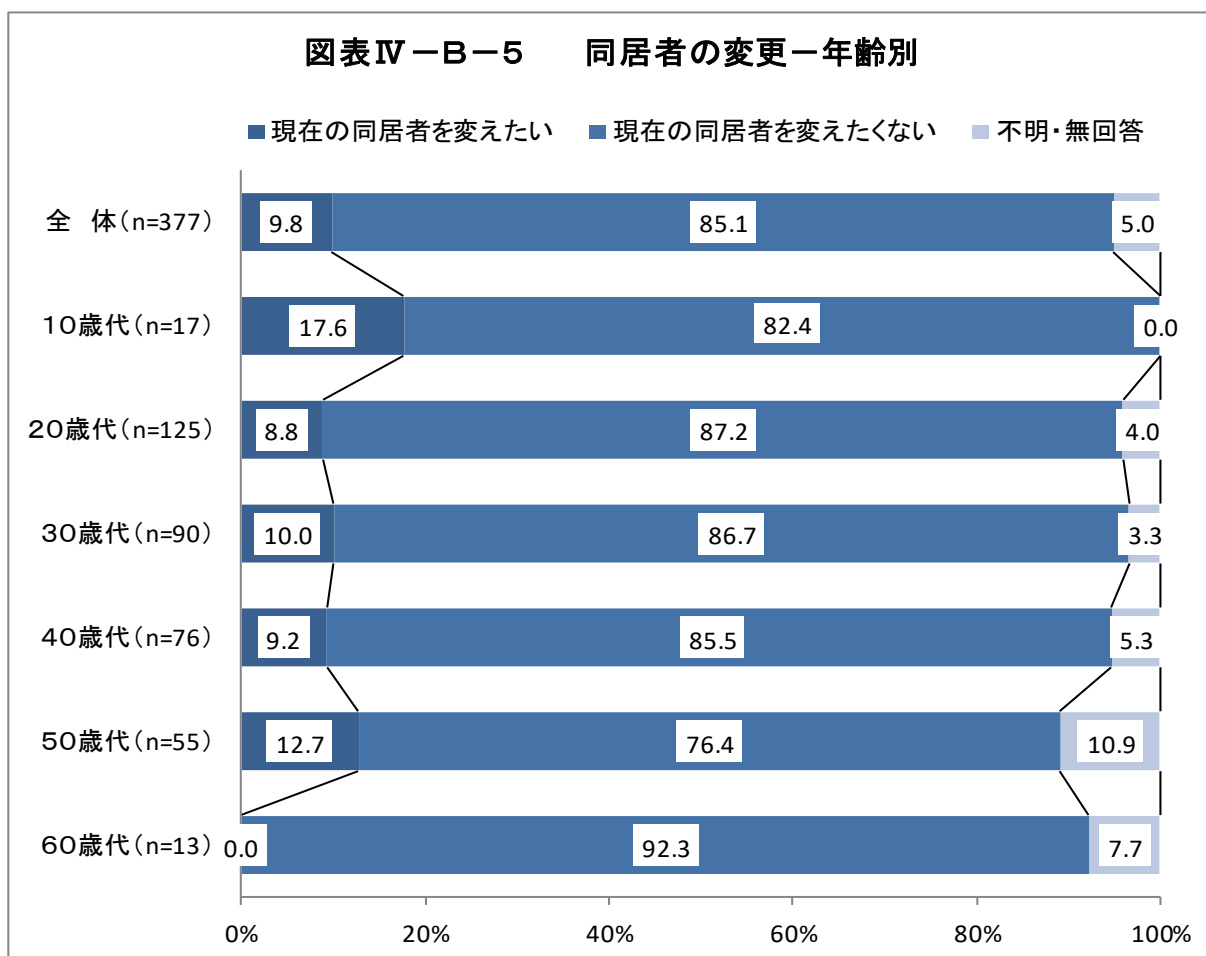


### (5) 同居者の変更 (問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、85.1%、「現在の同居者を変えたい」は、9.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、60歳代が92.3%、次に20歳代が87.2%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、10歳代が17.6%、次に50歳代が12.7%である。

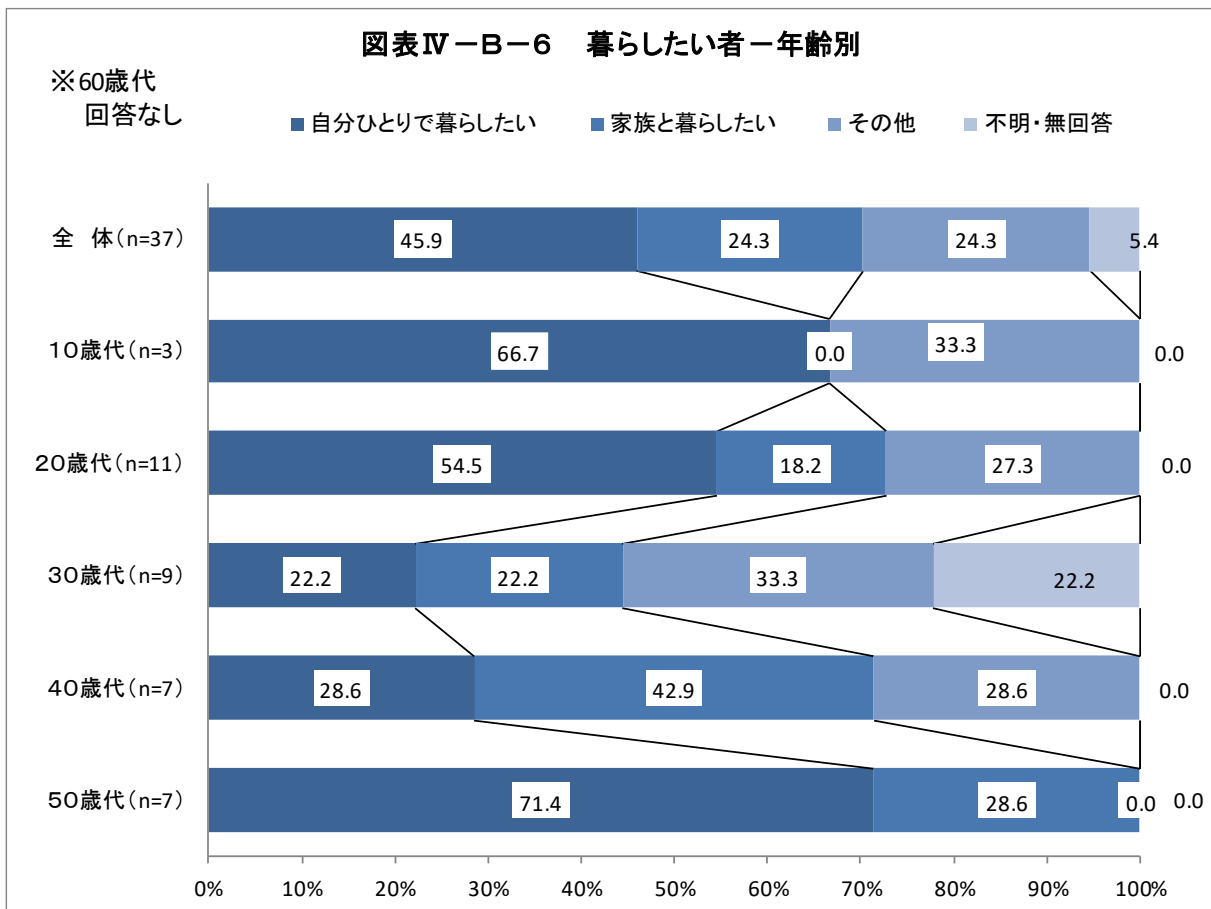


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「自分ひとりで暮らしたい」は、45.9%、「家族と暮らしたい」と「その他」は、24.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分ひとりで暮らしたい」は、50歳代が71.4%、次に10歳代が66.7%である。一方「家族と暮らしたい」は、40歳代が42.9%、次に50歳代が28.6%である。

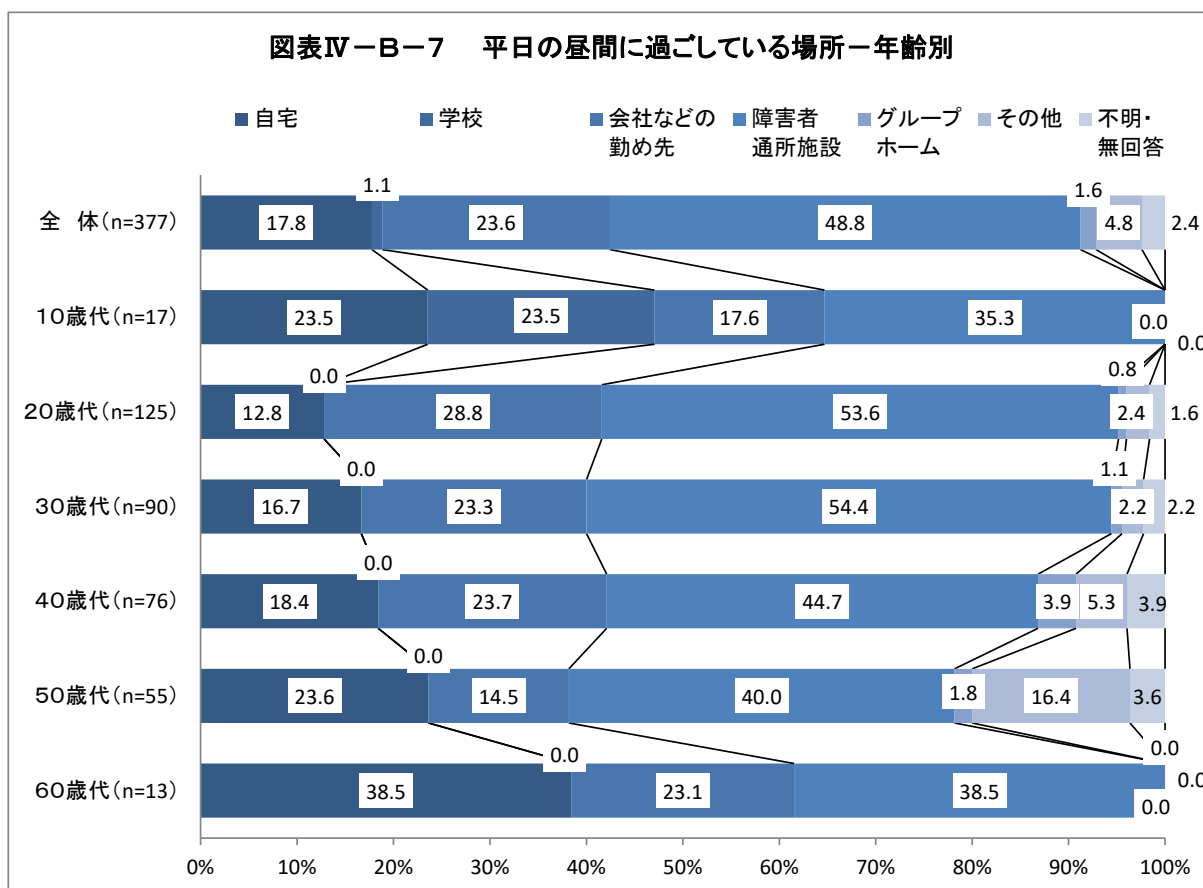


(7) 平日の昼間に過ごしている場所（問10）

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「障害者通所施設」は、48.8%、「会社などの勤め先」は、23.6%、「自宅」は、17.8%である。

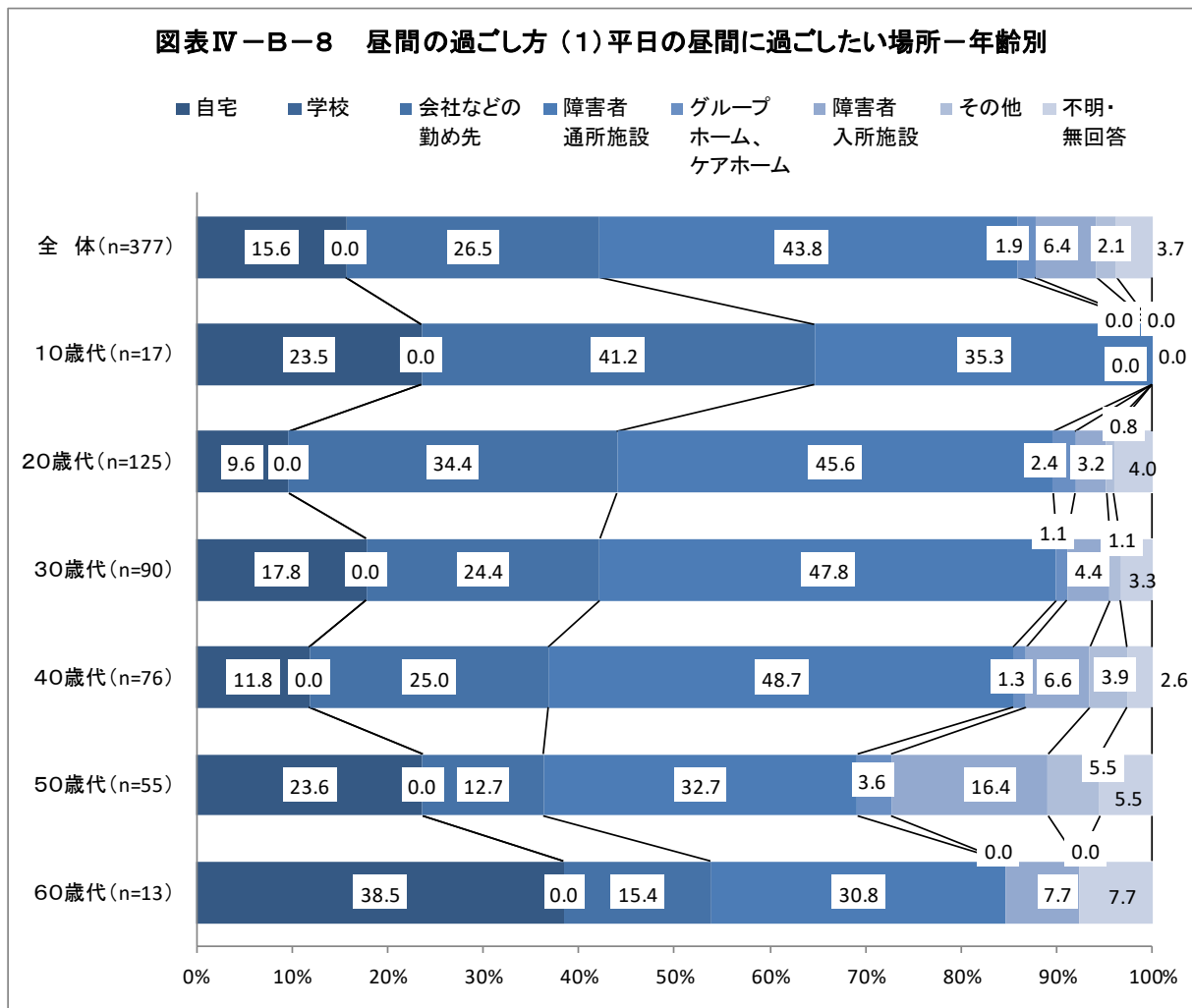
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者通所施設」は、30歳代が54.4%、次に20歳代が53.6%である。「会社などの勤め先」は、20歳代が28.8%、次に40歳代が23.7%である。「自宅」は、60歳代が38.5%、次に50歳代が23.6%である。年齢が上がるごとに割合が高い。



(8) 昼間の過ごし方(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「障害者通所施設」は、43.8%、「会社などの勤め先」は、26.5%、「自宅」は、15.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者通所施設」は、40歳代が48.7%、次に30歳代が47.8%である。「会社などの勤め先」は、10歳代が41.2%、次に20歳代が34.4%である。10歳代から40歳代の割合が高い。「自宅」は、60歳代が38.5%、次に50歳代が23.6%である。



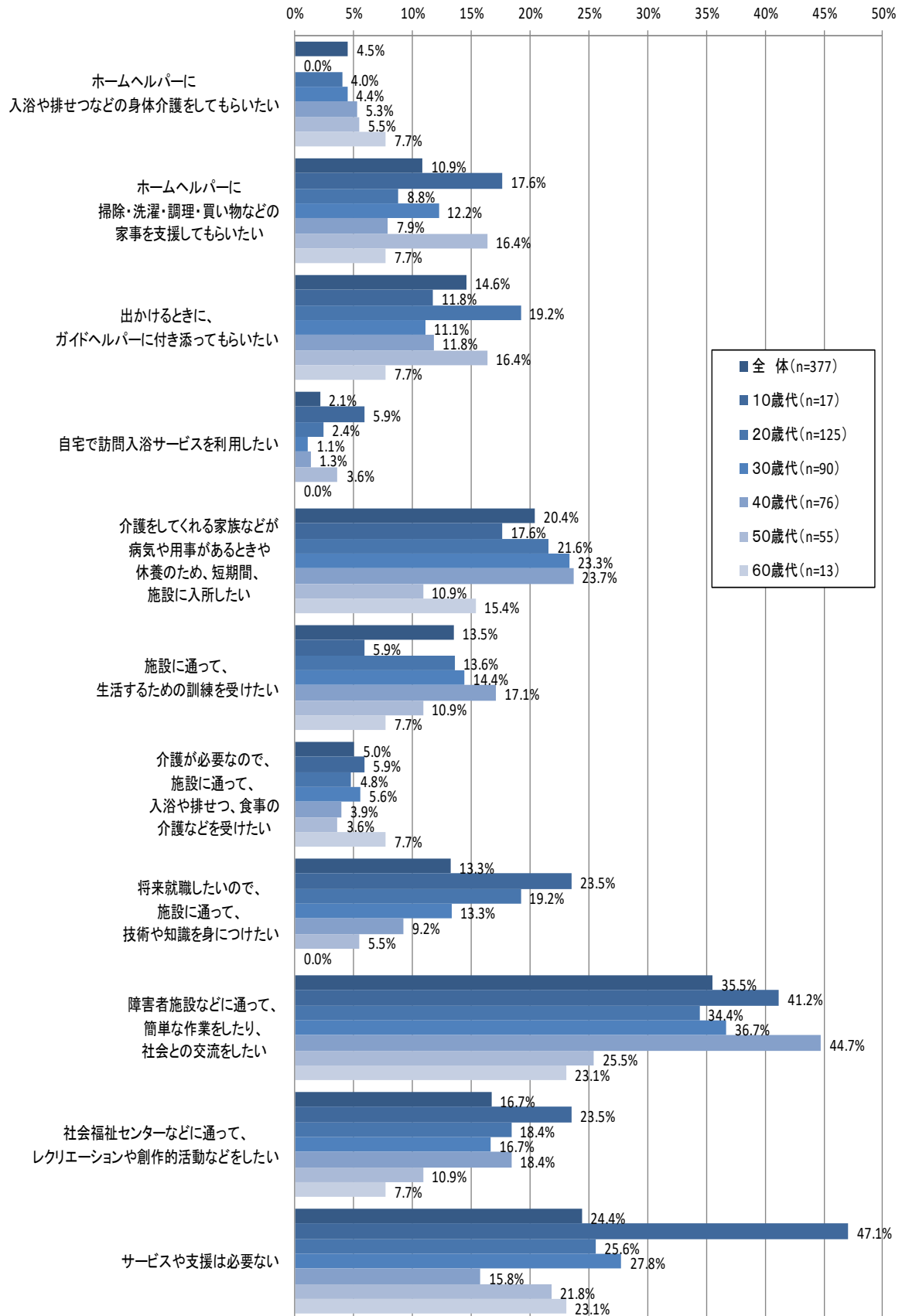
#### (8) 昼間の過ごし方-(2)昼間に利用したいサービスや支援(問11(2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、35.5%、「サービスや支援は必要ない」は、24.4%、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、20.4%、「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい」は、16.7%、「出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい」は、14.6%、「施設に通って、生活するための訓練を受けたい」は、13.5%、「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、13.3%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、10.9%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見ると、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、40歳代が44.7%、次に10歳代が41.2%である。「サービスや支援は必要ない」は、10歳代が47.1%、次に30歳代が27.8%である。「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、40歳代が23.7%、次に30歳代が23.3%である。「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい」は、10歳代が23.5%、次に20歳代と40歳代が18.4%である。「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、10歳代が23.5%、次に20歳代が19.2%である。

図表Ⅳ-B-9 昼間の過ごし方（2）昼間に利用したいサービスや支援一年齢別  
（複数回答）





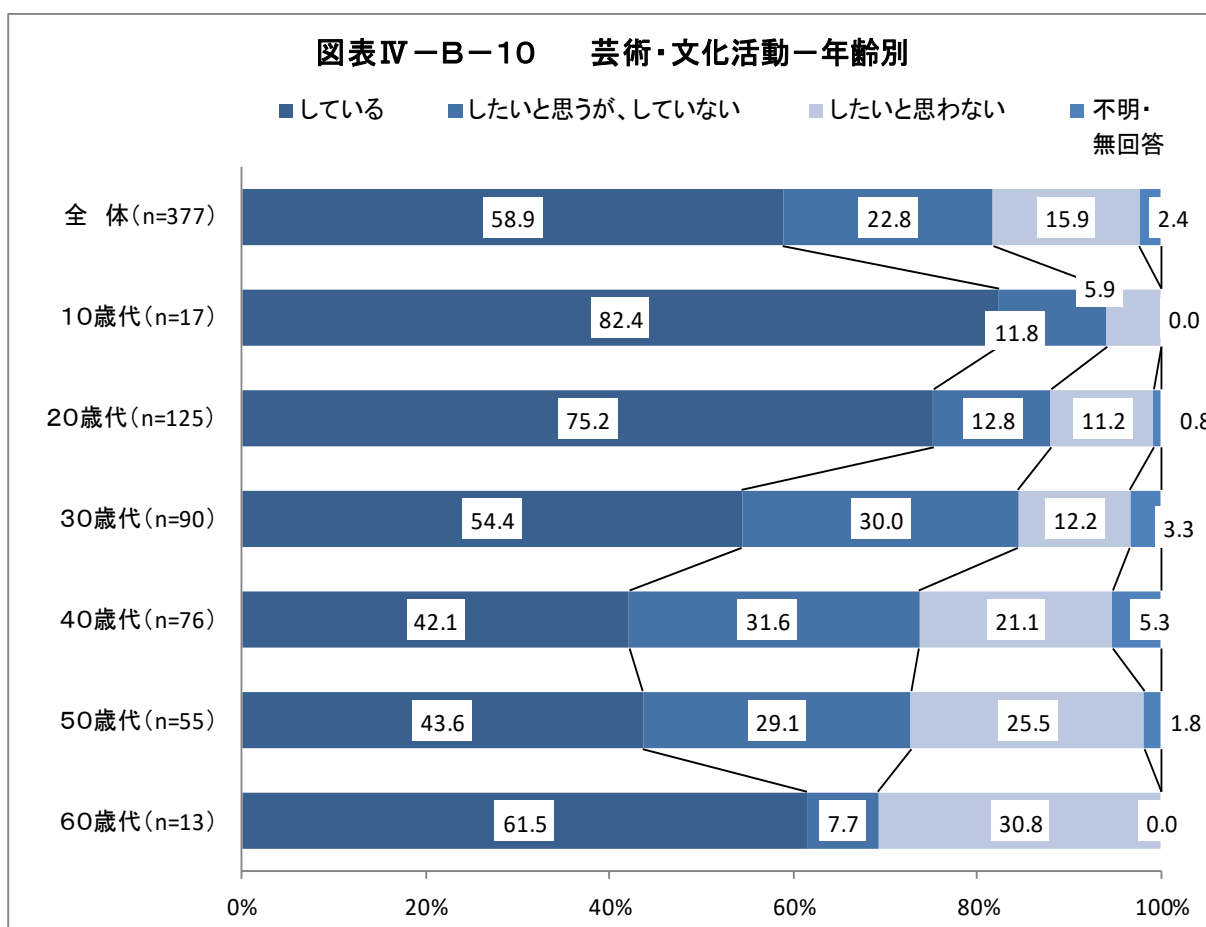
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、58.9%、「したいと思うが、していない」は、22.8%、「したいと思わない」は、15.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が82.4%、次に20歳代が75.2%である。「したいと思うが、していない」は、40歳代が31.6%、次に30歳代が30.0%である。30歳代から50歳代の割合が高い。「したいと思わない」は、60歳代が30.8%、次に50歳代が25.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

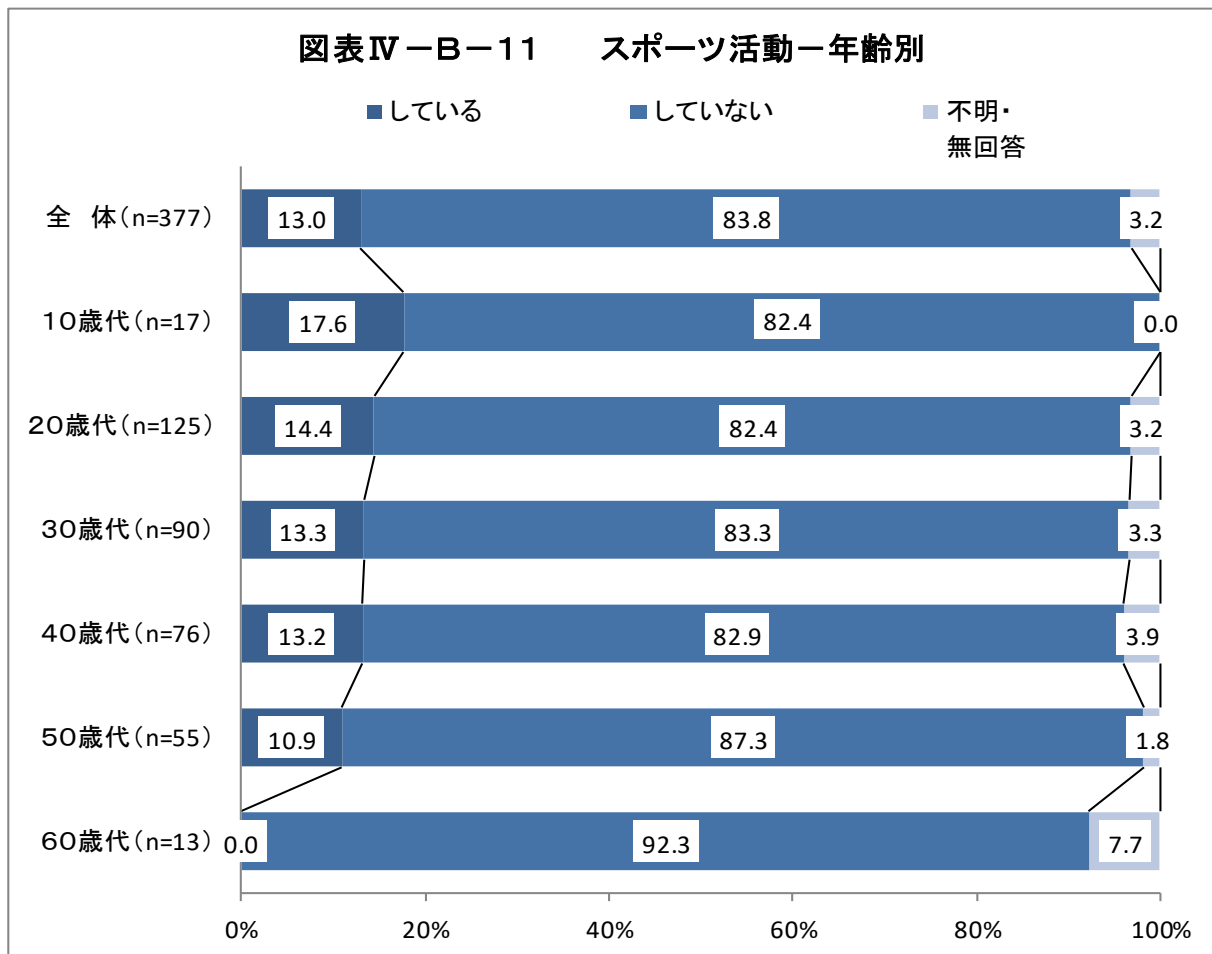


## (2) スポーツ活動の実施（問13）

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、13.0%、「していない」は、83.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、10歳代が17.6%、次に20歳代が14.4%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「していない」は、60歳代が92.3%、次に50歳代が87.3%である。

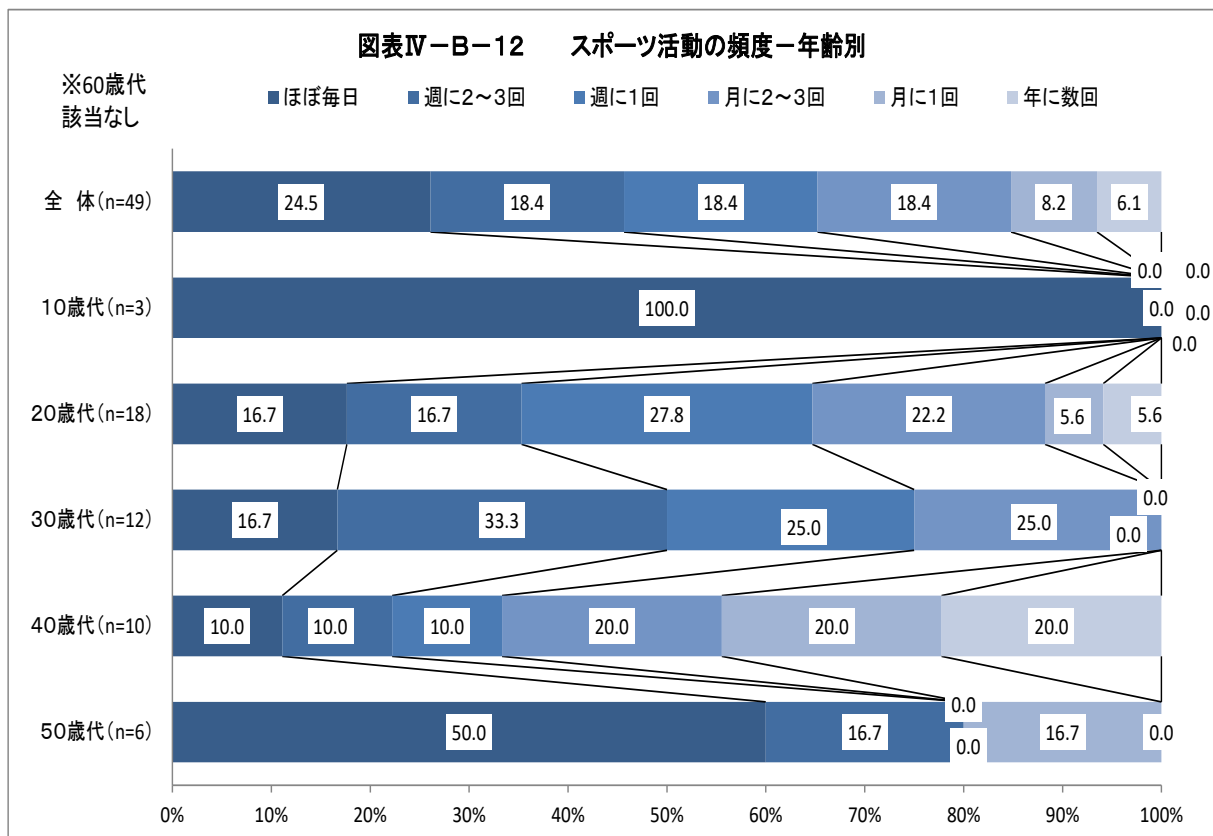


(3) スポーツ活動の頻度 (問14)

問13で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、24.5%、「週に2～3回」と「週に1回」と「月に2～3回」は、18.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が100.0%、次に50歳代が50.0%である。「週に2～3回」は、30歳代33.3%である。「週に1回」は、20歳代が27.8%である。

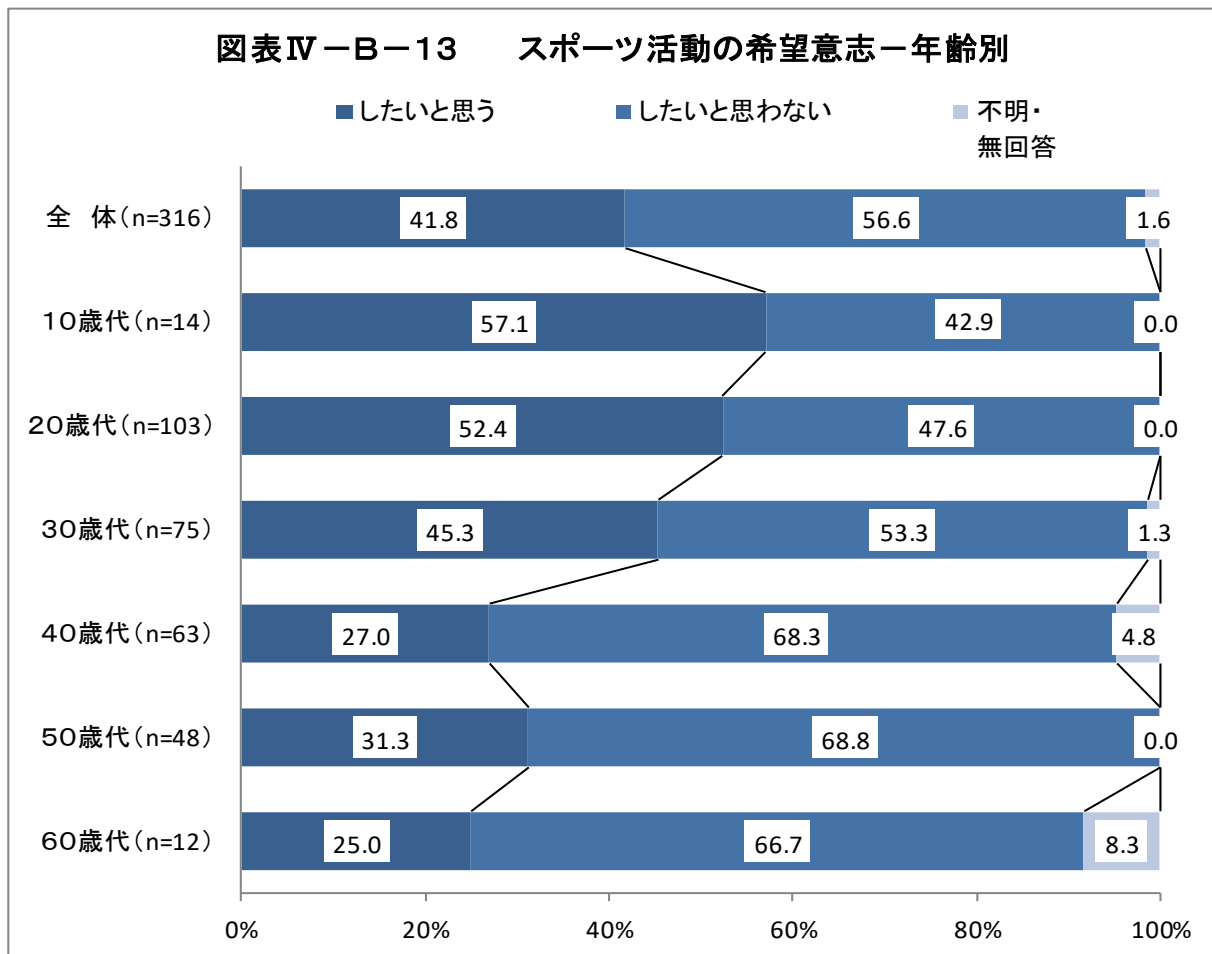


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、41.8%、「したいと思わない」は、56.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、10歳代が57.1%、次に20歳代が52.4%である。年齢が下がるごとに割合が高い。一方「したいと思わない」は、50歳代が68.8%、次に40歳代が68.3%である。



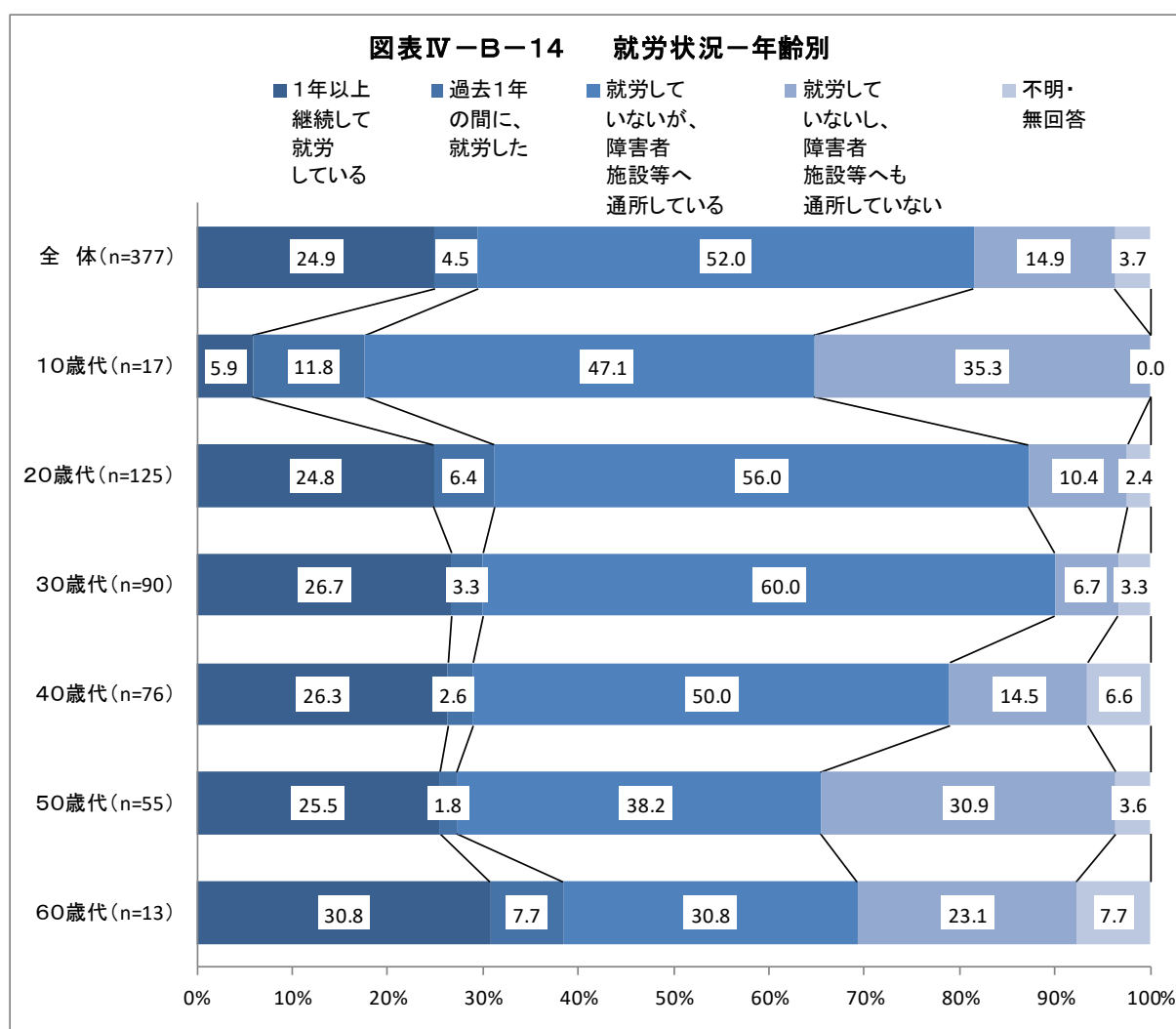
### 3 就労について

#### (1) 就労状況（問16）

現在、就労をしているかをたずねた。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、52.0%、「1年以上継続して就労している」は、24.9%、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、14.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、30歳代が60.0%、次に20歳代が56.0%である。「1年以上継続して就労している」は、60歳代が30.8%、次に30歳代が26.7%である。「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、10歳代が35.3%、次に50歳代が30.9%である。



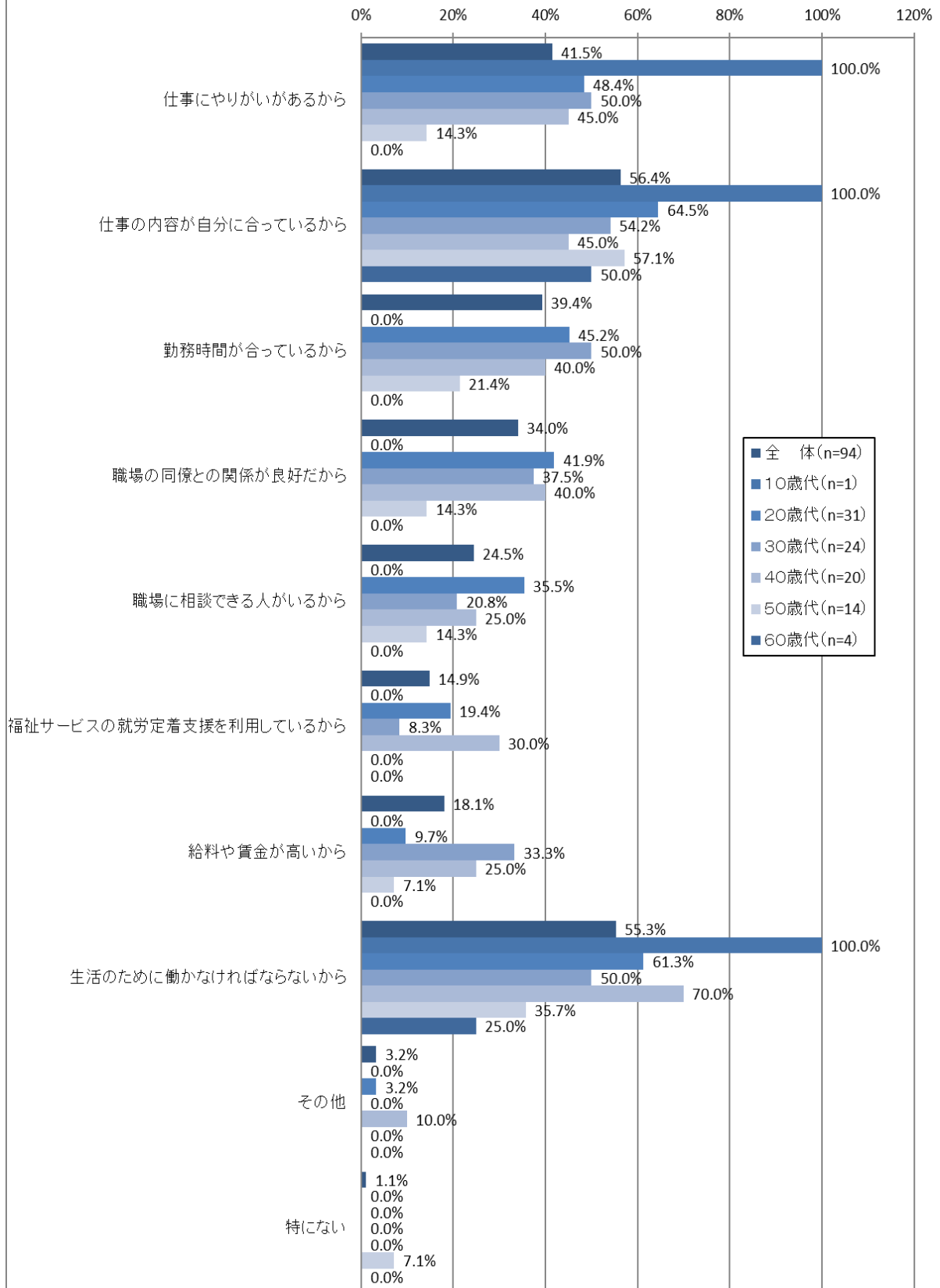
## (2) 就労継続できる理由 (問 17)

問 16 で「1 年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

「仕事の内容が自分に合っているから」は、56.4%、「生活のために働かなければならないから」は、55.3%、「仕事にやりがいがあるから」は、41.5%、「勤務時間が合っているから」は、39.4%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、34.0%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「仕事の内容が自分に合っているから」は、10 歳代が 100.0%、次に 20 歳代が 64.5%である。「生活のために働かなければならないから」は、10 歳代が 100.0%、次に 40 歳代が 70.0%である。「仕事にやりがいがあるから」は、10 歳代が 100.0%、次に 30 歳代が 50.0%である。「勤務時間が合っているから」は、30 歳代が 50.0%、次に 20 歳代が 45.2%である。「職場の同僚との関係が良好だから」は、20 歳代が 41.9%、次に 40 歳代が 40.0%である。

図表IV-B-15 就労継続できる理由—年齢別(複数回答)

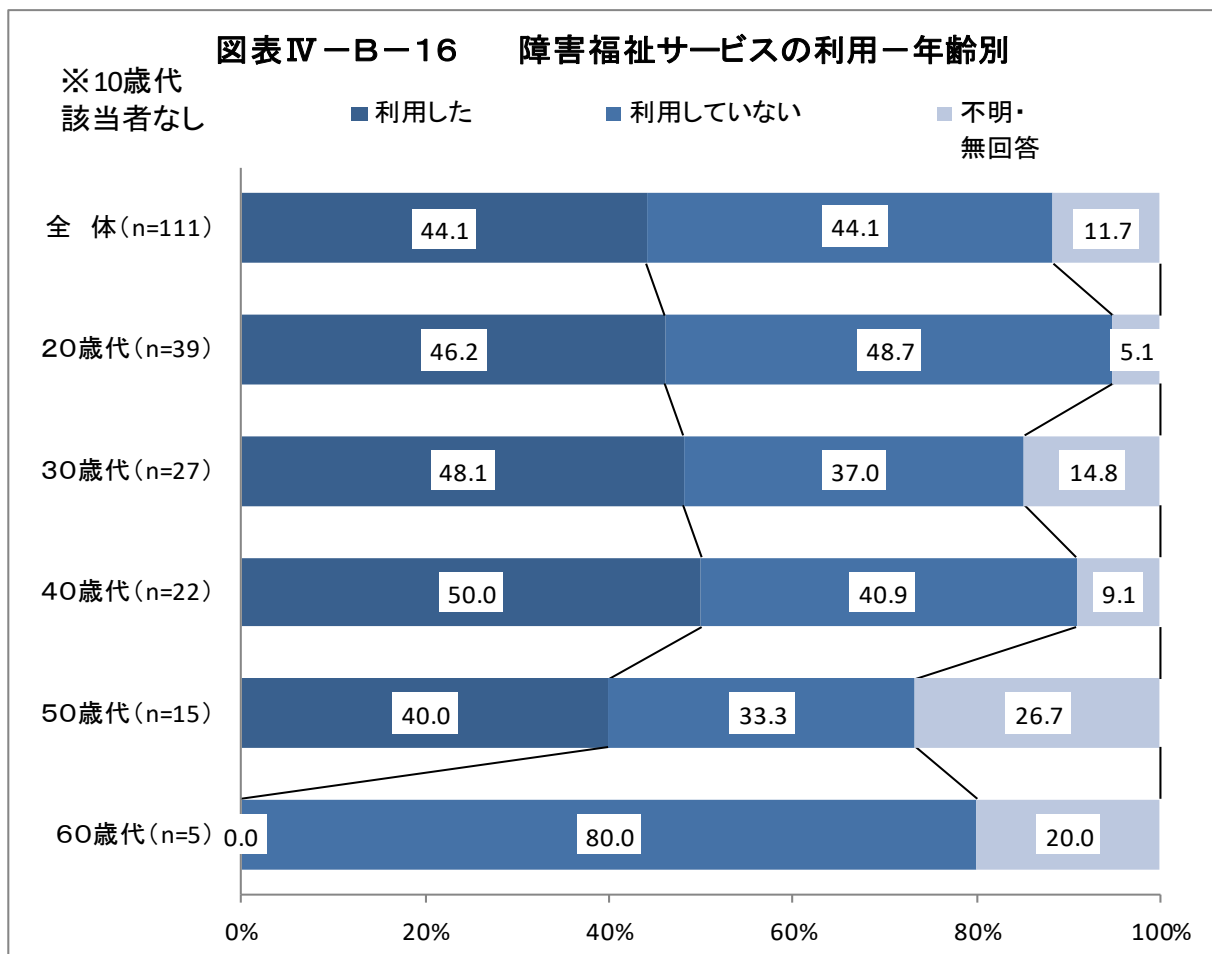


（3）障害福祉サービスの利用（問18）

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

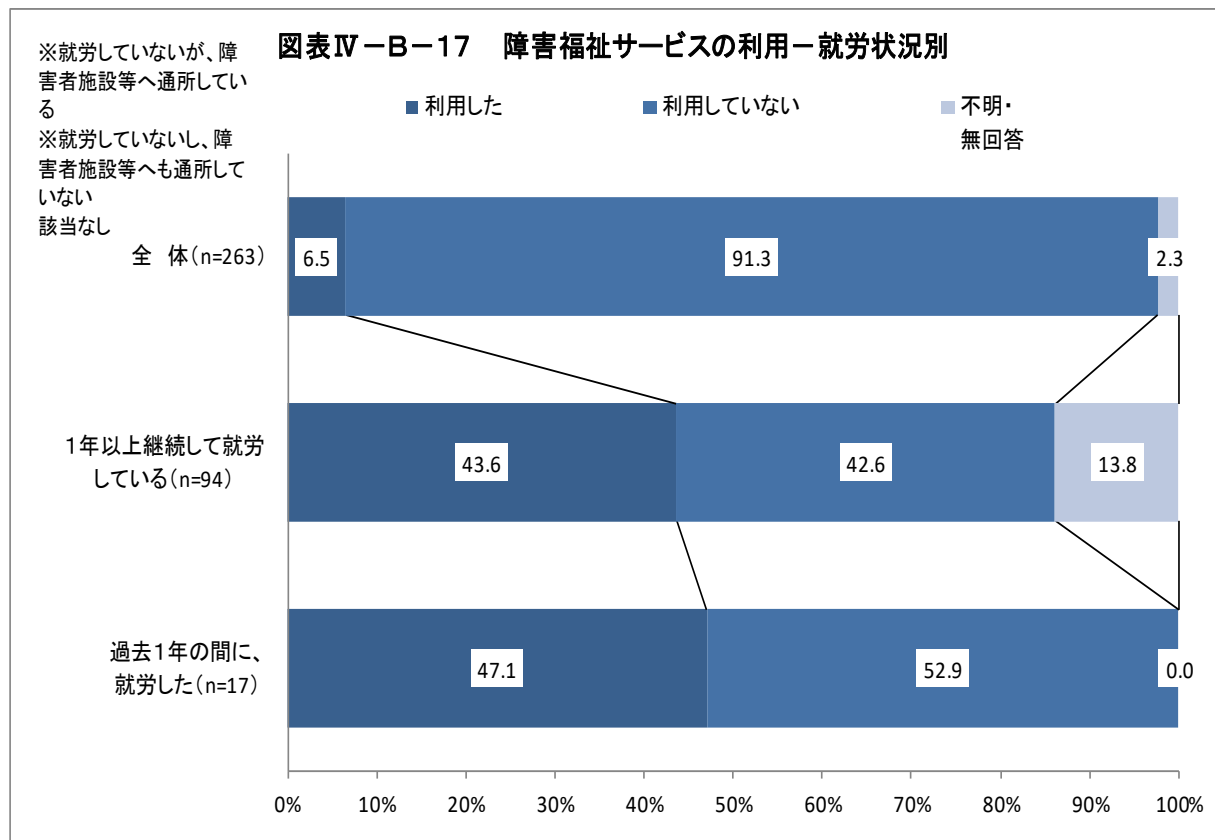
「利用した」と「利用していない」は、ともに44.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用した」は、40歳代が50.0%、次に30歳代が48.1%である。「利用していない」は、60歳代が80.0%、次に20歳代が48.7%である。





【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見ると、「利用していない」は、「過去1年の間に、就労した」が52.9%、次に「1年以上継続して就労している」が42.6%である。

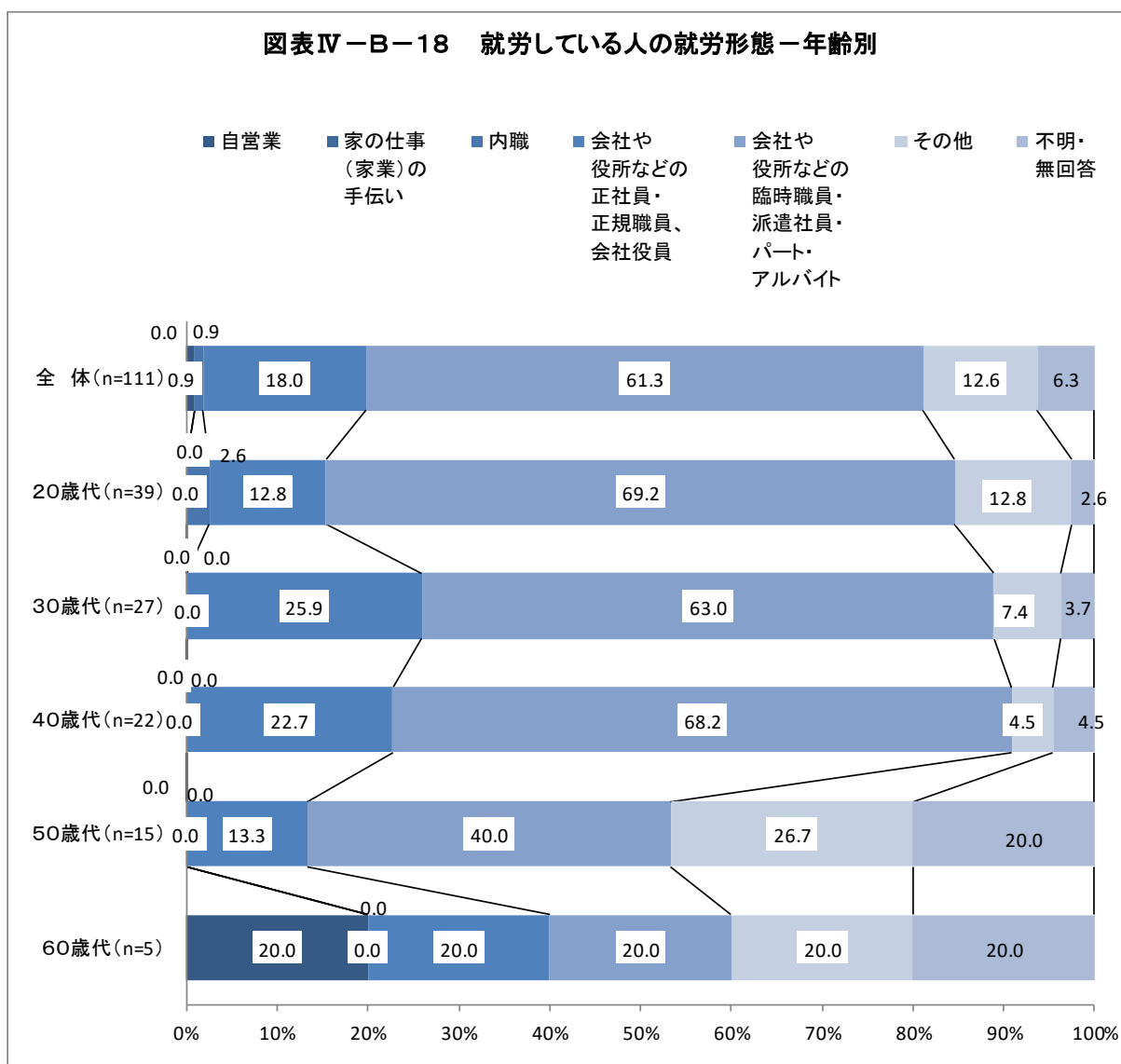


(4) 就労している人の就労形態（問19）

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、61.3%、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、18.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、20歳代が69.2%、次に40歳代が68.2%である。20歳代から40歳代の割合が高い。「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、30歳代が25.9%、次に40歳代が22.7%である。



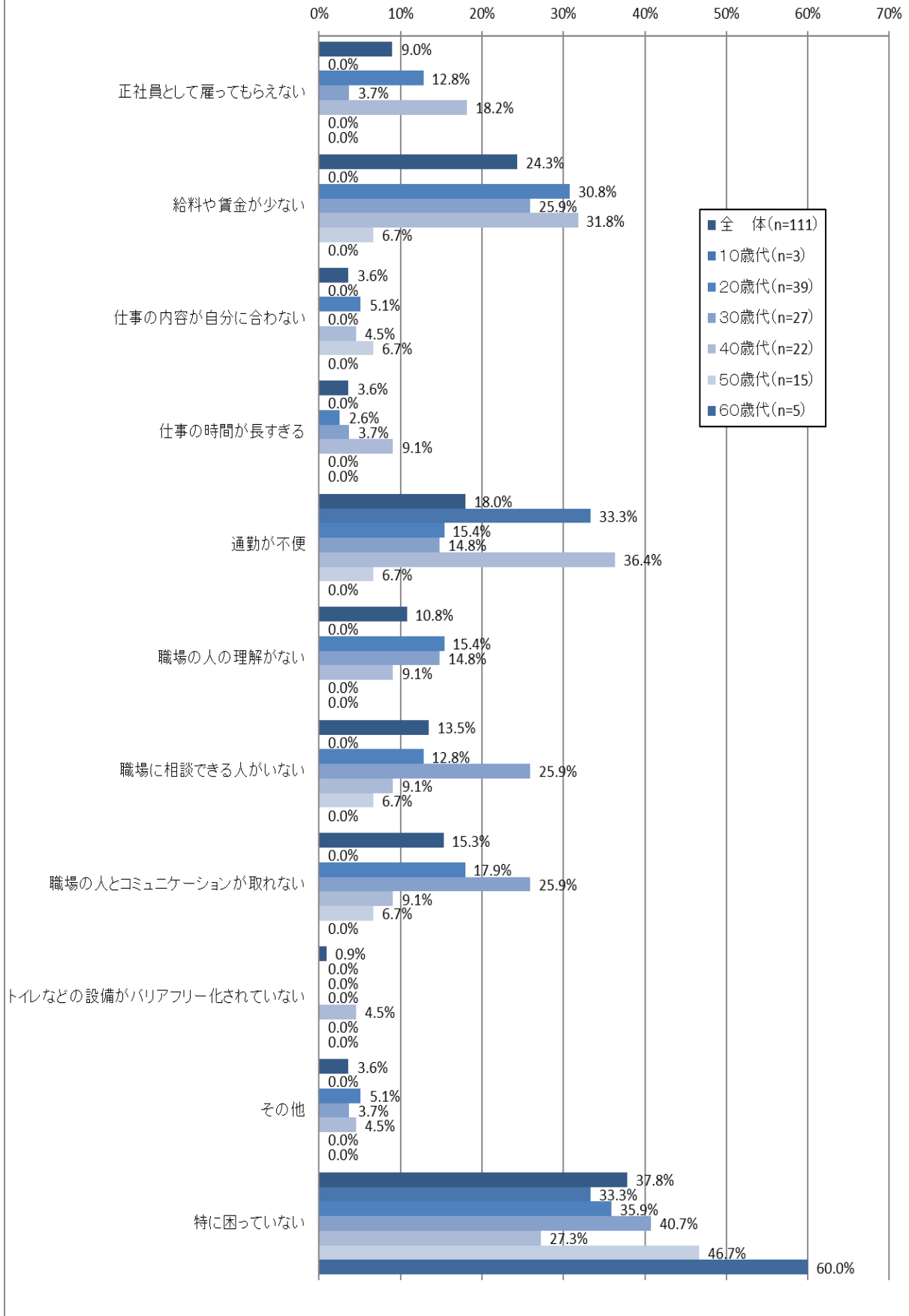
(5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、37.8%、「給料や賃金が少ない」は、24.3%、「通勤が不便」は、18.0%、「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、15.3%である。

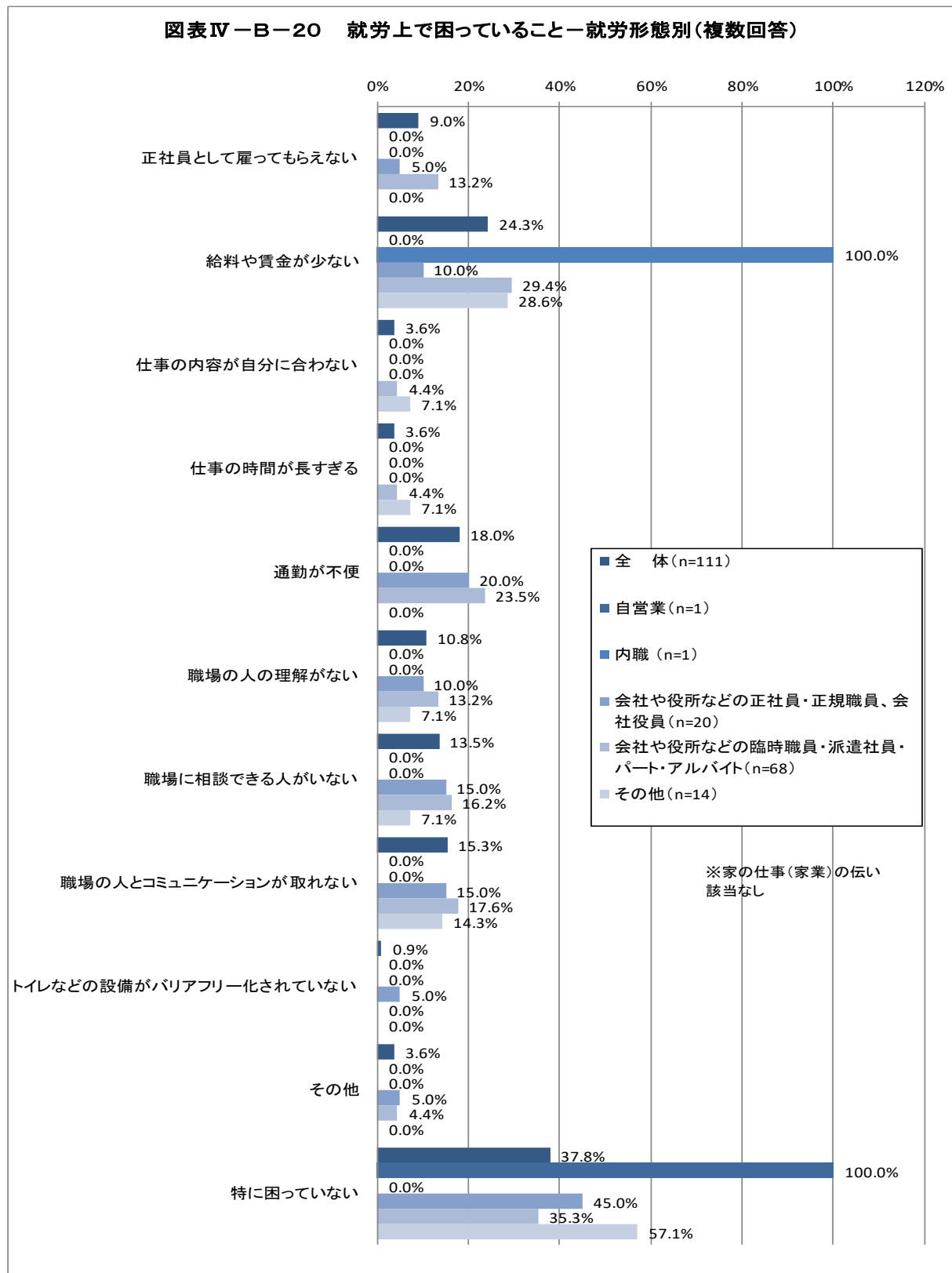
**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、60歳代が60.0%、次に50歳代が46.7%である。「給料や賃金が少ない」は、40歳代が31.8%、次に20歳代が30.8%である。「通勤が不便」は、40歳代が36.4%、次に10歳代が33.3%である。「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、30歳代が25.9%、次に20歳代が17.9%である。「職場に相談できる人がいない」は、30歳代が25.9%である。

図表Ⅳ-B-19  
就労上で困っていること一年齢別(複数回答)



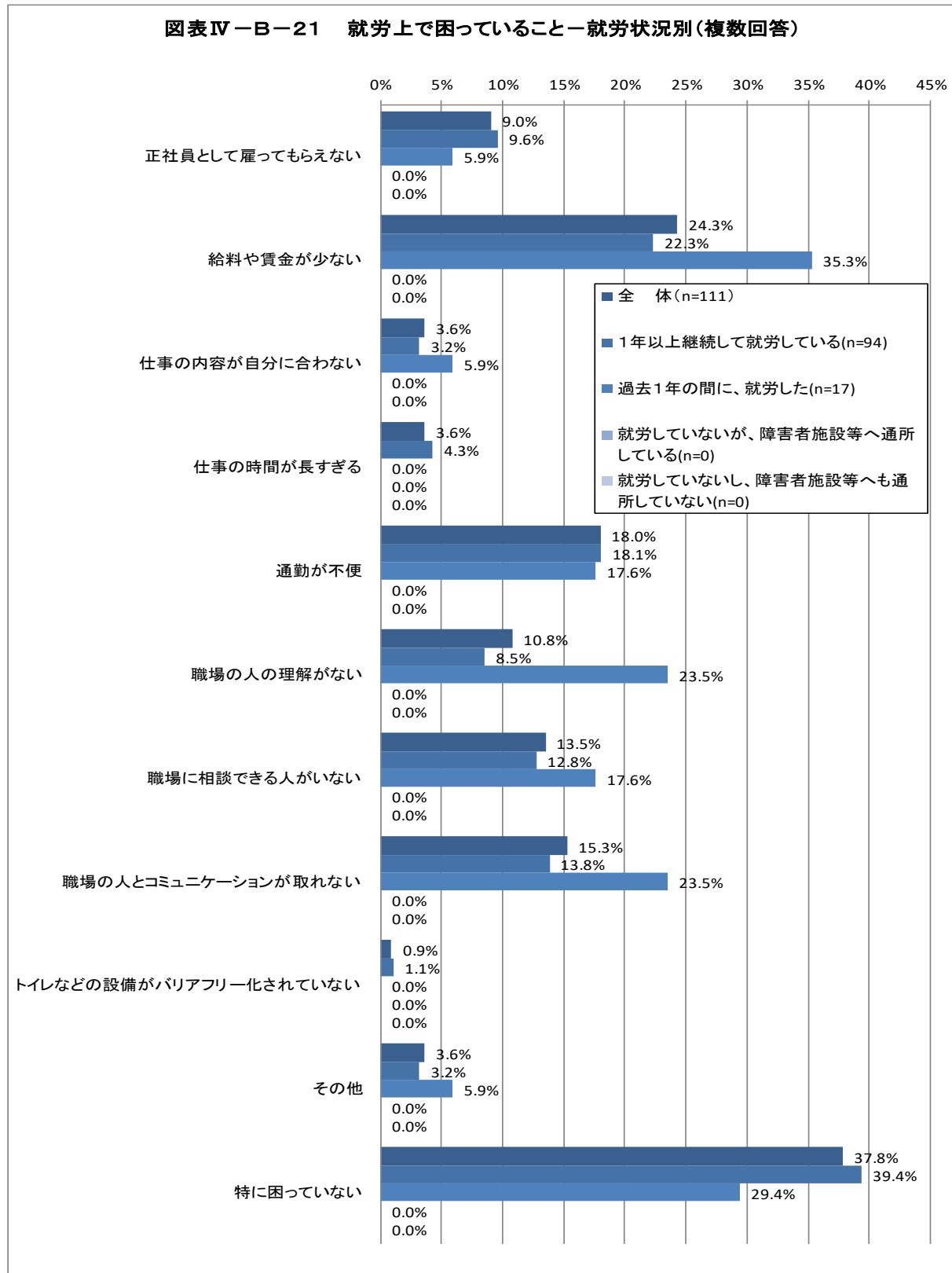
【就労形態別】他の就労形態別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「自営業」が100.0%、次に「その他」が57.1%である。「給料や賃金が少ない」は、「内職」が100.0%、次に「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が29.4%である。

図表Ⅳ-B-20 就労上で困っていること—就労形態別(複数回答)



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、「1年以上継続して就労している」が39.4%、次に「過去1年の間に、就労した」が29.4%である。「給料や賃金が少ない」は、「過去1年の間に、就労した」が35.3%、次に「1年以上継続して就労している」が22.3%である。

図表Ⅳ-B-21 就労上で困っていること—就労状況別(複数回答)

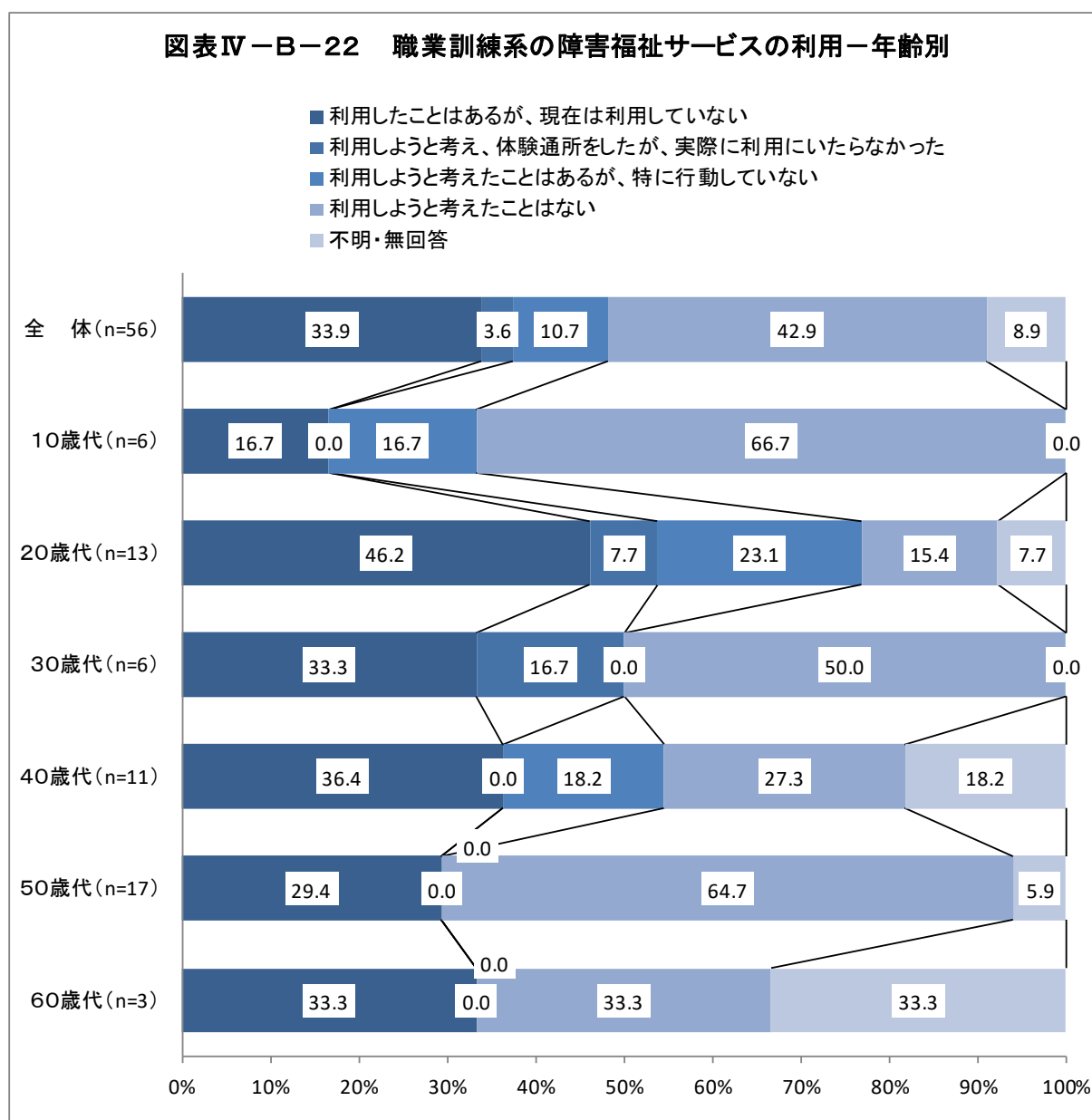


(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用しようと考えたことはない」は、42.9%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、33.9%、「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、10.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、10歳代が66.7%、次に50歳代が64.7%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、20歳代が46.2%、次に40歳代が36.4%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、20歳代が23.1%、次に40歳代が18.2%である。

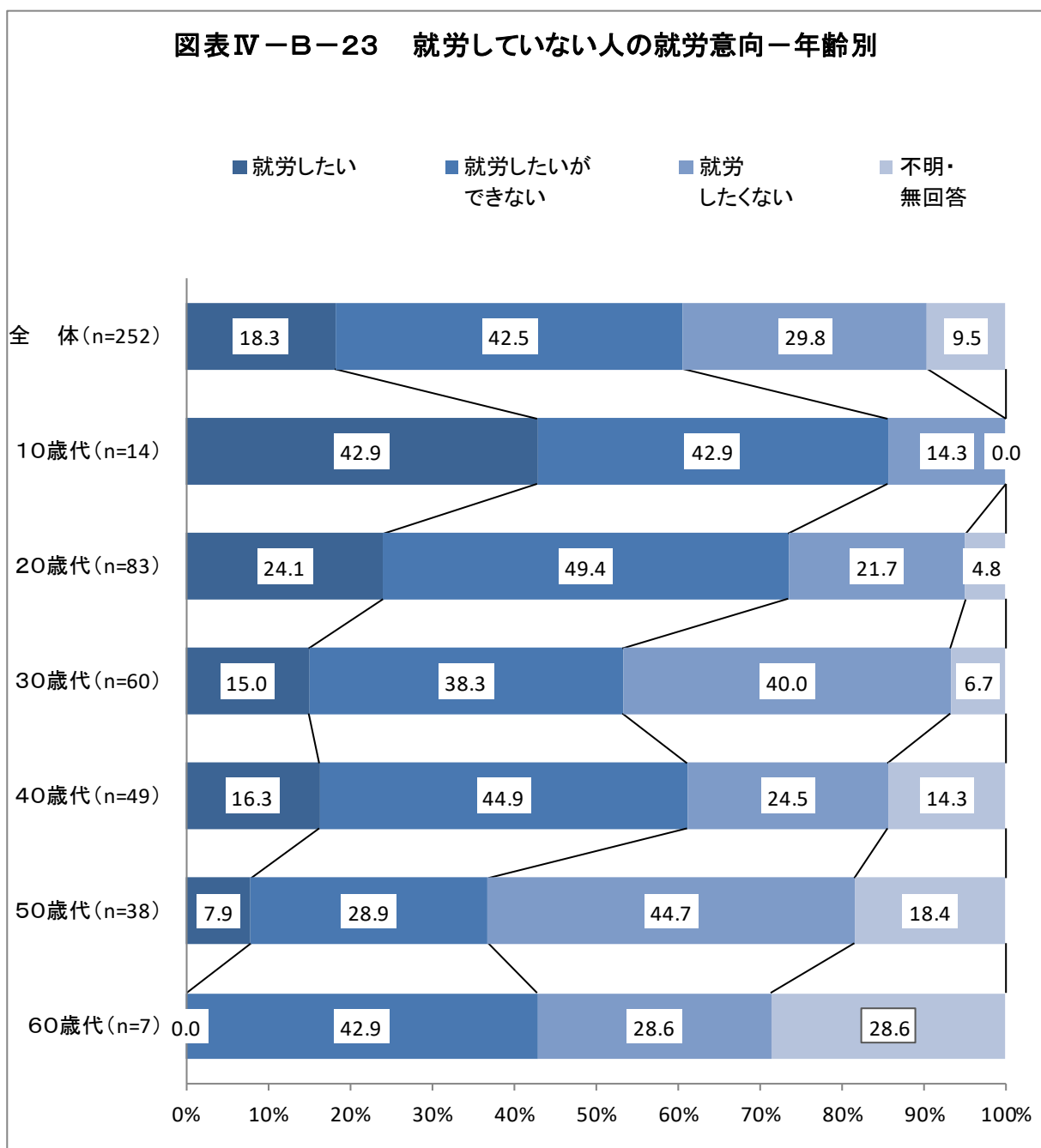


(7) 就労していない人の就労意向 (問22)

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。

「就労したいができない」は、42.5%、「就労したくない」は、29.8%、「就労したい」は、18.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労したいができない」は、20歳代が49.4%、次に40歳代が44.9%である。「就労したくない」は、50歳代が44.7%、次に30歳代が40.0%である。「就労したい」は、10歳代が42.9%、次に20歳代が24.1%である。





(8) 就労したい人の希望職種 (問23)

問22で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

「生産工程」は、45.7%、「その他」は、26.1%、「サービス業」は、13.0%、「営業、販売」は、8.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答（その他以外）を見てみると、「生産工程」は、50歳代が100.0%、次に20歳代と40歳代が50.0%である。「サービス業」は、10歳代が33.3%、次に20歳代が15.0%である。「営業、販売」は、30歳代が22.2%、次に20歳代が10.0%である。

図表IV-B-24 就労したい人の希望職種一年齢別

		農業、林業、漁業	一般事務	営業、販売	医療関係	専門的、技術的職業	サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場の管理人、警備員、清掃業など）	生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	その他	不明・無回答	合計
全 体 (n=46)		4.3	0.0	8.7	0.0	2.2	13.0	45.7	26.1	0.0	100.0
年 齢	10歳代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	50.0	0.0	100.0
	20歳代 (n= 20)	5.0	0.0	10.0	0.0	0.0	15.0	50.0	20.0	0.0	100.0
	30歳代 (n= 9)	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0
	40歳代 (n= 8)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	25.0	0.0	100.0
	50歳代 (n= 3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

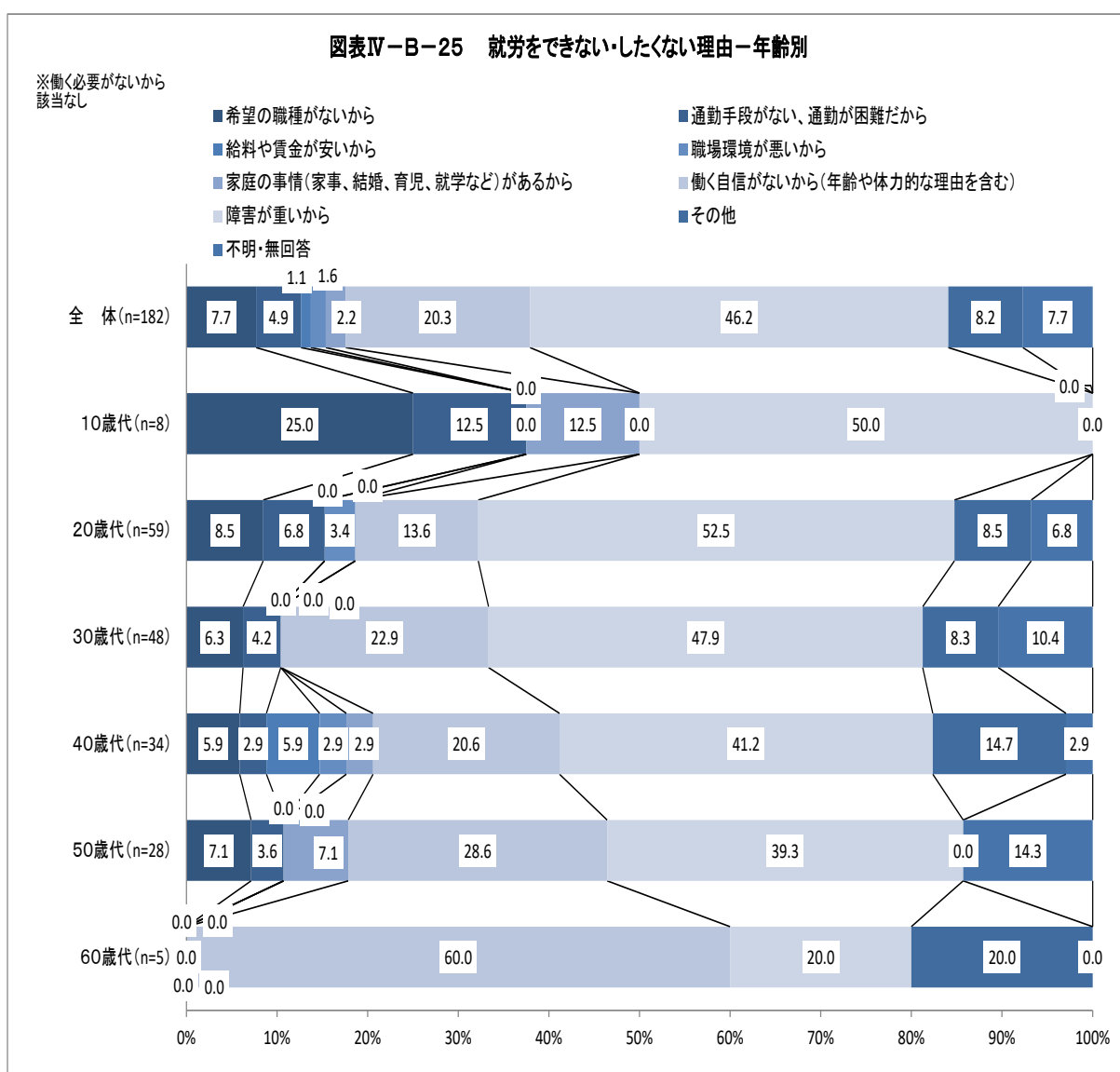
※60歳代は対象者がいない

(9) 就労できない・したくない理由 (問24)

問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「障害が重いから」は、46.2%、「働く自信がないから」は、20.3%、「希望の職種がないから」は、7.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害が重いから」は、20歳代が52.5%、次に10歳代が50.0%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「働く自信がないから」は、60歳代が60.0%、次に50歳代が28.6%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「希望の職種がないから」は、10歳代が25.0%である。

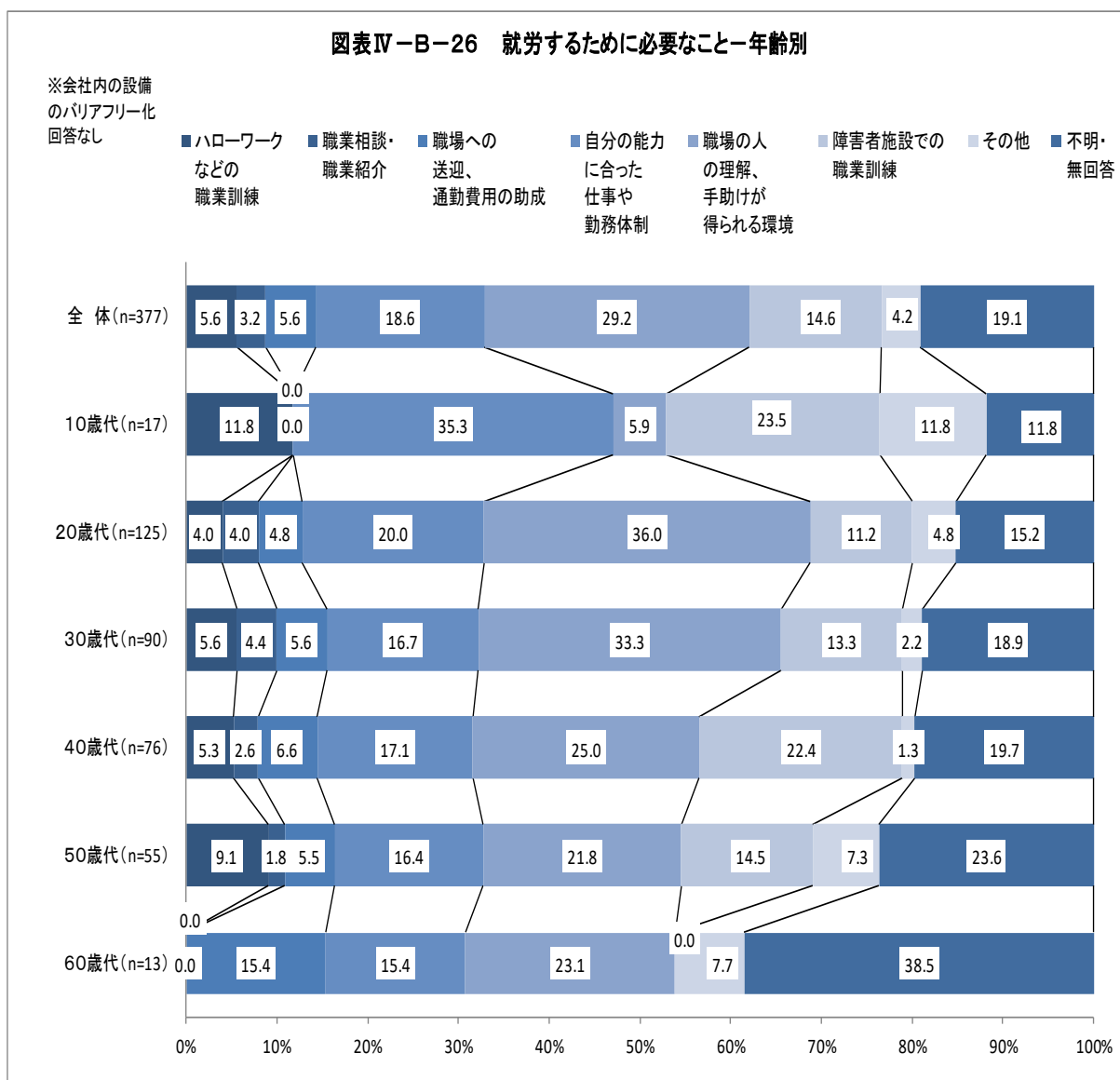


(10) 就労するために必要なこと (問25)

全員に、就労するために必要なことは何だと思うかをたずねた。

「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、29.2%、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、18.6%、「障害者施設での職業訓練」は、14.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、20歳代が36.0%、次に30歳代が33.3%である。「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、10歳代が35.3%、次に20歳代が20.0%である。「障害者施設での職業訓練」は、10歳代が23.5%、次に40歳代が22.4%である。



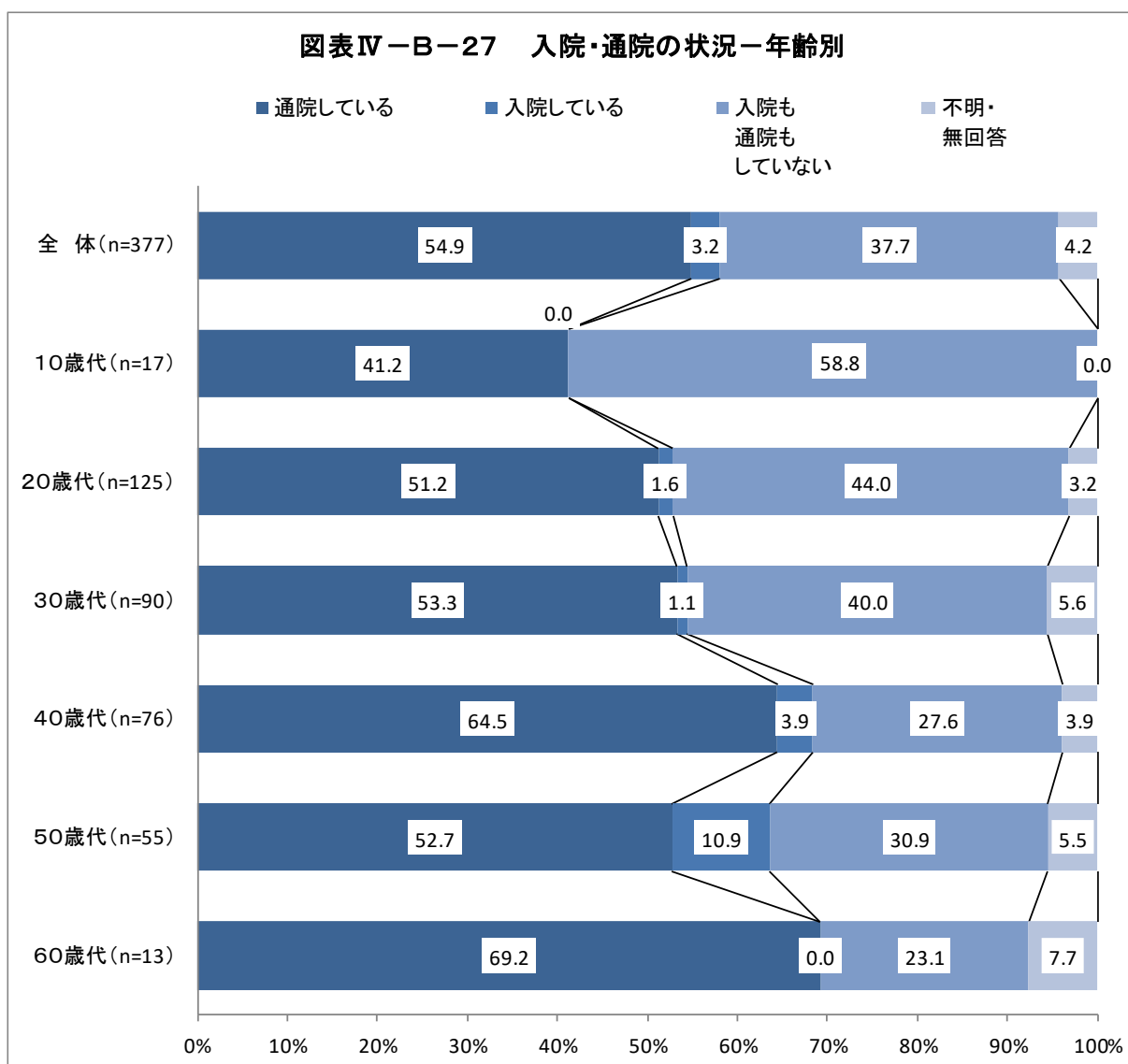
#### 4 入院・通院について

##### (1) 入院・通院の状況（問26）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、54.9%、「入院も通院もしていない」は、37.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、60歳代が69.2%、次に40歳代が64.5%である。「入院も通院もしていない」は、10歳代が58.8%、次に20歳代が44.0%である。

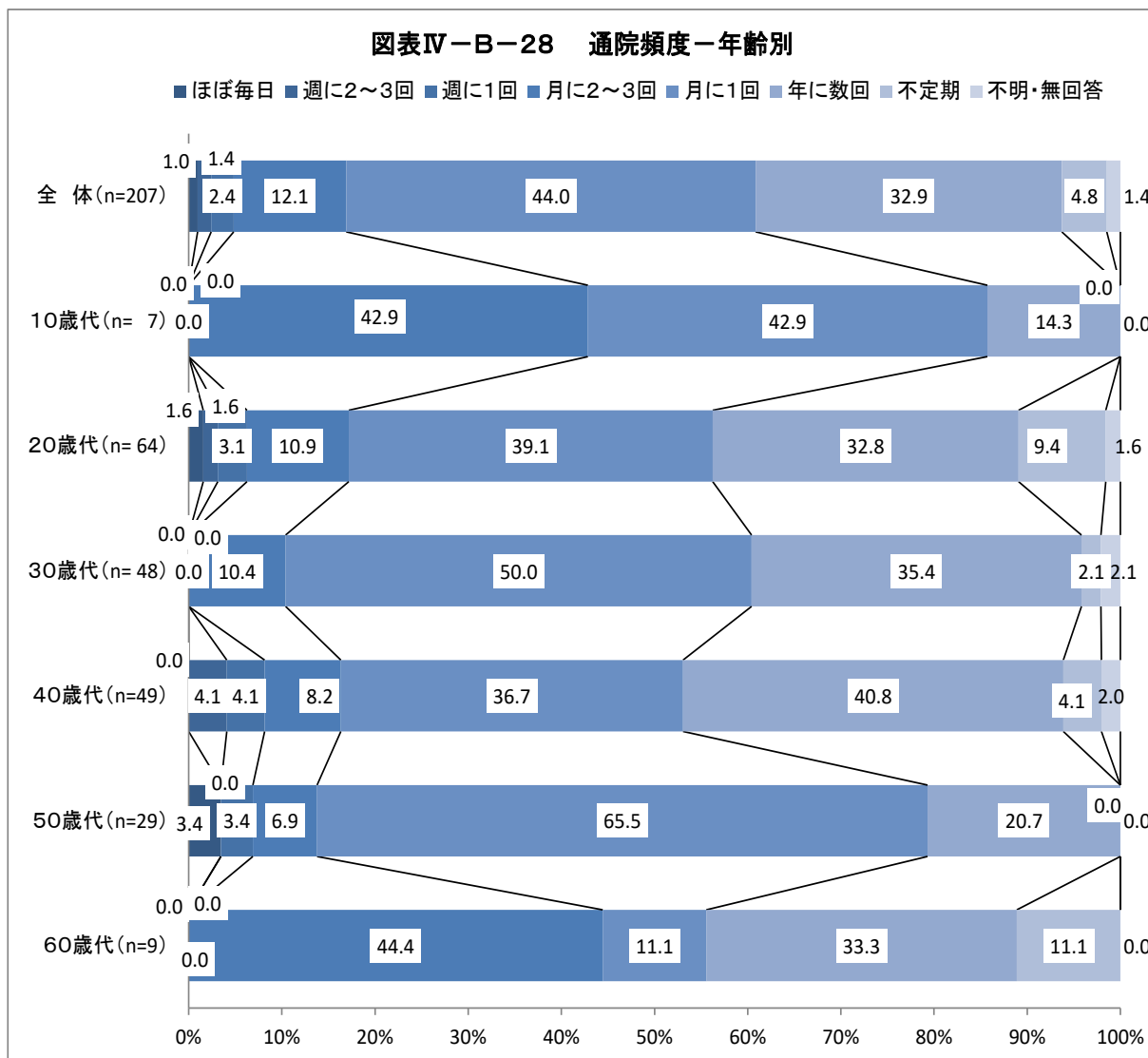


(2) 通院頻度 (問 27)

問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、44.0%、「年に数回」は、32.9%、「月に2～3回」は、12.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「月に1回」は、50歳代が65.5%、次に30歳代が50.0%である。「年に数回」は、40歳代が40.8%、次に30歳代が35.4%である。「月に2～3回」は、60歳代が44.4%、次に10歳代が42.9%である。



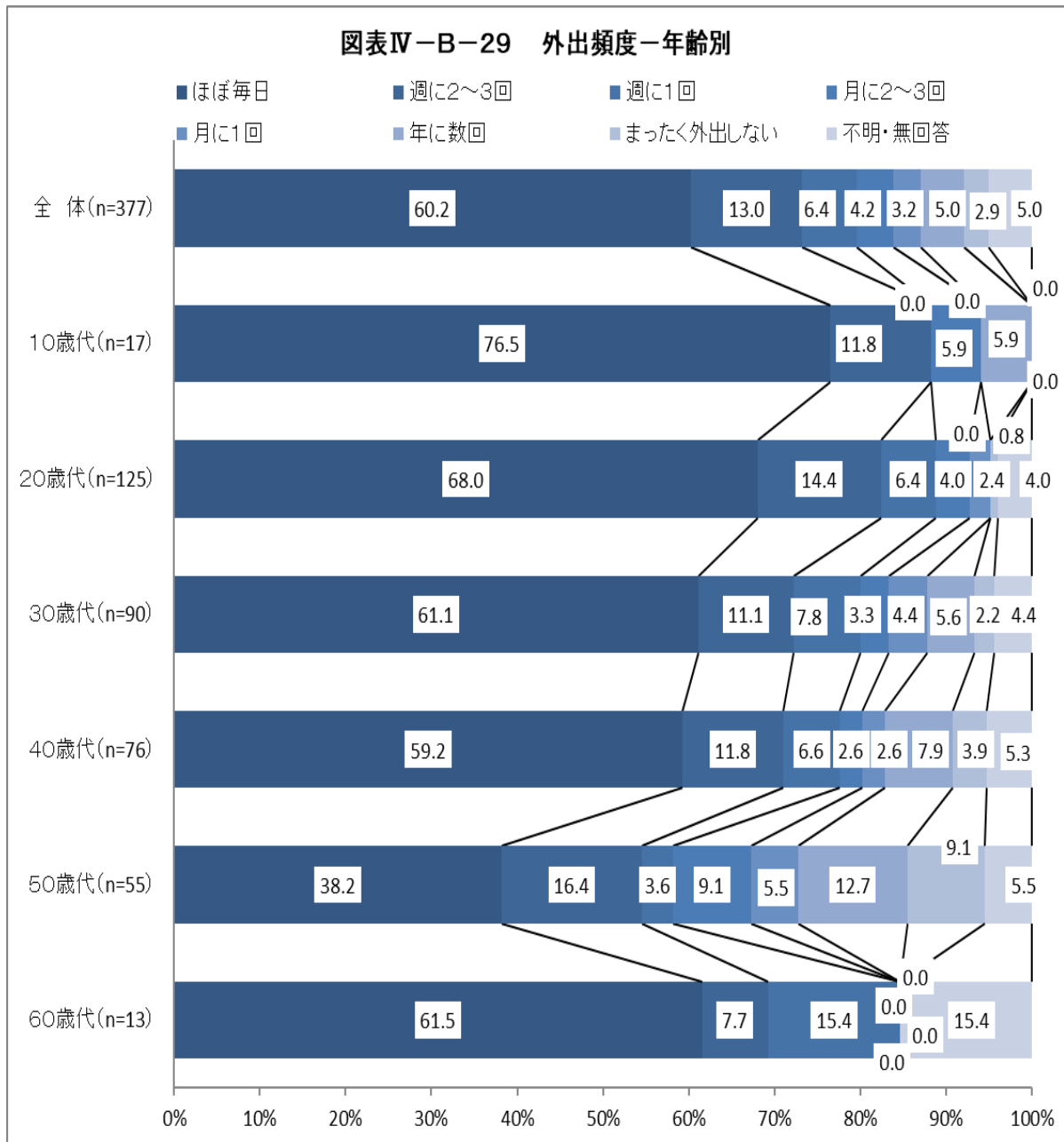
## 5 外出について

### (1) 外出頻度 (問28)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、60.2%、「週に2～3回」は、13.0%、「週に1回」は、6.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、10歳代が76.5%、次に20歳代が68.0%である。「週に2～3回」は、50歳代が16.4%、次に20歳代が14.4%である。「週に1回」は、60歳代が15.4%、次に30歳代が7.8%である。

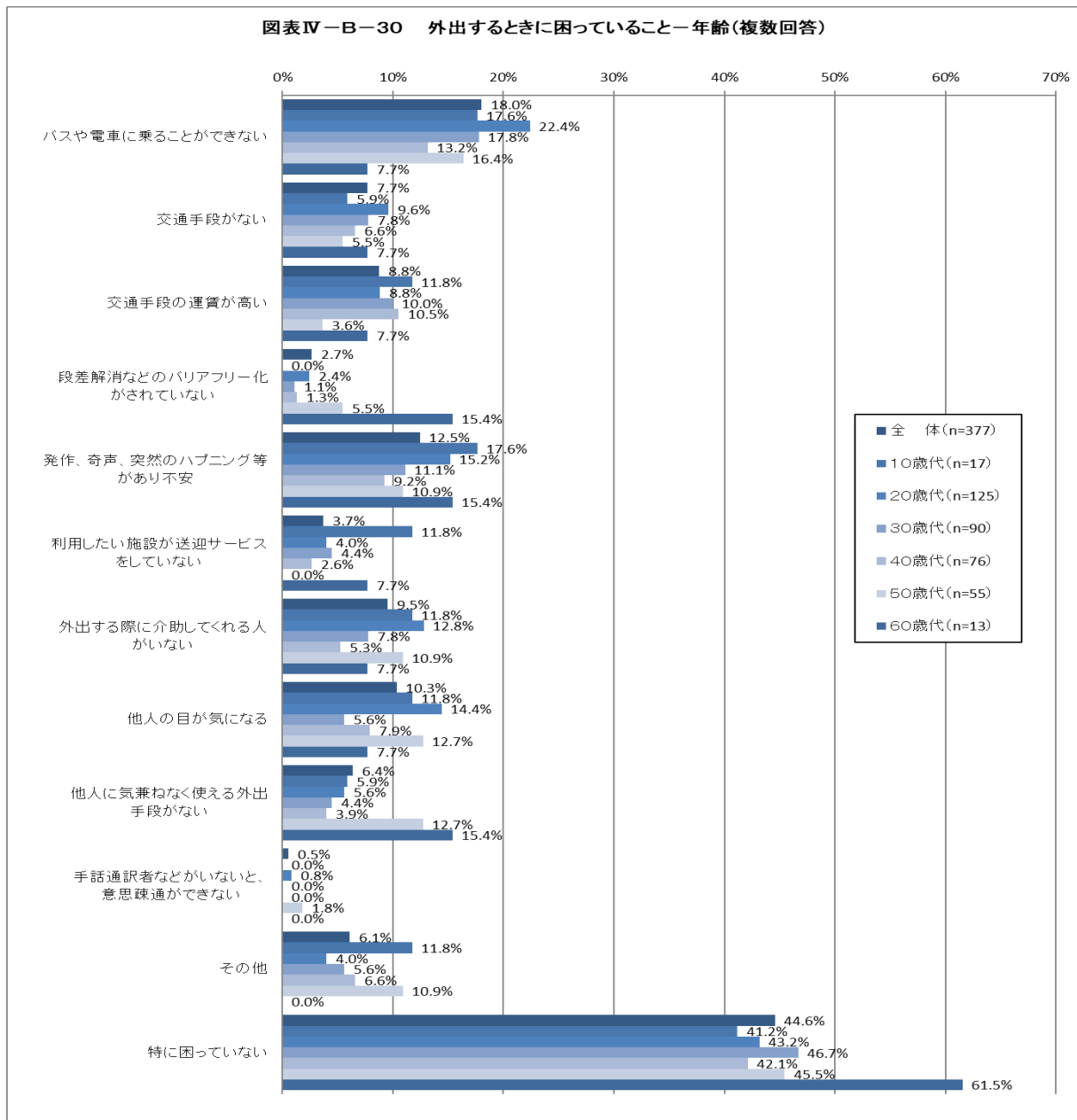


(2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、44.6%、「バスや電車に乗ることができない」は、18.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、60歳代が61.5%、次に30歳代が46.7%である。「バスや電車に乗ることができない」は、20歳代が22.4%、次に30歳代が17.8%である。「発作、奇声、突然のハプニング等」は、10歳代が17.6%、次に60歳代が15.4%である。「他人の目が気になる」は、20歳代が14.4%、次に50歳代が12.7%である。

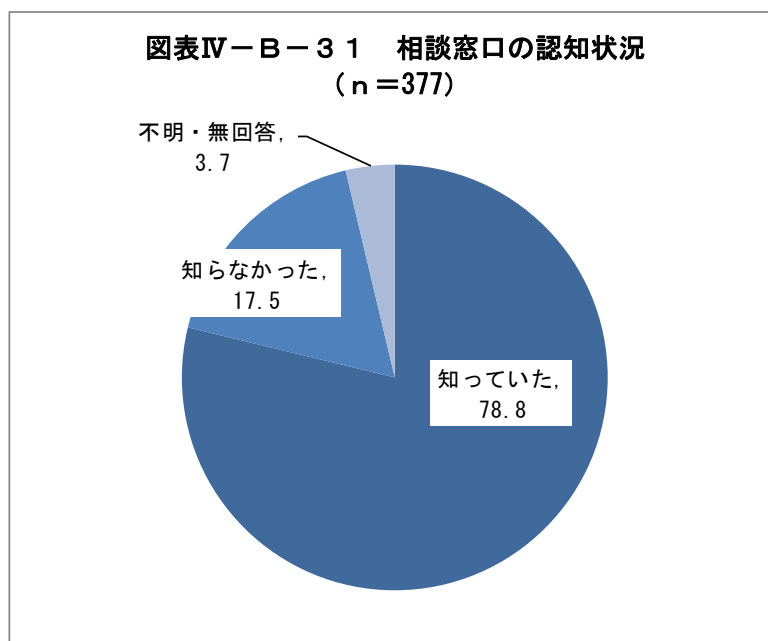


## 6 相談窓口について

### (1) 相談窓口の認知状況 (問30)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

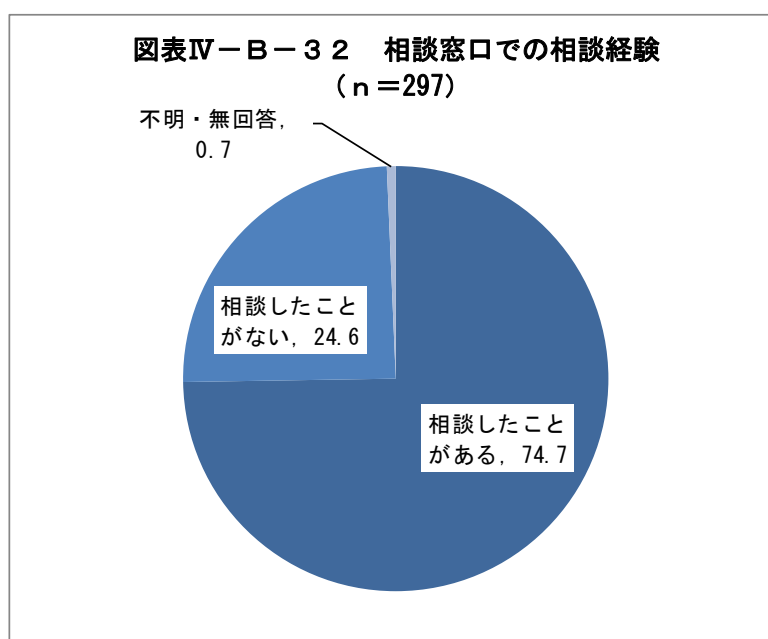
「知っていた」は、78.8%、「知らなかった」は、17.5%である。



### (2) 相談窓口での相談経験 (問31)

問30で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

「相談したことがある」は、74.7%、「相談したことがない」は、24.6%である。

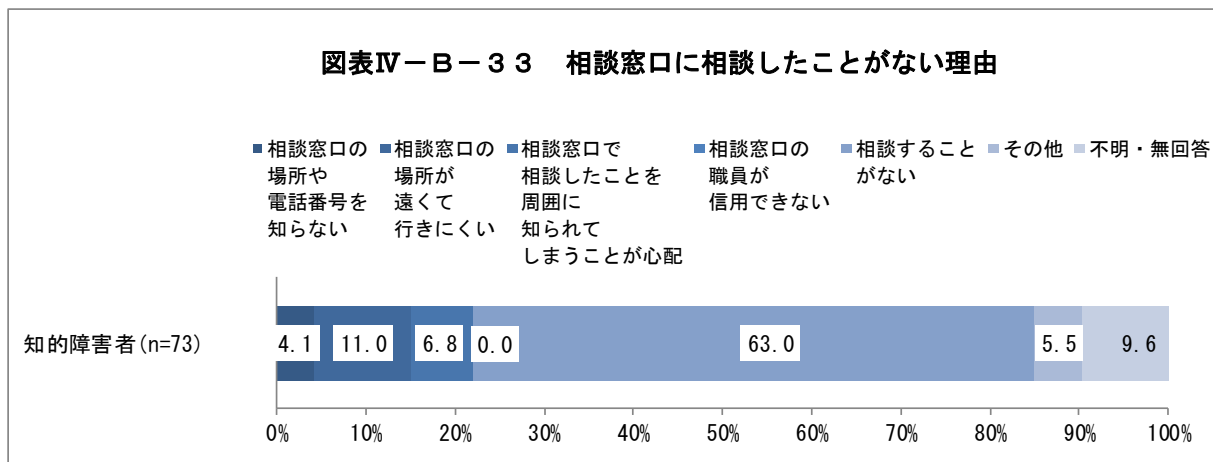




(3) 相談窓口で相談したことがない理由（問32）

問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、63.0%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、11.0%、「相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配」は、6.8%である。



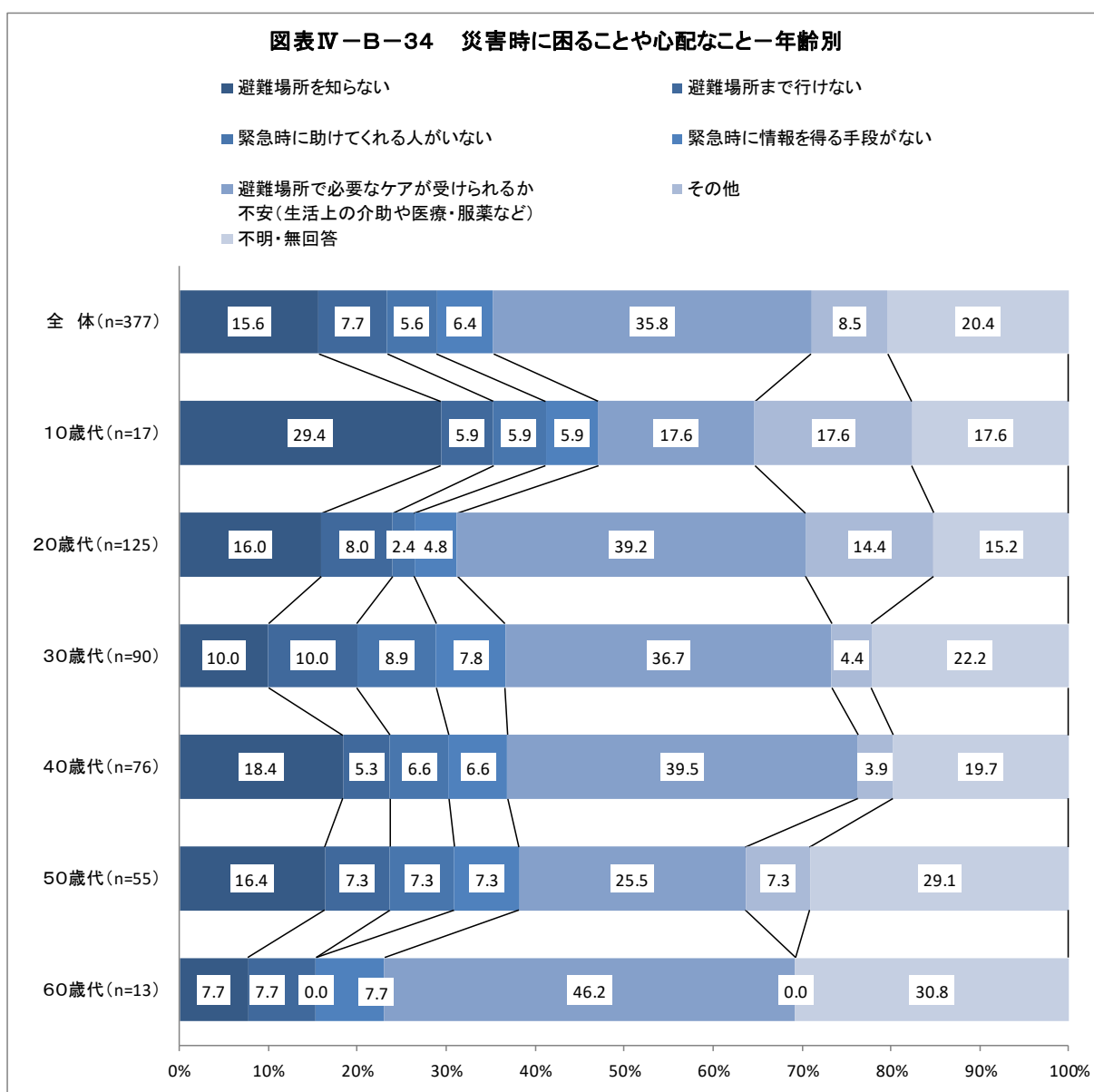
## 7 災害時について

### (1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、35.8%、「避難場所を知らない」は、15.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、60歳代が46.2%、次に40歳代が39.5%である。「避難場所を知らない」は、10歳代が29.4%、次に40歳代が18.4%である。「避難場所まで行けない」は、30歳代が10.0%である。



## 8 障害のある人への差別について

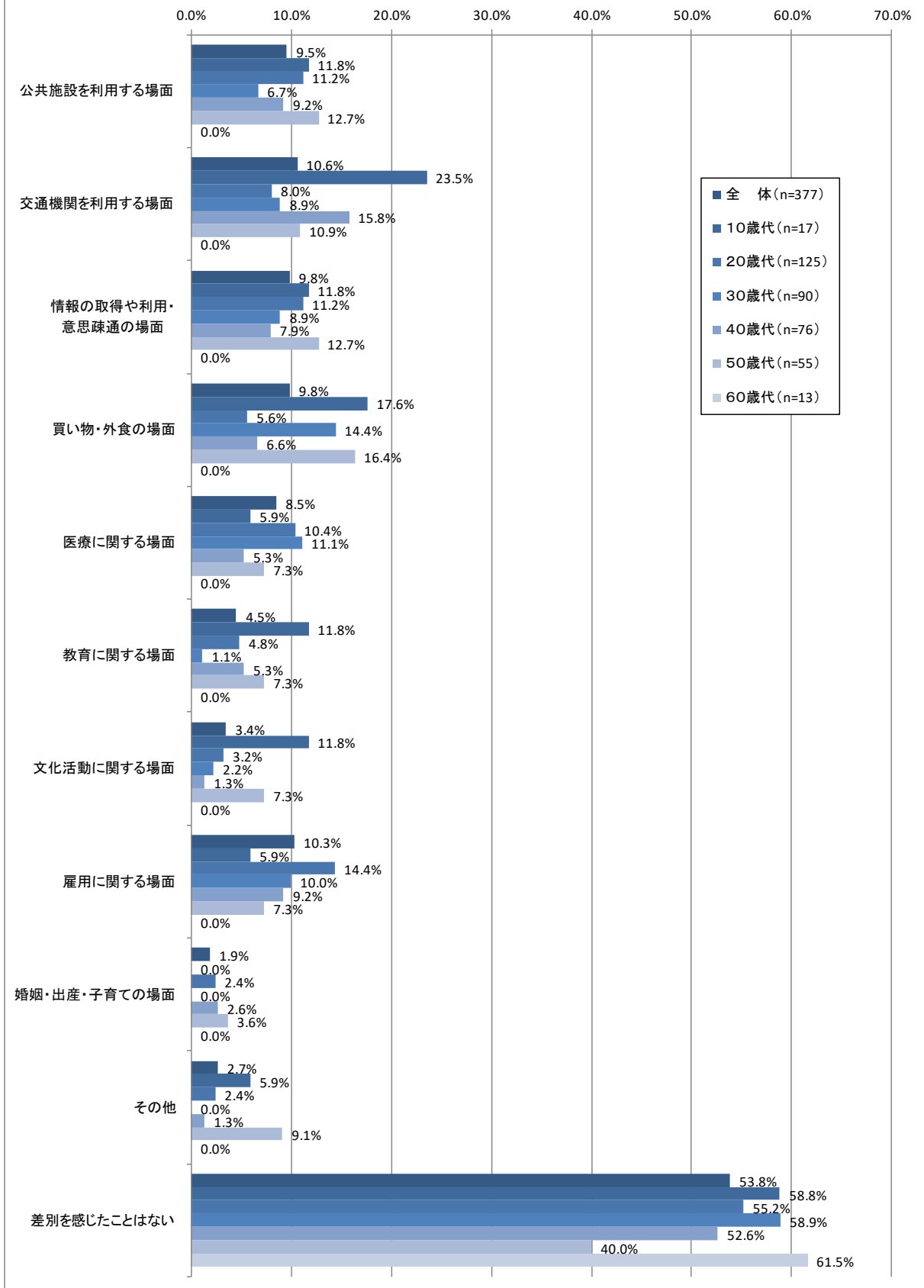
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問34）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、53.8%、「交通機関を利用する場面」は、10.6%、「雇用に関する場面」は、10.3%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、60歳代が61.5%、次に30歳代が58.9%である。「交通機関を利用する場面」は、10歳代が23.5%、次に40歳代が15.8%である。「雇用に関する場面」は、20歳代が14.4%、次に30歳代が10.0%である。「買い物・外食の場面」は、10歳代が17.6%、次に50歳代が16.4%である。

図表Ⅳ－B－35 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

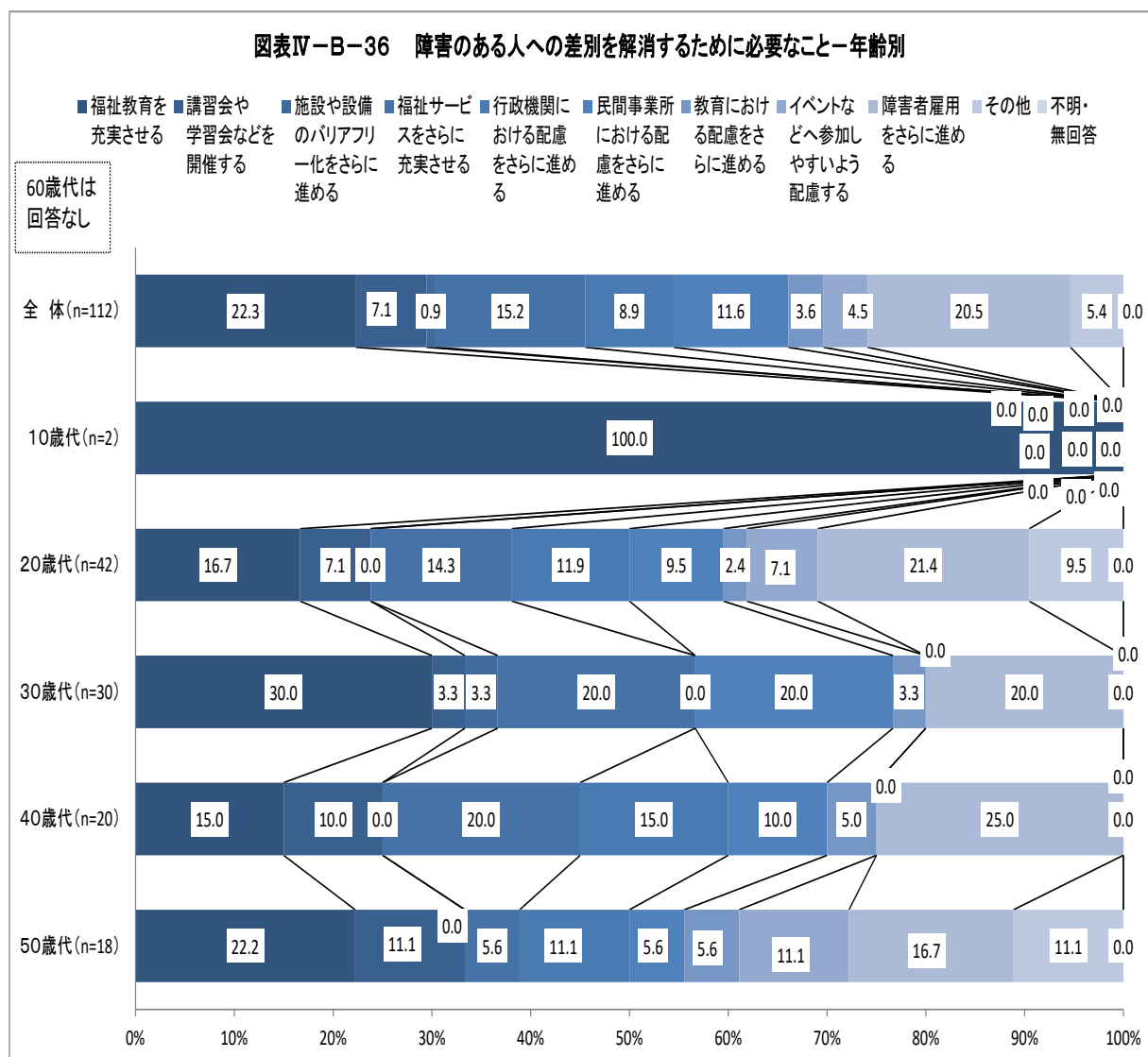


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問35)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉教育を充実させる」は、22.3%、「障害者雇用をさらに進める」は、20.5%、「福祉サービスをさらに充実させる」は、15.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉教育を充実させる」は、10歳代が100.0%、次に30歳代が30.0%である。「障害者雇用をさらに進める」は、40歳代が25.0%、次に20歳代が21.4%である。「福祉サービスをさらに充実させる」は、30歳代と40歳代がともに20.0%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、40歳代が15.0%である。



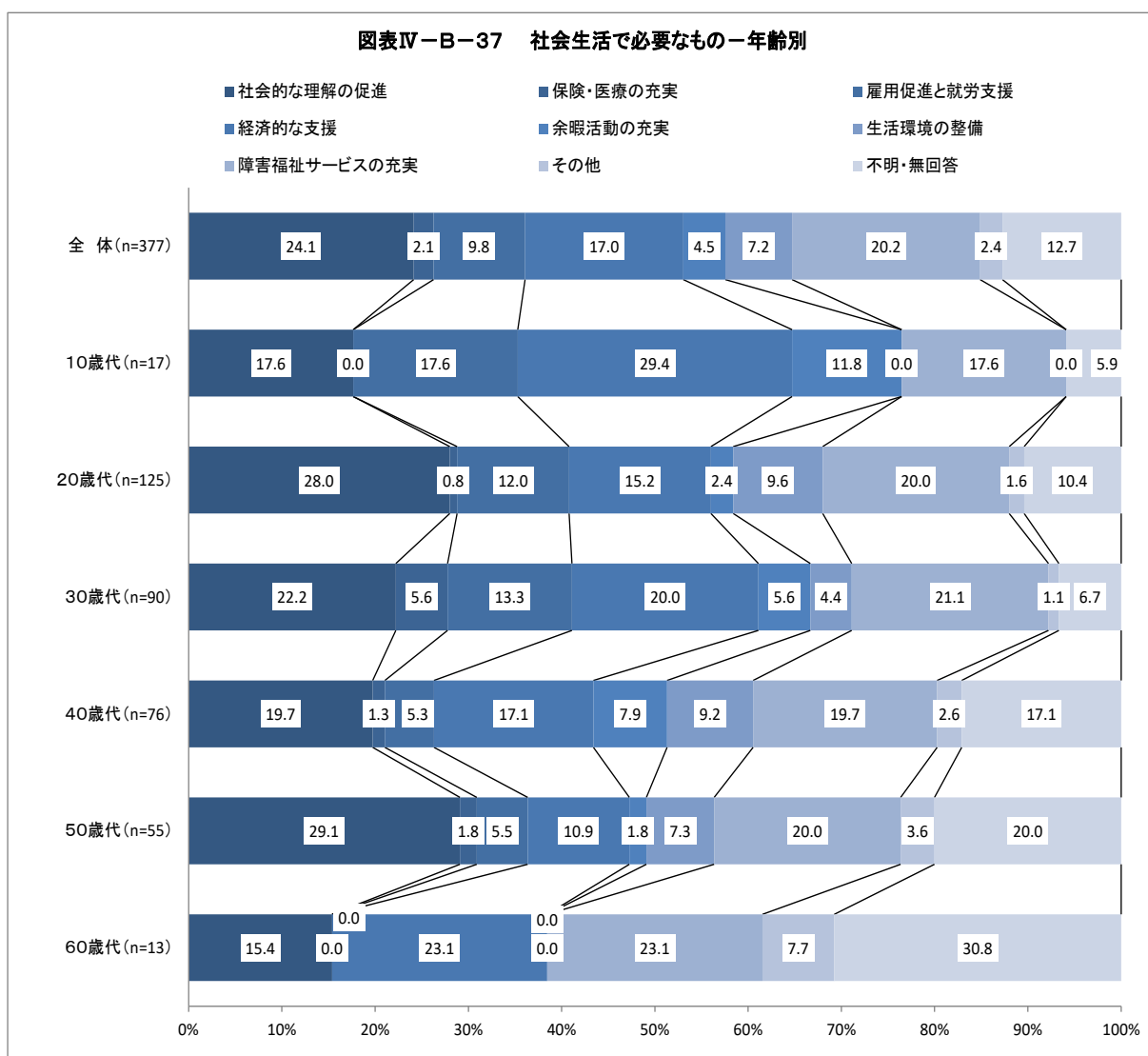
## 9 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問36）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「社会的な理解の促進」は、24.1%、「障害福祉サービスの充実」は、20.2%、「経済的な支援」は、17.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「社会的な理解の促進」は、50歳代が29.1%、次に20歳代が28.0%である。「障害福祉サービスの充実」は、60歳代が23.1%、次に30歳代が21.1%である。「経済的な支援」は、10歳代が29.4%、次に60歳代が23.1%である。



## C 精神障害者





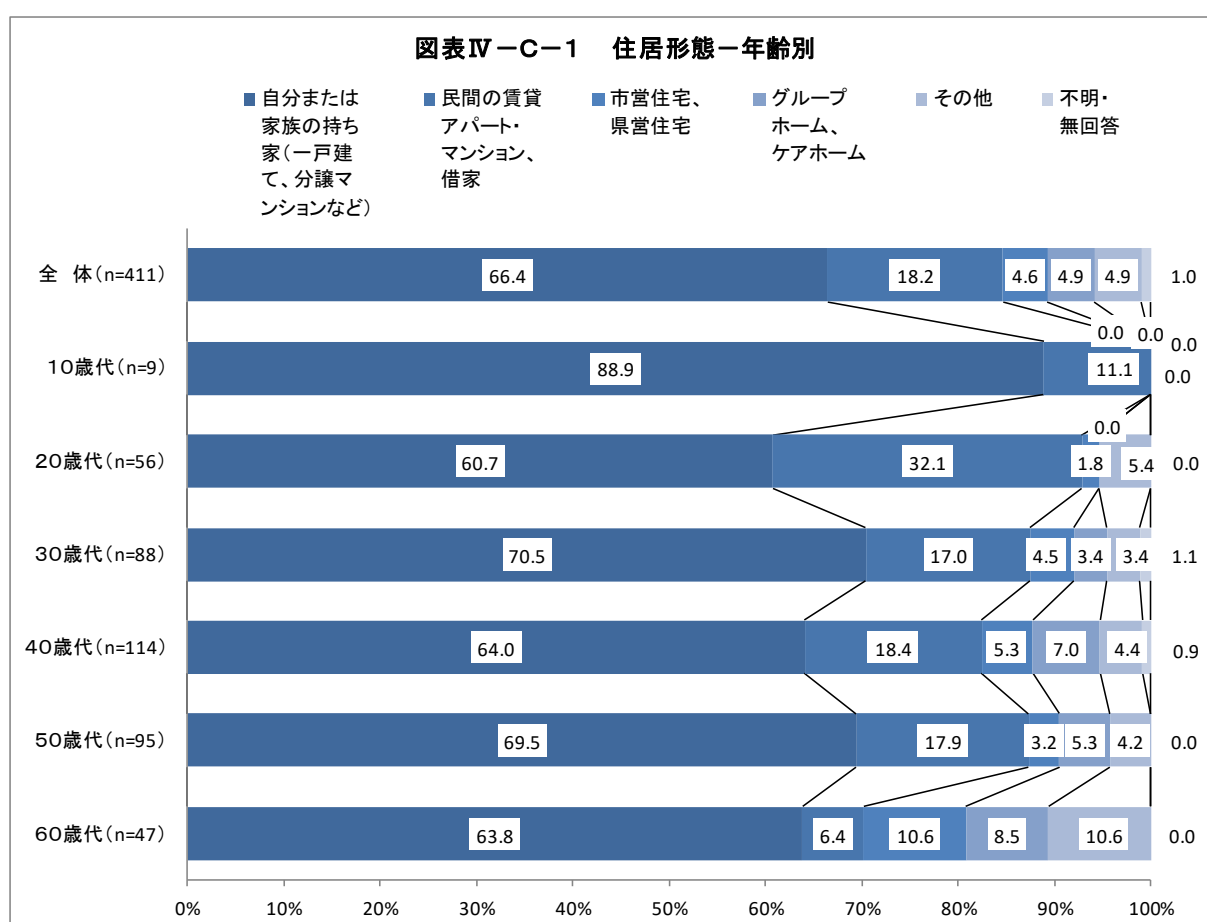
# 1 生活の場について

## (1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、66.4%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、18.2%、「グループホーム」と「その他」は、4.9%、「市営住宅、県営住宅」は、4.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、10歳代が88.9%、次に30歳代が70.5%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、20歳代が32.1%、次に40歳代が18.4%である。

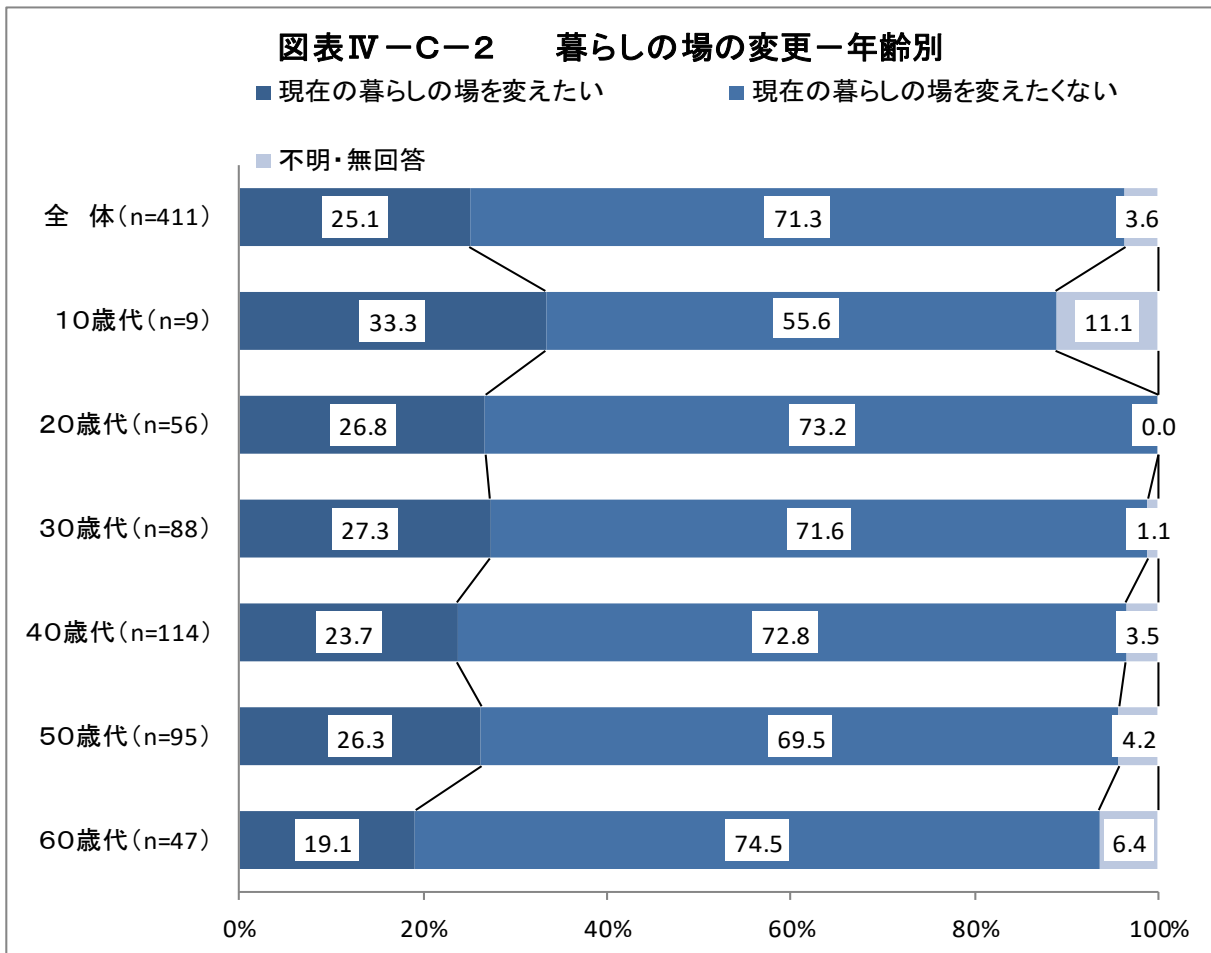


## (2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、71.3%、一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、25.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、60歳代が74.5%、次に20歳代が73.2%である。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、10歳代が33.3%、次に30歳代が27.3%である。

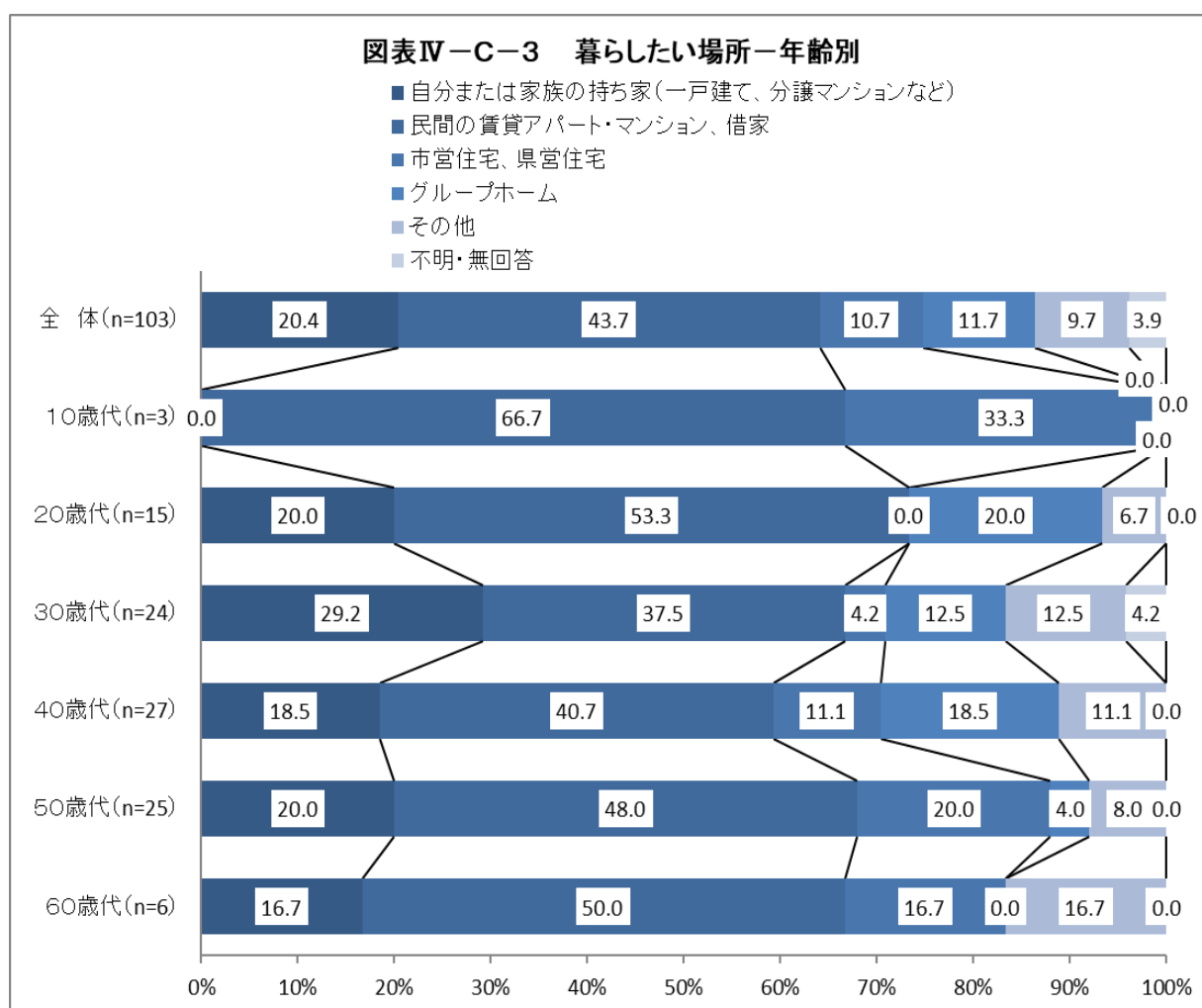


### (3) 暮らしたい場所 (問6)

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、43.7%、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、20.4%、「グループホーム」は、11.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、10歳代が66.7%、次に20歳代が53.3%である。「自分または家族の持ち家」は、30歳代が29.2%、次に20歳代と50歳代が20.0%である。「グループホーム」は、20歳代が20.0%、次に40歳代が18.5%である。

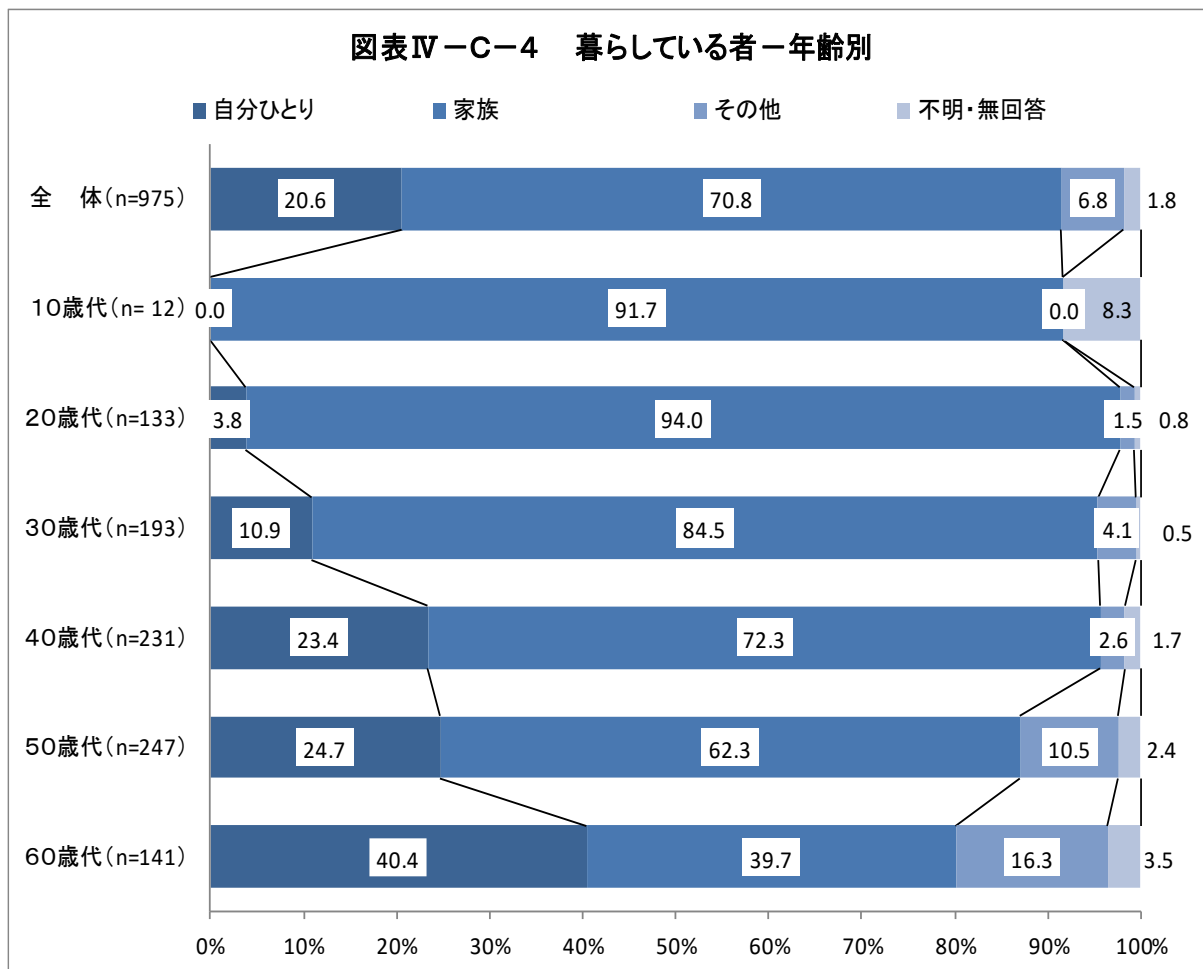


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、70.8%、「自分ひとり」は、20.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、10歳代が91.7%、次に20歳代が94.0%である。一方「自分ひとり」は、60歳代が40.4%、次に50歳代が24.7%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

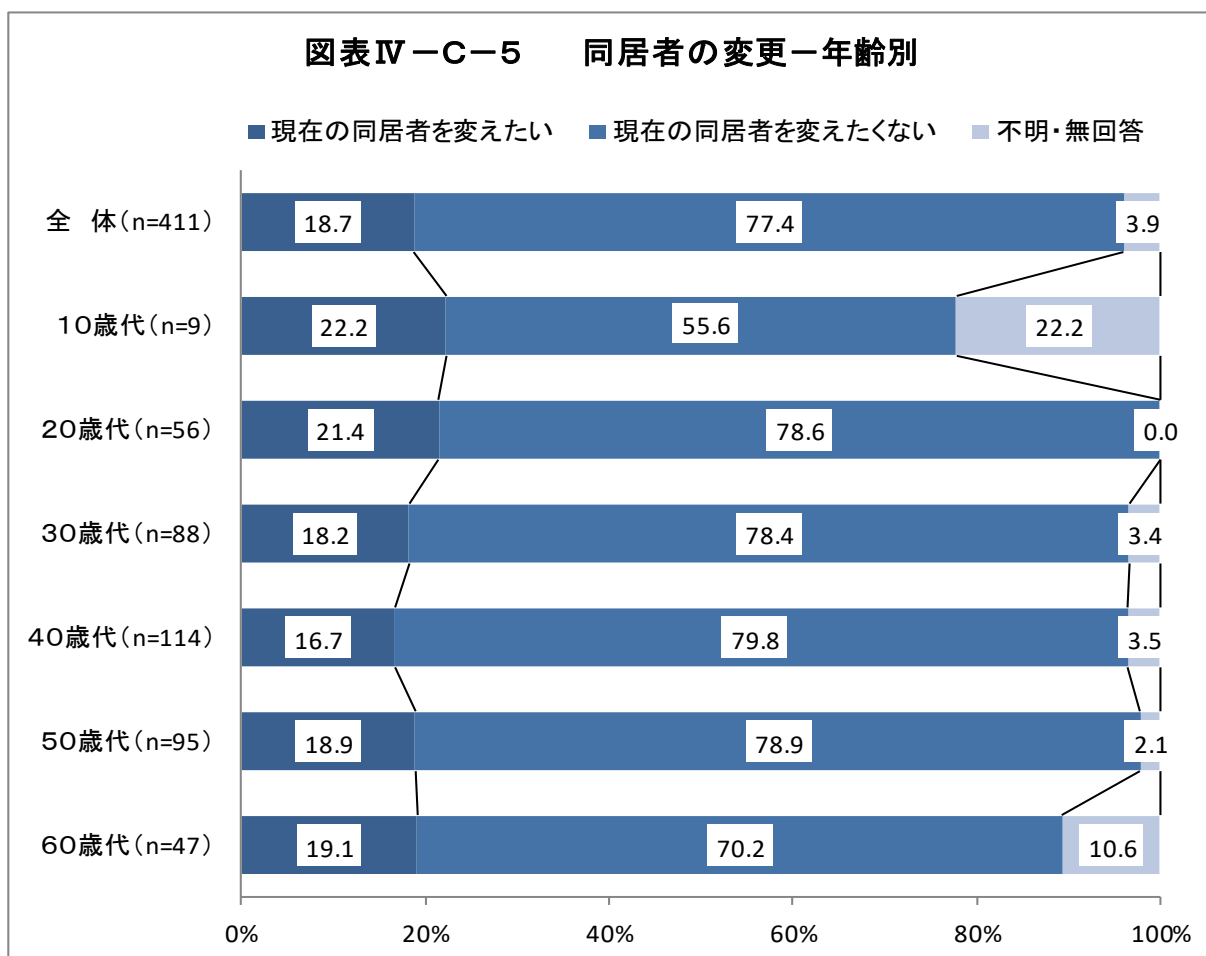


### (5) 同居者の変更 (問8)

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、77.4%、「現在の同居者を変えたい」は、18.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、40歳代が79.8%、次に50歳代が78.9%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、10歳代が22.2%、次に20歳代が21.4%である。

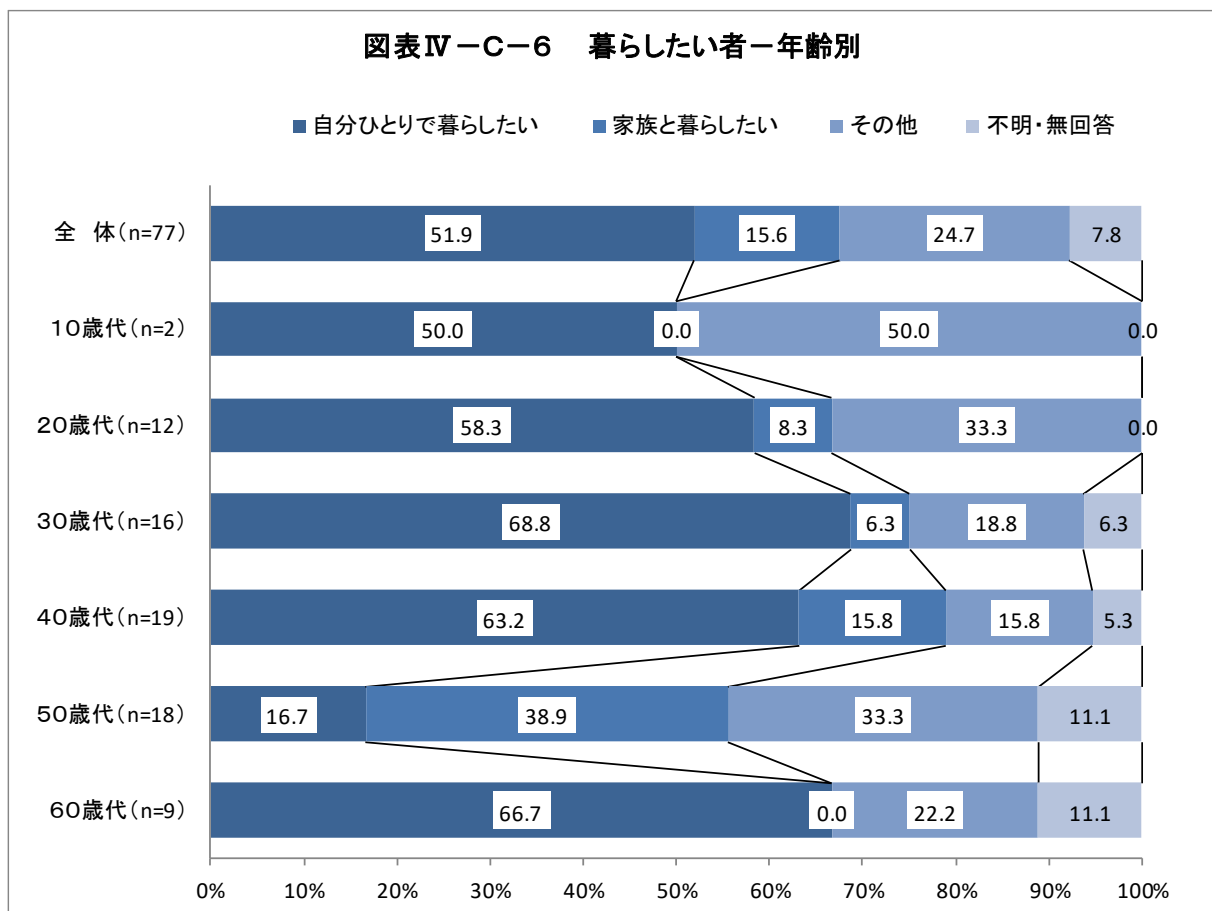


### (6) 暮らしたい者（問9）

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「自分ひとりで暮らしたい」は、51.9%、「その他」は、24.7%、「家族と暮らしたい」は、15.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分ひとりで暮らしたい」は、30歳代が68.8%、次に60歳代が66.7%である。一方「家族と暮らしたい」は、50歳代が38.9%、次に40歳代が15.8%である。

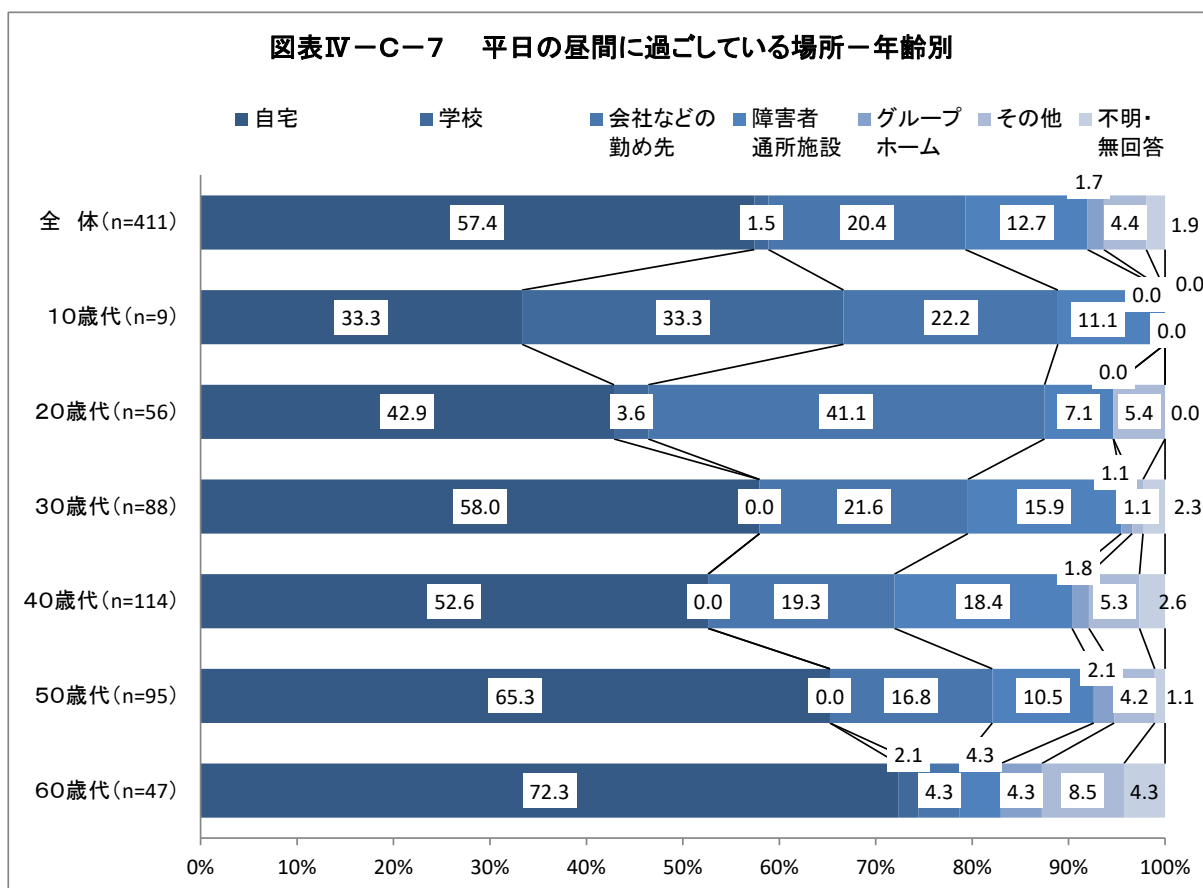


(7) 平日の昼間に過ごしている場所（問10）

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「自宅」は、57.4%、「会社などの勤め先」は、20.4%、「障害者通所施設」は、12.7%である。

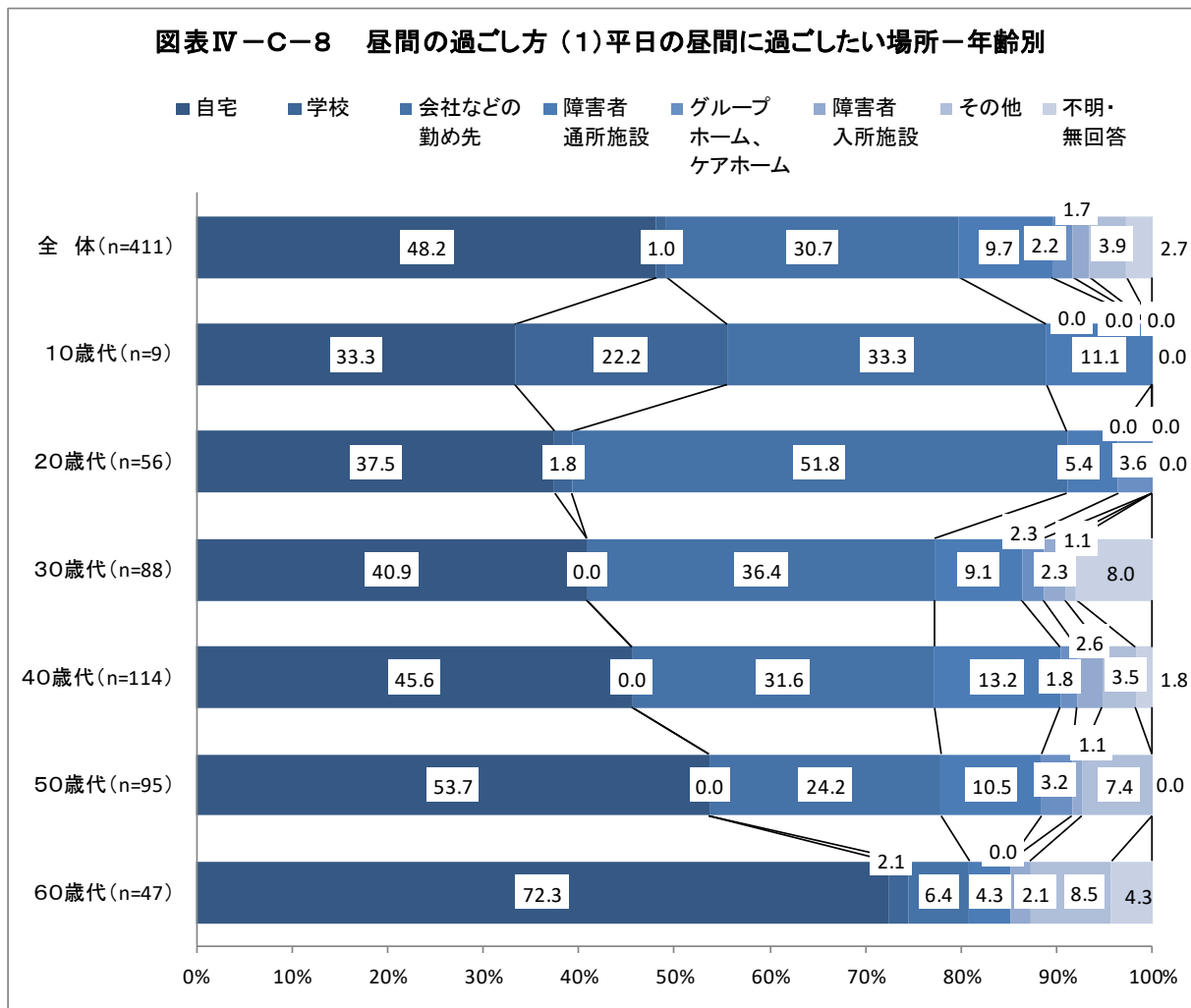
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、60歳代が72.3%、次に50歳代が65.3%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「会社などの勤め先」は、20歳代が41.1%、次に10歳代が22.2%である。「障害者通所施設」は、40歳代が18.4%、次に30歳代が15.9%である。



(8) 昼間の過ごし方－(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「自宅」は、48.2%、「会社などの勤め先」は、30.7%、「障害者通所施設」は、9.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、60歳代が72.3%、次に50歳代が53.7%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「会社などの勤め先」は、20歳代が51.8%、次に30歳代が36.4%である。「障害者通所施設」は、40歳代が13.2%、次に10歳代が11.1%である。





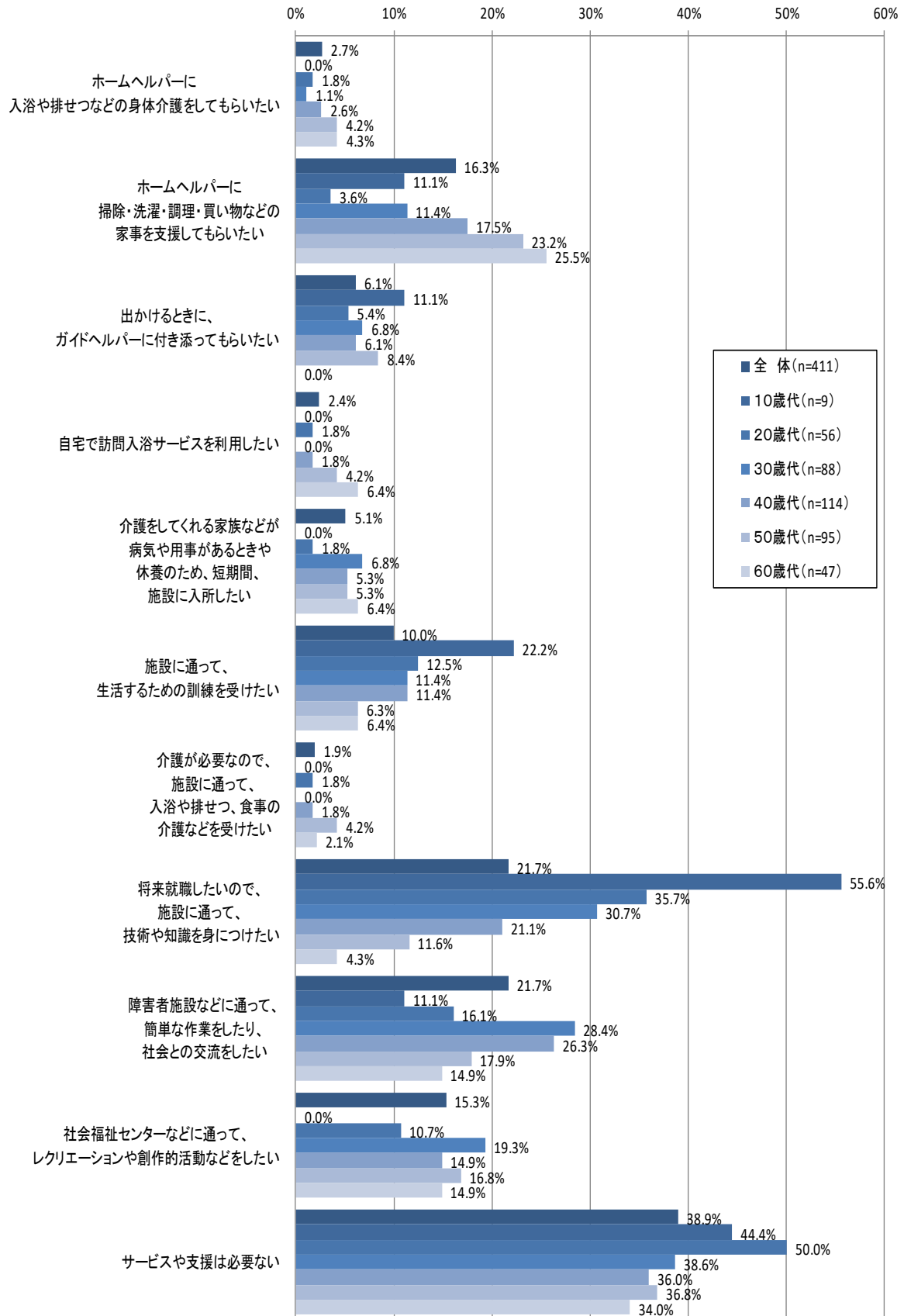
#### (8) 昼間の過ごし方-(2)昼間に利用したいサービスや支援(問11(2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、38.9%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」と「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、21.7%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、16.3%、「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしてほしい」は、15.3%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「サービスや支援は必要ない」は、20歳代が50.0%、次に10歳代が44.4%である。「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」は、10歳代が55.6%、次に20歳代が35.7%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、30歳代が28.4%、次に40歳代が26.3%である。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、60歳代が25.5%、次に50歳代が23.2%である。「社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしてほしい」は、30歳代が19.3%、次に50歳代が16.8%である。

図表Ⅳ-C-9 昼間の過ごし方(2) 昼間に利用したいサービスや支援一年齢別  
(複数回答)



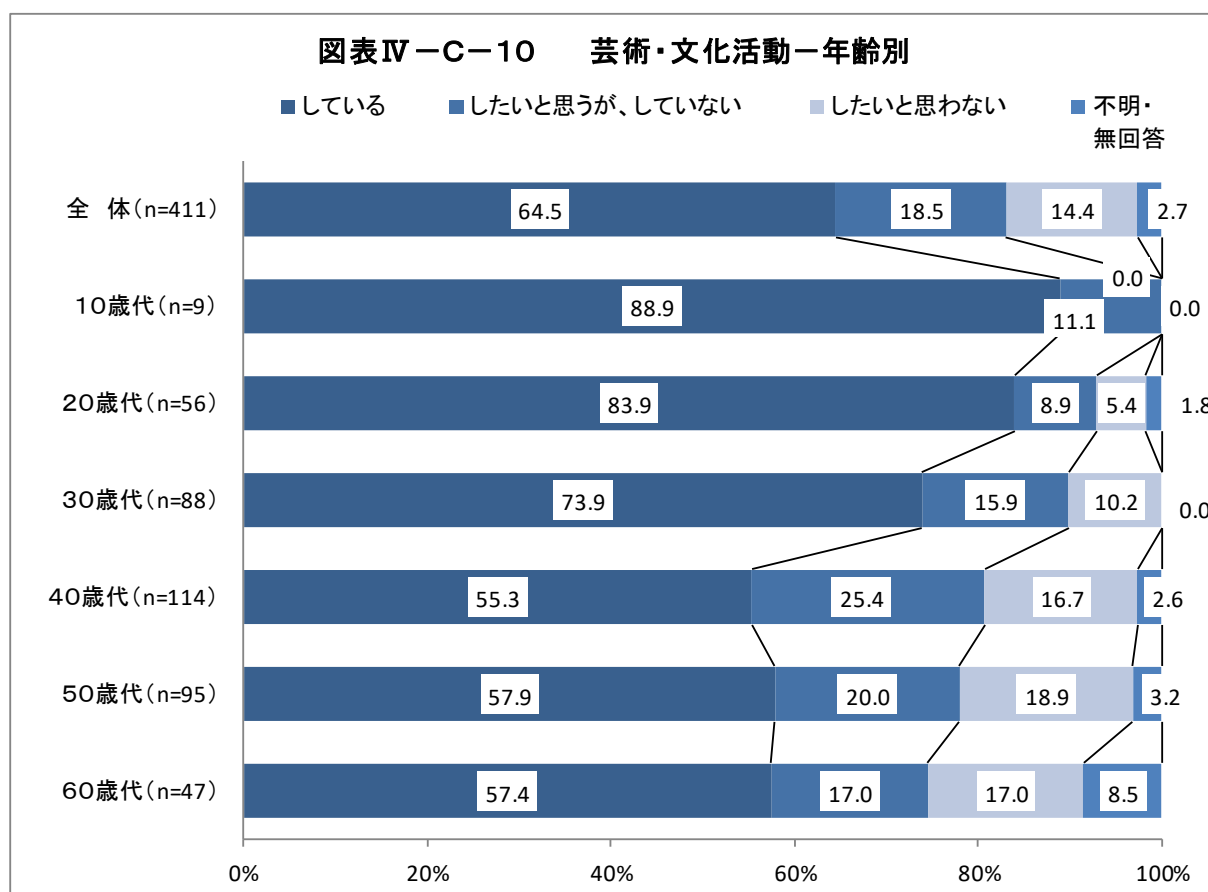
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、64.5%、「したいと思うが、していない」は、18.5%、「したいと思わない」は、14.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答をしてみると、「している」は、10歳代が88.9%、次に20歳代が83.9%である。「したいと思うが、していない」は、40歳代が25.4%、次に50歳代が20.0%である。「したいと思わない」は、50歳代が18.9%、次に60歳代が17.0%である。

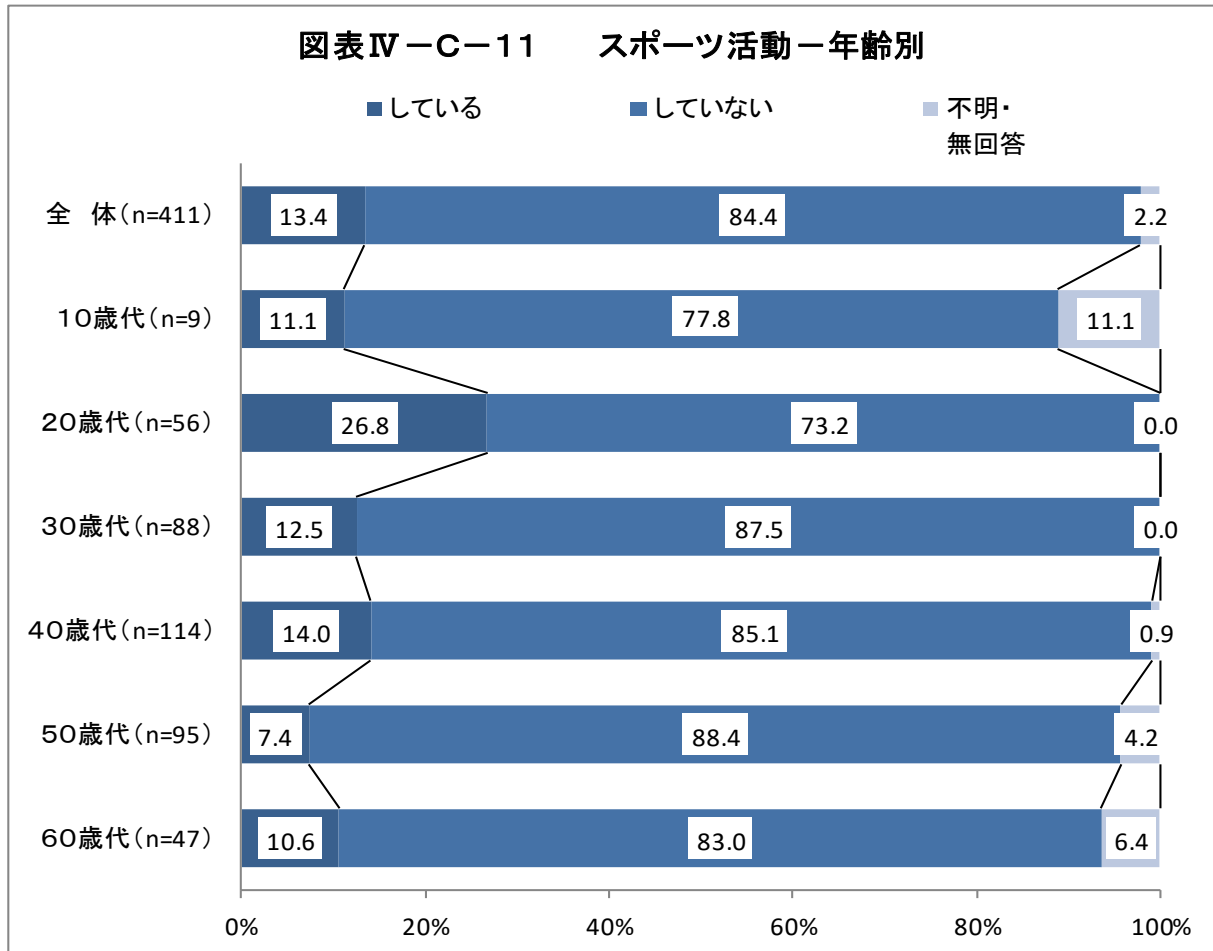


(2) スポーツ活動の実施 (問 13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、13.4%、「していない」は、84.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、20歳代が26.8%、次に40歳代が14.0%である。「していない」は、50歳代が88.4%、次に30歳代が87.5%である。

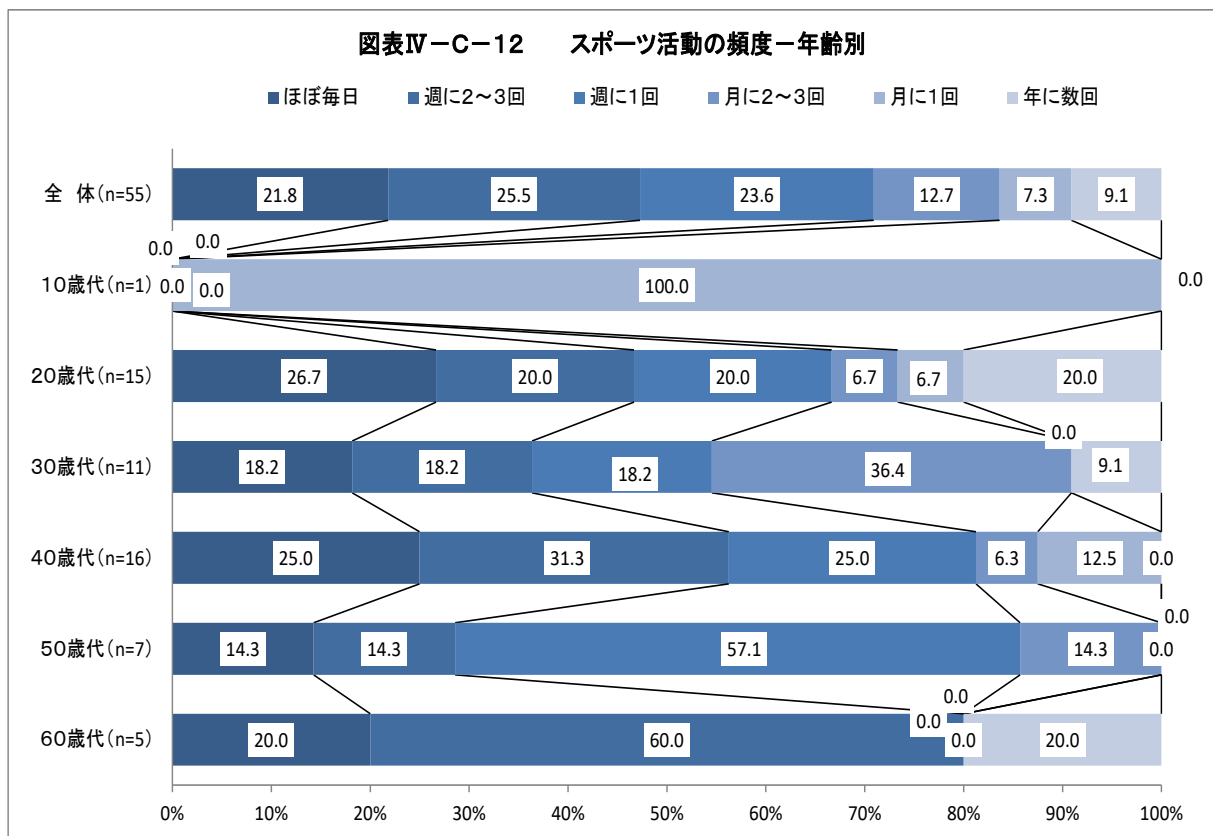


### (3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4)

問 1 3 で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「週に 2～3 回」は、25.5%、「週に 1 回」は、23.6%、「ほぼ毎日」は、21.8%、「月に 2～3 回」は、12.7%である。

**【年齢別】** 他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「週に 2～3 回」は、60 歳代が 60.0%、次に 40 歳代が 31.3%である。「週に 1 回」は、50 歳代が 57.1%、次に 40 歳代が 25.0%である。「ほぼ毎日」は、20 歳代が 26.7%、次に 40 歳代が 25.0%である。

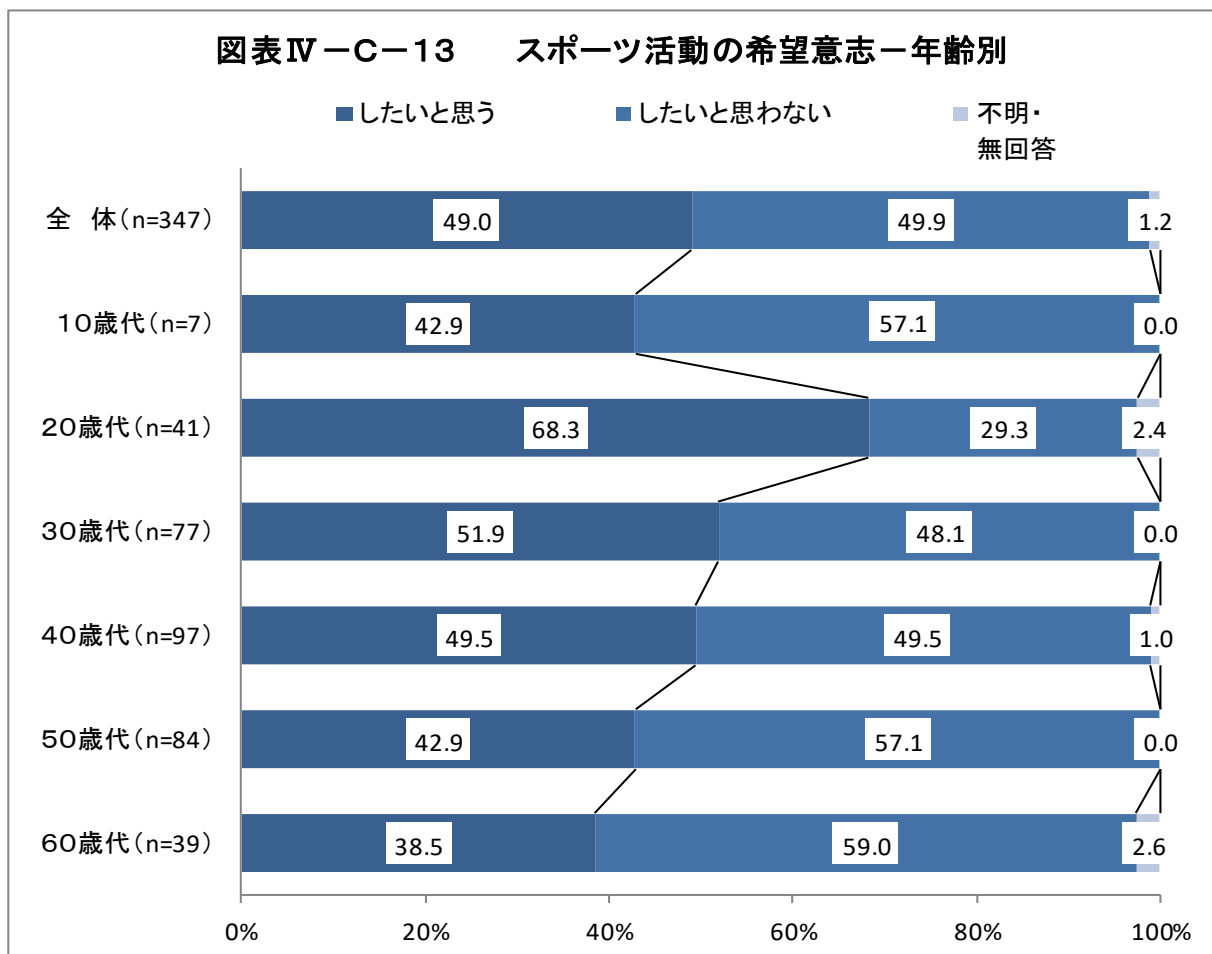


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15)

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、49.0%、「したいと思わない」は、49.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、20歳代が68.3%、次に30歳代が51.9%である。10歳代を除き、年齢が下がるごとに割合が高い。一方「したいと思わない」は、60歳代が59.0%、次に10歳代と50歳代が57.1%である。



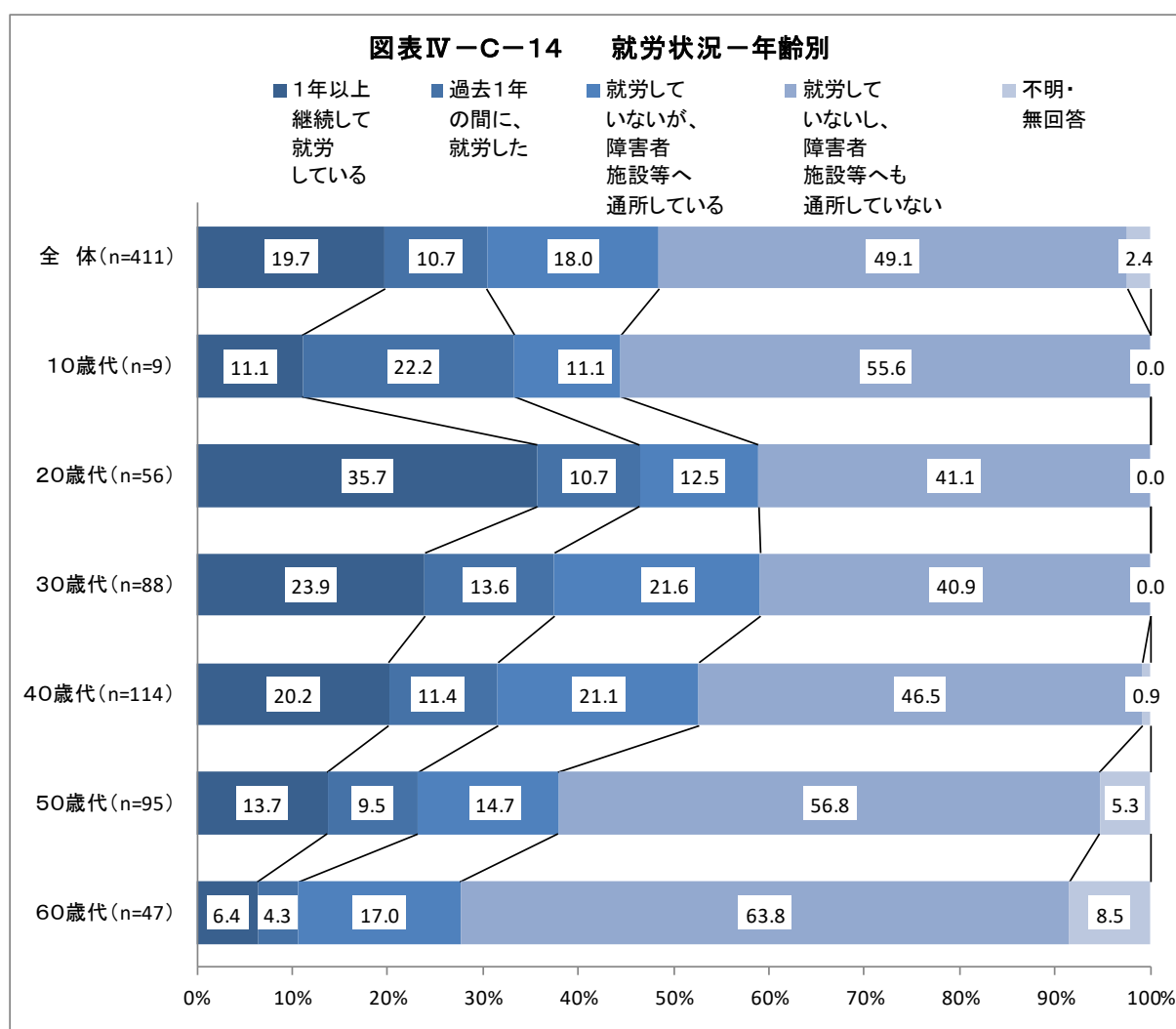
### 3 就労について

#### (1) 就労状況（問16）

現在、就労をしているかをたずねた。

「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、49.1%、「1年以上継続して就労している」は、19.7%、「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、18.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」は、60歳代が63.8%、次に10歳代が55.6%である。「1年以上継続して就労している」は、20歳代が35.7%、次に30歳代が23.9%である。「就労していないが、障害者施設等へ通所している」は、30歳代が21.6%、次に40歳代が21.1%である。



## (2) 就労継続できる理由 (問 17)

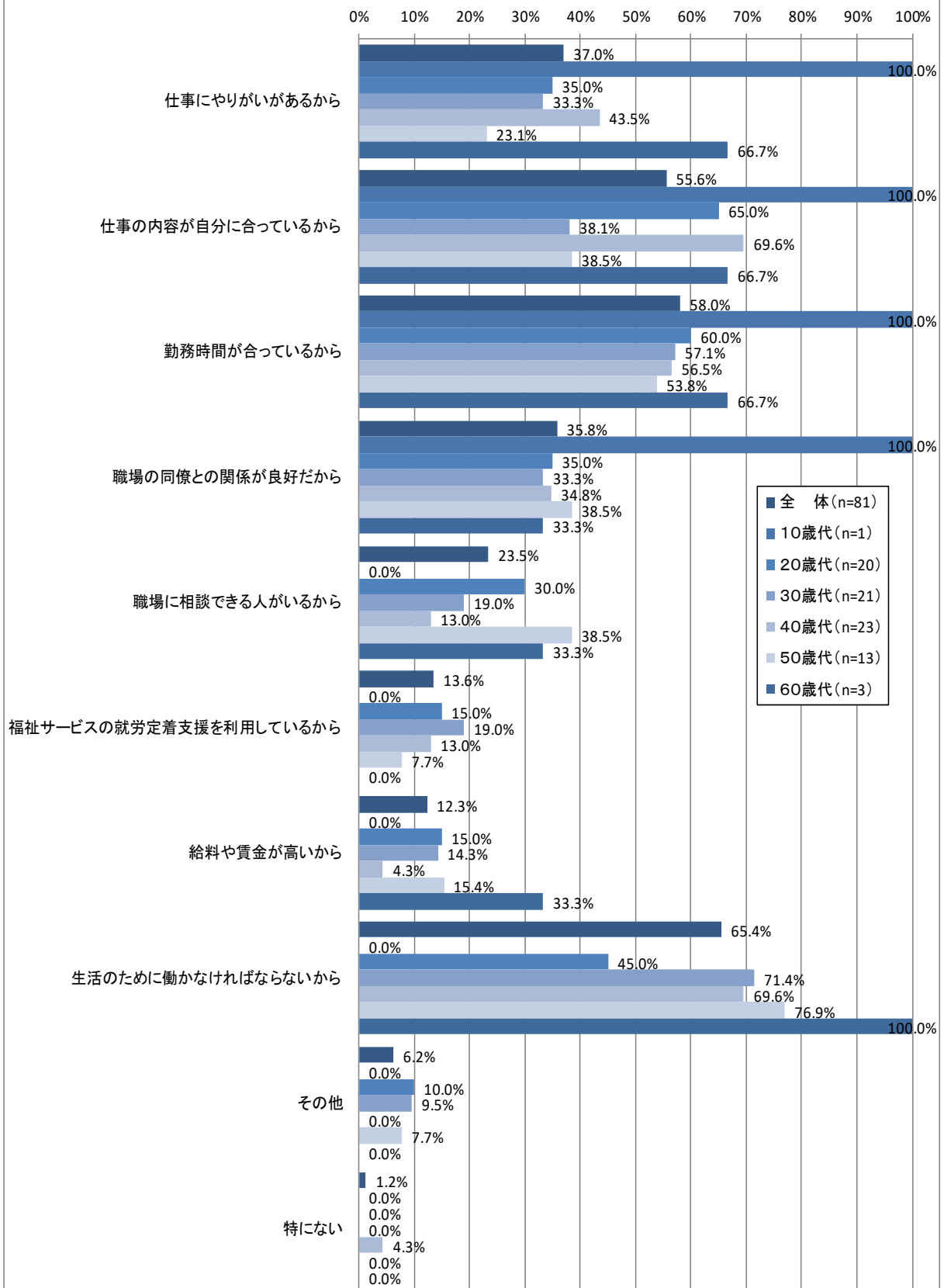
問 16 で「1 年以上継続して就労している」と回答した人に、就労し続けている、または、続けることができている理由を複数回答でたずねた。

「生活のために働かなければならないから」は、65.4%、「勤務時間が合っているから」は、58.0%、「仕事の内容が自分に合っているから」は、55.6%、「仕事にやりがいがあるから」は、37.0%、「職場の同僚との関係が良好だから」は、35.8%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活のために働かなければならないから」は、60 歳代が 100.0%、次に 50 歳代が 76.9%である。「勤務時間が合っているから」は、10 歳代が 100.0%、次に 60 歳代が 66.7%である。「仕事の内容が自分に合っているから」は、10 歳代が 100.0%、次に 40 歳代が 69.6%である。「仕事にやりがいがあるから」は、10 歳代が 100.0%、次に 60 歳代が 66.7%である。「職場の同僚との関係が良好だから」は、10 歳代が 100.0%、次に 50 歳代が 38.5%である。



図表Ⅳ-C-15 就労継続できる理由—年齢別(複数回答)

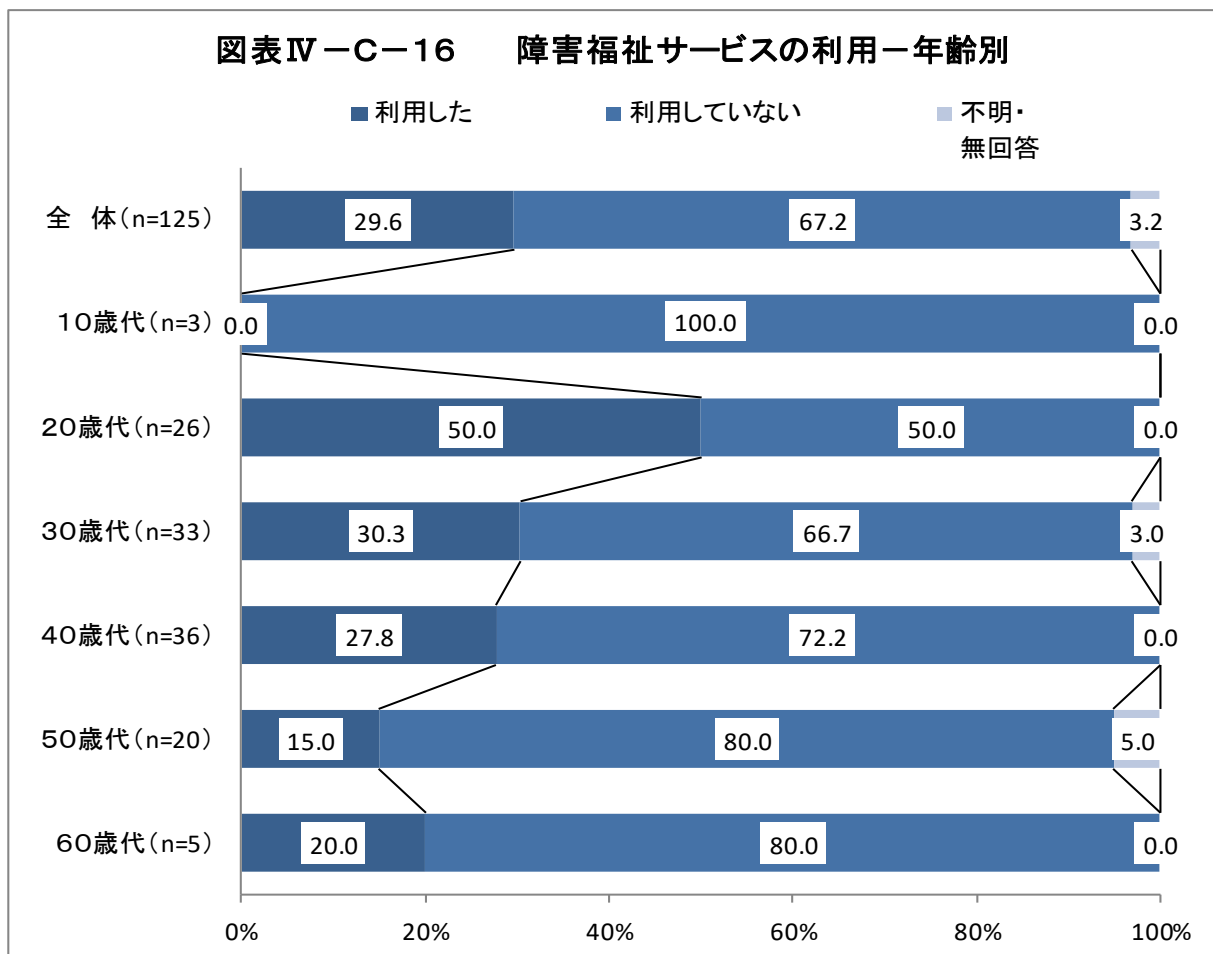


(3) 障害福祉サービスの利用（問18）

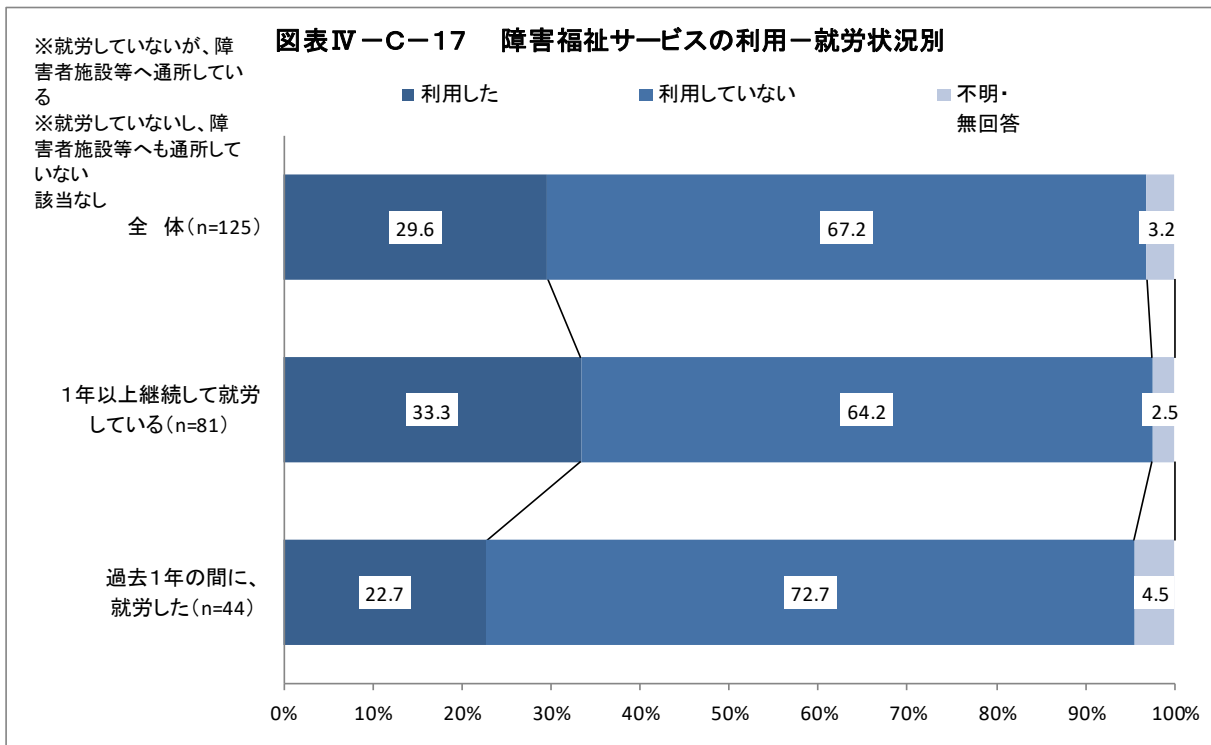
問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」回答した人に、就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用した」は、29.6%、「利用していない」は、67.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用した」は、20歳代が50.0%、次に30歳代が30.3%である。「利用していない」は、10歳代が100.0%、次に50歳代と60歳代が80.0%である。



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用していない」は、「過去1年の間に、就労した」が72.7%、次に「1年以上継続して就労している」が64.2%である。

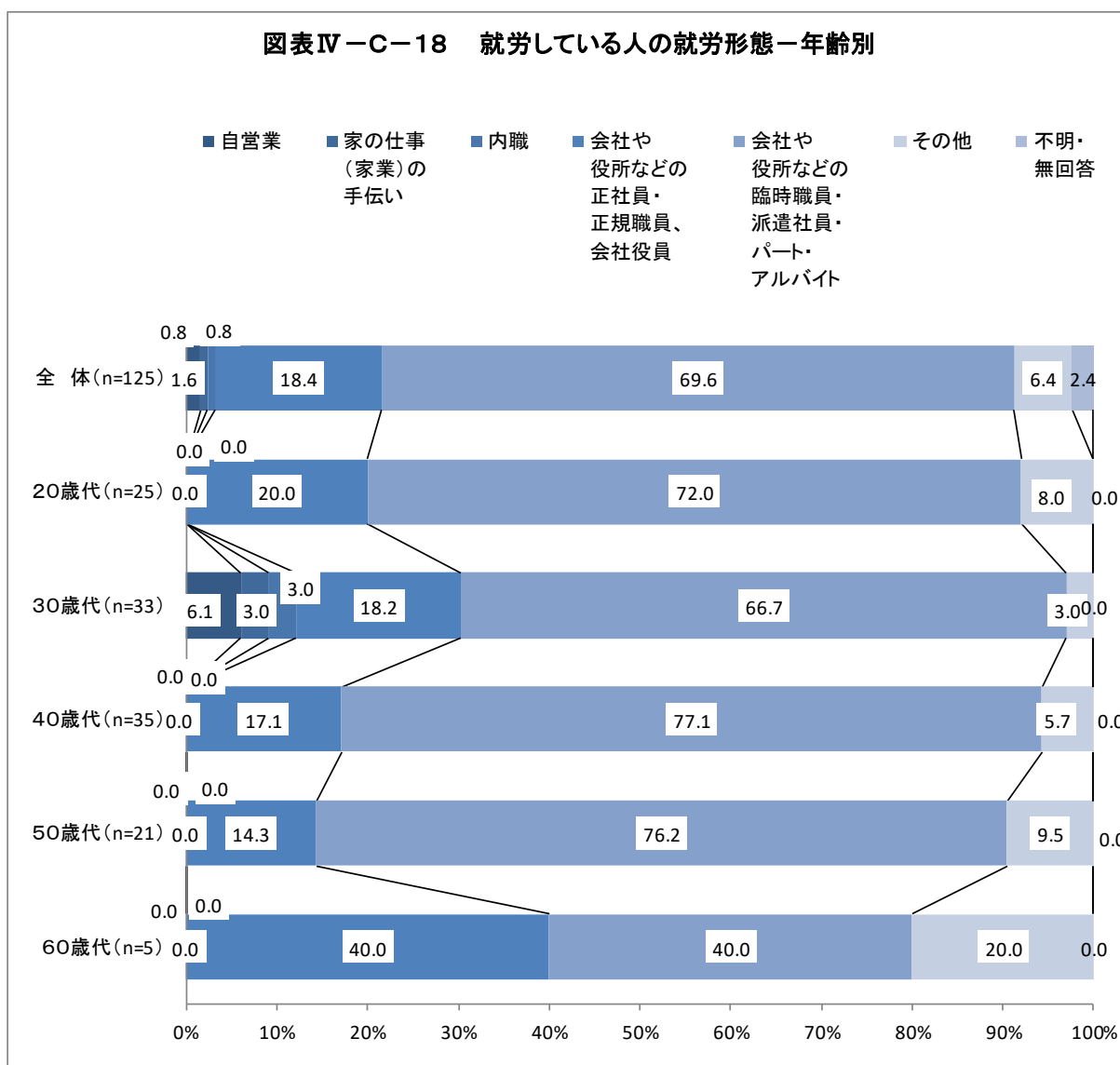


(4) 就労している人の就労形態 (問 19)

問 16 で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、どのような仕事をしているかをたずねた。

「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、69.6%、「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、18.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」は、40歳代が77.1%、次に50歳代が76.2%である。20歳代から50歳代の割合が高い。「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」は、60歳代が40.0%、次に30歳代が18.2%である。



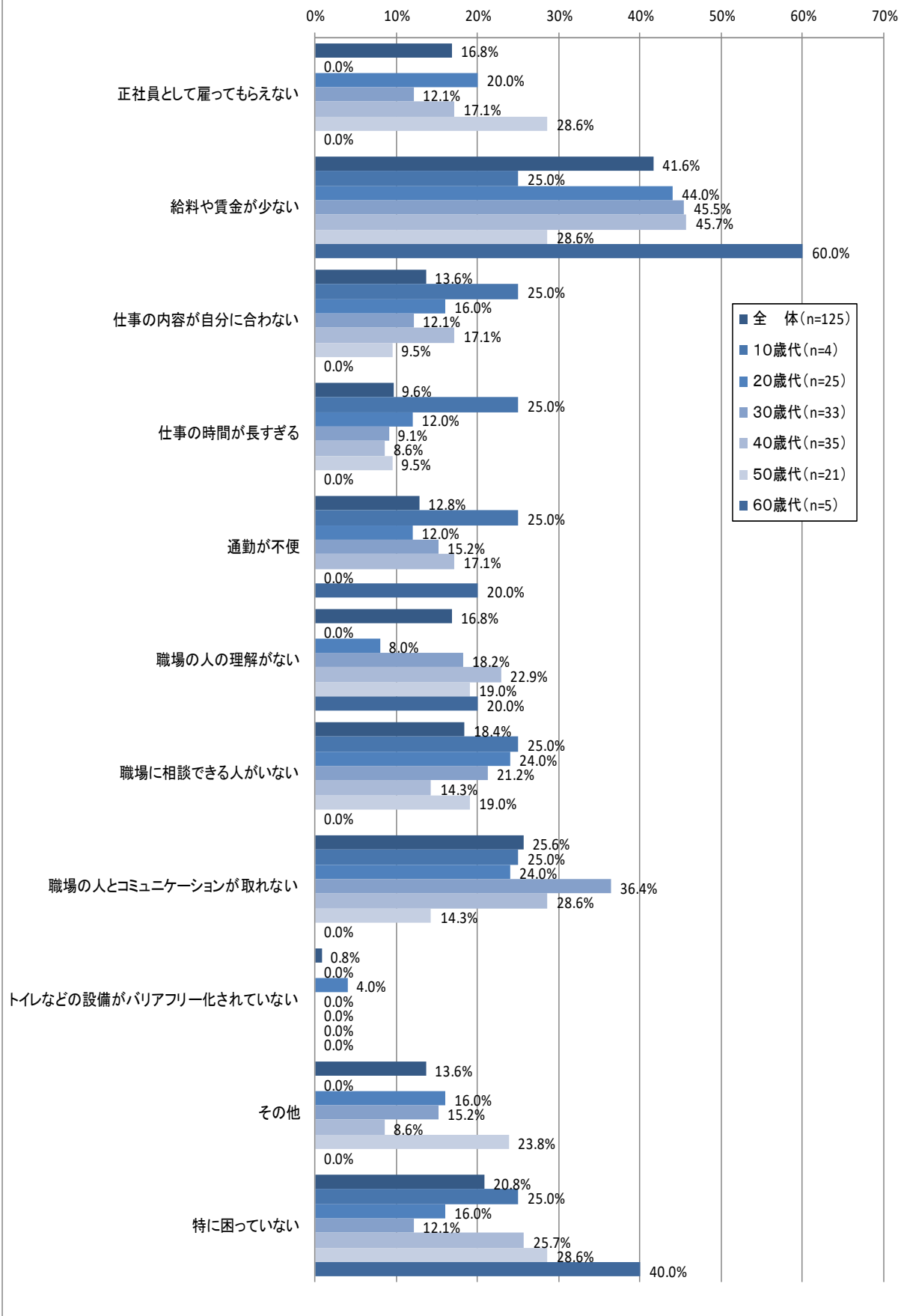
#### (5) 就労上で困っていること (問20)

問16で「1年以上継続して就労している」または「過去1年の間に、就労した」と回答した人に、就労する上で困っていることはあるかを複数回答でたずねた。

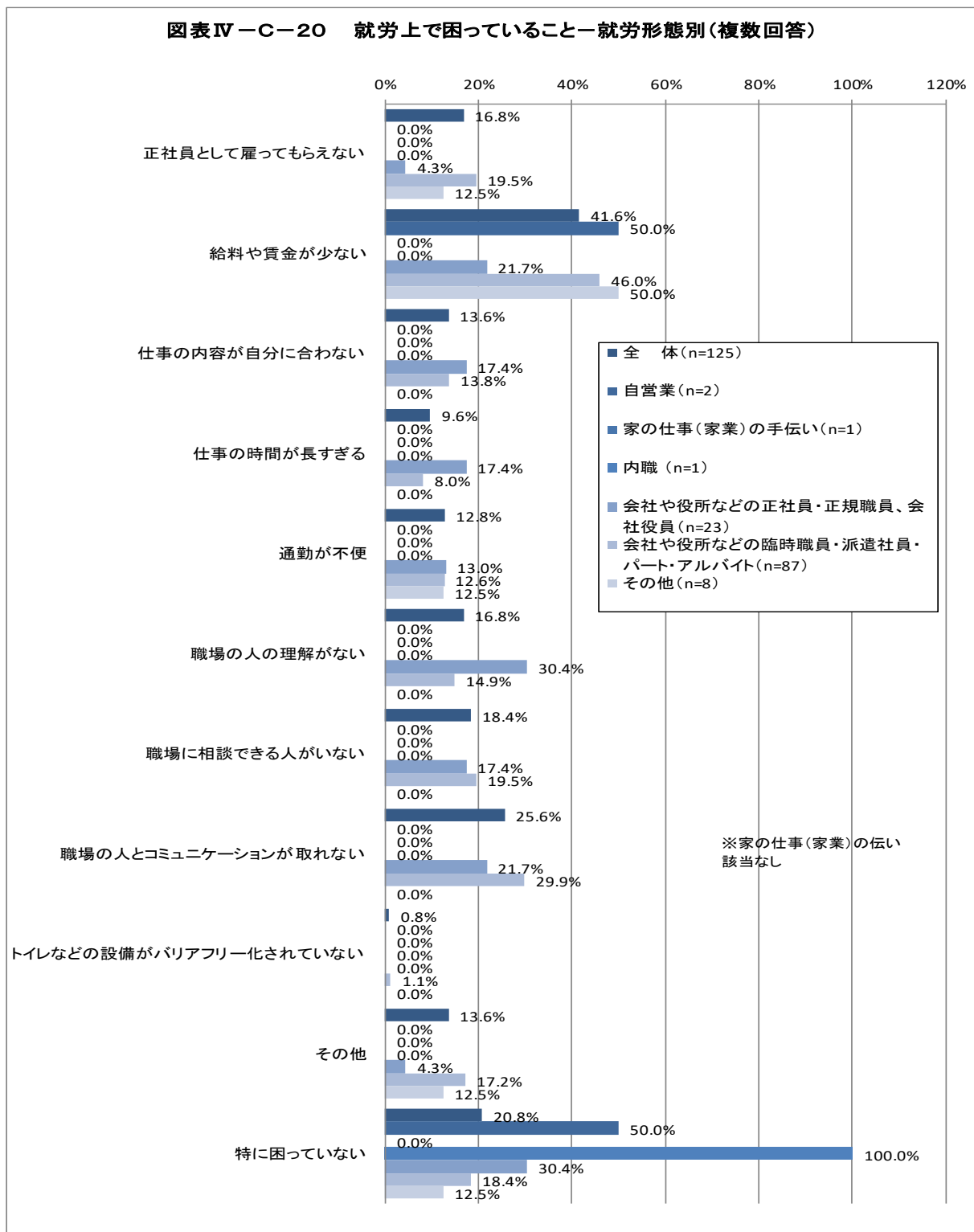
「給料や賃金が少ない」は、41.6%、「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、25.6%、「特に困っていない」は、20.8%、「職場に相談できる人がいない」は、18.4%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「給料や賃金が少ない」は、60歳代が60.0%、次に40歳代が45.7%である。「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、30歳代が36.4%、次に40歳代が28.6%である。「特に困っていない」は、60歳代が40.0%、次に50歳代が28.6%である。「職場に相談できる人がいない」は、10歳代が25.0%、次に20歳代が24.0%である。「正社員として雇ってもらえない」は、50歳代が28.6%である。

図表Ⅳ-C-19 就労上で困っていること一年齢別(複数回答)

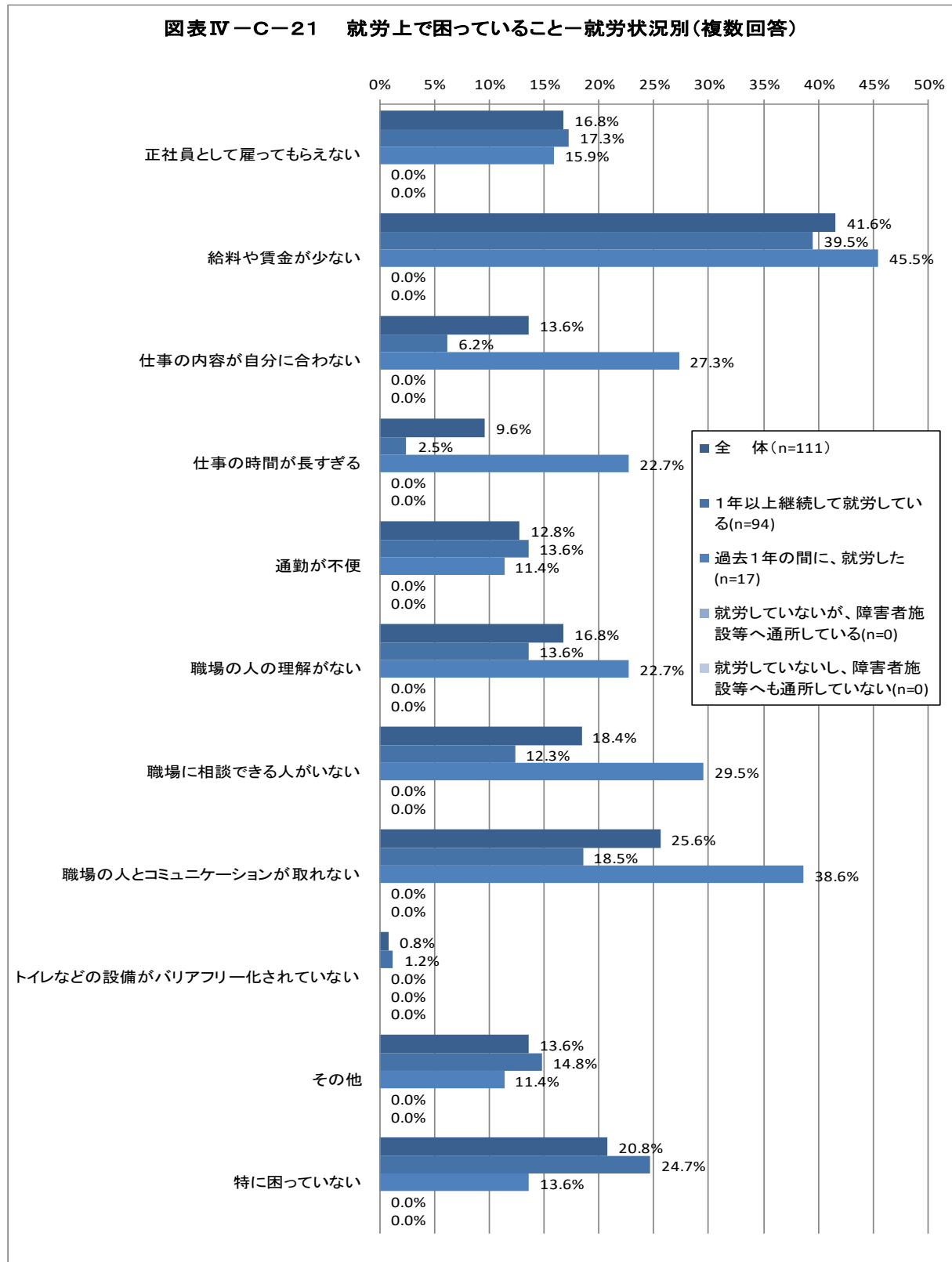


【就労形態別】他の就労形態別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「給料や賃金が少ない」は、「自営業」と「その他」が50.0%、次に「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が46.0%である。「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、「会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト」が29.9%、次に「会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員」が、21.7%である。「特に困っていない」は、「内職」が100.0%、次に「自営業」が50.0%である。



【就労状況別】他の就労状況別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「給料や賃金が少ない」は、「過去1年の間に、就労した」が45.5%、次に「1年以上継続して就労している」が39.5%である。「職場の人とコミュニケーションが取れない」は、「過去1年の間に、就労した」が38.6%、次に「1年以上継続して就労している」が18.5%である。

図表Ⅳ-C-21 就労上で困っていること—就労状況別(複数回答)



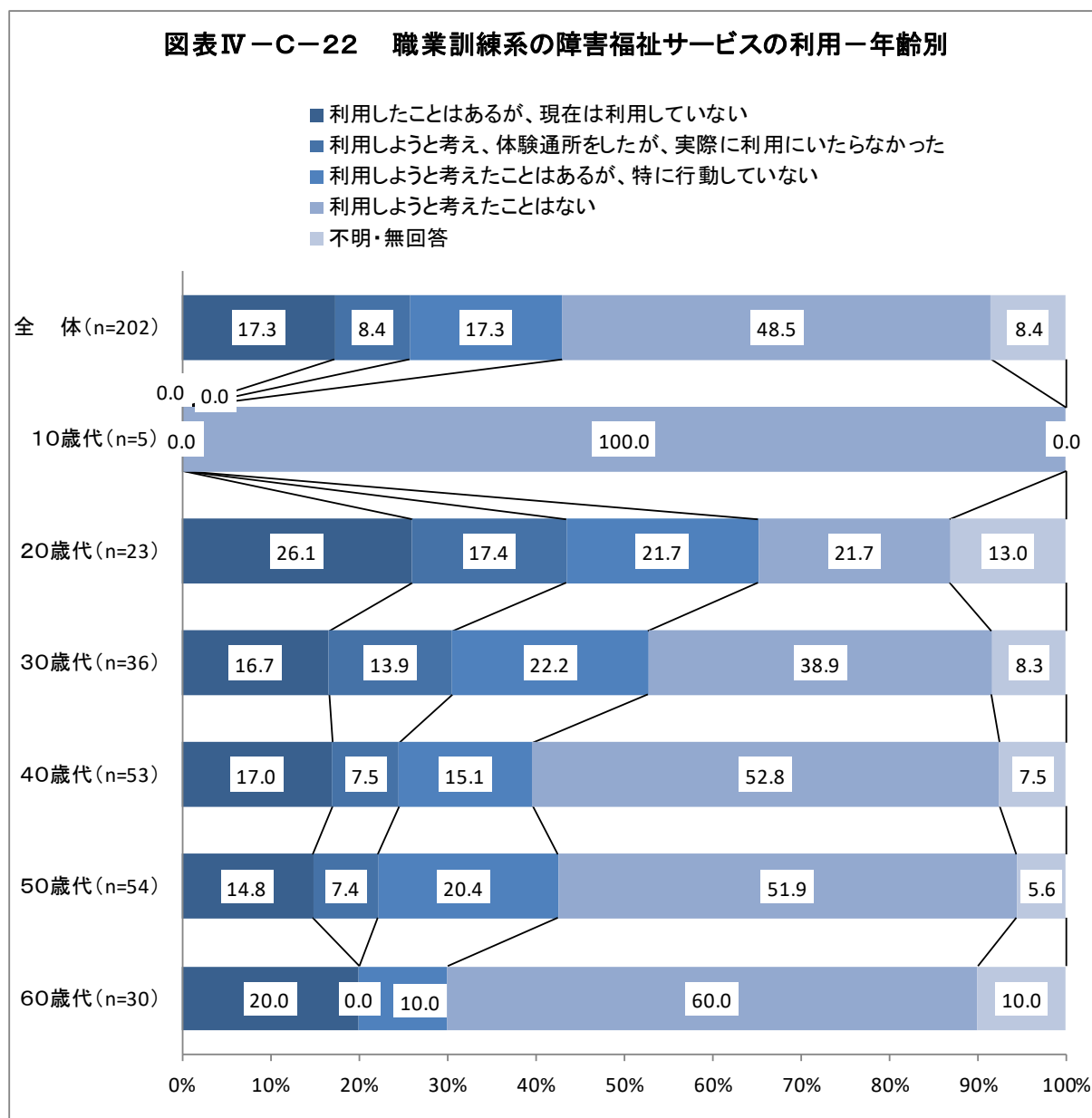


(6) 職業訓練系の障害福祉サービスの利用（問21）

問16で「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、過去に職業訓練系の障害福祉サービスの利用をたずねた。

「利用しようと考えたことはない」は、48.5%、「利用したことはあるが、現在は利用していない」と「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、17.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用しようと考えたことはない」は、10歳代が100.0%、次に60歳代が60.0%である。「利用したことはあるが、現在は利用していない」は、20歳代が26.1%、次に60歳代が20.0%である。「利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない」は、30歳代が22.2%、次に20歳代が21.7%である。

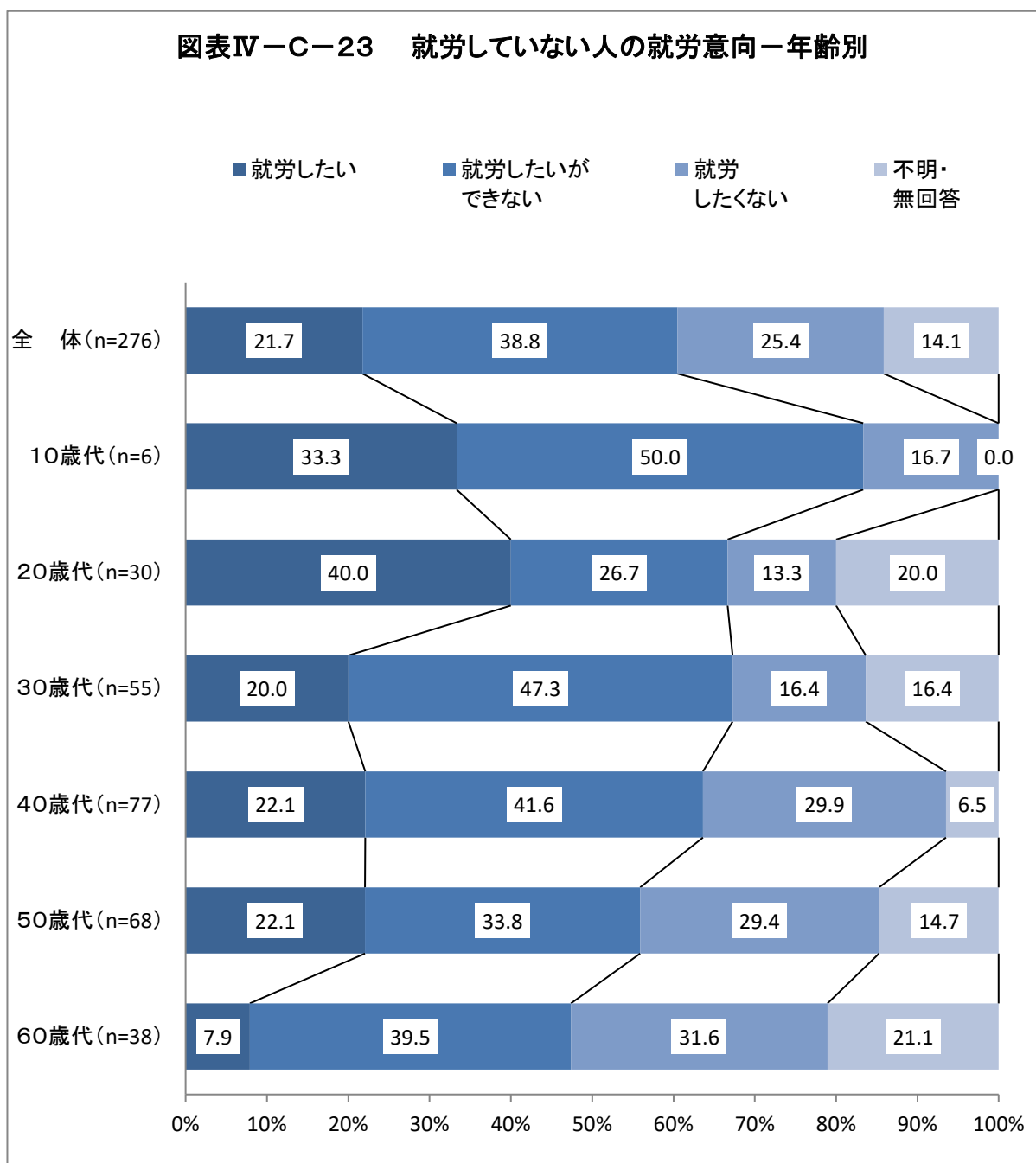


(7) 就労していない人の就労意向 (問22)

問16で「就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と回答した人に、就労をしたいかをたずねた。

「就労したいができない」は、38.8%、「就労したくない」は、25.4%、「就労したい」は、21.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「就労したいができない」は、10歳代が50.0%、次に30歳代が47.3%である。「就労したくない」は、60歳代が31.6%、次に40歳代が29.9%である。「就労したい」は、20歳代が40.0%、次に10歳代が33.3%である。



(8) 就労したい人の希望職種 (問 23)

問 22 で「就労したい」と回答した人に、どのような内容の仕事をしたと思うかをたずねた。

「その他」は、21.7%、「生産工程」と「サービス業」は、16.7%、「専門的、技術的職業」は、15.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答（その他以外）を見てみると、「生産工程」は、10 歳代が 50.0%、次に 30 歳代が 36.4%である。「サービス業」は、60 歳代が 66.7%、次に 40 歳代が 23.5%である。「専門的、技術的職業」は、10 歳代が 50.0%、次に 50 歳代が 20.0%である。

図表 IV-C-24 就労したい人の希望職種一年齢別

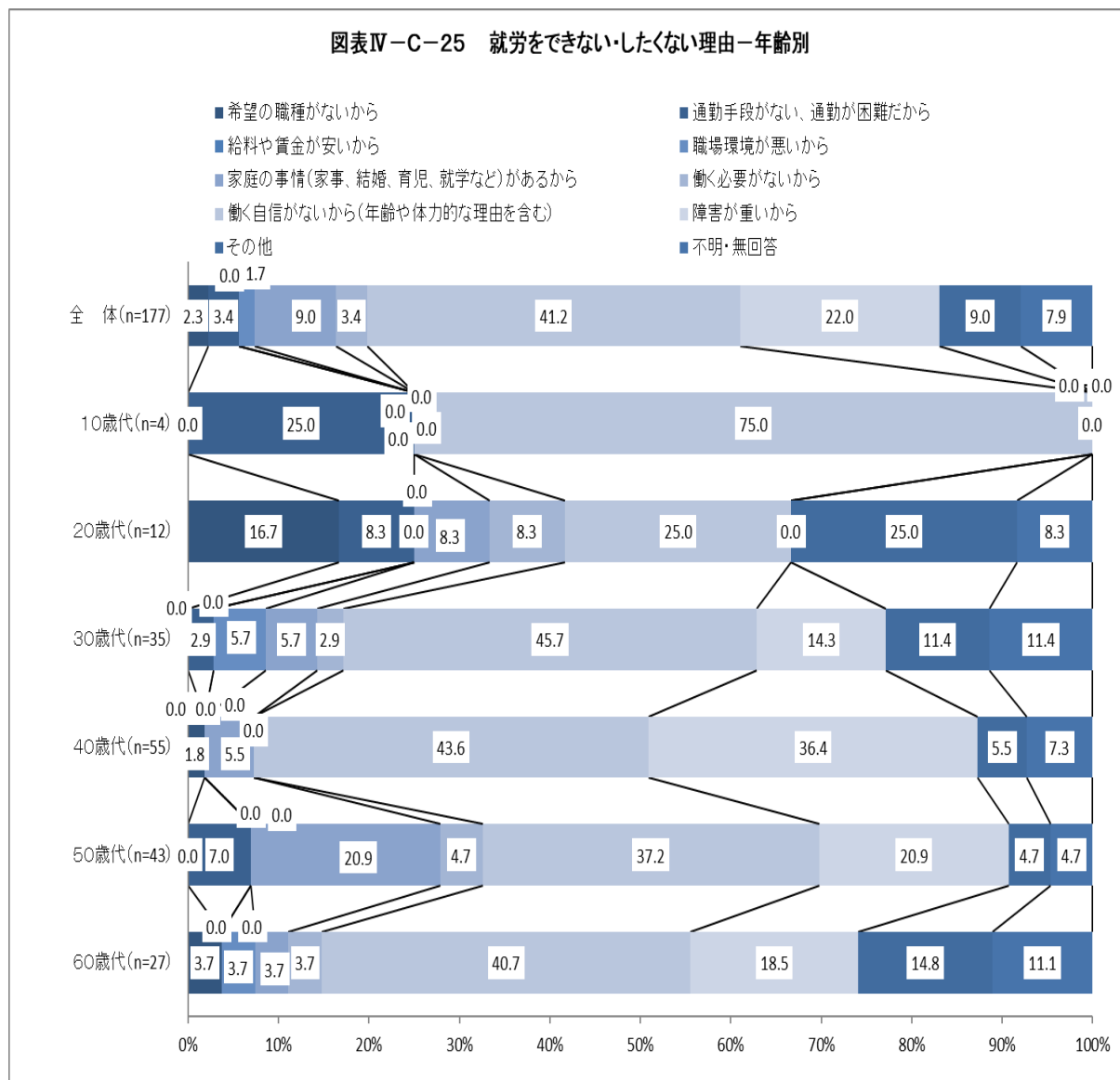
		農業、林業、漁業	一般事務	営業、販売	医療関係	専門的、技術的職業	サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場の管理人、警備員、清掃業など）	生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	その他	不明・無回答	合計
全 体 (n=60)		1.7	11.7	6.7	0.0	15.0	16.7	16.7	21.7	10.0	100.0
年 齢	10 歳代 (n= 2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	20 歳代 (n= 12)	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	25.0	25.0	100.0
	30 歳代 (n= 11)	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	36.4	27.3	9.1	100.0
	40 歳代 (n= 17)	0.0	17.6	5.9	0.0	5.9	23.5	11.8	29.4	5.9	100.0
	50 歳代 (n= 15)	6.7	13.3	13.3	0.0	20.0	20.0	6.7	13.3	6.7	100.0
	60 歳代 (n= 3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0

(9) 就労できない・したくない理由 (問24)

問22で「就労したいができない」または「就労したくない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「働く自信がないから」は、41.2%、「障害が重いから」は、22.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「働く自信がないから」は、10歳代が75.0%、次に30歳代が45.7%である。「障害が重いから」は、40歳代が36.4%、次に50歳代が20.9%である。

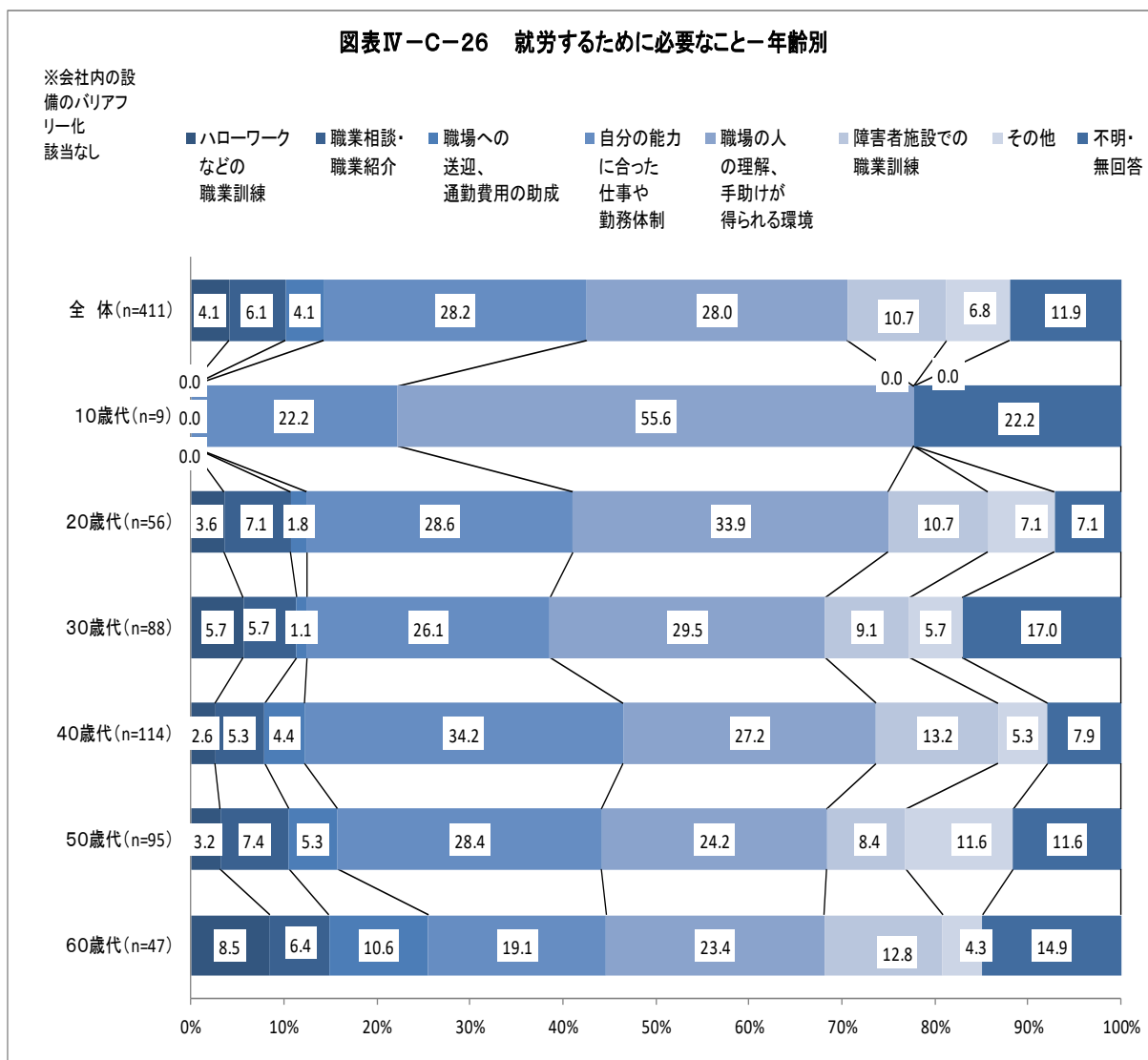


(10) 就労するために必要なこと (問25)

全員に、就労するために必要なことは何だと思うかをたずねた。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、28.2%、「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、28.0%、「障害者施設での職業訓練」は、10.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分の能力に合った仕事や勤務体制」は、40歳代が34.2%、次に20歳代が28.6%である。「職場の人の理解、手助けが得られる環境」は、10歳代が55.6%、次に20歳代が33.9%である。「障害者施設での職業訓練」は、40歳代が13.2%、次に60歳代が12.8%である。



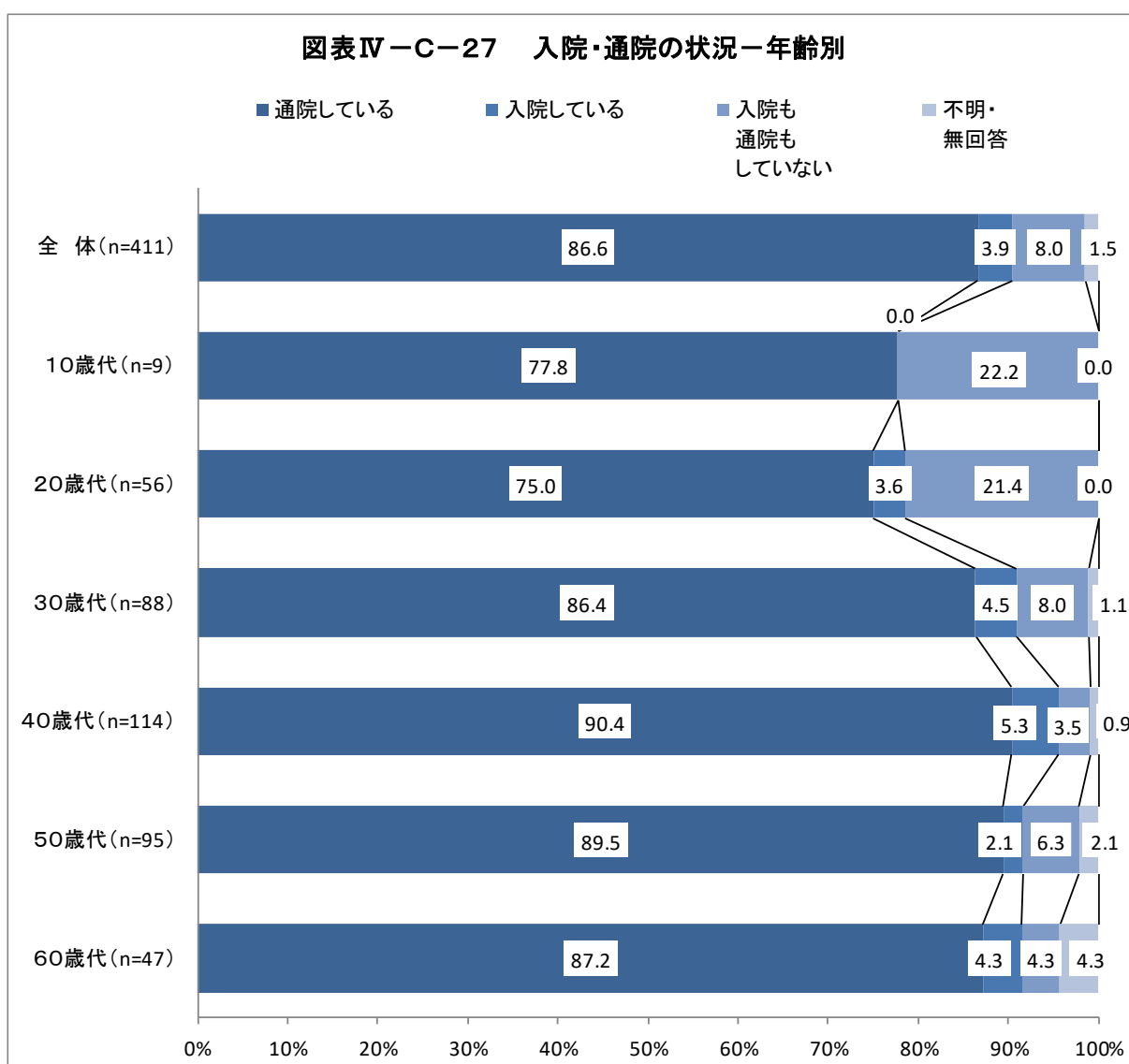
#### 4 入院・通院について

##### (1) 入院・通院の状況（問26）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、86.6%、「入院も通院もしていない」は、8.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、40歳代90.4%、次に50歳代が89.5%である。「入院も通院もしていない」は、10歳代が22.2%、次に20歳代が21.4%である。

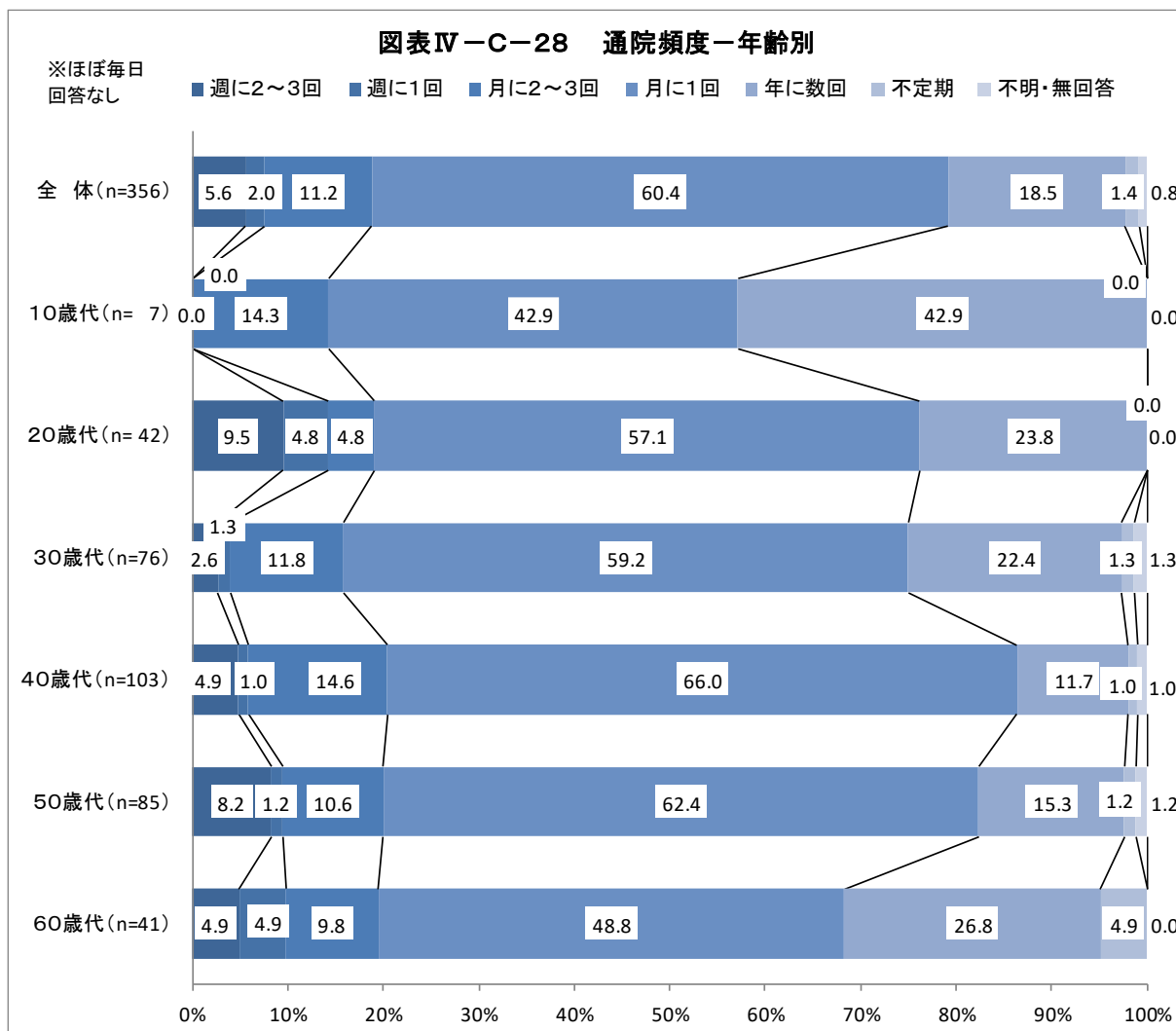


(2) 通院頻度 (問 27)

問 26 で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に 1 回」は、60.4%、「年に数回」は、18.5%、「月に 2～3 回」は、11.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「月に 1 回」は、40 歳代が 66.0%、次に 50 歳代が 62.4%である。「年に数回」は、10 歳代が 42.9%、次に 60 歳代が 26.8%である。「月に 2～3 回」は、40 歳代が 14.6%、次に 10 歳代が 14.3%である。



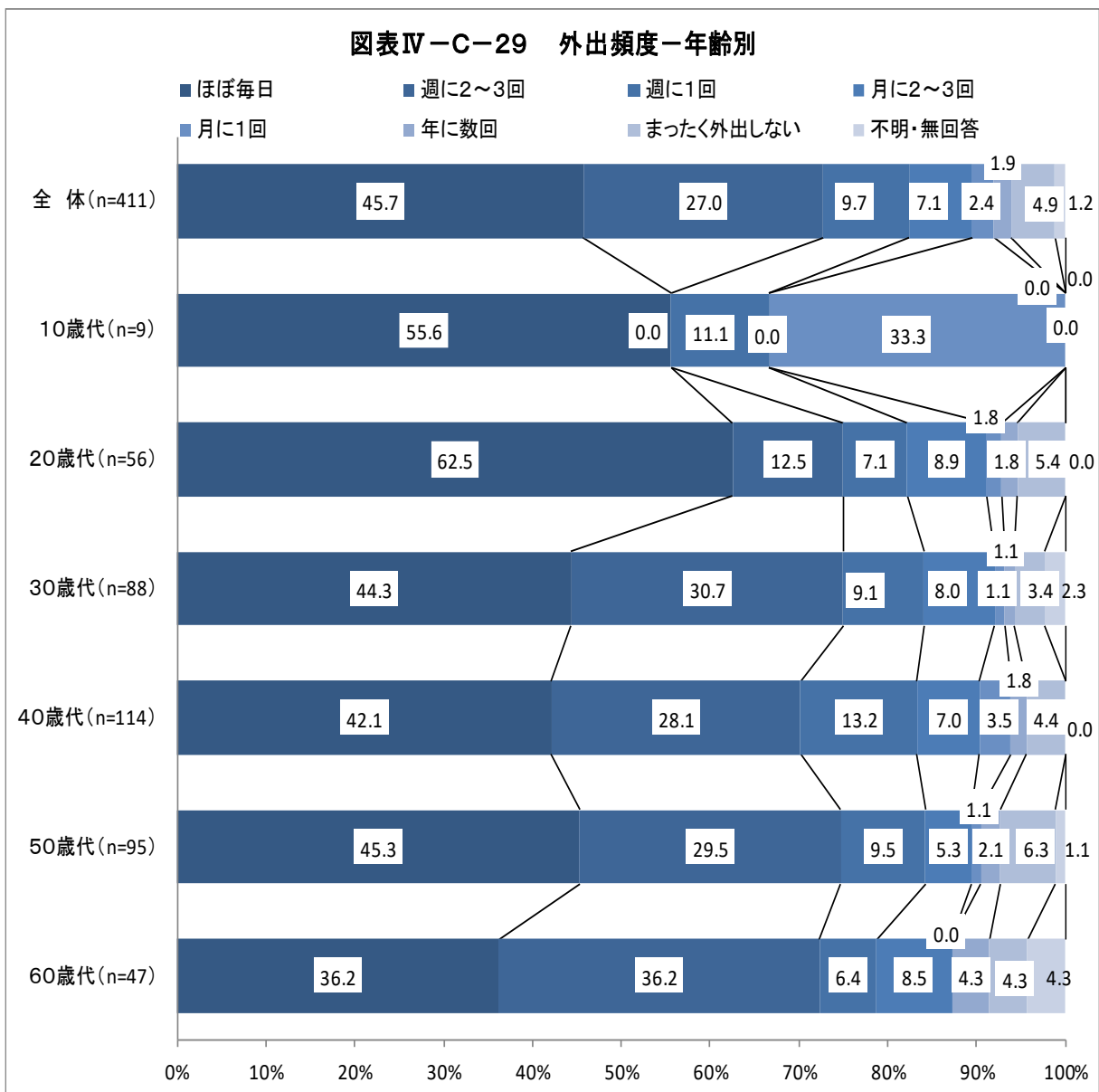
## 5 外出について

### (1) 外出頻度 (問28)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、45.7%、「週に2~3回」は、27.0%、「週に1回」は、9.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、20歳代が62.5%、次に10歳代が55.6%である。「週に2~3回」は、60歳代が36.2%、次に30歳代が30.7%である。「週に1回」は、40歳代が13.2%、次に10歳代が11.1%である。



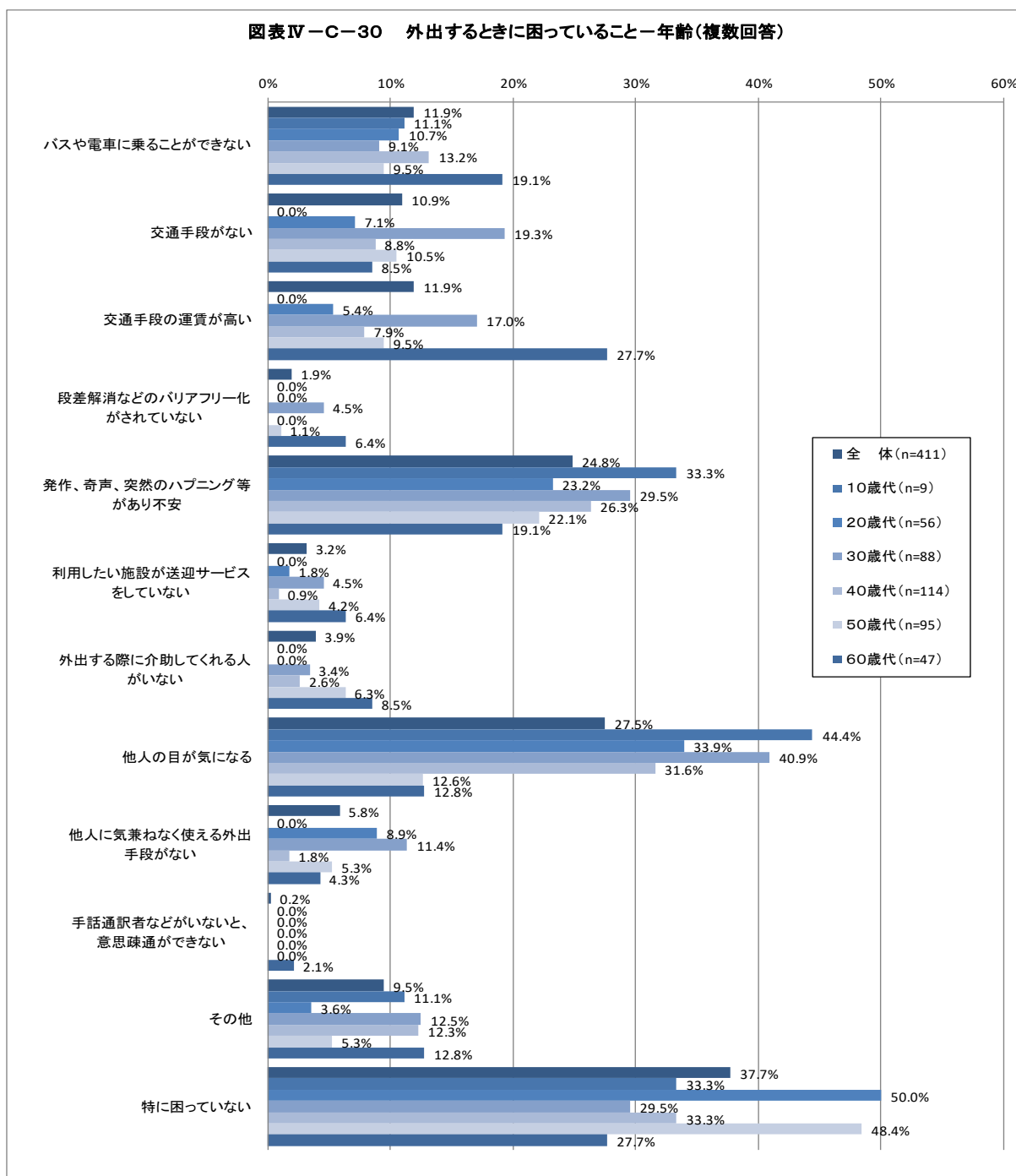


(2) 外出時に困っていること (問29)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、37.7%、「他人の目が気になる」は、27.5%、「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、24.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、20歳代が50.0%、次に50歳代が48.4%である。「他人の目が気になる」は、10歳代が44.4%、次に30歳代が40.9%である。「発作、奇声、突然のハプニング等」は、10歳代が33.3%、次に30歳代が29.5%である。「交通手段の運賃が高い」は、60歳代が27.7%である。

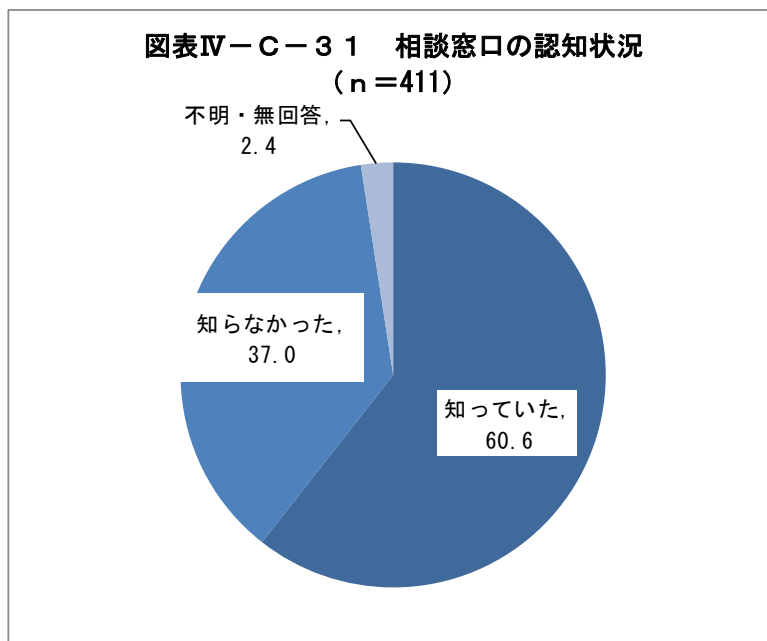


## 6 相談窓口について

### (1) 相談窓口の認知状況 (問30)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

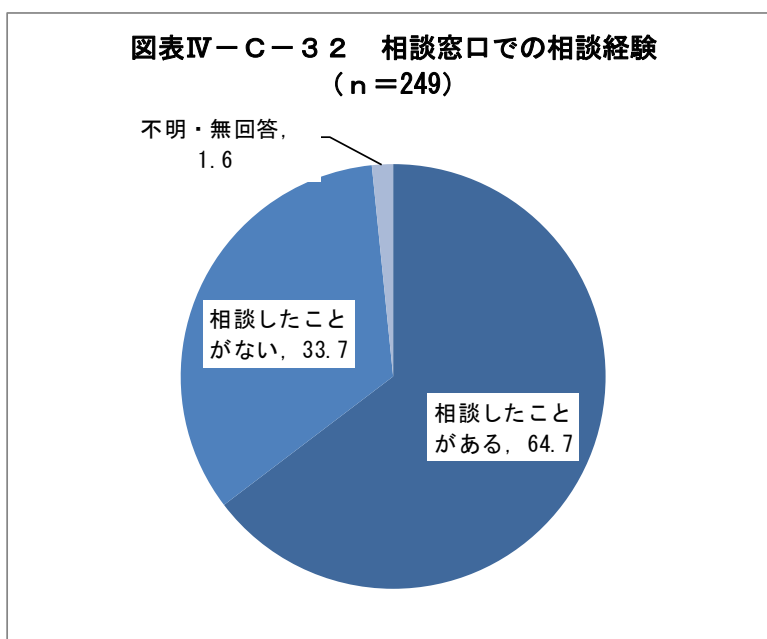
「知っていた」は、60.6%、「知らなかった」は、37.0%である。



### (2) 相談窓口での相談経験 (問31)

問30で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

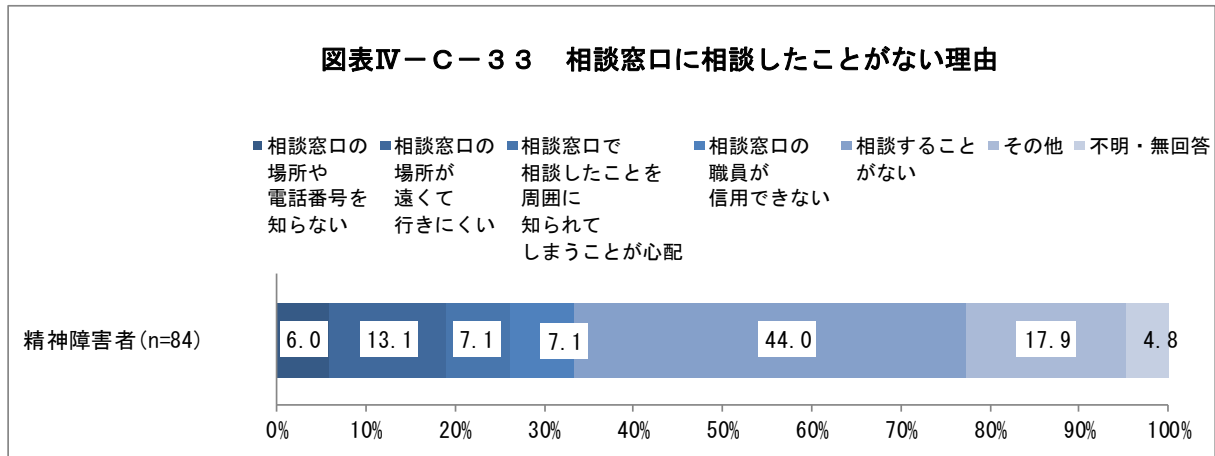
「相談したことがある」は、64.7%、「相談したことがない」は、33.7%である。



### (3) 相談窓口に相談したことがない理由（問32）

問31で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、44.0%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、13.1%、「相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配」と「相談窓口の職員が信用できない」は、7.1%である。



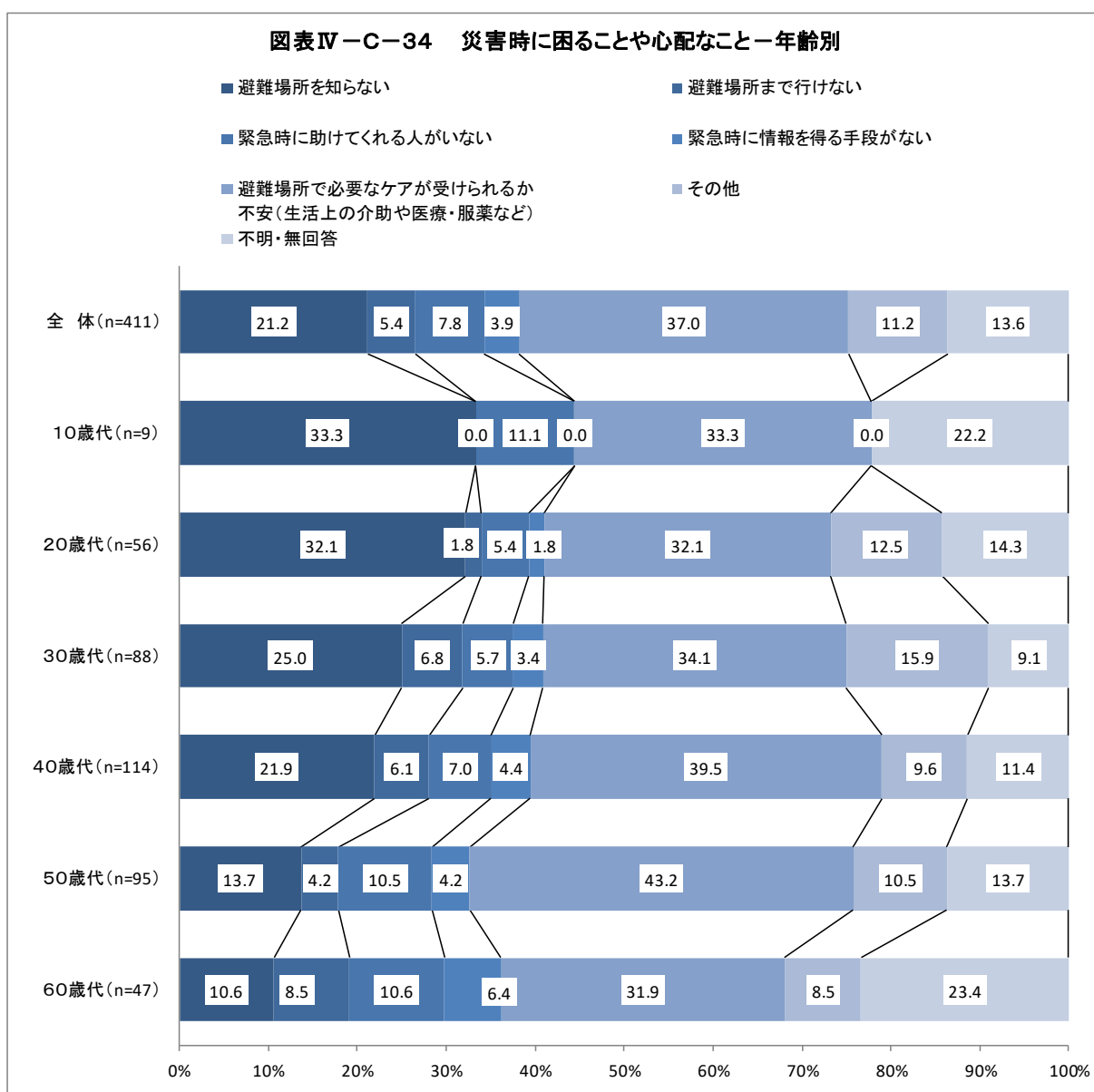
## 7 災害時について

### (1) 災害時に困ることや心配なこと（問33）

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、37.0%、「避難場所を知らない」は、21.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、50歳代が43.2%、次に40歳代が39.5%である。「避難場所を知らない」は、10歳代が33.3%、次に20歳代が32.1%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



## 8 障害のある人への差別について

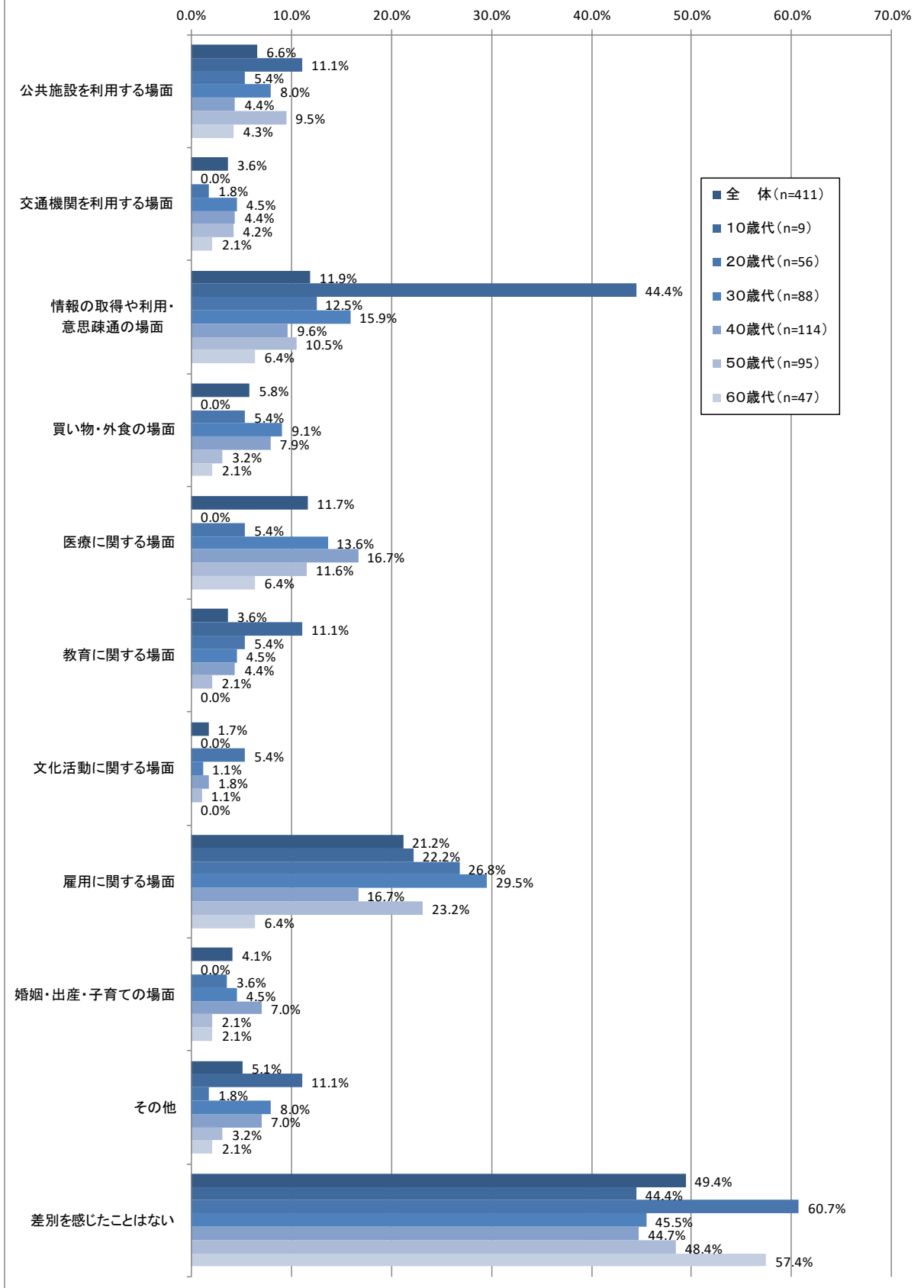
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問34）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、49.4%、「雇用に関する場面」は、21.2%、「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、11.9%、「医療に関する場面」は、11.7%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、20歳代が60.7%、次に60歳代が57.4%である。「雇用に関する場面」は、30歳代が29.5%、次に20歳代が26.8%である。「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、10歳代が44.4%、次に30歳代が15.9%である。「医療に関する場面」は、40歳代が16.7%、次に30歳代が13.6%である。

図表Ⅳ-C-35 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別

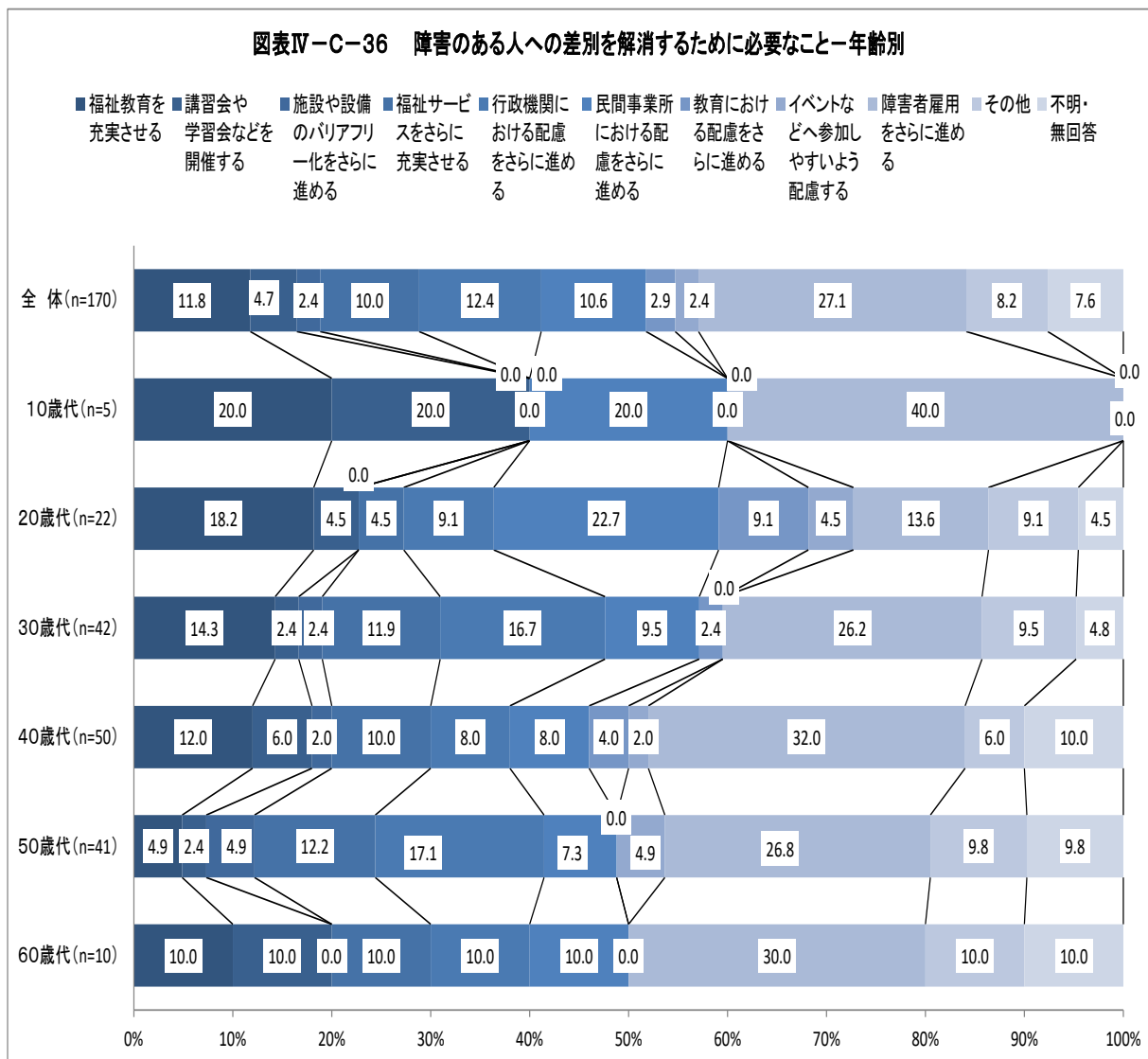


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（問35）

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「障害者雇用をさらに進める」は、27.1%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、12.4%、「福祉教育を充実させる」は、11.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「障害者雇用をさらに進める」は、10歳代が40.0%、次に40歳代が32.0%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、50歳代が17.1%、次に30歳代が16.7%である。「福祉教育を充実させる」は、10歳代が20.0%、次に20歳代が18.2%である。「民間事業所における配慮をさらに進める」は、20歳代が22.7%、次に10歳代が20.0%である。



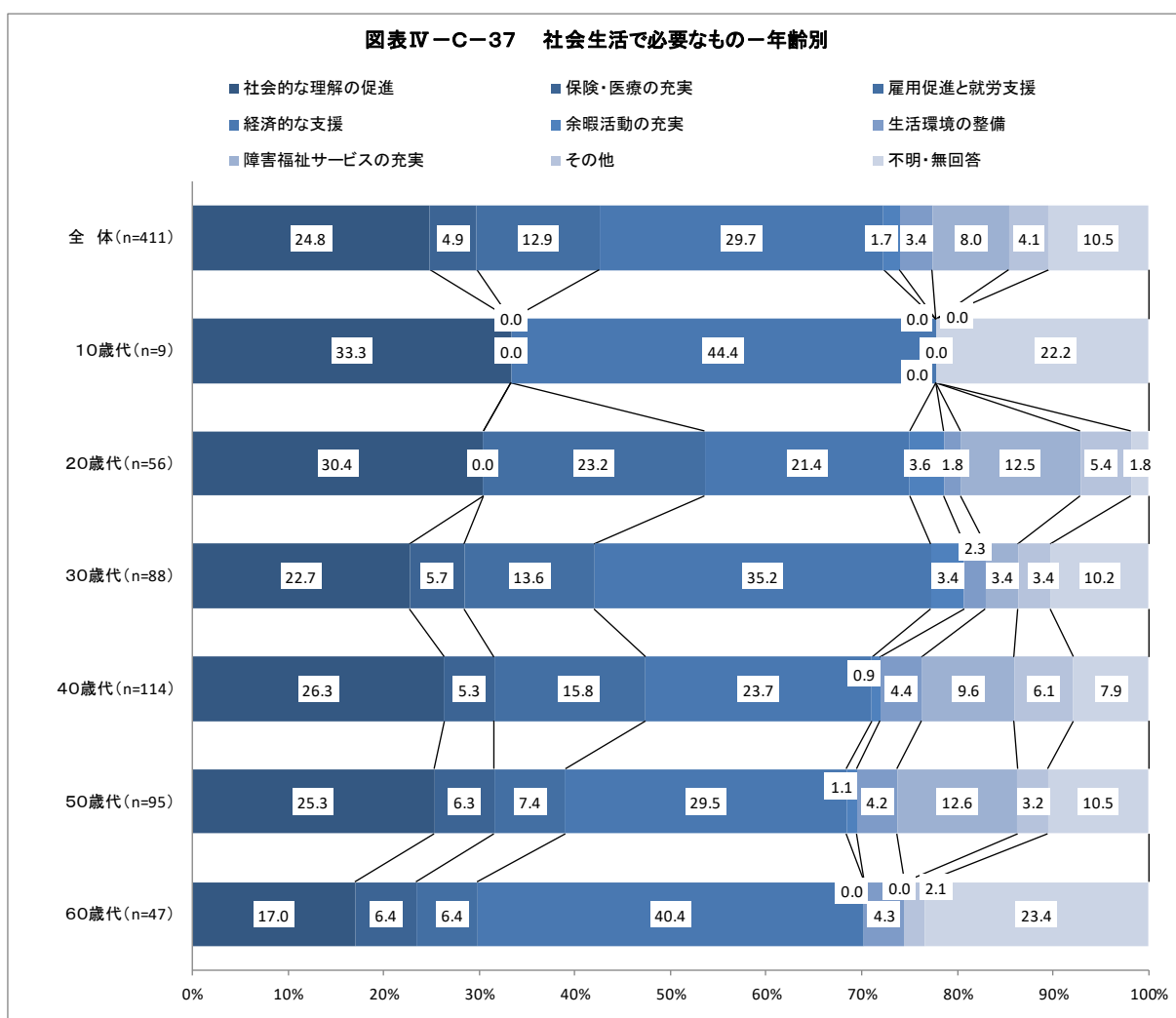
## 9 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問36）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、29.7%、「社会的な理解の促進」は、24.8%、「雇用促進と就労支援」は、12.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「経済的な支援」は、10歳代が44.4%、次に60歳代が40.4%である。「社会的な理解の促進」は、10歳代が33.3%、次に20歳代が30.4%である。「雇用促進と就労支援」は、20歳代が23.2%、次に40歳代が15.8%である。





## D 施設入所者

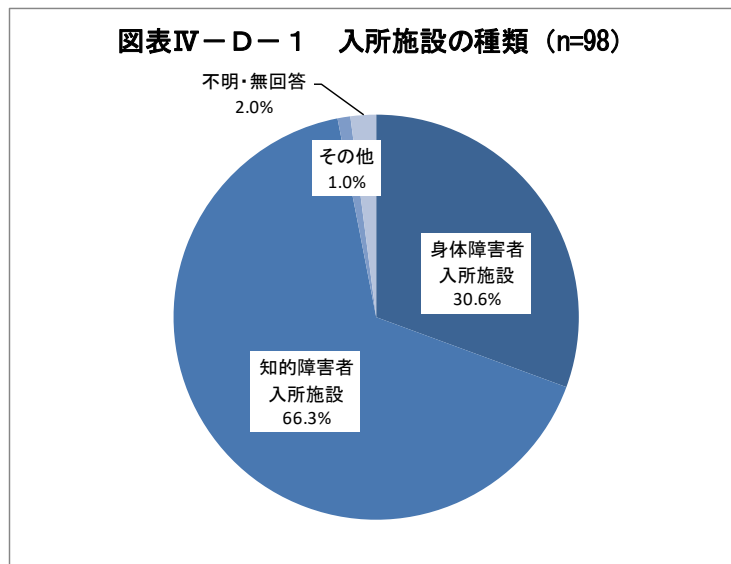


## 1 生活の場について

### (1) 入所施設の種類 (問4)

現在、どこの障害者入所施設に入所しているかをたずねた。

「知的障害者入所施設」は、66.3%、「身体障害者入所施設」は、30.6%である。



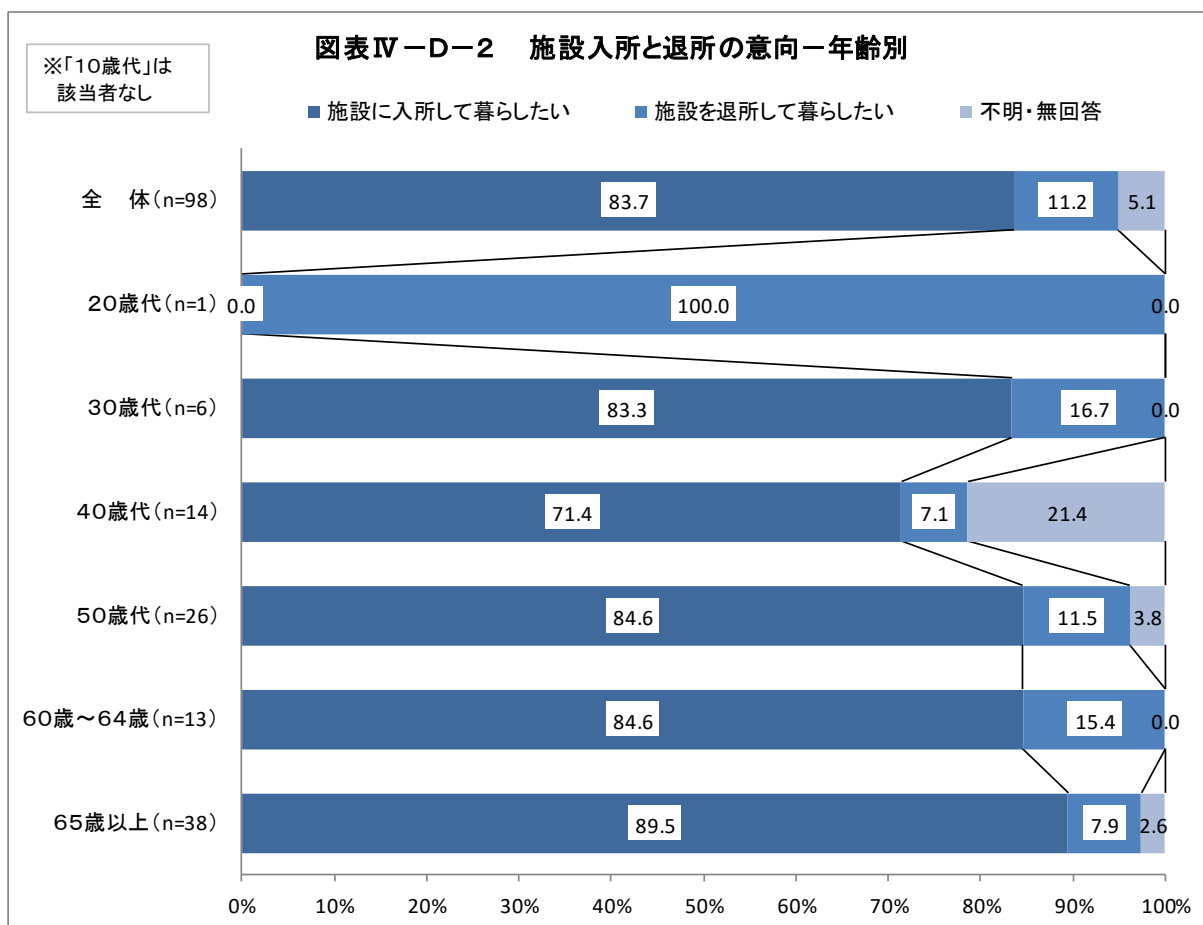
## (2) 施設入所と退所の意向 (問5)

今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「施設に入所して暮らしたい」は、83.7%、「施設を退所して暮らしたい」は、11.2%である。

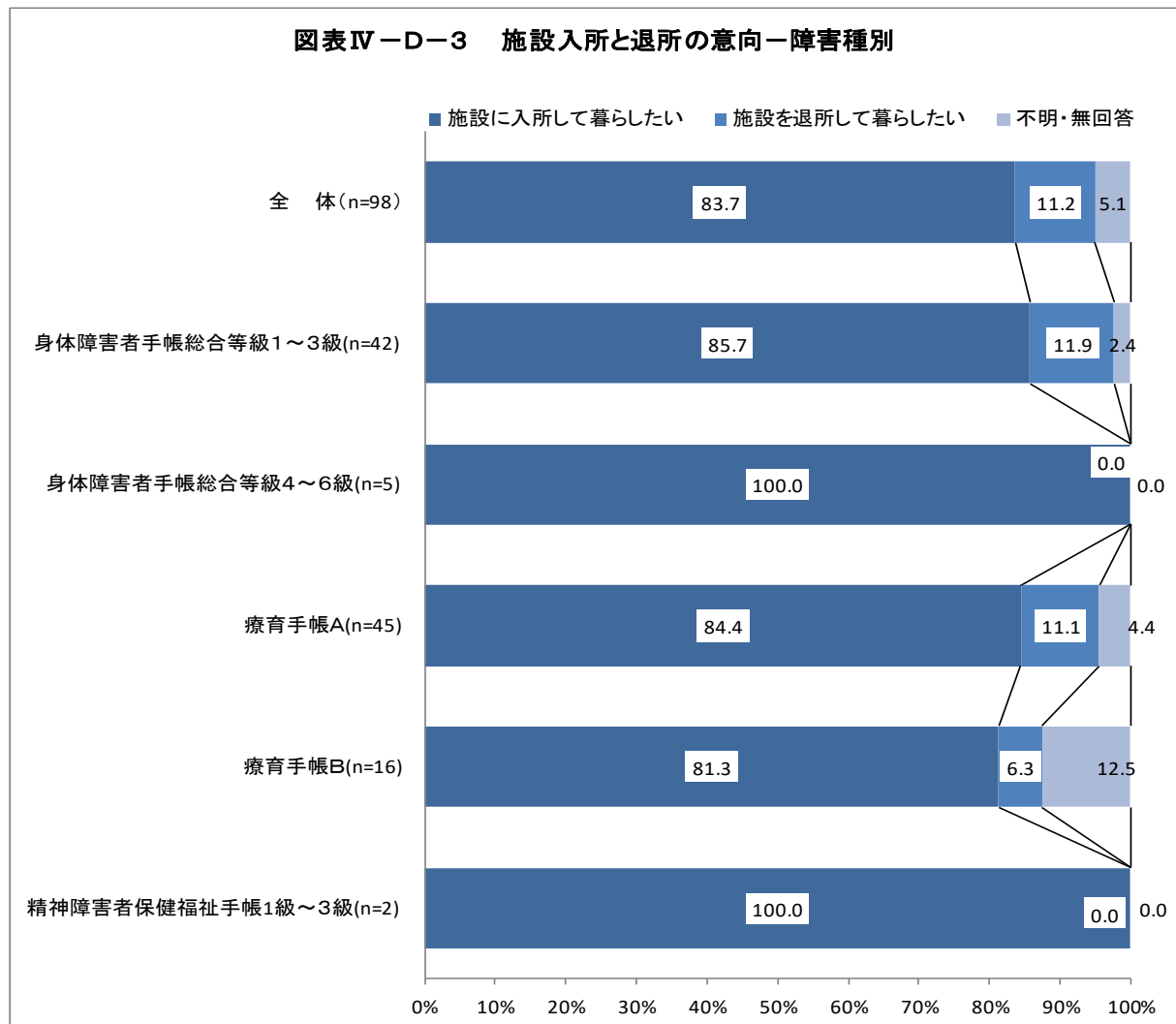
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「施設に入所して暮らしたい」は、65歳以上が89.5%、次に50歳代と60歳～64歳が84.6%である。

「施設を退所して暮らしたい」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が16.7%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見ると、「施設に入所して暮らしたい」は、身体障害者手帳総合等級4～6級と精神障害者保健福祉手帳1級～3級が100.0%である。

一方、「施設に退所して暮らしたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が11.9%、次に療育手帳Aが11.1%である。



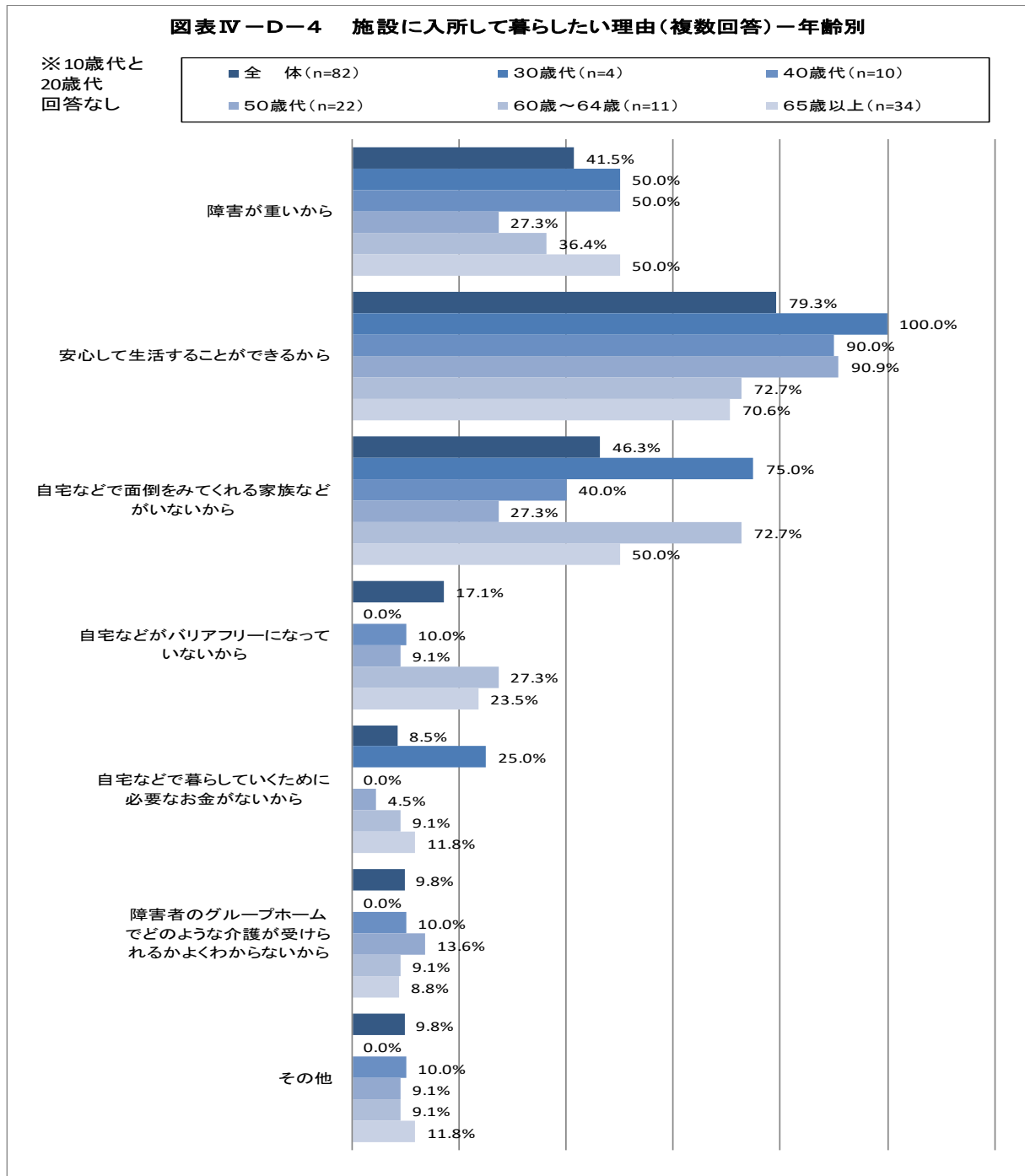
### (3) 施設に入所して暮らしたい理由（問6）

問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、その理由を複数回答でたずねた。

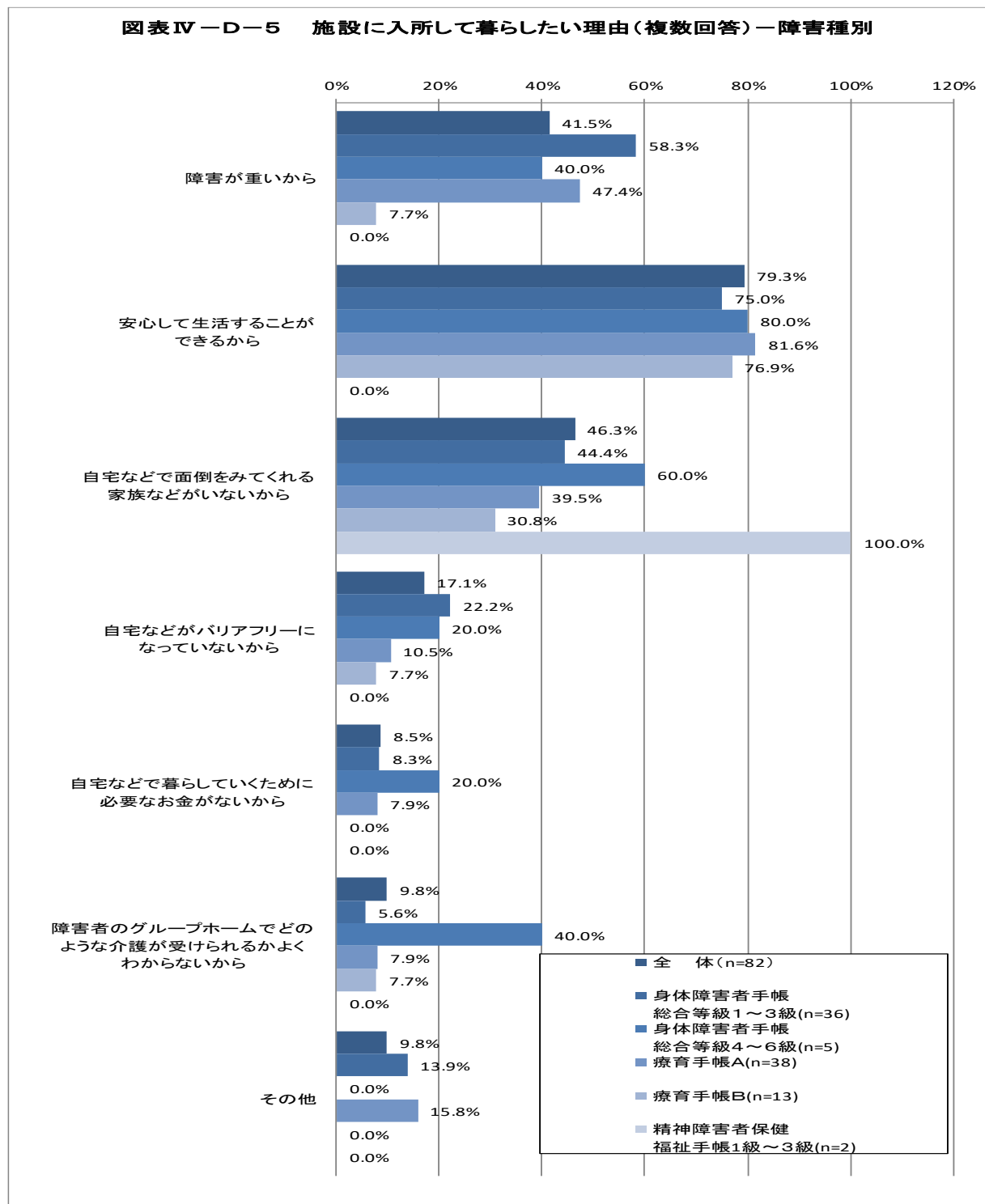
「安心して生活することができるから」は、79.3%、「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、46.3%、「障害が重いから」は、41.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができるから」は、30歳代が100.0%、次に50歳代が90.9%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、30歳代が75.0%、次に60歳～64歳が72.7%である。「障害が重いから」は、30歳代と40歳代と65歳以上が50.0%である。

図表Ⅳ-D-4 施設に入所して暮らしたい理由（複数回答）一年齢別



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができるから」は、療育手帳Aが、81.6%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が80.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が100.0%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%である。「障害が重いから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が58.3%、次に療育手帳Aが47.4%である。

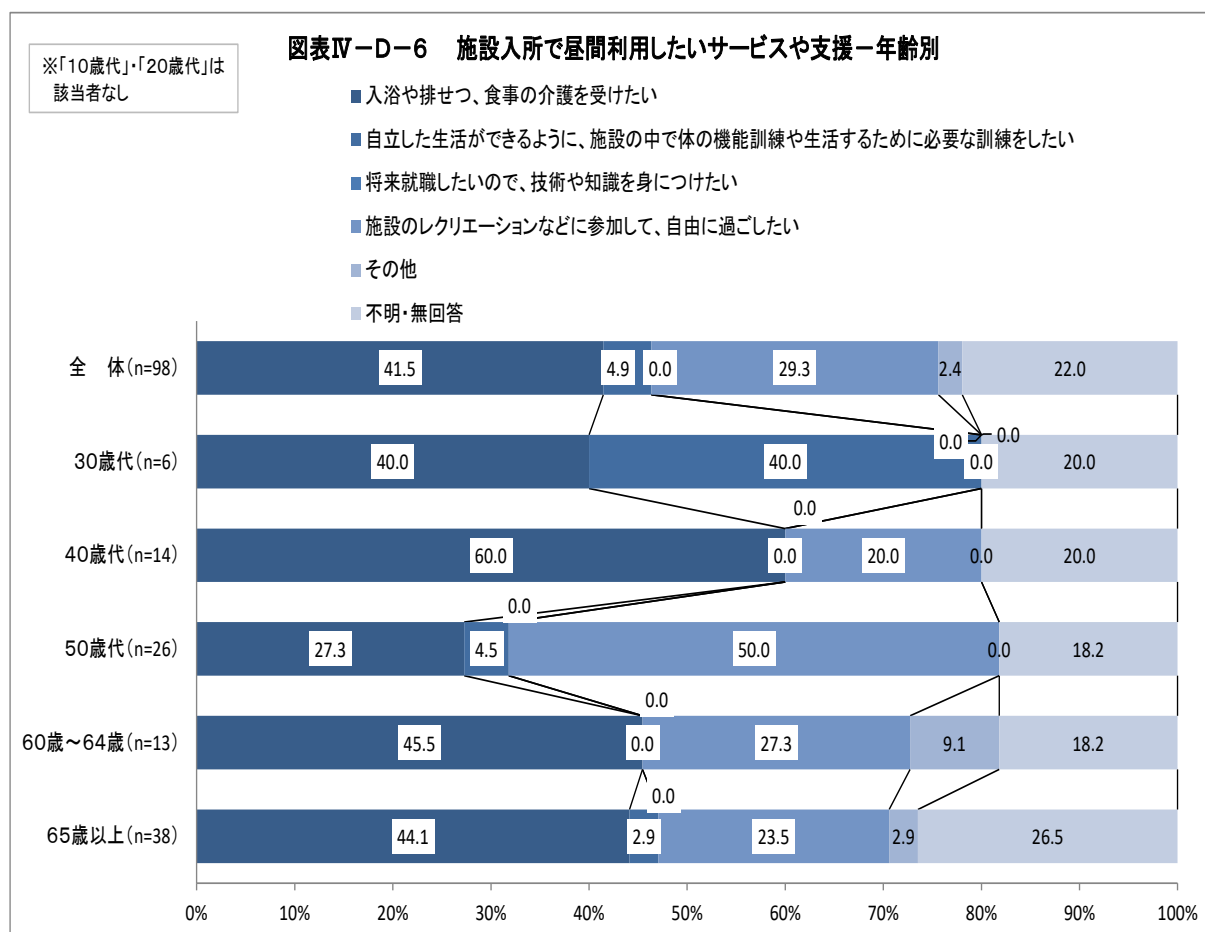


#### (4) 施設入所で昼間利用したいサービスや支援（問7）

問5で「施設に入所して暮らしたい」と回答した人に、昼間どのようなサービスや支援を利用したいかをたずねた。

「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、41.5%、「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、29.3%、「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、4.9%である。（不明・無回答は除く）

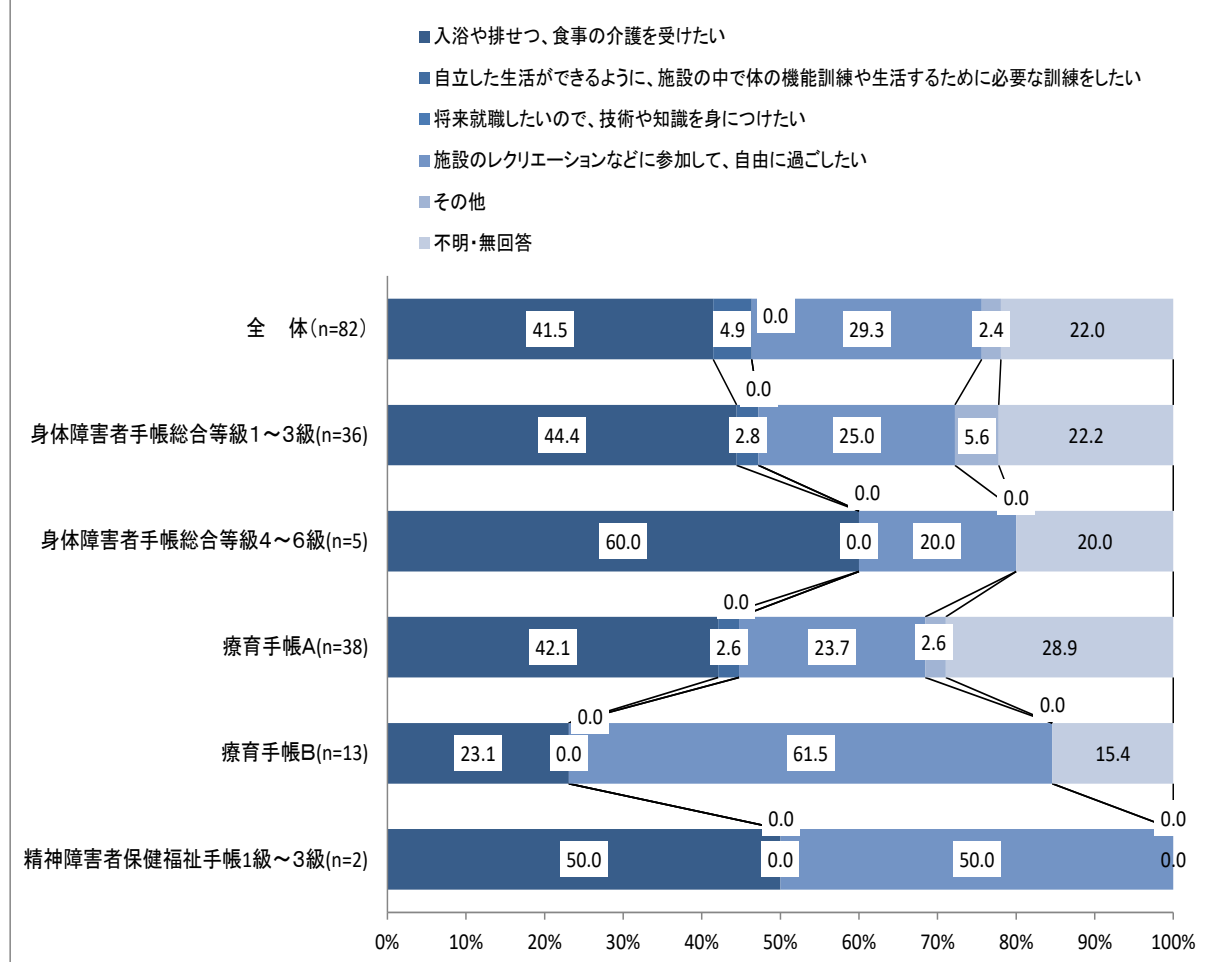
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、40歳代が60.0%、次に60歳～64歳が45.5%である。「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、50歳代が50.0%、次に60歳～64歳が27.3%である。「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、30歳代が40.0%である。





【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「入浴や排泄、食事の介護を受けたい」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が50.0%である。「施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい」は、療育手帳Bが61.5%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が50.0%である。「自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が2.8%、次に療育手帳Aが2.6%である。

図表Ⅳ-D-7 施設入所で昼間利用したいサービスや支援－障害種別

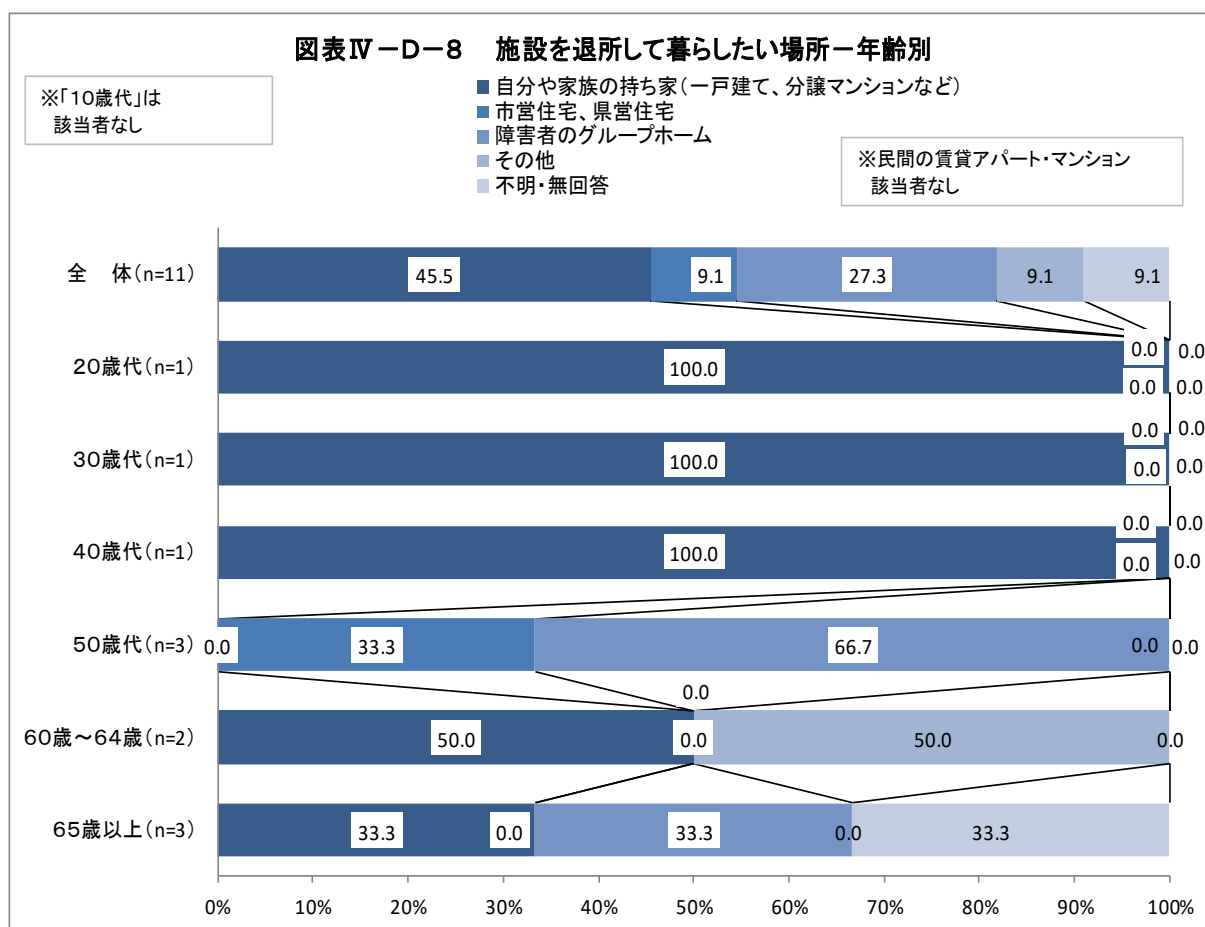


(5) 施設を退所して暮らしたい場所 (問8)

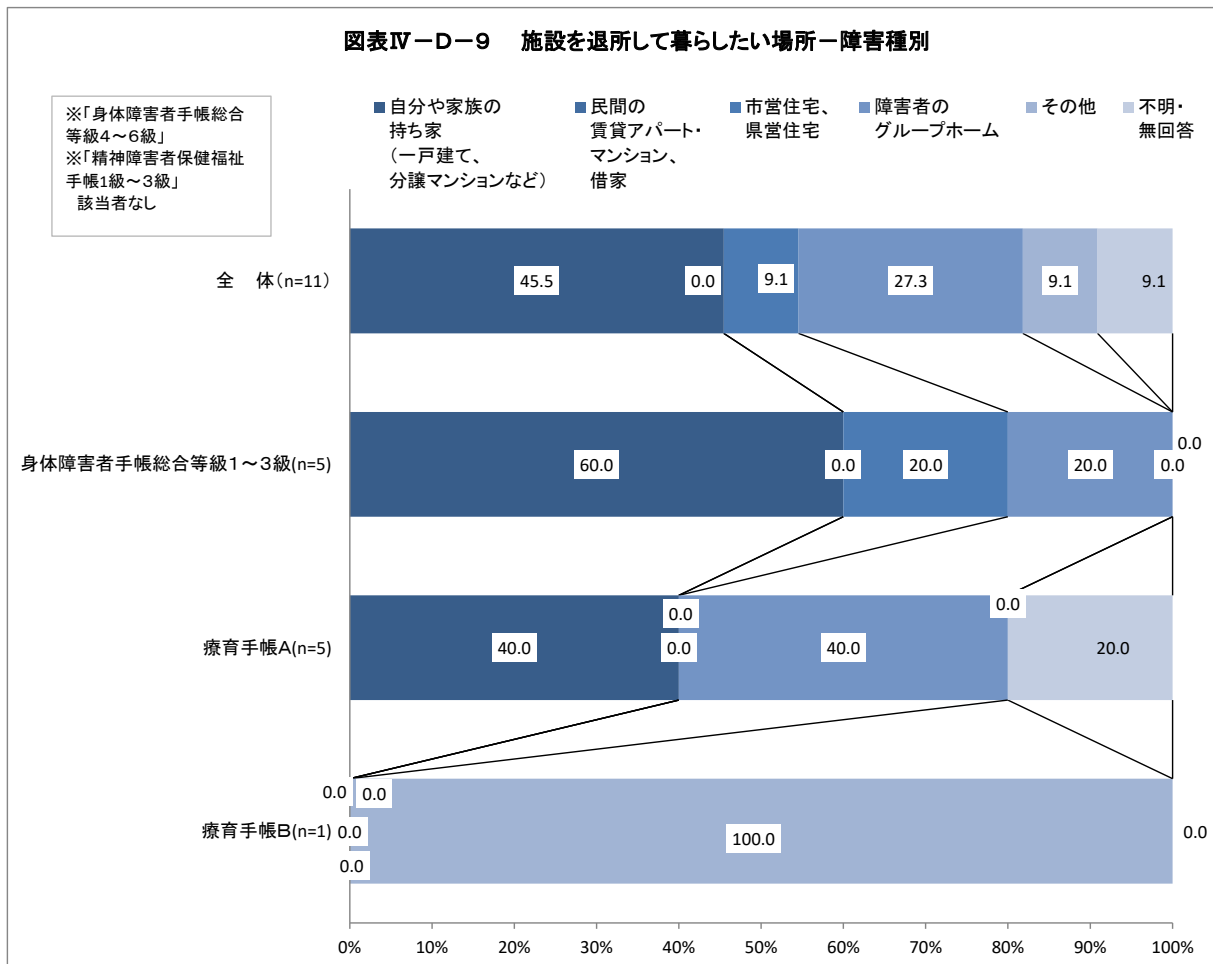
問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分や家族の持ち家」は、45.5%、「障害者のグループホーム」は、27.3%、「市営住宅、県営住宅」と「その他」は、9.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分や家族の持ち家」は、20歳代と30歳代と40歳代が100.0%である。「障害者のグループホーム」は、50歳代が66.7%、次に65歳以上が33.3%である。「市営住宅、県営住宅」は、50歳代が33.3%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分や家族の持ち家」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「障害者のグループホーム」は、療育手帳Bが100.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「市営住宅、県営住宅」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が20.0%である。



#### (6) 施設を退所しない・できない理由 (問9)

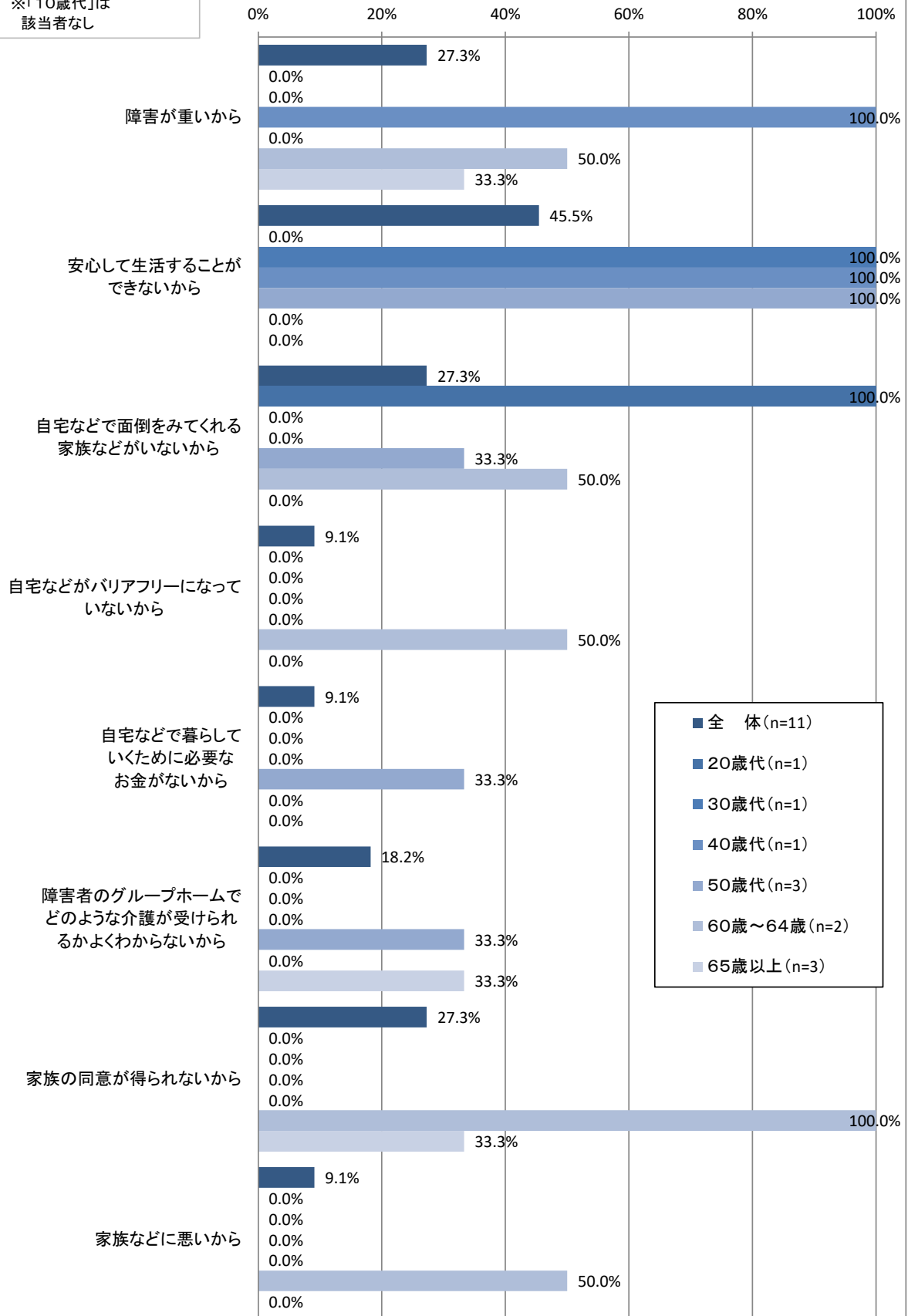
問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、施設を退所しない、または退所できない理由を複数回答でたずねた。

「安心して生活することができないから」は、45.5%、「障害が重いから」と「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」と「家族の同意が得られないから」は、27.3%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、30歳代と40歳代と50歳代が100.0%である。「障害が重いから」は、40歳代が100.0%、次に60歳～64歳が50.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、20歳代100.0%、次に60歳～64歳が50.0%である。「家族の同意が得られないから」は、60歳～64歳が100.0%である。

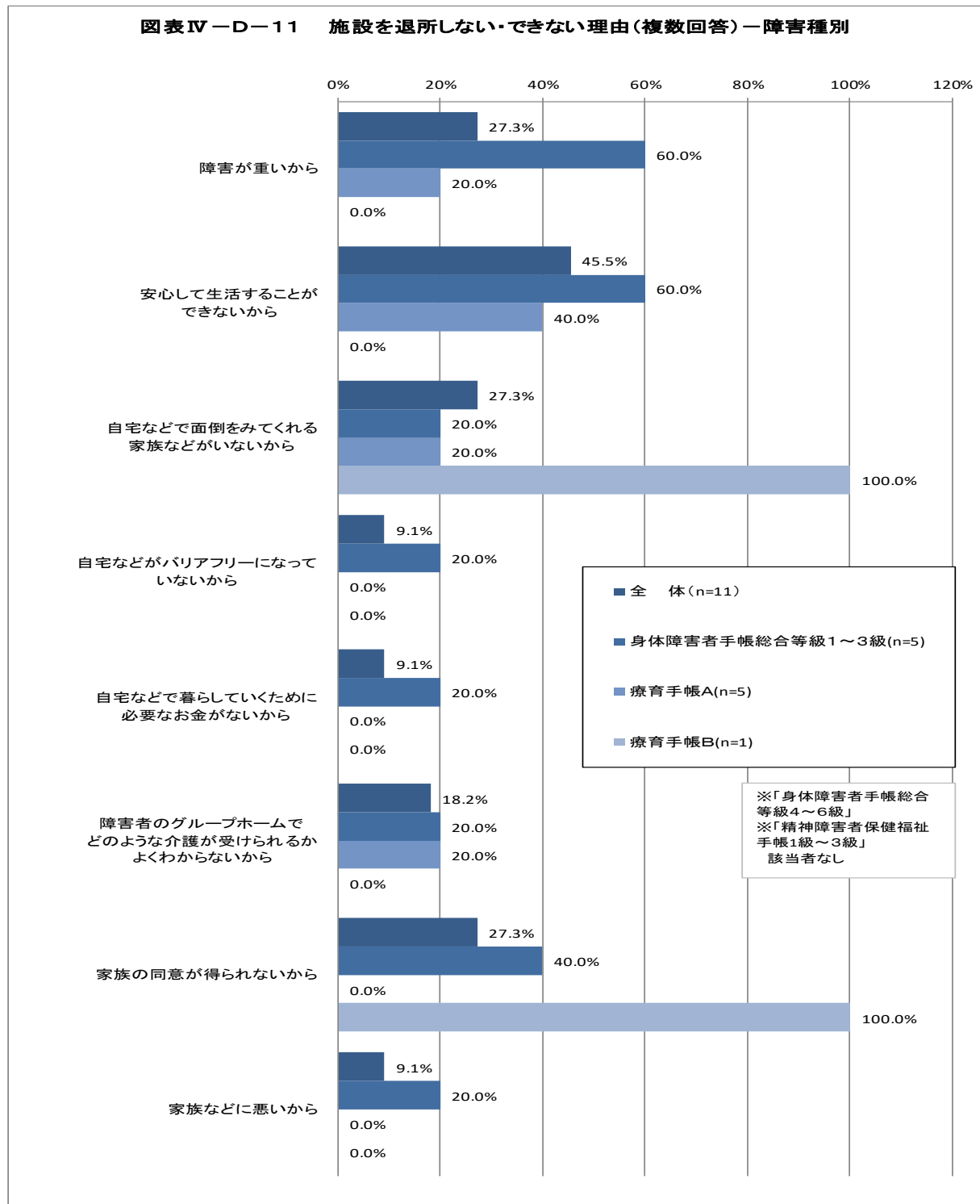
図表Ⅳ-D-10 施設を退所しない・できない理由(複数回答)一年齢別

※「10歳代」は  
該当者なし

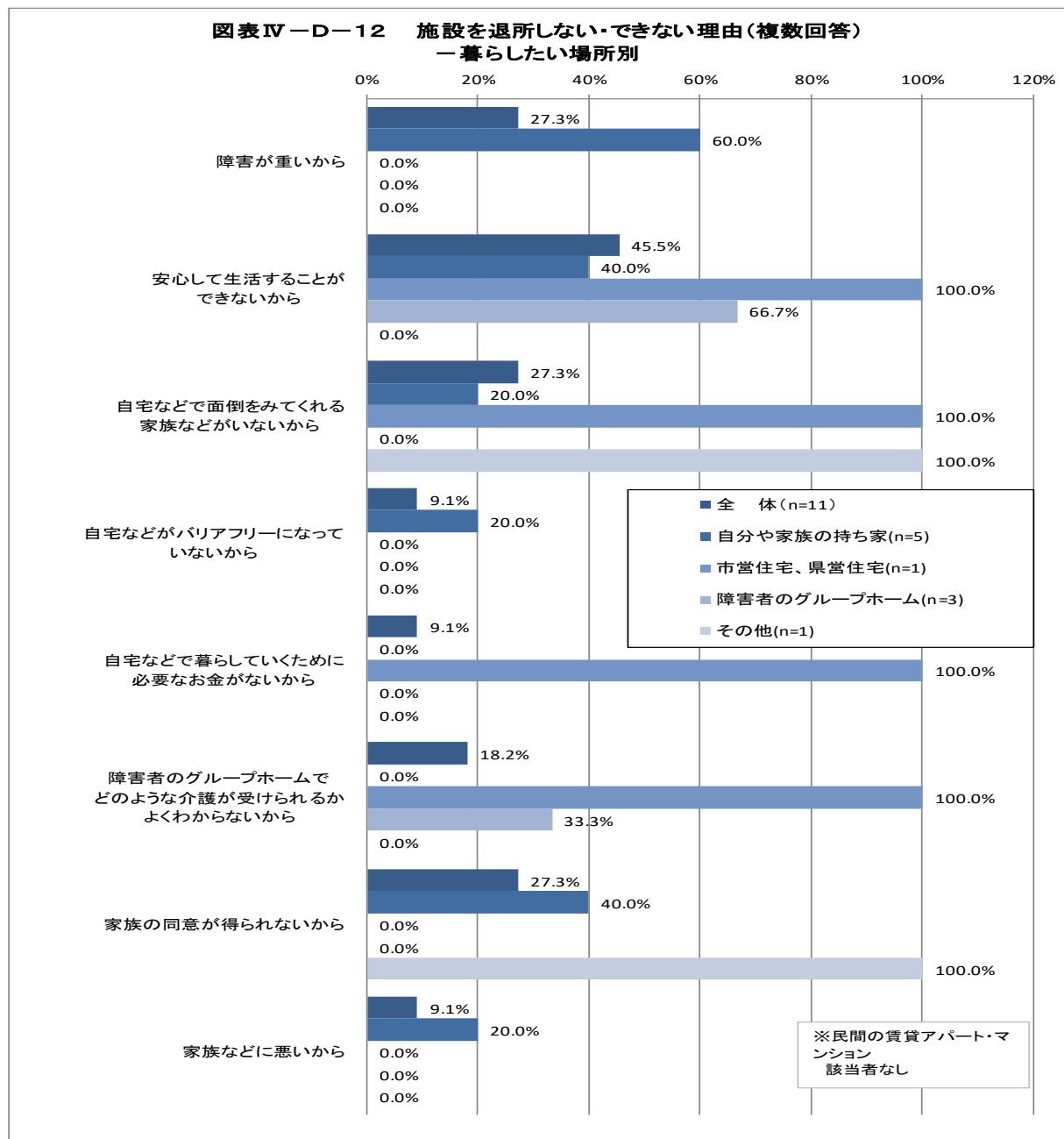


【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「障害が重いから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が60.0%、次に療育手帳Aが20.0%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、療育手帳Bが100.0%である。「家族の同意が得られないから」は、療育手帳Bが100.0%である。

図表Ⅳ-D-11 施設を退所しない・できない理由(複数回答)－障害種別



【退所して暮らしたい場所別】他の退所して暮らしたい場所別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「安心して生活することができないから」は、市営住宅・県営住宅が100.0%、次に障害者のグループホームが66.7%である。「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」は、市営住宅・県営住宅とその他が100.0%である。「家族の同意が得られないから」は、その他が100.0%である。「障害が重いから」は、自分または家族の持ち家が60.0%である。

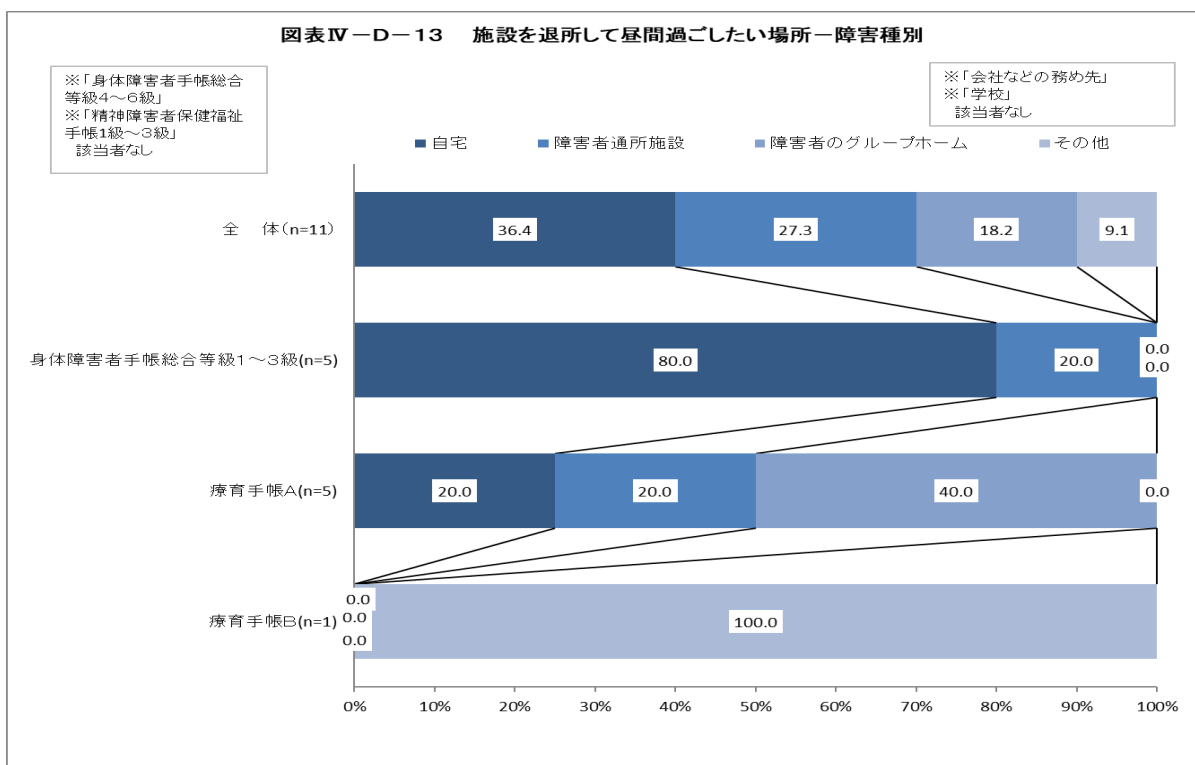


(7) 施設を退所して昼間過ごしたい場所（問10）

問5で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。

「自宅」は、36.4%、「障害者通所施設」は、27.3%、「障害者のグループホーム」は、18.2%である。

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が80.0%、次に療育手帳Aが20.0%である。「障害者通所施設」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが20.0%である。「障害者のグループホーム」は、療育手帳Aが40.0%である。





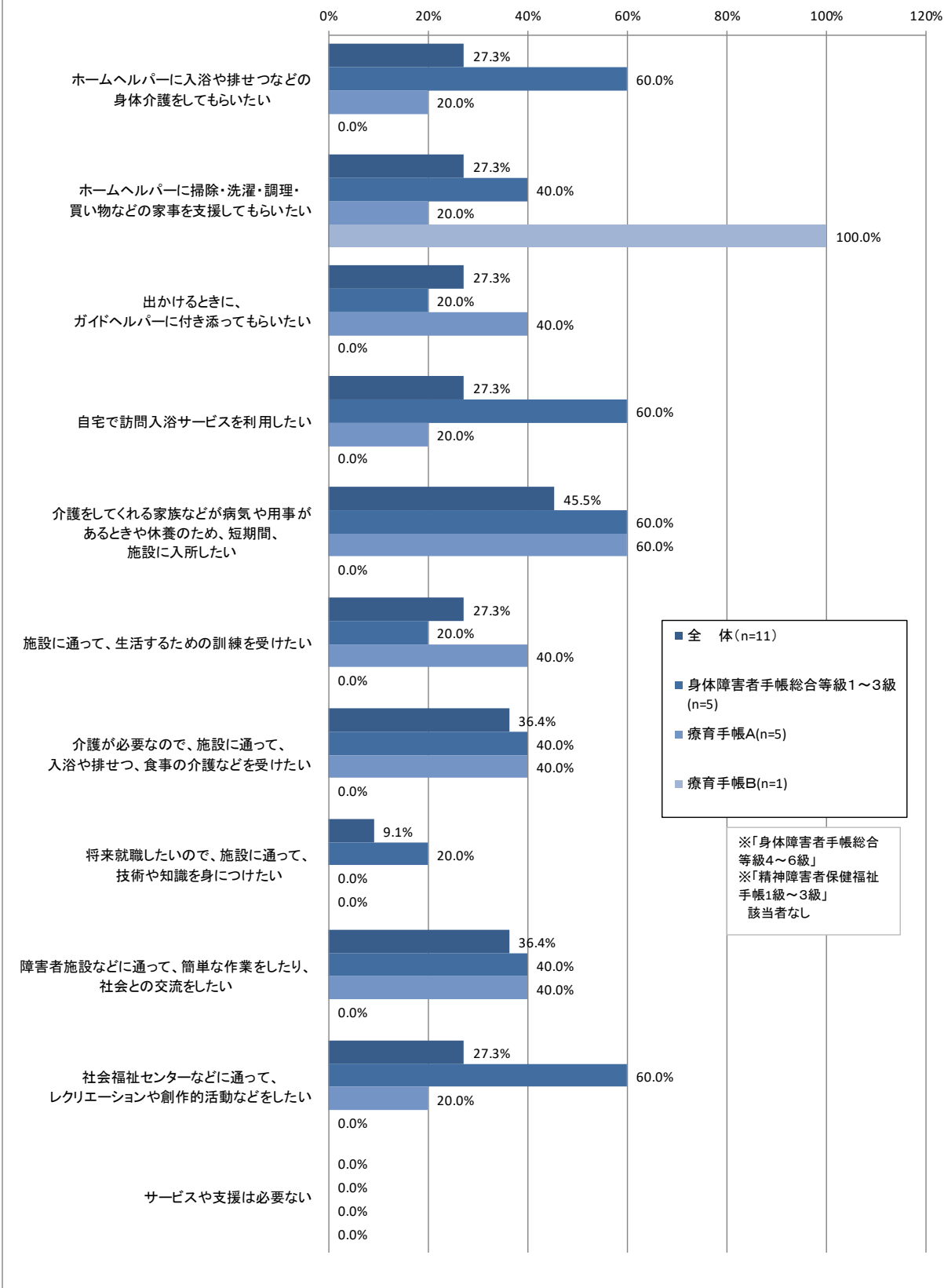
(8) 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援 (問 1 1)

問 5 で「施設を退所して暮らしたい」と回答した人に、昼間、どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、45.5%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」と「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、36.4%である。

**【障害種別】**他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級と療育手帳 A が 60.0%である。「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級と療育手帳 A が 40.0%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級と療育手帳 A が 40.0%である。

図表Ⅳ-D-14 施設を退所して昼間利用したいサービスや支援－障害種別(複数回答)



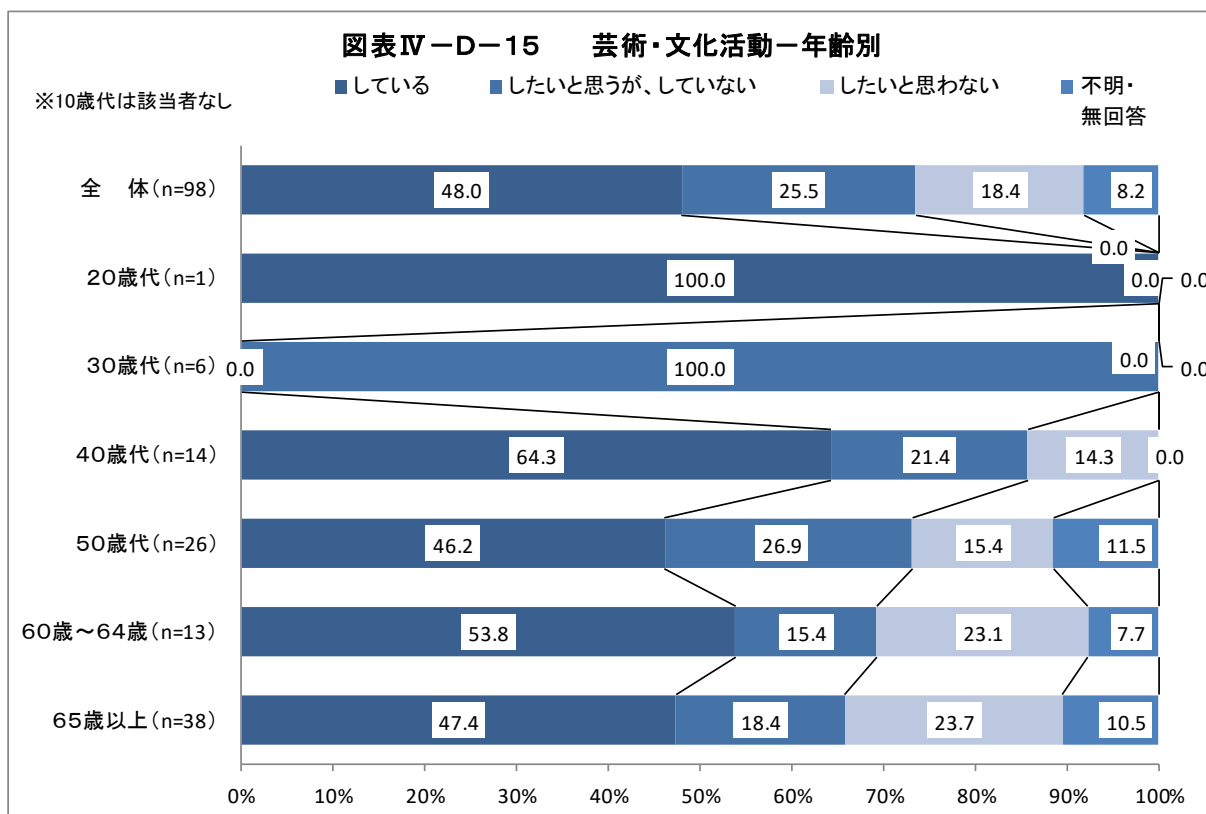
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、48.0%、「したいと思うが、していない」は、25.5%、「したいと思わない」は、18.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、20歳代が100.0%、次に40歳代が64.3%である。「したいと思うが、していない」は、30歳代が100.0%、次に50歳代が26.9%である。「したいと思わない」は、65歳以上が23.7%、次に60歳～64歳が23.1%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

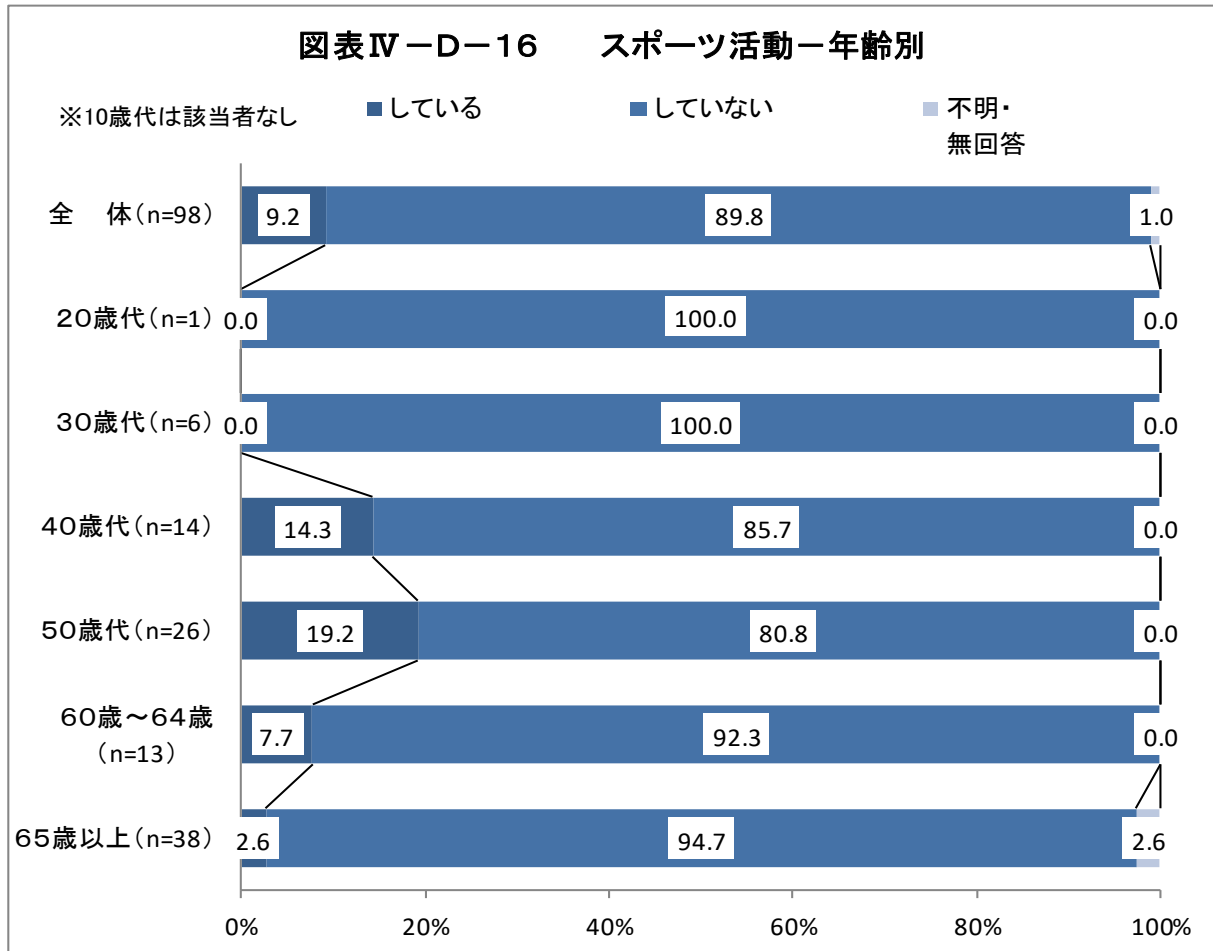


## (2) スポーツ活動の実施 (問 13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、9.2%、「していない」は、89.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、50歳代が19.2%、次に40歳代が14.3%である。「していない」は、20歳代と30歳代が100.0%、次に65歳以上が94.7%である。

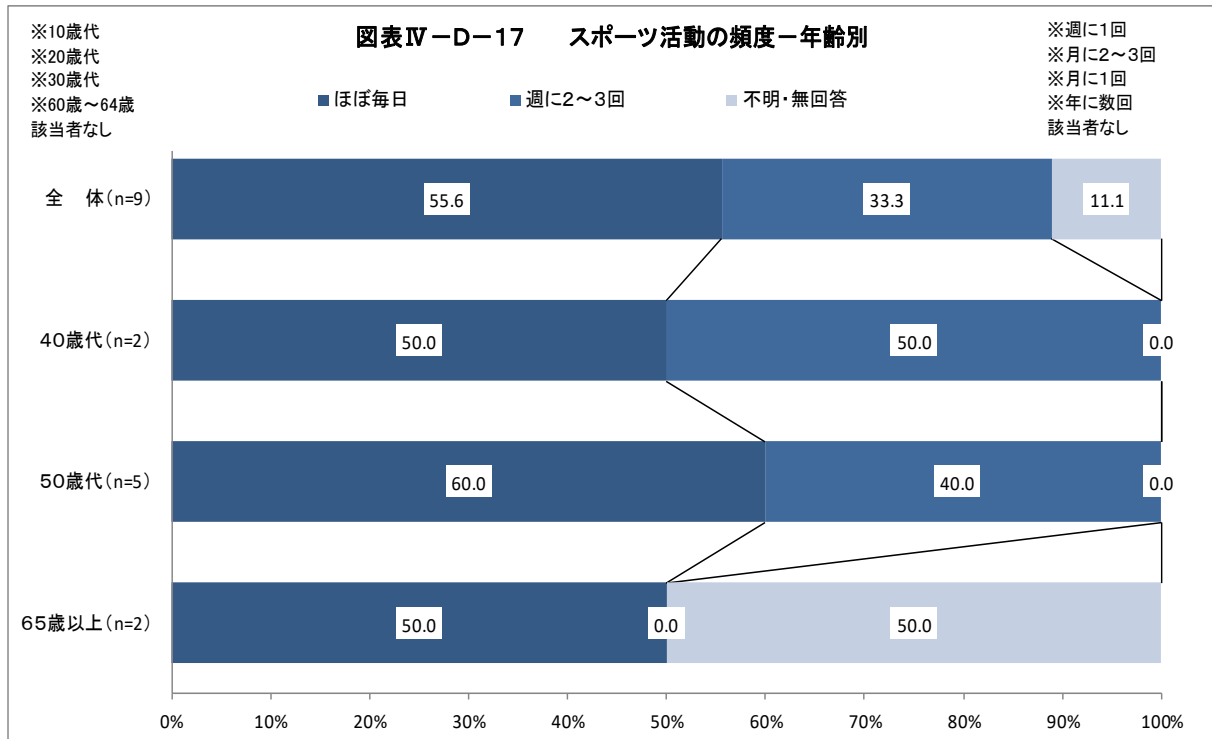


(3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4)

問 1 3 で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、55.6%、「週に 2 ～ 3 回」は、33.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、50 歳代が 60.0%、次に 40 歳代と 65 歳以上が 50.0%である。「週に 2 ～ 3 回」は、40 歳が 50.0%、次に 50 歳代が 40.0%である。

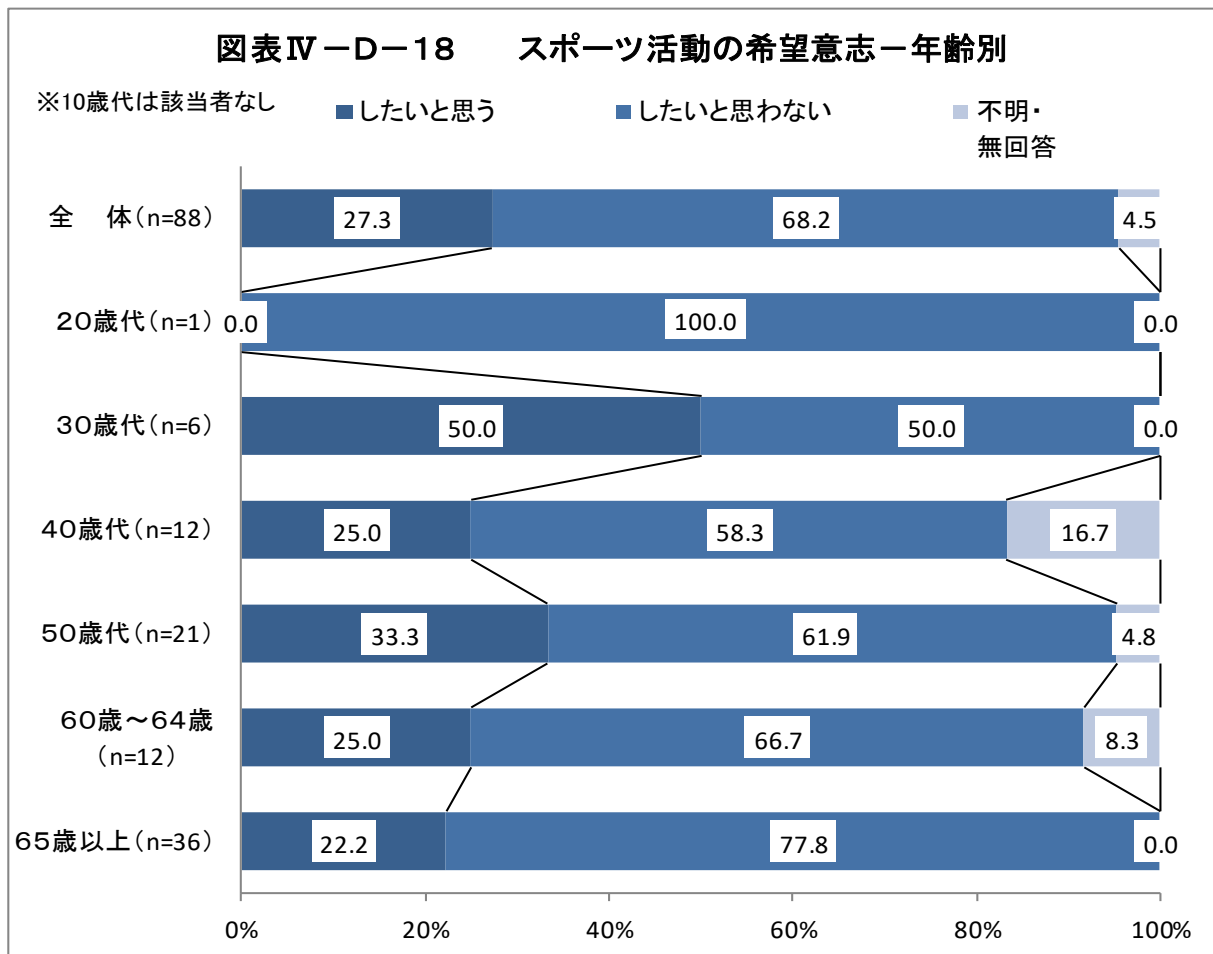


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志（問15）

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、27.3%、「したいと思わない」は、68.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、30歳代が50.0%、次に50歳代が33.3%である。一方「したいと思わない」は、20歳代が100.0%、次に65歳以上が77.8%である。



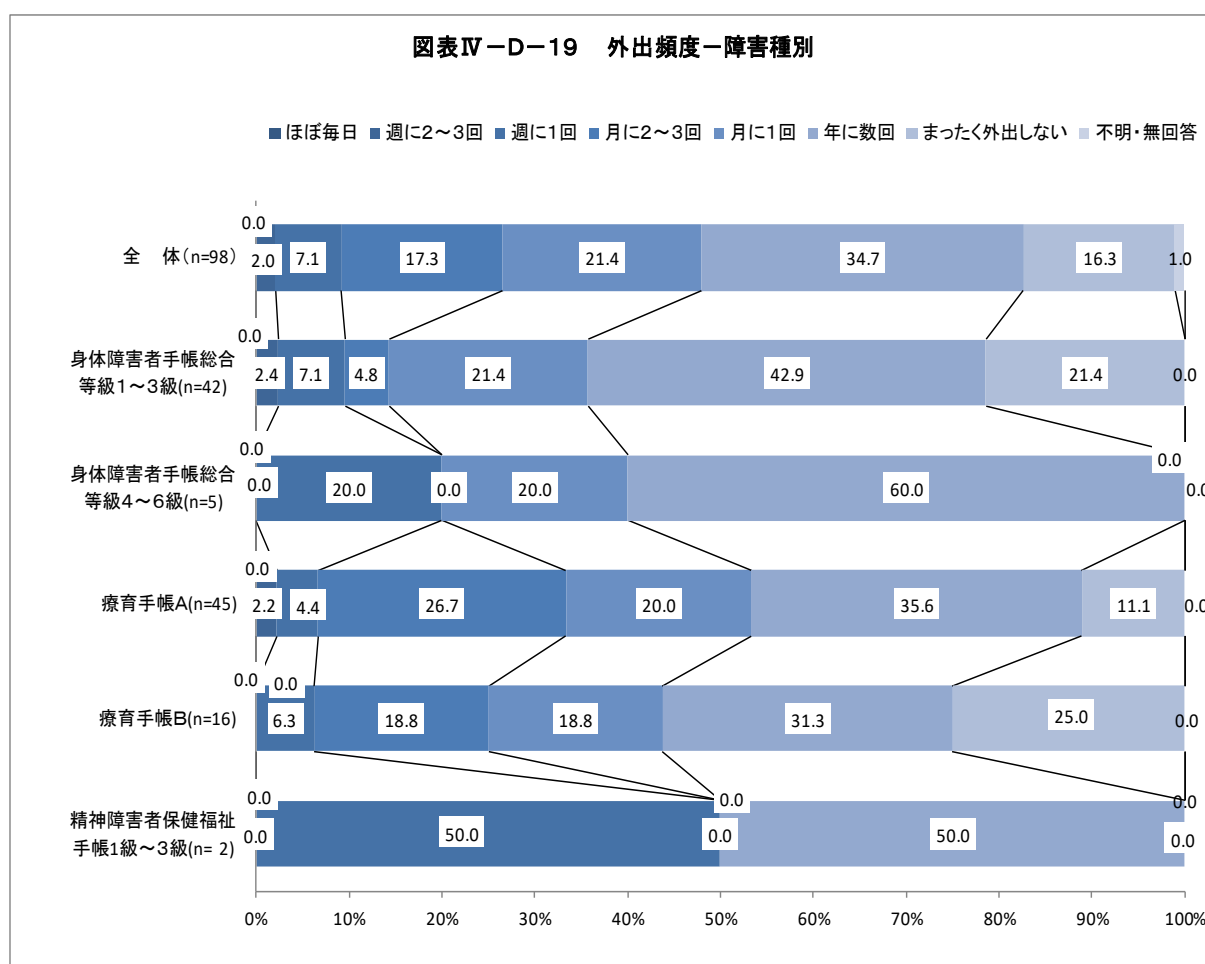
### 3 外出について

#### (1) 外出頻度 (問16)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「年に数回」は、34.7%、「月に1回」は、21.4%、「月に2～3回」は、17.3%、「まったく外出しない」は、16.3%である。

【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「年に数回」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が60.0%、次に精神障害者保健福祉手帳1～3級が50.0%である。「月に1回」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が21.4%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級と療育手帳Aが20.0%である。「月に2～3回」は、療育手帳Aが26.7%、次に療育手帳Bが18.8%である。「まったく外出しない」は、療育手帳Bが25.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が21.4%である。



## (2) 外出時に困っていること (問17)

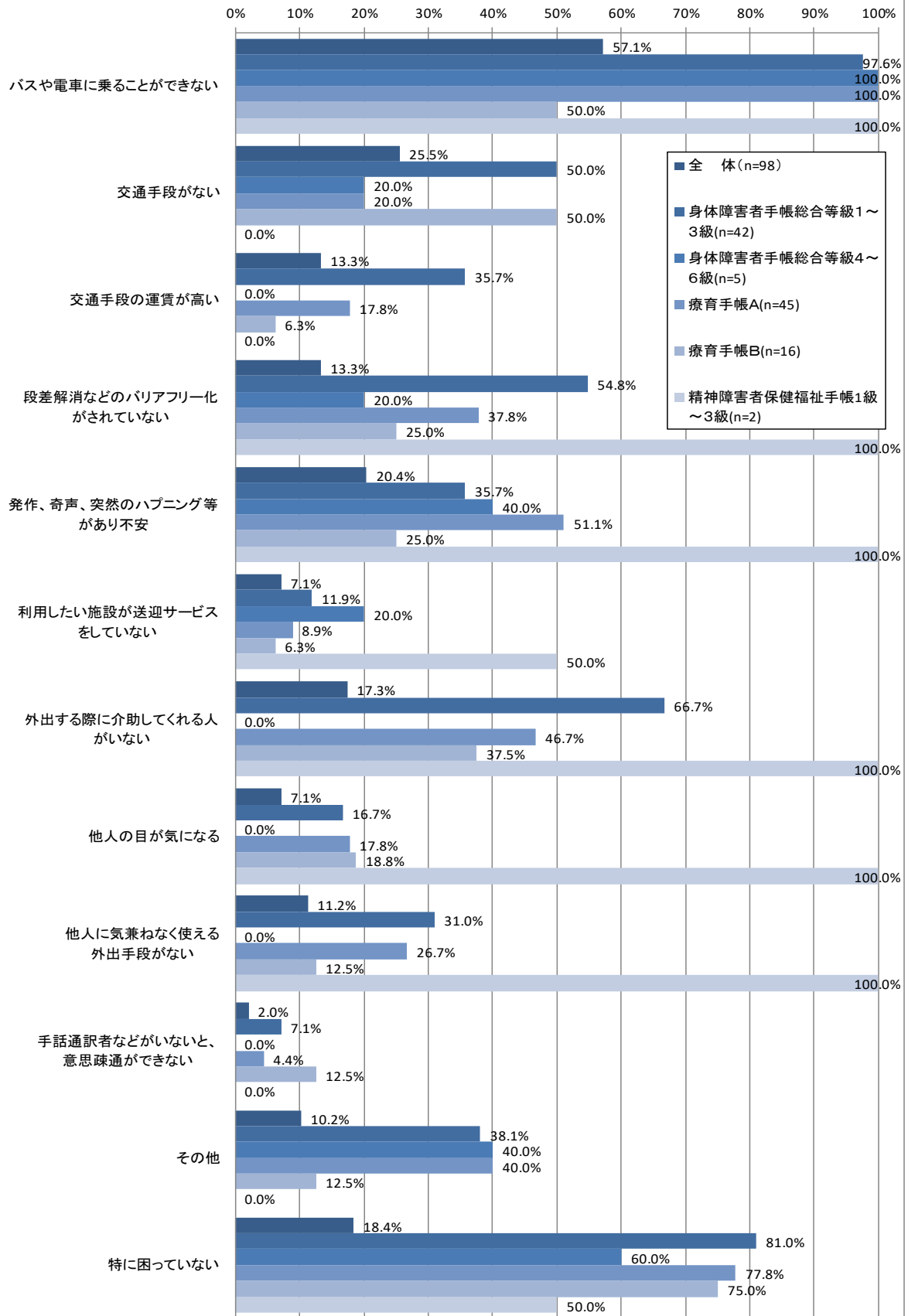
外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「バスや電車に乗ることができない」は、57.1%、「交通手段がない」は、25.5%、「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、20.4%、「特に困っていない」は、18.4%、「外出する際に介助してくれる人がいない」は、17.3%である。

**【障害種別】**他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「バスや電車に乗ることができない」は、身体障害者手帳総合等級4～6級と療育手帳Aと精神障害者保健福祉手帳1～3級が100.0%、身体障害者手帳総合等級1～3級が97.6%である。「交通手段がない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Bが50.0%である。「発作、奇声、突然のハプニング等があり不安」は、精神障害者保健福祉手帳1～3級が100.0%、次に療育手帳Aが51.1%である。「特に困っていない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が81.0%、次に療育手帳Aが77.8%である。



図表Ⅳ-D-20 外出時に困っていること-障害種別(複数回答)



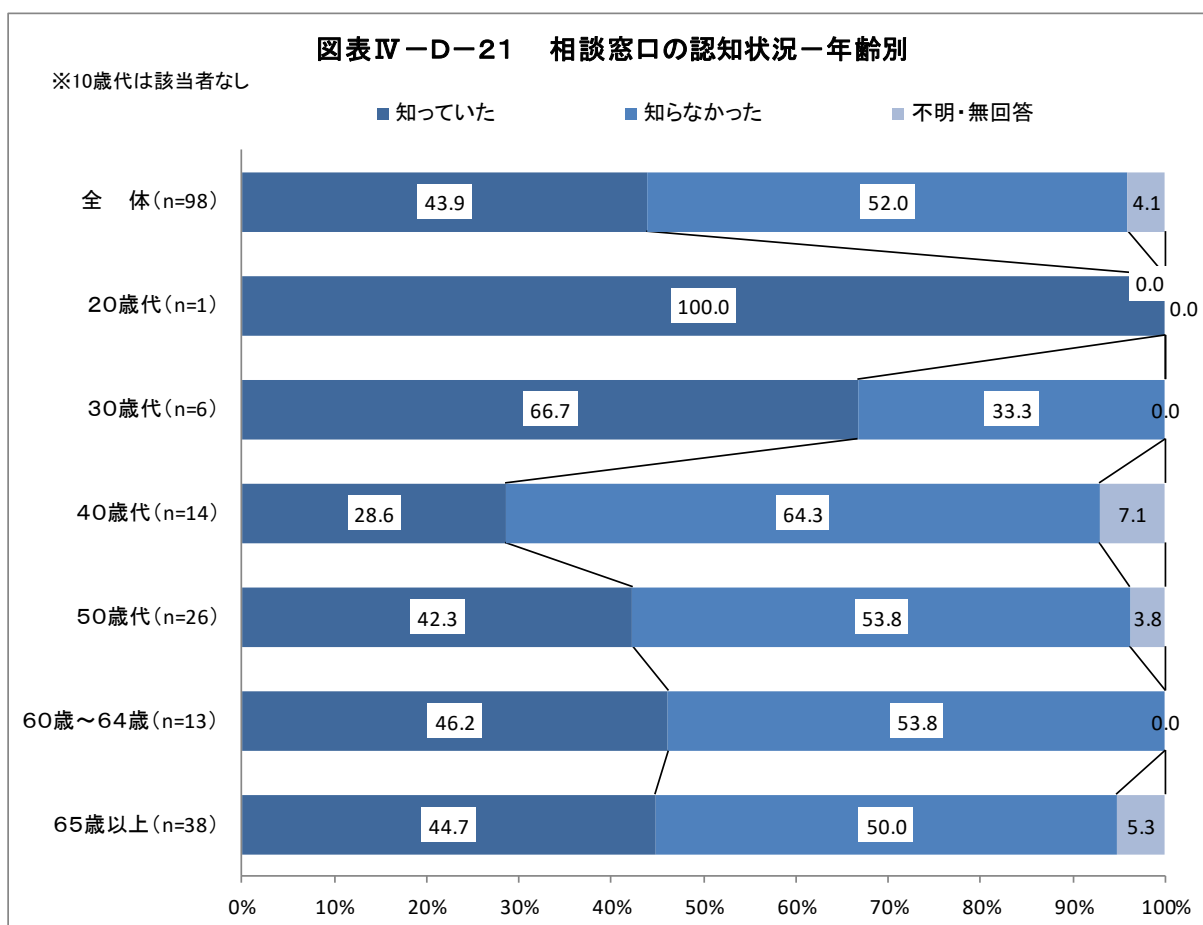
#### 4 相談窓口について

##### (1) 相談窓口の認知状況（問18）

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

「知っていた」は、43.9%、「知らなかった」は、52.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「知っていた」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が66.7%である。一方「知らなかった」は、40歳代が64.3%、次に50歳代と60歳～64歳が53.8%である。

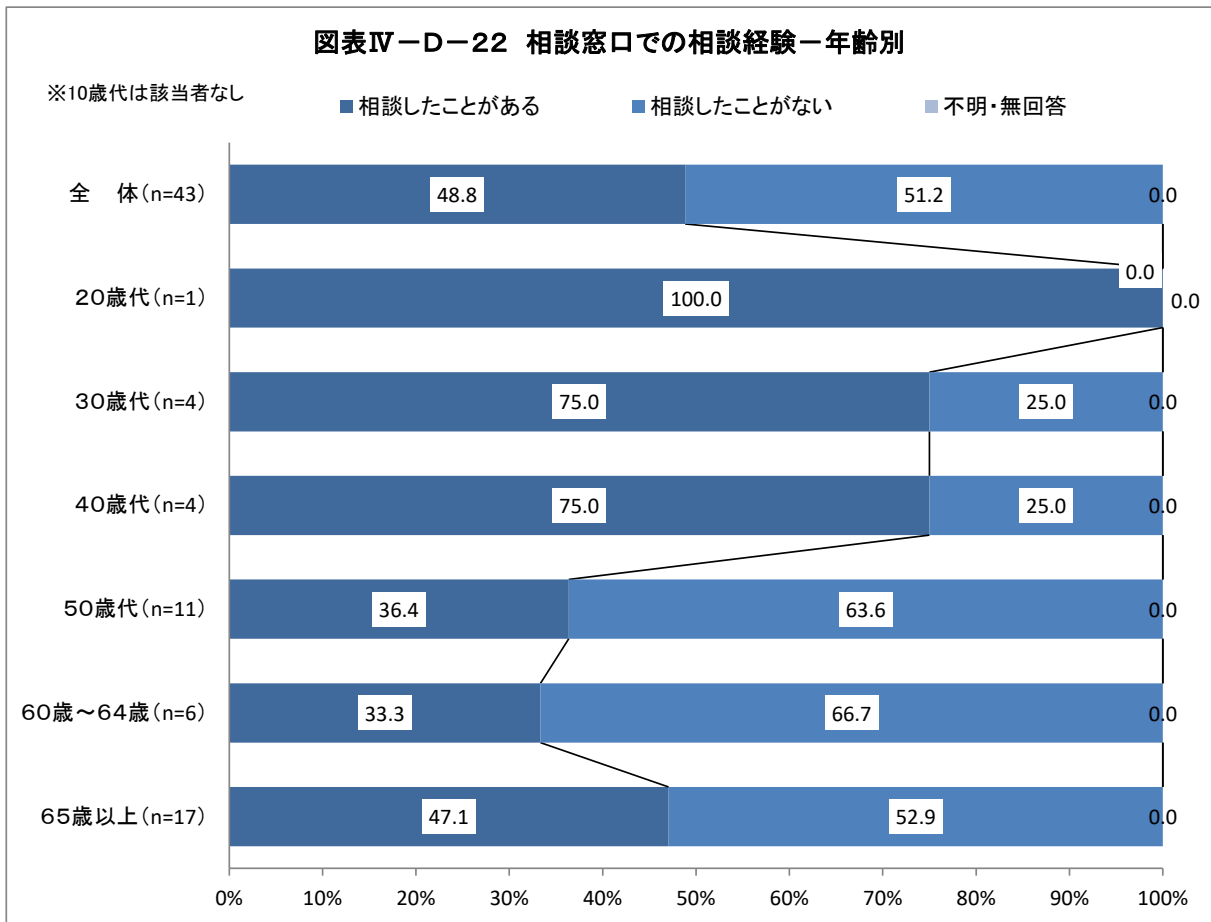


(2) 相談窓口での相談経験 (問19)

問18で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

「相談したことがない」は、51.2%、「相談したことがある」は、48.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「相談したことがない」は、60歳～64歳が66.7%、次に50歳代が63.6%である。一方「相談したことがある」は、20歳代が100.0%、次に30歳代と40歳代が75.0%である。

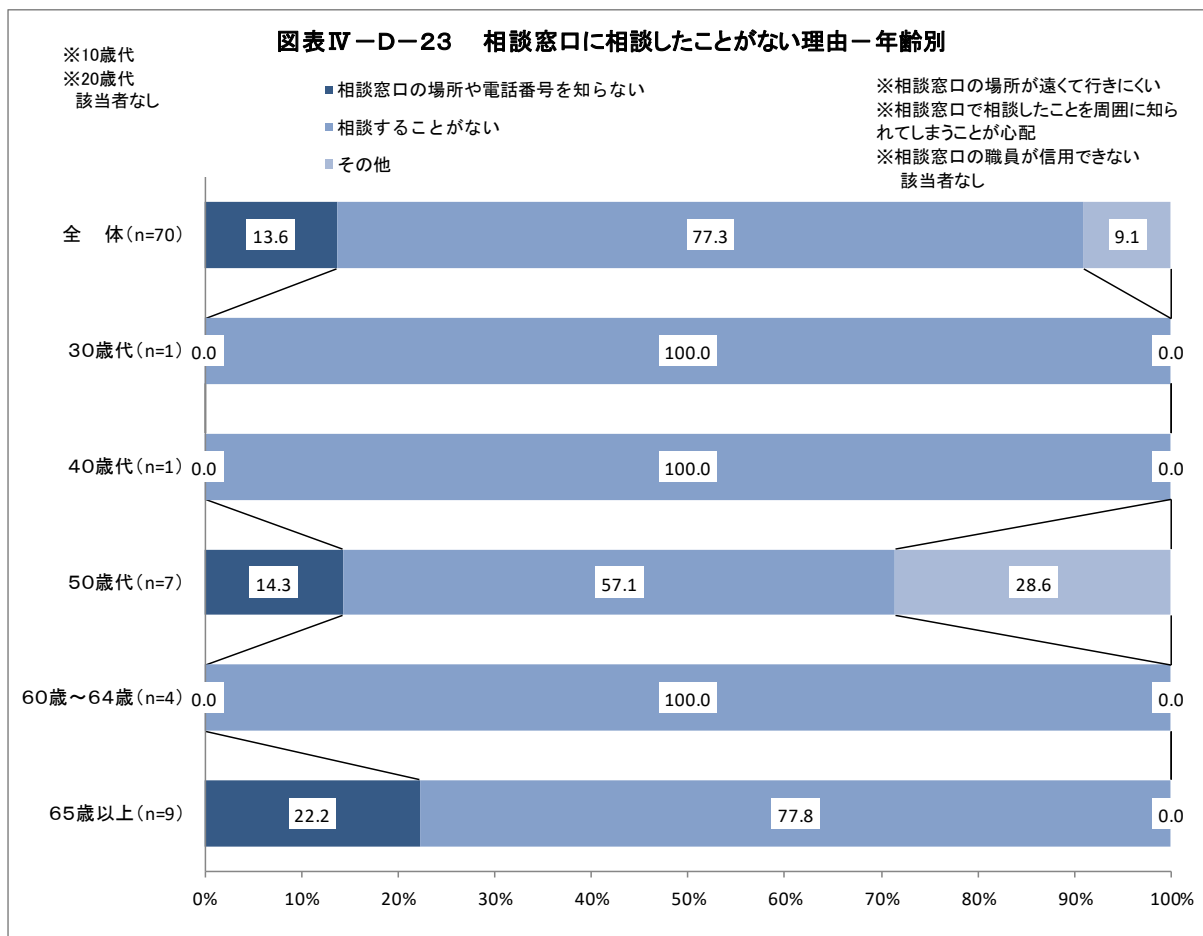


### (3) 相談窓口に相談したことがない理由（問20）

問19で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、77.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、13.6%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「相談することがない」は、30歳代と40歳代と60歳～64歳が100.0%、次に65歳以上が77.8%である。「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、65歳以上が22.2%、50歳代が14.3%である。



## 5 障害のある人への差別について

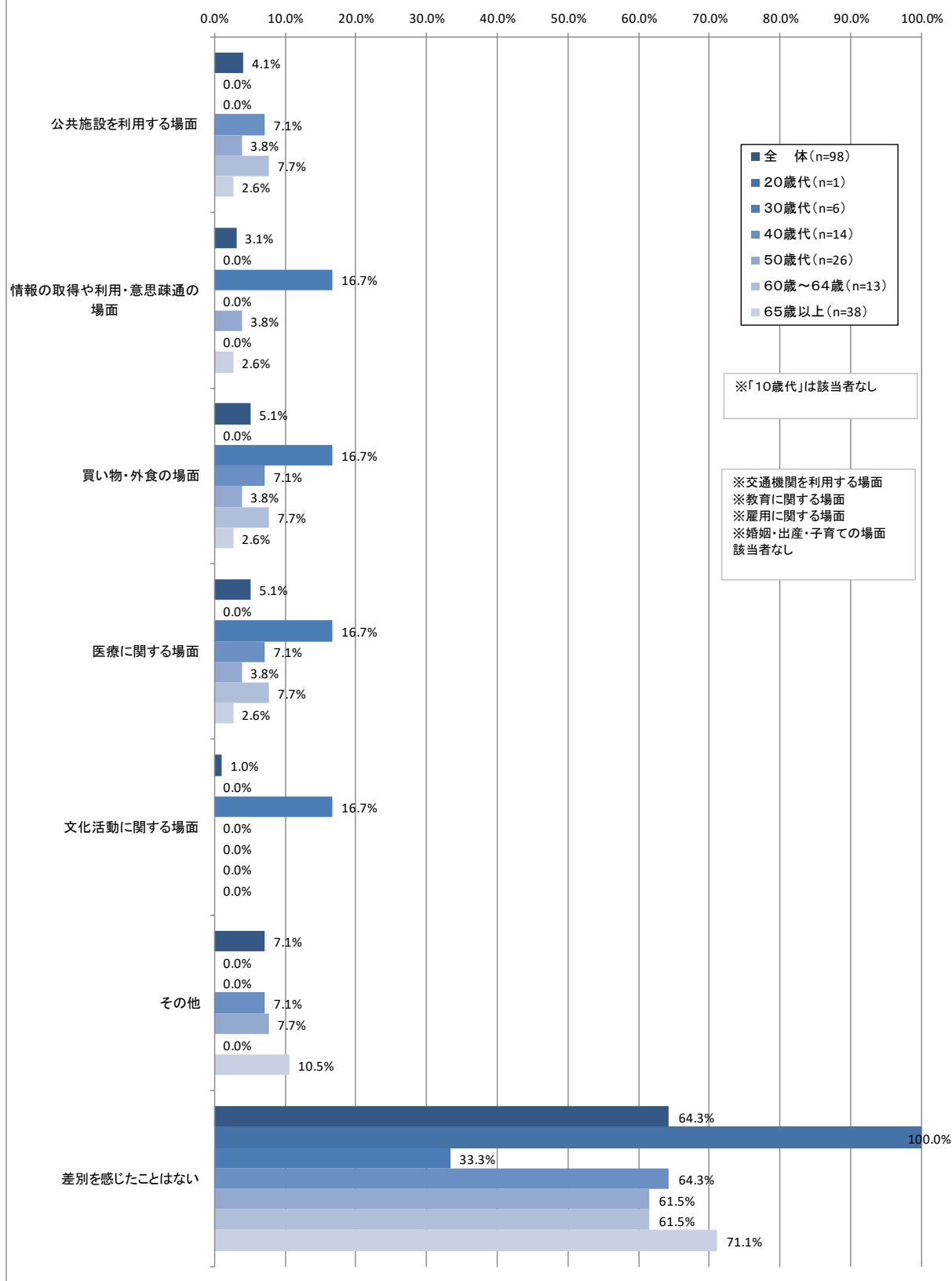
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問21）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、64.3%、「買い物・外食の場面」と「医療に関する場面」は、5.1%、「公共施設を利用する場面」は、4.1%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、20歳代が100.0%、次に65歳以上が71.1%である。「買い物・外食の場面」は、30歳代が16.7%、次に60歳～64歳が7.7%である。「医療に関する場面」は、30歳代が16.7%、次に60歳～64歳が7.7%である。「公共施設を利用する場面」は、60歳～64歳が7.7%、次に40歳代が7.1%である。

図表Ⅳ-D-24 障がい差別と感じた場面一年齢別(複数回答)

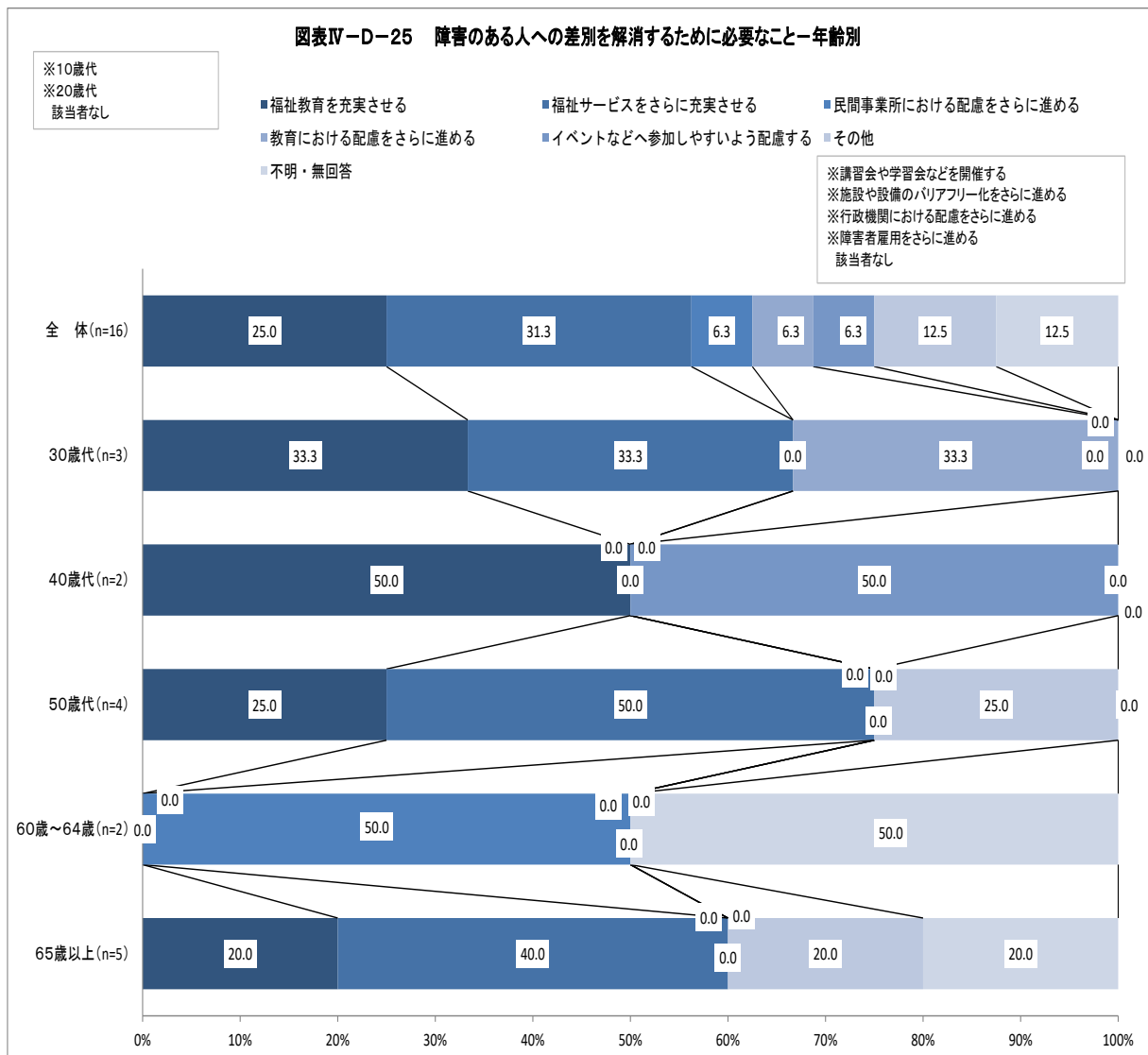


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること（問22）

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、31.3%、「福祉教育を充実させる」は、25.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉サービスをさらに充実させる」は、50歳代が50.0%、次に65歳以上が40.0%である。「福祉教育を充実させる」は、40歳代が50.0%、次に30歳代が33.3%である。「イベントなどへ参加しやすいよう配慮する」は、40歳代が50.0%である。



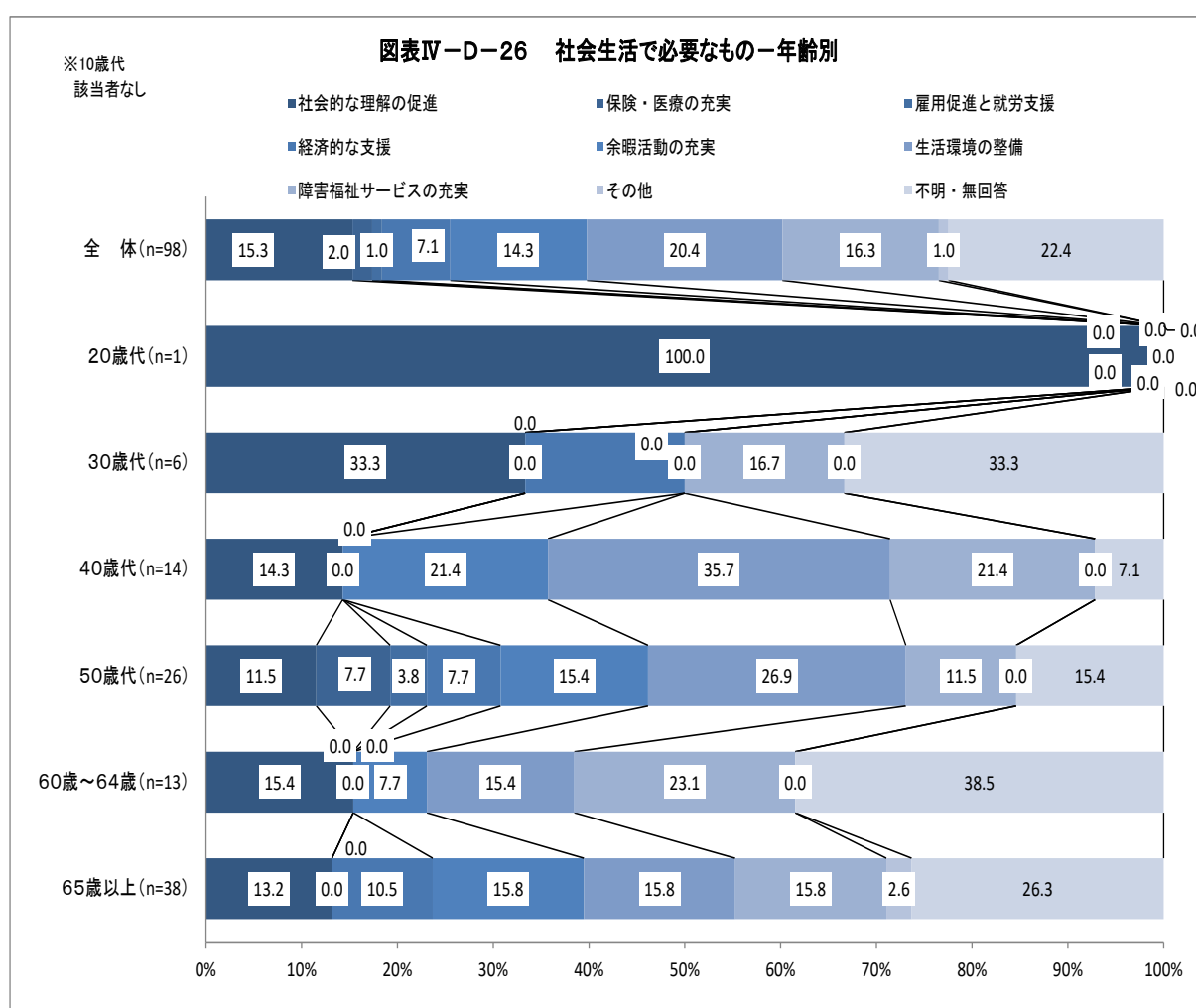
## 6 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問23）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「生活環境の整備」は、20.4%、「障害福祉サービスの充実」は、16.3%、「社会的な理解の促進」は、15.3%、「余暇活動の充実」は、14.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「生活環境の整備」は、40歳代が35.7%、次に50歳代が26.9%である。「障害福祉サービスの充実」は、60歳～64歳が23.1%、次に40歳代が21.4%である。「社会的な理解の促進」は、20歳代が100.0%、次に30歳代が33.3%である。「余暇活動の充実」は、40歳代が21.4%、次に65歳以上が15.8%である。





## E 高齡者



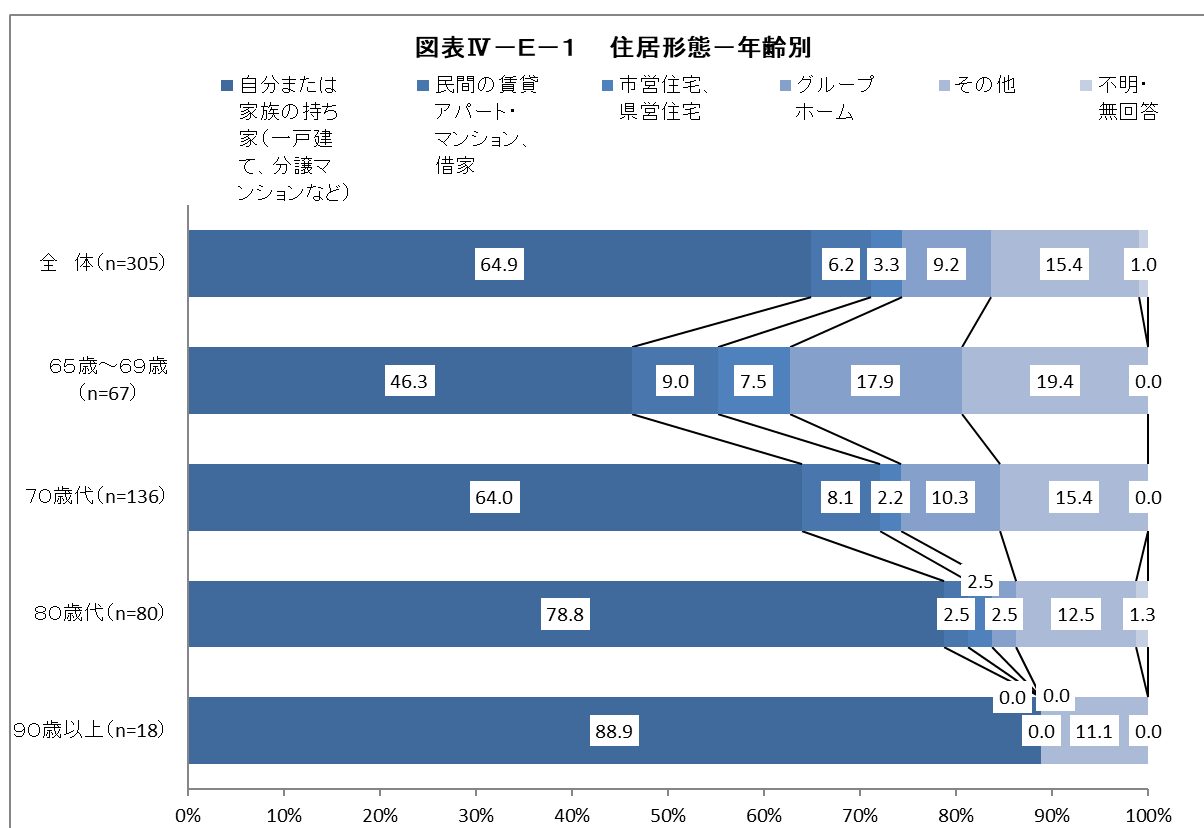
# 1 生活の場について

## (1) 住居形態 (問4)

現在、どこで暮らしているかをたずねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、64.9%、「その他」は、15.4%、「グループホーム」は、9.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」は、90歳以上が88.9%、次に80歳代が78.8%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「グループホーム」は、65歳～69歳が17.9%、次に70歳代が10.3%である。

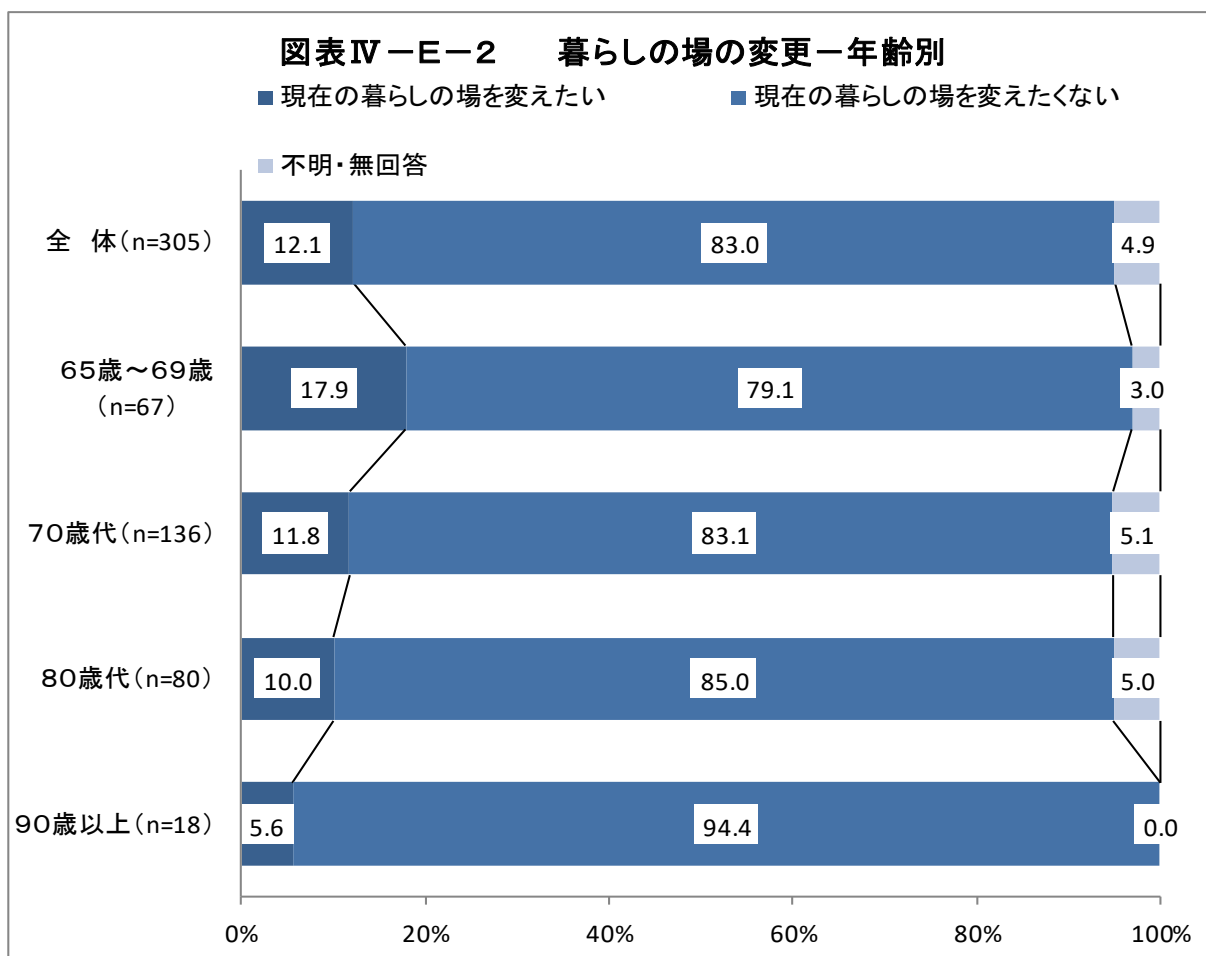


## (2) 暮らしの場の変更 (問5)

現在の暮らしの場を変えたいかをたずねた。

「現在の暮らしの場を変えたくない」は、83.0%、「現在の暮らしの場を変えたい」は、12.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の暮らしの場を変えたくない」は、90歳以上が94.4%、次に80歳代が85.0%である。年齢が上がるごとに割合が高い。一方「現在の暮らしの場を変えたい」は、65歳～69歳が17.9%、次に70歳代が11.8%である。

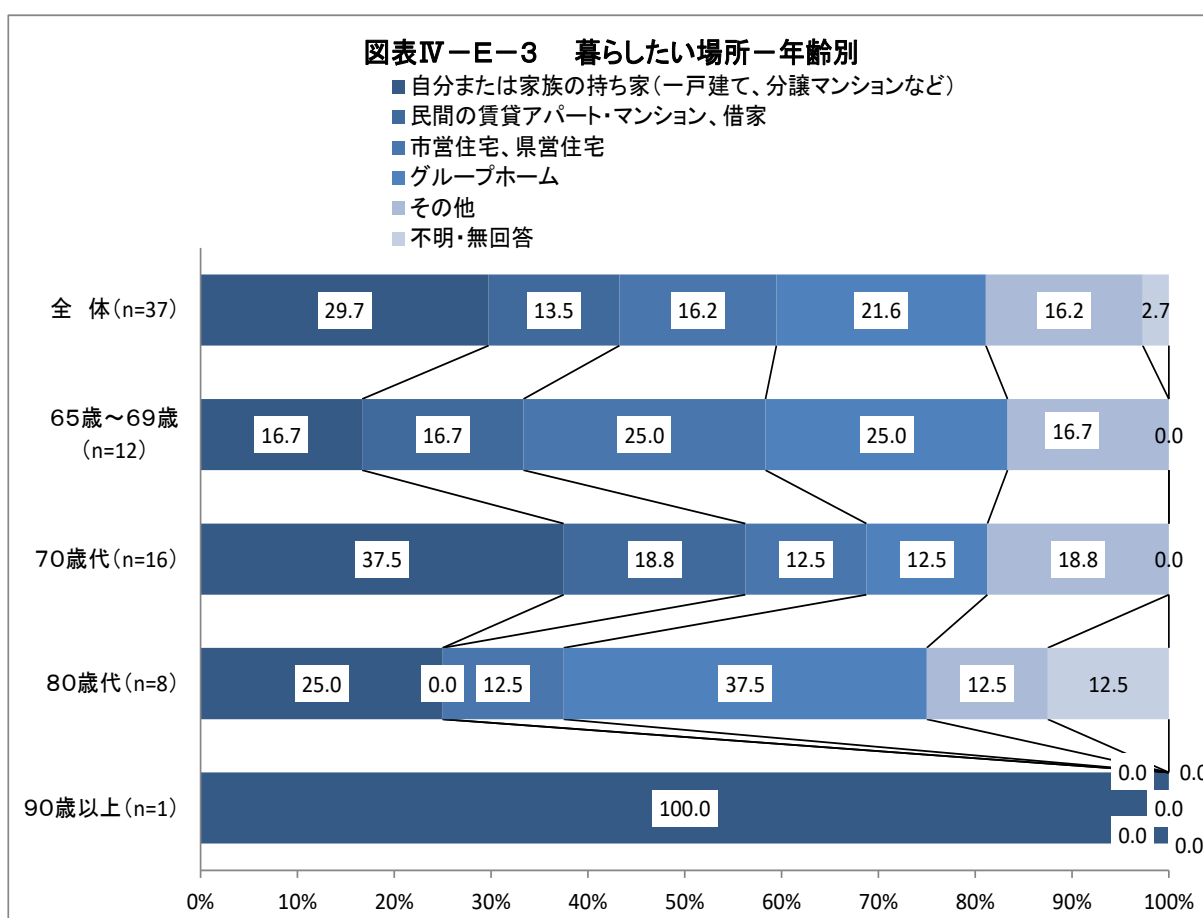


### (3) 暮らしたい場所（問6）

問5で「現在の暮らしの場を変えたい」と回答した人に、今後、どこで暮らしたいかをたずねた。

「自分または家族の持ち家」は、29.7%、「グループホーム」は、21.6%、「市営住宅・県営住宅」と「その他」は、16.2%、「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、13.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自分または家族の持ち家」は、90歳以上が100.0%、次に70歳代が37.5%である。「グループホーム」は、80歳代が37.5%、次に65歳～69歳が25.0%である。「市営住宅・県営住宅」は、65歳～69歳が25.0%である。「民間の賃貸アパート・マンション、借家」は、70歳代が18.8%である。

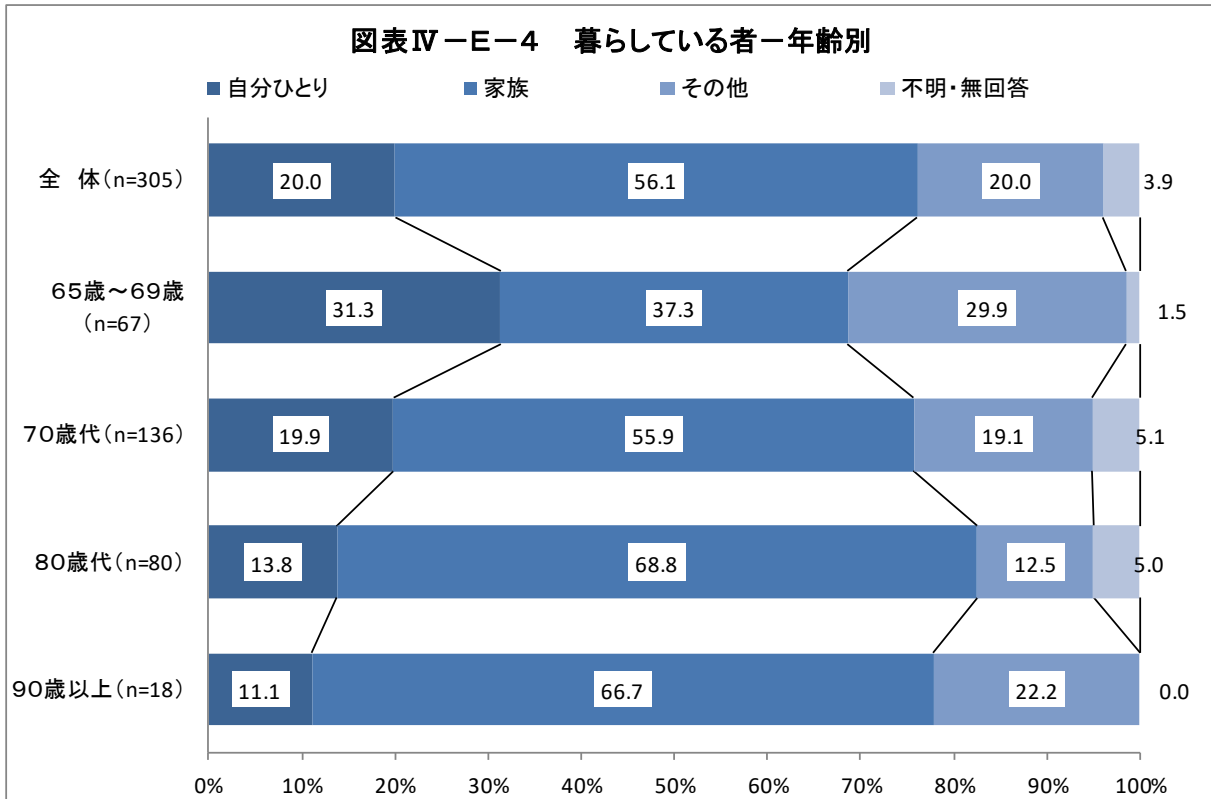


(4) 世帯構成 (問7)

現在、だれと暮らしているかをたずねた。

「家族」は、56.1%、「自分ひとり」は、20.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族」は、80歳代が68.8%、次に90歳以上が66.7%である。一方「自分ひとり」は、65歳～69歳が31.3%、次に70歳代が19.9%である。年齢が下がるごとに割合が高い。

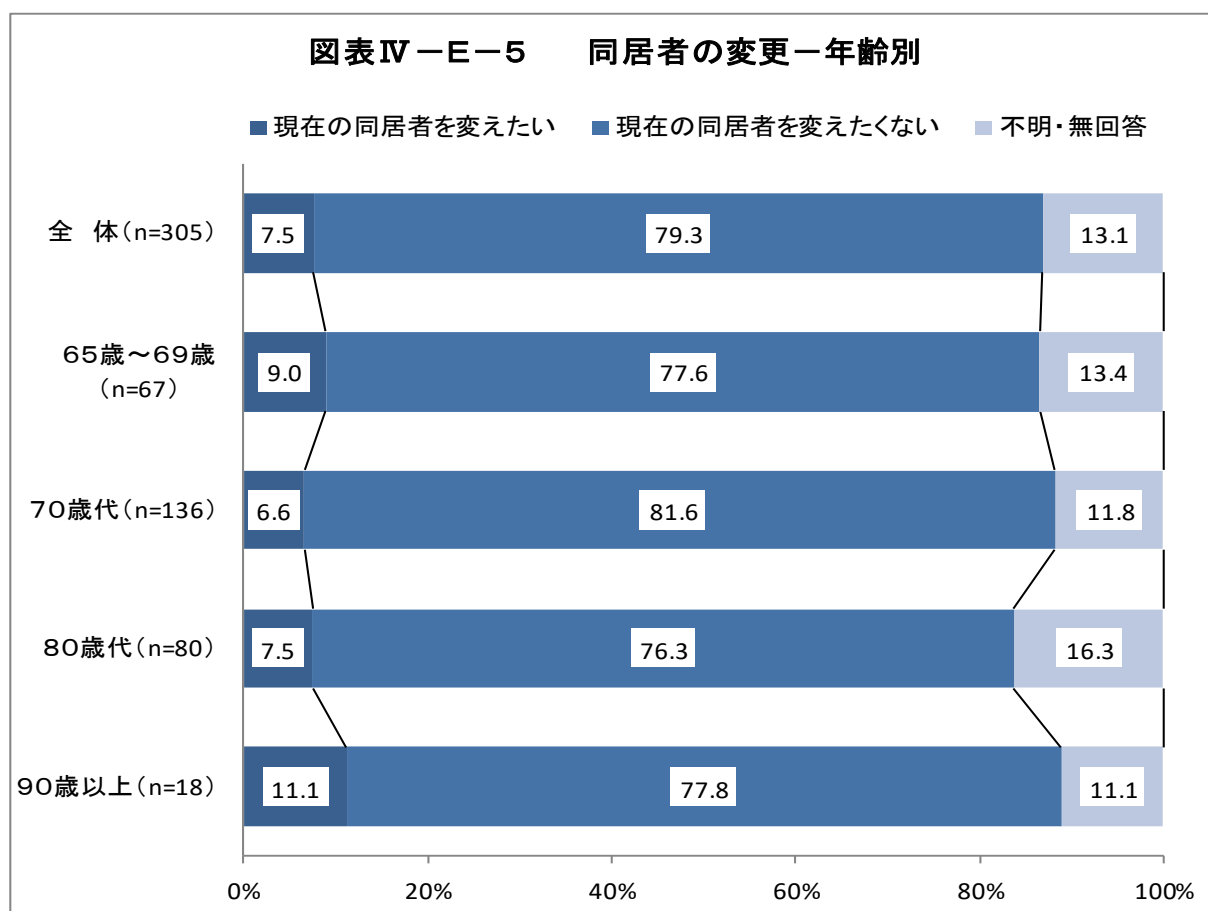


### (5) 同居者の変更（問8）

現在の同居者を変えたいかをたずねた。

「現在の同居者を変えたくない」は、79.3%、「現在の同居者を変えたい」は、7.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「現在の同居者を変えたくない」は、70歳代が81.6%、次に90歳以上が77.8%である。一方「現在の同居者を変えたい」は、90歳以上が11.1%、次に65歳～69歳が9.0%である。

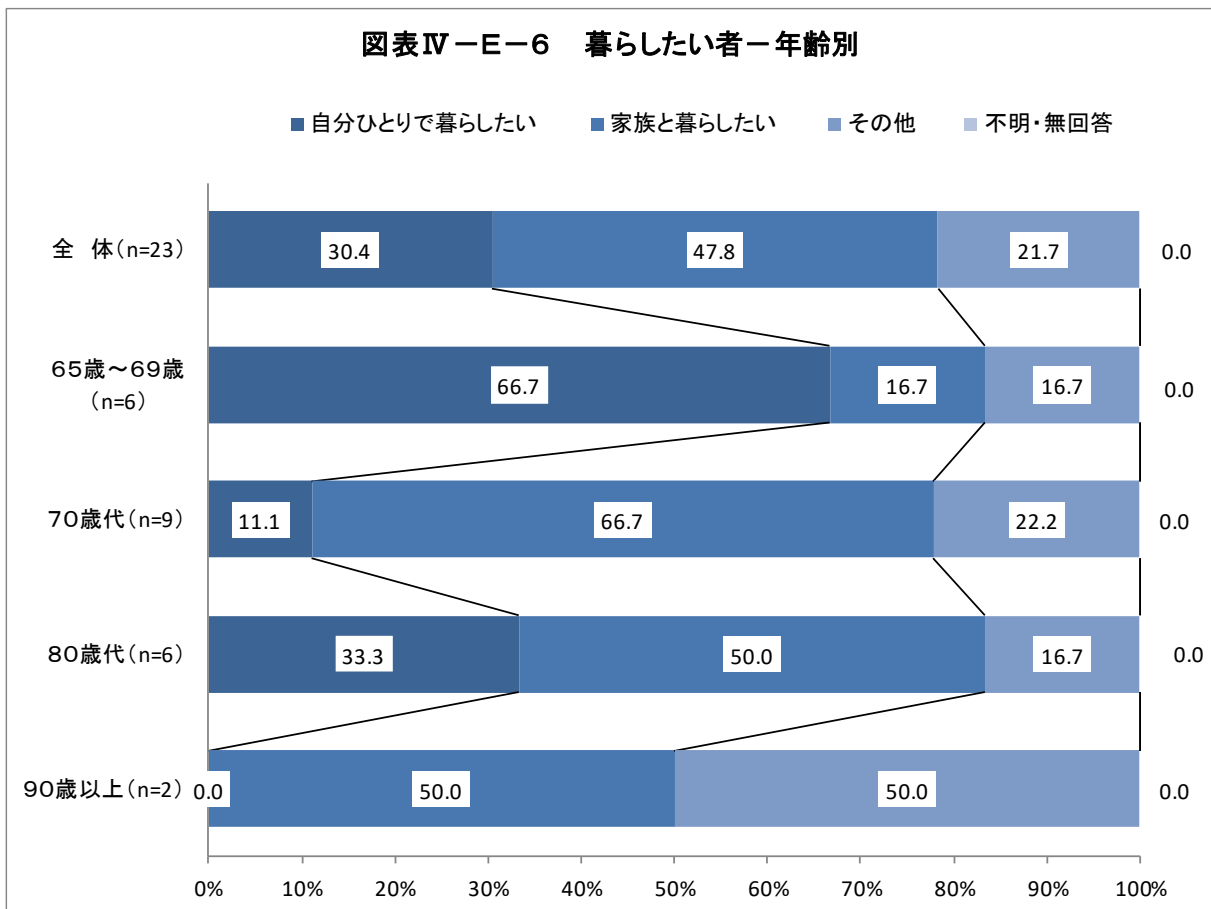


(6) 暮らしたい者 (問9)

問8で「現在の同居者を変えたい」と回答した人に、今後、だれと暮らしたいかをたずねた。

「家族と暮らしたい」は、47.8%、「自分ひとりで暮らしたい」は、30.4%、「その他」は、21.7%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「家族と暮らしたい」は、70歳代が66.7%、次に80歳代と90歳以上が50.0%である。一方「自分ひとりで暮らしたい」は、65歳～69歳が66.7%、次に80歳代が33.3%である。



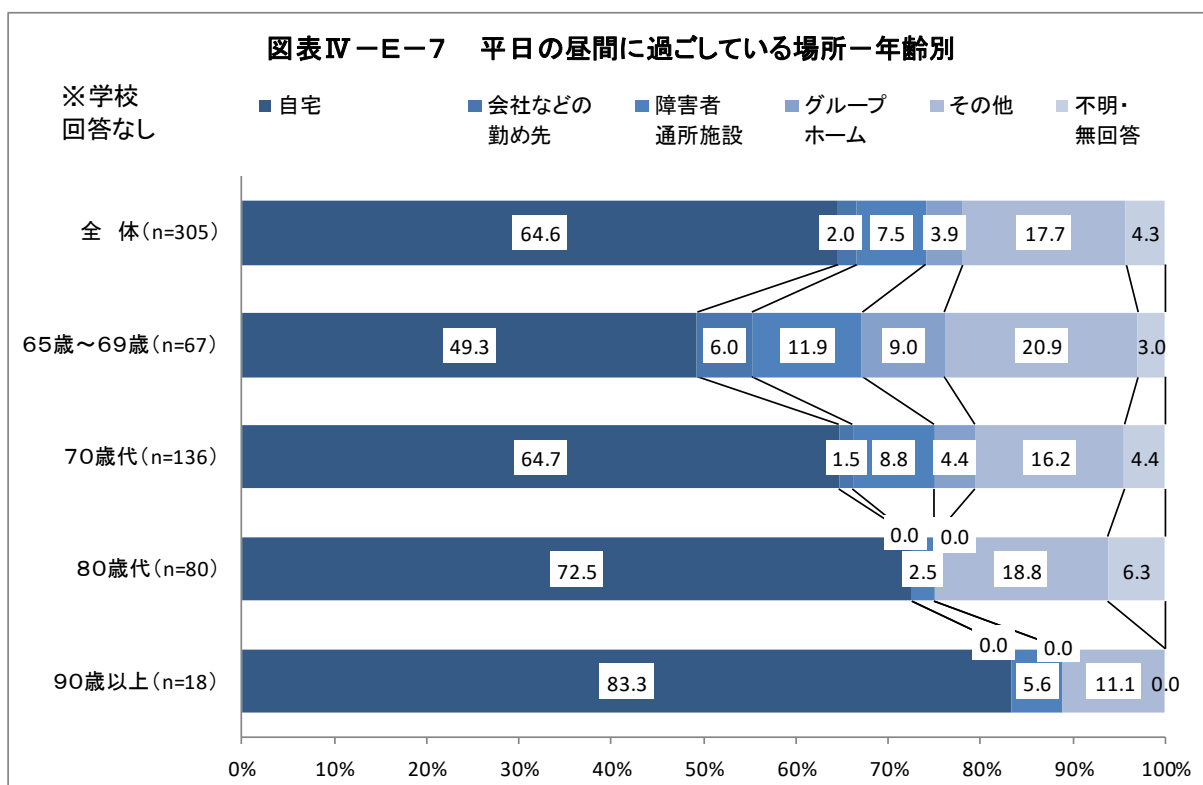


(7) 平日の昼間に過ごしている場所（問10）

現在、平日の昼間に主にどこで過ごしているかをたずねた。

「自宅」は、64.6%と最も高く、「障害者通所施設」は、7.5%、「グループホーム」は、3.9%である。

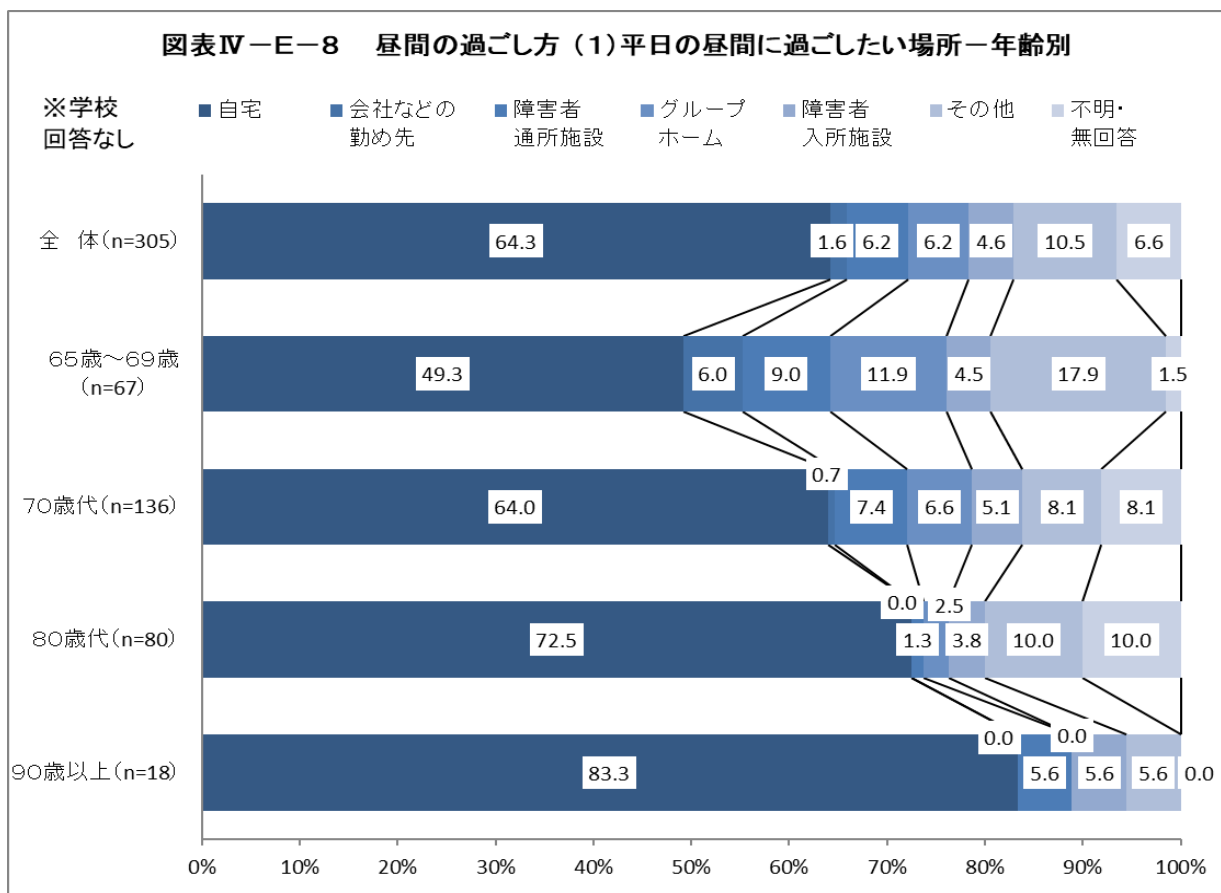
【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、90歳以上が83.3%、次に80歳代が72.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が8.8%である。「グループホーム」は、65歳～69歳が9.0%である。



(8) 昼間の過ごし方－(1) 平日の昼間に過ごしたい場所 (問 1 1 (1))

今後の昼間の過ごし方について、平日の昼間、主にどこで過ごしたいかをたずねた。「自宅」は、64.3%、「障害者通所施設」と「グループホーム」は、6.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「自宅」は、90歳以上が83.3%、次に80歳代が72.5%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「障害者通所施設」は、65歳～69歳が9.0%、次に70歳代が7.4%である。「グループホーム」は、65歳～69歳が11.9%である。



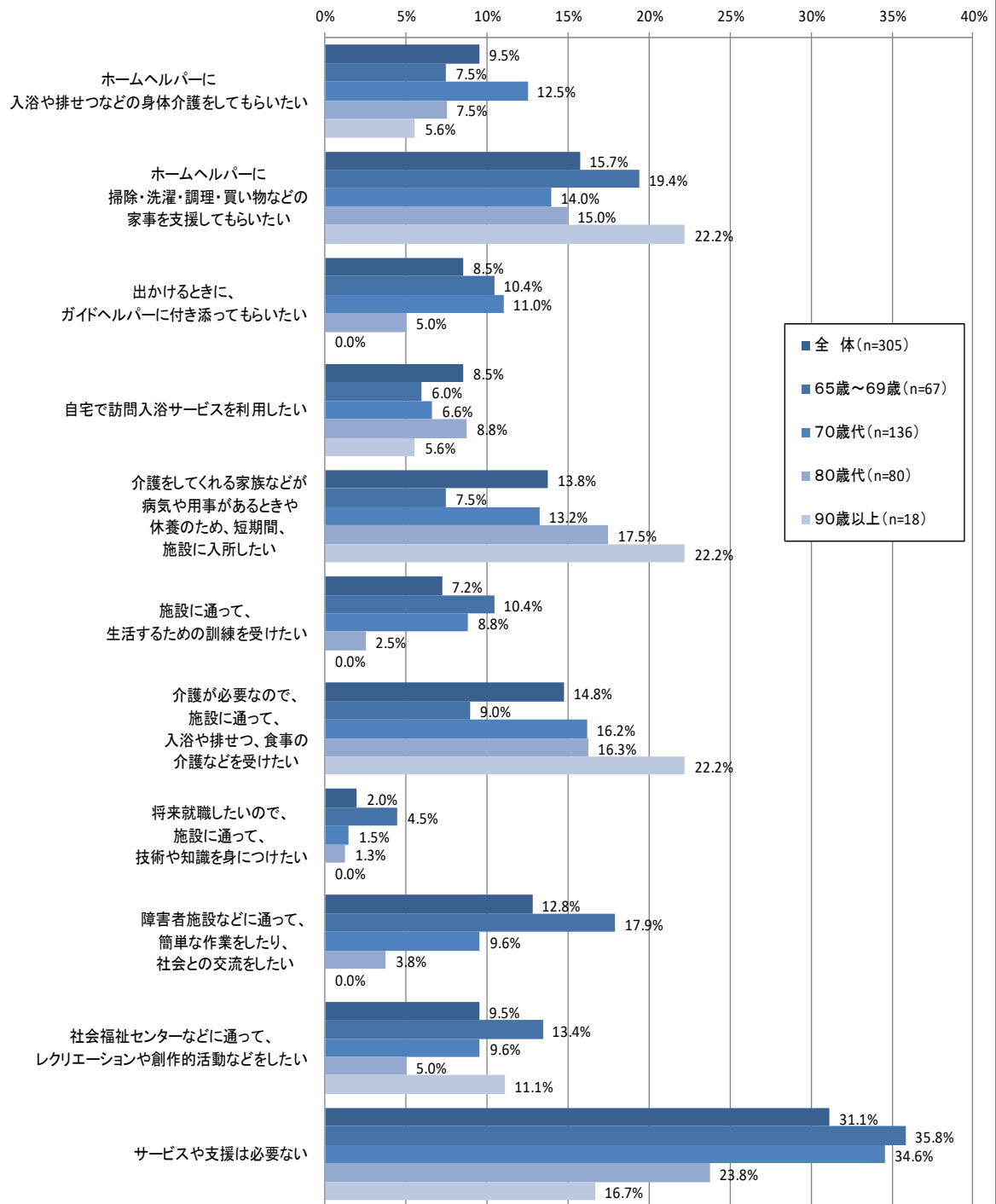
(8) 昼間の過ごし方-(2) 昼間に利用したいサービスや支援 (問 1 1 (2))

今後、昼間どのようなサービスや支援が必要かを複数回答でたずねた。

「サービスや支援は必要ない」は、31.1%、「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、15.7%、「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、14.8%、「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、13.8%、「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、12.8%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「サービスや支援は必要ない」は、65歳～69歳が35.8%、次に70歳代が34.6%である。年齢が下がるごとに割合が高い。「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい」は、90歳以上が22.2%、次に65歳～69歳が19.4%である。「介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が16.3%である。「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が17.5%である。「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」は、65歳～69歳が17.9%である。

図表Ⅳ-E-9 昼間の過ごし方(2)昼間に利用したいサービスや支援一年齢別  
(複数回答)



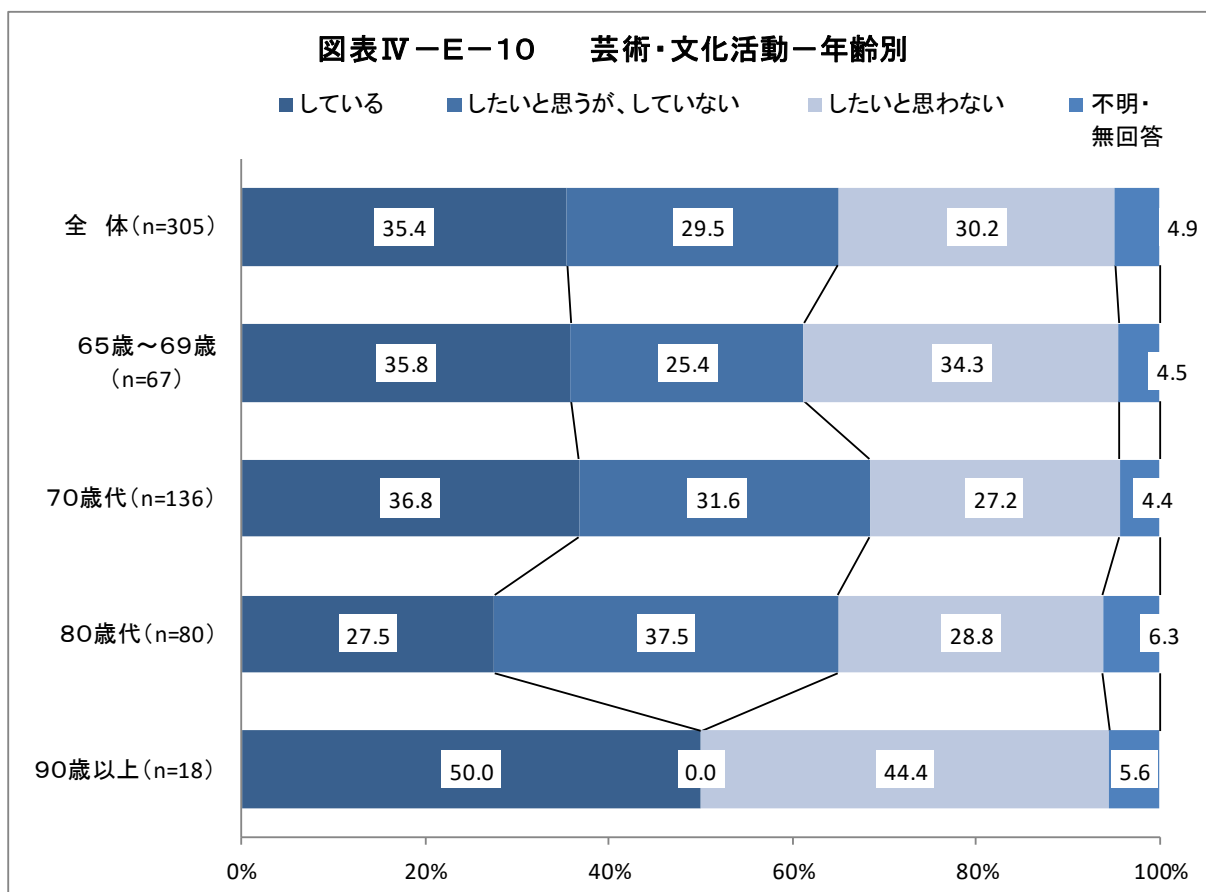
## 2 文化・スポーツについて

### (1) 芸術・文化活動の状況（問12）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

「している」は、35.4%、「したいと思うが、していない」は、29.5%、「したいと思わない」は、30.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、90歳以上が50.0%、次に70歳代が36.8%である。「したいと思うが、していない」は、80歳代が37.5%、次に70歳代が31.6%である。「したいと思わない」は、90歳以上が44.4%、次に65歳～69歳が34.3%である。

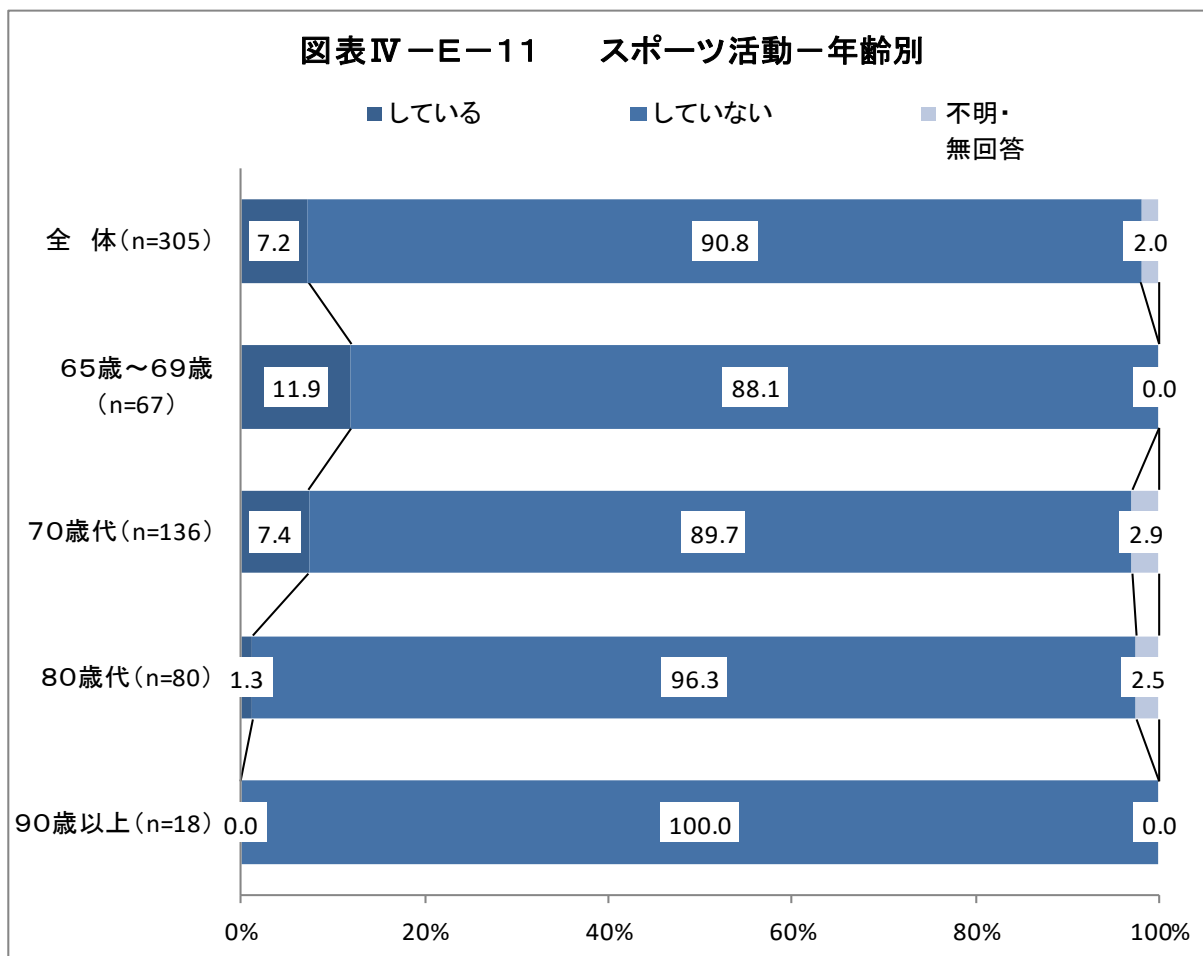


(2) スポーツ活動の実施 (問 13)

現在、スポーツをしているかをたずねた。

「している」は、7.2%、「していない」は、90.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「している」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が7.4%である。「していない」は、90歳以上が100.0%、次に80歳代が96.3%である。年齢が上がるごとに割合が高い。

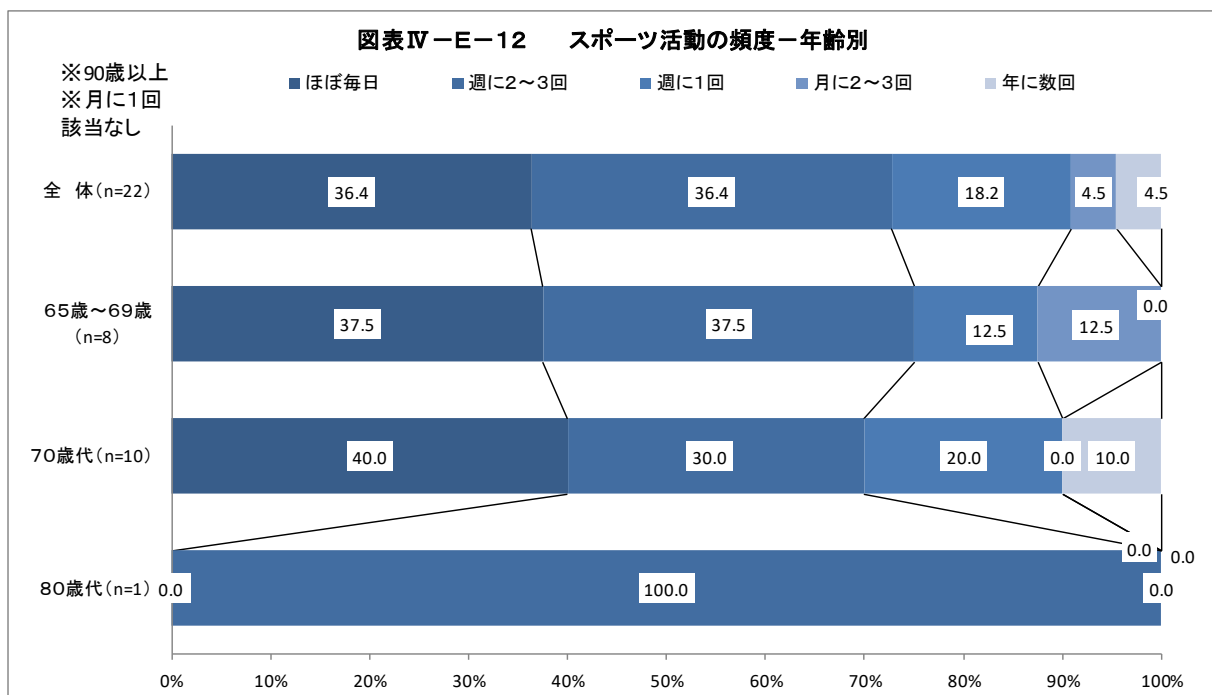


### (3) スポーツ活動の頻度 (問 1 4)

問 1 3 で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

「ほぼ毎日」と「週に 2 ～ 3 回」は、36.4%、「週に 1 回」は、18.2%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、70 歳代が 40.0%、次に 65 歳～69 歳が 37.5%である。「週に 2 ～ 3 回」は、80 歳代が 100.0%、次に 65 歳～69 歳が 37.5%である。「週に 1 回」は、70 歳代が 20.0%、次に 65 歳～69 歳が 12.5%である。

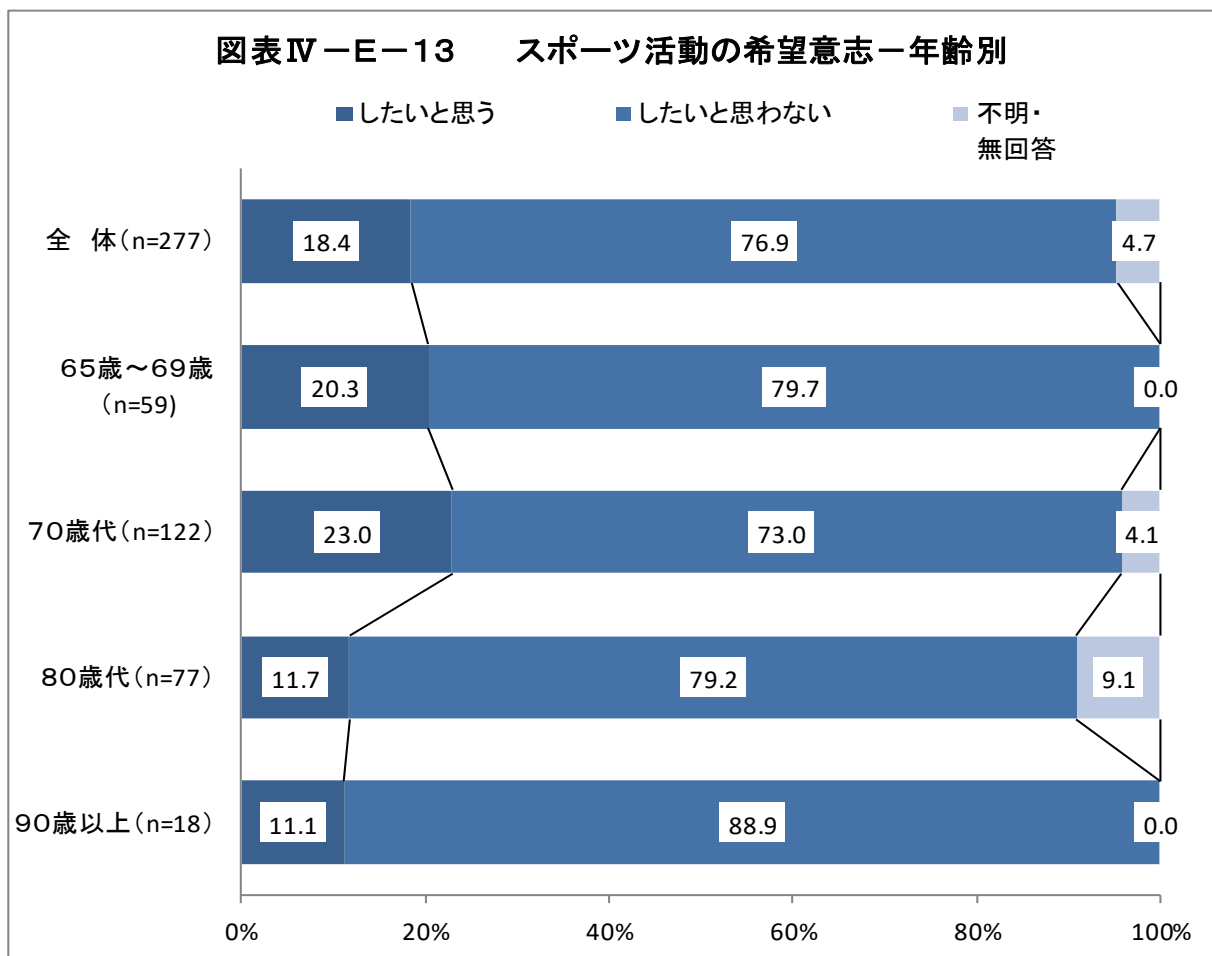


#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問15)

問13で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

「したいと思う」は、18.4%、「したいと思わない」は、76.9%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「したいと思う」は、70歳代が23.0%、次に65歳～69歳が20.3%である。一方「したいと思わない」は、90歳以上が88.9%、次に65歳～69歳が79.7%である。





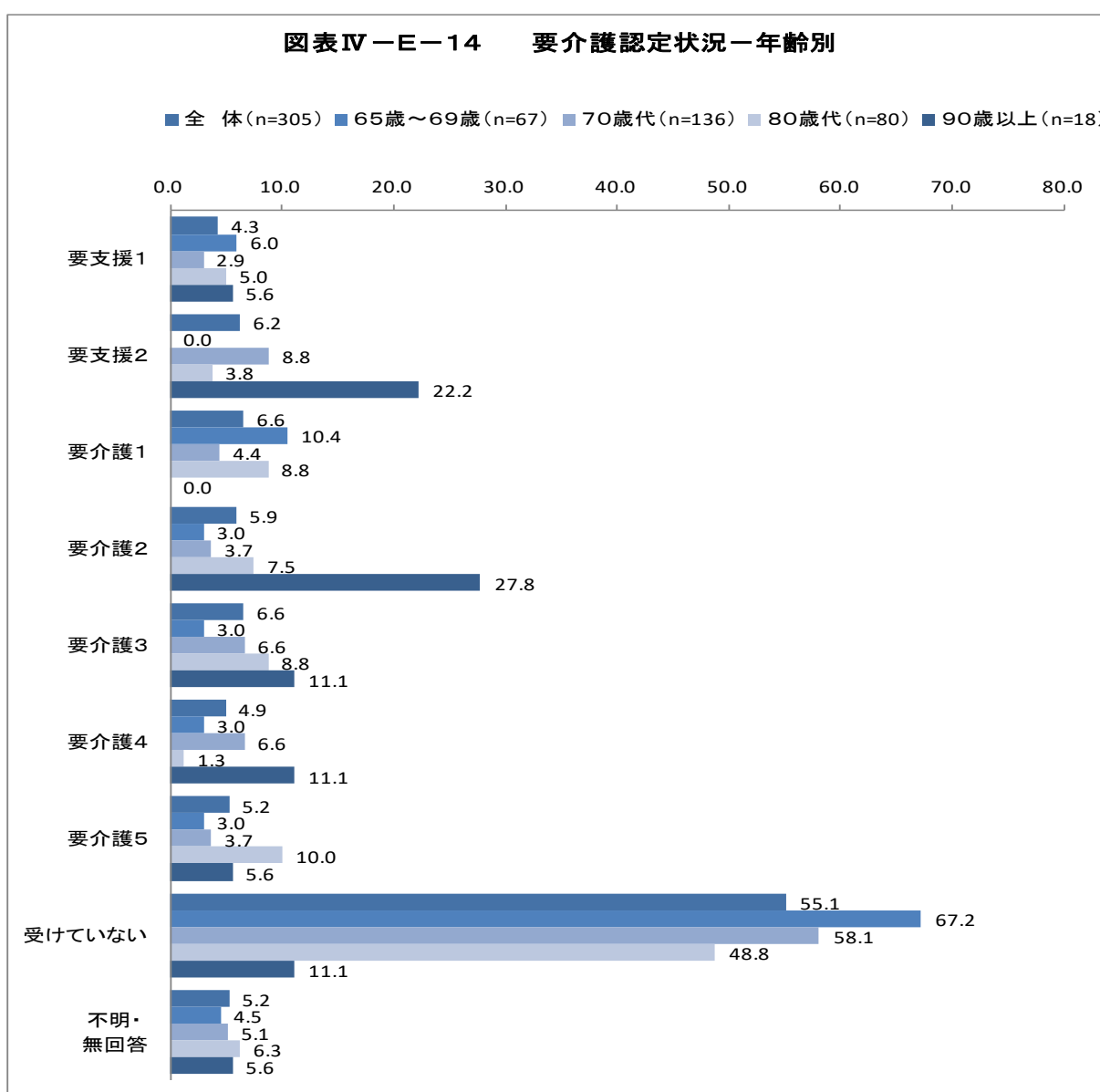
### 3 介護保険サービスの利用について

#### (1) 要介護認定の有無（問16）

介護保険の要介護認定を受けているかをたずねた。

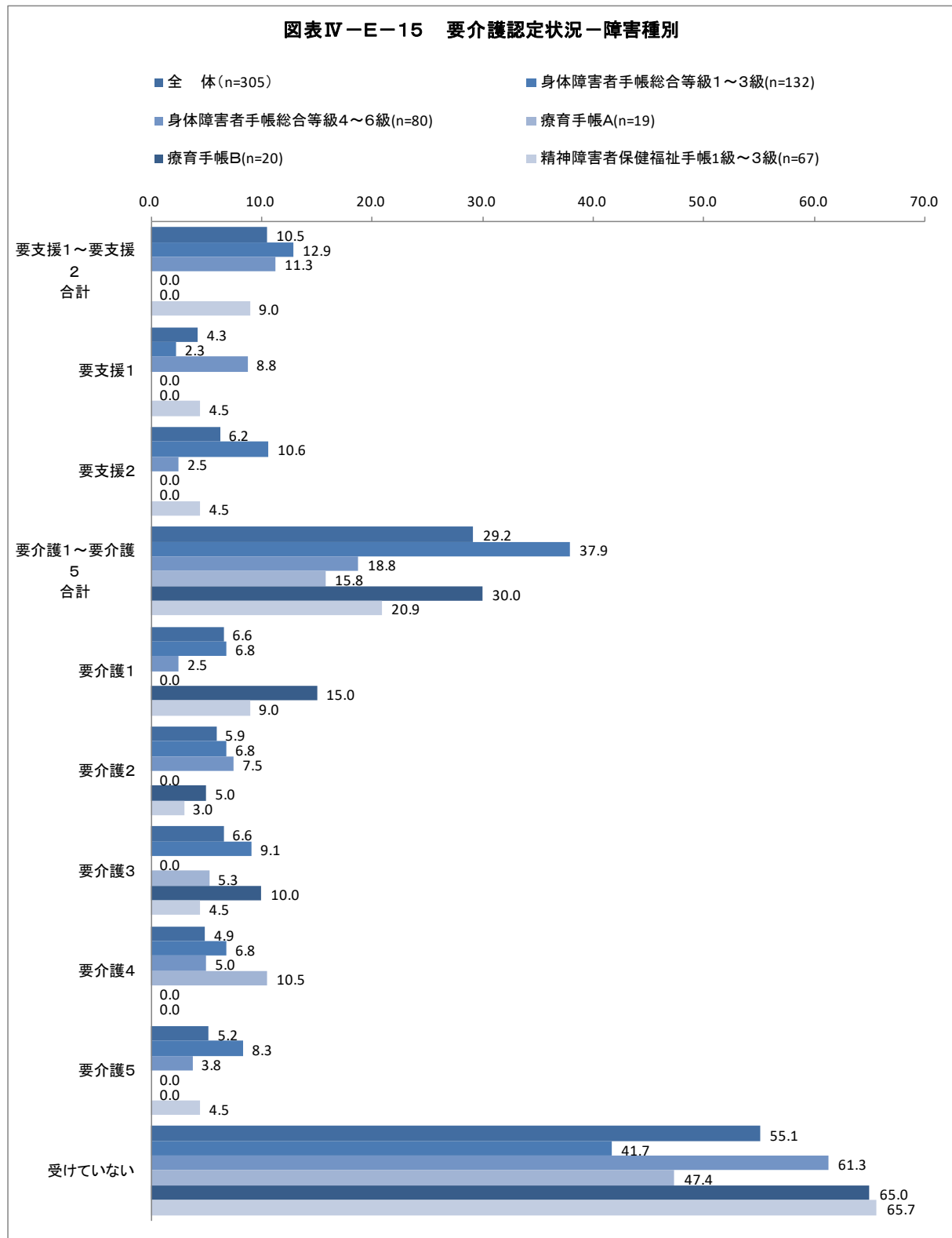
「受けていない」は、55.1%、要介護認定を受けている人の要介護度は、順に、「要介護1」と「要介護3」は、6.6%、「要支援2」は、6.2%、「要介護2」は、5.9%、「要介護5」は、5.2%、「要介護4」は、4.9%、「要支援1」は、4.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「受けていない」は、65歳～69歳が67.2%、次に70歳代が58.1%である。「要支援2」は、90歳以上が22.2%、「要介護2」は、90歳以上が27.8%である。



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「受けていない」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が65.7%、次に療育手帳Bが、65.0%である。

「要支援1～要支援2合計」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が12.9%、次に身体障害者手帳総合等級4～6級が11.3%である。「要介護1～要介護5合計」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が37.9%、次に療育手帳Bが30.0%である。

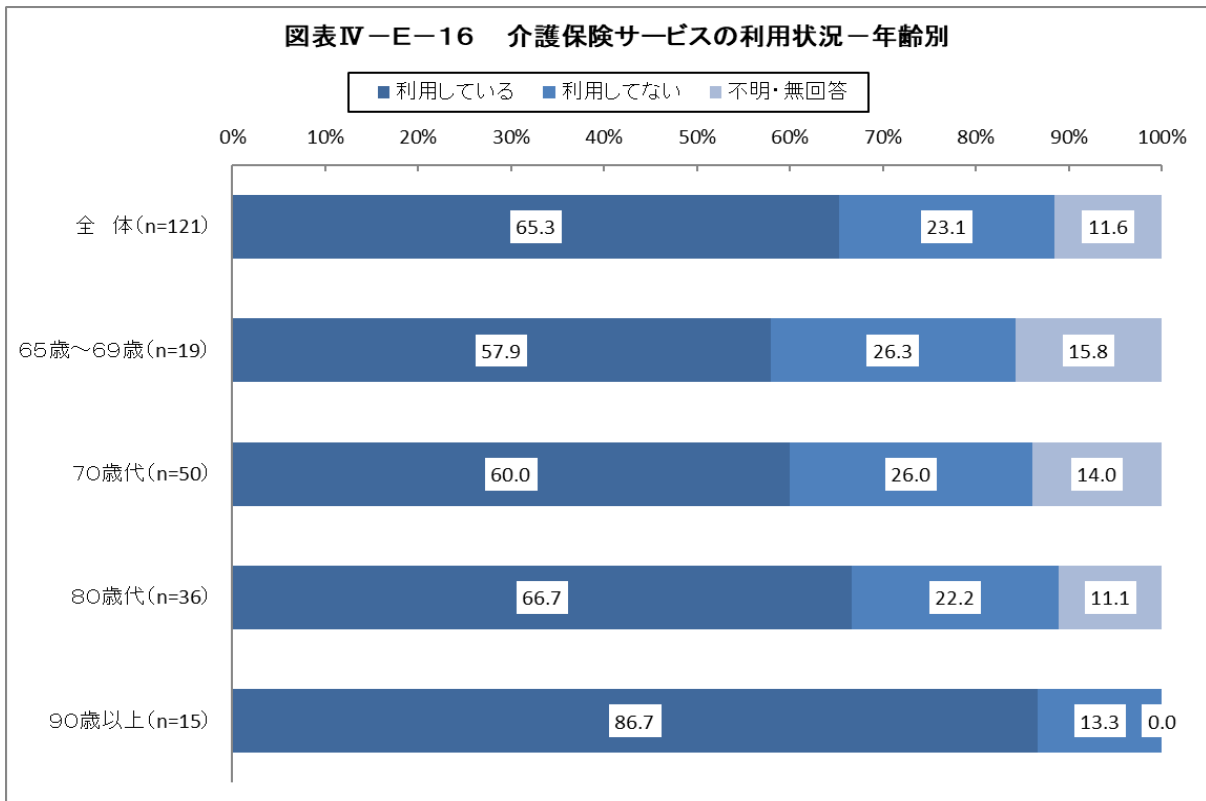


(2) 介護保険サービスの利用状況（問17）

問16で要介護認定を受けていると回答した人に、介護保険サービスを利用しているかをたずねた。

「利用している」は、65.3%、「利用していない」は、23.1%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「利用している」は、90歳以上が86.7%、次に80歳代が66.7%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「利用していない」は、65歳～69歳が26.3%、次に70歳代が26.0%である。



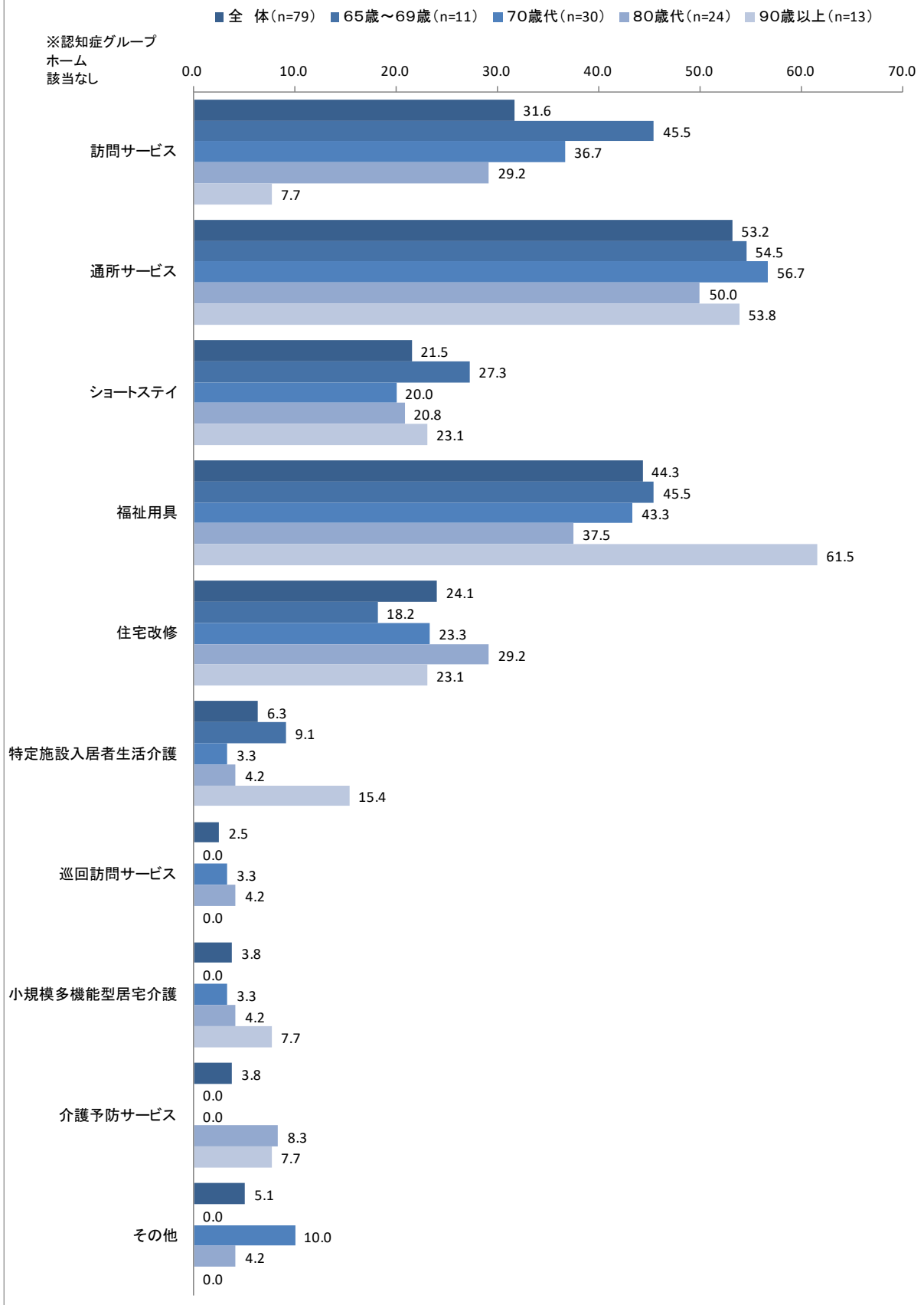
### (3) 利用している介護保険サービス（問18）

問 17 で介護保険サービスを利用していると回答した人に、どのような介護保険のサービスを利用しているかを複数回答でたずねた。

「通所サービス」は、53.2%、「福祉用具」は、44.3%、「訪問サービス」は、31.6%、「住宅改修」は、24.1%、「ショートステイ」は、21.5%である。

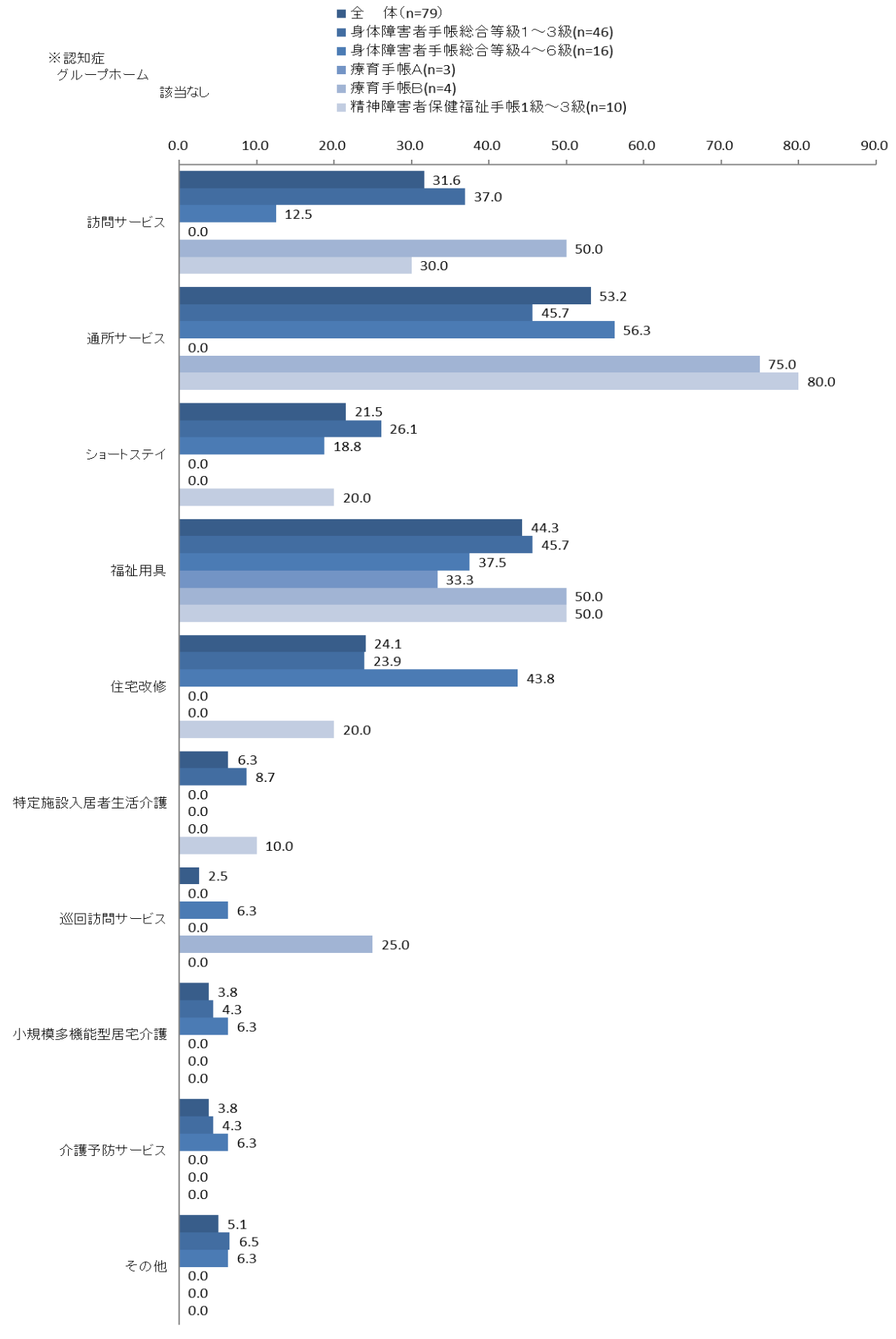
**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通所サービス」は、70歳代が56.7%、次に65歳～69歳が54.5%である。「福祉用具」は、90歳以上が61.5%、次に65歳～69歳が45.5%である。「訪問サービス」は、65歳～69歳が45.5%、次に70歳代が36.7%である。「住宅改修」は、80歳代が29.2%、次に70歳代が23.3%である。「ショートステイ」は、65歳～69歳が27.3%、次に90歳以上が23.1%である。

図表IV-E-17 利用している介護保険サービス年齢別(複数回答)



【障害種別】他の障害種別と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通所サービス」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級が80.0%、療育手帳Bが75.0%である。「福祉用具」は、精神障害者保健福祉手帳1級～3級と療育手帳Bが50.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が45.7%である。「訪問サービス」は、療育手帳Bが50.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が37.0%である。「住宅改修」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が43.8%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が23.9%である。「ショートステイ」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が26.1%、次に精神障害者保健福祉手帳1級～3級が20.0%である。

図表Ⅳ-E-18 利用している介護保険サービス—障害種別(複数回答)



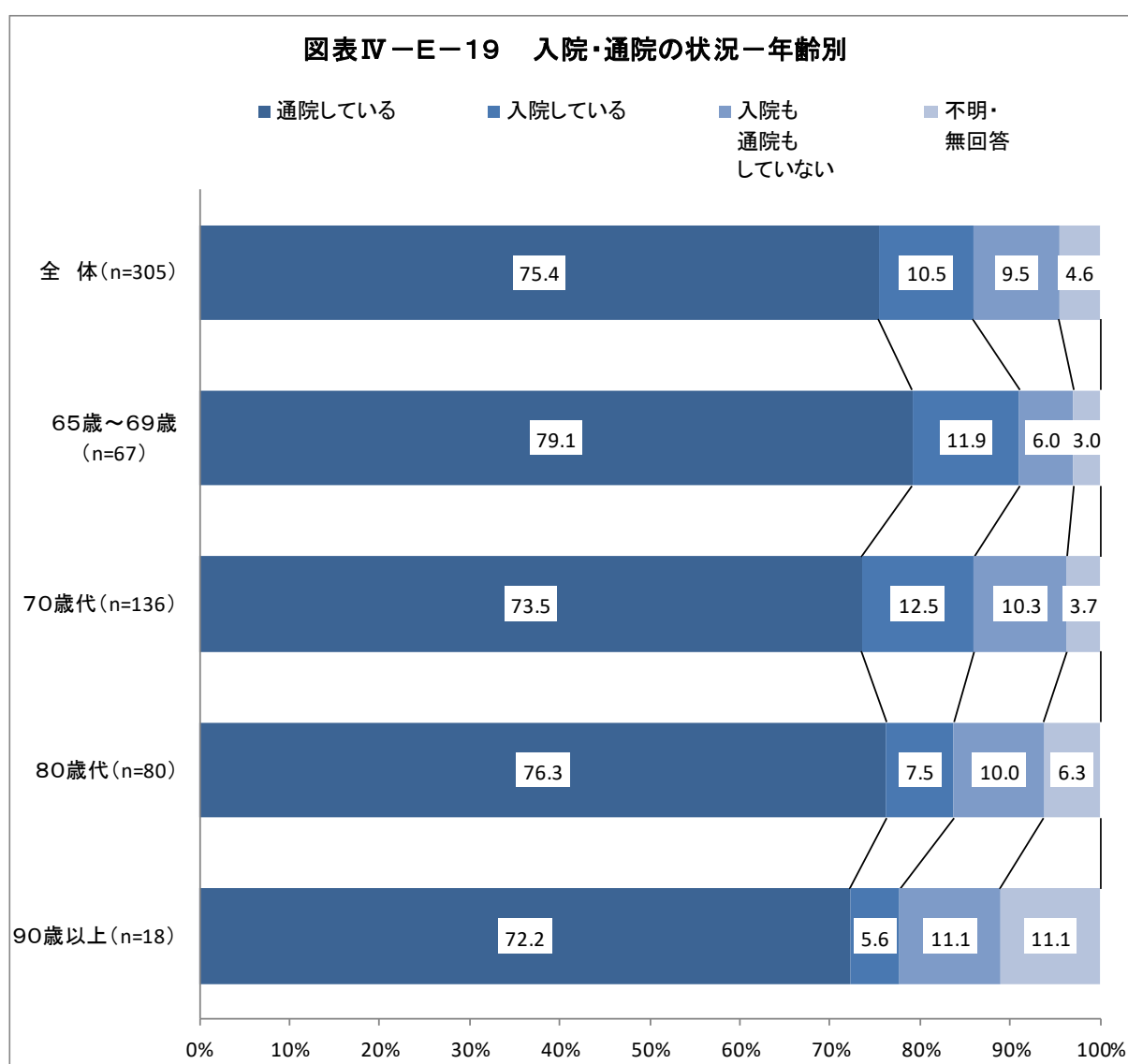
#### 4 入院・通院について

##### (1) 入院・通院の状況（問19）

現在、入院や通院をしているかをたずねた。

「通院している」は、75.4%、「入院している」は、10.5%、「入院も通院もしていない」は、9.5%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「通院している」は、65歳～69歳が79.1%、次に80歳代が76.3%である。「入院している」は、70歳代が12.5%、次に65歳～69歳が11.9%である。「入院も通院もしていない」は、90歳以上が11.1%、次に70歳代が10.3%である。



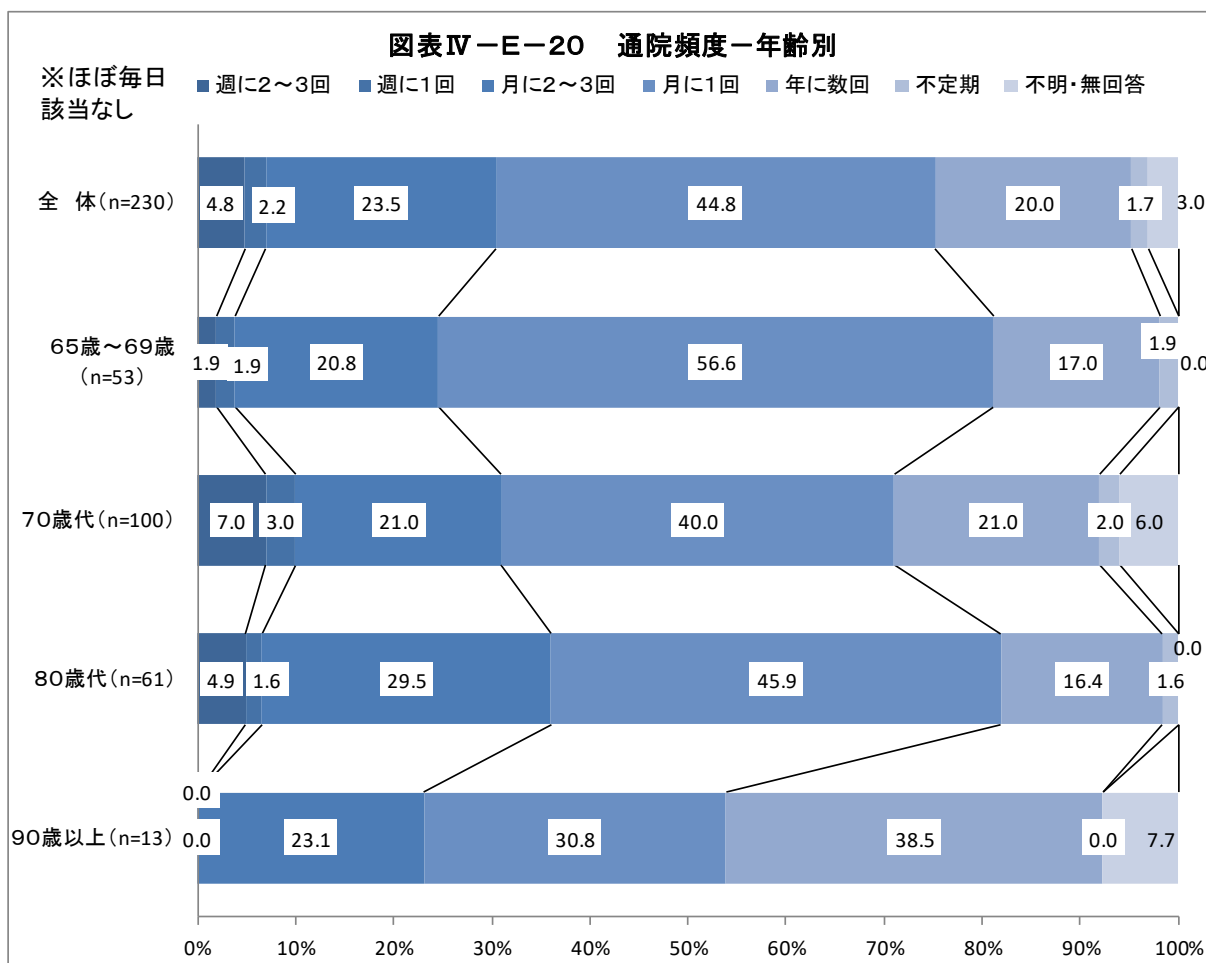


(2) 通院頻度 (問20)

問19で「通院している」と回答した人に、現在、どのくらい医療機関に通院しているかたずねた。

「月に1回」は、44.8%、「月に2～3回」は、23.5%、「年に数回」は、20.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「月に1回」は、65歳～69歳が56.6%、次に80歳代が45.9%である。「月に2～3回」は、80歳代が29.5%、次に90歳以上が23.1%である。「年に数回」は、90歳以上が38.5%、次に70歳代が21.0%である。



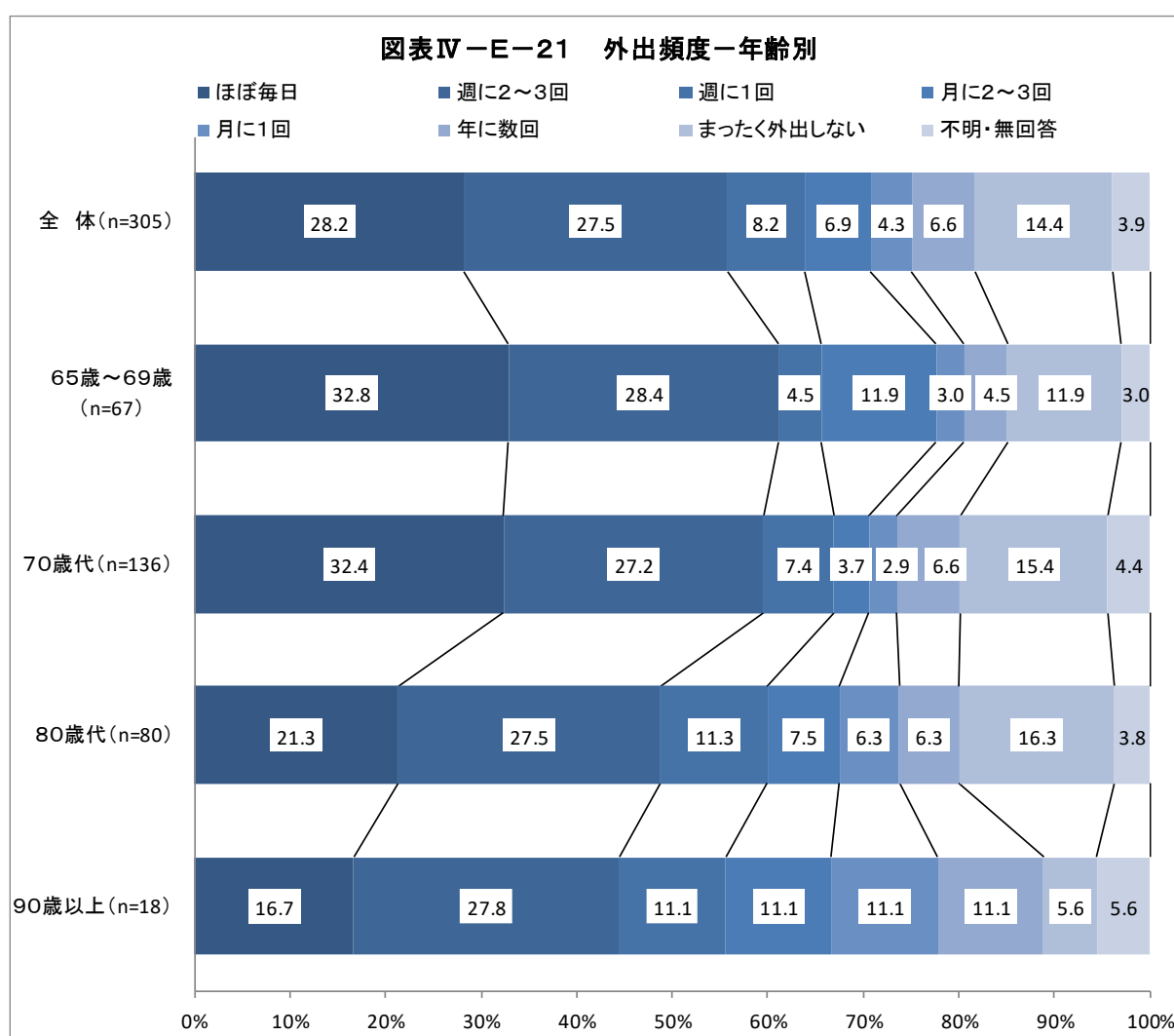
## 5 外出について

### (1) 外出頻度 (問21)

現在、どのくらい外出(暮らしている場所から外に出ること)しているかをたずねた。

「ほぼ毎日」は、28.2%、「週に2～3回」は、27.5%、「まったく外出しない」は、14.4%、「週に1回」は、8.2%、「月に2～3回」は、6.9%、「年に数回」は、6.6%、「月に1回」は、4.3%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「ほぼ毎日」は、65歳～69歳が32.8%、次に70歳代が32.4%である。「週に2～3回」は、65歳～69歳が28.4%、次に90歳以上が27.8%である。「週に1回」は、80歳代が11.3%、次に90歳以上が11.1%である。一方、「まったく外出しない」は、80歳代が16.3%、次に70歳代が15.4%である。

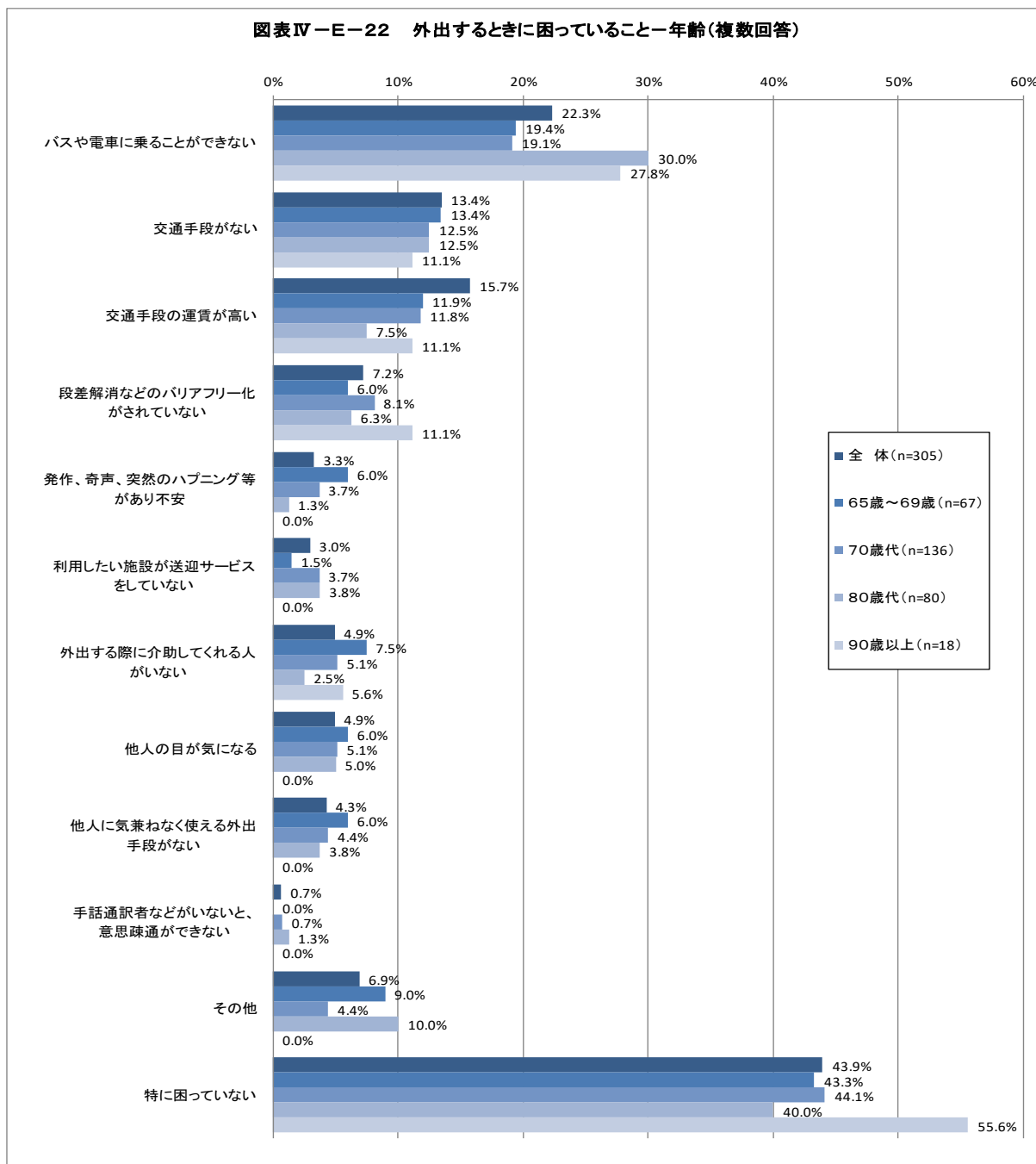


(2) 外出時に困っていること (問22)

外出時に困っていることを複数回答でたずねた。

「特に困っていない」は、43.9%、「バスや電車に乗ることができない」は、22.3%、「交通手段の運賃が高い」は、15.7%、「交通手段がない」は、13.4%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「特に困っていない」は、90歳以上が55.6%、次に70歳代が44.1%である。「バスや電車に乗ることができない」は、80歳代が30.0%、次に90歳以上が27.8%である。「交通手段の運賃が高い」は、65歳～69歳が11.9%、次に70歳代が11.8%である。「交通手段がない」は、65歳～69歳が13.4%、次に90歳以上が12.5%である。

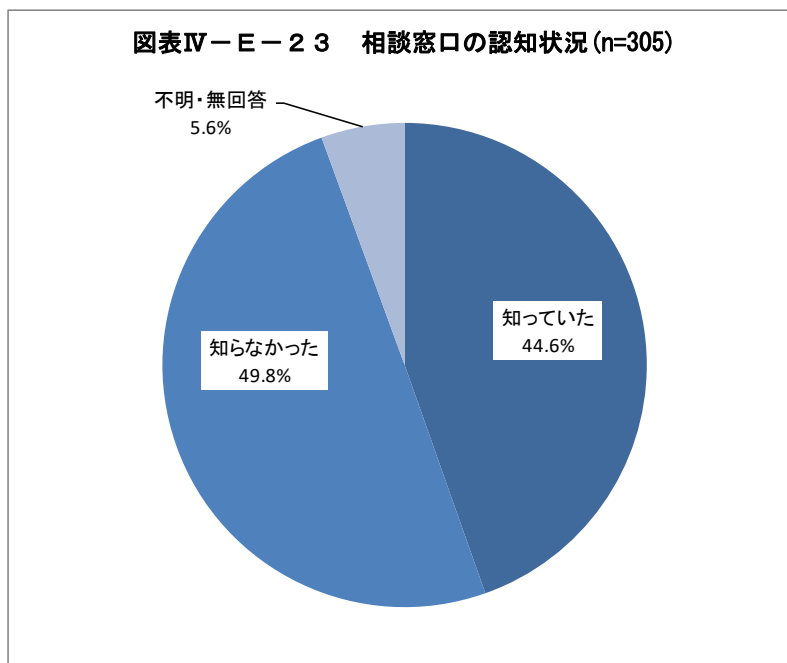


## 6 相談窓口について

### (1) 相談窓口の認知状況 (問 2 3)

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

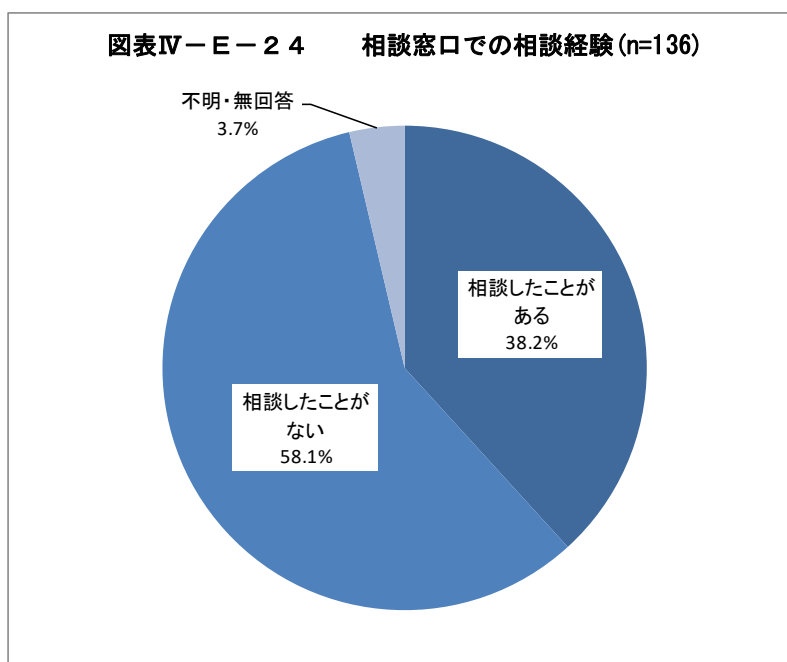
「知っていた」は、44.6%、「知らなかった」は、49.8%である。



### (2) 相談窓口での相談経験 (問 2 4)

問 23 で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

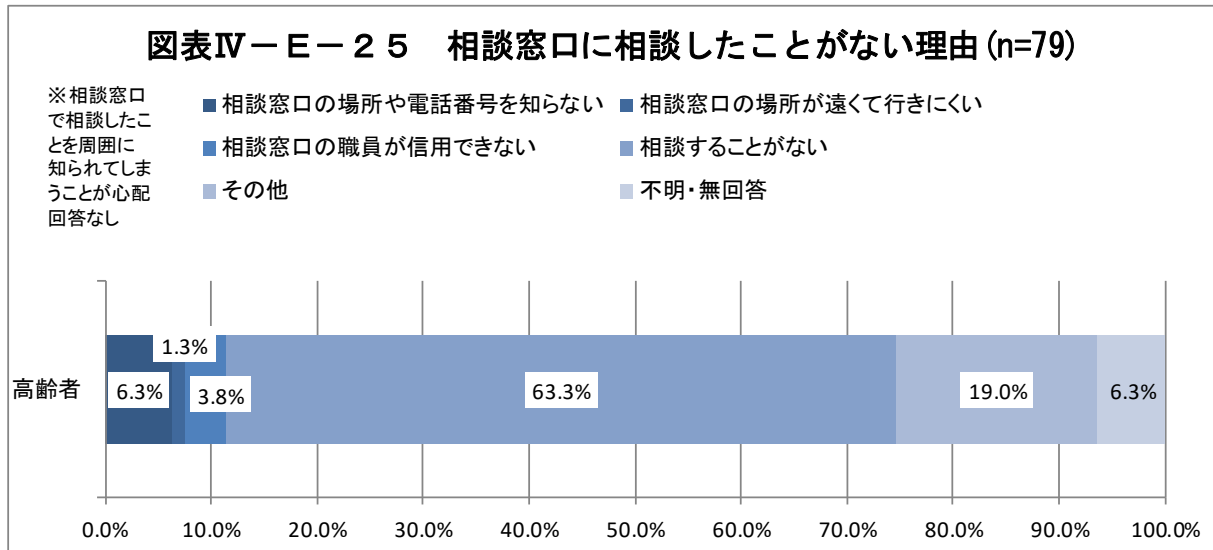
「相談したことがある」は、38.2%、「相談したことがない」は、58.1%である。



### (3) 相談窓口に相談したことがない理由（問25）

問24で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「相談することがない」は、63.3%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、6.3%、「相談窓口の職員が信用できない」は、3.8%である。



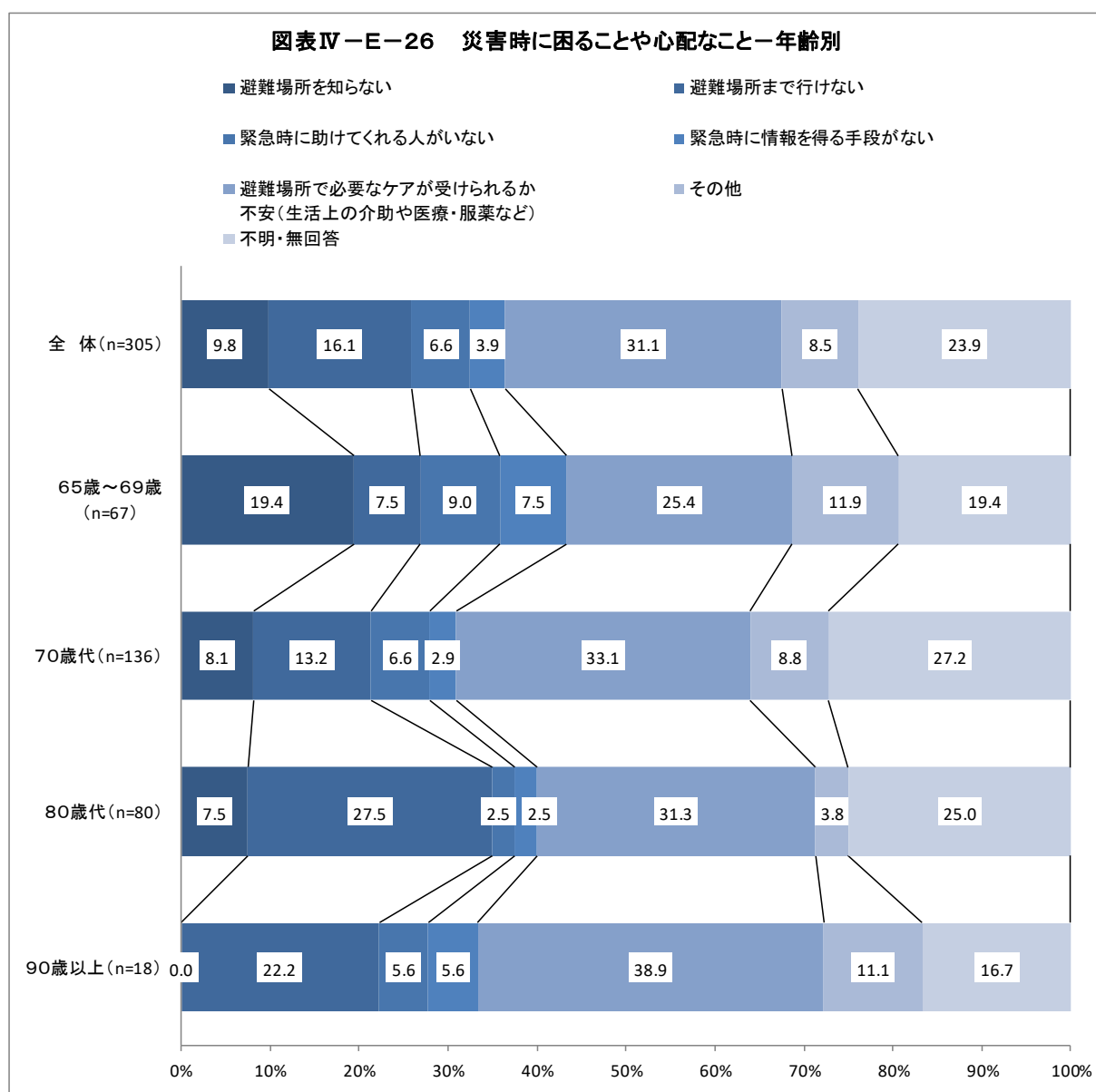
## 7 災害時について

### (1) 災害時に困ることや心配なこと（問26）

災害が発生したときに、困ることや心配なことは何かをたずねた。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、31.1%、「避難場所まで行けない」は、16.1%、「避難場所を知らない」は、9.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「避難場所で必要なケアが受けられるか不安」は、90歳以上が38.9%、次に70歳代が33.1%である。「避難場所まで行けない」は、80歳代が27.5%、次に90歳以上が22.2%である。「避難場所を知らない」は、65歳～69歳が19.4%、次に70歳代が8.1%である。年齢が下がるごとに割合が高い。



## 8 障害のある人への差別について

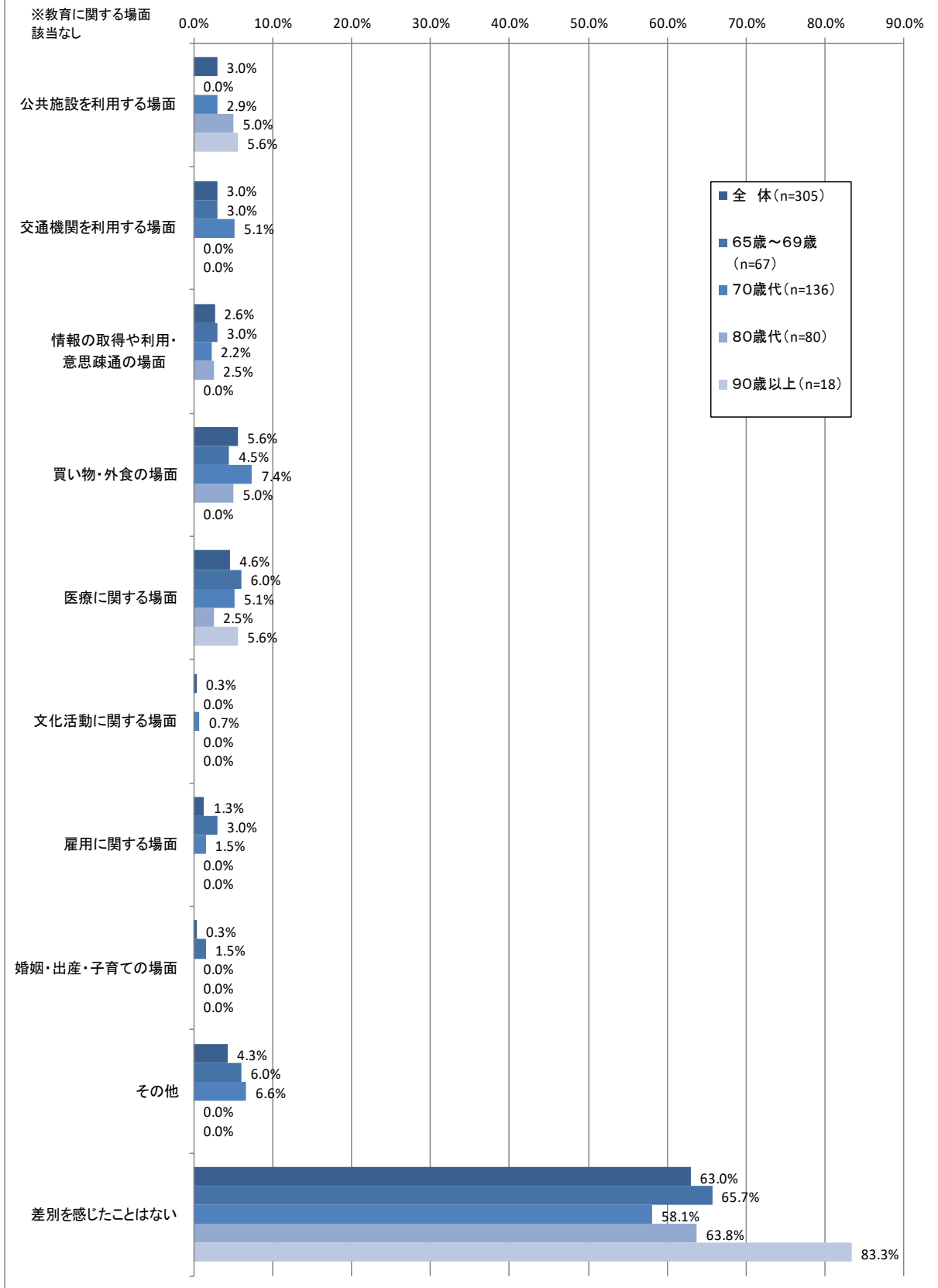
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問27）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面は何かを複数回答でたずねた。

「差別を感じたことはない」は、63.0%、「買い物・外食の場面」は、5.6%、「医療に関する場面」は、4.6%である。

**【年齢別】**他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「差別を感じたことはない」は、90歳以上が83.3%、次に65歳～69歳が65.7%である。「買い物・外食の場面」は、70歳代が7.4%、次に80歳代が5.0%である。「医療に関する場面」は、65歳～69歳が6.0%、次に90歳以上が5.6%である。

図表Ⅳ-E-27 障がい差別と感じた場面(複数回答)一年齢別



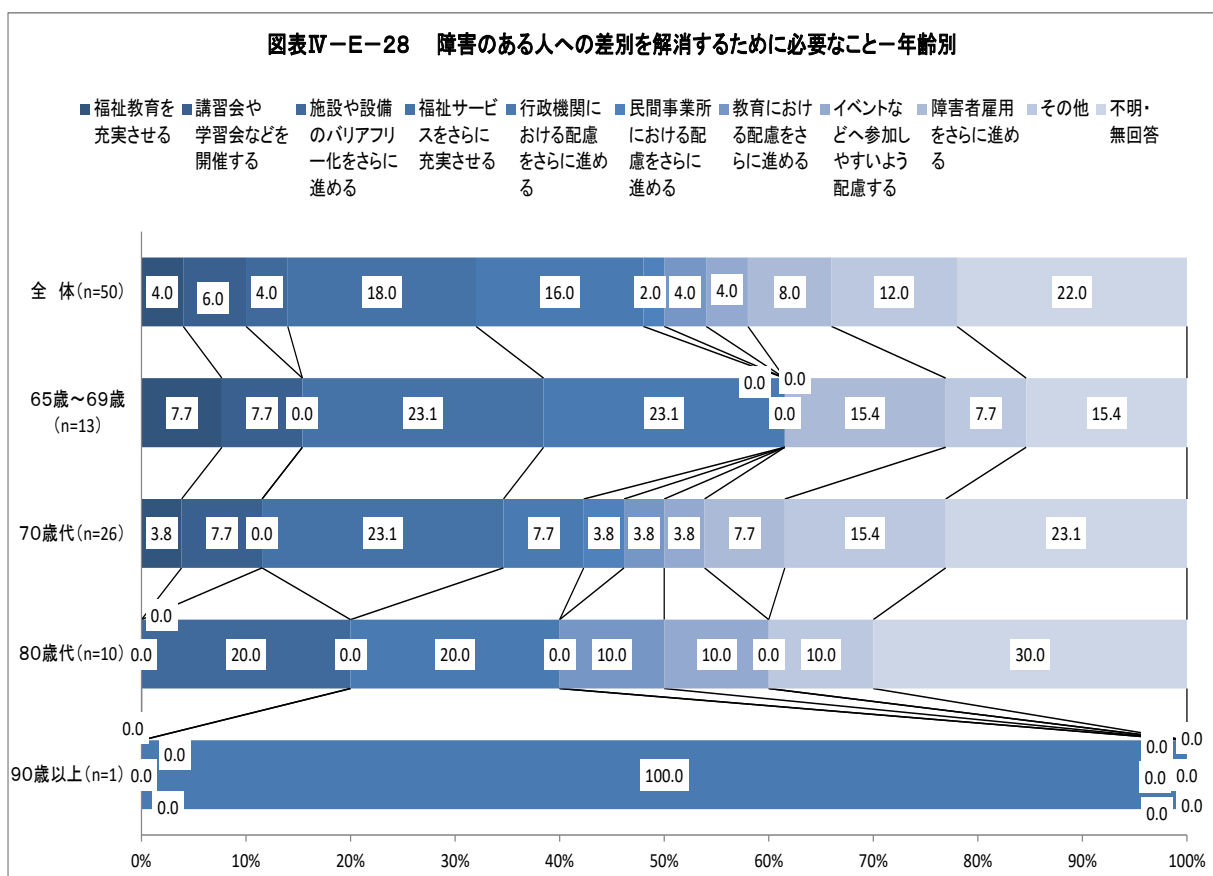


(2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問28)

障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何かをたずねた。

「福祉サービスをさらに充実させる」は、18.0%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、16.0%、「障害者雇用をさらに進める」は、8.0%、「講習会や学習会などを開催する」は、6.0%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「福祉サービスをさらに充実させる」は、65歳～69歳と70歳代がともに23.1%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、90歳以上が100.0%、次に65歳～69歳が23.1%である。「障害者雇用をさらに進める」は、65歳～69歳が15.4%、次に70歳代が7.7%である。「講習会や学習会などを開催する」は、65歳～69歳と70歳代がともに7.7%である。



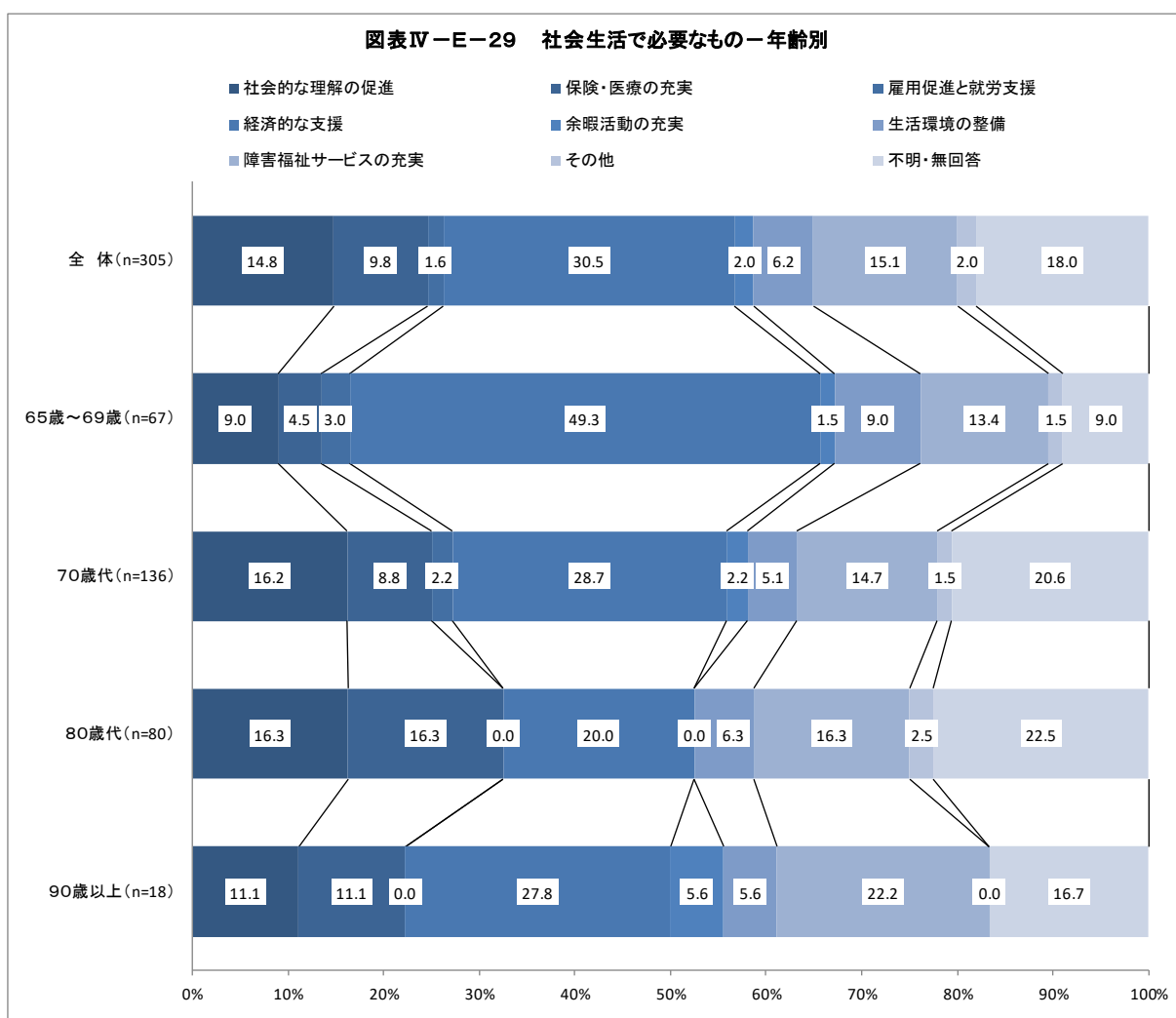
## 9 社会生活について

### (1) 社会生活を営む上で必要と考えること（問29）

障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものをたずねた。

「経済的な支援」は、30.5%、「障害福祉サービスの充実」は、15.1%、「社会的な理解の促進」は、14.8%である。

【年齢別】他の年齢層と比較して割合の高かった回答を見てみると、「経済的な支援」は、65歳～69歳が49.3%、次に70歳代が28.7%である。「障害福祉サービスの充実」は、90歳以上が22.2%、次に80歳代が16.3%である。年齢が上がるごとに割合が高い。「社会的な理解の促進」は、80歳代が16.3%、次に70歳代が16.2%である。



## F 障害児



## 共通回答項目（I）

就学前児童（F－1）は該当数 18、小学校段階（F－2）は該当数 52、中学校段階（F－3）は該当数 44、高等学校段階（F－4）は該当数 45、義務教育修了未就学（F－5）は該当数 3 の 5 段階を対象として、手帳別にクロス集計を行った。

### 1 文化・スポーツについて

#### （1）芸術・文化活動の状況（問5）

現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりをしているかをたずねた。

#### （Ⅲ 調査結果の要約 の再記述）

就学前児童：「している」は、44.4%、「したいと思うが、していない」は、38.9%、「したいと思わない」は、16.7%である。

小学校段階：「している」は、65.4%、「したいと思うが、していない」は、25.0%、「したいと思わない」は、9.6%である。

中学校段階：「している」は、70.5%、「したいと思うが、していない」は、22.7%、「したいと思わない」は、6.8%である。

高等学校段階：「している」は、77.8%、「したいと思うが、していない」と「したいと思わない」は、11.1%である。

義務教育修了未就学：「している」は、66.7%、「したいと思わない」は、33.3%である。

【教育段階・手帳等級別】教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数 2 名以下の場合を除く）をみると、

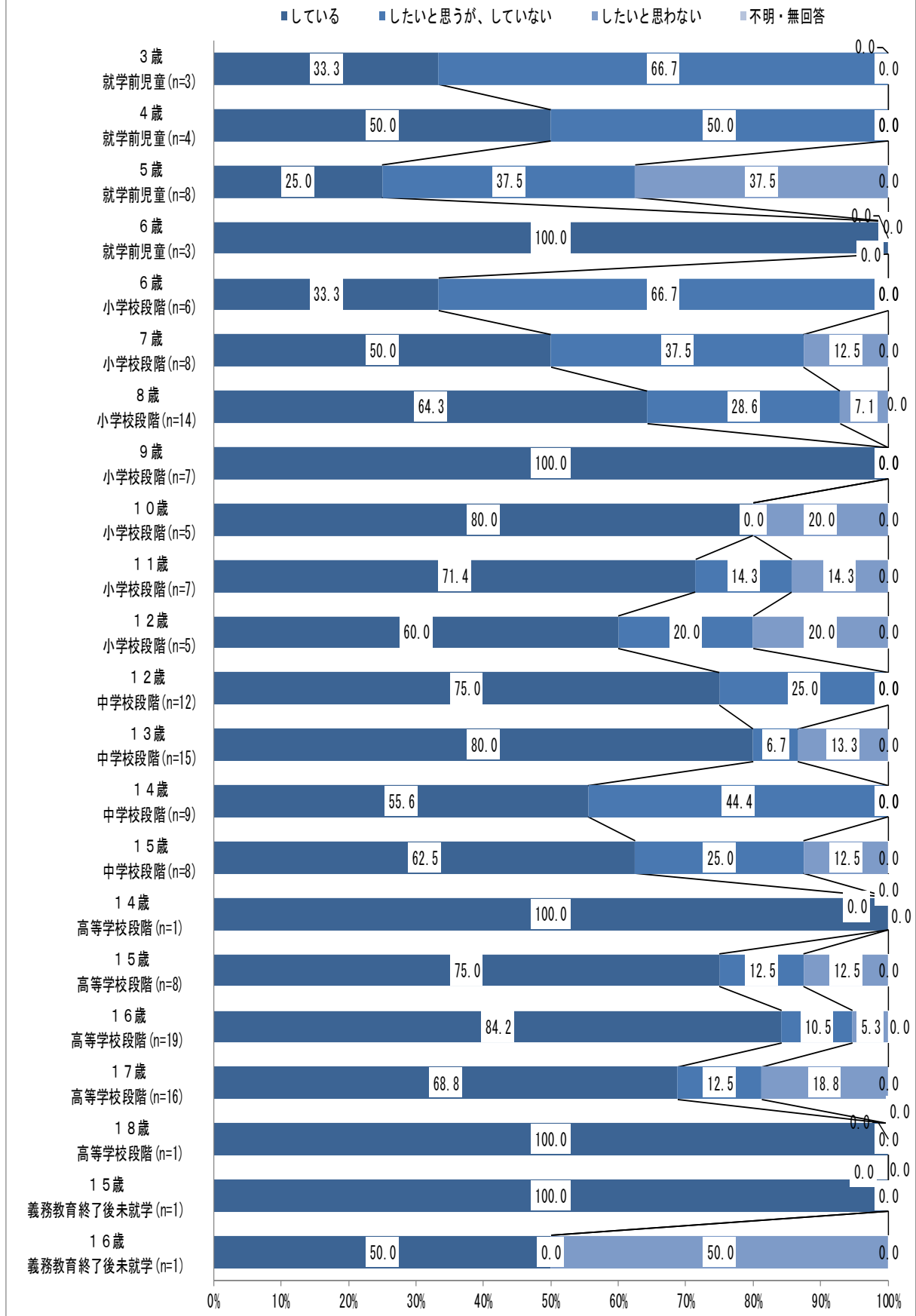
就学前児童：「している」は、療育手帳 A が 100.0%である。「したいと思うが、していない」は、療育手帳 B が 54.5%である。

小学校段階：「している」は、障害者手帳は持っていないが 75.0%、次に身体障害者手帳総合等級 1～3 級と療育手帳 A が 66.7%である。「したいと思うが、していない」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 33.3%、次に療育手帳 A が 29.2%である。

中学校段階：「している」は、療育手帳 B が 78.3%、次に療育手帳 A が 57.9%である。「したいと思うが、していない」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 66.7%、次に療育手帳 A が 31.6%である。

高等学校段階：「している」は、療育手帳 B が 82.4%、次に身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 75.0%である。「したいと思うが、していない」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 25.0%である。「したいと思わない」は、療育手帳 A が 20.0%である。

図表Ⅳ-F-1 芸術・文化活動一年齢（教育段階）



## (2) スポーツ活動の実施 (問6)

現在、スポーツをしたり、見たりしているかをたずねた。

### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「していない」は、100.0%である。

小学校段階：「している」は、23.1%、「していない」は、76.9%である。

中学校段階：「している」は、25.0%、「していない」は、72.7%である。

高等学校段階：「している」は、33.3%、「していない」は、66.7%である。

義務教育修了未就学：「していない」は、100.0%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数 2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「していない」は、療育手帳Aと療育手帳Bが100.0%である。

小学校段階：「している」は、障害者手帳は持っていないが50.0%、次に療育手帳Aが25.0%である。「していない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が100.0%、次に療育手帳Bが83.3%である。

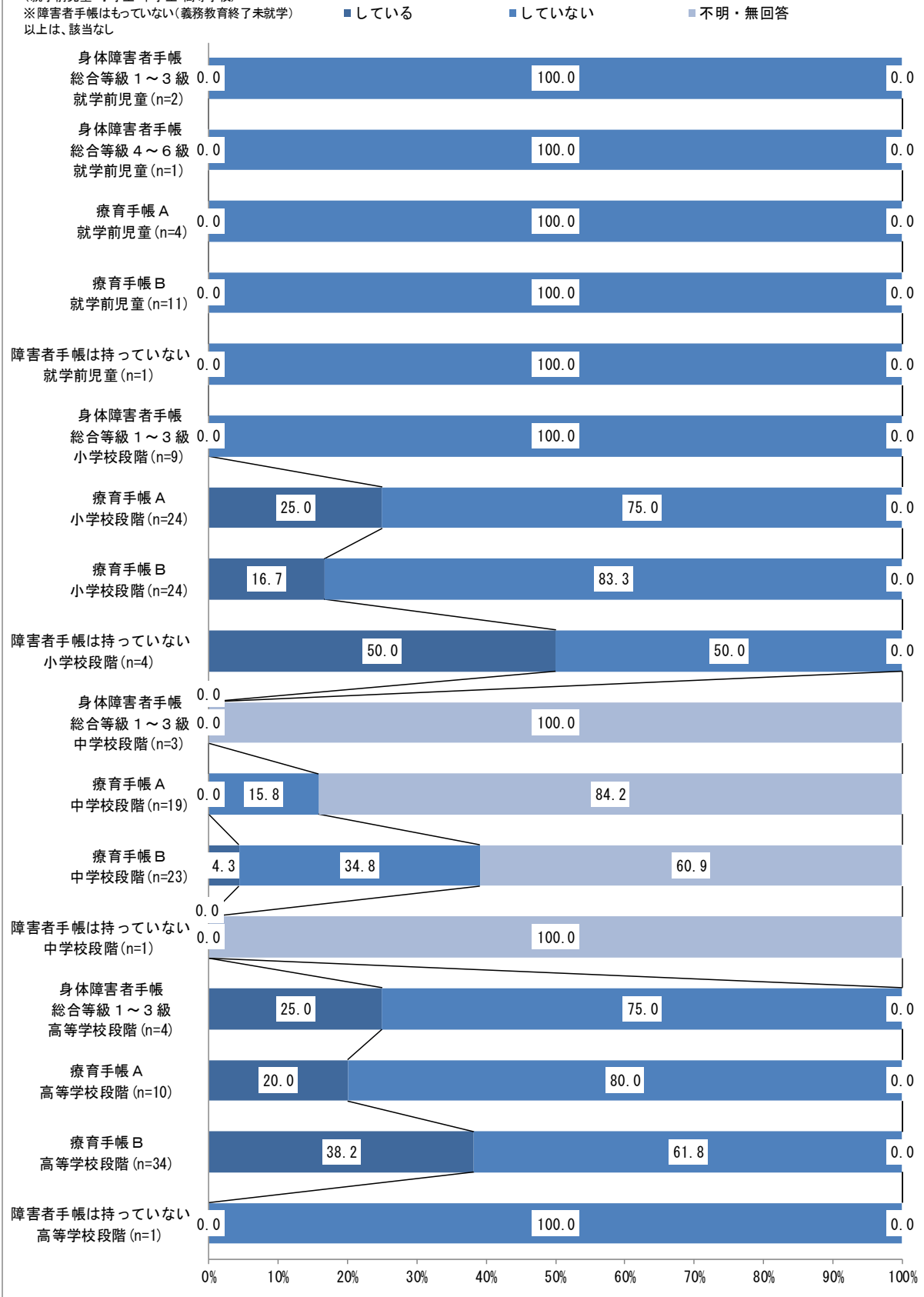
中学校段階：「している」は、療育手帳Bが4.3%である。「していない」は、療育手帳Bが34.8%、次に療育手帳Aが15.8%である。

高等学校段階：「している」は、療育手帳Bが38.2%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。「していない」は、療育手帳Aが80.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が75.0%である。

図表Ⅳ－F－2 スポーツ活動－手帳等級別

※義務教育終了未就学  
該当なし

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし





### (3) スポーツ活動の頻度 (問7)

問6で「している」と回答した人に、どのくらいしているかをたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

小学校段階：「週に1回」は、58.3%、「月に2～3回」は、25.0%である。

中学校段階：「週に2～3回」と「週に1回」は、ともに27.3%、「ほぼ毎日」は、18.2%である。

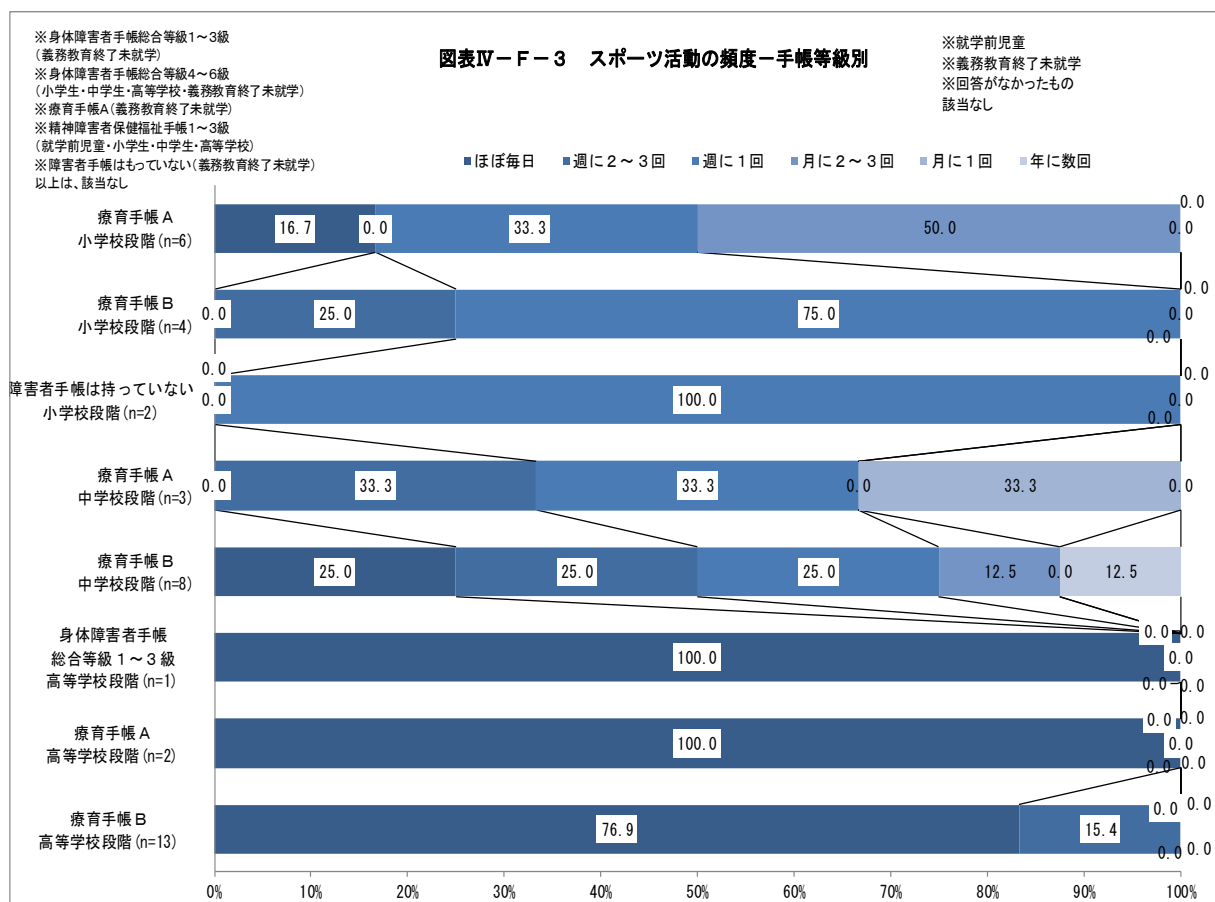
高等学校段階：「ほぼ毎日」は、80.0%、「週に2～3回」は、13.3%である。

【教育段階・手帳等級別】教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

小学校段階：「週に1回」は、療育手帳Bが75.0%、次に療育手帳Aが33.3%である。「月に2～3回」は、療育手帳Aが50.0%である。

中学校段階：「週に1回」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが25.0%である。「週に2～3回」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが25.0%である。

高等学校段階：「ほぼ毎日」は、療育手帳Bが76.9%である。



#### (4) スポーツ活動をしたい希望意志 (問8)

問6で「していない」と回答した人に、したいと思うかをたずねた。

##### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「したいと思う」は、77.8%、「したいと思わない」は、22.2%である。

小学校段階：「したいと思う」は、62.5%、「したいと思わない」は、37.5%である。

中学校段階：「したいと思う」は、59.4%、「したいと思わない」は、37.5%である。

高等学校段階：「したいと思う」は、63.3%、「したいと思わない」は、36.7%である。

義務教育修了未就学：「したいと思う」は、33.3%、「したいと思わない」は、66.7%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「したいと思う」は、療育手帳Bが81.8%、次に療育手帳Aが50.0%である。

「したいと思わない」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが18.2%である。

小学校段階：「したいと思う」は、療育手帳Bが65.0%、次に療育手帳Aが61.1%である。

「したいと思わない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が44.4%、次に療育手帳Aが38.9%である。

中学校段階：「したいと思う」は、療育手帳Aが68.8%、次に療育手帳Bが57.1%である。

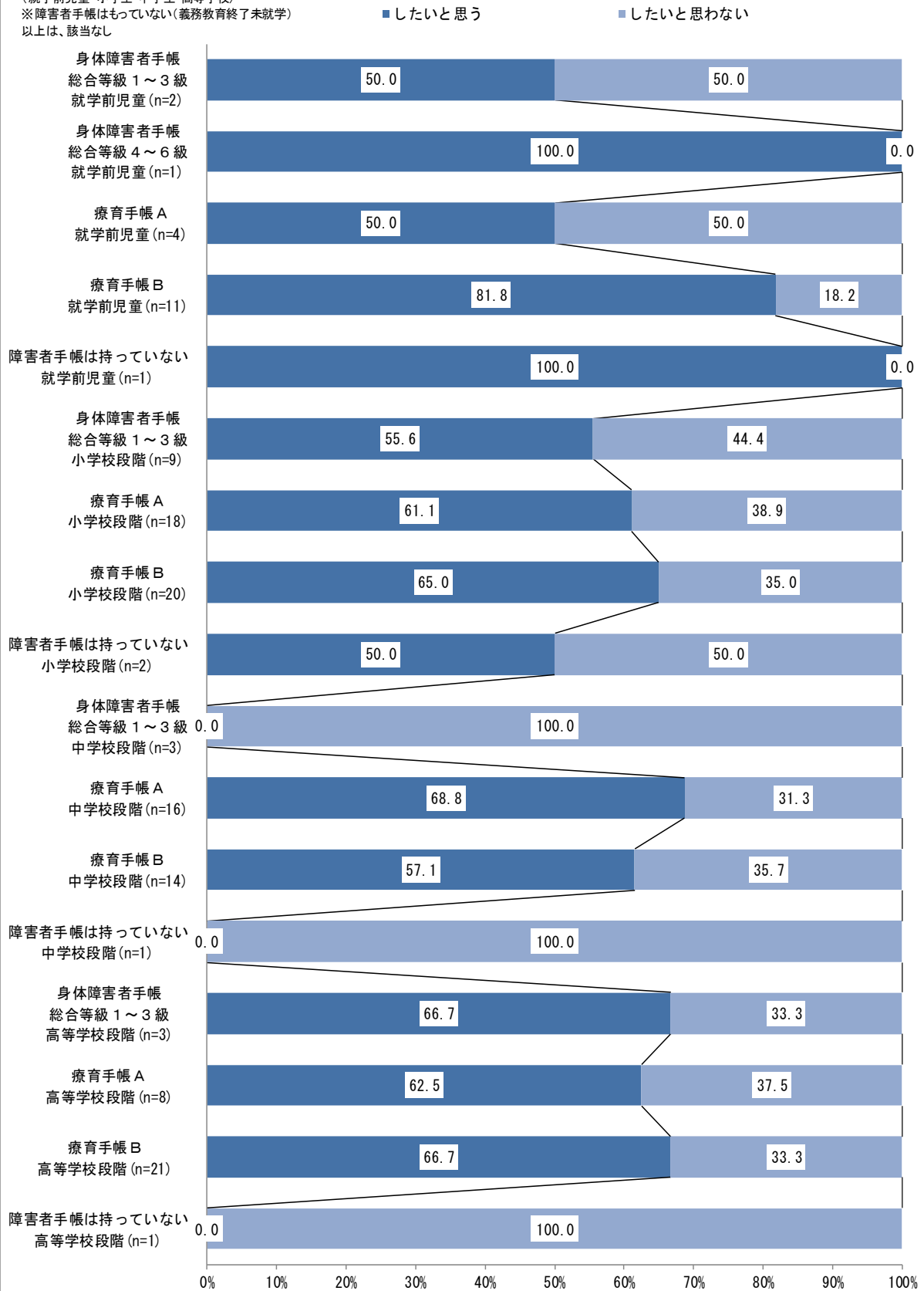
「したいと思わない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が100.0%、次に療育手帳Bが35.7%である。

高等学校段階：「したいと思う」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Bが66.7%、

次に療育手帳Aが62.5%である。「したいと思わない」は、療育手帳Aが37.5%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Bが33.3%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-4 スポーツ活動の希望意志—手帳等級別



## 2 相談窓口について

### (1) 相談窓口の認知状況（問9）

相談窓口（障害者相談支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者就業・生活支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員、長岡市子ども家庭センター子ども発達相談室、子ども・青少年相談センター、長岡市学校教育課特別支援教育係）とその内容について、一覧表示し、このような相談窓口を知っていたかをたずねた。

#### （Ⅲ 調査結果の要約 の再記述）

就学前児童：「知っていた」は、77.8%、「知らなかった」は、16.7%である。

小学校段階：「知っていた」は、76.9%、「知らなかった」は、23.1%である。

中学校段階：「知っていた」は、77.3%、「知らなかった」は、22.7%である。

高等学校段階：「知っていた」は、80.0%、「知らなかった」は、20.0%である。

義務教育修了未就学：「知っていた」は、100.0%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「知っていた」は、療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが63.6%である。「知らなかった」は、療育手帳Bが27.3%である。

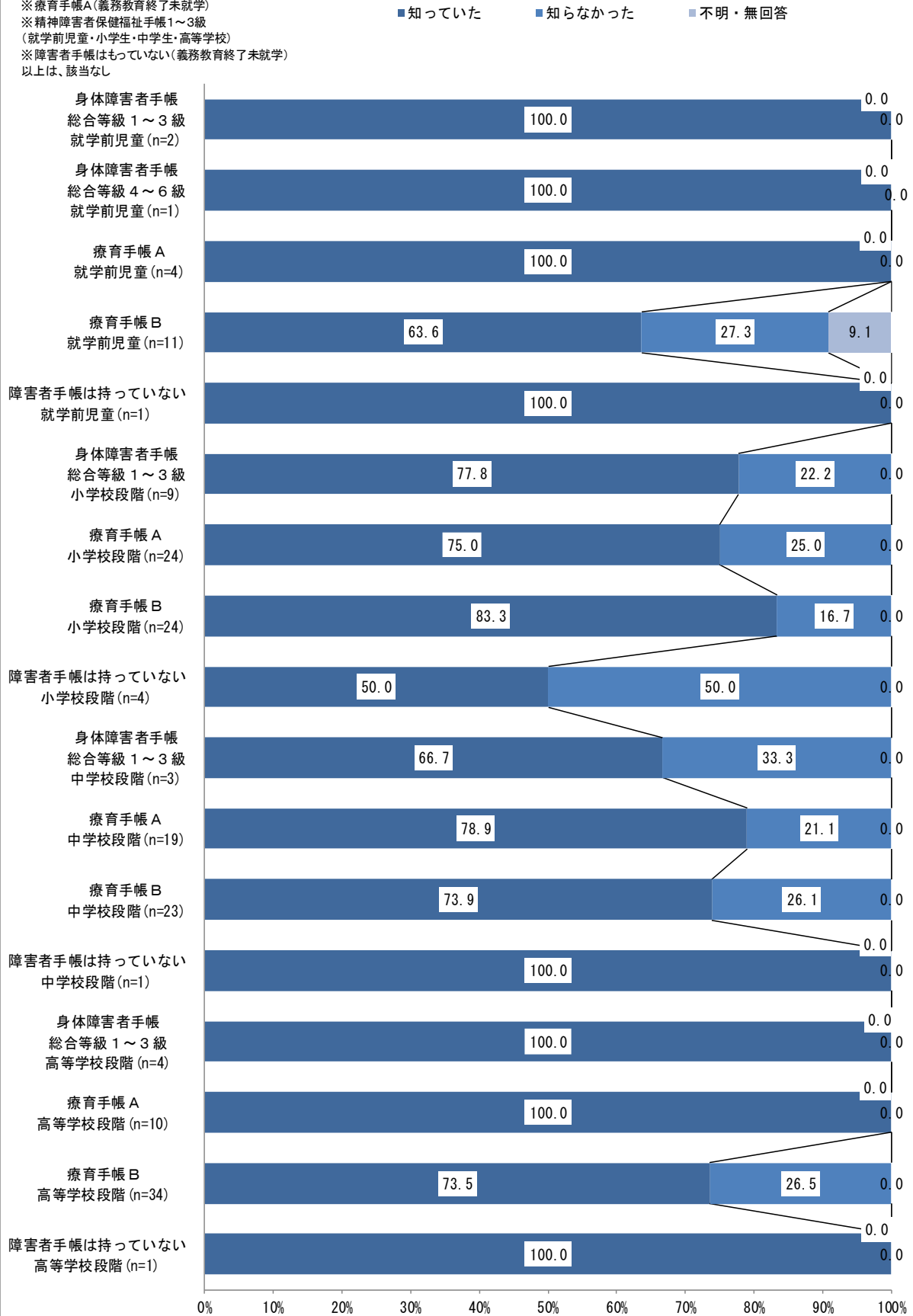
小学校段階：「知っていた」は、療育手帳Bが83.3%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が77.8%である。「知らなかった」は、障害者手帳は持っていないが50.0%、療育手帳Aが25.0%である。

中学校段階：「知っていた」は、療育手帳Aが78.9%、次に療育手帳Bが73.9%である。「知らなかった」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が33.3%、次に療育手帳Bが26.1%である。

高等学校段階：「知っていた」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが、100.0%、次に療育手帳Bが73.5%である。「知らなかった」は、療育手帳Bが26.5%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-5 相談窓口の認知状況—手帳等級別



## (2) 相談窓口での相談経験 (問10)

問9で「知っていた」と回答した人に、困ったことや悩みごとを相談窓口で相談したことがあるかをたずねた。

### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「相談したことがある」は、78.6%、「相談したことがない」は、21.4%である。  
小学校段階：「相談したことがある」は、92.5%、「相談したことがない」は、7.5%である。  
中学校段階：「相談したことがある」は、88.2%、「相談したことがない」は、11.8%である。  
高等学校段階：「相談したことがある」は、75.0%、「相談したことがない」は、25.0%である。  
義務教育修了未就学：「相談したことがない」は、100.0%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「相談したことがある」は、療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが57.1%である。「相談したことがない」は、療育手帳Bが42.9%である。

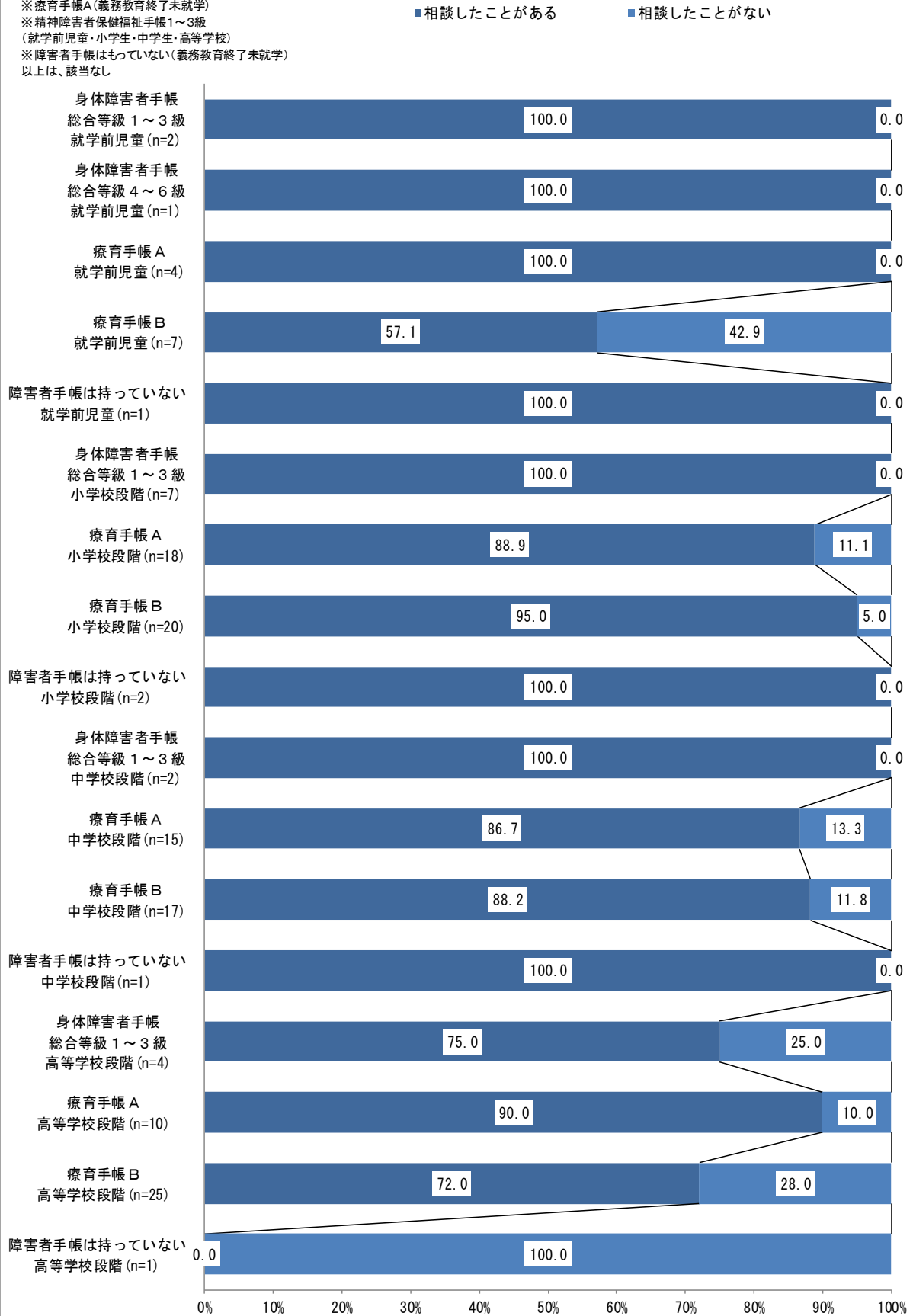
小学校段階：「相談したことがある」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が100.0%、次に療育手帳Bが95.0%である。「相談したことがない」は、療育手帳Aが11.1%、次に療育手帳Bが5.0%である。

中学校段階：「相談したことがある」は、療育手帳Bが88.2%、次に療育手帳Aが86.7%である。「相談したことがない」は、療育手帳Aが13.3%、次に療育手帳Bが11.8%である。

高等学校段階：「相談したことがある」は、療育手帳Aが90.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が75.0%である。「相談したことがない」は、療育手帳Bが28.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ－F－6 相談窓口での相談経験—手帳等級別



### (3) 相談窓口で相談したことがない理由 (問 1 1)

問 1 0 で「相談したことがない」と回答した人に、その理由をたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「相談することがない」が 66.7%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、33.3%である。

小学校段階：「相談することがない」が 66.7%である。

中学校段階：「相談することがない」が 75.0%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」が 25.0%である。

高等学校段階：「相談することがない」は、77.8%、「相談窓口の場所や電話番号を知らない」が 22.2%である。

義務教育修了未就学：「相談することがない」は、66.7%、「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、33.3%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数 2 名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「相談することがない」は、療育手帳 B が 66.7%である。「相談窓口の場所が遠くて行きにくい」は、療育手帳 B が 33.3%である。

小学校段階：該当者が少ない。

中学校段階：該当者が少ない。

高等学校段階：「相談することがない」は、療育手帳 B が 71.4%である。「相談窓口の場所や電話番号を知らない」は、療育手帳 B が 28.6%である。

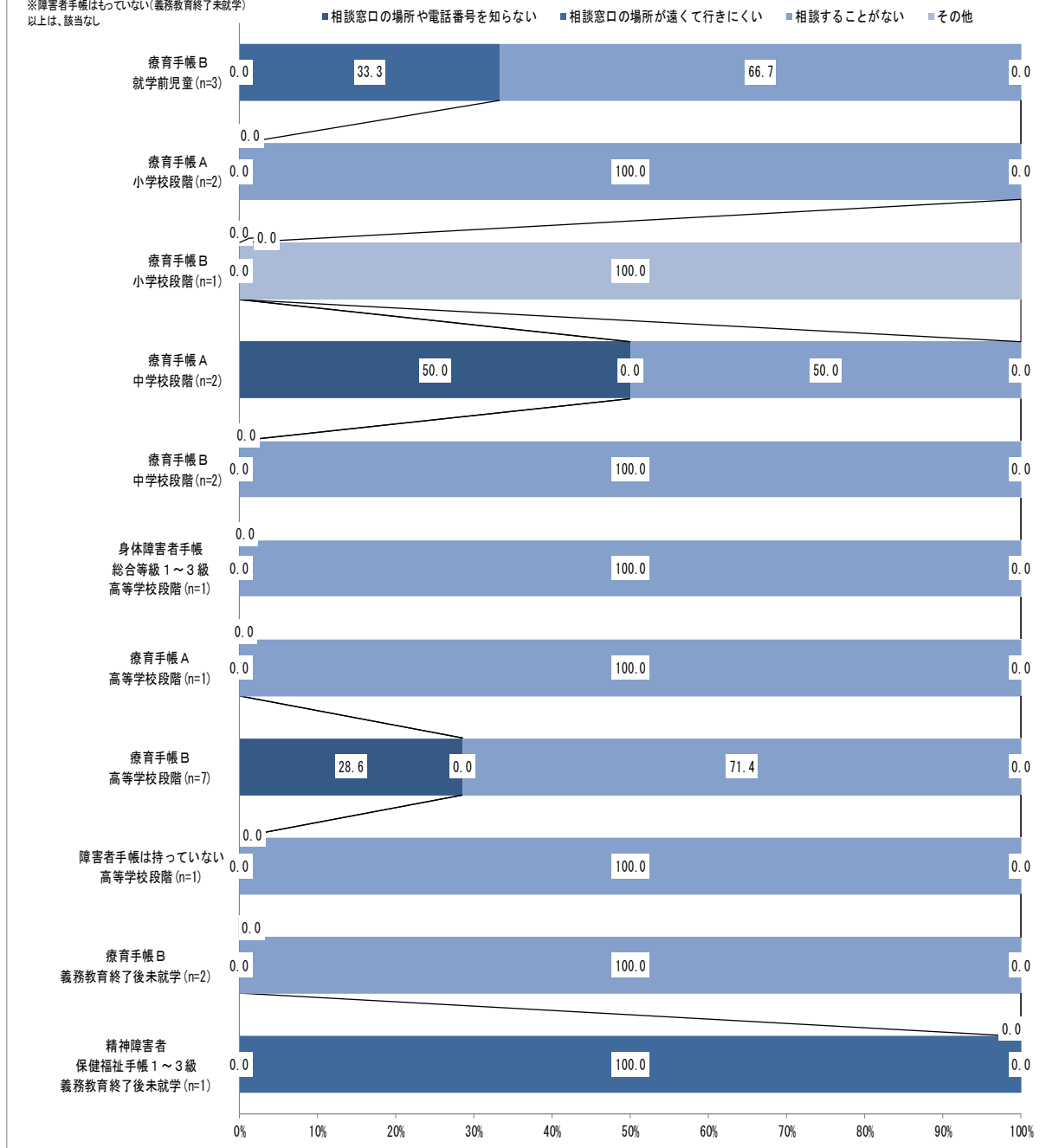
義務教育修了未就学：該当者が少ない。



※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-7 相談したことがない理由—手帳等級別

※回答があった年代のみ記載  
※相談窓口で相談したことを周囲に知ら  
れてしまうことが心配  
※相談窓口の職員が信用できない  
回答なし



### 3 相談支援ファイル「すこやかファイル」について（問12）

市で配布している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っているかをたずねた。

#### （Ⅲ 調査結果の要約 の再記述）

就学前児童：「知っているし、利用している」は、27.8%、「知っているが、利用していない」は、38.9%、「知らない」が33.3%である。

小学校段階：「知っているし、利用している」は、82.7%、「知っているが、利用していない」は、11.5%、「知らない」が5.8%である。

中学校段階：「知っているし、利用している」は、75.0%、「知っているが、利用していない」は、15.9%、「知らない」が9.1%である。

高等学校段階：「知っているし、利用している」は、80.0%、「知っているが、利用していない」は、8.9%、「知らない」が11.1%である。

義務教育修了未就学：「知っているし、利用している」は、66.7%、「知らない」が33.3%である。

【教育段階・手帳等級別】教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「知っているし、利用している」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが18.2%である。「知っているが、利用していない」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが36.4%である。「知らない」は、療育手帳Bが45.5%である。

小学校段階：「知っているし、利用している」は、障害者手帳は持っていないが100.0%、次に療育手帳Aが83.3%である。「知っているが、利用していない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が22.2%、次に療育手帳Aが16.7%である。「知らない」は、療育手帳Bが12.5%である。

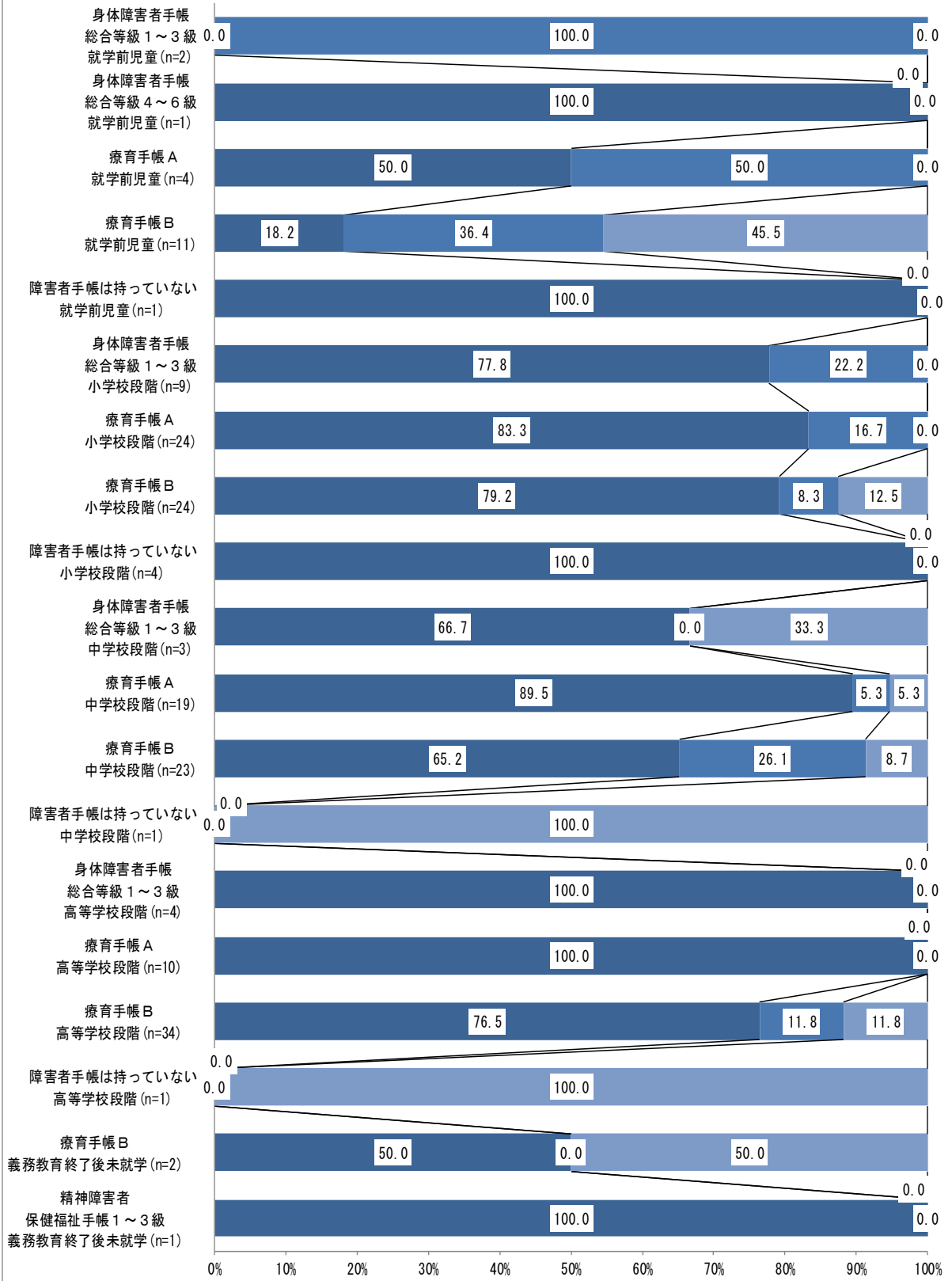
中学校段階：「知っているし、利用している」は、療育手帳Aが89.5%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が66.7%である。「知っているが、利用していない」は、療育手帳Bが26.1%、次に療育手帳Aが5.3%である。「知らない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が33.3%、次に療育手帳Bが8.7%である。

高等学校段階：「知っているし、利用している」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが76.5%である。「知っているが、利用していない」は、療育手帳Bが11.8%である。「知らない」は、療育手帳Bが11.8%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-8 「すこやかファイル」の認知-手帳等級別

■知っているし、利用している ■知っているが、利用していない ■知らない



#### 4 在宅福祉サービスについて

##### (1) 在宅福祉サービスの利用内容（問13）

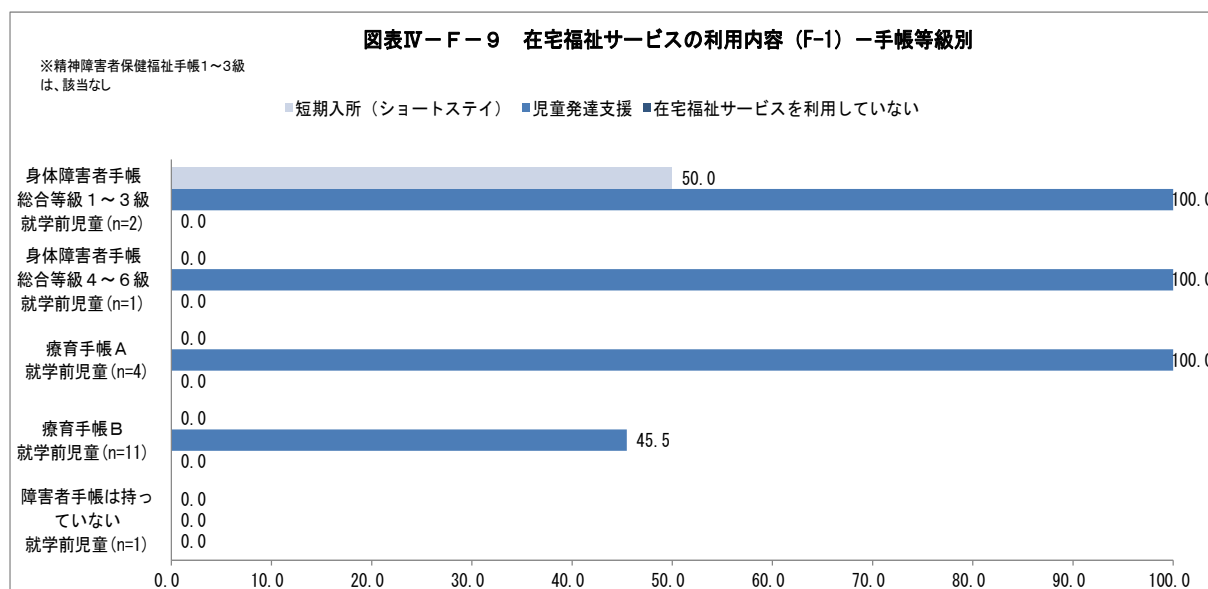
在宅福祉サービスの利用内容を複数回答でたずねた。

##### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「児童発達支援」は、55.6%、短期入所（ショートステイ）は、5.6%である。

一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、33.3%である。

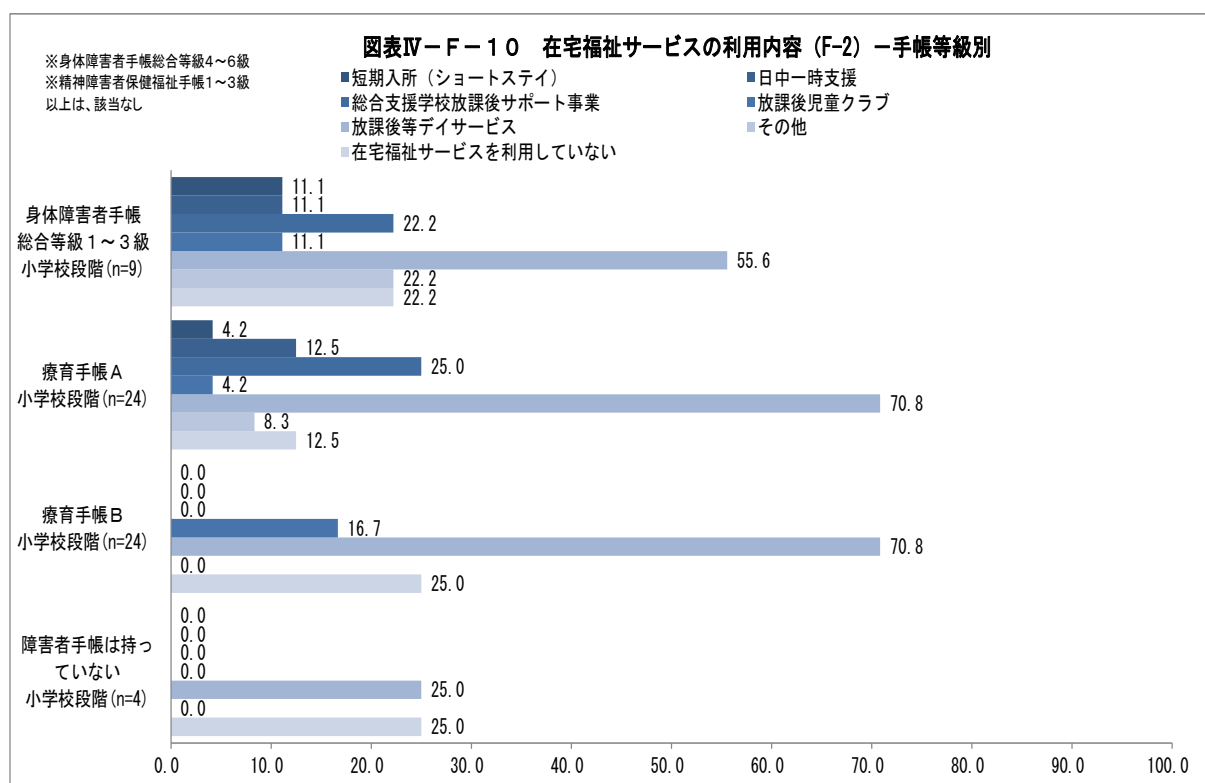
【教育段階・手帳等級別】就学前児童の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「児童発達支援」は、療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが45.5%である。



小学校段階：「放課後等デイサービス」は、67.3%、「総合支援学校放課後サポート事業」は、11.5%、「放課後児童クラブ」は、9.6%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、19.2%である。

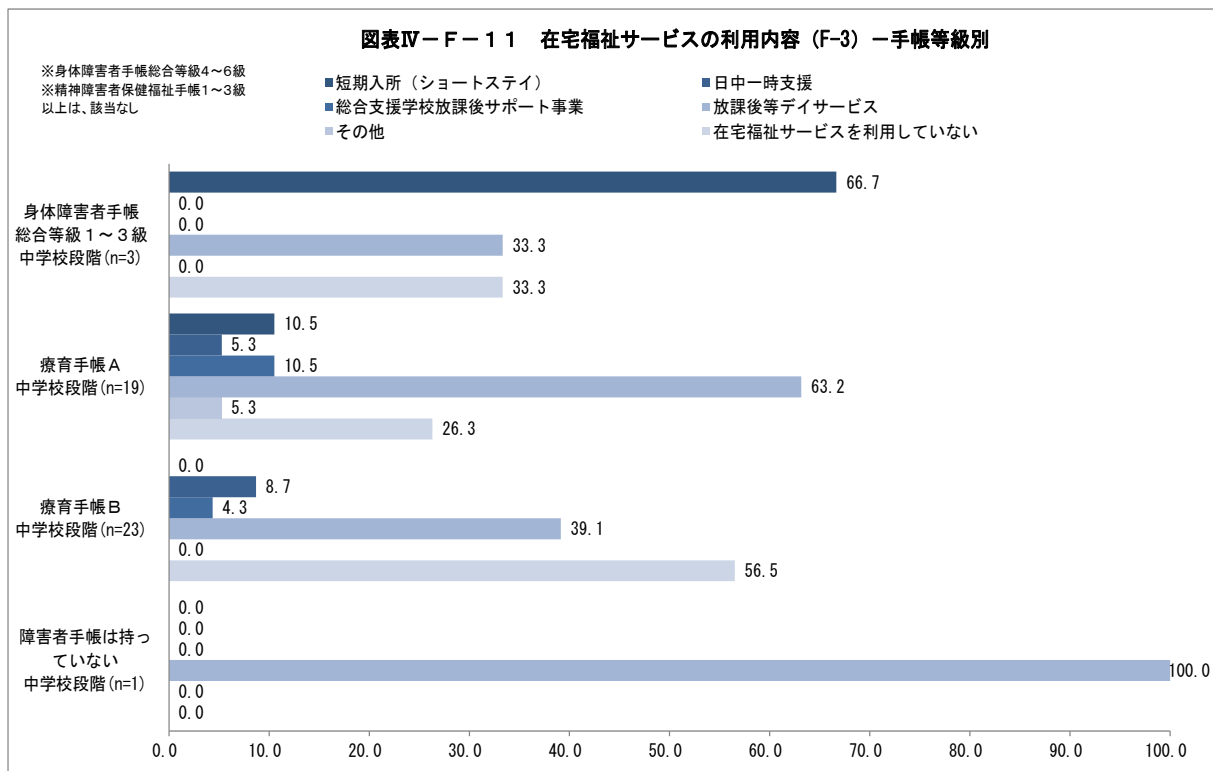
【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「放課後等デイサービス」は、療育手帳Aと療育手帳Bが70.8%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が55.6%である。「総合支援学校放課後サポート事業」は、療育手帳Aが25.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が22.2%である。

「放課後児童クラブ」は、療育手帳Bが16.7%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が11.1%である。「在宅福祉サービスを利用していない」は、療育手帳Bと障害者手帳は持っていないが25.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が22.2%である。



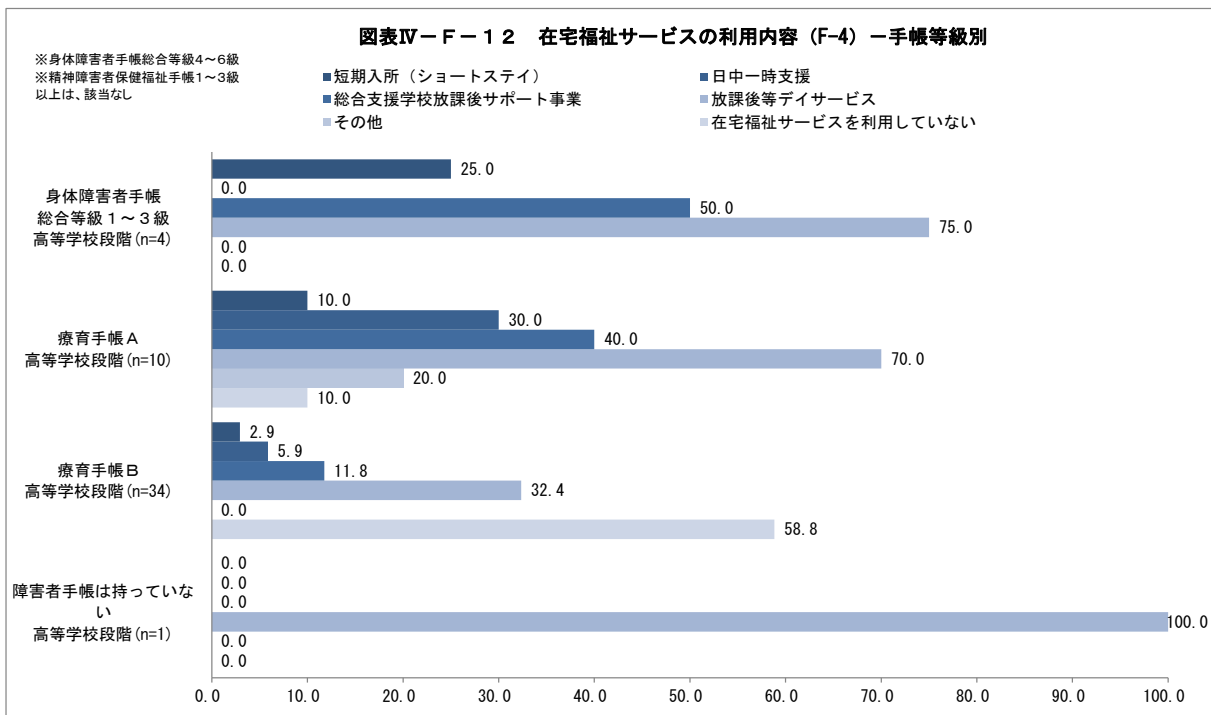
中学校段階：「放課後等デイサービス」は、52.3%、「総合支援学校放課後サポート事業」と「日中一時支援」は、ともに6.8%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、40.9%である。

【教育段階・手帳等級別】中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「放課後等デイサービス」は、療育手帳Aが63.2%、次に療育手帳Bが39.1%である。「短期入所（ショートステイ）」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が66.7%である。「在宅福祉サービスを利用していない」は、療育手帳Bが56.5%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が33.3%である。



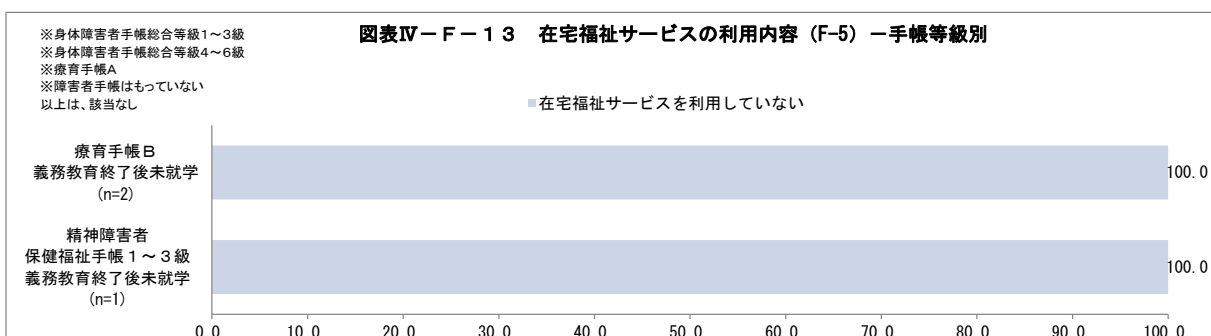
高等学校段階：「放課後等デイサービス」は、42.2%、「総合支援学校放課後サポート事業」は、17.8%、「日中一時支援」は、11.1%である。一方、「在宅福祉サービスを利用していない」は、46.7%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「放課後等デイサービス」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が75.0%、次に療育手帳Aが70.0%である。「総合支援学校放課後サポート事業」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが40.0%である。「短期入所（ショートステイ）」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。「在宅福祉サービスを利用していない」は、療育手帳Bが58.8%である。



義務教育修了未就学：「在宅福祉サービスを利用していない」は、100.0%である。

【教育段階・手帳等級別】義務教育修了未就学の手帳等級より割合が高かった回答をみると、「在宅福祉サービスを利用していない」は、療育手帳Bと精神障害者保健福祉手帳1～3級が100.0%である。



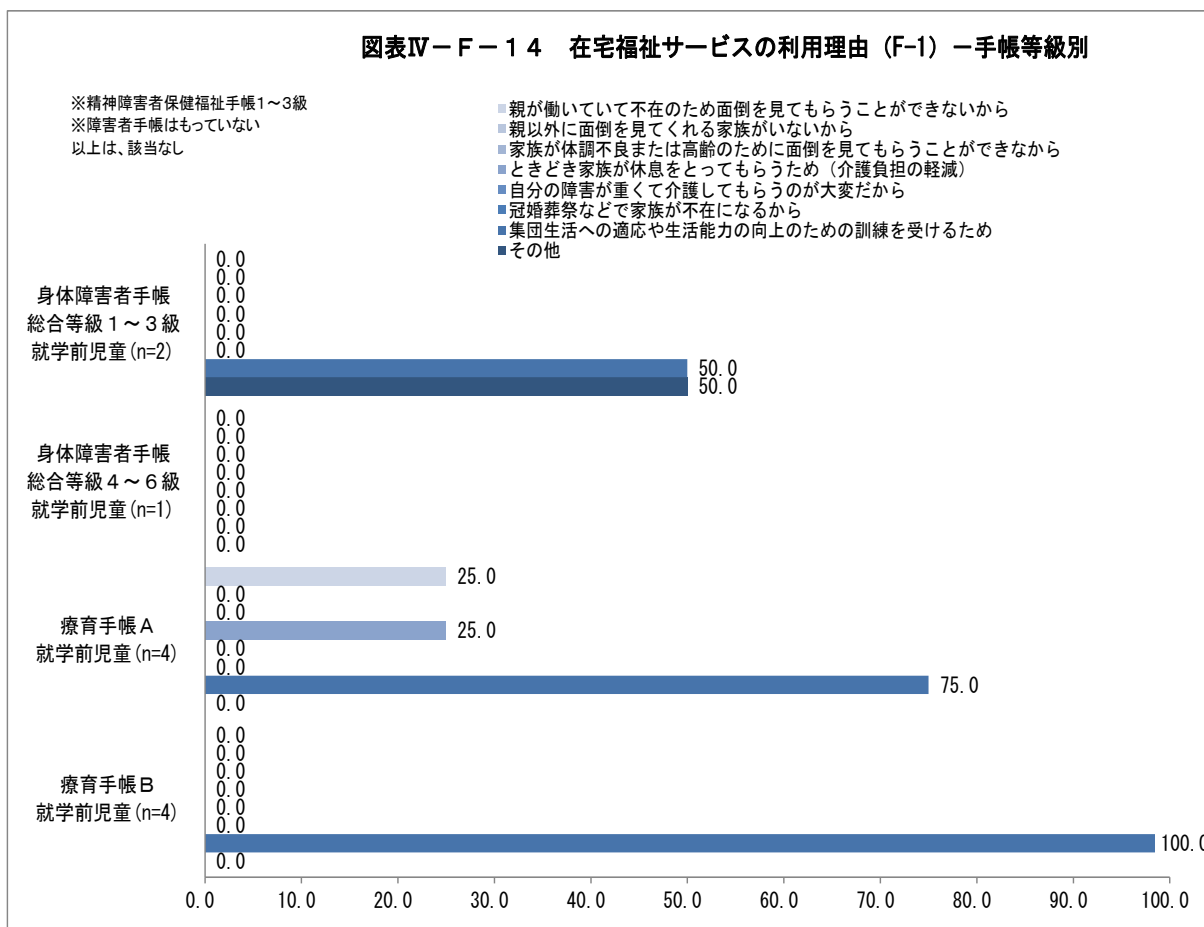
(2) 在宅福祉サービスの利用理由 (問14)

問13で「在宅福祉サービスを利用している」と回答した人に、どのような理由で在宅福祉サービスを利用しているか複数回答でたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、58.3%である。

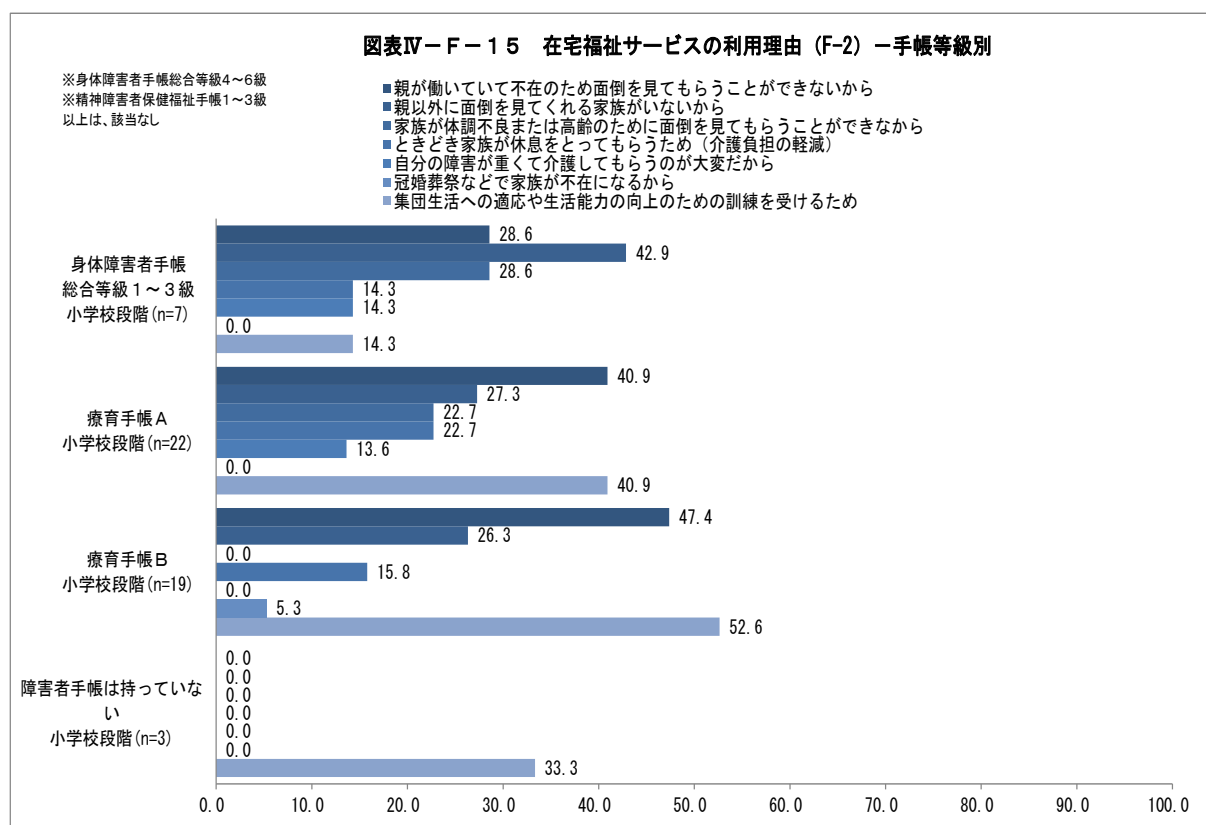
【教育段階・手帳等級別】就学前児童の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、療育手帳Bが100.0%、次に療育手帳Aが75.0%である。





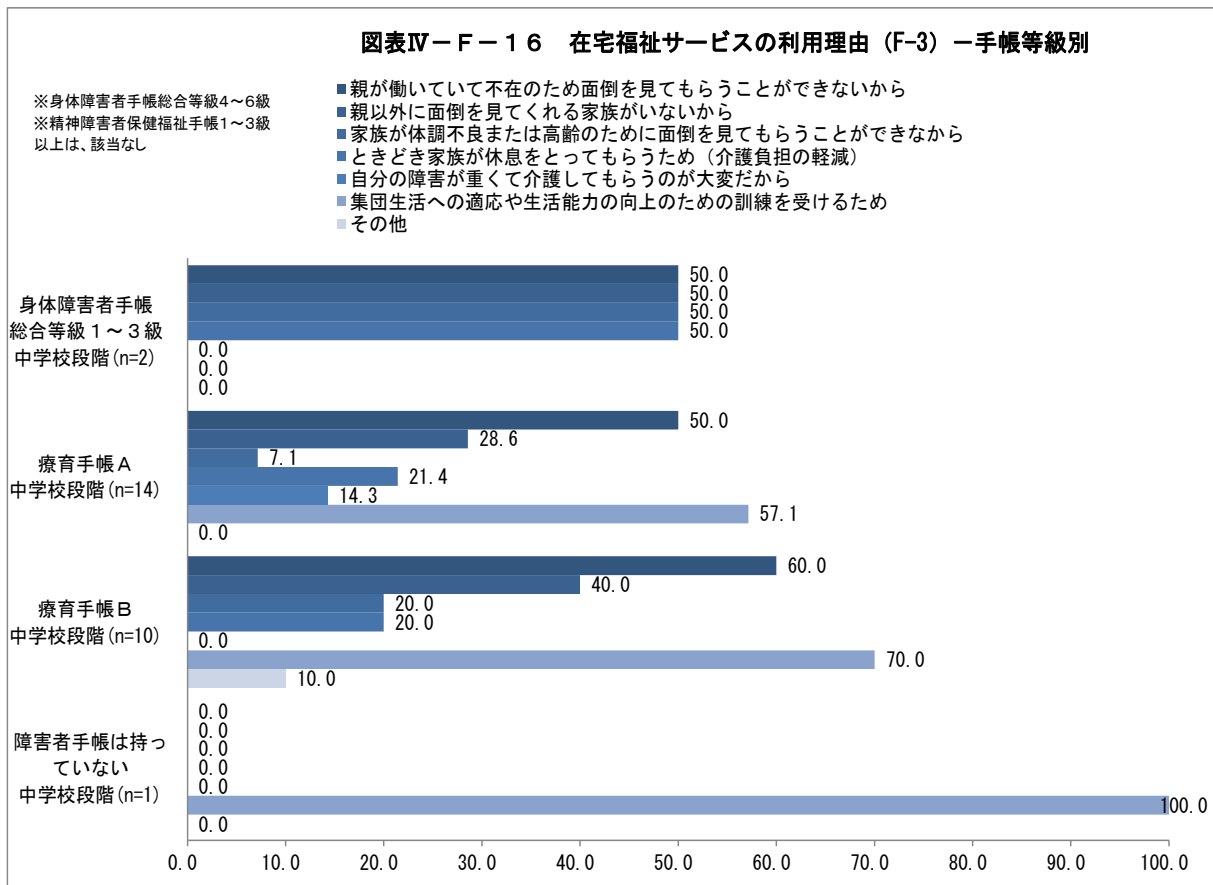
小学校段階：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、47.6%、  
「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、42.9%、  
「親以外に面倒を見てくれる家族がいないから」は、26.2%である。

【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、療育手帳Bが52.6%、次に療育手帳Aが40.9%である。「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、療育手帳Bが47.4%、次に療育手帳Aが40.9%である。「親以外に面倒を見てくれる家族がいないから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が42.9%、次に療育手帳Aが27.3%である。



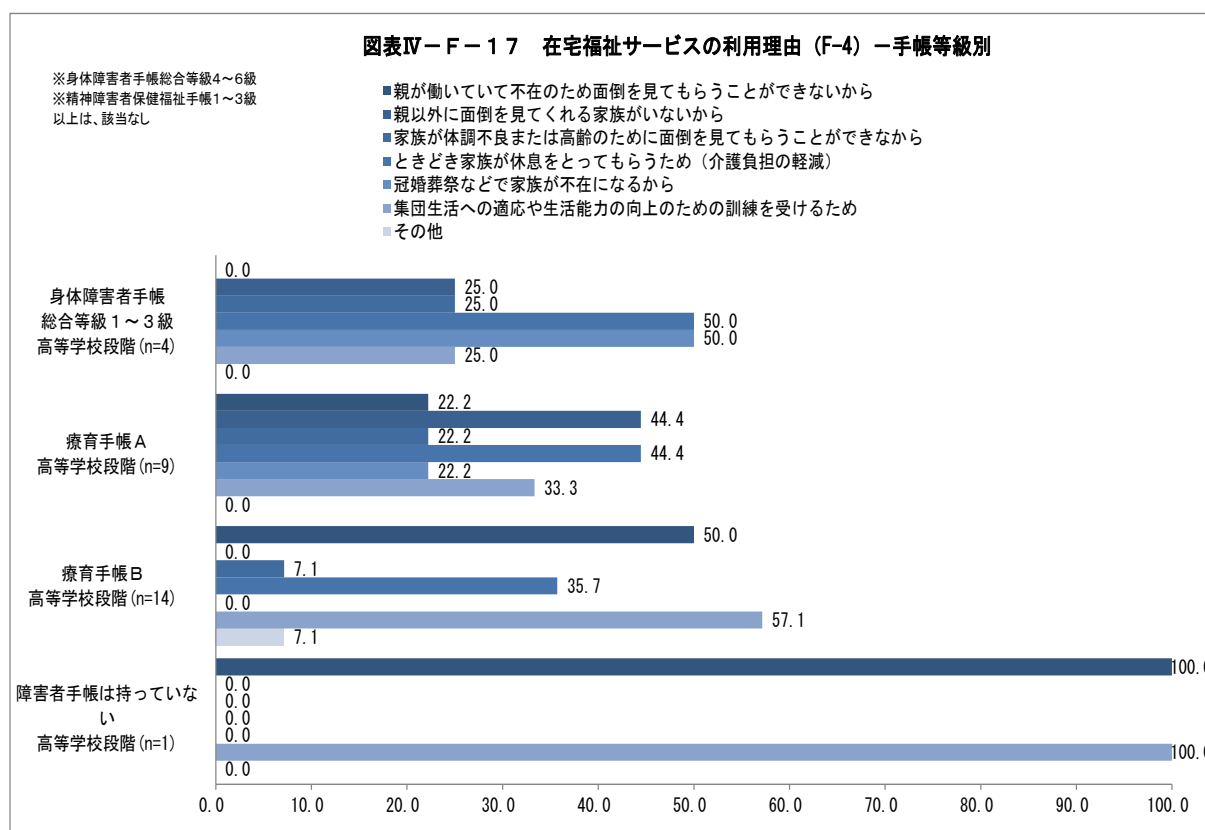
中学校段階：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、65.4%、  
 「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、50.0%、  
 「親以外に面倒を見てくれる家族がないから」は、30.8%である。

【教育段階・手帳等級別】中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、療育手帳Bが70.0%、次に療育手帳Aが57.1%である。「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、療育手帳Bが60.0%、次に療育手帳Aが50.0%である。「親以外に面倒を見てくれる家族がないから」は、療育手帳Bが40.0%、次に療育手帳Aが28.6%である。



高等学校段階：「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、50.0%、「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、41.7%、「ときどき家族が休息をとってもらうため」は、37.5%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため」は、療育手帳Bが57.1%、次に療育手帳Aが33.3%である。「親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから」は、療育手帳Bが50.0%、次に療育手帳Aが22.2%である。「ときどき家族が休息をとってもらうため」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが44.4%である。「冠婚葬祭などで家族が不在になるから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが22.2%である。「親以外に面倒を見てくれる家族がいないから」は、療育手帳Aが44.4%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。



義務教育修了未就学：回答者は、いない。

### (3) 在宅福祉サービスの利用度 (問15)

問13で「在宅福祉サービスを利用している」と回答した人に、在宅福祉サービスを十分利用できているかたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「十分に利用できている」は、16.7%、「おおむね利用できている」は、41.7%である。一方、「ほとんど利用できていない」は、16.7%である。

小学校段階：「十分に利用できている」は、35.7%、「おおむね利用できている」は、38.1%である。

中学校段階：「十分に利用できている」は、42.3%、「おおむね利用できている」は、34.6%である。一方、「利用できないことがよくある」は、11.5%である。

高等学校段階：「十分に利用できている」は、50.0%、「おおむね利用できている」は、41.7%である。

義務教育修了未就学：回答者がいなかった。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「十分に利用できている」は、療育手帳Aが50.0%である。「おおむね利用できている」は、療育手帳Bが100.0%、次に療育手帳Aが25.0%である。「ほとんど利用できていない」は、療育手帳Aが25.0%である。

小学校段階：「十分に利用できている」は、療育手帳Aが40.9%、次に障害者手帳は持っていないが33.3%である。「おおむね利用できている」は、療育手帳Bが57.9%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が28.6%である。「利用できないことがよくある」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が28.6%である。

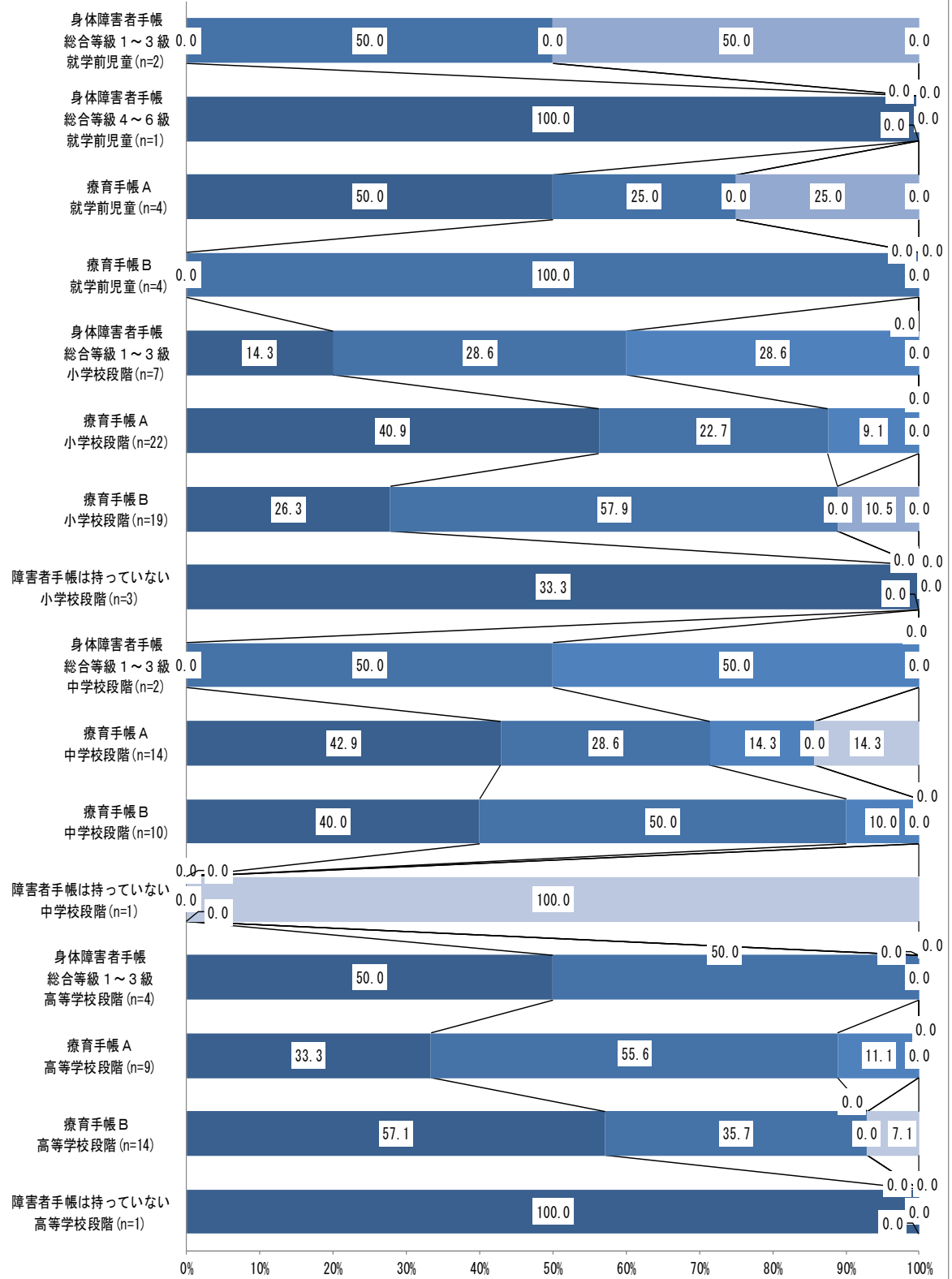
中学校段階：「十分に利用できている」は、療育手帳Aが42.9%、次に療育手帳Bが40.0%である。「おおむね利用できている」は、療育手帳Bが50.0%、次に療育手帳Aが28.6%である。「利用できてないことがよくある」は、療育手帳Aが14.3%、次に療育手帳Bが10.0%である。

高等学校段階：「十分に利用できている」は、療育手帳Bが57.1%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%である。「おおむね利用できている」は、療育手帳Aが55.6%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%である。「利用できてないことがよくある」は、療育手帳Aが11.1%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-18 在宅福祉サービスの利用度—手帳等級別

- 十分に利用できている
- おむね利用できている
- 利用できないことがよくある
- ほとんど利用できていない
- 不明・無回答



#### (4) 在宅福祉サービスを利用しない理由（問16）

問13で「在宅福祉サービスを利用していない」と回答した人に、在宅福祉サービスを利用しない理由をたずねた。

#### （Ⅲ 調査結果の要約 の再記述）

就学前児童：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、100.0%である。

小学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、80.0%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、ともに10.0%である。

中学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、77.8%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、ともに5.6%である。

高等学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、85.7%、「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、ともに4.8%である。

義務教育修了未就学：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、66.7%、「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、33.3%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、療育手帳Bが100.0%である。

小学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、療育手帳Aが150.0%、療育手帳Bが80.0%である。「在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」は、療育手帳Bが20.0%である。「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、療育手帳Bが20.0%である。

療育手帳Aと療育手帳Bは、身体障害者手帳総合等級1～3級と重複して手帳の交付を受けている。

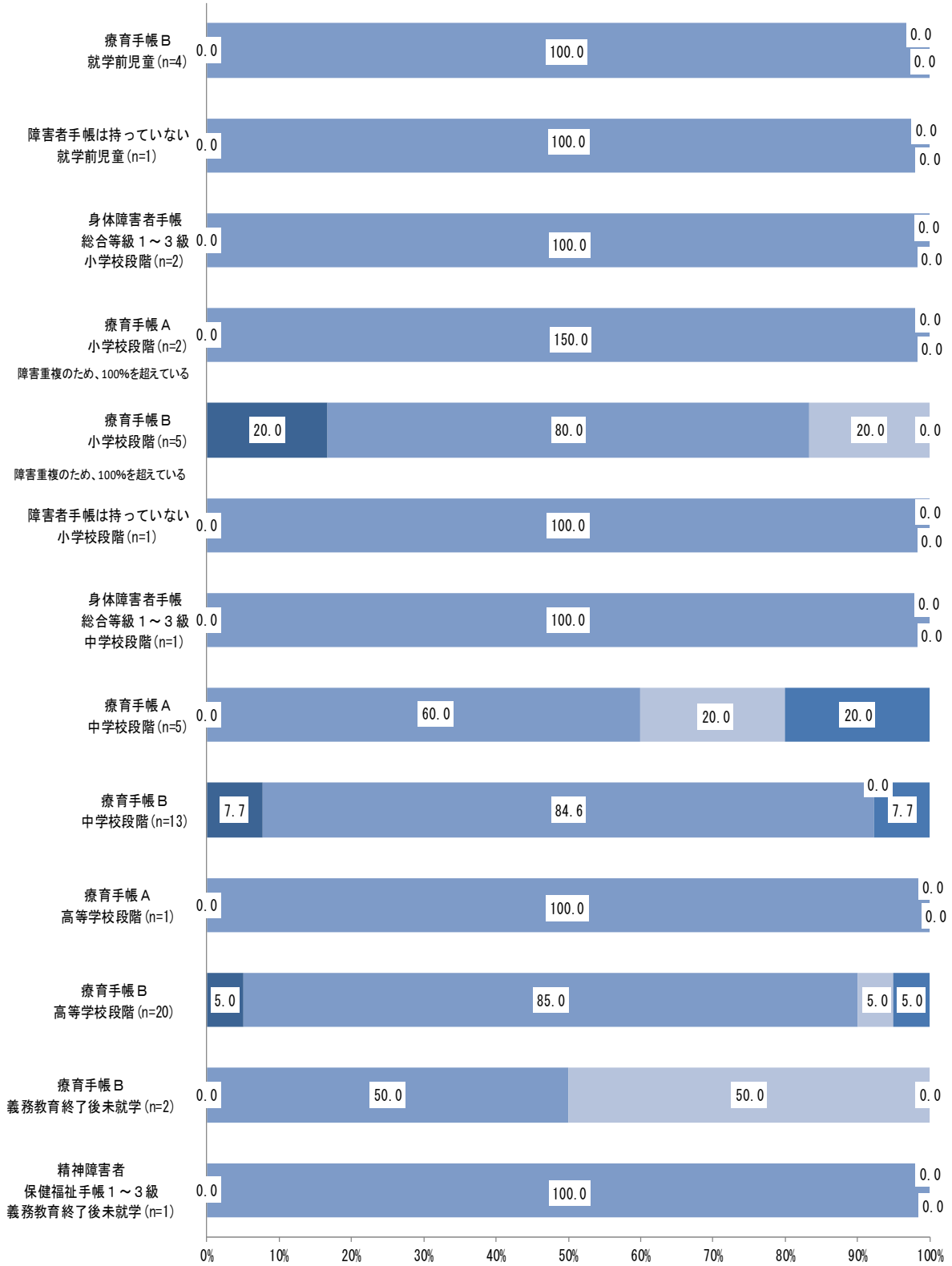
中学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、療育手帳Bが84.6%、次に療育手帳Aが60.0%である。「在宅福祉サービスがあることを知らなかったから」は、療育手帳Aが20.0%である。

高等学校段階：「在宅福祉サービスを利用する必要がないから」は、療育手帳Bが85.0%である。

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
 (就学前児童・高等学校・義務教育終了未就学)  
 ※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 (就学前児童・小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
 ※療育手帳A(就学前児童・義務教育終了未就学)  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
 (就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
 ※障害者手帳はもっていない(高等学校・義務教育終了未就学)  
 以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-19 在宅福祉サービスの利用していない理由—手帳等級別

- 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから
- 在宅福祉サービスを利用する必要がないから(施設入所している方も含みます)
- 在宅福祉サービスがあることを知らなかったから



(5) 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと (問17)

問15で「利用できないことがよくある」または「ほとんど利用できていない」、問16で「在宅福祉サービスを利用したいが十分に利用できないから」と回答した人に、在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることを複数回答でたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「その他」は、100.0%である。

小学校段階：「家族の用事をキャンセルした」は、40.0%である。

中学校段階：「祖父母など親以外の家族の負担が増えた」と「家族の用事をキャンセルした」は、ともに50.0%である。

高等学校段階：「家族の用事をキャンセルした」は、50.0%である。

義務教育修了未就学：対象はいなかった。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数1名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：該当数が少ない。

小学校段階：「家族の用事をキャンセルした」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが50.0%、療育手帳Bが33.3%である。「祖父母など親以外の家族の負担が増えた」は、療育手帳Bが33.3%である。「親戚や近隣の友人に負担をかけた」は、療育手帳Bが33.3%である。

中学校段階：「家族の用事をキャンセルした」は、療育手帳Aが100.0%である。「祖父母など親以外の家族の負担が増えた」は、療育手帳Aと療育手帳Bが50.0%である。「あなたが学校を休んだ」は、療育手帳Bが50.0%である。「親が仕事を辞めた、または転職した」は、療育手帳Aが50.0%である。

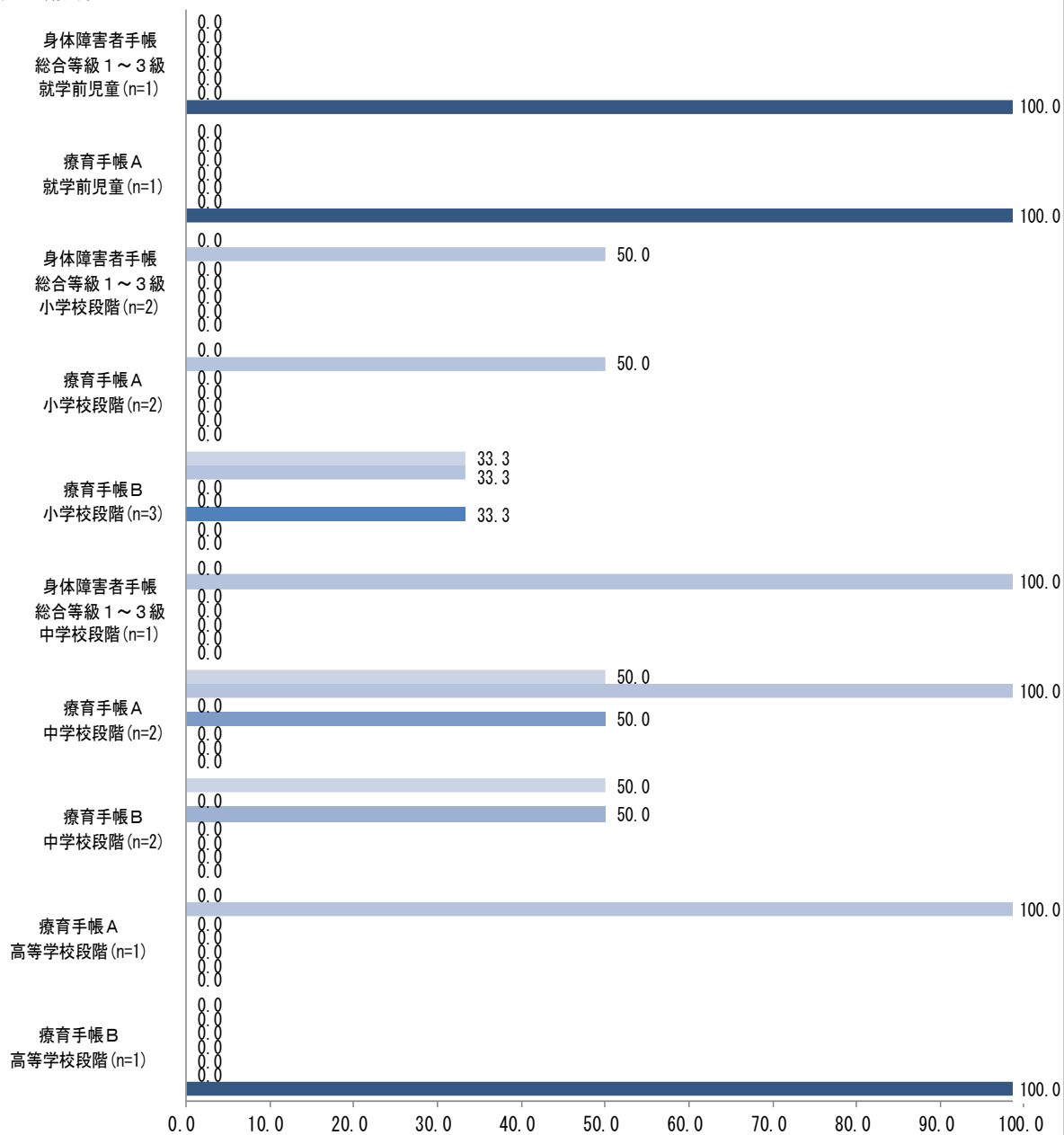
高等学校段階：該当数が少ない。



図表Ⅳ-F-20 在宅福祉サービスを利用できなくて困ったこと—手帳等級別

※身体障害者手帳総合等級1～3級  
(高等学校・義務教育終了未就学)  
※身体障害者手帳総合等級4～6級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校・義務教育終了未就学)  
※療育手帳A(義務教育終了未就学)  
※療育手帳B(就学前児童・義務教育終了未就学)  
※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
(就学前児童・小学生・中学生・高等学校)  
※障害者手帳はもっていない(就学前児童・小学校・中学校・高等学校・義務教育終了未就学)  
以上は、該当なし

- 祖父母など親以外の家族の負担が増えた
- 家族の用事をキャンセルした
- あなたが学校を休んだ
- 親が仕事を辞めた、または転職した
- 親戚や近隣の友人に負担をかけた
- あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった
- その他



## 5 障害のある人への差別について

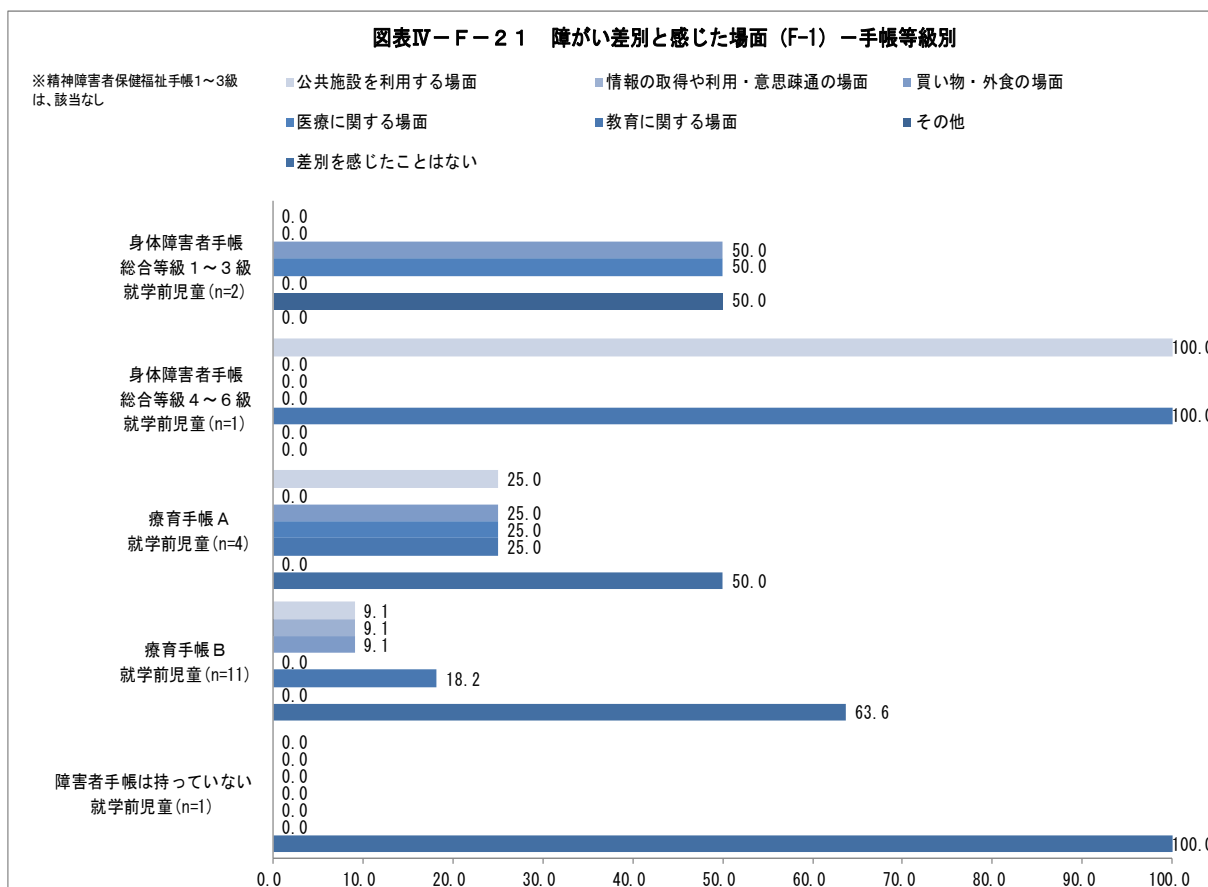
### (1) 障害を理由として差別されたと感じた場面（問18）

過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面について複数回答でたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

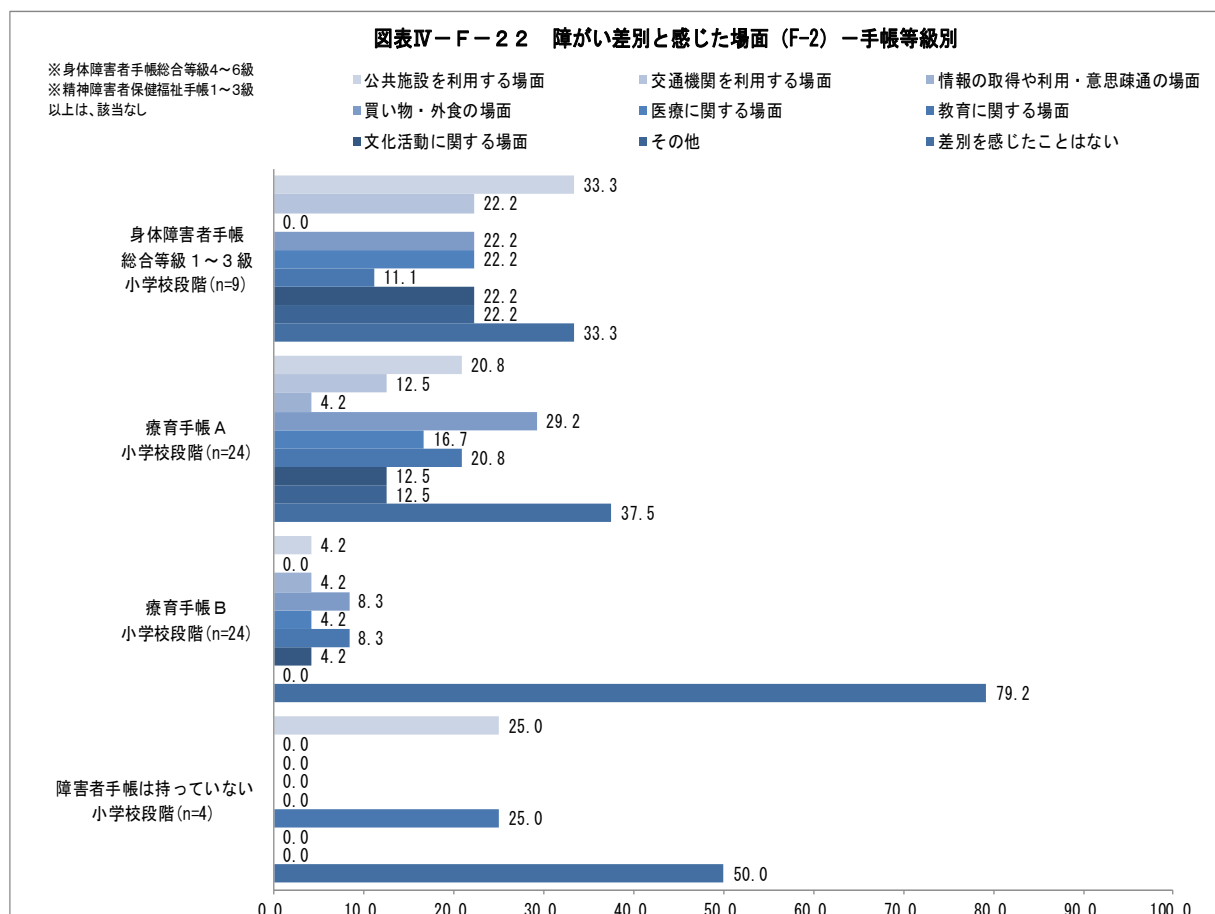
就学前児童：「教育に関する場面」は、16.7%、「公共施設を利用する場面」と「買い物・外食の場面」は、ともに11.1%である。一方、「差別を感じたことはない」は、61.1%である。

【教育段階・手帳等級別】就学前児童の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「差別を感じたことはない」は、療育手帳Bが63.6%、次に療育手帳Aが50.0%である。「教育に関する場面」は、療育手帳Aが25.0%、次に療育手帳Bが18.2%である。「公共施設を利用する場面」は、療育手帳Aが25.0%、次に療育手帳Bが9.1%である。「買い物・外食の場面」は、療育手帳Aが25.0%、次に療育手帳Bが9.1%である。



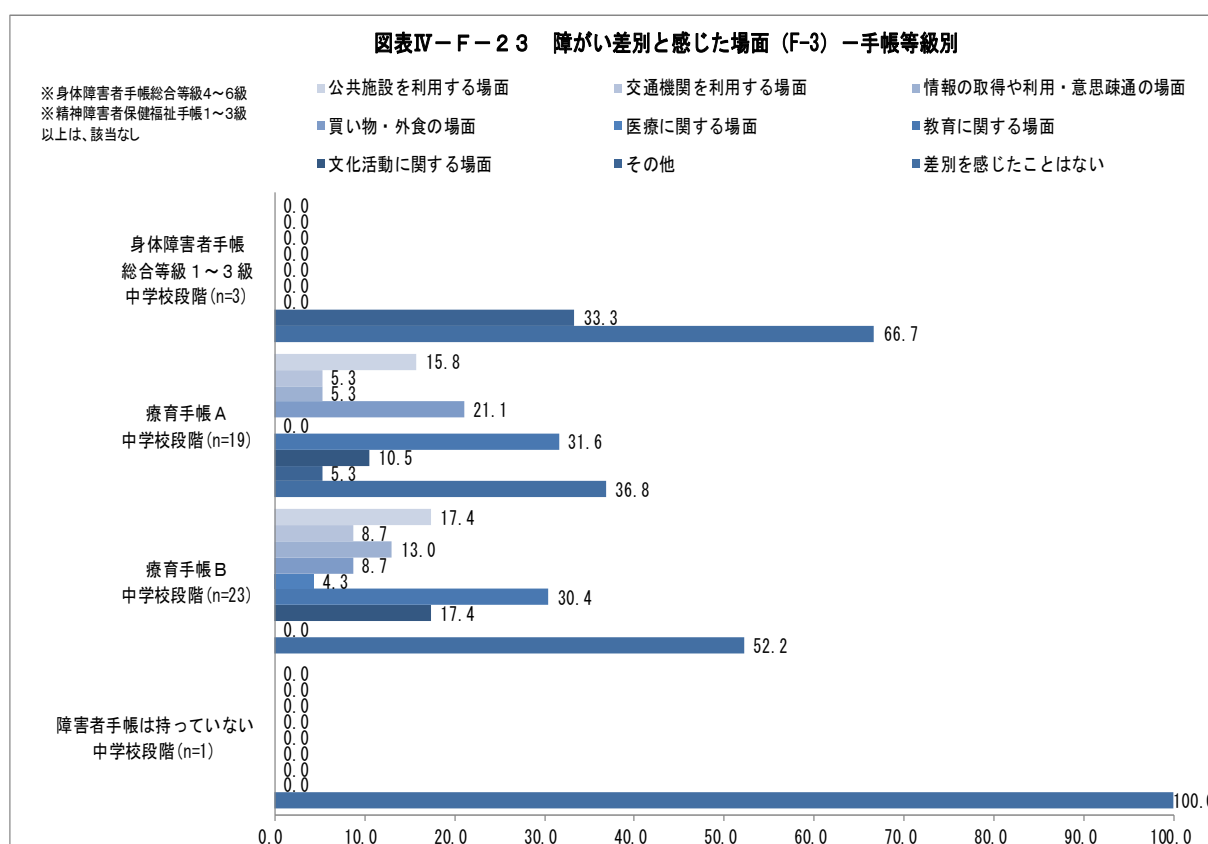
小学校段階：「買い物・外食の場面」は、17.3%、「教育に関する場面」は、15.4%、「公共施設を利用する場面」は、13.5%である。一方、「差別を感じたことはない」は、57.7%である。

【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「差別を感じたことはない」は、療育手帳Bが79.2%、次に障害者手帳は持っていないが50.0%である。「公共施設を利用する場面」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が33.3%、次に障害者手帳は持っていないが25.0%である。「買い物・外食の場面」は、療育手帳Aが29.2%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が22.2%である。「教育に関する場面」は、障害者手帳は持っていないが25.0%、次に療育手帳Aが20.8%である。



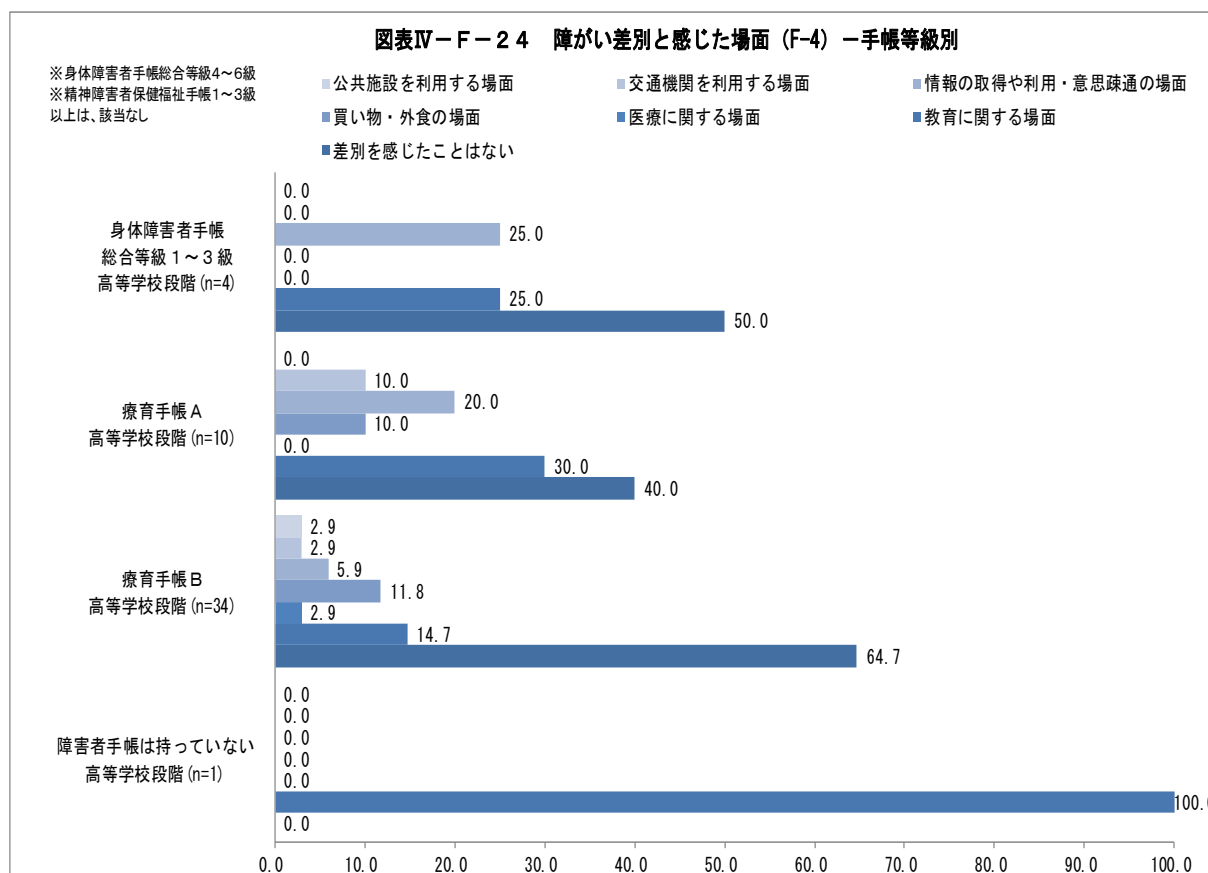
中学校段階：「教育に関する場面」は、29.5%、「公共施設を利用する場面」は、15.9%、「買い物・外食の場面」と「文化活動に関する場面」は、ともに 13.6%である。一方、「差別を感じたことはない」は、47.7%である。

**【教育段階・手帳等級別】** 中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数 2 名以下の場合を除く）をみると、「差別を感じたことはない」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 66.7%、次に療育手帳 B が 52.2%である。「教育に関する場面」は、療育手帳 A が 31.6%、次に療育手帳 B が 30.4%である。「公共施設を利用する場面」は、療育手帳 B が 17.4%、次に療育手帳 A が 15.8%である。「買い物・外食の場面」は、療育手帳 A が 21.1%、次に療育手帳 B が 8.7%である。「文化活動に関する場面」は、療育手帳 B が 17.4%、次に療育手帳 A が 10.5%である。



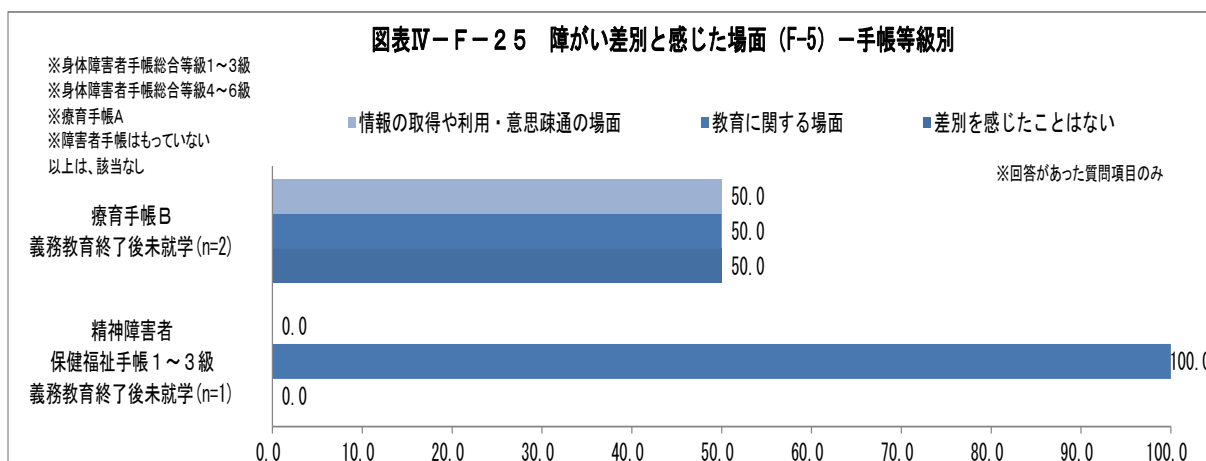
高等学校段階：「教育に関する場面」は、20.0%、「買い物・外食の場面」は、11.1%である。  
一方、「差別を感じたことはない」は、57.8%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「差別を感じたことはない」は、療育手帳Bが64.7%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%である。「教育に関する場面」は、療育手帳Aが30.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%、次に療育手帳Aが20.0%である。「買い物・外食の場面」は、療育手帳Bが11.8%、次に療育手帳Aが10.0%である。



義務教育修了未就学：「教育に関する場面」は、66.7%、「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、33.3%である。一方、「差別を感じたことはない」は、33.3%である。

【教育段階・手帳等級別】義務教育終了未就学の手帳等級より割合が高かった回答（該当数1名以下の場合を除く）をみると、「差別を感じたことはない」とは、療育手帳Bが50.0%である。「情報の取得や利用・意思疎通の場面」は、療育手帳Bが50.0%である。「教育に関する場面」は、療育手帳Bが50.0%である。



## (2) 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること (問19)

問18で「差別を感じた場面がある」と回答した人に、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることについてたずねた。

### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

就学前児童：「福祉教育を充実させる」と「施設や設備のバリアフリー化をさらに進める」と「行政機関における配慮をさらに進める」は、ともに33.3%である。

小学校段階：「福祉教育を充実させる」は、27.3%である。

中学校段階：「教育における配慮をさらに進める」は、28.6%、「障害者雇用をさらに進める」は、14.3%である。

高等学校段階：「福祉教育を充実させる」と「教育における配慮をさらに進める」は、ともに22.2%、「行政機関における配慮をさらに進める」は、11.1%である。

義務教育修了未就学：「教育における配慮をさらに進める」は、50.0%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数1名以下の場合を除く）をみると、

就学前児童：「福祉教育を充実させる」は、療育手帳Bが66.7%である。「施設や設備のバリアフリー化をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aがともに50.0%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級4～6級が100.0%、次に療育手帳Aが50.0%である。

小学校段階：「福祉教育を充実させる」は、療育手帳Bが80.0%、次に療育手帳Aが18.8%である。「講習会や学習会などを開催する」は、療育手帳Bが20.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が16.7%である。「施設や設備のバリアフリー化をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が16.7%、次に療育手帳Aが6.3%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が16.7%、次に療育手帳Aが6.3%である。「障害者雇用をさらに進める」は、障害者手帳を持っていないが50.0%である。

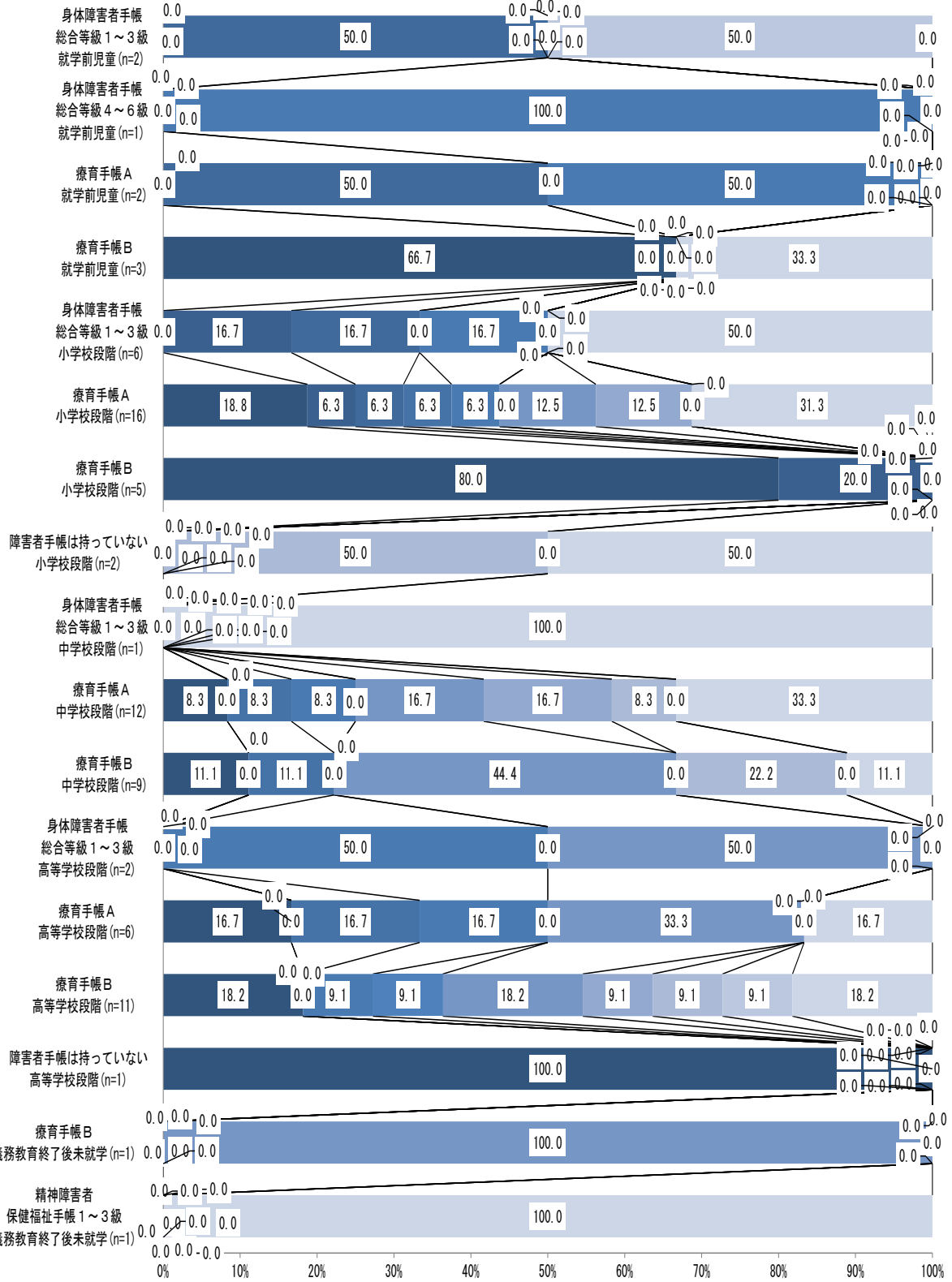
中学校段階：「教育における配慮をさらに進める」は、療育手帳Bが44.4%、次に療育手帳Aが16.7%である。「障害者雇用をさらに進める」は、療育手帳Bが22.2%である。「イベントなどへ参加しやすいよう配慮する」は、療育手帳Aが16.7%である。

高等学校段階：「教育における配慮をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが33.3%である。「行政機関における配慮をさらに進める」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが16.7%である。「福祉教育を充実させる」は、障害者手帳を持っていないが100.0%、次に療育手帳Bが18.2%である。「福祉サービスをさらに充実させる」は、療育手帳Aが16.7%である。

※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 (小学校・中学校・高等学校・義務教育修了後未就学)  
 ※療育手帳A(義務教育修了後未就学)  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級(就学前児童・小学校・中学校・高等学校)  
 ※障害者手帳はもっていない(就学前児童・中学校・義務教育修了後未就学)  
 以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-26 障害のある人への差別を解消するために必要と考えること一手帳等級別

- 福祉教育を充実させる
- 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める
- 行政機関における配慮をさらに進める
- 教育における配慮をさらに進める
- 障害者雇用をさらに進める
- 不明・無回答
- 講習会や学習会などを開催する
- 福祉サービスをさらに充実させる
- 民間事業所における配慮をさらに進める
- イベントなどへ参加しやすいよう配慮する
- その他





## 個別回答項目（Ⅱ）

小学校段階（F－2）は該当数 52、中学校段階（F－3）は該当数 44、高等学校段階（F－4）は該当数 45 の 3 段階（就学者）を対象として、手帳別にクロス集計を行った。

なお、就学前児童（F－1）は該当数 18、義務教育修了未就学（F－5）は該当数 3 であった。

### 1 個別の教育支援計画及び指導計画について

#### （1）個別の教育支援計画及び指導計画作成状況

（F－2 問 9・F－3 問 10・F－4 問 10）

個別の教育支援計画及び指導計画の作成状況をたずねた。

#### （Ⅲ 調査結果の要約 の再記述）

小学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、73.1%、「指導計画のみ作成」は、21.2% で、中学校段階・高等学校段階に比べて割合が高い。

中学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、75.0%で、小学校段階・高等学校段階に比べて割合が高い。「指導計画のみ作成」は、11.4%、「作成されていない」は、4.5%である。

高等学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、73.3%、「作成されていない」は、13.3%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数 2 名以下の場合を除く）をみると、

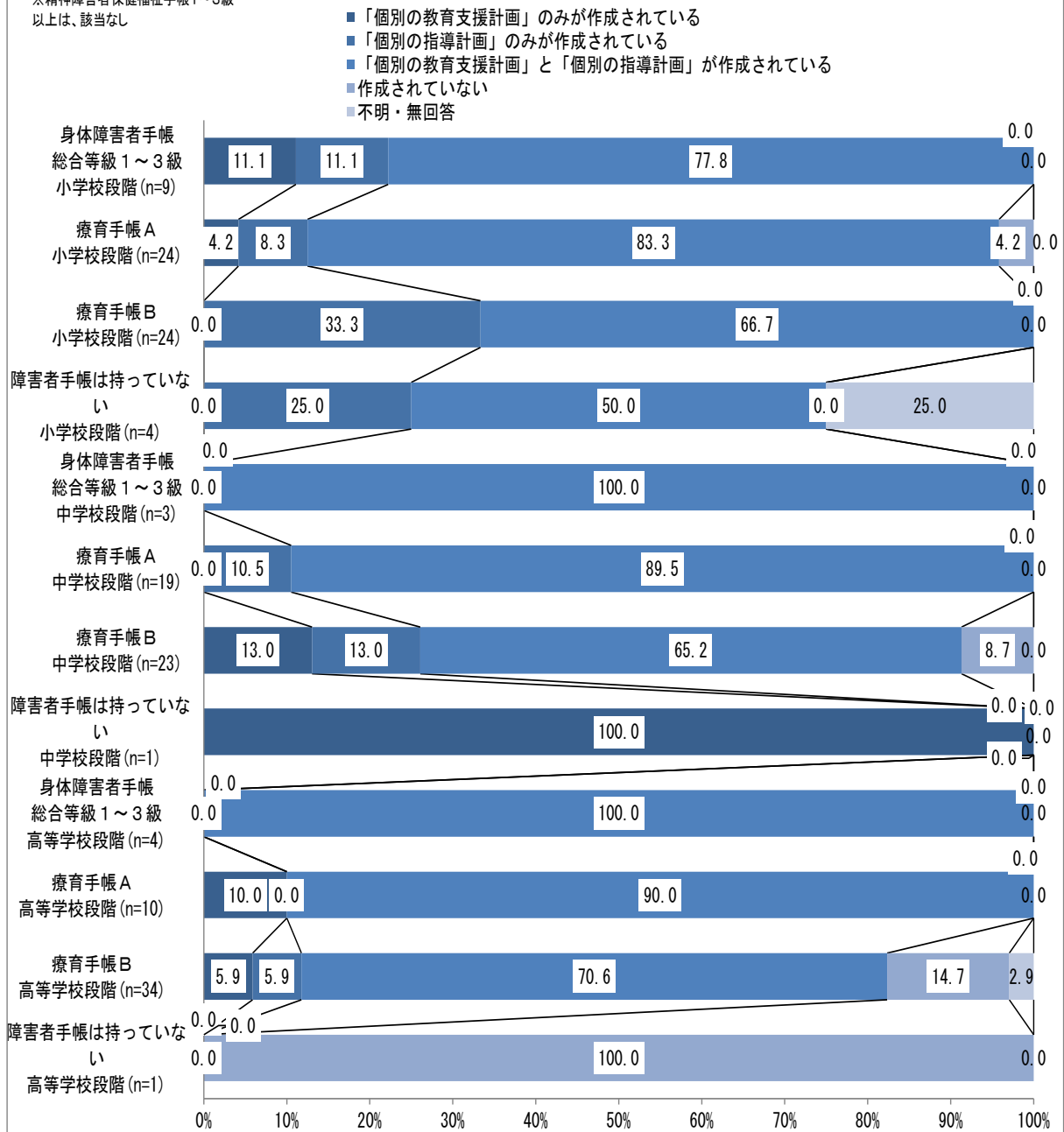
小学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、療育手帳 A が 83.3%、次に身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 77.8%である。「指導計画のみ作成」は、療育手帳 B が 33.3%、次に障害者手帳は持っていないが 25.0%である。

中学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 100.0%、次に療育手帳 A が 89.5%である。「指導計画のみ作成」は、療育手帳 B が 13.0%、次に療育手帳 A が 10.5%である。

高等学校段階：「教育支援計画と指導計画を作成」は、身体障害者手帳総合等級 1～3 級が 100.0%、次に療育手帳 A が 90.0%である。「個別の教育支援計画のみが作成されている」は、療育手帳 A が 10.0%、次に療育手帳 B が 5.9%である。

※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
 以上は、該当なし

図表Ⅳ-F-27 個別の教育計画等の作成状況—手帳等級別



(2) 計画作成における学校との話し合い状況 (F-2 問 10・F-3 問 11・F-4 問 11)

問9または問10で「個別の教育支援計画のみが作成されている」または「個別の指導計画のみ作成されている」、「個別の教育支援計画と個別の指導計画が作成されている」と回答した人に、個別の教育支援計画または個別の指導計画の作成にあたり、学校とどのくらい話し合いをしたかたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

小学校段階：「年2回以上」は、82.0%、「年1回」は、14.0%である。

中学校段階：「年2回以上」は、83.3%、「年1回」は、14.3%である。

高等学校段階：「年2回以上」は、92.1%で、小学校段階・中学校段階に比べて割合が高い。「年1回」は、7.9%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

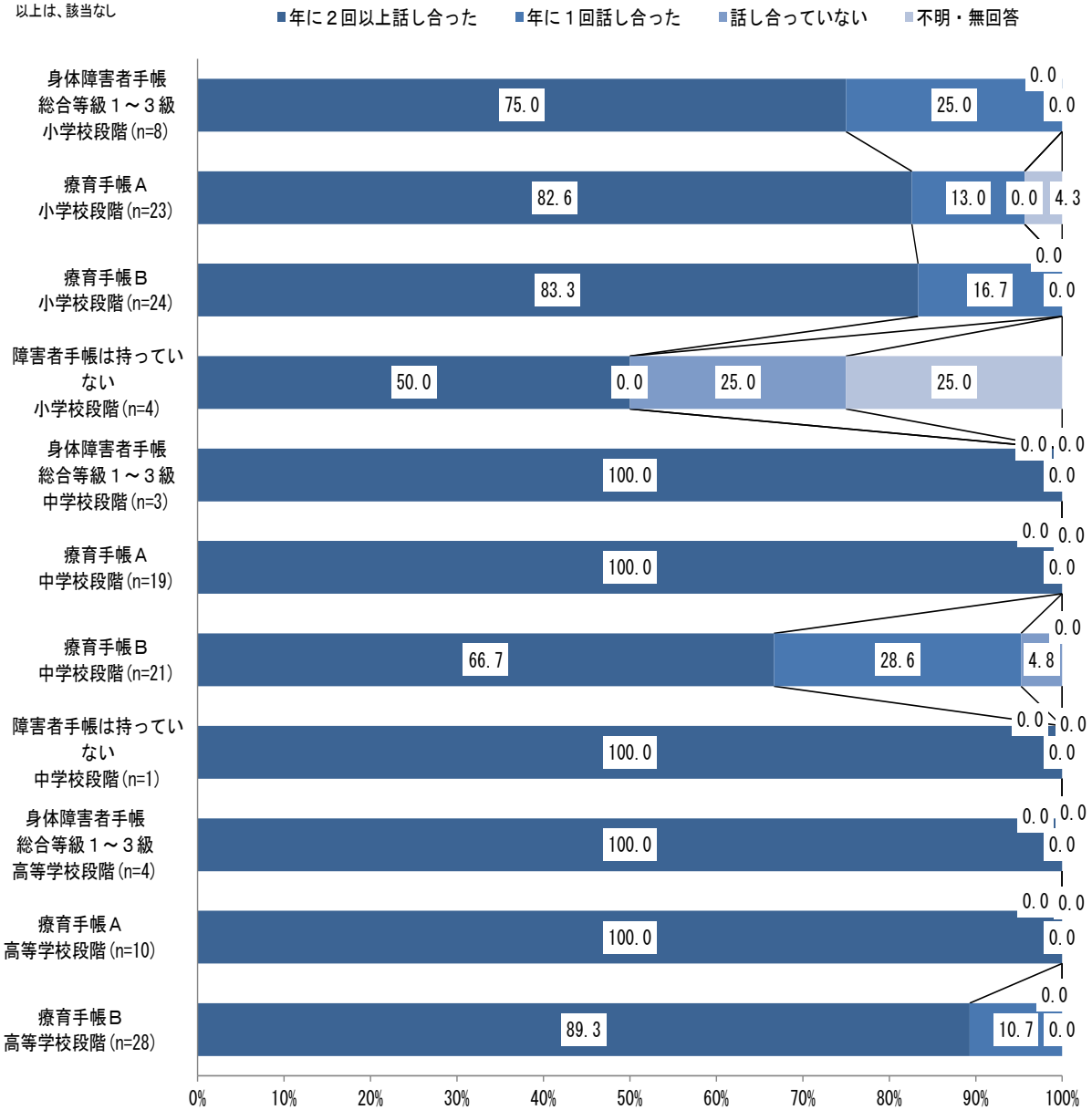
小学校段階：「年2回以上」は、療育手帳Bが83.3%、次に療育手帳Aが82.6%である。「年1回」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%、次に療育手帳Bが16.7%である。「話し合っていない」は、障害者手帳は持っていないが25.0%である。

中学校段階：「年2回以上」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが66.7%である。「年1回」は、療育手帳Bが28.6%である。

高等学校段階：「年2回以上」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが100.0%、次に療育手帳Bが89.3%である。「年1回」は、療育手帳Bが10.7%である。

※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
 ※障害者手帳を持っていない(高等学校)  
 以上は、該当なし

図表Ⅳ－F－28 個別支援計画の話し合い状況－手帳等級別



## 2 進学・進路先について

### (1) 進学・進路先を選択するときの悩みの有無

(F-2問13・F-3問14・F-4問14)

進学・進路先を選択するときに悩んでいることの有無をたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

小学校段階：「ある」は、42.3%、「ない」は、57.7%である。

中学校段階：「ある」は、47.7%、「ない」は、52.3%である。

高等学校段階：「ある」は、60.0%、「ない」は、37.8%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

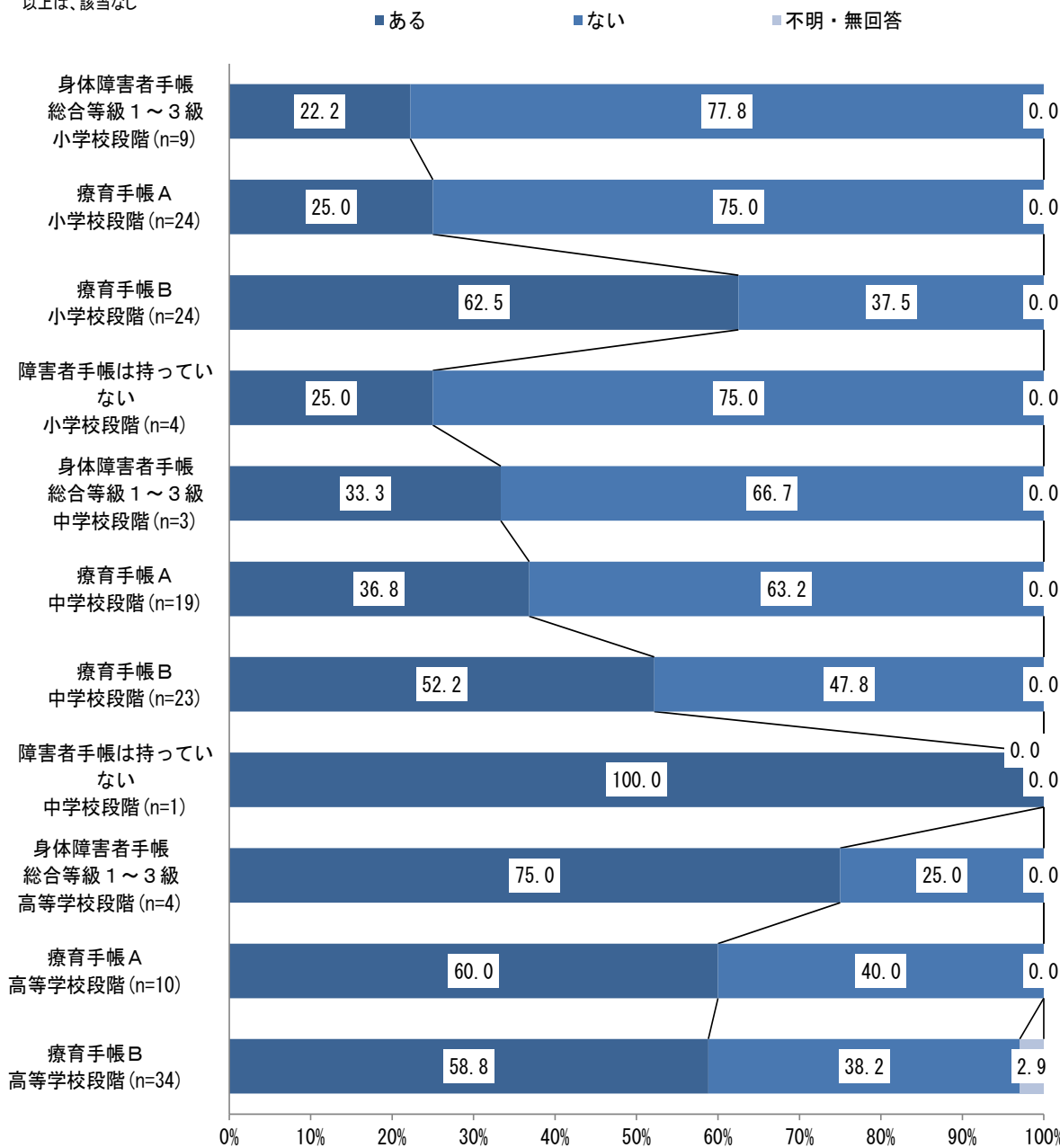
小学校段階：「ある」は、療育手帳Bが62.5%、次に障害者手帳は持っていないと療育手帳Aが25.0%である。「ない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が77.8%、次に療育手帳Aと障害者手帳は持っていないが75.0%である。

中学校段階：「ある」は、療育手帳Bが52.2%、次に療育手帳Aが36.8%である。「ない」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が66.7%、次に療育手帳Aが63.2%である。

高等学校段階：「ある」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が75.0%、次に療育手帳Aが60.0%である。「ない」は、療育手帳Aが40.0%、次に療育手帳Bが38.2%である。

※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
 以上は、該当なし

図表Ⅳ－F－29 進路先選択での悩みの有無一手帳等級別



(2) 進学・進路先を選択するときの悩みの理由

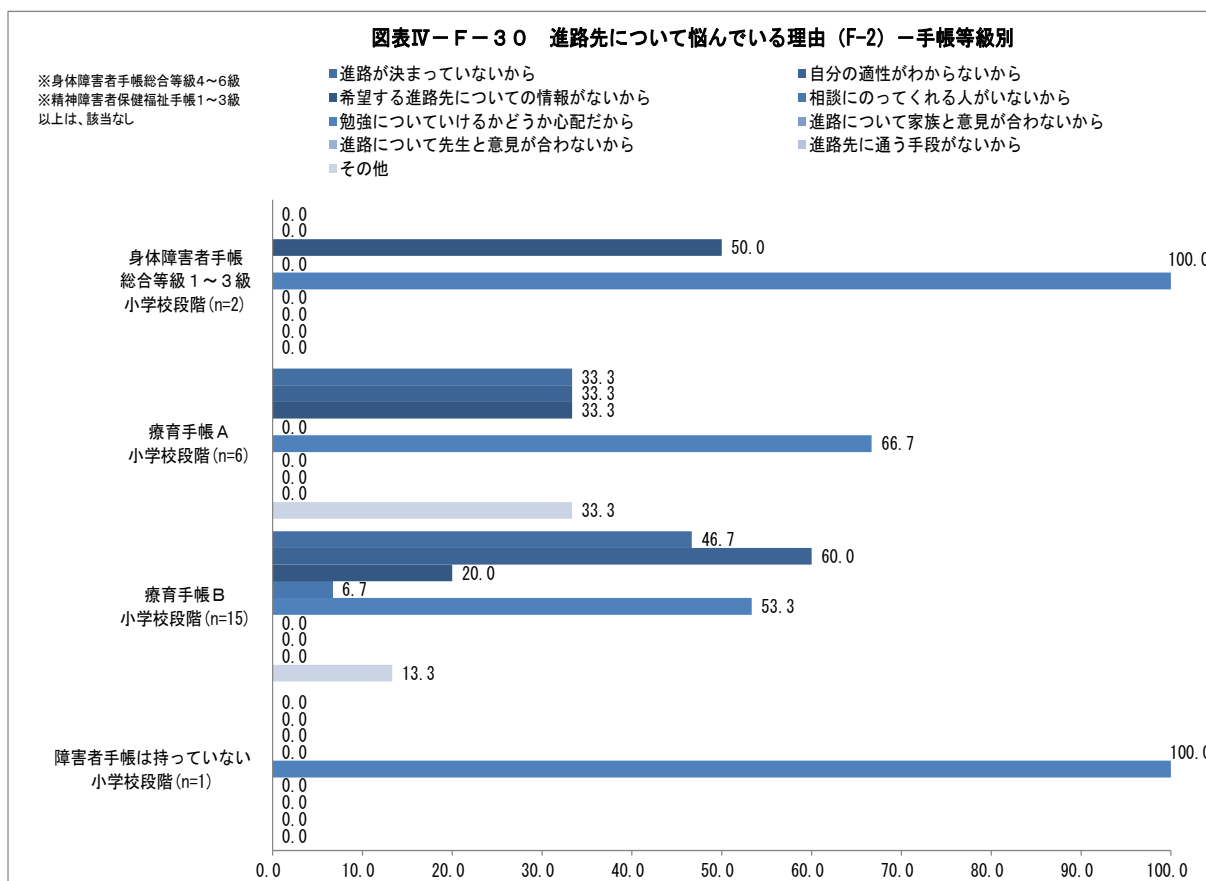
(F-2問14・F-3問15・F-4問15)

問13または問14で「ある」と回答した人に、進学・進路先を選択するとき悩んでいる理由を複数回答でたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

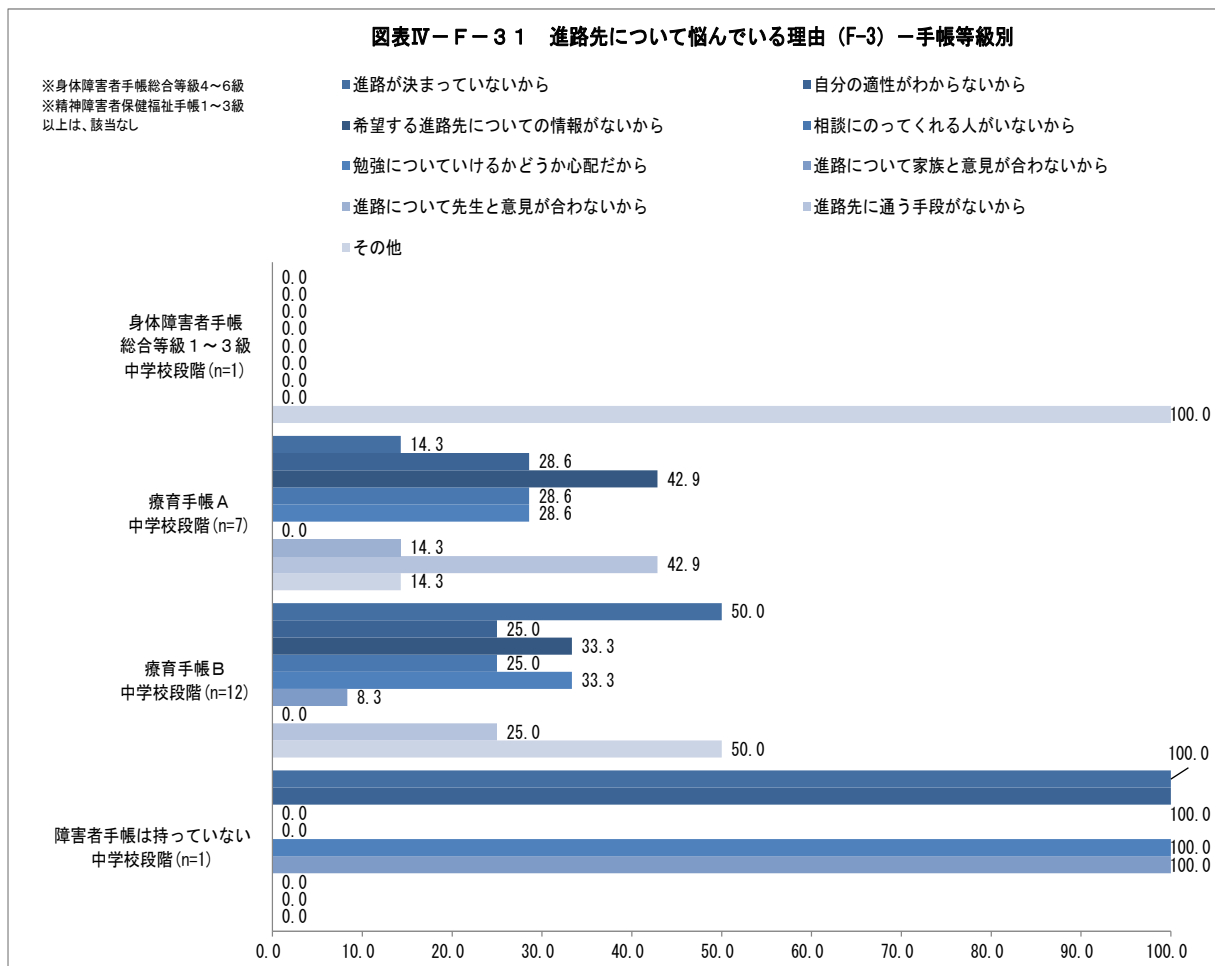
小学校段階：「勉強についていけるか心配だから」は、59.1%、「自分の適性がわからないから」は、50.0%、「進路が決まっていないから」は、40.9%である。

【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「勉強についていけるか心配だから」は、療育手帳Aが66.7%、次に療育手帳Bが53.3%である。「自分の適性がわからないから」は、療育手帳Bが60.0%、次に療育手帳Aが33.3%である。「進路が決まっていないから」は、療育手帳Bが46.7%、次に療育手帳Aが33.3%である。「希望する進路先についての情報がないから」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが20.0%である。「進路について先生と意見が合わないから」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが6.7%である。「進路について家族と意見が合わないから」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが13.3%である。「進路に通う手段がないから」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが20.0%である。



中学校段階：「進路が決まっていないから」は、42.9%、「自分の適性がわからないから」と「希望する進路先についての情報がないから」と「勉強についていけるか心配だから」は、ともに 33.3%、「進路先へ通う手段がないから」は、28.6%である。

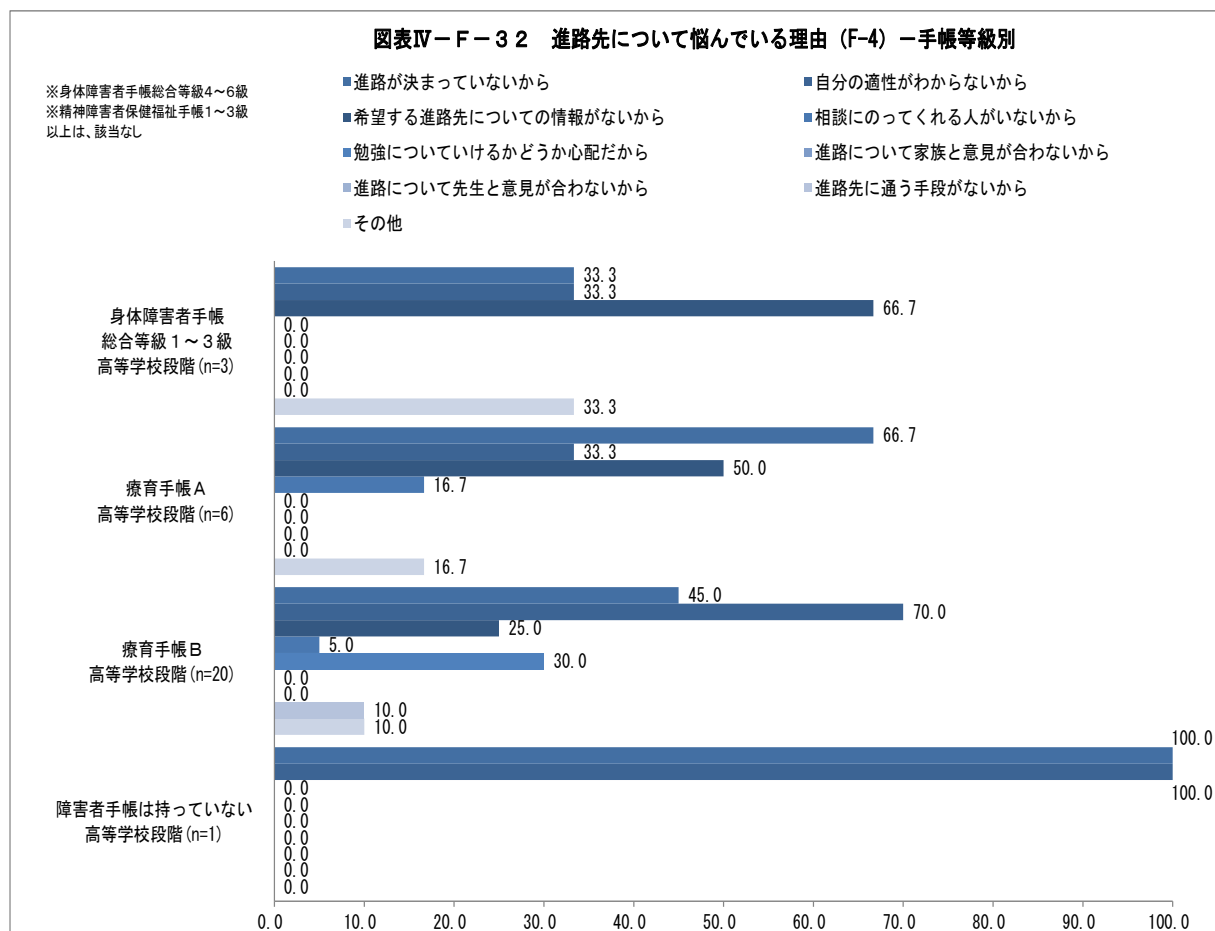
【教育段階・手帳等級別】中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「進路が決まっていないから」は、療育手帳Bが50.0%、次に療育手帳Aが14.3%である。「希望する進路先についての情報がないから」は、療育手帳Aが42.9%、次に療育手帳Bが33.3%である。「進路先へ通う手段がないから」は、療育手帳Aが42.9%、次に療育手帳Bが25.0%である。「勉強についていけるか心配だから」は、療育手帳Bが33.3%、次に療育手帳Aが28.6%である。





高等学校段階：「自分の適性がわからないから」は、63.0%、「進路が決まっていないから」は、51.9%、「希望する進路先についての情報がないから」は、29.6%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「自分の適性がわからないから」は、療育手帳Bが70.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが33.3%である。「進路が決まっていないから」は、療育手帳Aが66.7%、次に療育手帳Bが45.0%である。「希望する進路先についての情報がないから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が66.7%、次に療育手帳Aが50.0%である。



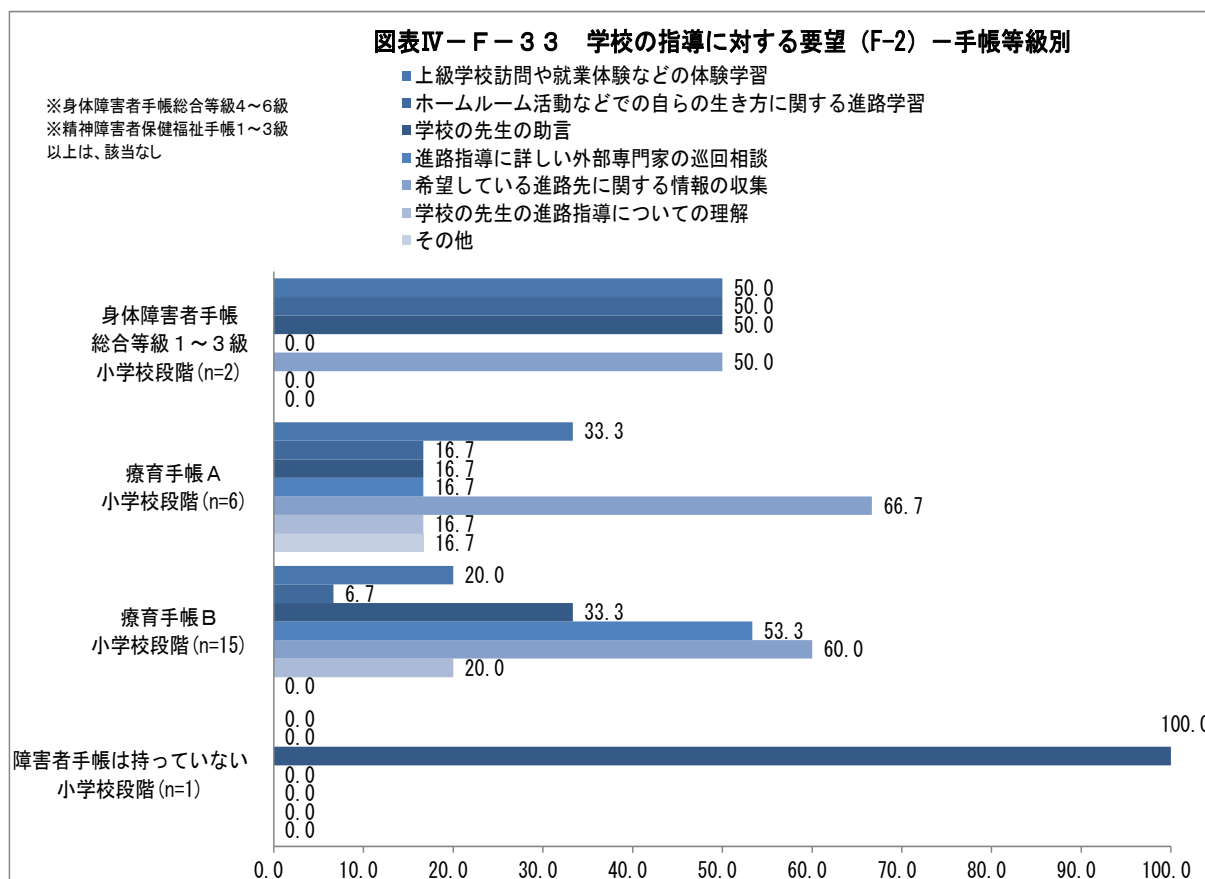
(3) 学校の指導に対する要望 (F-2問15・F-3問16・F-4問16)

問13または問14で「ある」と回答した人に、学校で指導してほしいこと、学校に対する要望を複数回答でたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

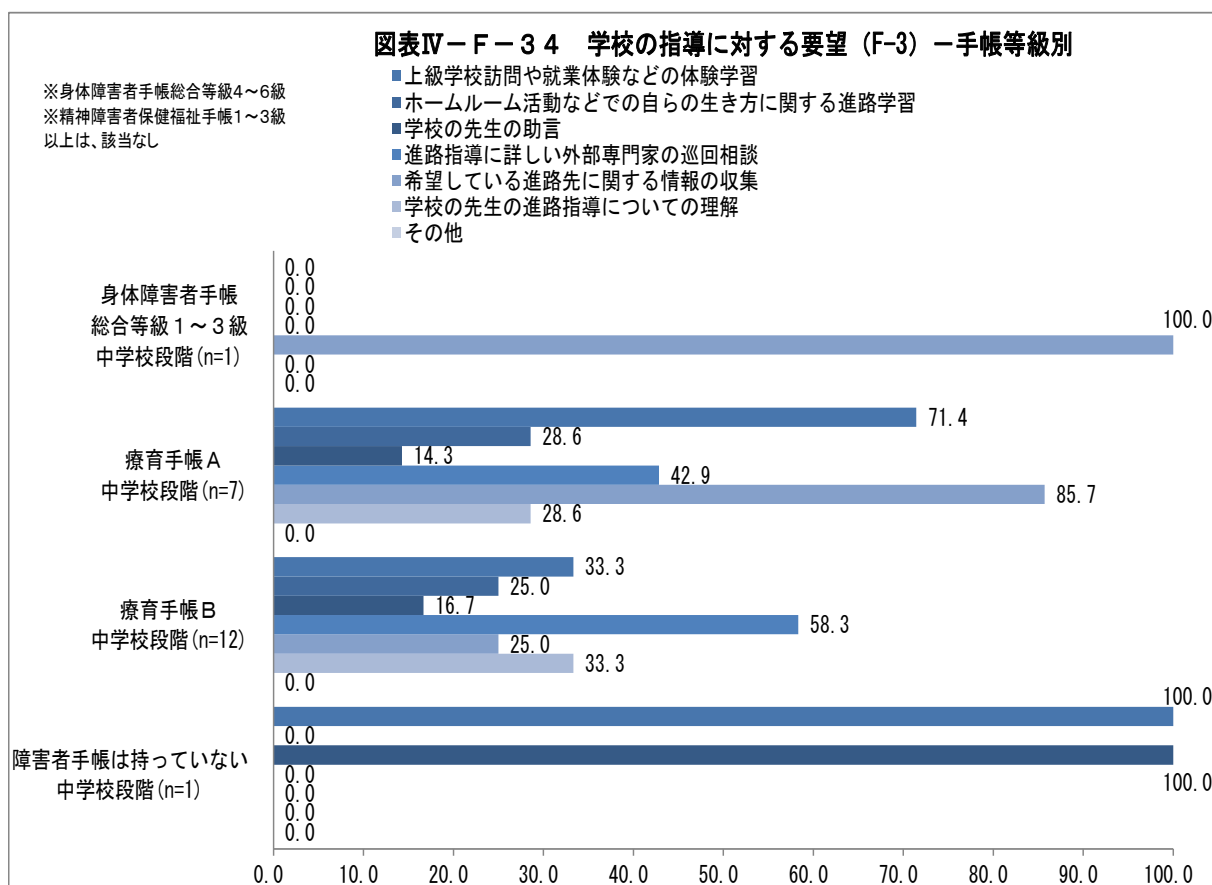
小学校段階：「希望している進路先に関する情報の収集」は、59.1%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、40.9%、「学校の先生の助言」は、31.8%、「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、22.7%である。

【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「希望している進路先に関する情報の収集」は、療育手帳Aが66.7%、次に療育手帳Bが60.0%である。「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、療育手帳Bが53.3%、次に療育手帳Aが16.7%である。「学校の先生の助言」は、療育手帳Bが33.3%、次に療育手帳Aが16.7%である。「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが20.0%である。



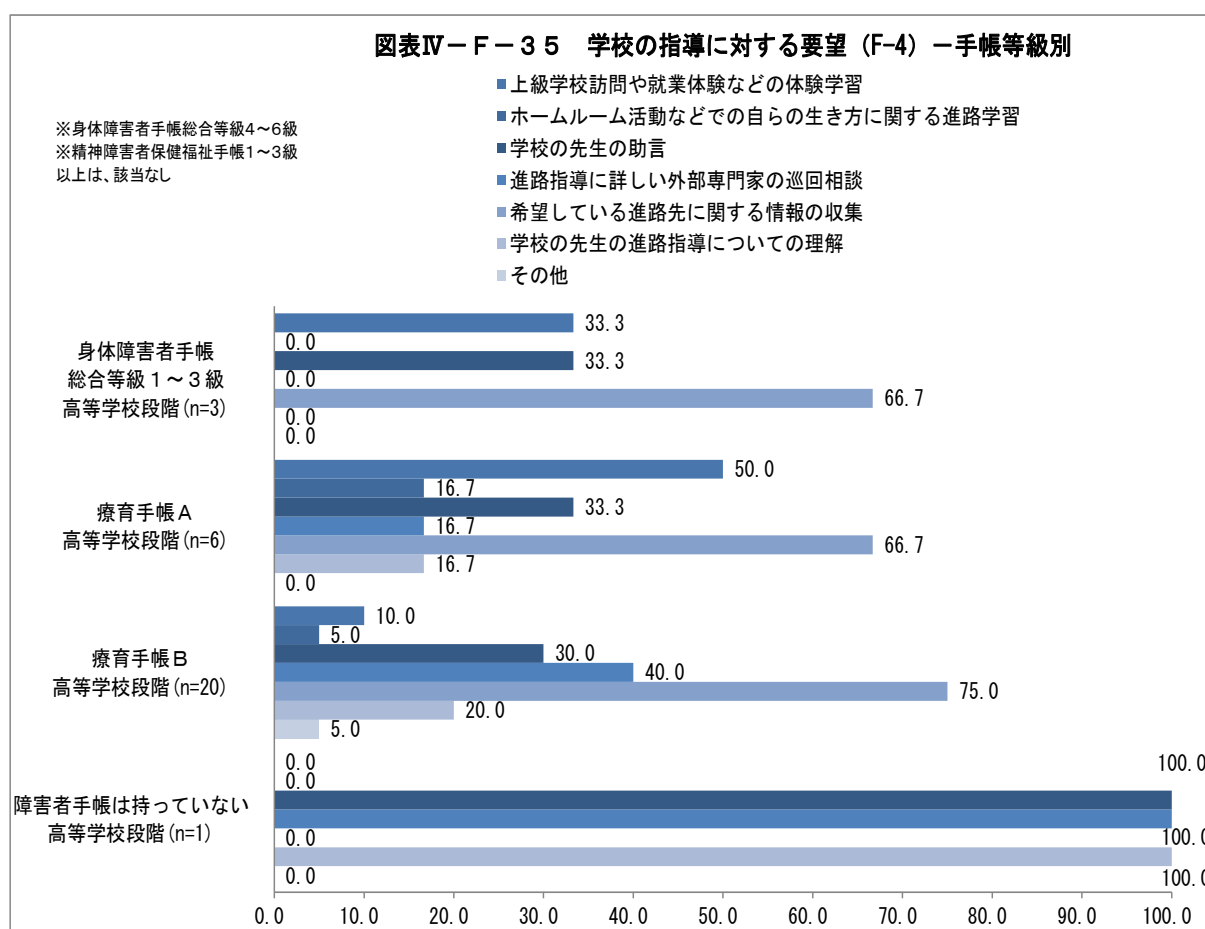
中学校段階：「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、52.4%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、47.6%、「希望している進路先に関する情報の収集」は、42.9%、「ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習」と「学校の先生の進路指導についての理解」は、ともに28.6%である。

【教育段階・手帳等級別】中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、療育手帳Aが71.4%、次に療育手帳Bが33.3%である。「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、療育手帳Bが58.3%、次に療育手帳Aが42.9%である。「希望している進路先に関する情報の収集」は、療育手帳Aが85.7%、次に療育手帳Bが25.0%である。「ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習」は、療育手帳Aが28.6%、次に療育手帳Bが25.0%である。「学校の先生の進路指導についての理解」は、療育手帳Bが33.3%、次に療育手帳Aが28.6%である。



高等学校段階：「希望している進路先に関する情報の収集」は、70.4%、「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、37.0%、「学校の先生の助言」は、33.3%、「学校の先生の進路指導についての理解」は、22.2%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「希望している進路先に関する情報の収集」は、療育手帳Bが75.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが66.7%である。「上級学校訪問や就業体験などの体験学習」は、療育手帳Aが50.0%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が33.3%である。「進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談」は、療育手帳Bが40.0%、次に療育手帳Aが16.7%である。「学校の先生の助言」は、身体障害者手帳総合等級1～3級と療育手帳Aが33.3%、次に療育手帳Bが30.0%である。



#### (4) 進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由

(F-2問16・F-3問17・F-4問17)

問13または問14で「ない」と回答した人に、進学・進路先を選択するときに悩んでいない理由をたずねた。

#### (Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

小学校段階：「進路が決まっているから」は、26.7%、「自分の適性がわかっているから」は、20.0%、「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、16.7%である。

中学校段階：「進路が決まっているから」は、34.8%、「家族が進路先を決めてくれると思うから」は、26.1%、「自分の適性がわかっているから」と「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、ともに13.0%である。

高等学校段階：「進路が決まっているから」は、29.4%、「自分の適性がわかっているから」と「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、ともに17.6%、「家族が進路先を決めてくれると思うから」が11.8%である。

**【教育段階・手帳等級別】**教育段階別に他の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、

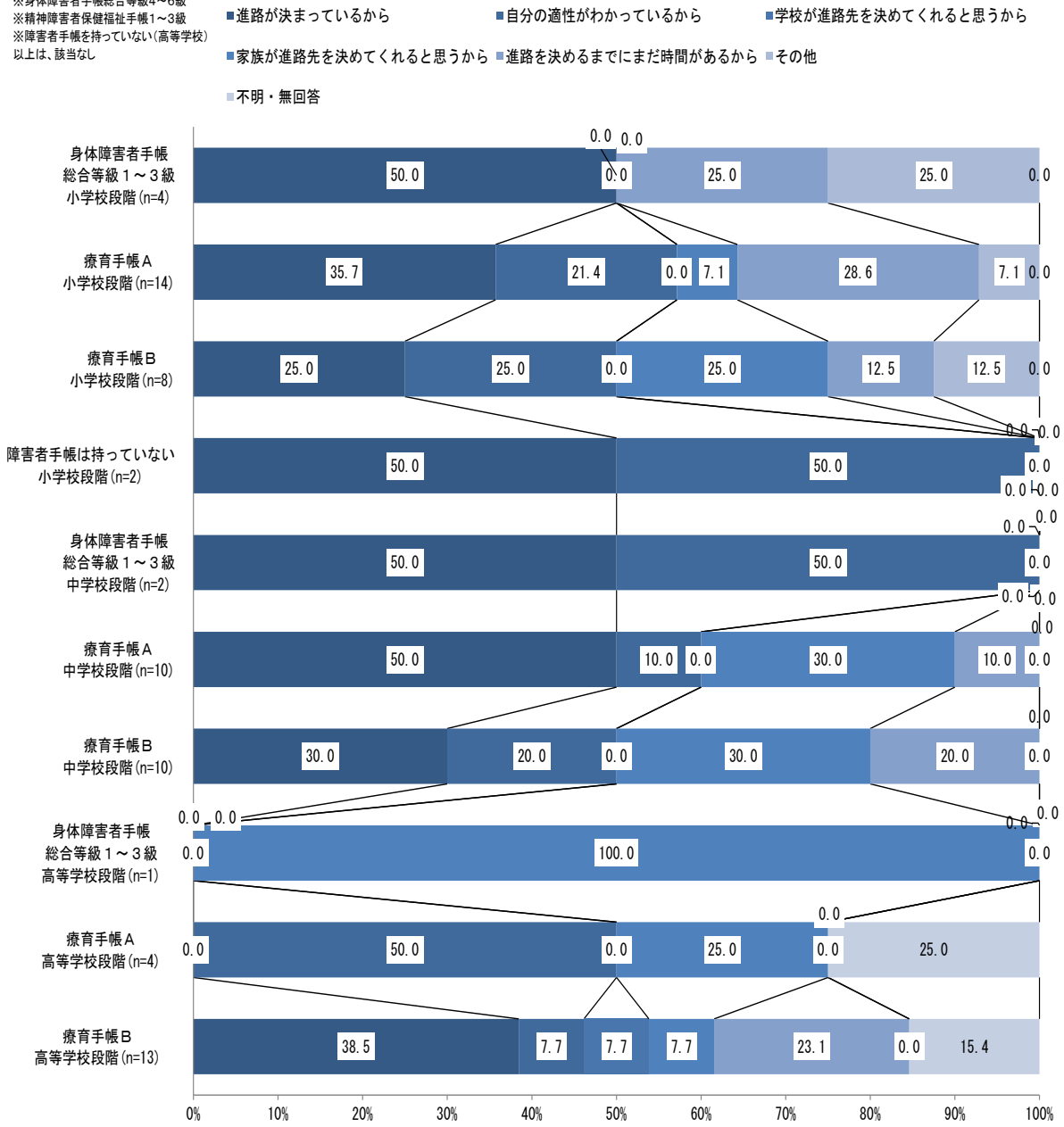
小学校段階：「進路が決まっているから」は、身体障害者手帳総合等級1～3級が50.0%、次に療育手帳Aが35.7%である。「自分の適性がわかっているから」は、療育手帳Bが25.0%、次に療育手帳Aが21.4%である。「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、療育手帳Aが28.6%、次に身体障害者手帳総合等級1～3級が25.0%である。

中学校段階：「進路が決まっているから」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが30.0%である。「家族が進路先を決めてくれると思うから」は、療育手帳Aと療育手帳Bが30.0%である。「自分の適性がわかっているから」は、療育手帳Bが20.0%、次に療育手帳Aが10.0%である。「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、療育手帳Bが20.0%、次に療育手帳Aが10.0%である。

高等学校段階：「進路が決まっているから」は、療育手帳Bが38.5%である。「自分の適性がわかっているから」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが7.7%である。「進路を決めるまでにまだ時間があるから」は、療育手帳Bが23.1%である。「家族が進路先を決めてくれると思うから」は、療育手帳Aが25.0%、次に療育手帳Bが7.7%である。

図表IV-F-36 進路選択で悩んでいない理由—手帳等級別

※身体障害者手帳総合等級4～6級  
 ※精神障害者保健福祉手帳1～3級  
 ※障害者手帳を持っていない(高等学校)  
 以上は、該当なし



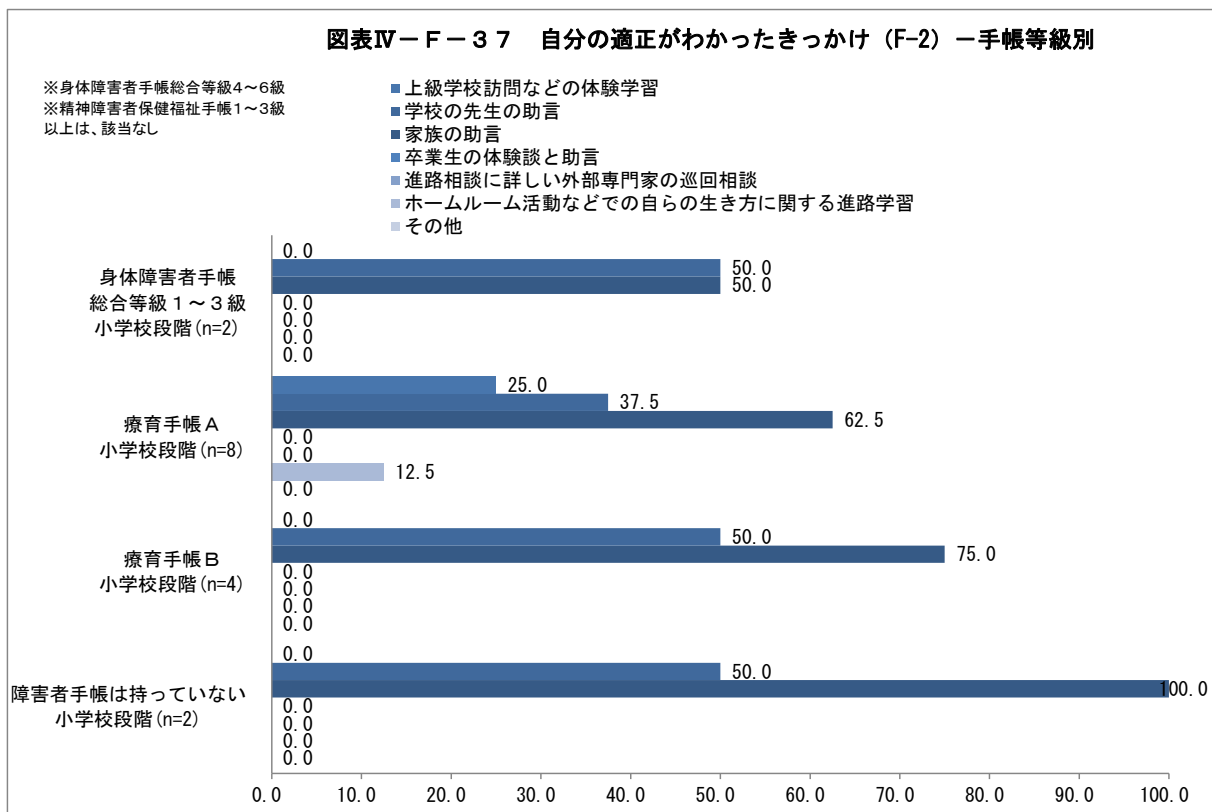
(5) 自分の適性がわかったきっかけ (F-2問17・F-3問18・F-4問18)

問16または問17で「進路が決まっているから」または「自分の適性がわかっているから」と回答した人に、自分の適性がわかった理由を複数回答でたずねた。

(Ⅲ 調査結果の要約 の再記述)

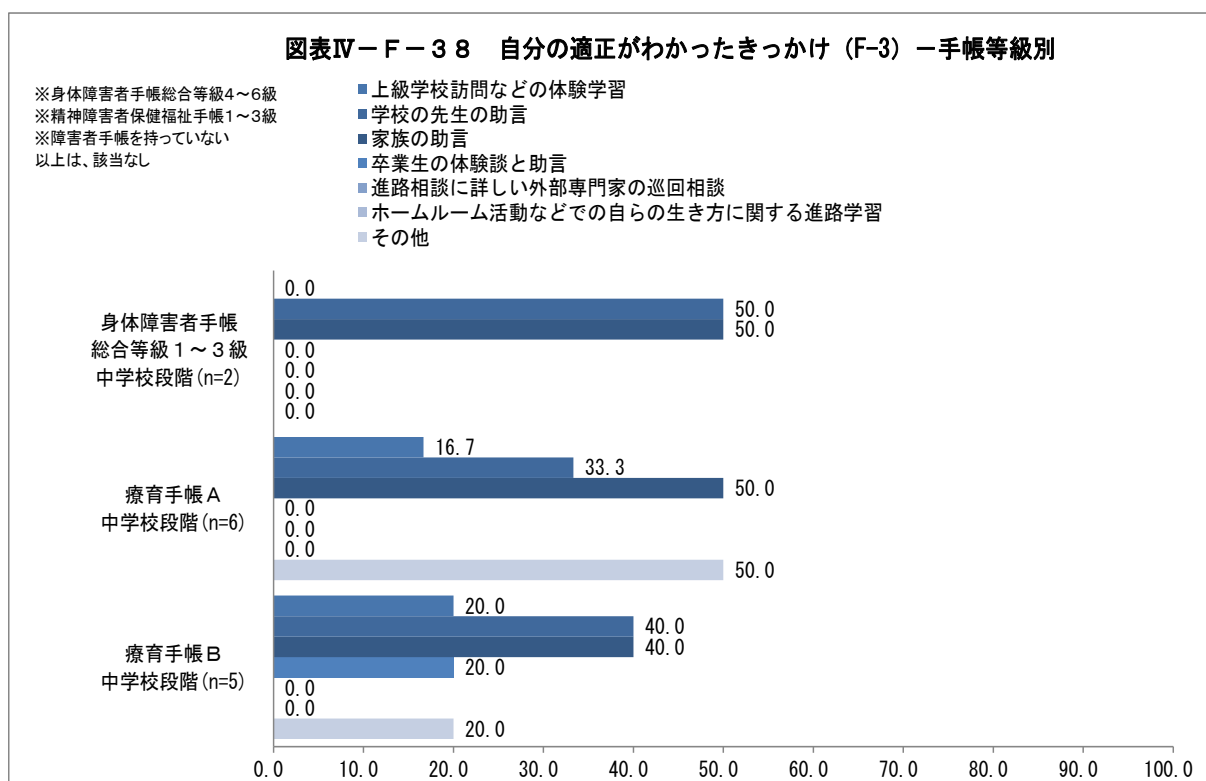
小学校段階：「家族の助言」は、71.4%、「学校の先生の助言」は、42.9%、「上級学校訪問などの体験学習」は、14.3%である。

【教育段階・手帳等級別】小学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「家族の助言」は、療育手帳Bが75.0%、次に療育手帳Aが62.5%である。「学校の先生の助言」は、療育手帳Bが50.0%、次に療育手帳Aが37.5%である。「上級学校訪問などの体験学習」は、療育手帳Aが25.0%である。



中学校段階：「家族の助言」は、45.5%、「学校の先生の助言」は、36.4%、「上級学校訪問などの体験学習」は、18.2%である。

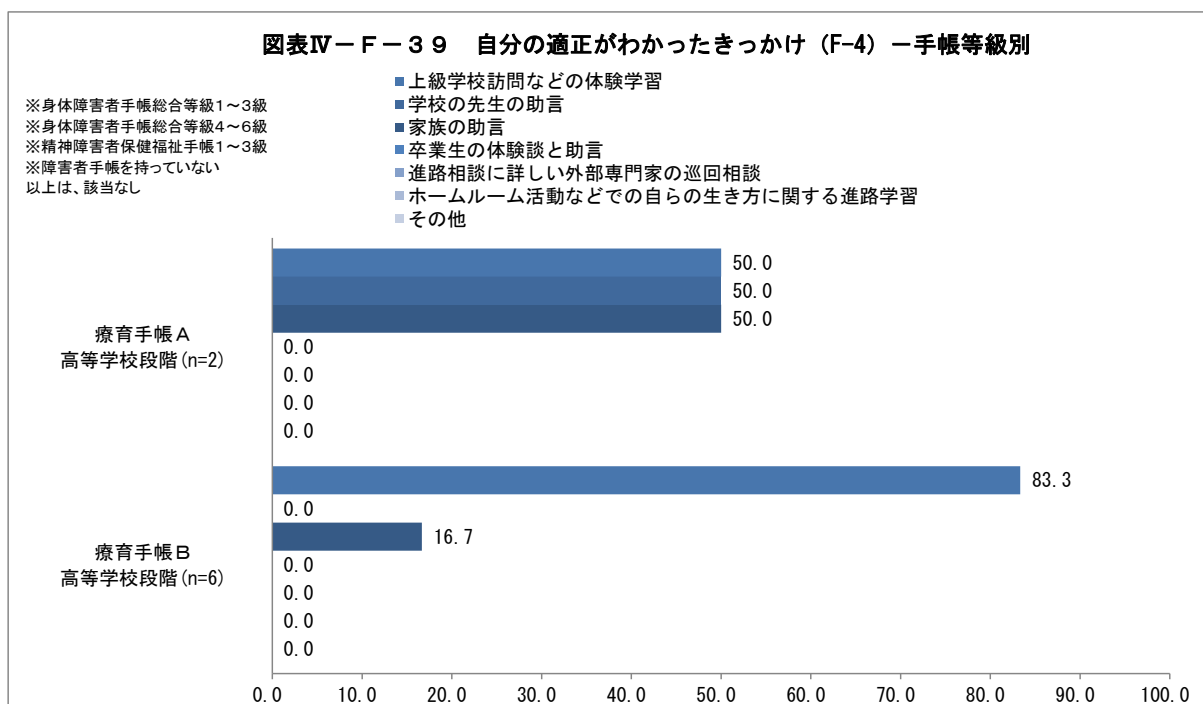
【教育段階・手帳等級別】中学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「家族の助言」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが40.0%である。「学校の先生の助言」は、療育手帳Bが40.0%、次に療育手帳Aが33.3%である。「上級学校訪問などの体験学習」は、療育手帳Bが20.0%、次に療育手帳Aが16.7%である。「卒業生の体験談と助言」は、療育手帳Bが20.0%である。





高等学校段階：「上級学校訪問などの体験学習」は、75.0%、「家族の助言」は、25.0%、「学校の先生の助言」は、12.5%である。

【教育段階・手帳等級別】高等学校段階の手帳等級より割合が高かった回答（該当数2名以下の場合を除く）をみると、「上級学校訪問などの体験学習」は、療育手帳Bが83.3%、次に療育手帳Aが50.0%である。「家族の助言」は、療育手帳Aが50.0%、次に療育手帳Bが16.7%である。「学校の先生の助言」は、療育手帳Aが50.0%である。





## V 調査票・単純集計結果



# 調査票 A (身体障害者手帳所持者)



## 長岡市障害者生活実態調査

長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直しを行います。

この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を行います。

この調査票は、18歳以上65歳未満で身体障害者手帳をお持ちの方にお送りいたしました。

今回の調査で使用した個人情報は、長岡市個人情報保護条例に基づく適正な取り扱いを行います。

また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけに利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですので、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年11月 長岡市

### ご記入にあたって

- ・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人のことです。
- ・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などがご本人のお考えやお気持ちを記入してください。
- ・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

- ① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。
- ② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答してください。



回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)  
ファックス (0258) 39 - 2275  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp





問 4	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=455)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど） | 81.5% |
| 2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家          | 11.2% |
| 3. 市営住宅、県営住宅                   | 2.0%  |
| 4. グループホーム                     | 0.9%  |
| 5. その他（ ）                      | 2.4%  |
| NA                             | 2.0%  |

問 5	あなたは、現在の暮らしの場を変えたいですか。 <u>どちらか1つの</u> 番号に○をつけてください。
-----	---

(n=455)

- |                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 1. 現在の暮らしの場を変えたい   | → 問 6 | 14.9% |
| 2. 現在の暮らしの場を変えたくない | → 問 7 | 82.4% |
| NA                 |       | 2.6%  |

問 6	<b>問 5 で、「1. 現在の暮らしの場を変えたい」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは今後、どこで暮らしたいですか。最もあてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=68)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど） | 36.8% |
| 2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家          | 23.5% |
| 3. 市営住宅、県営住宅                   | 10.3% |
| 4. グループホーム                     | 10.3% |
| 5. その他（ ）                      | 11.8% |
| NA                             | 7.4%  |

問 7	<b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=455)

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 自分ひとり  | 14.1% |
| 2. 家族     | 80.4% |
| 3. その他（ ） | 3.7%  |
| NA        | 1.8%  |

問 8	<b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは現在の同居者を変えたいですか。 <u>どちらか1つの</u> 番号に○をつけてください。（現在ひとり暮らしの方で、今後誰かと同居したいと考えている場合は、「1. 現在の同居者を変えたい」に○をつけてください。）
-----	---

(n=455)

- |                  |       |       |
|------------------|-------|-------|
| 1. 現在の同居者を変えたい   | →問 9  | 11.2% |
| 2. 現在の同居者を変えたくない | →問 10 | 85.7% |
| NA               |       | 3.1%  |

問 9	<p><b>問 8 で、「1. 現在の同居者を変えたい」と答えた方にお聞きします。</b>          あなたは今後、だれと暮らしたいですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>          ○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 51)

1. 自分ひとりで暮らしたい	41.2%
2. 家族と暮らしたい	25.5%
3. その他 ( )	29.4%
NA	3.9%

問 10	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは現在、平日の昼間、主にどこで過ごしていますか。あてはまる番          号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 455)

1. 自宅	40.0%
2. 学校	1.1%
3. 会社などの勤め先	45.9%
4. 障害者通所施設	7.0%
5. グループホーム	0.0%
6. その他 ( )	3.7%
NA	2.2%

問 11	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          今後の昼間の過ごし方について、(1)、(2)の間にお答えください。</p>
------	--

(1)	<p>あなたは今後、平日の昼間、主にどこで過ごしたいですか。最もあて          はまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 455)

1. 自宅	40.0%
2. 学校	0.7%
3. 会社などの勤め先	44.2%
4. 障害者通所施設	7.3%
5. グループホーム	0.4%
6. 障害者入所施設	2.2%
7. その他 ( )	3.5%
NA	1.8%

(2)	あなたは今後、昼間どのようなサービスや支援が必要ですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	--

(n = 455)

自宅や外出先で利用するサービスや支援	1	ホームヘルパーに入浴や排せつなどの身体介護をしてもらいたい	5.7%
	2	ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい	9.7%
	3	出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい	8.4%
	4	自宅で訪問入浴サービスを利用したい	4.6%
施設などに通って利用するサービスや支援	5	介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい	8.4%
	6	施設に通って、生活するための訓練を受けたい	3.7%
	7	介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい	4.8%
	8	将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい	5.7%
	9	障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい	9.2%
	10	社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい	6.4%
	11	サービスや支援は必要ない	61.5%

問 12	<b>すべての方にお聞きします。</b>
	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。

(n = 455)

1. している	63.1%
2. したいと思うが、していない	26.6%
3. したいと思わない	7.9%
NA	2.4%

	<b>すべての方にお聞きします。</b>
問 13	あなたは現在、スポーツをしていますか。 <u>どちらか1つの</u> 番号に○をつけてください。

(n=455)

- |          |         |       |
|----------|---------|-------|
| 1. している  | →問 14 へ | 12.5% |
| 2. していない | →問 15 へ | 85.7% |
| NA       |         | 1.8%  |

	<b>問 13 で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b>
問 14	あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。

(n=57)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 8.8%  | 2. 週に2～3回 | 36.8% |
| 3. 週に1回 | 24.6% | 4. 月に2～3回 | 8.8%  |
| 5. 月に1回 | 10.5% | 6. 年に数回   | 8.8%  |
| NA      | 1.8%  |           |       |

	<b>問 13 で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b>
問 15	あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思えますか。 <u>どちらか1つの</u> 番号に○をつけてください。

(n=390)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 46.4% |
| 2. したいと思わない | 52.3% |
| NA          | 1.3%  |

	<b>すべての方にお聞きします。</b>
問 16	あなたは現在、就労していますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。

(n=455)

- |                             |          |       |
|-----------------------------|----------|-------|
| 1. 1年以上継続して就労している           | → 問 17 へ | 52.5% |
| 2. 過去1年の間に、就労した             | → 問 18 へ | 5.3%  |
| 3. 就労していないが、障害者施設等へ通所している   | →問 22 へ  | 8.1%  |
| 4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない | →問 21 へ  | 32.1% |
| NA                          |          | 2.0%  |

問 17	<p><b>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが就労し続けている、または続けることができている理由は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 239)

1. 仕事にやりがいがあるから	} → 問 18 へ	32.2%
2. 仕事の内容が自分に合っているから		46.4%
3. 勤務時間が合っているから		38.5%
4. 職場の同僚との関係が良好だから		25.9%
5. 職場に相談できる人がいるから		10.5%
6. 福祉サービスの就労定着支援を利用しているから		1.3%
7. 給料や賃金が高いから		7.5%
8. 生活のために働かなければならないから		72.0%
9. その他 ( )		4.6%
10. 特にない		0.8%

問 18	<p><b>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスを利用しましたか。<u>どちらか1つの</u>番号に○をつけてください。</p>
------	---

(n = 263)

1. 利用した	} → 問 19 へ	6.5%
2. 利用していない		91.3%
NA		2.3%

問 19	<p><b>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>どのような仕事をしていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 263)

1. 自営業	} → 問 20 へ	7.6%
2. 家の仕事 (家業) の手伝い		1.1%
3. 内職		0.4%
4. 会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員		47.1%
5. 会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート・アルバイト		36.5%
6. その他 ( )		4.6%
NA		2.7%

問 20	<p>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。</p> <p>仕事をする上で困っていることはありますか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 263)

1. 正社員として雇ってもらえない	7.6%
2. 給料や賃金が少ない	22.1%
3. 仕事の内容が自分に合わない	7.6%
4. 仕事の時間が長すぎる	8.0%
5. 通勤が不便	8.7%
6. 職場の人の理解がない	9.1%
7. 職場に相談できる人がいない	7.6%
8. 職場の人とコミュニケーションが取れない	7.2%
9. トイレなどの設備がバリアフリー化されていない	7.2%
10. その他 ( )	9.1%
11. 特に困っていない	46.0%

→ 問 25 へ

問 21	<p>問 16 で、「4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>過去に職業訓練系の障害福祉サービスを利用したことはありますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 146)

1. 利用したことはあるが、現在は利用していない	6.8%
2. 利用しようと考え、体験通所をしたが、実際に利用に いたらなかった	1.4%
3. 利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない	11.0%
4. 利用しようと考えたことはない	76.0%
NA	4.8%

→ 問 22 へ

問 22	<p>問 16 で、「3. 就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>就労したいと思えますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n=183)

1. 就労したい	→ 問 23 へ	16.4%
2. 就労したいができない	} → 問 24 へ	44.8%
3. 就労したくない		29.0%
NA		9.8%

問 23	<p>問 22 で、「1. 就労したい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>どのような内容の仕事をしたいと思えますか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n=30)

1. 農業、林業、漁業	} → 問 25 へ	3.3%
2. 一般事務		6.7%
3. 営業、販売		0.0%
4. 医療関係		10.0%
5. 専門的、技術的職業		3.3%
6. サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場などの管理人、警備員、清掃業など）		20.0%
7. 生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）		26.7%
8. その他（ ）		30.0%





問 26	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、入院や通院をしていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 455)

1. 通院している	→ 問 27 へ	82.4%
2. 入院している	}	2.2%
3. 入院も通院もしていない		13.6%
NA		1.8%

問 27	<p><b>問 26 で、「1. 通院している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい医療機関に通院していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 375)

1. ほぼ毎日	0.0%	2. 週に2～3回	11.5%
3. 週に1回	1.3%	4. 月に2～3回	11.5%
5. 月に1回	36.5%	6. 年に数回	35.5%
7. 不定期	2.7%	NA	1.1%

問 28	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい外出していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。(※ここでいう外出とは、現在暮らしている場所から外に出ることです。)</p>
------	---

(n = 455)

1. ほぼ毎日	64.0%	2. 週に2～3回	14.5%
3. 週に1回	8.6%	4. 月に2～3回	4.2%
5. 月に1回	2.4%	6. 年に数回	2.6%
7. まったく外出しない	2.2%	NA	1.5%

	<b>すべての方にお聞きします。</b>
問 29	外出するときに困っていることはありますか。あてはまる番号 <u>すべてに</u> ○をつけてください。

(n = 455)

1. バスや電車に乗ることができない	10.1%
2. 交通手段がない	6.2%
3. 交通手段の運賃が高い	5.5%
4. 段差解消などのバリアフリー化がされていない	9.0%
5. 発作、パニック、突然のハプニング等があり不安	5.9%
6. 利用したい施設が送迎サービスをしていない	1.3%
7. 外出する際に介助してくれる人がいない	4.8%
8. 他人の目が気になる	8.1%
9. 他人に気兼ねなく使える外出手段がない	4.8%
10. 手話通訳者などがいないと、意思疎通ができない	1.8%
11. その他 ( )	8.1%
12. 特に困っていない	51.6%

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

相談窓口	内容
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域における生活の中でのさまざまな相談や福祉サービスの紹介や手続きの手伝いなどを行います。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活全般に関する相談を受け、助言や福祉サービス等の情報提供を行います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面全般にわたる支援や日常生活上の支援を行います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療、補助具、生活、身の上、税金などの相談を受けます。

	<b>すべての方にお聞きします。</b>
問 30	あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。 <u>どちらか1つの番号に○をつけてください。</u>

(n = 455)

- |           |          |       |
|-----------|----------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問 31 へ | 44.6% |
| 2. 知らなかった | → 問 33 へ | 52.7% |
| NA        |          | 2.6%  |

	<b>問 30 で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b>
問 31	あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。 <u>どちらか1つの番号に○をつけてください。</u>

(n = 203)

- |              |          |       |
|--------------|----------|-------|
| 1. 相談したことがある | → 問 33 へ | 36.5% |
| 2. 相談したことがない | → 問 32 へ | 63.1% |
| NA           |          | 0.5%  |

	<b>問 31 で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b>
問 32	相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に <u>1つだけ○をつけてください。</u>

(n = 128)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない           | 4.7%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい            | 3.9%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配 | 3.1%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない              | 1.6%  |
| 5. 相談することがない                   | 66.4% |
| 6. その他 ( )                     | 14.8% |
| NA                             | 5.5%  |

	<b>すべての方にお聞きします。</b>
問 33	あなたが、災害が発生したときに困ることや心配なことは何ですか。最もあてはまる番号に <u>1つだけ○をつけてください。</u>

(n = 455)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 避難場所を知らない                               | 13.4% |
| 2. 避難場所まで行けない                              | 8.8%  |
| 3. 緊急時に助けてくれる人がいない                         | 6.8%  |
| 4. 緊急時に情報を得る手段がない                          | 5.3%  |
| 5. 避難場所で必要なケアが受けられるか不安<br>(生活上の介助や医療・服薬など) | 39.8% |
| 6. その他 ( )                                 | 10.1% |
| NA   | 15.8% |

問 34	<p><b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p> <p>※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。</p> <p>①不当な差別的取扱いの禁止 …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること</p> <p>②合理的配慮 …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること</p>
------	---

(n = 455)

1. 公共施設を利用する場面	} → 問 35 へ	5.3%
2. 交通機関を利用する場面		4.8%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		7.0%
4. 買い物・外食の場面		8.6%
5. 医療に関する場面		4.2%
6. 教育に関する場面		2.4%
7. 文化活動に関する場面		1.1%
8. 雇用に関する場面		14.3%
9. 婚姻・出産・子育ての場面		2.9%
10. その他 ( )		4.4%
11. 差別を感じたことはない →問 36 へ		64.2%

問 35	<p><b>問 34 で、「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10」と答えた方にお聞きします。</b> あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 111)

1. 福祉教育を充実させる	9.9%
2. 講習会や学習会などを開催する	4.5%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	9.9%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	7.2%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	9.9%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	16.2%
7. 教育における配慮をさらに進める	3.6%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	0.9%
9. 障害者雇用をさらに進める	29.7%
10. その他 ( )	8.1%

問 36	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 455)

1. 社会的な理解の促進	23.5%
2. 保険・医療の充実	8.1%
3. 雇用促進と就労支援	12.7%
4. 経済的な支援	29.5%
5. 余暇活動の充実	1.1%
6. 生活環境の整備	5.7%
7. 障害福祉サービスの充実	9.5%
8. その他 ( )	1.5%
NA	8.4%

○ 障害者施策に関して、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。



## 調査票 B（療育手帳所持者）





# ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく しょうがい  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画・障害児  
ふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす らいねんど けいかく みなお  
福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直し  
おこな  
を行います。

みなお きそしりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう さいいじょう さいみまん りょういくてちょう も かた おく  
この調査票は、18歳以上65歳未満で療育手帳をお持ちの方にお送りいた  
しました。

こんかい ちょうさ しょう こじんじょうほう ながおかし こじんじょうほうほ ごじょうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱いを行います。

また、ちょうさひょう むきめい ちょうさけつか けいかく みなお  
また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りょう ちょうさもくてきがい もち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

## きにゅう ご記入にあたって

- ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人のことです。
- ほんにん きにゅう かいとう むすか ばあい かぞく かた ほんにん かんが  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などがご本人のお考  
えやお気持ちを記入してください。  
れいわ ねん がつ にちげんざい じょうきょう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちょくせつきにゅう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゅうしよ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じょう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォーム  
から回答してください。

かいとうきげん がつ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）



と あ わ せ さ き  
<問い合わせ先>

ながおかしふくしほけんぶ ふくしそむか  
長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゅう しよ ながおかしおおてどおり ちょうめ ばんち  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10

でん わ ちよくつう  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

とい 問 1	あなたの年齢はどれにあてはまりますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 377)

1. 10歳代	4.5%	2. 20歳代	33.2%
3. 30歳代	23.9%	4. 40歳代	20.2%
5. 50歳代	14.6%	6. 60歳代	3.4%
NA	0.3%		

とい 問 2	あなたの持っている療育手帳の等級は次のどちらですか。 <u>どちらか1つ</u> の番号に○をつけてください。
-----------	---

(n = 377)

1. A	32.9%	2. B	63.9%	NA	3.2%
------	-------	------	-------	----	------

とい 問 3	あなたは療育手帳のほかに障害者手帳の交付を受けていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
-----------	--

(n = 377)

1. 身体障害者手帳	13.5%
2. 精神障害者保健福祉手帳	4.8%
3. ほかの手帳は持っていない	77.2%

とい 問 4	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 377)

1. 自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）	69.5%
2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家	6.9%
3. 市営住宅、県営住宅	5.8%
4. グループホーム	11.9%
5. その他（ ）	5.0%
NA	0.8%

とい 問 5	あなたは現在の暮らしの場を変えたいですか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 377)

1. 現在の暮らしの場を変えたい	→ とい問 6	16.7%
2. 現在の暮らしの場を変えたくない	→ とい問 7	80.6%
NA		2.7%

とい 問 6	<p>とい げんざい く ば か こた かた き 問5で、「1. 現在の暮らしの場を変えたい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたは今後、どこで暮らしたいですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u> ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=63)

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 1. 自分または家族の持ち家 (一戸建て、分譲マンションなど) | 17.5% |
| 2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家           | 30.2% |
| 3. 市営住宅、県営住宅                    | 6.3%  |
| 4. グループホーム                      | 38.1% |
| 5. その他 ( )                      | 4.8%  |
| NA                              | 3.2%  |

とい 問 7	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=377)

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 自分ひとり   | 7.4%  |
| 2. 家族      | 77.5% |
| 3. その他 ( ) | 13.5% |
| NA         | 1.6%  |

とい 問 8	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在の同居者を変えたいですか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。(現在ひとり暮らしの方で、今後誰かと同居したいと考えている場合は、「1. 現在の同居者を変えたい」に○をつけてください。)</p>
-----------	---

(n=377)

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 1. 現在の同居者を変えたい → 問9    | 9.8%  |
| 2. 現在の同居者を変えたくない → 問10 | 85.1% |
| NA                     | 5.0%  |

とい 問 9	<p>問8で、「1. 現在の同居者を変えたい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたは今後、だれと暮らしたいですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=37)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 自分ひとりで暮らしたい | 45.9% |
| 2. 家族と暮らしたい    | 24.3% |
| 3. その他 ( )     | 24.3% |
| NA             | 5.4%  |

とい 問10	<p>すべての方<small>かた</small>にお聞き<small>き</small>します。</p> <p>あなたは現在<small>げんざい</small>、平日<small>へいじつ</small>の昼間<small>ひるま</small>、主<small>おも</small>にどこで過<small>す</small>ぎしていますか。あてはまる番号<small>ばんごう</small>に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 377)

1. 自宅 <small>じたく</small>	17.8%
2. 学校 <small>がっこう</small>	1.1%
3. 会社 <small>かいしゃ</small> などの勤め先 <small>つと</small>	23.6%
4. 障害者 <small>しょうがいしゃ</small> 通所施設 <small>つうしょしせつ</small>	48.8%
5. グループホーム	1.6%
6. その他 <small>た</small> ( )	4.8%
NA	2.4%

とい 問11	<p>すべての方<small>かた</small>にお聞き<small>き</small>します。</p> <p>今後の昼間<small>こんご</small>の過<small>かた</small>ぎし方<small>す</small>について、(1)、(2)の間<small>とい</small>にお答え<small>こた</small>てください。</p>
-----------	--

(1)	<p>あなたは今後<small>こんご</small>、平日<small>へいじつ</small>の昼間<small>ひるま</small>、主<small>おも</small>にどこで過<small>す</small>ぎしたいですか。最も<small>もっと</small>あてはまる番号<small>ばんごう</small>に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 377)

1. 自宅 <small>じたく</small>	15.6%
2. 学校 <small>がっこう</small>	0.0%
3. 会社 <small>かいしゃ</small> などの勤め先 <small>つと</small>	26.5%
4. 障害者 <small>しょうがいしゃ</small> 通所施設 <small>つうしょしせつ</small>	43.8%
5. グループホーム	1.9%
6. 障害者 <small>しょうがいしゃ</small> 入所施設 <small>にゅうしょしせつ</small>	6.4%
7. その他 <small>た</small> ( )	2.1%
NA	3.7%

(2)	あなたは今後、 <u>昼間</u> どのようなサービスや支援が必要ですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	---

(n=377)

サービスや支援	1	ホームヘルパーに入浴や排せつなどの身体介護をしても らいたい	4.5%
	2	ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を 支援してもらいたい	10.9%
	3	出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい	14.6%
	4	自宅で訪問入浴サービスを利用したい	2.1%
サービスや支援	5	介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや 休養のため、短期間、施設に入所したい	20.4%
	6	施設に通って、生活するための訓練を受けたい	13.5%
	7	介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の 介護などを受けたい	5.0%
	8	将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身に つけたい	13.3%
	9	障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との 交流をしたい	35.5%
	10	社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや 創作的活動などをしたい	16.7%
	11	サービスや支援は必要ない	24.4%

問12	<b>すべての方にお聞きします。</b>
	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。

(n=377)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 58.9% |
| 2. したいと思うが、していない | 22.8% |
| 3. したいと思わない      | 15.9% |
| NA               | 2.4%  |

とい 問13	<p><b>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</b></p> <p>あなたは<sup>げんざい</sup>現在、スポーツをしていますか。<u>どちらか1つの番号</u>に○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=377)

- |          |         |       |
|----------|---------|-------|
| 1. している  | → 問14 へ | 13.0% |
| 2. していない | → 問15 へ | 83.8% |
| NA       |         | 3.2%  |

とい 問14	<p><b>問13で、「1. している」と答えた方<sup>こた</sup>にお聞きします。</b></p> <p>あなたは<sup>げんざい</sup>現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=49)

- |                          |       |                          |       |
|--------------------------|-------|--------------------------|-------|
| 1. ほぼ <sup>まいにち</sup> 毎日 | 24.5% | 2. <sup>しゅう</sup> 週に2~3回 | 18.4% |
| 3. <sup>しゅう</sup> 週に1回   | 18.4% | 4. <sup>つき</sup> 月に2~3回  | 18.4% |
| 5. <sup>つき</sup> 月に1回    | 8.2%  | 6. <sup>ねん</sup> 年に数回    | 6.1%  |
| NA                       | 6.1%  |                          |       |

とい 問15	<p><b>問13で、「2. していない」と答えた方<sup>こた</sup>にお聞きします。</b></p> <p>あなたは<sup>きかい</sup>機会があれば、スポーツをしたいと思<sup>おも</sup>いますか。あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=316)

- |                            |       |
|----------------------------|-------|
| 1. したいと思 <sup>おも</sup> う   | 41.8% |
| 2. したいと思 <sup>おも</sup> わない | 56.6% |
| NA                         | 1.6%  |

とい 問16	<p><b>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</b></p> <p>あなたは<sup>げんざい</sup>現在、就<sup>しゅうろう</sup>労していますか。あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=377)

- |  |         |       |
|--|---------|-------|
| 1. 1年 <sup>ねんいじょうけいぞく</sup> 以上継続して就 <sup>しゅうろう</sup> 労している   | → 問17 へ | 24.9% |
| 2. 過去 <sup>かこ</sup> 1年 <sup>ねん</sup> の間に、就 <sup>しゅうろう</sup> 労した  | → 問18 へ | 4.5%  |
| 3. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労していないが、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>しゃ</sup> 者 <sup>せつとう</sup> 施設等へ通 <sup>つうしょ</sup> 所している   | → 問22 へ | 52.0% |
| 4. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労していないし、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>しゃ</sup> 者 <sup>せつとう</sup> 施設等へも通 <sup>つうしょ</sup> 所していない | → 問21 へ | 14.9% |
| NA   |         | 3.7%  |

とい 問17	<p>とい 問16で、「1. 1年以上継続して就労している」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが就労し続けている、または続けることができている理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 94)

1. 仕事にやりがいがあるから	41.5%
2. 仕事の内容が自分に合っているから	56.4%
3. 勤務時間が合っているから	39.4%
4. 職場の同僚との関係が良好だから	34.0%
5. 職場に相談できる人がいるから	24.5%
6. 福祉サービスの就労定着支援を利用しているから	→ とい問18へ
7. 給料や賃金が高いから	14.9%
8. 生活のために働かなければならないから	18.1%
9. その他 ( )	55.3%
10. 特にない	3.2%
	1.1%

とい 問18	<p>とい 問16で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。</p> <p>就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスを利用しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 111)

1. 利用した	} → とい問19へ	44.1%
2. 利用していない		44.1%
NA		11.7%

とい 問19	とい 問16で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。 どのような仕事をしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	---

(n = 111)

1. 自営業	}	0.9%	
2. 家の仕事 (家業) の手伝い		0.0%	
3. 内職		0.9%	
4. 会社や役所などの正社員・正規職員、会社役員		→ 問20へ	18.0%
5. 会社や役所などの臨時職員・派遣社員・パート ・アルバイト			61.3%
6. その他 ( )		12.6%	
NA	6.3%		

とい 問20	とい 問16で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。 仕事をする上で困っていることはありますか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	--

(n = 111)

1. 正社員として雇ってもらえない	}	9.0%	
2. 給料や賃金が少ない		24.3%	
3. 仕事の内容が自分に合わない		3.6%	
4. 仕事の時間が長すぎる		3.6%	
5. 通勤が不便		18.0%	
6. 職場の人の理解がない		→ 問25へ	10.8%
7. 職場に相談できる人がいない			13.5%
8. 職場の人とコミュニケーションが取れない		15.3%	
9. トイレなどの設備がバリアフリー化されていない		0.9%	
10. その他 ( )		3.6%	
11. 特に困っていない	37.8%		



とい 問21	とい 問16で、「4. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労していないし、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>がい</sup> 者 <sup>しや</sup> 施 <sup>し</sup> 設 <sup>せつ</sup> 等 <sup>とう</sup> へも通 <sup>つう</sup> 所 <sup>しょ</sup> していない」と 答 <sup>こた</sup> え <sup>かた</sup> た <sup>き</sup> 方 <sup>かた</sup> にお聞 <sup>き</sup> き <sup>き</sup> し <sup>ま</sup> す。 過 <sup>か</sup> 去 <sup>こ</sup> に職 <sup>しよくぎ</sup> 業 <sup>ぎょう</sup> 訓 <sup>くん</sup> 練 <sup>れん</sup> 系 <sup>けい</sup> の障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>がい</sup> 福 <sup>ふく</sup> 祉 <sup>し</sup> サ <sup>さ</sup> ー <sup>し</sup> ビ <sup>び</sup> ス <sup>す</sup> を利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> した <sup>し</sup> こ <sup>こ</sup> はあ <sup>あ</sup> り <sup>り</sup> ま <sup>ま</sup> す <sup>す</sup> か。 あてはまる番 <sup>ばん</sup> 号 <sup>ごう</sup> に1つだけ○をつ <sup>つ</sup> け <sup>け</sup> て <sup>て</sup> く <sup>く</sup> だ <sup>だ</sup> さ <sup>さ</sup> い。
-----------	--

(n = 56)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> した <sup>し</sup> こ <sup>こ</sup> はあ <sup>あ</sup> る <sup>る</sup> が、現 <sup>げん</sup> 在 <sup>ざい</sup> は利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> して <sup>い</sup> な <sup>な</sup> い   | 33.9% |
| 2. 利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> し <sup>し</sup> よ <sup>よ</sup> う <sup>う</sup> と考 <sup>かん</sup> え、体 <sup>たい</sup> 験 <sup>げん</sup> 通 <sup>つう</sup> 所 <sup>しょ</sup> をし <sup>し</sup> た <sup>た</sup> が、実 <sup>じ</sup> 際 <sup>さい</sup> に利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> に<br>いた <sup>い</sup> ら <sup>ら</sup> な <sup>な</sup> か <sup>か</sup> つ <sup>つ</sup> た | 3.6%  |
| 3. 利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> し <sup>し</sup> よ <sup>よ</sup> う <sup>う</sup> と考 <sup>かん</sup> え <sup>え</sup> た <sup>た</sup> こ <sup>こ</sup> はあ <sup>あ</sup> る <sup>る</sup> が、特 <sup>とく</sup> に行 <sup>こう</sup> 動 <sup>どう</sup> して <sup>い</sup> な <sup>な</sup> い  | 10.7% |
| 4. 利 <sup>り</sup> 用 <sup>よう</sup> し <sup>し</sup> よ <sup>よ</sup> う <sup>う</sup> と考 <sup>かん</sup> え <sup>え</sup> た <sup>た</sup> こ <sup>こ</sup> はな <sup>な</sup> い   | 42.9% |
| NA   | 8.9%  |

→ とい  
問22へ

とい 問22	とい 問16で、「3. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労していないが、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>がい</sup> 者 <sup>しや</sup> 施 <sup>し</sup> 設 <sup>せつ</sup> 等 <sup>とう</sup> へ通 <sup>つう</sup> 所 <sup>しょ</sup> している」また は「4. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労していないし、障 <sup>しょうがい</sup> 害 <sup>がい</sup> 者 <sup>しや</sup> 施 <sup>し</sup> 設 <sup>せつ</sup> 等 <sup>とう</sup> へも通 <sup>つう</sup> 所 <sup>しょ</sup> して <sup>い</sup> な <sup>な</sup> い」と答 <sup>こた</sup> え た <sup>かた</sup> 方 <sup>かた</sup> にお聞 <sup>き</sup> き <sup>き</sup> し <sup>ま</sup> す。 就 <sup>しゅうろう</sup> 労 <sup>ろう</sup> し <sup>し</sup> たい <sup>たい</sup> と思 <sup>おも</sup> い <sup>い</sup> ま <sup>ま</sup> す <sup>す</sup> か。あてはまる番 <sup>ばん</sup> 号 <sup>ごう</sup> に1つだけ○をつ <sup>つ</sup> け <sup>け</sup> て <sup>て</sup> く <sup>く</sup> だ <sup>だ</sup> さ <sup>さ</sup> い。
-----------	---

(n = 252)

- |   |                |       |
|---|----------------|-------|
| 1. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労 <sup>ろう</sup> し <sup>し</sup> たい   | → とい<br>問23へ   | 18.3% |
| 2. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労 <sup>ろう</sup> し <sup>し</sup> たい <sup>たい</sup> が <sup>が</sup> で <sup>で</sup> き <sup>き</sup> な <sup>な</sup> い | } → とい<br>問24へ | 42.5% |
| 3. 就 <sup>しゅうろう</sup> 労 <sup>ろう</sup> し <sup>し</sup> た <sup>た</sup> く <sup>く</sup> な <sup>な</sup> い                                 |                | 29.8% |
| NA  |                | 9.5%  |

問23	問22で、「1. 就労したい」と答えた方にお聞きします。
	どのような内容の仕事をしたと思いますか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 46)

1. 農業、林業、漁業	4.3%
2. 一般事務	0.0%
3. 営業、販売	8.7%
4. 医療関係	0.0%
5. 専門的、技術的職業	2.2%
6. サービス業（調理人、接客業、ビルや駐車場などの管理人、警備員、清掃業など）	13.0%
7. 生産工程（部品組み立てや仕分け作業、採掘・製造・建設作業、運輸・通信など）	45.7%
8. その他（ ）	26.1%

→ 問25へ

問24	問22で、「2. 就労したいができない」または「3. 就労したくない」と答えた方にお聞きします。
	就労したいができない、またはしたくない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 182)

1. 希望の職種がないから	7.7%
2. 通勤手段がない、通勤が困難だから	4.9%
3. 給料や賃金が安いから	1.1%
4. 職場環境が悪いから	1.6%
5. 家庭の事情（家事、結婚、育児、就学など）があるから	2.2%
6. 働く必要がないから	0.0%
7. 働く自信がないから（年齢や体力的な理由を含む）	20.3%
8. 障害が重いから	46.2%
9. その他（ ）	8.2%
NA	7.7%

とい 問25	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>就労するために必要なことは何だと思えますか。最もあてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=377)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. ハローワークなどの職業訓練      | 5.6%  |
| 2. 職業相談・職業紹介          | 3.2%  |
| 3. 職場への送迎、通勤費用の助成     | 5.6%  |
| 4. 自分の能力に合った仕事や勤務体制   | 18.6% |
| 5. 職場の人の理解、手助けが得られる環境 | 29.2% |
| 6. 会社内の設備のバリアフリー化     | 0.0%  |
| 7. 障害者施設での職業訓練        | 14.6% |
| 8. その他 ( )            | 4.2%  |
| NA                    | 19.1% |

とい 問26	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、入院や通院をしていますか。あてはまる番号に1つだけ○ をつけてください。</p>
-----------	---

(n=377)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. 通院している → 問27へ | 54.9% |
| 2. 入院している        | 3.2%  |
| 3. 入院も通院もしていない   | 37.7% |
| NA               | 4.2%  |
- } → 問28へ

とい 問27	<p>問26で、「1. 通院している」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、どのくらい医療機関に通院していますか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=207)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 1.0%  | 2. 週に2～3回 | 1.4%  |
| 3. 週に1回 | 2.4%  | 4. 月に2～3回 | 12.1% |
| 5. 月に1回 | 44.0% | 6. 年に数回   | 32.9% |
| 7. 不定期  | 4.8%  | NA        | 1.4%  |

とい 問28	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>            あなたは現在、どのくらい外出していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。(※ここでいう外出とは、現在暮らしている場所から外に出ることです。)         </p>
-----------	--

(n = 377)

1. ほぼ毎日	60.2%	2. 週に2～3回	13.0%
3. 週に1回	6.4%	4. 月に2～3回	4.2%
5. 月に1回	3.2%	6. 年に数回	5.0%
7. まったく外出しない	2.9%	NA	5.0%

とい 問29	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>            外出するときに困っていることはありますか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。         </p>
-----------	--

(n = 377)

1. バスや電車に乗ることができない	18.0%
2. 交通手段がない	7.7%
3. 交通手段の運賃が高い	8.8%
4. 段差解消などのバリアフリー化がされていない	2.7%
5. 発作、パニック、突然のハプニング等があり不安	12.5%
6. 利用したい施設が送迎サービスをしていない	3.7%
7. 外出する際に介助してくれる人がいない	9.5%
8. 他人の目が気になる	10.3%
9. 他人に気兼ねなく使える外出手段がない	6.4%
10. 手話通訳者などがいないと、意思疎通ができない	0.5%
11. その他 ( )	6.1%
12. 特に困っていない	44.6%

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

相談窓口	内容
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域における生活の中でのさまざまな相談や福祉サービスの紹介や手続きの手伝いなどを行います。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活全般に関する相談を受け、助言や福祉サービス等の情報を提供を行います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面全般にわたる支援や日常生活上の支援を行います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療、補助具、生活、身の上、税金などの相談を受けます。

問30	<b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----	---

(n = 377)

- |           |        |       |
|-----------|--------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問31へ | 78.8% |
| 2. 知らなかった | → 問33へ | 17.5% |
| NA        |        | 3.7%  |

問31	<b>問30で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----	--

(n = 297)

- |              |        |       |
|--------------|--------|-------|
| 1. 相談したことがある | → 問33へ | 74.7% |
| 2. 相談したことがない | → 問32へ | 24.6% |
| NA           |        | 0.7%  |

とい 問32	<p>問31で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>相談したことがない理由は何か。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 73)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない           | 4.1%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい            | 11.0% |
| 3. 相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配 | 6.8%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない              | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                   | 63.0% |
| 6. その他 ( )                     | 5.5%  |
| NA                             | 9.6%  |

とい 問33	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたが、災害が発生したときに困ることや心配なことは何か。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 377)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 避難場所を知らない                               | 15.6% |
| 2. 避難場所まで行けない                              | 7.7%  |
| 3. 緊急時に助けてくれる人がいない                         | 5.6%  |
| 4. 緊急時に情報を得る手段がない                          | 6.4%  |
| 5. 避難場所で必要なケアが受けられるか不安<br>(生活上の介助や医療・服薬など) | 35.8% |
| 6. その他 ( )                                 | 8.5%  |
| NA   | 20.4% |

とい 問34	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。       </p> <p>         ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。       </p> <p>         ①不当な差別的取扱いの禁止          …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること       </p> <p>         ②合理的配慮          …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること       </p>
-----------	--

(n=377)

1. 公共施設を利用する場面	} とい 問35へ	9.5%
2. 交通機関を利用する場面		10.6%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		9.8%
4. 買い物・外食の場面		9.8%
5. 医療に関する場面		8.5%
6. 教育に関する場面		4.5%
7. 文化活動に関する場面		3.4%
8. 雇用に関する場面		10.3%
9. 婚姻・出産・子育ての場面		1.9%
10. その他 ( )		2.7%
11. 差別を感じたことはない →問36へ		53.8%

とい 問35	問34で、「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10」と答えた方にお聞き します。 あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは 何ですか。最もあてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 112)

- |                         |       |
|-------------------------|-------|
| 1. 福祉教育を充実させる           | 22.3% |
| 2. 講習会や学習会などを開催する       | 7.1%  |
| 3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める | 0.9%  |
| 4. 福祉サービスをさらに充実させる      | 15.2% |
| 5. 行政機関における配慮をさらに進める    | 8.9%  |
| 6. 民間事業所における配慮をさらに進める   | 11.6% |
| 7. 教育における配慮をさらに進める      | 3.6%  |
| 8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する  | 4.5%  |
| 9. 障害者雇用をさらに進める         | 20.5% |
| 10. その他 ( )             | 5.4%  |

とい 問36	すべての方にお聞きします。 障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものは何です か。最もあてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 377)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 社会的な理解の促進   | 24.1% |
| 2. 保険・医療の充実    | 2.1%  |
| 3. 雇用促進と就労支援   | 9.8%  |
| 4. 経済的な支援      | 17.0% |
| 5. 余暇活動の充実     | 4.5%  |
| 6. 生活環境の整備     | 7.2%  |
| 7. 障害福祉サービスの充実 | 20.2% |
| 8. その他 ( )     | 2.4%  |
| NA             | 12.7% |



○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きかください。

ご協力きょうりょくありがとうございました。



## 調査票 C (精神保健福祉手帳所持者)



## 長岡市障害者生活実態調査

長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてしてきましたが、来年度、計画の見直しを行います。

この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を行います。

この調査票は、18歳以上65歳未満で精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方にお送りいたしました。

今回の調査で使用した個人情報は、長岡市個人情報保護条例に基づく適正な取り扱いを行います。

また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけに利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですので、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年11月 長岡市

### ご記入にあたって

- ・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人のことです。
- ・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などがご本人のお考えやお気持ちを記入してください。
- ・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

- ① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。
- ② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答してください。



回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)  
ファックス (0258) 39 - 2275  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

問 1	あなたの年齢はどれにあてはまりますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=411)

1. 10歳代	2.2%	2. 20歳代	13.6%
3. 30歳代	21.4%	4. 40歳代	27.7%
5. 50歳代	23.1%	6. 60歳代	11.4%
NA	0.5%		

問 2	あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級は次のどれですか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=411)

1. 1級	4.6%
2. 2級	83.7%
3. 3級	10.0%
NA	1.7%

問 3	あなたは精神障害者保健福祉手帳のほかに障害者手帳の交付を受けていますか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	--

(n=411)

1. 身体障害者手帳	9.0%
2. 療育手帳	2.4%
3. ほかの手帳は持っていない	86.6%

問 4	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=411)

1. 自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）	66.4%
2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家	18.2%
3. 市営住宅、県営住宅	4.6%
4. グループホーム	4.9%
5. その他（ ）	4.9%
NA	1.0%

問 5	あなたは、現在の暮らしの場を変えたいですか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	---

(n=411)

1. 現在の暮らしの場を変えたい	→ 問 6	25.1%
2. 現在の暮らしの場を変えたくない	→ 問 7	71.3%
NA		3.6%



問 11	<b>すべての方にお聞きします。</b> 今後の昼間の過ごし方について、(1)、(2)の間にお答えください。
------	---

(1)	あなたは今後、平日の昼間、主にどこで過ごしたいですか。最もあてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----	--

(n=411)

1. 自宅	48.2%
2. 学校	1.0%
3. 会社などの勤め先	30.7%
4. 障害者通所施設	9.7%
5. グループホーム	2.2%
6. 障害者入所施設	1.7%
7. その他 ( )	3.9%
NA	2.7%

(2)	あなたは今後、昼間どのようなサービスや支援が必要ですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	--

(n=411)

サービスや支援 自宅や外出先で利用する	1	ホームヘルパーに入浴や排せつなどの身体介護をしてもらいたい	2.7%
	2	ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を支援してもらいたい	16.3%
	3	出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい	6.1%
	4	自宅で訪問入浴サービスを利用したい	2.4%
サービスや支援 などに通って利用する	5	介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい	5.1%
	6	施設に通って、生活するための訓練を受けたい	10.0%
	7	介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の介護などを受けたい	1.9%
	8	将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい	21.7%
	9	障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい	21.7%
10	社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや創作的活動などをしたい	15.3%	
11	サービスや支援は必要ない	38.9%	



問 12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=411)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 64.5% |
| 2. したいと思うが、していない | 18.5% |
| 3. したいと思わない      | 14.4% |
| NA               | 2.7%  |

問 13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、スポーツをしていますか。<u>どちらか1つ</u>の番号に○をつけてください。</p>
------	---

(n=411)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している →問 14 へ  | 13.4% |
| 2. していない →問 15 へ | 84.4% |
| NA               | 2.2%  |

問 14	<p><b>問 13 で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n=55)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 21.8% | 2. 週に2～3回 | 25.5% |
| 3. 週に1回 | 23.6% | 4. 月に2～3回 | 12.7% |
| 5. 月に1回 | 7.3%  | 6. 年に数回   | 9.1%  |

問 15	<p><b>問 13 で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思えますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=347)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 49.0% |
| 2. したいと思わない | 49.9% |
| NA          | 1.2%  |

問 16	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、就労していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=411)

- |                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| 1. 1年以上継続して就労している → 問 17 へ           | 19.7% |
| 2. 過去1年の間に、就労した → 問 18 へ             | 10.7% |
| 3. 就労していないが、障害者施設等へ通所している → 問 22 へ   | 18.0% |
| 4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない → 問 21 へ | 49.1% |
| NA                                   | 2.4%  |

問 17	<p><b>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが就労し続けている、または続けることができている理由は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=81)

- |                           |            |       |
|---------------------------|------------|-------|
| 1. 仕事にやりがいがあるから           |            | 37.0% |
| 2. 仕事の内容が自分に合っているから       |            | 55.6% |
| 3. 勤務時間が合っているから           |            | 58.0% |
| 4. 職場の同僚との関係が良好だから        |            | 35.8% |
| 5. 職場に相談できる人がいるから         |            | 23.5% |
| 6. 福祉サービスの就労定着支援を利用しているから | } → 問 18 へ | 13.6% |
| 7. 給料や賃金が高いから             |            | 12.3% |
| 8. 生活のために働かなければならないから     |            | 64.2% |
| 9. その他 ( )                |            | 6.2%  |
| 10. 特にない                  |            | 1.2%  |

問 18	<p><b>問 16 で、「1. 1年以上継続して就労している」または「2. 過去1年の間に、就労した」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>就労するために障害者施設等で行う職業訓練系の障害福祉サービスを利用しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。</p>
------	--

(n=125)

- |            |            |       |
|------------|------------|-------|
| 1. 利用した    |            | 29.6% |
| 2. 利用していない | } → 問 19 へ | 67.2% |
| NA         |            | 3.2%  |



問 21	<p><b>問 16 で、「4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>過去に職業訓練系の障害福祉サービスを利用したことはありますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 202)

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| 1. 利用したことはあるが、現在は利用していない               | } | 17.3% |
| 2. 利用しようと考え、体験通所をしたが、実際に利用<br>にいたらなかった | } | 8.4%  |
| 3. 利用しようと考えたことはあるが、特に行動していない           | } | 17.3% |
| 4. 利用しようと考えたことはない                      |   | 48.5% |
| NA                                     |   | 8.4%  |
- 問 22 へ

問 22	<p><b>問 16 で、「3. 就労していないが、障害者施設等へ通所している」または「4. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>就労したいと思えますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 276)

- |               |            |       |
|---------------|------------|-------|
| 1. 就労したい      | → 問 23 へ   | 21.7% |
| 2. 就労したいができない | } → 問 24 へ | 38.8% |
| 3. 就労したくない    |            | 25.4% |
| NA            |            | 14.1% |

問 23	<p><b>問 22 で、「1. 就労したい」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>どのような内容の仕事をしたいと思えますか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 60)

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| 1. 農業、林業、漁業                                      | } | 1.7%  |
| 2. 一般事務  |   | 11.7% |
| 3. 営業、販売   |   | 6.7%  |
| 4. 医療関係  |   | 0.0%  |
| 5. 専門的、技術的職業                                     |   | 15.0% |
| 6. サービス業<br>(調理人、接客業、ビルや駐車場などの管理人、<br>警備員、清掃業など) | } | 16.7% |
| 7. 生産工程 (部品組み立てや仕分け作業、採掘・<br>製造・建設作業、運輸・通信など)    |   | 16.7% |
| 8. その他 ( )                                       |   | 21.7% |
| NA   |   | 10.0% |
- 問 25 へ



問 26	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、入院や通院をしていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 411)

1. 通院している	→ 問 27 へ	86.6%
2. 入院している	} → 問 28 へ	3.9%
3. 入院も通院もしていない		8.0%
NA		1.5%

問 27	<p><b>問 26 で、「1. 通院している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい医療機関に通院していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 356)

1. ほぼ毎日	0.0%	2. 週に 2 ~ 3 回	5.6%
3. 週に 1 回	2.0%	4. 月に 2 ~ 3 回	11.2%
5. 月に 1 回	60.4%	6. 年に数回	18.5%
7. 不定期	1.4%	NA	0.8%

問 28	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい外出していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。(※ここでいう外出とは、現在暮らしている場所から外に出ることです。)</p>
------	---

(n = 411)

1. ほぼ毎日	45.7%	2. 週に 2 ~ 3 回	27.0%
3. 週に 1 回	9.7%	4. 月に 2 ~ 3 回	7.1%
5. 月に 1 回	2.4%	6. 年に数回	1.9%
7. まったく外出しない	4.9%	NA	1.2%

問 29	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>外出するときに困っていることはありますか。あてはまる番号<u>すべてに○</u>をつけてください。</p>
------	--

(n=411)

1. バスや電車に乗ることができない	11.9%
2. 交通手段がない	10.9%
3. 交通手段の運賃が高い	11.9%
4. 段差解消などのバリアフリー化がされていない	1.9%
5. 発作、パニック、突然のハプニング等があり不安	24.8%
6. 利用したい施設が送迎サービスをしていない	3.2%
7. 外出する際に介助してくれる人がいない	3.9%
8. 他人の目が気になる	27.5%
9. 他人に気兼ねなく使える外出手段がない	5.8%
10. 手話通訳者などがいないと、意思疎通ができない	0.2%
11. その他 ( )	9.5%
12. 特に困っていない	37.7%

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

相談窓口	内容
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域における生活の中でのさまざまな相談や福祉サービスの紹介や手続きの手伝いなどを行います。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活全般に関する相談を受け、助言や福祉サービス等の情報提供を行います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面全般にわたる支援や日常生活上の支援を行います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療、補助具、生活、身の上、税金などの相談を受けます。

問 30	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
------	--

(n=411)

- |           |          |       |
|-----------|----------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問 31 へ | 60.6% |
| 2. 知らなかった | → 問 33 へ | 37.0% |
| NA        |          | 2.4%  |

問 31	<p><b>問 30 で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
------	---

(n=249)

- |              |          |       |
|--------------|----------|-------|
| 1. 相談したことがある | → 問 33 へ | 64.7% |
| 2. 相談したことがない | → 問 32 へ | 33.7% |
| NA           |          | 1.6%  |

問 32	<p><b>問 31 で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
------	---

(n=84)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない           | 6.0%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい            | 13.1% |
| 3. 相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配 | 7.1%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない              | 7.1%  |
| 5. 相談することがない                   | 44.0% |
| 6. その他 ( )                     | 17.9% |
| NA                             | 4.8%  |

問 33	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが、災害が発生したときに困ることや心配なことは何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
------	--

(n=411)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 避難場所を知らない                               | 21.2% |
| 2. 避難場所まで行けない                              | 5.4%  |
| 3. 緊急時に助けてくれる人がいない                         | 7.8%  |
| 4. 緊急時に情報を得る手段がない                          | 3.9%  |
| 5. 避難場所で必要なケアが受けられるか不安<br>(生活上の介助や医療・服薬など) | 37.0% |
| 6. その他 ( )                                 | 11.2% |
| NA   | 13.6% |



問 34	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p> <p>※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。</p> <p>①不当な差別的取扱いの禁止 …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること</p> <p>②合理的配慮 …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること</p>
------	--

(n=411)

1. 公共施設を利用する場面	} → 問 35 へ	6.6%
2. 交通機関を利用する場面		3.6%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		11.9%
4. 買い物・外食の場面		5.8%
5. 医療に関する場面		11.7%
6. 教育に関する場面		3.6%
7. 文化活動に関する場面		1.7%
8. 雇用に関する場面		21.2%
9. 婚姻・出産・子育ての場面		4.1%
10. その他 ( )		5.1%
11. 差別を感じたことはない →問 36 へ		49.4%

問 35	<p><b>問 34 で、「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=170)

1. 福祉教育を充実させる	11.8%
2. 講習会や学習会などを開催する	4.7%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	2.4%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	10.0%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	12.4%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	10.6%
7. 教育における配慮をさらに進める	2.9%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	2.4%
9. 障害者雇用をさらに進める	27.1%
10. その他 ( )	8.2%
NA	7.6%

問 36	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n = 411)

1. 社会的な理解の促進	24.8%
2. 保険・医療の充実	4.9%
3. 雇用促進と就労支援	12.9%
4. 経済的な支援	29.7%
5. 余暇活動の充実	1.7%
6. 生活環境の整備	3.4%
7. 障害福祉サービスの充実	8.0%
8. その他 ( )	4.1%
NA	10.5%

○ 障害者施策に関して、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## 調査票 D (障害者入所施設入所者)



## ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし れいわ ねん がつ ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、  
しょうがいふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす らいねんど けいかく  
障害児福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の  
みなお おこな  
見直しを行います。

みなお き そ しりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう にいがたけんない しょうがいしゃせつ にゅうしょ かた おく  
この調査票は、新潟県内の障害者施設に入所されている方にお送りいたしま  
した。

こんかい ちょうさ しょう こじんじょうほう ながおかし こじんじょうほうほ ごじょうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱いを行います。

また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りょう ちょうさもくてきいがいもち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力 くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

### きにゅう ご記入にあたって

ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人のことです。

ほんにん きにゅう かいとう むずか ぼあい かぞく かた ほんにん かんが  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などがご本人のお考

えやお気持ちを記入してください。

れいわ ねん がつ にちげんざい じょうきょう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちよくせつきにゅう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゅうしょ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じょう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォーム

から回答してください。



かいとうきげん がつ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

と あ さき ながおかしふくしほけんぶ ふくしそむか  
<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゅう しょ ながおかしおおてどおり ちょうめ ほんち  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
でん わ  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

とい 問 1	あなたの年齢はどれにあてはまりますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n=98)

- |          |       |            |       |
|----------|-------|------------|-------|
| 1. 10歳代  | 0.0%  | 2. 20歳代    | 1.0%  |
| 3. 30歳代  | 6.1%  | 4. 40歳代    | 14.3% |
| 5. 50歳代  | 26.5% | 6. 60歳～64歳 | 13.3% |
| 7. 65歳以上 | 38.8% |            |       |

とい 問 2	あなたは、どの障害者手帳の交付を受けていますか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	--

(n=98)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳     | 49.0% |
| 2. 療育手帳        | 68.4% |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | 4.1%  |

とい 問 3	あなたの障害者手帳の等級は次のどれですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	---

(n=98)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 42.9% |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 5.1%  |
| 3. 療育手帳 A          | 45.9% |
| 4. 療育手帳 B          | 16.3% |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 2.0%  |

とい 問 4	あなたは現在、どの障害者入所施設に入所していますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	---

(n=98)

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 身体障害者入所施設 | 30.6% |
| 2. 知的障害者入所施設 | 66.3% |
| 3. その他 ( )   | 1.0%  |
| NA           | 2.0%  |

とい 問 5	あなたは今後、どこで暮らしたいですか。 <u>どちらか1つ</u> の番号に○をつけてください。
-----------	--

(n=98)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. 施設に入所して暮らしたい → 問6へ | 83.7% |
| 2. 施設を退所して暮らしたい → 問8へ | 11.2% |
| NA                    | 5.1%  |

とい 問 6	<p>問5で、「1. 施設に入所して暮らしたい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>なぜ、施設に入所して暮らしていきたいと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=82)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 障害が重いから                             | 41.5% |
| 2. 安心して生活することができるから                    | 79.3% |
| 3. 自宅などで面倒をみってくれる家族などがいないから            | 46.3% |
| 4. 自宅などがバリアフリーになっていないから                | 17.1% |
| 5. 自宅などで暮らしていくために必要なお金がないから            | 8.5%  |
| 6. 障害者のグループホームでどのような介護が受けられるかよくわからないから | 9.8%  |
| 7. その他 ( )                             | 9.8%  |

とい 問 7	<p>問5で、「1. 施設に入所して暮らしたい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>昼間どのようなサービスや支援を利用したいですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=82)

- |   |       |   |        |
|---|-------|---|--------|
| 1. 入浴や排せつ、食事の介護を受けたい                          | 41.5% | } | → 問12へ |
| 2. 自立した生活ができるように、施設の中で体の機能訓練や生活するために必要な訓練をしたい | 4.9%  |   |        |
| 3. 将来就職したいので、技術や知識を身につけたい                     | 0.0%  |   |        |
| 4. 施設のレクリエーションなどに参加して、自由に過ごしたい                | 29.3% |   |        |
| 5. その他 ( )                                    | 2.4%  |   |        |
| NA  | 22.0% |   |        |





問11	<p>問5で、「2. 施設を退所して暮らしたい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>昼間どのようなサービスや支援が必要ですか。あてはまる番号<u>すべてに○</u>をつけてください。</p>
-----	--

(n=11)

サービスや支援 自宅や外出先で利用する	1	ホームヘルパーに入浴や排せつなどの身体介護をしても らいたい	27.3%
	2	ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を 支援してもらいたい	27.3%
	3	出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらい	27.3%
	4	自宅で訪問入浴サービスを利用したい	27.3%
サービスや支援 施設などに通って利用する	5	介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや 休養のため、短期間、施設に入所したい	45.5%
	6	施設に通って、生活するための訓練を受けたい	27.3%
	7	介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の 介護などを受けたい	36.4%
	8	将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身に つけたい	9.1%
	9	障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との 交流をしたい	36.4%
	10	社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや 創作的活動などをしたい	27.3%
	11	サービスや支援は必要ない	0.0%

問12	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に<u>1つだけ○</u>をつけてください。</p>
-----	---

(n=98)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 48.0% |
| 2. したいと思うが、していない | 25.5% |
| 3. したいと思わない      | 18.4% |
| NA               | 8.2%  |

とい 問13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=98)

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 1. している  | →問14へ | 9.2%  |
| 2. していない | →問15へ | 89.8% |
| NA       |       | 1.0%  |

とい 問14	<p><b>問13で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=9)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 55.6% | 2. 週に2～3回 | 33.3% |
| 3. 週に1回 | 0.0%  | 4. 月に2～3回 | 0.0%  |
| 5. 月に1回 | 0.0%  | 6. 年に数回   | 0.0%  |
| NA      | 11.1% |           |       |

とい 問15	<p><b>問13で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=88)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 27.3% |
| 2. したいと思わない | 68.2% |
| NA          | 4.5%  |

とい 問16	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい外出していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。(※ここでいう外出とは、施設から外に出ることです。)</p>
-----------	--

(n=98)

- |              |       |           |       |
|--------------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日      | 0.0%  | 2. 週に2～3回 | 2.0%  |
| 3. 週に1回      | 7.1%  | 4. 月に2～3回 | 17.3% |
| 5. 月に1回      | 21.4% | 6. 年に数回   | 34.7% |
| 7. まったく外出しない | 16.3% | NA        | 1.0%  |

問 17	<p>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</p> <p>外出<sup>がいしゅつ</sup>するとき<sup>こま</sup>に困<sup>こま</sup>っていることはありますか。あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号<sup>ばんごう</sup>すべてに○をつけてください。</p>
------	---

(n = 98)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. バスや電車 <sup>でんしゃ</sup> に乗 <sup>の</sup> ることができない  | 57.1% |
| 2. 交通手段 <sup>こうつうしゅだん</sup> がない  | 25.5% |
| 3. 交通手段 <sup>こうつうしゅだん</sup> の運賃 <sup>うんちん</sup> が <sup>たか</sup> 高い                                       | 13.3% |
| 4. 段差 <sup>だんさ</sup> 解消 <sup>かいしょう</sup> などのバリアフリー化 <sup>か</sup> がされていない                                 | 13.3% |
| 5. 発作 <sup>はっさく</sup> 、パニック、突然 <sup>とつぜん</sup> のハプニング <sup>とう</sup> 等 <sup>とう</sup> があり不安 <sup>ふあん</sup> | 20.4% |
| 6. 利用 <sup>りよう</sup> したい施設 <sup>しせつ</sup> が送迎 <sup>そうげい</sup> サービス <sup>サービス</sup> をしていない                | 7.1%  |
| 7. 外出 <sup>がいしゅつ</sup> する際 <sup>さい</sup> に介助 <sup>かいじょ</sup> してくれる人 <sup>ひと</sup> がいない                   | 17.3% |
| 8. 他人 <sup>たにん</sup> の目 <sup>め</sup> が気 <sup>き</sup> になる   | 7.1%  |
| 9. 他人 <sup>たにん</sup> に気兼ね <sup>きか</sup> なく使 <sup>つか</sup> える外出手段 <sup>がいしゅつしゅだん</sup> がない                | 11.2% |
| 10. 手話通訳者 <sup>しゅわつうやくしゃ</sup> などがいないと、意思疎通 <sup>いしそつう</sup> ができない                                       | 2.0%  |
| 11. その他 <sup>た</sup> ( )   | 10.2% |
| 12. 特 <sup>とく</sup> に困 <sup>こま</sup> っていない   | 18.4% |

★ 次の表<sup>つぎ ひょう</sup>を<sup>らん</sup>ご覧<sup>らん</sup>になってから、後の質問<sup>あと しつもん</sup>にお答え<sup>こた</sup>ください。

相談窓口 <sup>そうだんまどぐち</sup>	内容 <sup>ないよう</sup>
<p>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>相談支援<sup>そうだんしえん</sup>センター</p> <p>相談支援<sup>そうだんしえん</sup>センターふかさわ分室<sup>ぶんしつ</sup>サンスマイル</p> <p>障がい者<sup>しょうがいしゃ</sup>支援<sup>しえん</sup>センターあさひ</p> <p>越路<sup>こしじ</sup>ハイム地域生活<sup>ちいきせいかつしえん</sup>支援<sup>しえん</sup>センター</p> <p>相談支援<sup>そうだんしえん</sup>センターふかさわ</p> <p>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>相談支援<sup>そうだんしえん</sup>センターとちお</p>	<p>地域<sup>ちいき</sup>における生活<sup>せいかつ</sup>の中<sup>なか</sup>でのさまざま</p> <p>な相談<sup>そうだん</sup>や福祉<sup>ふくし</sup>サービスの紹介<sup>しょうかい</sup>や手続<sup>てつづ</sup></p> <p>きの手伝<sup>てつだ</sup>いなど<sup>おこな</sup>を行います。</p>
<p>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>地域生活<sup>ちいきせいかつしえん</sup>支援<sup>しえん</sup>センター</p> <p>ながおかりょういくえん</p> <p>長岡療育園</p>	<p>生活<sup>せいかつ</sup>全般<sup>ぜんぱん</sup>に関する相談<sup>そうだん</sup>を受け、助言<sup>じょげん</sup></p> <p>や福祉<sup>ふくし</sup>サービス等<sup>とう</sup>の情報<sup>じょうほう</sup>提供<sup>ていきょう</sup>を</p> <p>行<sup>おこな</sup>います。</p>
<p>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>就業<sup>しゅうぎょう</sup>・生活<sup>せいかつしえん</sup>支援<sup>しえん</sup>センター</p> <p>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>就業<sup>しゅうぎょう</sup>・生活<sup>せいかつしえん</sup>支援<sup>しえん</sup>センターこしじ</p>	<p>就労面<sup>しゅうろうめん</sup>全般<sup>ぜんぱん</sup>にわたる支援<sup>しえん</sup>や日常<sup>にちじょう</sup></p> <p>生活上<sup>せいかつじょう</sup>の支援<sup>しえん</sup>を行<sup>おこな</sup>います。</p>
<p>身体<sup>しんたい</sup>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>相談員<sup>そうだんいん</sup>・知的<sup>ちてき</sup>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>相談員<sup>そうだんいん</sup></p>	<p>医療<sup>いりょう</sup>、補助具<sup>ほじょぐ</sup>、生活<sup>せいかつ</sup>、身<sup>み</sup>の上<sup>うへ</sup>、税金<sup>ぜいきん</sup>な</p> <p>どの相談<sup>そうだん</sup>を受け<sup>う</sup>めます。</p>

とい 問18	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか 1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 98)

- |           |        |       |
|-----------|--------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問19へ | 43.9% |
| 2. 知らなかった | → 問21へ | 52.0% |
| NA        |        | 4.1%  |

とい 問19	<p><b>問18で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことが ありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 43)

- |              |        |       |
|--------------|--------|-------|
| 1. 相談したことがある | → 問21へ | 48.8% |
| 2. 相談したことがない | → 問20へ | 51.2% |

とい 問20	<p><b>問19で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○ をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 22)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない           | 13.6% |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい            | 0.0%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない              | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                   | 77.3% |
| 6. その他 ( )                     | 9.1%  |

とい 問21	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u> </p> <p>         ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。          ①不当な差別的取扱いの禁止          …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること          ②合理的配慮          …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること       </p>
-----------	--

(n=98)

1. 公共施設を利用する場面	} → とい 問22 へ	4.1%
2. 交通機関を利用する場面		0.0%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		3.1%
4. 買い物・外食の場面		5.1%
5. 医療に関する場面		5.1%
6. 教育に関する場面		0.0%
7. 文化活動に関する場面		1.0%
8. 雇用に関する場面		0.0%
9. 婚姻・出産・子育ての場面		0.0%
10. その他 ( )		7.1%
11. 差別を感じたことはない → とい 問23 へ		64.3%

とい 問22	<p>問21で、「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10」と答えた方にお聞き          します。</p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは          何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 16)

1. 福祉教育を充実させる	25.0%
2. 講習会や学習会などを開催する	0.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	0.0%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	31.3%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	0.0%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	6.3%
7. 教育における配慮をさらに進める	6.3%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	6.3%
9. 障害者雇用をさらに進める	0.0%
10. その他 ( )	12.5%
NA	12.5%

とい 問23	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものは何です          か。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 98)

1. 社会的な理解の促進	15.3%
2. 保険・医療の充実	2.0%
3. 雇用促進と就労支援	1.0%
4. 経済的な支援	7.1%
5. 余暇活動の充実	14.3%
6. 生活環境の整備	20.4%
7. 障害福祉サービスの充実	16.3%
8. その他 ( )	1.0%
NA	22.4%

しょうがいしゃしやく かん  
○障害者施策に関して、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。  
いけんとう  
じゆう か

きょうりよく  
ご協力ありがとうございました。





## 調査票 E (高齢者)



ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
長岡市障害者生活実態調査

ながおかし れいわ ねん がつ ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく しょうがいじふくしけいかく  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直しを行います。

みなお き そしりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を行います。

ちょうさひょう さいいじょう しょうがいしゃてちょう も かた おく  
この調査票は、65歳以上で障害者手帳をお持ちの方にお送りいたしました。

こんかい ちょうさ しょう こじんじょうほう ながおかし こじんじょうほう ほ ごじょうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正な取り扱いを行います。

ちょうさひょう むきめい ちょうさけっか けいかく みなお  
また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけに利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくしじさく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですので、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

きにゅう  
ご記入にあたって

- ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん  
調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人のことです。
- ほんにん きにゅう かいとう むずか ばあい かぞく かた ほんにん かんが  
ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などがご本人のお考えやお気持ちを記入してください。
- れいわ ねん がつ にちげんざい じょうきょう こた  
令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちやくせつきにゅう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゅうしょ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じょう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答してください。



かいとうきげん がつ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

と あ さき  
<問い合わせ先>

ながおかしふくしほけんぶ ふくしそむか  
長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゅう しょ ながおかしおおてどおり ちょうめ ほんち  
住所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
でん わ (0258) 39 - 2371 (直通)  
電 話

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

とい 問 1	あなたの年齢はどれにあてはまりますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 305)

- |            |       |         |       |         |       |
|------------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 1. 65歳～69歳 | 22.0% | 2. 70歳代 | 44.6% | 3. 80歳代 | 26.2% |
| 4. 90歳以上   | 5.9%  | NA      |       | 1.3%    |       |

とい 問 2	あなたは、どの障害者手帳の交付を受けていますか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	--

(n = 305)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳     | 64.9% |
| 2. 療育手帳        | 10.5% |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | 25.6% |

とい 問 3	あなたの障害者手帳の等級は次のどれですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	---

(n = 305)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 43.3% |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 26.2% |
| 3. 療育手帳 A          | 6.2%  |
| 4. 療育手帳 B          | 6.6%  |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 22.0% |

とい 問 4	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 305)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど） | 64.9% |
| 2. 民間の賃貸アパート・マンション、借家          | 6.2%  |
| 3. 市営住宅、県営住宅                   | 3.3%  |
| 4. グループホーム                     | 9.2%  |
| 5. その他（ ）                      | 15.4% |
| NA                             | 1.0%  |

とい 問 5	あなたは現在の暮らしの場を変えたいですか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----------	--

(n = 305)

- |                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 1. 現在の暮らしの場を変えたい   | → 問 6 | 12.1% |
| 2. 現在の暮らしの場を変えたくない | → 問 7 | 83.0% |
| NA                 |       | 4.9%  |



とい 問10	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、平日の昼間、主にどこで過ごしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 305)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. 自宅       | 64.6% |
| 2. 学校       | 0.0%  |
| 3. 会社などの勤め先 | 2.0%  |
| 4. 障害者通所施設  | 7.5%  |
| 5. グループホーム  | 3.9%  |
| 6. その他 ( )  | 17.7% |
| NA          | 4.3%  |

とい 問11	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>今後の昼間の過ごし方について、(1)、(2)の間にお答えください。</p>
-----------	---

(1)	<p>あなたは今後、平日の昼間、主にどこで過ごしたいですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 305)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. 自宅       | 64.3% |
| 2. 学校       | 0.0%  |
| 3. 会社などの勤め先 | 1.6%  |
| 4. 障害者通所施設  | 6.2%  |
| 5. グループホーム  | 6.2%  |
| 6. 障害者入所施設  | 4.6%  |
| 7. その他 ( )  | 10.5% |
| NA          | 6.6%  |

(2)	あなたは今後、 <u>昼間</u> どのようなサービスや支援が必要ですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	---

(n = 305)

サービスや支援 自宅や外出先で利用する	1	ホームヘルパーに入浴や排せつなどの身体介護をしても らいたい	9.5%
	2	ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事を 支援してもらいたい	15.7%
	3	出かけるときに、ガイドヘルパーに付き添ってもらいたい	8.5%
	4	自宅で訪問入浴サービスを利用したい	8.5%
サービスや支援 施設などに通って利用する	5	介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや 休養のため、短期間、施設に入所したい	13.8%
	6	施設に通って、生活するための訓練を受けたい	7.2%
	7	介護が必要なので、施設に通って、入浴や排せつ、食事の 介護などを受けたい	14.8%
	8	将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身に つけたい	2.0%
	9	障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との 交流をしたい	12.8%
	10	社会福祉センターなどに通って、レクリエーションや 創作的活動などをしたい	9.5%
	11	サービスや支援は必要ない	31.1%

問12	<b>すべての方にお聞きします。</b>
	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。

(n = 305)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 35.4% |
| 2. したいと思うが、していない | 29.5% |
| 3. したいと思わない      | 30.2% |
| NA               | 4.9%  |

とい 問13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 305)

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 1. している  | →問14へ | 7.2%  |
| 2. していない | →問15へ | 90.8% |
| NA       |       | 2.0%  |

とい 問14	<p><b>問13で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 22)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 36.4% | 2. 週に2～3回 | 36.4% |
| 3. 週に1回 | 18.2% | 4. 月に2～3回 | 4.5%  |
| 5. 月に1回 | 0.0%  | 6. 年に数回   | 4.5%  |

とい 問15	<p><b>問13で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 277)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 18.4% |
| 2. したいと思わない | 76.9% |
| NA          | 4.7%  |

とい 問16	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、介護保険の要介護認定を受けていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 305)

- |           |         |       |
|-----------|---------|-------|
| 1. 要支援 1  | } →問17へ | 4.3%  |
| 2. 要支援 2  |         | 6.2%  |
| 3. 要介護 1  |         | 6.6%  |
| 4. 要介護 2  |         | 5.9%  |
| 5. 要介護 3  |         | 6.6%  |
| 6. 要介護 4  |         | 4.9%  |
| 7. 要介護 5  |         | 5.2%  |
| 8. 受けていない | →問19へ   | 55.1% |
| NA        |         | 5.2%  |



とい 問17	<p>とい 問16で、「1、2、3、4、5、6、7」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたは現在、介護保険のサービスを利用していますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 121)

- |            |        |       |
|------------|--------|-------|
| 1. 利用している  | → 問18へ | 65.3% |
| 2. 利用していない | → 問19へ | 23.1% |
| NA         |        | 11.6% |

とい 問18	<p>とい 問17で、「1. 利用している」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが現在、利用している介護保険サービスはどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 79)

1. ホームヘルパーなどの専門家から自宅に訪問してもらい、介護や看護を受けるサービス 31.6%  
(訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーションなど)
2. 日帰りで施設に通って介護やリハビリを受けるサービス 53.2%  
(通所介護 [デイサービス]、通所リハビリテーション [デイケア] など)
3. 短期間、施設に宿泊して介護を受けるサービス (ショートステイ) 21.5%  
(短期入所生活介護、短期入所療養介護)
4. 日常生活上の自立を助けるための福祉用具の利用 44.3%  
(福祉用具貸与、福祉用具購入)
5. 手すりの取り付けや段差解消などのための住宅の改修 (住宅改修) 24.1%
6. 介護付き有料老人ホームへの入居 (特定施設入居者生活介護) 6.3%
7. 定期的な巡回訪問や通報により、自宅で介護や看護を受けるサービス 2.5%  
(夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護)
8. 認知症高齢者グループホームへの入居 0.0%  
(認知症対応型共同生活介護)
9. 施設への通いを中心として、泊まり、訪問サービスを組み合わせ、介護や看護を受けるサービス 3.8%  
(小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護)
10. 介護予防に効果のあるサービス 3.8%
  - ・ 運動器の機能向上 (筋力トレーニングなど)
  - ・ 栄養改善
  - ・ 口腔機能の向上 (お口の体操、口腔ケアなど)
11. その他 5.1%

とい 問19	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、入院や通院をしていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 305)

- |                 |           |       |
|-----------------|-----------|-------|
| 1. 通院している       | → 問20 へ   | 75.4% |
| 2. 入院 している      | } → 問21 へ | 10.5% |
| 3. 入院 も通院もしていない |           | 9.5%  |
| NA              |           | 4.6%  |

とい 問20	<p><b>問19 で、「1. 通院している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい医療機関に通院していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 230)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 0.0%  | 2. 週に2～3回 | 4.8%  |
| 3. 週に1回 | 2.2%  | 4. 月に2～3回 | 23.5% |
| 5. 月に1回 | 44.8% | 6. 年に数回   | 20.0% |
| 7. 不定期  | 1.7%  | NA        | 3.0%  |

とい 問21	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらい外出していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。(※ここでいう外出とは、現在暮らしている場所から外に出ることです。)</p>
-----------	---

(n = 305)

- |              |       |           |       |
|--------------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日      | 28.2% | 2. 週に2～3回 | 27.5% |
| 3. 週に1回      | 8.2%  | 4. 月に2～3回 | 6.9%  |
| 5. 月に1回      | 4.3%  | 6. 年に数回   | 6.6%  |
| 7. まったく外出しない | 14.4% | NA        | 3.9%  |

問22	<p>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</p> <p>外<sup>がいしゅつ</sup>出<sup>しゅつ</sup>するときに困<sup>こま</sup>っていることはありますか。あてはまる番号<sup>ばんごう</sup>すべてに○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 305)

- |   |       |
|---|-------|
| 1. バスや電車 <sup>でんしゃ</sup> に乗 <sup>の</sup> ることができない   | 22.3% |
| 2. 交通手段 <sup>こうつうしゅだん</sup> がない   | 13.4% |
| 3. 交通手段 <sup>こうつうしゅだん</sup> の運賃 <sup>うんちん</sup> が <sup>たか</sup> い   | 15.7% |
| 4. 段差解 <sup>だんさかいしょう</sup> 消 <sup>しょう</sup> などのバリアフリー化 <sup>か</sup> がされていない   | 7.2%  |
| 5. 発作 <sup>ほっさ</sup> 、パニック、突然 <sup>とつぜん</sup> のハプニング <sup>とう</sup> 等 <sup>とう</sup> があり不安 <sup>ふあん</sup>                   | 3.3%  |
| 6. 利用 <sup>りよう</sup> したい施設 <sup>しせつ</sup> が送迎 <sup>そうげい</sup> サービスをしていない  | 3.0%  |
| 7. 外 <sup>がいしゅつ</sup> 出 <sup>しゅつ</sup> する際に介助 <sup>さい</sup> してくれ <sup>かいじょ</sup> る人 <sup>ひと</sup> がいない                    | 4.9%  |
| 8. 他人 <sup>たにん</sup> の目 <sup>め</sup> が気 <sup>き</sup> になる  | 4.9%  |
| 9. 他人 <sup>たにん</sup> に気 <sup>き</sup> 兼ねなく使 <sup>つか</sup> える外 <sup>がいしゅつしゅだん</sup> 出 <sup>しゅつ</sup> 手段 <sup>しゅだん</sup> がない | 4.3%  |
| 10. 手話通訳者 <sup>しゅわつうやくしゃ</sup> などがいないと、意思疎通 <sup>いしそつう</sup> ができない  | 0.7%  |
| 11. その他 <sup>た</sup> ( )  | 6.9%  |
| 12. 特 <sup>とく</sup> に困 <sup>こま</sup> っていない  | 43.9% |

★ 次の表<sup>つぎ ひょう</sup>を<sup>らん</sup>ご覧<sup>らん</sup>になってから、後<sup>あと</sup>の質<sup>しつもん</sup>問<sup>もん</sup>にお答<sup>こた</sup>えください。

相談窓口 <sup>そうだんまどぐち</sup>	内容 <sup>ないよう</sup>
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域 <sup>ちいき</sup> における生活 <sup>せいかつ</sup> の中 <sup>なか</sup> でのさまざま な相談 <sup>そうだん</sup> や福祉 <sup>ふくし</sup> サービスの紹介 <sup>しょうかい</sup> や手続 <sup>てつづ</sup> きの手伝 <sup>てつだ</sup> いなどを行 <sup>おこな</sup> いま す。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活 <sup>せいかつ</sup> 全般 <sup>ぜんぱん</sup> に関する相談 <sup>そうだん</sup> を受け、 助言 <sup>じょげん</sup> や福祉 <sup>ふくし</sup> サービス等 <sup>とう</sup> の情 <sup>じょう</sup> 報 <sup>ほう</sup> 提供 <sup>ていきょう</sup> を行 <sup>おこな</sup> います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面 <sup>しゅうろうめん</sup> 全般 <sup>ぜんぱん</sup> にわたる支援 <sup>しえん</sup> や日 <sup>にち</sup> 常 <sup>じょう</sup> 生活 <sup>せいかつ</sup> 上 <sup>じょう</sup> の支援 <sup>しえん</sup> を行 <sup>おこな</sup> います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療 <sup>いりょう</sup> 、補助具 <sup>ほじょぐ</sup> 、生活 <sup>せいかつ</sup> 、身 <sup>み</sup> の上 <sup>うへ</sup> 、税金 <sup>ぜいきん</sup> などの相談 <sup>そうだん</sup> を受け <sup>う</sup> けます。

問23	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----	--

(n=305)

- |           |         |       |
|-----------|---------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問24 へ | 44.6% |
| 2. 知らなかった | → 問26 へ | 49.8% |
| NA        |         | 5.6%  |

問24	<p><b>問23で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----	---

(n=136)

- |              |         |       |
|--------------|---------|-------|
| 1. 相談したことがある | → 問26 へ | 38.2% |
| 2. 相談したことがない | → 問25 へ | 58.1% |
| NA           |         | 3.7%  |

問25	<p><b>問24で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	---

(n=79)

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない           | 6.3%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい            | 1.3%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを周囲に知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない              | 3.8%  |
| 5. 相談することがない                   | 63.3% |
| 6. その他 ( )                     | 19.0% |
| NA                             | 6.3%  |

問26	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが、災害が発生したときに困ることや心配なことは何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	--

(n=305)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 避難場所を知らない                               | 9.8%  |
| 2. 避難場所まで行けない                              | 16.1% |
| 3. 緊急時に助けてくれる人がいない                         | 6.6%  |
| 4. 緊急時に情報を得る手段がない                          | 3.9%  |
| 5. 避難場所で必要なケアが受けられるか不安<br>(生活上の介助や医療・服薬など) | 31.1% |
| 6. その他 ( )                                 | 8.5%  |
| NA   | 23.9% |

とい 問27	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。       </p> <p>         ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。       </p> <p>         ①不当な差別的取扱いの禁止          …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること       </p> <p>         ②合理的配慮          …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること       </p>
-----------	--

(n = 305)

1. 公共施設を利用する場面	} → とい 問28 へ	3.0%
2. 交通機関を利用する場面		3.0%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		2.6%
4. 買い物・外食の場面		5.6%
5. 医療に関する場面		4.6%
6. 教育に関する場面		0.0%
7. 文化活動に関する場面		0.3%
8. 雇用に関する場面		1.3%
9. 婚姻・出産・子育ての場面		0.3%
10. その他 ( )		4.3%
11. 差別を感じたことはない → とい 問29 へ	63.0%	

とい 問28	<p> <b>問27で、「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10」と答えた方にお聞き          します。</b>          あなたが、<b>障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは          何ですか。</b> <b>最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</b> </p>
-----------	--

(n = 50)

1. 福祉教育を充実させる	4.0%
2. 講習会や学習会などを開催する	6.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	4.0%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	18.0%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	16.0%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	2.0%
7. 教育における配慮をさらに進める	4.0%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	4.0%
9. 障害者雇用をさらに進める	8.0%
10. その他 ( )	12.0%
NA	22.0%

とい 問29	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>  <b>障害がある人が社会生活を営む上で最も必要と考えるものは何です          か。</b> <b>最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</b> </p>
-----------	--

(n = 305)

1. 社会的な理解の促進	14.8%
2. 保険・医療の充実	9.8%
3. 雇用促進と就労支援	1.6%
4. 経済的な支援	30.5%
5. 余暇活動の充実	2.0%
6. 生活環境の整備	6.2%
7. 障害福祉サービスの充実	15.1%
8. その他 ( )	2.0%
NA	18.0%

○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きかください。

ご協力きょうりょくありがとうございました。





# 調查票 F - 1 (就学前兒童)



## 長岡市障害者生活実態調査

長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直しを行います。

この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を行います。

この調査票は、現在受けている教育（療育）段階が就学前の療育・教育段階である障害者手帳や児童通所受給者証をお持ちの方にお送りいたしました。

今回の調査で使用した個人情報は、長岡市個人情報保護条例に基づく適正な取り扱いを行います。

また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけに利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですので、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年11月 長岡市

### ご記入にあたって

- ・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人または通所支援を受けているご本人のことです。
- ・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などが代わりに記入してください。
- ・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

- ① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。
- ② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォームから回答してください。

回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）



<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)  
ファックス (0258) 39 - 2275  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

調査項目 I 及び II の両方について、お答えください。

## 調査項目 I

問 1 あなたは何歳ですか。回答欄に記入してください。

(n = 18)

( ) 歳 (令和4年8月1日現在)

3歳 16.7% 4歳 22.2% 5歳 44.4% 6歳 16.7%

問 2 あなたがお持ちの障害者手帳はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n = 18)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 11.1% |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 5.6%  |
| 3. 療育手帳A           | 22.2% |
| 4. 療育手帳B           | 61.1% |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 0.0%  |
| 6. 障害者手帳は持っていない    | 5.6%  |

問 3 あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 18)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 家族などの持ち家（一戸建て、分譲マンションなど） | 88.9% |
| 2. 賃貸アパート・マンション、借家          | 11.1% |
| 3. 入所施設                     | 0.0%  |
| 4. その他 ( )                  | 0.0%  |

問 4 あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 18)

- |            |        |
|------------|--------|
| 1. 家族      | 100.0% |
| 2. 施設入所    | 0.0%   |
| 3. その他 ( ) | 0.0%   |

問5	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
----	---

(n=18)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 44.4% |
| 2. したいと思うが、していない | 38.9% |
| 3. したいと思わない      | 16.7% |

問6	あなたは現在、スポーツをしていますか。 <u>どちらか1つ</u> の番号に○をつけてください。
----	--

(n=18)

- |          |      |        |
|----------|------|--------|
| 1. している  | →問7へ | 0.0%   |
| 2. していない | →問8へ | 100.0% |

問7	<b>問6で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
----	--

(n=0)

- |         |      |           |      |
|---------|------|-----------|------|
| 1. ほぼ毎日 | 0.0% | 2. 週に2～3回 | 0.0% |
| 3. 週に1回 | 0.0% | 4. 月に2～3回 | 0.0% |
| 5. 月に1回 | 0.0% | 6. 年に数回   | 0.0% |

問8	<b>問6で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。 <u>どちらか1つ</u> の番号に○をつけてください。
----	--

(n=18)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 77.8% |
| 2. したいと思わない | 22.2% |

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

相談窓口	内容
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域における生活の中でのさまざまな相談や福祉サービスの紹介や手続きの手伝いなどを行います。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活全般に関する相談を受け、助言や福祉サービス等の情報提供を行います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面全般にわたる支援や日常生活上の支援を行います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療、補助具、生活、身の上、税金などの相談を受けます。
長岡市子ども家庭センターこども発達相談室	就学前の子ども成長や発達に関する不安や悩みごとの相談を行います。
子ども・青少年相談センター	発達障害、不登校、学習や行動の悩み、就学などの相談を行います。
長岡市学校教育課 特別支援教育係	特別支援教育、就学などの相談を行います。

問 9	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。 <u>どちらか1つの番号に○をつけてください。</u></p>
-----	--

(n = 18)

- |           |         |       |
|-----------|---------|-------|
| 1. 知っていた  | →問 10 へ | 77.8% |
| 2. 知らなかった | →問 12 へ | 16.7% |
| NA        |         | 5.6%  |

問 10	<p><b>問 9 で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。 <u>どちらか1つの番号に○をつけてください。</u></p>
------	--

(n = 14)

- |              |         |       |
|--------------|---------|-------|
| 1. 相談したことがある | →問 12 へ | 78.6% |
| 2. 相談したことがない | →問 11 へ | 21.4% |

問 11	<p><b>問 10 で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=3)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない             | 0.0%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい              | 33.3% |
| 3. 相談窓口で相談したことを知り合いに知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない                | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                     | 66.7% |
| 6. その他 ( )                       | 0.0%  |

問 12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、希望する方に市が配付している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=18)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 知っているし、利用している  | 27.8% |
| 2. 知っているが、利用していない | 38.9% |
| 3. 知らない           | 33.3% |

問 13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
------	--

(n=18)

- |                     |         |       |
|---------------------|---------|-------|
| 1. 短期入所 (ショートステイ)   |         | 5.6%  |
| 2. 日中一時支援           | }       | 0.0%  |
| 3. ファミリー・サポート・センター  |         | 0.0%  |
| 4. 児童発達支援           |         | 55.6% |
| 5. 保育所等訪問支援         |         | 0.0%  |
| 6. その他 ( )          |         | 0.0%  |
| 7. 在宅福祉サービスを利用していない | →問 14 へ | 33.3% |
|                     | →問 16 へ |       |





問 17	<p><b>問 15 で、「3. 利用できないことがよくある」または「4. ほとんど利用できていない」と答えた方と、問 16 で、「1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることは何ですか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
------	---

(n=2)

- |                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 1. 祖父母など親以外の家族の負担が増えた       | 0.0%   |
| 2. 家族の用事をキャンセルした            | 0.0%   |
| 3. 親が仕事を辞めた、または転職した         | 0.0%   |
| 4. 親戚や近くの友人に負担をかけた          | 0.0%   |
| 5. あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった | 0.0%   |
| 6. その他 ( )                  | 100.0% |

問 18	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p> <p>※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。</p> <p>①不当な差別的取扱いの禁止 …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること</p> <p>②合理的配慮 …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること</p>
------	--

(n=18)

- |                     |   |       |
|---------------------|---|-------|
| 1. 公共施設を利用する場面      |   | 11.1% |
| 2. 交通機関を利用する場面      | } | 0.0%  |
| 3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面 |   | 5.6%  |
| 4. 買い物・外食の場面        |   | 11.1% |
| 5. 医療に関する場面         |   | 5.6%  |
| 6. 教育に関する場面         |   | 16.7% |
| 7. 文化活動に関する場面       |   | 0.0%  |
| 8. その他 ( )          |   | 5.6%  |
| 9. 差別を感じたことはない      |   | 61.1% |

→問 19 へ

問 19	<p><b>問 18 で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n = 7)

1. 福祉教育を充実させる	28.6%
2. 講習会や学習会などを開催する	0.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	14.3%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	0.0%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	14.3%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	0.0%
7. 教育における配慮をさらに進める	0.0%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	0.0%
9. 障害者雇用をさらに進める	0.0%
10. その他 ( )	14.3%
NA	28.6%

つづいて「調査項目Ⅱ」の回答をお願いします。

## 調査項目Ⅱ

問1	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのようなサービスを利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
----	--

(n=18)

1. 短期入所 (ショートステイ)	}	11.1%
2. 日中一時支援		0.0%
3. ファミリー・サポート・センター		0.0%
4. 児童発達支援		83.3%
5. 保育所等訪問支援		11.1%
6. 移動支援		0.0%
7. 居宅介護 (ホームヘルプ)		0.0%
8. その他 ( )		0.0%
9. サービスを利用していない		11.1%

→問2へ

→問3へ

問2	<p><b>問1で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>問1で答えたサービスを利用するためにどこで情報を得ましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
----	---

(n=16)

1. 医療機関	18.8%
2. 市役所	25.0%
3. 児童相談所	18.8%
4. 通所支援施設	18.8%
5. 入所施設	0.0%
6. 親の会・当事者団体	6.3%
7. 障害者相談支援センター	12.5%
8. 保育園	6.3%
9. 幼稚園	0.0%
10. 認定こども園	12.5%
11. 特別支援学校 (総合支援学校、聾学校など)	0.0%
12. 大学などの研究機関	0.0%
13. インターネット、図書雑誌など	12.5%
14. その他 ( )	31.3%

問 3	<p><b>問 1 で、「9. サービスを利用していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが現在、サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 2)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 1. 利用する必要がないから  | 100.0% |
| 2. 必要なサービスがないから | 0.0%   |
| 3. その他 ( )      | 0.0%   |

問 4	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは今後、どのようなサービスを利用したいですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 18)

- |   |       |
|---|-------|
| 1. 介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、短期間、施設に入所（宿泊）したい。                | 16.7% |
| 2. 休日や放課後（降園後）などに介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、一時的に施設に通所（日帰り）したい。 | 50.0% |
| 3. 出かけるときにホームヘルパーに付き添ってもらい、移動などを介助してもらいたい。                              | 0.0%  |
| 4. 日常生活に必要な能力を向上させたり、集団生活に適応できたりするための訓練を受けたり、地域と交流したりしたい。               | 50.0% |
| 5. 自宅にホームヘルパーに来てもらって、入浴や排泄などの身体介護を受けたい。                                 | 5.6%  |
| 6. 家族による介護が日常的に難しいため、長期間、施設に入所して生活したい。                                  | 0.0%  |
| 7. その他 ( )  | 0.0%  |





問 11	<p><b>問9で、「2.ない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが悩んでいない理由は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
------	---

(n=4)

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 日ごろから就学に関する教育相談を受けているから        | 50.0% |
| 2. 現在と同じ療育や教育の支援を受けられることができると思うから | 50.0% |
| 3. 希望する学校に入学できると思うから              | 50.0% |
| 4. 環境が変わらないから                     | 0.0%  |
| 5. 同じ学校にきょうだいが通っているので、安心感があるから    | 50.0% |
| 6. 障害のない同年齢の子どもと一緒に学べるから          | 0.0%  |
| 7. その他 ( )                        | 0.0%  |

○ 障害者施策に関して、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。





## 調查票 F - 2 (小學校段階)



# ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく しょうがいじ  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児  
ふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす らいねんど けいかく みなお  
福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直し  
おこな  
を行います。

みなお きそしりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう げんざい りょういく だんかい しょうがっこうだんかい  
この調査票は、現在受けている教育（療育）段階が小学校段階である  
しょうがいしゃてちょう じどうつうしょじゆきゆうしゃしやう も かた おく  
障害者手帳や児童通所給付者証をお持ちの方にお送りいたしました。

こんかい ちょうさ しょう きじんじやうほう ながおかし こじんじやうほう ほ ごじやうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱いを行います。

ちょうさひょう むきめい ちょうさけつか けいかく みなお  
また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りやう ちょうさもくてきいがい もち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

## きにゆう ご記入にあたって

ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん つうしょしえん う  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人または通所支援を受けて  
いるご本人のことで。

ほんにん きにゆう かいとう むずか ぼあい かぞく かた か  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などが代わりに  
きにゆう  
記入してください。

れいわ ねん がつ にちげんざい じやうきやう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちょくせつきにゆう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゆうしよ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じやう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォーム  
から回答してください。



かいとうきげん がつ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

と あ わ せ さ き ながおかしふくしほけんぶ ぶくしそむか  
<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゆう しょ ながおかしおおてどおり ちょうめ ばんち  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10

でん わ ちやくつう  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

ちょうさこうもく およ しょうほう こた  
調査項目 I 及び II の両方について、お答えください。

ちょうさこうもく  
調査項目 I

問 1	あなたは何歳ですか。回答欄に記入してください。
-----	-------------------------

(n = 52)

( ) 歳 (令和4年8月1日現在)

6歳 11.5% 7歳 15.4% 8歳 26.9% 9歳 13.5% 10歳 9.6%

11歳 13.5% 12歳 9.6%

問 2	あなたがお持ちの障害者手帳はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
-----	---

(n = 52)

- |    |                   |       |
|----|-------------------|-------|
| 1. | 身体障害者手帳総合等級 1～3 級 | 17.3% |
| 2. | 身体障害者手帳総合等級 4～6 級 | 0.0%  |
| 3. | 療育手帳 A            | 46.2% |
| 4. | 療育手帳 B            | 46.2% |
| 5. | 精神障害者保健福祉手帳 1～3 級 | 0.0%  |
| 6. | 障害者手帳は持っていない      | 7.7%  |

問 3	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
-----	---

(n = 52)

- |    |                           |       |
|----|---------------------------|-------|
| 1. | 家族などの持ち家 (一戸建て、分譲マンションなど) | 86.5% |
| 2. | 賃貸アパート・マンション、借家           | 11.5% |
| 3. | 入所施設                      | 1.9%  |
| 4. | その他 ( )                   | 0.0%  |

問 4	あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
-----	---

(n = 52)

- |    |         |       |
|----|---------|-------|
| 1. | 家族      | 98.1% |
| 2. | 施設入所    | 1.9%  |
| 3. | その他 ( ) | 0.0%  |

とい 問 5	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	---

(n = 52)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 65.4% |
| 2. したいと思うが、していない | 25.0% |
| 3. したいと思わない      | 9.6%  |

とい 問 6	あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----------	---

(n = 52)

- |          |         |       |
|----------|---------|-------|
| 1. している  | → 問 7 へ | 23.1% |
| 2. していない | → 問 8 へ | 76.9% |

とい 問 7	<p><b>問 6 で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 12)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 8.3%  | 2. 週に2～3回 | 8.3%  |
| 3. 週に1回 | 58.3% | 4. 月に2～3回 | 25.0% |
| 5. 月に1回 | 0.0%  | 6. 年に数回   | 0.0%  |

とい 問 8	<p><b>問 6 で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 40)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 62.5% |
| 2. したいと思わない | 37.5% |

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

<small>そうだんまどぐち</small> 相談窓口	<small>ないよう</small> 内容
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者相談支援センター <small>そうだんしえん</small> 相談支援センターふかさわ分室 <small>ぶんしつ</small> サンスマイル <small>しょうがいしゃ</small> 障がい者支援センターあさひ <small>こしじ</small> 越路ハイム地域生活支援センター <small>そうだんしえん</small> 相談支援センターふかさわ <small>しょうがいしゃ</small> 障害者相談支援センターとちお	<small>ちいき</small> 地域における生活 <small>せいかつ</small> の中でのさまざま <small>しょうだん</small> さまざまな相談や福祉サービスの紹介 <small>しょうがい</small> や手続きの手伝いなどを行いま <small>す</small> す。
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者地域生活支援センター <small>ながおかりょういくえん</small> 長岡療育園	<small>せいかつぜんぱん</small> 生活全般に関する相談を受け、 <small>じょげん</small> 助言や福祉サービス等の情報 <small>ていきょう</small> 提供を行います。
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者就業・生活支援センター <small>しょうがいしゃ</small> 障害者就業・生活支援センターこしじ	<small>しゅうろうめんぜんぱん</small> 就労面全般にわたる支援や日常 <small>せいかつじょう</small> 生活上の支援を行います。
<small>しんたいしょうがいしゃ</small> 身体障害者相談員・知的障害者相談員	<small>いりょう</small> 医療、補助具、生活、身の上、税金 <small>せいかつ</small> などの相談を受けます。
<small>ながおかしこ</small> 長岡市子ども家庭センター子ども発達相談室	<small>しゅうがくまえ</small> 就学前の子ども成長や発達に関 <small>ふあん</small> する不安や悩みごとの相談を行 <small>います</small> います。
<small>こ</small> 子ども・青少年相談センター	<small>はつたつしょうがい</small> 発達障害、不登校、学習や行動の <small>なや</small> 悩み、就学などの相談を行いま <small>す</small> す。
<small>ながおかしがっこうきょういくか</small> 長岡市学校教育課 <small>とくべつしえんきょういくがかり</small> 特別支援教育係	<small>とくべつしえんきょういく</small> 特別支援教育、就学などの相談 <small>おこな</small> を行います。

<small>とい</small> 問 9	<b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。 <u>どちらか</u> <u>1つの番号</u> に○をつけてください。
-----------------------	---

(n = 52)

- |           |         |       |
|-----------|---------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問10 へ | 76.9% |
| 2. 知らなかった | → 問12 へ | 23.1% |

とい 問10	<p><b>問9で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 40)

- |              |       |       |
|--------------|-------|-------|
| 1. 相談したことがある | →問12へ | 92.5% |
| 2. 相談したことがない | →問11へ | 7.5%  |

とい 問11	<p><b>問10で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 3)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない             | 0.0%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい              | 0.0%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを知り合いに知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない                | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                     | 66.7% |
| 6. その他 ( )                       | 33.3% |

とい 問12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、希望する方に市が配付している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 52)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 知っているし、利用している  | 82.7% |
| 2. 知っているが、利用していない | 11.5% |
| 3. 知らない           | 5.8%  |

とい 問13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	--

(n=52)

- |                     |   |       |       |
|---------------------|---|-------|-------|
| 1. 短期入所 (ショートステイ)   | } | →問14へ | 1.9%  |
| 2. 日中一時支援           |   |       | 5.8%  |
| 3. 総合支援学校放課後サポート事業  |   |       | 11.5% |
| 4. 放課後児童クラブ         |   |       | 9.6%  |
| 5. ファミリー・サポート・センター  |   |       | 0.0%  |
| 6. 放課後等デイサービス       |   |       | 67.3% |
| 7. その他 ( )          |   |       | 3.8%  |
| 8. 在宅福祉サービスを利用していない | } | →問16へ | 19.2% |

とい 問14	<p><b>問13で、「1、2、3、4、5、6、7」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような理由で在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	---

(n=42)

1. 親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから 42.9%
2. 親以外に面倒を見てくれる家族がいないから 26.2%
3. 家族が体調不良または高齢のために面倒を見てもらうことができないから 11.9%
4. ときどき家族に休息をとってもらうため (介護負担の軽減) 19.0%
5. 自分の障害が重くて介護してもらうのが大変だから 7.1%
6. 冠婚葬祭などで家族が不在になるから 2.4%
7. 集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため 47.6%
8. その他 ( ) 0.0%



とい 問15	<p>問13で、「1、2、3、4、5、6、7」と答えた方にお聞きします。</p> <p>在宅福祉サービスは十分に利用できていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 42)

1. 十分に利用できている	} → 問18 へ	35.7%
2. おおむね利用できている		38.1%
3. 利用できないことがよくある	} → 問17 へ	4.8%
4. ほとんど利用できていない		4.8%
NA		16.7%

とい 問16	<p>問13で、「8. 在宅福祉サービスを利用していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが在宅福祉サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 10)

1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから	} → 問18 へ	→ 問17 へ	10.0%
2. 在宅福祉サービスを利用する必要がないから (施設入所している方も含みます)		80.0%	
3. 在宅福祉サービスがあることを知らなかったから		10.0%	

とい 問17	<p>問15で、「3. 利用できないことがよくある」または「4. ほとんど利用できていない」と答えた方と、問16で、「1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから」と答えた方にお聞きします。</p> <p>在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることは何ですか。あてはまる番号<u>すべて</u>に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 5)

1. 祖父母など親以外の家族の負担が増えた	20.0%
2. 家族の用事をキャンセルした	40.0%
3. あなたが学校を休んだ	0.0%
4. 親が仕事を辞めた、または転職した	0.0%
5. 親戚や近くの友人に負担をかけた	20.0%
6. あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった	0.0%
7. その他 ( )	0.0%

とい 問18	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。</p> <p>※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。</p> <p>①不当な差別的取扱いの禁止 …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること</p> <p>②合理的配慮 …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること</p>

(n=52)

1. 公共施設を利用する場面	} → とい 問19へ	13.5%
2. 交通機関を利用する場面		5.8%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		3.8%
4. 買い物・外食の場面		17.3%
5. 医療に関する場面		9.6%
6. 教育に関する場面		15.4%
7. 文化活動に関する場面		7.7%
8. その他 ( )		5.8%
9. 差別を感じたことはない		57.7%

とい 問19	<p><b>問18で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に<u>1つだけ○をつけて</u>ください。</p>

(n=22)

1. 福祉教育を充実させる	27.3%
2. 講習会や学習会などを開催する	9.1%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	4.5%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	4.5%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	4.5%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	0.0%
7. 教育における配慮をさらに進める	9.1%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	9.1%
9. 障害者雇用をさらに進める	4.5%
10. その他 ( )	0.0%
NA	27.3%

つづいて「調査項目Ⅱ」の回答をお願いします。

ちょうさこうもく  
調査項目Ⅱ

問い 問 1	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたが現在、在籍している学校・学級はどれですか。あてはまる番号に  <u>1つだけ○をつけてください。</u></p>
-----------	---

(n = 52)

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 小学校の通常学級                       | 0.0%  |
| 2. 小学校の通常学級と通級による指導               | 0.0%  |
| 3. 小学校の特別支援学級                     | 55.8% |
| 4. 特別支援学校小学部 (総合支援学校小学部、聾学校小学部など) | 44.2% |
| 5. その他 ( )                        | 0.0%  |

問い 問 2	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたが現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u>          について、以下の問にお答えください。</p>
-----------	---

(1)	<p>現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u>が          ありますか。<u>どちらか1つの番号</u>に○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 52)

- |         |           |       |
|---------|-----------|-------|
| 1. ある → | 問 2 (2) へ | 11.5% |
| 2. ない → | 問 3 へ     | 88.5% |

(2)	<p>在籍していた学校・学級はどれですか。あてはまる番号に<u>1つだけ○</u>          をつけてください。在籍していた学校・学級が複数ある場合は、現在、          在籍している学校・学級の<u>一つ前</u>に在籍していた学校・学級にあて          はまる番号に○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 6)

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 小学校の通常学級                       | 16.7% |
| 2. 小学校の通常学級と通級による指導               | 16.7% |
| 3. 小学校の特別支援学級                     | 33.3% |
| 4. 特別支援学校小学部 (総合支援学校小学部、聾学校小学部など) | 33.3% |
| 5. その他 ( )                        | 0.0%  |





問7	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは今後、どのようなサービスを利用したいですか。あてはまる番号 すべてに○をつけてください。</p>
----	---

(n=52)

1. 介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、短期間、施設に入所（宿泊）したい。 26.9%
2. 休日や放課後（降園後）などに介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、一時的に通所（日帰り）したい。 44.2%
3. 出かけるときにホームヘルパーに付き添ってもらい、移動などを介助してもらいたい。 7.7%
4. 日常生活に必要な能力を向上させたり、集団生活に適応できたりするための訓練を受けたり、地域と交流したりしたい。 65.4%
5. 自宅にホームヘルパーに来てもらって、入浴や排泄などの身体介護を受けたい。 1.9%
6. 家族による介護が日常的に難しいため、長期間、施設に入所して生活したい。 3.8%
7. その他（ ） 5.8%

問8	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、日常生活における相談や支援について、普段どこに相談していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
----	---

(n=52)

1. 医療機関 50.0%
2. 市役所 5.8%
3. 児童相談所 3.8%
4. 通所支援施設 38.5%
5. 入所施設 3.8%
6. 親の会・当事者団体 11.5%
7. 障害者相談支援センター 15.4%
8. 小学校 38.5%
9. 特別支援学校（総合支援学校、聾学校など） 34.6%
10. 大学などの研究機関 0.0%
11. その他（ ） 7.7%

とい 問 9	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたの「<b>個別の教育支援計画</b>」(※1)または「<b>個別の指導計画</b>」(※2)は作成されていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p> <p>※1「<b>個別の教育支援計画</b>」とは、福祉・医療等の関係機関との連携を図り、長期にわたって教育的支援を行うための計画をいいます。</p> <p>※2「<b>個別の指導計画</b>」とは、児童生徒の実態に応じて長期目標や短期目標を設定し、実態に即した指導を行うために、指導内容や指導方法、評価等を明らかにした計画をいいます。</p>
-----------	---

(n = 52)

- |                                  |            |       |
|----------------------------------|------------|-------|
| 1. 「個別の教育支援計画」のみが作成されている         | }          | 1.9%  |
| 2. 「個別の指導計画」のみが作成されている           |            | 21.2% |
| 3. 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている | } → とい問10へ | 73.1% |
| 4. 作成されていない → とい問11へ             |            | 1.9%  |
| NA                               |            | 1.9%  |

とい 問10	<p>問9で、「1. 「<b>個別の教育支援計画</b>」のみが作成されている」または「2. 「<b>個別の指導計画</b>」のみが作成されている」、「3. 「<b>個別の教育支援計画</b>」と「<b>個別の指導計画</b>」が作成されている」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたの「<b>個別の教育支援計画</b>」または「<b>個別の指導計画</b>」の作成にあたり、学校とどれくらい話し合いましたか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 50)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 年に2回以上話し合った | 82.0% |
| 2. 年に1回話し合った   | 14.0% |
| 3. 話し合っていない    | 2.0%  |
| NA             | 2.0%  |

とい 問11	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>中学校段階の進学先として、どこを考えていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 52)

- |                                      |       |
|--------------------------------------|-------|
| 1. 中学校の通常学級                          | 1.9%  |
| 2. 中学校の通常学級での通級による指導                 | 0.0%  |
| 3. 中学校の特別支援学級                        | 34.6% |
| 4. 特別支援学校 中学部 (総合支援学校 中学部、聾学校 中学部など) | 57.7% |
| 5. その他 ( )                           | 5.8%  |

問12	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>問11 で答えた学校を進学先として考える理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 52)

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 一人ひとりのニーズにあった教育支援が受けられるから | 67.3% |
| 2. 担任や学校のすすめにより              | 3.8%  |
| 3. 本人が希望しているから               | 7.7%  |
| 4. 親が希望しているから                | 53.8% |
| 5. 障害に理解のある先生がいるから           | 34.6% |
| 6. 仲のよい友だちと同じ学校に通えるから        | 9.6%  |
| 7. 同じ学校にきょうだいが通っているから        | 3.8%  |
| 8. 地域との結びつきがあるから             | 11.5% |
| 9. 通学が便利だから                  | 23.1% |
| 10. その他 ( )                  | 9.6%  |

問13	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>進学先を選択するにあたって悩んでいることはありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 52)

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 1. ある | →問14へ | 42.3% |
| 2. ない | →問16へ | 57.7% |

問14	<p>問13で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが悩んでいる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 22)

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 1. 進路が決まっていないから        | 40.9% |
| 2. 自分の適性がわからないから       | 50.0% |
| 3. 希望する進路先についての情報がないから | 22.7% |
| 4. 相談にのってくれる人がいないから    | 4.5%  |
| 5. 勉強についていけるかどうか心配だから  | 59.1% |
| 6. 進路について家族と意見が合わないから  | 0.0%  |
| 7. 進路について先生と意見が合わないから  | 0.0%  |
| 8. 進路先へ通う手段がないから       | 0.0%  |
| 9. その他 ( )             | 18.2% |



とい 問15	<p>とい 問13で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。</p> <p>がっこうでもっと指導してほしかった（これから指導してほしい）こと、または学校に対する要望は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	---

(n = 22)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 上級学校訪問などの体験学習              | 22.7% |
| 2. ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習 | 9.1%  |
| 3. 学校の先生の助言                   | 31.8% |
| 4. 進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談         | 40.9% |
| 5. 希望している進路先に関する情報の収集         | 59.1% |
| 6. 学校の先生の進路指導についての理解          | 18.2% |
| 7. その他 ( )                    | 4.5%  |

とい 問16	<p>とい 問13で、「2. ない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが悩んでいない理由は何ですか。あてはまる番号に<u>1つだけ○をつけてください。</u></p>
-----------	--

(n = 30)

- |                       |          |       |
|-----------------------|----------|-------|
| 1. 進路が決まっているから        | } → 問17へ | 26.7% |
| 2. 自分の適性がわかっているから     |          | 20.0% |
| 3. 学校が進路先を決めてくれると思うから |          | 0.0%  |
| 4. 家族が進路先を決めてくれると思うから |          | 10.0% |
| 5. 進路を決めるまでにまだ時間があるから |          | 16.7% |
| 6. その他 ( )            |          | 6.7%  |
| NA                    |          | 20.0% |

とい 問17	<p>とい 問16で、「1. 進路が決まっているから」または「2. 自分の適性がわかっているから」と答えた方にお聞きします。</p> <p>進学先が決まったり、自分の適性がわかったきっかけは何ですか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	--

(n = 14)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 上級学校訪問などの体験学習              | 14.3% |
| 2. 学校の先生の助言                   | 42.9% |
| 3. 家族の助言                      | 71.4% |
| 4. 卒業生の体験談と助言                 | 0.0%  |
| 5. 進路相談に詳しい外部専門家の巡回相談         | 0.0%  |
| 6. ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習 | 7.1%  |
| 7. その他 ( )                    | 0.0%  |

○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きかください。

ご協力きょうりょくありがとうございました。

## 調查票 F－3（中学校段階）



# ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく しょうがいじ  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児  
ふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす らいねんど けいかく みなお  
福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直し  
おこな  
を行います。

みなお きそしりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう げんざい しょういく りょういく だんかい ちゅうがっこうだんかい  
この調査票は、現在受けている教育（療育）段階が中学校段階である  
しょうがいしゃでちょう じどうつうしょじゆきゆうしゃしやう も かた おく  
障害者手帳や児童通所給付者証をお持ちの方にお送りいたしました。

こんかい ちょうさ しょう きじんじやうほう ながおかし こじんじやうほう ほ ごじやうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱いを行います。

ちょうさひょう むきめい ちょうさけつか けいかく みなお  
また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りやう ちょうさもくてきいがいもち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

## きにゆう ご記入にあたって

ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん つうしょしえん う  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人または通所支援を受けて  
いるご本人のことです。

ほんにん きにゆう かいとう むずか ぼあい かぞく かた か  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などが代わりに  
きにゆう  
記入してください。

れいわ ねん がつ にちげんざい じやうきやう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちやくせつきにゆう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゆうしよ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じやう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォーム  
から回答してください。

かいとうきげん がつ にち ようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）



と あ わ せ さ き  
<問い合わせ先> ながおかしふくしほけんぶ 長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゆう しょ ながおかしおおてどおり ちょうめ ばんち  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10

でん 話 (0258) 39 - 2371 (直通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし 電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

ちょうさこうもく およ しょうほう こた  
調査項目 I 及び II の両方について、お答えください。

ちょうさこうもく  
調査項目 I

とい 問 1 あなたは何歳ですか。回答欄に記入してください。

(n=44)

( ) 歳 (令和4年8月1日現在)

12歳 27.3% 13歳 34.1% 14歳 20.5% 15歳 18.2%

とい 問 2 あなたがお持ちの障害者手帳はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n=44)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 6.8%  |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 0.0%  |
| 3. 療育手帳A           | 43.2% |
| 4. 療育手帳B           | 52.3% |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 0.0%  |
| 6. 障害者手帳は持っていない    | 2.3%  |

とい 問 3 あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n=44)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 家族などの持ち家(一戸建て、分譲マンションなど) | 93.2% |
| 2. 賃貸アパート・マンション、借家          | 4.5%  |
| 3. 入所施設                     | 2.3%  |
| 4. その他( )                   | 0.0%  |

とい 問 4 あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n=44)

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 家族     | 97.7% |
| 2. 施設入所   | 2.3%  |
| 3. その他( ) | 0.0%  |

とい 問 5	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	---

(n=44)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 70.5% |
| 2. したいと思うが、していない | 22.7% |
| 3. したいと思わない      | 6.8%  |

とい 問 6	あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----------	---

(n=44)

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. している →問7へ  | 25.0% |
| 2. していない →問8へ | 72.7% |
| NA            | 2.3%  |

とい 問 7	問6で、「1. している」と答えた方にお聞きします。 あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	---

(n=11)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 18.2% | 2. 週に2～3回 | 27.3% |
| 3. 週に1回 | 27.3% | 4. 月に2～3回 | 9.1%  |
| 5. 月に1回 | 9.1%  | 6. 年に数回   | 9.1%  |

とい 問 8	問6で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。 あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----------	--

(n=32)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 59.4% |
| 2. したいと思わない | 37.5% |
| NA          | 3.1%  |

★ 次の表をご覧ください。その後、質問にお答えください。

相談窓口 そうだんまどぐち	内容 ないよう
障害者相談支援センター 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル 障がい者支援センターあさひ 越路ハイム地域生活支援センター 相談支援センターふかさわ 障害者相談支援センターとちお	地域における生活の中でのさまざまな相談や福祉サービスの紹介や手続きの手伝いなどを行います。
障害者地域生活支援センター 長岡療育園	生活全般に関する相談を受け、助言や福祉サービス等の情報を提供を行います。
障害者就業・生活支援センター 障害者就業・生活支援センターこしじ	就労面全般にわたる支援や日常生活上の支援を行います。
身体障害者相談員・知的障害者相談員	医療、補助具、生活、身の上、税金などの相談を受けます。
長岡市子ども家庭センター子ども発達相談室	就学前の子ども成長や発達に関する不安や悩みごとの相談を行います。
子ども・青少年相談センター	発達障害、不登校、学習や行動の悩み、就学などの相談を行います。
長岡市学校教育課 特別支援教育係	特別支援教育、就学などの相談を行います。

問 9	<b>すべての方にお聞きします。</b> あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----	---

(n = 44)

- |           |        |       |
|-----------|--------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問10へ | 77.3% |
| 2. 知らなかった | → 問12へ | 22.7% |



とい 問10	<p><b>問9で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=34)

- |              |       |       |
|--------------|-------|-------|
| 1. 相談したことがある | →問12へ | 88.2% |
| 2. 相談したことがない | →問11へ | 11.8% |

とい 問11	<p><b>問10で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=4)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない             | 25.0% |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい              | 0.0%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを知り合いに知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない                | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                     | 75.0% |
| 6. その他 ( )                       | 0.0%  |

とい 問12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、希望する方に市が配付している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=44)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 知っているし、利用している  | 75.0% |
| 2. 知っているが、利用していない | 15.9% |
| 3. 知らない           | 9.1%  |

とい 問13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	--

(n=44)

- |    |                  |         |       |
|----|------------------|---------|-------|
| 1. | 短期入所 (ショートステイ)   | }       | 4.5%  |
| 2. | 日中一時支援           |         | 6.8%  |
| 3. | 総合支援学校放課後サポート事業  |         | 6.8%  |
| 4. | ファミリー・サポート・センター  | → とい14へ | 0.0%  |
| 5. | 放課後等デイサービス       |         | 52.3% |
| 6. | その他 ( )          |         | 2.3%  |
| 7. | 在宅福祉サービスを利用していない | → とい16へ | 40.9% |

とい 問14	<p><b>問13で、「1、2、3、4、5、6」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような理由で在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけてください。</u></p>
-----------	---

(n=26)

- |    |                                   |  |       |
|----|-----------------------------------|--|-------|
| 1. | 親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから     |  | 50.0% |
| 2. | 親以外に面倒を見てくれる家族がないから               |  | 30.8% |
| 3. | 家族が体調不良または高齢のために面倒を見てもらうことができないから |  | 11.5% |
| 4. | ときどき家族に休息をとってもらうため (介護負担の軽減)      |  | 19.2% |
| 5. | 自分の障害が重くて介護してもらうのが大変だから           |  | 7.7%  |
| 6. | 冠婚葬祭などで家族が不在になるから                 |  | 0.0%  |
| 7. | 集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため      |  | 65.4% |
| 8. | その他 ( )                           |  | 3.8%  |

とい 問15	<p><b>問13で、「1、2、3、4、5、6」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>在宅福祉サービスは十分に利用できていますか。あてはまる番号に<u>1つだけ○をつけてください。</u></p>
-----------	--

(n=26)

- |    |               |         |       |
|----|---------------|---------|-------|
| 1. | 十分に利用できている    | }       | 42.3% |
| 2. | おおむね利用できている   | → とい18へ | 34.6% |
| 3. | 利用できないことがよくある | }       | 11.5% |
| 4. | ほとんど利用できていない  | → とい17へ | 0.0%  |
|    | NA            |         | 11.5% |

とい 問16	とい 問13 で、「7. 在宅福祉サービスを利用していない」と答えた方にお聞き します。 あなたが在宅福祉サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる 番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	---

(n = 18)

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから              | → とい<br>問17 へ<br>5.6%  |
| 2. 在宅福祉サービスを利用する必要がないから<br>(施設入所している方も含みます) | } とい<br>問18 へ<br>77.8% |
| 3. 在宅福祉サービスがあることを知らなかったから                   | } 5.6%                 |
| NA  | 11.1%                  |

とい 問17	とい 問15 で、「3. 利用できないことがよくある」または「4. ほとんど利用で きていない」と答えた方と、問16 で、「1. 在宅福祉サービスを利用した いが、十分に利用できないから」と答えた方にお聞きします。 在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることは何ですか。あてはま る番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	---

(n = 4)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 祖父母など親以外の家族の負担が増えた       | 50.0% |
| 2. 家族の用事をキャンセルした            | 50.0% |
| 3. あなたが学校を休んだ               | 25.0% |
| 4. 親が仕事を辞めた、または転職した         | 25.0% |
| 5. 親戚や近くの友人に負担をかけた          | 0.0%  |
| 6. あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった | 0.0%  |
| 7. その他 ( )                  | 0.0%  |

とい 問18	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。       </p> <p>         ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。       </p> <p>         ①不当な差別的取扱いの禁止          …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること       </p> <p>         ②合理的配慮          …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること       </p>
-----------	--

(n = 44)

1. 公共施設を利用する場面	} → とい 問19 へ	15.9%
2. 交通機関を利用する場面		6.8%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面		9.1%
4. 買い物・外食の場面		13.6%
5. 医療に関する場面		2.3%
6. 教育に関する場面		29.5%
7. 文化活動に関する場面		13.6%
8. その他 ( )		2.3%
9. 差別を感じたことはない		47.7%

とい 問19	<p>問18で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=23)

1. 福祉教育を充実させる	8.7%
2. 講習会や学習会などを開催する	0.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	0.0%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	8.7%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	4.3%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	0.0%
7. 教育における配慮をさらに進める	26.1%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	8.7%
9. 障害者雇用をさらに進める	13.0%
10. その他 ( )	0.0%
NA	30.4%

つづいて「調査項目Ⅱ」の回答をお願いします。

ちょうさこうもく  
調査項目Ⅱ

とい 問 1	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたが現在、在籍している学校・学級はどれですか。あてはまる番号に  <u>1つだけ○をつけてください。</u></p>
-----------	---

(n=44)

- |                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| 1. 中学校の通常学級                       | 2. 3%  |
| 2. 中学校の通常学級と通級による指導               | 9. 1%  |
| 3. 中学校の特別支援学級                     | 34. 1% |
| 4. 特別支援学校中学部 (総合支援学校中学部、聾学校中学部など) | 54. 5% |
| 5. その他 ( )                        | 0. 0%  |

とい 問 2	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          小学校段階についてお聞きします。あなたが小学校段階において在籍し          ていた学校・学級はどれですか。あてはまる番号に<u>1つだけ○をつけて</u>          ください。在籍していた学校・学級が複数ある場合は、小学校段階にお          いて卒業時に在籍していた学校・学級にあてはまる番号に○をつけてく          ださい。</p>
-----------	--

(n=44)

- |                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| 1. 小学校の通常学級                       | 0. 0%  |
| 2. 小学校の通常学級と通級による指導               | 15. 9% |
| 3. 小学校の特別支援学級                     | 43. 2% |
| 4. 特別支援学校小学部 (総合支援学校小学部、聾学校小学部など) | 38. 6% |
| 5. その他 ( )                        | 0. 0%  |
| NA                                | 2. 3%  |

とい 問 3	<p><b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたが現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u>          について、以下の問にお答えください。</p>
-----------	---

(1)	<p>現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u>が          ありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----	--

(n=44)

- |       |   |                 |        |
|-------|---|-----------------|--------|
| 1. ある | → | とい<br>問 3 (2) へ | 20. 5% |
| 2. ない | → | とい<br>問 4 へ     | 79. 5% |

(2) <sup>ざいせき</sup>在籍していた学校・<sup>がっこう</sup>学級はどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n=9)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. <sup>ちゅうがっこう</sup> 中学校の <sup>つうじょうがっきゅう</sup> 通常学級  | 0.0%  |
| 2. <sup>ちゅうがっこう</sup> 中学校の <sup>つうじょうがっきゅう</sup> 通常学級と <sup>つうきゅう</sup> 通級による <sup>しどう</sup> 指導                      | 33.3% |
| 3. <sup>ちゅうがっこう</sup> 中学校の <sup>とくべつしえんがっきゅう</sup> 特別支援学級  | 11.1% |
| 4. <sup>とくべつしえんがっこうちゅうがくぶ</sup> 特別支援学校中学部（ <sup>そうごうしえんがっこうちゅうがくぶ</sup> 総合支援学校中学部、 <sup>ろうがっこうちゅうがくぶ</sup> 聾学校中学部など） | 22.2% |
| 5. その他（<br>NA  | 22.2% |
|  | 11.1% |

問4 <sup>かた</sup>すべての方にお聞きします。  
あなたが<sup>げんざい</sup>現在、<sup>ざいせき</sup>在籍している学校・<sup>がっこう</sup>学級に通うことになったきっかけは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n=44)

- |   |       |
|---|-------|
| 1. <sup>りよう</sup> 利用していた <sup>しせつ</sup> 施設や <sup>きかん</sup> 機関で <sup>しょうかい</sup> 紹介された   | 9.1%  |
| 2. <sup>いりようきかん</sup> 医療機関に <sup>しょうかい</sup> 紹介された  | 4.5%  |
| 3. <sup>おや</sup> 親の会・ <sup>とうじしゃだんたい</sup> 当事者団体で <sup>しょうかい</sup> 紹介された  | 0.0%  |
| 4. <sup>ほんにん</sup> 本人が <sup>きぼう</sup> 希望した  | 13.6% |
| 5. <sup>おや</sup> 親が <sup>じょうほう</sup> 情報を <sup>あつ</sup> 集めて <sup>きぼう</sup> 希望した  | 61.4% |
| 6. <sup>しょうがっこう</sup> 小学校の <sup>たんにん</sup> 担任の先生や <sup>せんせい</sup> 特別支援 <sup>とくべつしえんきょういく</sup> 教育コーディネーターなどの <sup>じょげん</sup> 助言                       | 43.2% |
| 7. <sup>いぜん</sup> 以前、 <sup>ざいせき</sup> 在籍していた学校（ <sup>がっこう</sup> 学級）の <sup>べんきょう</sup> 勉強についていけなかった  | 11.4% |
| 8. <sup>いぜん</sup> 以前、 <sup>ざいせき</sup> 在籍していた学校（ <sup>がっこう</sup> 学級）では <sup>にんげんかんけい</sup> 人間関係がうまくいかなかった  | 4.5%  |
| 9. <sup>いぜん</sup> 以前、 <sup>ざいせき</sup> 在籍していた学校（ <sup>がっこう</sup> 学級）では <sup>きょういん</sup> 教員の <sup>りかい</sup> 理解が足りなかった                                   | 6.8%  |
| 10. <sup>いぜん</sup> 以前、 <sup>ざいせき</sup> 在籍していた学校（ <sup>がっこう</sup> 学級）では <sup>がっこう</sup> 学校と <sup>かんけいきかん</sup> 関係機関との <sup>れんけい</sup> 連携がうまくいかなかった     | 2.3%  |
| 11. <sup>いぜん</sup> 以前、 <sup>ざいせき</sup> 在籍していた学校（ <sup>がっこう</sup> 学級）と同じ <sup>おな</sup> 地域の <sup>ちいき</sup> 学校の <sup>がっこう</sup> 学校で <sup>まな</sup> 学んだかった | 15.9% |
| 12. その他（  | 9.1%  |

とい 問 5	<p><b>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、どのようなサービスを利用していますか。あてはまる番号 すべてに○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 44)

1. 短期入所 (ショートステイ)	4.5%
2. 日中一時支援	9.1%
3. 総合支援学校放課後サポート事業	9.1%
4. ファミリー・サポート・センター	2.3%
5. 放課後等デイサービス	56.8%
6. 施設入所	0.0%
7. 移動支援	0.0%
8. 居宅介護 (ホームヘルプ)	0.0%
9. その他 ( )	4.5%
10. サービスを利用していない →問 7へ	38.6%

→問 6へ

とい 問 6	<p><b>問 5で、「2、3、4、5、6、7、8、9」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>問 5で答えたサービスを利用するためにどこで情報を得ましたか。あて はまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 27)

1. 医療機関	14.8%
2. 市役所	14.8%
3. 児童相談所	0.0%
4. 通所支援施設	14.8%
5. 入所施設	0.0%
6. 親の会・当事者団体	18.5%
7. 障害者相談支援センター	29.6%
8. 保育園、幼稚園、認定こども園	7.4%
9. 小学校	7.4%
10. 中学校	3.7%
11. 特別支援学校 (総合支援学校、聾学校など)	18.5%
12. 大学などの研究機関	0.0%
13. インターネット、図書雑誌など	0.0%
14. その他 ( )	14.8%



問 7	<p>問5で、「10. サービスを利用していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが現在、サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 17)

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. サービスを利用する必要がないから | 70.6% |
| 2. 必要なサービスがないから     | 11.8% |
| 3. その他 ( )          | 17.6% |

問 8	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは今後、どのようなサービスを利用したいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 44)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、短期間、施設に入所（宿泊）したい。               | 38.6% |
| 2. 休日や放課後（降園後）などに介護をしてくれる家族などに用事があるときや家族などの病気や休養のため、一時的に施設に通所（日帰り）したい。 | 40.9% |
| 3. 出かけるときにホームヘルパーに付き添ってもらい、移動などを介助してもらいたい。                             | 18.2% |
| 4. 日常生活に必要な能力を向上させたり、集団生活に適応できたりするための訓練を受けたり、地域と交流したりしたい。              | 70.5% |
| 5. 自宅にホームヘルパーに来てもらって、入浴や排泄などの身体介護を受けたい。                                | 2.3%  |
| 6. 家族による介護が日常的に難しいため、長期間、施設に入所して生活したい。                                 | 4.5%  |
| 7. その他 ( )   | 9.1%  |



とい 問11	とい 問10で、「1.「個別の教育支援計画」のみが作成されている」または「2.「個別の指導計画」のみが作成されている」、「3.「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」と答えた方にお聞きします。 あなたの「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」の作成にあたり、学校とどれくらい話し合いましたか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	--

(n = 42)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 年に2回以上話し合った | 83.3% |
| 2. 年に1回話し合った   | 14.3% |
| 3. 話し合っていない    | 2.4%  |

とい 問12	すべての方にお聞きします。 卒業後の進路先として、どこを考えていますか。あてはまる番号 <u>1</u> つに○をつけてください。
-----------	--

(n = 44)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 全日制高校                         | 4.5%  |
| 2. 定時制高校                         | 0.0%  |
| 3. 通信制高校                         | 2.3%  |
| 4. 特別支援学校高等部 (高等総合支援学校、聾学校高等部など) | 90.9% |
| 5. 高等専門学校 (高専)                   | 0.0%  |
| 6. テクノスクール                       | 0.0%  |
| 7. 就職                            | 0.0%  |
| 8. 通所施設                          | 0.0%  |
| 9. 入所施設                          | 0.0%  |
| 10. その他 ( )                      | 2.3%  |

とい 問13	<p style="text-align: center;"><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>問12 で答えた学校等を進路先として考える理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 44)

- |     |                           |       |
|-----|---------------------------|-------|
| 1.  | 一人ひとりのニーズにあった教育支援が受けられるから | 54.5% |
| 2.  | 担任や学校のすすめにより              | 18.2% |
| 3.  | 本人が希望しているから               | 20.5% |
| 4.  | 親が希望しているから                | 50.0% |
| 5.  | 相談機関のすすめにより               | 2.3%  |
| 6.  | 障害に理解のある先生がいるから           | 45.5% |
| 7.  | 仲のよい友だちと同じ学校に通えるから        | 13.6% |
| 8.  | 同じ学校にきょうだい通っているから         | 0.0%  |
| 9.  | 地域との結びつきがあるから             | 6.8%  |
| 10. | 通学が便利だから                  | 2.3%  |
| 11. | その他 ( )                   | 9.1%  |

とい 問14	<p style="text-align: center;"><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>進路先を選択するにあたって悩んでいることはありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 44)

- |    |    |       |       |
|----|----|-------|-------|
| 1. | ある | →問15へ | 47.7% |
| 2. | ない | →問17へ | 52.3% |

とい 問15	<p>とい 問14で、「1.ある」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが悩んでいる理由は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。</p>
-----------	---

(n = 21)

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 1. 進路が決まっていないから        | 42.9% |
| 2. 自分の適性がわからないから       | 33.3% |
| 3. 希望する進路先についての情報が無いから | 33.3% |
| 4. 相談にのってくれる人がいないから    | 23.8% |
| 5. 勉強についていけるかどうか心配だから  | 33.3% |
| 6. 進路について家族と意見が合わないから  | 9.5%  |
| 7. 進路について先生と意見が合わないから  | 4.8%  |
| 8. 進路先に通う手段がないから       | 28.6% |
| 9. その他 ( )             | 33.3% |

とい 問16	<p>とい 問14で、「1.ある」と答えた方にお聞きします。</p> <p>学校でもっと指導してほしかった（これから指導してほしい）こと、または学校に対する要望は何ですか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。</p>
-----------	--

(n = 21)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 上級学校訪問や就業体験などの体験学習         | 52.4% |
| 2. ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習 | 28.6% |
| 3. 学校の先生の助言                   | 19.0% |
| 4. 進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談         | 47.6% |
| 5. 希望している進路先に関する情報の収集         | 42.9% |
| 6. 学校の先生の進路指導についての理解          | 28.6% |
| 7. その他 ( )                    | 0.0%  |

とい 問17	<p>とい 問14で、「2. ない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが悩んでいない理由は何ですか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 23)

- |    |                    |       |
|----|--------------------|-------|
| 1. | 進路が決まっているから        | 34.8% |
| 2. | 自分の適性がわかっているから     | 13.0% |
| 3. | 学校が進路先を決めてくれると思うから | 0.0%  |
| 4. | 家族が進路先を決めてくれると思うから | 26.1% |
| 5. | 進路を決めるまでにまだ時間があるから | 13.0% |
| 6. | その他 ( )            | 0.0%  |
|    | NA                 | 13.0% |

とい 問18	<p>とい 問17で、「1. 進路が決まっているから」または「2. 自分の適性がわかっているから」と答えた方にお聞きします。</p> <p>進学先が決まったり、自分の適性がわかったきっかけは何ですか。あてはまる番号<u>すべて</u>に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 11)

- |    |                            |       |
|----|----------------------------|-------|
| 1. | 上級学校訪問などの体験学習              | 18.2% |
| 2. | 学校の先生の助言                   | 36.4% |
| 3. | 家族の助言                      | 45.5% |
| 4. | 卒業生の体験談と助言                 | 9.1%  |
| 5. | 進路相談に詳しい外部専門家の巡回相談         | 0.0%  |
| 6. | ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習 | 0.0%  |
| 7. | その他 ( )                    | 36.4% |

○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きください。

ご協力きょうりょくありがとうございました。





## 調査票 F - 4 (高等学校段階)



# ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし ちょうさひょう  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児  
ふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす  
福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直し  
おこな  
を行います。

みなお きそしりょう  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう げんざい う きょういく りょういく だんかい こうとうがっこうだんかい  
この調査票は、現在受けている教育（療育）段階が高等学校段階である  
しょうがいしゃてちょう じどうつうしょじゆきゆうしゃしやう も かた おく  
障害者手帳や児童通所受給者証をお持ちの方にお送りいたしました。

こんかい ちょうさ しょう きじんじやうほう ながおかし こじんじやうほう ほ ごじやうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱を行います。

また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りやう ちょうさもくてきいがいもち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

## きにゆう ご記入にあたって

ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん つうしょしえん う  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人または通所支援を受けて  
いるご本人のことで。

ほんにん きにゆう かいとう むざか ぼあい かぞく かた か  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などが代わりに  
きにゆう  
記入してください。

れいわ ねん がつ にちげんざい じやうきやう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つから**どちらか1つ**を選択してください。

ちょうさひょう ちょくせつきにゆう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゆうしよ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じやう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォーム  
から回答してください。



かいとうきげん がつ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）

と あ さき  
<問い合わせ先>

ながおかしふくしほけんぶ ふくしそむか  
長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゆう しょ ながおかしおとどおり ちょうめ ばんち  
住所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10

でん ちやくつう  
電話 (0258) 39 - 2371 (直通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

ちょうさこうもく およ しょうぼう こと  
調査項目 I 及び II の両方について、お答えください。

ちょうさこうもく  
調査項目 I

とい 問 1 あなたは何歳ですか。回答欄に記入してください。

(n = 45)

( ) さい (令和4年8月1日現在)

14歳 2.2% 15歳 17.8% 16歳 42.2% 17歳 35.6% 18歳 2.2%

とい 問 2 あなたがお持ちの障害者手帳はありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n = 45)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 8.9%  |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 0.0%  |
| 3. 療育手帳A           | 22.2% |
| 4. 療育手帳B           | 75.6% |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 0.0%  |
| 6. 障害者手帳は持っていない    | 2.2%  |

とい 問 3 あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 45)

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1. 家族などの持ち家 (一戸建て、分譲マンションなど) | 75.6% |
| 2. 賃貸アパート・マンション、借家           | 24.4% |
| 3. 入所施設                      | 0.0%  |
| 4. その他 ( )                   | 0.0%  |

とい 問 4 あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(n = 45)

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| 1. 家族              | 100.0% |
| 2. 自分ひとり (施設入所を含む) | 0.0%   |
| 3. その他 ( )         | 0.0%   |

問5	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
----	---

(n=45)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 77.8% |
| 2. したいと思うが、していない | 11.1% |
| 3. したいと思わない      | 11.1% |

問6	あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
----	---

(n=45)

- |          |      |       |
|----------|------|-------|
| 1. している  | →問7へ | 33.3% |
| 2. していない | →問8へ | 66.7% |

問7	問6で、「1. している」と答えた方にお聞きします。 あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
----	---

(n=15)

- |         |       |           |       |
|---------|-------|-----------|-------|
| 1. ほぼ毎日 | 80.0% | 2. 週に2～3回 | 13.3% |
| 3. 週に1回 | 0.0%  | 4. 月に2～3回 | 0.0%  |
| 5. 月に1回 | 0.0%  | 6. 年に数回   | 0.0%  |
| NA      | 6.7%  |           |       |

問8	問6で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。 あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
----	--

(n=30)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 63.3% |
| 2. したいと思わない | 36.7% |

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

<small>そうだんまどぐち</small> 相談窓口	<small>ないよう</small> 内容
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者相談支援センター <small>そうだんしえん</small> 相談支援センターふかさわ分室 <small>ぶんしつ</small> サンスマイル <small>しょうがいしゃ</small> 障がい者支援センターあさひ <small>こしじ</small> 越路ハイム地域生活支援センター <small>そうだんしえん</small> 相談支援センターふかさわ <small>しょうがいしゃ</small> 障害者相談支援センターとちお	<small>ちいき</small> 地域における生活 <small>せいかつ</small> の中でのさまざま <small>しょうだん</small> さまざまな相談や福祉サービスの紹介 <small>しょうがい</small> や手続きの手伝いなどを行いま <small>す</small> す。
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者地域生活支援センター <small>ながおかりょういくえん</small> 長岡療育園	<small>せいかつぜんぱん</small> 生活全般に関する相談を受け、 <small>じょげん</small> 助言や福祉サービス等の情報 <small>ていきょう</small> 提供を行います。
<small>しょうがいしゃ</small> 障害者就業・生活支援センター <small>しょうがいしゃ</small> 障害者就業・生活支援センターこしじ	<small>しゅうろうめんぜんぱん</small> 就労面全般にわたる支援や日常 <small>せいかつじょう</small> 生活上の支援を行います。
<small>しんたいしょうがいしゃ</small> 身体障害者相談員・知的障害者相談員	<small>いりょう</small> 医療、補助具、生活、身の上、税金 <small>せいかつ</small> などの相談を受けます。
<small>ながおかしこ</small> 長岡市子ども家庭センター <small>かてい</small> 子どもの発達相談室	<small>しゅうがくまえ</small> 就学前の子ども成長や発達に関 <small>ふあん</small> する不安や悩みごとの相談を行 <small>います</small> います。
<small>こ</small> 子ども・青少年相談センター	<small>はつたつしょうがい</small> 発達障害、不登校、学習や行動の <small>なや</small> 悩み、就学などの相談を行いま <small>す</small> す。
<small>ながおかしがっこうきょういくか</small> 長岡市学校教育課 <small>とくべつしえんきょういくがかり</small> 特別支援教育係	<small>とくべつしえんきょういく</small> 特別支援教育、就学などの相談 <small>おこな</small> を行います。

<small>とい</small> 問 9	<p>すべての方にお聞きします。            あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか  <u>1つの番号に○をつけてください。</u></p>
--------------------------	--

(n = 45)

- |           |        |       |
|-----------|--------|-------|
| 1. 知っていた  | → 問10へ | 80.0% |
| 2. 知らなかった | → 問12へ | 20.0% |

とい 問10	<p><b>問9で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口に相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 36)

- |              |       |       |
|--------------|-------|-------|
| 1. 相談したことがある | →問12へ | 75.0% |
| 2. 相談したことがない | →問11へ | 25.0% |

とい 問11	<p><b>問10で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 9)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない             | 22.2% |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい              | 0.0%  |
| 3. 相談窓口で相談したことを知り合いに知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない                | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                     | 77.8% |
| 6. その他 ( )                       | 0.0%  |

とい 問12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、希望する方に市が配付している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 45)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 知っているし、利用している  | 80.0% |
| 2. 知っているが、利用していない | 8.9%  |
| 3. 知らない           | 11.1% |

問13	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたはどのような在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 45)

- |    |                  |       |
|----|------------------|-------|
| 1. | 短期入所 (ショートステイ)   | 4.4%  |
| 2. | 日中一時支援           | 11.1% |
| 3. | 総合支援学校放課後サポート事業  | 17.8% |
| 4. | 放課後等デイサービス       | 42.2% |
| 5. | その他 ( )          | 4.4%  |
| 6. | 在宅福祉サービスを利用していない | 46.7% |
- }
- 問14へ
- 問16へ

問14	<p>問13で、「1、2、3、4、5」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたはどのような理由で在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 24)

- |    |                                    |       |
|----|------------------------------------|-------|
| 1. | 親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから      | 41.7% |
| 2. | 親以外に面倒を見てくれる家族がないから                | 16.7% |
| 3. | 家族が体調不良または高齢のために面倒を見てもらうことができなかったら | 12.5% |
| 4. | ときどき家族に休息をとってもらうため (介護負担の軽減)       | 37.5% |
| 5. | 自分の障害が重くて介護してもらうのが大変だから            | 0.0%  |
| 6. | 冠婚葬祭などで家族が不在になるから                  | 8.3%  |
| 7. | 集団生活への適応や生活能力の向上のための訓練を受けるため       | 50.0% |
| 8. | その他 ( )                            | 4.2%  |

問15	<p>問13で、「1、2、3、4、5」と答えた方にお聞きします。</p> <p>在宅福祉サービスは十分に利用できていますか。あてはまる番号に<u>1つ</u>だけ○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 24)

- |    |               |       |
|----|---------------|-------|
| 1. | 十分に利用できている    | 50.0% |
| 2. | おおむね利用できている   | 41.7% |
| 3. | 利用できないことがよくある | 4.2%  |
| 4. | ほとんど利用できていない  | 0.0%  |
|    | NA            | 4.2%  |
- }
- 問18へ
- 問17へ



とい 問16	とい 問13で、「6. 在宅福祉サービスを利用していない」と答えた方にお聞き します。 あなたが在宅福祉サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる 番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	--

(n=21)

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| 1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから              |   | →問17へ |
|   |   | 4.8%  |
| 2. 在宅福祉サービスを利用する必要がないから<br>(施設入所している方も含みます) | } | 85.7% |
| 3. 在宅福祉サービスがあることを知らなかったから                   |   | →問18へ |
|   |   | 4.8%  |
| NA  |   | 4.8%  |

とい 問17	とい 問15で、「3. 利用できないことがよくある」または「4. ほとんど利用で きていない」と答えた方と、問16で、「1. 在宅福祉サービスを利用した いが、十分に利用できないから」と答えた方にお聞きします。 在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることは何ですか。あてはま る番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----------	---

(n=2)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. 祖父母など親以外の家族の負担が増えた       | 0.0%  |
| 2. 家族の用事をキャンセルした            | 50.0% |
| 3. あなたが学校を休んだ               | 0.0%  |
| 4. 親が仕事を辞めた、または転職した         | 0.0%  |
| 5. 親戚や近くの友人に負担をかけた          | 0.0%  |
| 6. あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった | 0.0%  |
| 7. その他 ( )                  | 50.0% |

とい 問18	<p> <b>すべての方にお聞きします。</b>          あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号<u>すべてに○をつけて</u>ください。       </p> <p>         ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。       </p> <p>         ①不当な差別的取扱いの禁止          …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること       </p> <p>         ②合理的配慮          …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること       </p>
-----------	--

(n = 45)

1. 公共施設を利用する場面	}	→ とい 問19 へ	2.2%
2. 交通機関を利用する場面			4.4%
3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面			8.9%
4. 買い物・外食の場面			11.1%
5. 医療に関する場面			2.2%
6. 教育に関する場面			20.0%
7. 文化活動に関する場面			0.0%
8. その他 ( )			0.0%
9. 差別を感じたことはない			57.8%

とい 問19	<p>問18で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 19)

1. 福祉教育を充実させる	21.1%
2. 講習会や学習会などを開催する	0.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	0.0%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	5.3%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	10.5%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	5.3%
7. 教育における配慮をさらに進める	21.1%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	5.3%
9. 障害者雇用をさらに進める	5.3%
10. その他 ( )	5.3%
NA	21.1%

つづいて「調査項目Ⅱ」の回答をお願いします。

ちょうさこうもく  
調査項目Ⅱ

とい 問 1	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが現在、在籍している学校・学級はどれですか。あてはまる番号に 1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 45)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 全日制高校                         | 0.0%  |
| 2. 定時制高校                         | 6.7%  |
| 3. 通信制高校                         | 8.9%  |
| 4. 特別支援学校高等部 (高等総合支援学校、聾学校高等部など) | 84.4% |
| 5. その他 ( )                       | 0.0%  |

とい 問 2	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>中学校段階についてお聞きします。あなたが中学校段階において在籍し ていた学校・学級はどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけて ください。在籍していた学校・学級が複数ある場合は、中学校段階にお いて卒業時に在籍していた学校・学級にあてはまる番号に○をつけてく ださい。</p>
-----------	---

(n = 45)

- |                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 中学校の通常学級                       | 2.2%  |
| 2. 中学校の通常学級と通級による指導               | 4.4%  |
| 3. 中学校の特別支援学級                     | 48.9% |
| 4. 特別支援学校中学部 (総合支援学校中学部、聾学校中学部など) | 44.4% |
| 5. その他 ( )                        | 0.0%  |

とい 問 3	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u> について、以下の問にお答えください。</p>
-----------	--

(1)	<p>現在、在籍している学校・学級以前に、<u>在籍していた学校・学級</u> がありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 45)

- |       |             |       |
|-------|-------------|-------|
| 1. ある | → 問 3 (2) へ | 20.0% |
| 2. ない | → 問 4 へ     | 77.8% |
| NA    |             | 2.2%  |

(2)	<small>ざいせき</small> 在籍していた学校・ <small>がっこう</small> 学級はどれですか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○ をつけてください。
-----	--

(n=9)

- |    |   |       |
|----|---|-------|
| 1. | 全日制高校 <small>ぜんにちせいこうこう</small>   | 11.1% |
| 2. | 定時制高校 <small>ていじせいこうこう</small>  | 0.0%  |
| 3. | 通信制高校 <small>つうしんせいこうこう</small>   | 11.1% |
| 4. | 特別支援学校高等部 <small>とくべつしえんがっこうこうとうぶ</small> （総合支援学校高等部 <small>そうごうしえんがっこうこうとうぶ</small> 、聾学校高等部 <small>ろうがっこうこうとうぶ</small> など） | 55.6% |
| 5. | その他（ <small>た</small> ）   | 0.0%  |
|    | NA  | 22.2% |

問 4	<b>すべての方<small>かた</small>にお聞き<small>き</small>します。</b> <small>げんざい</small> あなたが現在、 <small>ざいせき</small> 在籍している学校・ <small>がっこう</small> 学級に <small>かよ</small> 通うことになったきっかけは何 <small>ばんごう</small> ですか。あてはまる番号 <u>すべて</u> に○をつけてください。
-----	---

(n=45)

- |     |   |       |
|-----|---|-------|
| 1.  | 利用していた施設や機関で紹介された <small>りよう しせつ きかん しょうかい</small>  | 4.4%  |
| 2.  | 医療機関に紹介された <small>いりようきかん しょうかい</small>   | 0.0%  |
| 3.  | 親の会・当事者団体で紹介された <small>おや かい どうじしゃだんたい しょうかい</small>  | 0.0%  |
| 4.  | 本人が希望した <small>ほんにん きぼう</small>   | 44.4% |
| 5.  | 親が情報を集めて希望した <small>おや じょうほう あつ きぼう</small>   | 40.0% |
| 6.  | 中学校の担任の先生や特別支援教育コーディネーターなどの助言 <small>ちゅうがっこう たんにん せんせい とくべつしえんきょういく じょげん</small>            | 51.1% |
| 7.  | 以前、在籍していた学校（学級）の勉強についていけなかった <small>いぜん ざいせき がっこう がっきゅう べんきょう</small>                       | 15.6% |
| 8.  | 以前、在籍していた学校（学級）では人間関係がうまくいかなかった <small>いぜん ざいせき がっこう がっきゅう にんげんかんけい</small>                 | 4.4%  |
| 9.  | 以前、在籍していた学校（学級）では教員の理解が足りなかった <small>いぜん ざいせき がっこう がっきゅう きょういん りかい た</small>                | 0.0%  |
| 10. | 以前、在籍していた学校（学級）では学校と関係機関との連携がうまくいかなかった <small>いぜん ざいせき がっこう がっきゅう がっこう かんけいきかん れんけい</small> | 2.2%  |
| 11. | 以前、在籍していた学校（学級）と同じ地域の学校で学んだかった <small>いぜん ざいせき がっこう がっきゅう おな ちいき がっこう まな</small>            | 4.4%  |
| 12. | その他（ <small>た</small> ）   | 6.7%  |

問 5	<p>すべての<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</p> <p>あなたは<sup>げんざい</sup>現在、どのようなサービス<sup>りよう</sup>を利用していますか。あてはまる<sup>ばんごう</sup>番号</p> <p>すべてに○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 45)

1. 短期入所 (ショートステイ)	} →問 6 へ	4.4%
2. 日中一時支援		13.3%
3. 総合支援学校放課後サポート事業		33.3%
4. 放課後等デイサービス		37.8%
5. 施設入所		0.0%
6. 移動支援		4.4%
7. 居宅介護 (ホームヘルプ)		0.0%
8. その他 ( )		0.0%
9. サービスを利用していない →問 7 へ		44.4%

問 6	<p>問5で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた<sup>かた</sup>方<sup>き</sup>にお聞きします。</p> <p>問5で答えたサービスを利用するためにどこで<sup>じょうほう</sup>情報<sup>え</sup>を得ましたか。あて</p> <p>はまる<sup>ばんごう</sup>番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 25)

1. 医療機関	12.0%
2. 市役所	24.0%
3. 児童相談所	4.0%
4. 通所支援施設	0.0%
5. 入所施設	0.0%
6. 親の会・当事者団体	8.0%
7. 障害者相談支援センター	44.0%
8. 保育園、幼稚園、認定こども園	0.0%
9. 小学校	0.0%
10. 中学校	8.0%
11. 高等学校	4.0%
12. 特別支援学校 (総合支援学校、聾学校など)	48.0%
13. 大学などの研究機関	0.0%
14. インターネット、図書雑誌など	12.0%
15. その他 ( )	0.0%

問 7	<p>問5で、「9. サービスを利用していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが現在、サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----	--

(n = 20)

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. サービスを利用する必要がないから | 80.0% |
| 2. 必要なサービスがないから     | 20.0% |
| 3. その他 ( )          | 0.0%  |

問 8	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは今後、どのようなサービスを利用したいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----	---

(n = 45)

- |   |       |
|---|-------|
| 1. 介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、短期間、施設に入所（宿泊）したい。                | 24.4% |
| 2. 休日や放課後（降園後）などに介護をしてくれる家族などに用事があるときや、家族などの病気や休養のため、一時的に施設に通所（日帰り）したい。 | 28.9% |
| 3. 出かけるときにホームヘルパーに付き添ってもらい、移動などを介助してもらいたい。                              | 8.9%  |
| 4. 日常生活に必要な能力を向上させたり、集団生活に適応できたりするための訓練を受けたり、地域と交流したりしたい。               | 57.8% |
| 5. 自宅にホームヘルパーに来てもらって、入浴や排泄などの身体介護を受けたい。                                 | 0.0%  |
| 6. 家族による介護が日常的に難しいため、長期間、施設に入所して生活したい。                                  | 0.0%  |
| 7. その他 ( )  | 11.1% |





とい 問11	<p>とい 問10で、「1.「個別の教育支援計画」のみが作成されている」または「2.「個別の指導計画」のみが作成されている」、「3.「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたの「個別の教育支援計画」または「個別の指導計画」の作成にあたり、学校とどれくらい話し合いましたか。あてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 38)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 年に2回以上話し合った | 92.1% |
| 2. 年に1回話し合った   | 7.9%  |
| 3. 話し合っていない    | 0.0%  |

とい 問12	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>卒業後の進路先として、どこを考<sup>かん</sup>えていますか。あてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 45)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 高等専門学校 (高専) | 0.0%  |
| 2. 大学          | 0.0%  |
| 3. 短期大学        | 0.0%  |
| 4. 専門学校        | 11.1% |
| 5. テクノスクール     | 0.0%  |
| 6. 就職          | 33.3% |
| 7. 通所施設        | 37.8% |
| 8. 入所施設        | 0.0%  |
| 9. その他 ( )     | 15.6% |
| NA             | 2.2%  |

とい 問13	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>問12で答えた学校等を進路先として考<sup>かん</sup>える理由は何ですか。最<sup>もっと</sup>もあてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 45)

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 1. 担任や学校のすすめにより | 11.1% |
| 2. 本人が希望しているから  | 44.4% |
| 3. 親が希望しているから   | 24.4% |
| 4. 相談機関のすすめにより  | 2.2%  |
| 5. その他 ( )      | 2.2%  |
| NA              | 15.6% |

とい 問14	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>進路先を選択するにあたって悩んでいることはありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 45)

- |       |       |       |
|-------|-------|-------|
| 1. ある | →問15へ | 60.0% |
| 2. ない | →問17へ | 37.8% |
| NA    |       | 2.2%  |

とい 問15	<p><b>問14で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたが悩んでいる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 27)

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| 1. 進路が決まっていないから        | 51.9% |
| 2. 自分の適性がわからないから       | 63.0% |
| 3. 希望する進路先についての情報がないから | 29.6% |
| 4. 相談にのってくれる人がいないから    | 7.4%  |
| 5. 勉強についていけるかどうか心配だから  | 22.2% |
| 6. 進路について家族と意見が合わないから  | 0.0%  |
| 7. 進路について先生と意見が合わないから  | 0.0%  |
| 8. 進路先に通う手段がないから       | 7.4%  |
| 9. その他 ( )             | 11.1% |

とい 問16	<p><b>問14で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>学校でもっと指導してほしいこと、または学校に対する要望は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 27)

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 上級学校訪問などの体験学習              | 18.5% |
| 2. ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習 | 7.4%  |
| 3. 学校の先生の助言                   | 33.3% |
| 4. 進路指導に詳しい外部専門家の巡回相談         | 37.0% |
| 5. 希望している進路先に関する情報の収集         | 70.4% |
| 6. 学校の先生の進路指導についての理解          | 22.2% |
| 7. その他 ( )                    | 3.7%  |

とい 問17	<p>とい 問14で、「2. ない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが悩んでいない理由は何ですか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>○をつけてください。</p>
-----------	--

(n = 17)

1. 進路が決まっているから	} → とい問18へ	29.4%
2. 自分の適性がわかっているから		17.6%
3. 学校が進路先を決めてくれると思うから		5.9%
4. 家族が進路先を決めてくれると思うから		11.8%
5. 進路を決めるまでにまだ時間があるから		17.6%
6. その他 ( )		0.0%
NA		17.6%

とい 問18	<p>とい 問17で、「1. 進路が決まっているから」または「2. 自分の適性がわかっているから」と答えた方にお聞きします。</p> <p>進学先が決まったり、自分の適性がわかったきっかけは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n = 8)

1. 上級学校訪問や就業体験などの体験学習	75.0%
2. 学校の先生の助言	12.5%
3. 家族の助言	25.0%
4. 卒業生の体験談と助言	0.0%
5. 進路相談に詳しい外部専門家の巡回相談	0.0%
6. ホームルーム活動などでの自らの生き方に関する進路学習	0.0%
7. その他 ( )	0.0%

○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きください。

ご協力きょうりょくありがとうございました

調査票 F - 5 (義務教育修了未就学)



# ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ 長岡市障害者生活実態調査

ながおかし ながおかししょうがいしゃきほんけいかく しょうがいふくしけいかく しょうがいじ  
長岡市では、令和3年3月に「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、障害児  
ふくしけいかく しょうがいしゃしきく すす らいねんど けいかく みなお  
福祉計画」をつくり、障害者施策を進めてきましたが、来年度、計画の見直し  
おこな  
を行います。

みなお きそしりょう ながおかししょうがいしゃせいかつじったいちょうさ  
この見直しにあたり、基礎資料とするため、「長岡市障害者生活実態調査」を  
おこな  
行います。

ちょうさひょう さいみまん ぎ むきょういくしゅうりょうご こうとうがっこうとう しゅうがく  
この調査票は、18歳未満で義務教育修了後、高等学校等に就学していな  
しょうがいしゃてちょう じどうつうしょじゆきゅうしゃしやう も かた おく  
い、障害者手帳や児童通所受給者証をお持ちの方にお送りいたしました。

こんかい ちょうさしやう こじんじやうほう ながおかし こじんじやうほうほ ごじやうれい もと てきせい  
今回の調査で使用した個人情報、長岡市個人情報保護条例に基づく適正  
と あつか おこな  
な取り扱いを行います。

ちょうさひょう むきめい ちょうさけつか けいかく みなお  
また、調査票は無記名となっており、調査結果は、計画の見直しのためだけ  
りやう ちょうさもくてきがい もち  
に利用するもので、調査目的以外に用いることはありません。

みなさま いけん ようぼう ながおかし ふくししきく い たいせつ ちょうさ  
皆様のご意見やご要望を長岡市の福祉施策に生かすための大切な調査ですの  
で、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

れいわ ねん がつ なが おか し  
令和4年11月 長岡市

## きにゆう ご記入にあたって

ちょうさひょう なか しょうがい ほんにん つうしよしえん う  
・調査票の中の「あなた」とは、障害のあるご本人または通所支援を受けて  
いるご本人のことです。

ほんにん きにゆう かいとう むずか ぼあい かぞく かた か  
・ご本人が記入もしくは回答の難しい場合は、ご家族の方などが代わりに  
きにゆう  
記入してください。

れいわ ねん がつ にちげんざい じやうきやう こた  
・令和4年8月1日現在の状況についてお答えください。

かいとうほうほう い か せんたく  
回答方法は、以下の2つからどちらか1つを選択してください。

ちょうさひょう ちやくせつきにゆう どうふう へんしんようふうとう い ゆうそう  
① 調査票に直接記入し、同封の返信用封筒に入れて、郵送してください。

ふうとう きって ひつよう じゅうしよ なまえ か ひつよう  
封筒には、切手をはる必要も、住所・名前を書く必要もありません。

みぎした じげん たんまつ よ と じやう かいとう  
② 右下の2次元コードを端末で読み取り、インターネット上の回答フォー  
ムから回答してください。

がっ にち きんようび  
回答期限：11月25日（金曜日）まで（①・②とも）



と あ さき ながおかしふくしほけんぶ ふくしそらむか  
<問い合わせ先> 長岡市福祉保健部 福祉総務課

じゅう しょ ながおかしおおてどおり ちょうめ ほんち  
住 所 〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10  
でん わ  
電 話 (0258) 39 - 2371 (直 通)

ファックス (0258) 39 - 2275

でんし  
電子メール fukushi@city.nagaoka.lg.jp

ちょうさこうもく およ しょうほう こと  
調査項目 I 及び II の両方について、お答えください。

ちょうさこうもく  
調査項目 I

問 1	あなたは何歳ですか。回答欄に記入してください。
-----	-------------------------

(n=3)

( ) 歳 (令和4年8月1日現在)  
15歳 33.3% 16歳 66.7%

問 2	あなたがお持ちの障害者手帳はありますか。あてはまる番号 <u>すべてに</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=3)

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 身体障害者手帳総合等級1～3級 | 0.0%  |
| 2. 身体障害者手帳総合等級4～6級 | 0.0%  |
| 3. 療育手帳A           | 0.0%  |
| 4. 療育手帳B           | 66.7% |
| 5. 精神障害者保健福祉手帳1～3級 | 33.3% |
| 6. 障害者手帳は持っていない    | 0.0%  |

問 3	あなたは現在、どこで暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=3)

- |                              |        |
|------------------------------|--------|
| 1. 家族などの持ち家 (一戸建て、分譲マンションなど) | 100.0% |
| 2. 賃貸アパート・マンション、借家           | 0.0%   |
| 3. 入所施設                      | 0.0%   |
| 4. その他 ( )                   | 0.0%   |

問 4	あなたは現在、だれと暮らしていますか。あてはまる番号に <u>1つだけ</u> ○をつけてください。
-----	--

(n=3)

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| 1. 家族              | 100.0% |
| 2. 自分ひとり (施設入所を含む) | 0.0%   |
| 3. その他 ( )         | 0.0%   |



とい 問 5	あなたは現在、音楽や映画、絵画などの芸術・文化活動をしたり、見たり、聴いたりしていますか（趣味を含む）。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	---

(n=3)

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1. している          | 66.7% |
| 2. したいと思うが、していない | 0.0%  |
| 3. したいと思わない      | 33.3% |

とい 問 6	あなたは現在、スポーツをしていますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----------	---

(n=3)

- |          |               |        |
|----------|---------------|--------|
| 1. している  | → <b>問7</b> へ | 0.0%   |
| 2. していない | → <b>問8</b> へ | 100.0% |

とい 問 7	<b>問6で、「1. している」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは現在、どのくらいスポーツをしていますか。あてはまる番号に <u>1</u> つだけ○をつけてください。
-----------	--

(n=0)

- |         |      |           |      |
|---------|------|-----------|------|
| 1. ほぼ毎日 | 0.0% | 2. 週に2～3回 | 0.0% |
| 3. 週に1回 | 0.0% | 4. 月に2～3回 | 0.0% |
| 5. 月に1回 | 0.0% | 6. 年に数回   | 0.0% |

とい 問 8	<b>問6で、「2. していない」と答えた方にお聞きします。</b> あなたは機会があれば、スポーツをしたいと思いませんか。どちらか1つの番号に○をつけてください。
-----------	---

(n=3)

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. したいと思う   | 33.3% |
| 2. したいと思わない | 66.7% |

★ 次の表をご覧になってから、後の質問にお答えください。

<p>相談窓口 そうだんまどぐち</p>	<p>内容 ないよう</p>
<p>障害者相談支援センター しょうがいしゃそうだんしえん 相談支援センターふかさわ分室サンスマイル しょうだんしえん ぶんしつ 障がい者支援センターあさひ しょう しや しえん 越路ハイム地域生活支援センター こしじ ちいきせいかつしえん 相談支援センターふかさわ しょうだんしえん 障害者相談支援センターとちお しょうがいしゃそうだんしえん</p>	<p>地域における生活の中でのさまざま ちいき せいかつ なか まな相談や福祉サービスの紹介 しょうだん ふくし しょうがい や手続きの手伝いなどを行います。 てつづ てつだ おこな</p>
<p>障害者地域生活支援センター しょうがいしゃちいきせいかつしえん 長岡療育園 ながおかりょういくえん</p>	<p>生活全般に関する相談を受け、 せいかつぜんぱん かん そうだん う 助言や福祉サービス等の情報 じょげん ふくし どう じょうほう 提供を行います。 ていきょう おこな</p>
<p>障害者就業・生活支援センター しょうがいしゃしゅうぎょう せいかつしえん 障害者就業・生活支援センターこしじ しょうがいしゃしゅうぎょう せいかつしえん</p>	<p>就労面全般にわたる支援や日常 しゅうろうめんぜんぱん しえん にちじょう 生活上の支援を行います。 せいかつじょう しえん おこな</p>
<p>身体障害者相談員・知的障害者相談員 しんたいしょうがいしゃそうだんいん ちてきしょうがいしゃそうだんいん</p>	<p>医療、補助具、生活、身の上、税金 いりょう ほじょぐ せいかつ み のうえ ぜいきん などの相談を受けます。 しょうだん</p>
<p>長岡市子ども家庭センター子ども発達相談室 ながおかしこ かにてい しょうだんしつ しょうだんしつ</p>	<p>就学前の子ども成長や発達に関する不安や悩みごとの相談を行います。 しゅうがくまえ こども せいちょう ほうたつ かん ふあん なや しょうだん おこな</p>
<p>子ども・青少年相談センター こ せいしょうねんそうだん</p>	<p>発達障害、不登校、学習や行動の悩み、就学などの相談を行います。 ほうたつしょうがい ふとうこう がくしゅう こうどう なや しゅうがく しょうだん おこな</p>
<p>長岡市学校教育課 特別支援教育係 ながおかしがっこうきょういくか とくべつしえんきょういくがかり</p>	<p>特別支援教育、就学などの相談 とくべつしえんきょういく しゅうがく しょうだん を行います。 おこな</p>

<p>問 9 とい</p>	<p>すべての方にお聞きします。 かた き あなたは上記のような相談窓口があることを知っていましたか。どちらか じょうき そうだんまどぐち し 1つの番号に○をつけてください。 ばんごう</p>
-------------------	---

(n=3)

- |                |              |        |
|----------------|--------------|--------|
| 1. 知っていた<br>し  | → 問10へ<br>とい | 100.0% |
| 2. 知らなかった<br>し | → 問12へ<br>とい | 0.0%   |

とい 問10	<p><b>問9で、「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、困ったことや悩みごとを上記のような相談窓口にご相談したことがありますか。どちらか1つの番号に○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=3)

- |              |        |        |
|--------------|--------|--------|
| 1. 相談したことがある | → 問12へ | 0.0%   |
| 2. 相談したことがない | → 問11へ | 100.0% |

とい 問11	<p><b>問10で、「2. 相談したことがない」と答えた方にお聞きします。</b></p> <p>相談したことがない理由は何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=3)

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 相談窓口の場所や電話番号を知らない             | 0.0%  |
| 2. 相談窓口の場所が遠くて行きにくい              | 33.3% |
| 3. 相談窓口で相談したことを知り合いに知られてしまうことが心配 | 0.0%  |
| 4. 相談窓口の職員が信用できない                | 0.0%  |
| 5. 相談することがない                     | 66.7% |
| 6. その他 ( )                       | 0.0%  |

とい 問12	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは、希望する方に市が配付している相談支援ファイル「すこやかファイル」を知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=3)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 知っているし、利用している  | 66.7% |
| 2. 知っているが、利用していない | 0.0%  |
| 3. 知らない           | 33.3% |

とい 問13	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたはどのような在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=3)

- |                     |          |        |
|---------------------|----------|--------|
| 1. 短期入所 (ショートステイ)   | } → 問14へ | 0.0%   |
| 2. 日中一時支援           |          | 0.0%   |
| 3. その他 ( )          |          | 0.0%   |
| 4. 在宅福祉サービスを利用していない | → 問16へ   | 100.0% |

とい 問14	<p>問13で、「1、2、3」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたはどのような理由で在宅福祉サービスを利用していますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=0)

1. 親が働いていて不在のため面倒を見てもらうことができないから 0.0%
2. 親以外に面倒を見られる家族がないから 0.0%
3. 家族が体調不良または高齢のために面倒を見てもらうことができないから 0.0%
4. ときどき家族に休息をとってもらうため(介護負担の軽減) 0.0%
5. 自分の障害が重くて介護してもらうのが大変だから 0.0%
6. 冠婚葬祭などで家族が不在になるから 0.0%
7. その他 ( ) 0.0%

とい 問15	<p>問13で、「1、2、3」と答えた方にお聞きします。</p> <p>在宅福祉サービスは十分に利用できていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=0)

- |                  |   |       |      |
|------------------|---|-------|------|
| 1. 十分に利用できている    | } | →問18へ | 0.0% |
| 2. おおむね利用できている   |   | 0.0%  |      |
| 3. 利用できないことがよくある | } | →問17へ | 0.0% |
| 4. ほとんど利用できていない  |   | 0.0%  |      |

とい 問16	<p>問13で、「4. 在宅福祉サービスを利用していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが在宅福祉サービスを利用していない理由は何ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=3)

- |   |   |                |      |
|---|---|----------------|------|
| 1. 在宅福祉サービスを利用したいが、十分に利用できないから            | } | →問17へ          | 0.0% |
| 2. 在宅サービスを利用する必要がないから<br>(施設入所している方も含みます) |   | 66.7%          |      |
| 3. 在宅福祉サービスがあることを知らなかったから                 |   | →問18へ<br>33.3% |      |

問17  
 問15で、「3. 利用できないことがよくある」または「4. ほとんど利用できていない」と答えた方と、問16で、「1. 在宅福祉サービスを利用したが、十分に利用できないから」と答えた方にお聞きします。  
 在宅福祉サービスを利用できなくて困っていることは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(n=0)

- |                             |      |
|-----------------------------|------|
| 1. 祖父母など親以外の家族の負担が増えた       | 0.0% |
| 2. 家族の用事をキャンセルした            | 0.0% |
| 3. あなたが学校を休んだ               | 0.0% |
| 4. 親が仕事を辞めた、または転職した         | 0.0% |
| 5. 親戚や近くの友人に負担をかけた          | 0.0% |
| 6. あなた一人で留守番をしなければならず、不安だった | 0.0% |
| 7. その他 ( )                  | 0.0% |

問18  
 すべての方にお聞きします。  
 あなたは、過去3年の間に、障害を理由として差別されたと感じた場面はありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。  
 ※障害者差別をなくすため、①不当な差別的取扱いの禁止、②合理的配慮の提供が法律で定められています。  
 ①不当な差別的取扱いの禁止  
 …障害を理由にサービスの提供等を拒否、制限すること  
 ②合理的配慮  
 …障害のある人が困っているときに、支援側の負担になりすぎない範囲で配慮をすること

(n=3)

- |                     |         |       |
|---------------------|---------|-------|
| 1. 公共施設を利用する場面      | } →問19へ | 0.0%  |
| 2. 交通機関を利用する場面      |         | 0.0%  |
| 3. 情報の取得や利用・意思疎通の場面 |         | 33.3% |
| 4. 買い物・外食の場面        |         | 0.0%  |
| 5. 医療に関する場面         |         | 0.0%  |
| 6. 教育に関する場面         |         | 66.7% |
| 7. 文化活動に関する場面       |         | 0.0%  |
| 8. その他 ( )          |         | 0.0%  |
| 9. 差別を感じたことはない      |         | 33.3% |

とい 問19	<p>問18で、「1、2、3、4、5、6、7、8」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたが、障害のある人への差別を解消するために必要と考えることは何ですか。最もあてはまる番号に1つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=2)

1. 福祉教育を充実させる	0.0%
2. 講習会や学習会などを開催する	0.0%
3. 施設や設備のバリアフリー化をさらに進める	0.0%
4. 福祉サービスをさらに充実させる	0.0%
5. 行政機関における配慮をさらに進める	0.0%
6. 民間事業所における配慮をさらに進める	0.0%
7. 教育における配慮をさらに進める	50.0%
8. イベントなどへ参加しやすいよう配慮する	0.0%
9. 障害者雇用をさらに進める	0.0%
10. その他 ( )	0.0%
NA	50.0%

つづいて「調査項目Ⅱ」の回答をお願いします。

ちょうさこうもく  
調査項目Ⅱ

とい 問 1	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在、就労していますか。あてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=3)

- |                             |   |        |
|-----------------------------|---|--------|
| 1. 就労している                   | } | 0.0%   |
| 2. 就労していないが、障害者施設等へ通所している   |   | →問3へ   |
| 3. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない |   | 0.0%   |
|                             |   | →問2へ   |
|                             |   | 100.0% |

とい 問 2	<p>問1で、「3. 就労していないし、障害者施設等へも通所していない」と答えた方にお聞きします。</p> <p>あなたは普段どこで過ごしていますか。あてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	--

(n=3)

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 自宅      | 33.3% |
| 2. 入所施設    | 0.0%  |
| 3. その他 ( ) | 66.7% |

とい 問 3	<p><b>すべての方にお聞きします。</b></p> <p>あなたは現在の過ごし方を続けたいと考えていますか。あてはまる番号に<u>1</u>つだけ○をつけてください。</p>
-----------	---

(n=3)

- |               |      |       |
|---------------|------|-------|
| 1. 続けたいと考えている | →問5へ | 66.7% |
| 2. 変えたいと考えている | →問4へ | 33.3% |

とい 問 4	<p> <small>とい</small> <small>か</small> <small>かんが</small> <small>こた</small> <small>かた</small> <small>き</small>  <b>問3で、「2. 変えたいと 考えている」と答えた方にお聞きします。</b>  <small>あなた</small>は<small>こんご</small>、<small>おも</small>に<small>ひるま</small>ど<small>す</small>こ<small>も</small>で<small>もつと</small>過<small>ご</small>ご<small>ばんごう</small>したいですか。最<small>も</small>あてはまる番号に  <u>1つだけ</u>○をつけてください。         </p>
-----------	--

(n=1)

1. 自宅	100.0%
2. 学校	0.0%
3. 会社などの勤め先	0.0%
4. 障害者通所施設	0.0%
5. グループホーム、ケアホーム	0.0%
6. 障害者入所施設	0.0%
7. その他 ( )	0.0%

とい 問 5	<p> <small>かた</small> <small>き</small>  <b>すべての方にお聞きします。</b>  <small>あなた</small>は<small>げんざい</small>、どのくらい<small>がいしゅつ</small>外<small>で</small>出<small>で</small>していますか。あてはまる番号に<u>1つだけ</u>          ○をつけてください。(※ここでいう外<small>がいしゅつ</small>出<small>で</small>とは、現在<small>げんざい</small>暮<small>く</small>ら<small>い</small>している場所<small>ばしょ</small>か          ら外<small>そと</small>に出<small>で</small>ることです。)         </p>
-----------	---

(n=3)

1. ほぼ毎日	33.3%	2. 週に2～3回	0.0%
3. 週に1回	33.3%	4. 月に2～3回	0.0%
5. 月に1回	0.0%	6. 年に数回	33.3%
7. まったく外 <small>がいしゅつ</small> 出 <small>で</small> しない	0.0%		



問 6	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>外出するときに困っていることはありますか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
-----	---

(n=3)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. バスや電 <small>でんしゃ</small> 車 <small>の</small> に乗ることができない  | 0.0%  |
| 2. 交通手段 <small>こうつうしゅだん</small> がない  | 0.0%  |
| 3. 交通手段 <small>こうつうしゅだん</small> の運賃 <small>うんちん</small> が高い <small>たか</small>                            | 0.0%  |
| 4. 段差解消 <small>だんさかいしょう</small> などのバリアフリー化 <small>か</small> がされていない                                      | 0.0%  |
| 5. 発作 <small>ほっさ</small> 、パニック、突然 <small>とつぜん</small> のハプニング等 <small>とう</small> があり不安 <small>ふあん</small> | 0.0%  |
| 6. 利用 <small>りよう</small> したい施設 <small>しせつ</small> が送迎サービス <small>そうげい</small> をしていない                     | 0.0%  |
| 7. 外出 <small>がいしゅつ</small> する際 <small>さい</small> に介助 <small>かいじょ</small> してくれる人 <small>ひと</small> がいない   | 0.0%  |
| 8. 他人 <small>たにん</small> の目 <small>め</small> が気 <small>き</small> になる                                     | 33.3% |
| 9. 他人 <small>たにん</small> に気兼ね <small>きか</small> なく使える外出手段 <small>がいしゅつしゅだん</small> がない                   | 0.0%  |
| 10. その他 <small>た</small> ( )   | 0.0%  |
| 11. 特 <small>とく</small> に困 <small>こま</small> っていない   | 66.7% |

問 7	<p>すべての方にお聞きします。</p> <p>あなたは、日常生活<small>にちじょうせいかつ</small>における相談<small>そうだん</small>や支援<small>しえん</small>について、普段どこに相談<small>ふだん</small>して<small>そうだん</small>いますか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をつけてください。</p>
-----	---

(n=3)

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 医療機関 <small>いりょうきかん</small>   | 66.7% |
| 2. 市役所 <small>しやくしょ</small>  | 0.0%  |
| 3. 児童相談所 <small>じどうそうだんじょ</small>  | 0.0%  |
| 4. 通所支援施設 <small>つうしょしえんしせつ</small>  | 0.0%  |
| 5. 入所施設 <small>にゅうしょしせつ</small>  | 0.0%  |
| 6. 親 <small>おや</small> の会 <small>かい</small> ・当事者団体 <small>とうじしやだんたい</small>                            | 0.0%  |
| 7. 障害者相談支援センター <small>しょうがいしやそうだんしえん</small>   | 0.0%  |
| 8. 最終学歴 <small>さいしゅうがくれき</small> となる学校 <small>がっこう</small>   | 0.0%  |
| 9. 特別支援学校 <small>とくべつしえんがっこう</small> (総合支援学校 <small>そうごうしえんがっこう</small> 、聾学校 <small>ろうがっこう</small> など) | 66.7% |
| 10. 大学 <small>だいがく</small> などの研究機関 <small>けんきゅうきかん</small>   | 0.0%  |
| 11. その他 <small>た</small> ( )   | 0.0%  |

○ 障害者施策しょうがいしゃしやくに関して、ご意見等いけんとうがありましたら、ご自由じゆうにお書きください。

ご協力きょうりょくありがとうございました。

## 長岡市障害者生活実態調査報告書

令和5年3月発行

---

発行 長岡市福祉保健部福祉総務課

〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4番地10

電話：(0258)39-2371（直通）

FAX：(0258)39-2275

電子メール：fukushi@city.nagaoka.lg.jp

編集 長岡大学

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

電話：(0258)39-1600

FAX：(0258)33-8792

電子メール：info@nagaokauniv.ac.jp

